續羣書類從

第貳拾貳輯下

東京
續群書類從完成會

續群書類從第貳拾貳輯下目次

合戰部

續群書類從第貳拾貳輯下目次終

續群書類從卷第六百三十三

總撿挍保己一集

男　源　忠　寶　校

合戰部六十三

矢島十二頭記

一。矢嶋殿御先祖は。信濃國木曾義仲公の旗下之由。木曾殿沒落後。信濃國より應仁元曆丁亥三月中御下り。矢島へ御住居被成候。初代義光公と申候。御嫡男を光久公。厥御嫡男光安公と申候。御本名小笠原なり。右三代大井名字を御名乘り被成候。光安公大井大膳太夫殿とも。矢嶋五郞殿共申候。

一。出羽國由理中。大將十二頭とは。矢嶋殿。仁賀保殿。赤宇津殿。潟保殿。打越殿。下村殿。玉米殿。石澤殿。瀧澤殿。沓澤殿。子吉殿。鮎川殿。是を十二頭と申候。此內仁賀保殿は大身也。是も小笠原家也。矢嶋殿御一家なり。矢島殿と鮎川殿とも御緣類也。仁賀保殿先祖信濃國より初て御下り被成候を。大和守殿と申候。御嫡男をも後大和守殿と申候。是を(之脫カ)則小和州殿と申候。

一。永祿三年矢島殿より瀧澤殿を攻る時。先陣は平根與左衛門高名す。石澤殿。後詰被成候に付勝負なし。矢島殿勢廿人討死仕。雙方相引陣場上條也。

一。元龜元年九月下旬玉米殿矢島を攻る。玉米

殿勢多く討死仕。雪消候て矢島殿味方歸陣す。

一。天正三年八月下旬矢島殿新庄之城・（攻脱カ）被成候節。仁賀保殿根之井館に御陣被成。其手立は仙北小野寺遠江守殿へ。同三月朔日の晩神代山にてかゝり燒き。其節山の手より御加勢可被下候。左候はゝ。鄕內より夜陳被成度よしの御狀。行人に爲持被遣候處。矢嶋殿勢見付。行人を討取。其書狀を矢島殿へ差上る。仁賀保殿より三月朔日之晩。神代山にかゝり燒。矢島殿御舍弟太郎殿を城に殘置候て。築館へ廻り。一勢は矢島より廻り。あいすのかゝり見候。仁賀保勢は鄕內迄責寄せ。仁賀保との御親子根之井館へ御扣被成候所。矢島殿勢雙方より根の井館へ攻小之和州殿御切腹被成候。御子息次郎殿は川を下り。杉澤へ御引被成候。前杉まて追懸ヶ討死す。新庄之城より鄕內へ寄せ。仁賀保加勢。大川下り前杉小坂へ引。矢嶋殿よりも前杉小坂廻り造石まて追討仕候て。首數貳百餘り取。矢島の勢は三十人計り討死す。

一。同六年四月中旬に。最上玉山殿御領分。金山の城を攻るといへとも。相手方にて城を固メ。かまひ不申候間。空敷歸陣す。

一。同八年三月十日仁賀保百姓とも心替仕。矢島殿へ手引仕候ゆへ。ふなの木もふち迄御出陣被成候得共。御門出惡敷候迚。御歸陣被成候。

一。同九年巳四月に。仁賀保百姓とも右之通手引仕候ゆへ。仁賀保へ攻入。三ノ木戶迄責入候處に。赤宇津道益殿。子吉殿後陳被成候ゆへ。御陣御引取被成候。

一。同十年五月中旬。矢島殿より子吉殿を攻。仁賀保殿後詰被成候間。矢島殿勢車引と申

に。御引取被成候。その時仁賀保とのより歌
を御讀候て。下部へ爲持被遣候。

矢嶋との今朝のすかたはゆり花
　今は小よしの君をむくるや

矢嶋殿より返歌

仁賀保との手をかさしたる小よし原
　矢嶋のかせに露や落けり

一。天正十一年未の七月六日に。仁賀保殿御家來衆中歷々方　心替りにて。宮內殿御切腹のよし承り。其節矢島殿と鮎川殿と申合。仁賀保殿へ押懸　御出陣被成候所。右之衆中後詰被成候よしに御聞。ふなの木もふちより御引取被成候。同八月中。仁賀保殿御娘子へ子吉殿。御子息八郞殿を聟養子被成候て。御名跡御相續被成候。

一。同十三年二月二日。赤宇津殿より仁賀保殿の家へ御養子に御出被成候。則仁賀保兵庫頭とのと申候。仁賀保へ御入被成候て。矢島殿へ御使者被遣候。御口上は　兵庫頭事は仁賀保の家を繼候間。向後御心安仕度候。右和州時代より　小笠原一家に御座候得は。疎遠に不存候よし。被仰遣候。矢島五郞殿滿足被成候。其後五郞殿より爲御挨拶。御祝儀旁御使者被進候。その後度々御懇意被成候。

一。同十四年二月中旬仁賀保領冬師に。馬場四郞兵衞親子三人。矢島領谷地澤山の內。大村杉之杉　盜取候ゆへ。早速谷地澤之次郞兵衞押懸ケ。次男を討殺候。仁賀保兵庫頭殿家來分に候へは。矢島殿へ仁賀保殿被仰　遣候には。熊谷山落仕候まゝ。曲事に可被仰付候旨御申被遣候處。矢島殿より返事には。木盜人に御座候ゆへ。討留候よし被仰遣候所。四月中旬まて數度の御使者相立候得とも　双方申つのり。五月廿日仁賀保殿も　ふなの木

もふちまて出逢候て。御戰被成候所。赤宇津殿後詰被成候由にて。矢島との御引陳被成候。

一。同八月三日矢嶋殿仁賀保へ取懸候處。根城の後水の手を忍にて落申べくと。仁賀保殿にて殊の外御案事。御用心被成候。夫より日中に取懸り候處。山之手足場悪敷御座候ゆへ。矢嶋殿御負被成候て。陣引取打死五六人有之候。

一。同年九月廿日に。矢嶋殿へ最上とのより御使者參り候。其御口上之趣。五郎との御事諸人に勝レ。長太刀抔御遣。御武名かくれ無御座候間。大閤樣へ申上候得は。明年罷登之節同道候ハヽ。逢可申旨被仰出候。依て明年同道可仕候旨。被仰遣候得共。實儀に不被思召候之ゆへ。なか／＼御返事被成候。

一。同十五年三月中旬矢島殿より瀧澤殿を攻。三の堺まて攻入候所。ふなの木もふち迄御出陳被成候のよし。熊谷二郎兵衛より申遣候故。松ケ崋より直にふなの木もふちまて御出候て。散々に御戰被成候處。鮎川殿後詰に御出陣に付。矢島殿勢彌勝に乘りて追懸。首數廿計り矢島へ討取。堂まて押寄せ。矢島殿十死一生之御働被成候て。八幡堂より木の目坂まて。討取首五十取五郎殿方先に手負被成候。矢島勢は七人程手負有之。

一。同六月中旬頃潟保との鮎川とのと御申分にて。仁賀保とのと矢島殿とは。御和睦被成候。爲御禮。仁賀保殿より。赤石與兵衛殿御使者參候。矢島殿よりは芥川攝津との。爲御禮御挨拶御使者被遣候。双方又々御懇意被成候。

一。同年極月廿日仁賀保殿より。御使者芹田伊豫守との被遣候。御口上には。五郎との御息

女。おふしとの御事。兵庫頭との御嫡男藏人とのへ。御緣組被成度の御望被仰遣。五郎との御一座にて御請合被成候て。御返事被仰遣候。家中之もの共申候は。右和州とのを矢嶋にて御討取被成候得は。御心實之和睦には御座有間敷候まゝ。得と御分別有之。御返答可有之事に候と。さゝやき申候。

一。天正十六年正月廿日。仁賀保とのとより。年頭爲御祝詞御使者小松との御出被成候。折ふし一兩日大雪にて御逗留被成候節。五郎殿小松とのへ御逢御物語りには。仁賀保との矢島之境。近頃は彼是と取亂。改不申候間。雪消候ハヽ。先規之通古人百姓とも境改置申度。願之趣御物語被成候。其後仁賀保との被仰遣候ハ。小松殿へ被遣候趣。此方にても內々願能在候。當四月朔日に双方より。役人百姓共出申へく段被仰遣候ゆへ。矢嶋殿よりは金丸帶刀。大江主計。熊谷二郎兵衛。古人百姓大勢罷出候。扨また仁賀保とのより芹田伊豫との。赤石與兵衛殿。宮樫平三郎との。手嶋四郎兵衛殿。その外大勢罷出る。四月朔日蚫口。不懃澤。飯ヶ森。鬼之倉。石ずのふ。桑谷地頭。桑坂はなれ。森前。森篠。長根。ふなきもふち。大谷地頭。大森まて先規之通踏分ケ。厥大場に大石有之を。双方より人夫を以て南北へ溝を割申得さわり石と名を付候而。先規中興之趣相究申候。

一。同月下旬鮎川とのより被仰遣候は百姓とも兎や角やと申候得は上々まて悪敷候まゝ先規之通境改置可申候旨矢島殿へ直に御物語被成候而矢島殿より金丸帶刀大江主計。熊谷次郎兵衛。在郷侍に杉江。佐々木對馬。同彌五郎その外古人とも罷出る。鮎川殿より木下彈正との。高橋藏人殿その外古人共

出逢候て大谷地頭石森士淵取上ヶ石迄先規之通踏分改又取上石に石を重ね置申候。

一。同年七月最上殿より。矢島殿へ又々御状にて仰遣され候は。大閤樣ゟ御目見被成候て可然候。左候ハヽ由理之大將に可仕候旨被仰遣候間。提入候と御返事被成候。最上殿より數度被召出候趣を。仁賀保との及聞候得は。矢島殿へ御異見被成候は。最上へ御登り之事不入ものに候。無事にて御歸候事は。有間敷候と御異見被成候。

一。八月朔日に。矢島殿より最上とのへ御使者を以被仰遣候は。明年大閤樣へ御目見可仕候旨被仰下承知仕候。其內大閤樣へ以御使者申上候まゝ。御啓上可被下候よし。仰遣されれ候得は。御添狀被成候て。御使者御登被成候得は。大閤樣御上意には。兼て最上より物語にて承り候事。明年は最上と同道申候て。登り候ハヽ逢申へく候由。罷歸候ハヽ。此趣爲申聞。是非可罷登候。

一。同十月五日に。矢島殿爲御禮最上へ御登り被成候。御供之侍には手嶋。相庭。金丸。大江。小多。金子。佐々木。牧。土田。三浦。木村。小沼。伊藤。堀之內。山田。柴田。茂木。金野。菱原。三階。高橋。安部。畠山。加藤。須藤。新田。半田との外雜兵百余人。矢嶋御城留守居には。御舍弟太郎殿 芥川攝津。喜兵衛。掃部雜兵とも百余人。扨最上へ御着被成候て。首尾好御座候所に。太郎とのへ仁賀保殿より御使者參り。口上には。五郎殿事最上へ御登り候事不屆に候。就夫に。由理中之大將とも申合候て。貴殿を攻落候て。五郎殿を矢島へ貳度と入申間敷と。內談仕候よし慥に候。兎角和に取計意可申儘。御心安被思召候。矢島五郎殿御歸 城不被成候樣に。御工夫可被

成候由ニ被仰遣候。就夫十月廿五日御心易被成候て。五郎殿御子息四郎とのを討取被成候ゆへ。早速に五郎との之奥方と。おふしとのを芥川殿盗取候て。西馬音內へ落し申候。喜兵衛掃部佐藤抔は。心替の人々御座候。右之趣西馬音內より最上へ爲知有之候得は。霜月三日神代山より直に新庄へ御込可被成候旨。被仰出候間。猿倉平七所へ案內之爲に。金子安部被遣候得は。平七御請合。此所に四五日御逗留被遊候て。在鄕侍抔御集被成候て。霜月八日頃新庄城に御切込被成候得は。城中皆々逃落可申候ニ付。先暫御扣被成候樣。平七申候間。暫御扣被成候。霜月八日新庄之城へ御切込被成候得は。城中みな〳〵逃落。五郎殿と喜兵衛と長廊下にて組合落。太郎殿は御討死被成候。二郎との御子息弐人御座候を。五郎殿御直に下ケ切被成候て。轟目木に獄門に上る。夫より直に仁賀保とのへ御恨之狀被遣候得共。何之御返事無之ニ付。其日より仁賀保へ追懸可申旨御支度被成候間。仁賀保より前杉へ押寄。五郎との八森へ御出被成候て。夜軍被成候。仁賀保との軍奉行案內之もの。民部討死仕候故。大分に仁賀保殿軍勢追々討死有之。仁賀保とのは車引に漸々御引取被成候。依て仁賀保殿より赤宇津殿。打越との。潟保殿。瀧澤殿。石澤殿へ被仰遣候は。五郎との明年大閤樣へ御目見致候樣登候由。左候ハヽ。由理中五郎殿之知行に罷成候間。兎角五郎殿當年中に惣大將申合。打取可申候よし被仰合。霜月下旬に右大將衆新庄之舘へ押寄。五郎殿打負落城にて。手負候て西馬音內へ御落被成候。其時五郎殿の御歌に。

津雲いてやしまの澤を詠むれは

木在杉澤佐世の中やま

右の御歌御讀御落被成候。其より右大將衆御支度被成候て。西馬音內へ押懸候て。御たゝかひ終に五郎との極月廿八日討死被成候。夫より西馬音內にて暫防戰被成候所に。小野寺殿より無事入候間。由理之大將諸勢引取。仁賀保とのは矢島八森之城へは城番として。菊地長右衞門。酒井縫之助。菅原勘之助被差置候。矢嶋ニ而越年被成。萬事掟被仰付候。百姓ともへ被仰渡候は。五郎との御時代之様に相勤可申旨被仰渡候。正月廿日に仁賀保との御歸被成候。その時おふし殿も仁賀保へ御召連被成候。天正十六年子極月廿八日より。仁賀保兵庫頭殿の御知行被成候。

一。文祿二年之頃には大方矢嶋へ四十人之者罷歸候て。仁賀保とのへ有付。八月中旬兵庫頭殿より矢島四十人之者とも被召出候間。御振舞被下候。其上にて。不殘御手打に可被成候樣子相見候ゆへ。何れも申合逆散申候得は。山中にて相場老人にて討死仕叉哉四十人之者とも矢嶋へ浪人仕候。米澤景勝殿出張之城番人。出羽の酒田九万石之所也。城代信太修理とのゟ。矢島四十人之者ともへ御內意申參候は。關ヶ原石田治部少輔との關東へ攻下り候筈。景勝殿は關東へ切登り候間。我等事は坂田より仁賀保へ攻入り申へく候間。矢しま四十人は仁賀保へ攻來候樣にと御內意申來候ゆへ。御主人の敵に御座候得は。信太殿へ組候樣に。何れも申合置候。慶長五年九月八日に。矢嶋八森御城番衆中在鄕へ御出候樣にと計意候て御出之跡へ。四十人之者とも押込候得て。八森を乘取。御城番之衆在鄕ゟ御歸候得は。八森へ御

入被成候事不相成候。福王寺へ登候を。四十人之ものとも福王寺へ攻入戰申候へは。菊地長右衛門討死。酒井縫殿助ハ仁賀保へ落行。上下拾五人討死す菅原勘之介。笹子より仙北へ落行。兵庫頭との御聞被成候哉否。打越左近との赤宇津との引連候て。八森へ攻向ひ。四十人の者とも八森をも攻落されて。坂田より會津と延申候得とも。無據笹子赤舘へ籠城仕候。また宇津との打越とのハ直根口より攻向。兵庫頭殿は川內より攻入る。瀬目ヶ峠より峯筋新道を爲切候て。赤舘へ直に攻寄被成候。打越との赤宇津殿は直根口ゟかまちひらへ登り。目の下に城を見おろし攻候ゆへ。同月十三日の晝より暮合まて戰有之候所へ。城中より鉄炮打候て。十五人打殺その時籠城之勢之內。相場市右衛門。金子安部討死す。城中之討死は此貳人也。暮六時過落城仕候ゆへ。城へ火を付燒拂。四十人の親妻子共に矢島へ迯散もあり。仙北へ落行あり。九月七日晩西馬音內三右衛門討意にて。おふじとの仁賀保根城より盜取。西馬音內へ迯行。八森へ兵庫との御歸被成候て。おふしとのを御吟味被成候得共。御出被成候。此一亂之企テ六月より之儀に候得は。四十人之者共と大河原別當と申合。此間中別當共願候て。大峯入と名付候て。上方へ登ル也。兵庫殿被申候。右對治之計意何れ成共組合申候て登可申候。被登候所。石田治部殿思し召立候儀御座候よし。御聞被成候て御下り被成候內治部少殿は關ヶ原にて討死。景勝殿は無事御座被成候て。酒田九万石。出張之城を江戶へ御指上被成候。信太殿は城を御渡被成候て。米澤へ引入。四十人之者矢島赤舘とも落城候得は。仙北へ引入。普賢坊

仕同九月十八日に仁賀保とのへ大峯人之守札差上候所。御料理被下候て。御酒之上にて正左衛門初太刀にて廿人程打殺す。供之大武坊御玄關にて切られ。小貳坊。俗供之新藏南人善賢坊金作之太刀持候而逃延申候。冬師四郎兵衛方へ掛入候て。金貫給候のち。四郎兵衛山中迄追懸。小貳坊打殺。金作之太刀取俗供之新藏・南々逃延候て。矢島へ歸る。

一。慶長六年七月下旬仁賀保との仙北之大森之城攻被成候時。矢島より人夫出る。

一。同八年仁賀保兵庫頭との。常陸國之内。武田へ御國かへ被仰付て。御替被成候。

一。同年由理は最上殿御領分に被成候。四万貳千石は楯岡豐前守との。一万石は瀧澤との。矢島三千石は楯岡長門守殿。御知行に罷成。何れも最上との御家來衆也。

一。同九年辰三月矢島四十人之者之取計にて。お藤殿をは楯岡長門守殿奥方樣に差上候。

一。同拾七年三月中。豐前守殿。本赤宇津より新赤宇津へ御引越被成候ニ付。矢嶋人足貳千五百人御遣ひ被成候。由理中之人足皆請出る。御城出來仕候。

一。同年四月。由理最上殿より御檢地御改被成候ニハ。奉行日野備中守。就夫矢嶋惣百姓立行不申候ゆへ。田地差上仙北へ引除申候。同年新庄但馬守殿檢地御改替被成候て。矢島中三千石貳斗八合に被成下候樣。被仰渡有之候間。百姓共立歸る也。

一。慶長十九年五月。瀧澤院主意風鳥海山別當之出入ニ付。出羽十二郡之頭内頭最上行當院へ罷登候而。訴状指上ケ候ゆへ。矢島領修驗頭。吉樂院罷登候得而。役行者開基。寶幢師再興之品々申上。先規之通被仰付候。意風は最上より上方へ浪人仕候。

一。元和八乙戌年本多上野殿。由理中は御知行被成候て。御下り被遊候。同暮御物成御取り被成候。同九年亥ノ夏中大澤千石之所へ御所かへ被成候。

一。同年十月中打越左近との。矢島へ御下り。三千石御知行相成。八森に御住被成候。

一。同時岩城但馬守殿。貳万石は龜田へ御下り六郷兵庫頭は。本庄貳万石へ御下り。仁賀保兵庫頭との由理へ御下り被成候。

。寛永十一年戌八月七日打越左近との御遠行。御跡式つふれ。

一。同年より御領所に被成候而。勝木多左衛門との同寅の年まで御代官被成候。寅之年より稲垣忠右衛門との御支配被成候。

一。正中元年甲子三月廿三日仁賀保鳥海彌三郎との。由理ノ中八郎を責る。同廿四日に中八郎殿城落る。則切腹。

一。同二年乙丑ヨリ。由理中鳥海彌三郎との領分に成る。中八郎との子孫ナシ。

一。建武四年丁丑鳥海彌三郎との御子出家にて。代ヲ續名常滿利師樣と申也。家老進藤長門守。渡邊隼人兩人有り。此者とも心替シテ。利師樣責落ス也。

一。觀應元庚子四月九日。利師樣御命日也。就夫由理中は長門守隼人兩人の支配也。國中何角トサワカシヽ。

一。康安元辛丑三月晦日より四月中旬頃まで。進藤と渡邊と合戰有り。長門守は仁賀保西小出に待居舘に籠。隼人は伊勢井地粟山ノ舘に籠。度々軍有て勝負ナシ。

一。貞治二癸卯五月廿一日長門守隼人共ニ打死。其後國中百姓とも村々引分り合戰有り。其時分由理郡は地頭ナシニテ物事我儘也。

右之六ヶ條は。古き書物にて見當候まゝ。

用に立不申候へ共印置候。

一。由理十二頭は應仁元年に。何も鎌倉より御下り之由一統に申候仁賀保との旗大將と申なし。乍去信濃より下り申證據ともあまた有り。就夫矢島又五郎先祖義久は。是非に於信州より下ル。其節家臣も付添下る。矢嶋ノ由來は。應安元己酉より應仁元丁亥年迄之內。百年ニ成リ申候。根之井と申侍浪人分にて矢島へ下り。地頭迚もなく。百姓共我勝成る様子見屆。信州へ登り。木曾義仲公之末葉小原大膳大夫義久を連下り。矢島の地頭に立て。根ノ井も矢島を三ッ一知行して。義久を大將にして居住仕る事僞無。是段古人共申傳候。就夫義久代にも義滿代ニも。根ノ井をは大切に仕候得共。滿安代には元根ノ井は。木曾の家臣筋に候へハ。三ッ歩一の知行も押取り。根ノ井舘より米之澤へ押込。百宅米之澤上猿倉三ヶ處ワッカ計りを知行させ置事。其隱レなく五郎代には万事五郎か下知に隨ひ軍場にも出る。矢島ニ而はヶ様申傳候。就去矢島と仁賀保。又は瀧澤子吉玉米此四ヶ所へ矢島より軍取給候へとも。十二頭の內にて面々軍は一ッも無之候。扨十二頭と申は。

仁賀保殿。小笠原大和守殿。仁賀保之領主。此和州殿。幼名は次郎殿迄三代。和州殿と呼フ。

同　嫡男次郎殿と申也。則大和守に成て。小和州殿と呼申也。天正五年六月十九日家臣とも心替にて切腹。子無く。

同　宮內少殿家を續ところ。天正十一年七月六日家臣とも心替にて切腹ス。

同　八郎殿子吉ノ家より聟名跡入ル。天正十四年十月十五日切腹也。家臣共心替りか。兵庫頭赤宇津殿より名跡に入る。此時初て仁賀保兵庫頭と名乘。慶長八年御國替にて。常陸之內武田に御登り。元和九年十月仁賀保壹萬石御知行被成候て。打越左近殿。六郷兵庫頭殿。岩城但馬守殿。四頭一度

に由理中に御下り。兵庫頭殿ハ蚶潟據越御居城。御子息三人。嫡男は藏人殿七千石。內膳殿二千石。內記殿千石。寛永二年に分知被成候而。同八年藏人殿逝去にて。御養子之出入に而御跡つふれ。七千石御領所に成る。

矢嶋殿。小笠原大膳大夫義久殿。信川より初て御下り。此時代は十二頭軍ナシ。聞傳ニもナシ。

同　嫡男太郎殿。後大膳大夫義滿殿。此代もいくさの事不聞傳。

嫡男矢島五郎殿。後は大膳大夫滿安殿と申。義滿殿之嫡男に而。大力人。長ケ六尺九寸。臍之穴より胸迄熊毛ノ如く成る毛さかさにはへ。大刀は四尺八寸之大刀を三ッ指ニ而抓ミ。尾華を切る。食は三升ッヽ一度に喰て。四日も五日も食不喰。馬には八升栗毛とて。七キ八歩之馬也。陣貝を聞と否。前足を上ケて大豆八升ッヽ時之間にはみ申候。文祿元年七月廿五日居城落城して。西馬音內へ落て。同極月廿八日切腹。矢島は仁賀保兵庫頭殿地行に成。男子は無く。女子おつるとのと申を。兵庫殿へ召取。藏人殿は弟なり。奥樣に被成。法名芳山妙月大姉　矢之元之元弘寺。宅にて死。

赤宇津殿。若名は孫次郎殿。老名は道悦殿と呼申候。今の龜田松ケ崎邊を。赤宇津と申之由。幾代と申事不知。

瀧澤殿。瀧澤刑部殿と申。幾代と申事不知。乍去由理之中八郎殿之末葉には紛無之。鳥海山へ鉢を納候にて知レ申候。最上源五郎殿御旗下。楯岡豐前殿御旗下になりて。由理五萬八千石之內。四萬八千石は豐前との。一萬石は瀧澤殿知行候所に。元和八年最上殿。御潰被成候時。豐前殿も瀧澤殿之儀潰レ。

子吉殿。若名は次郎殿。老名は兵部殿。何代と申事不慥成。くわしくは所の者も不存。

打越左近殿。若名孫四郎殿宮內少殿。今龜田之內打越ニ而弐千石知行被成。其後關東へ御國替にて。又千石之御加增ニ而。矢嶋へ元和九年に御下り。寛永十一年御逝去。御子無く。跡不立潰レ。

石澤殿。作左衛門殿と申。何代ト不知。文祿四年ニ潰レ候。此時潰レ候衆中は。作左衛門殿。潟保双記殿。鮎川筑前守殿。玉米介兵衛殿。下村讃六殿。太閤樣方御潰し被成候。

岩谷殿。忠兵衛內記殿と申候。何代と申事不知。知行所は。今龜田之岩谷打越と續申所也。

潟保殿。祖兵衛殿ト。雙記殿ト申也。何代トモ不存候。

鮎川殿。筑前殿と申候。若名は瀨兵衛殿と申候。矢島五郎殿に縁者之由申傳候。何代ト不知。尤羽根川殿ヲ十二頭之內へ入テ呼申候者も候へ共。鮎川殿實正と存。證據も有り。家來筋も未タ大勢あり。

下村殿。小笠原藏人殿も。若名讃六ト申也。

玉米殿。小笠原信濃守殿ト。若名は介兵衛殿ト申候。

此十二人ヲ十二頭と申候。

一。向矢島に秋田浪人に。履澤左兵衛殿と申候て。根井か情を以小城を築居住仕る。矢嶋五郎先祖より情を懸置候處に。瀧澤刑部殿と談合。矢嶋五郎を打潰可申候計略有之由。五郎殿聞屆。不屆思召。大瓦別當普賢坊に計略の事ヲ申合メ。永祿元年戊午極月廿九日之夜。家來ノ佐藤筑前か所へ相詰。明る元朝未明に履澤城へ押込。左兵衛殊之外働き。手負て自害被成候。左兵衛家來柴田四郎大力無邊之者。大きに働落行を。佐藤筑前追懸首を取る。城を燒捨る。五郎殿より筑前ニは。左兵衛持來。近所之山を給り。普賢坊には田地壹町給り。いまたに所持仕候。

一。玉米之領主。小笠原信濃守義滿殿に男子無之。仙北之山田五郎殿三男小介ト申を。信濃守殿聟名跡に御呼。其後信州殿に男子出る。就夫家中何角と六ケ敷。信州とのと小介殿と中惡敷。信州殿は次郷田村へ隱居して。平城をかまへ居住す。然處信州殿家老杉山宗右衛門心替にて。永祿二年己午十二月下旬小介殿を盜取て山田へ遣す。同三年五月十日山田五郎との大軍を發し。杉山宗右衛門案內にて。信州殿を責る。信州殿自身働き討死す。郎黨には八嶋右馬之助。小野兵大夫。同舍弟喜介。小松尾張。同藤六。藤內。鷹。土屋讃岐。小松新介。同新左衛門。孫之彌十郎。何も討死す。信濃守殿嫡子介之進との。其弟貳人死に郎黨死落しける道にて。山田勢押付。助之進殿を山田へ生捕レ候ゆへ。舍弟兩人を下村內藏人方へ誂置。八嶋小松計策にて。介之進殿を山田ゟ盜出し。永祿六年之秋玉米養田之舘を築。介之進殿を彌三郎儀次とのと改名し。地頭にすゆる。

一。永祿七年正月十五日之夜。山田五郎殿養田之舘へ押寄。無勢にてすてに養田の舘おつへき様子に御座候所に。在鄕侍鳥井坂太夫。佐々木韻介。長沼藤三郎。佐藤若狹。畠山專介。小野筑後。高橋孫介。遠藤和泉。高橋上野。菊地下總。同介左衞門。小松丹後。同新介。長谷山但馬所々より走集り。敵陣之後より責登。敵陣之鵜沼專介と申貝吹を。小野筑後か討取る。彌以敵陣前後の敵に心おくれけるや。早々陳を引取給ふ。專介か貝は。玉米へ取。其後西馬音內より無事を入。取合無シ。

一。瀧澤刑部少殿。履澤左兵衞に心を合せ。矢島を潰可申計略あらわれ。左兵衞は討取れ。刑部少殿は仁賀保へ手入して。矢嶋を取りひしき可申段度々風聞に漏レ聞へ。其意趣に寄て。永祿三年五月中旬矢島五郎殿瀧澤との城へ寄する。城中しずまり音もせす。鉄炮弓抔を討せても音なく。然處に遠目之者歸來て五郎殿に申は。仁賀保大和守殿旌とと見へて。鎌ヶ淵まて大勢相見へ候。瀧澤とさのへ之後詰に紛なく候儘早々引取可然之由申て。車引に引取。その節城中より大勢付添て。矢嶋勢十四五人討死す

一。矢島五郎殿より。同年六月中仁賀保和州殿へ以使者申斷るは。先祖より小笠原一家にて。祖父義久代より兄弟之如く仕候處。此度刑部殿へ後詰之段心得かたきよし申遣候へは。和州との帯刀に直談して。刑部に無據賴まれ。老身之無調法。自今無別心誓言にて被仰分。

一。矢島五郎との近習に召使蛭田傳之助と申小性を。佐藤主計と申ものか討て缺落。玉米之領主小笠原信濃守殿へ欠込よし。其段信

濃守殿へ斷候得共一圓請負無之。就夫五郎とらへ兼。元龜元庚午九月十七日大勢を催し。玉米信州殿居城水上舘へ押し寄、城中もくつきう（や胝カ）之者𪜈大勢にて。雙方討死手負あまた有り。其上下村内藏人との後詰之よし聞へ候て。五郎殿引取

一。元龜三壬申四月上旬下村之領主小笠原内藏人との居城根城へ。石澤作左衞門殿押し寄。内藏人家來に。眞木新左衞門鉄炮上手にて。敵七人まで討落。その日は軍なく。石澤勢大琴山に陣を取り。其翌日未明に押し寄る。内藏人家來小笠原之太夫民部小太郎。小野彌四郎。石渡左衞門四郎。阿部五郎。伊藤五郎。工藤阿藝。兒島久太郎。遠藤源兵衞。畑山孫作。大場彌作、加藤彌五郎。千葉備中。齋藤下總。大田翻十郎。石川與助。佐々木下野。鈴木彌藏。眞木新左衞門。日野甚才。木下武藏此もの𪜈一命を輕して戰ひ。然所に根城之後より柴手を取り。石澤勢寄登る。大手口之戰に紛レて。後口は不存候處、阿部與惣兵衞。石渡左衞門四郎。小野七左衞門此者三人之女房𪜈柴手に取付上る武者を見て。石をころばしければ敵逆去る。然とも武者貳人塀之陰まで責登るを内よりはしごを懸。手頃の石をなげかけ、貳人𪜈に谷底へ打落す。大手には佐藤源兵衞討死するを見て。城内より大勢切て出。石澤勢たまらす引て逆る。されとも齋藤丹波。佐藤美濃。小松讃岐。大場靫負。澤田式部。兒島甚兵衞。壬峯美作。猪股常陸。澁谷右馬之丞。小松右京進。同上野。佐々木掃部。打田玄蕃。伊嶋越前。板坂若狹。小松和泉。藤山土佐何も命をおします返し合て戰。やう／＼石澤へ引取。雙方討死あり。

一。永祿三年瀧澤へ五郎との押懸候節。此方中

惡百三段之市場へ。百姓ㇷ゚之運送までを防るよし度々およひ。五郎との無念に思召。天正貳年六月中旬瀧澤へ押寄られ。上條に一日逗留被成候。然は遠日之者歸來て。五郎殿へ申は。仁賀保勢後詰として横岡山城。菊地五郎太夫兩人大將として。大勢押懸來由申ゆへ。共々空ク矢嶋へ引取。一家之芥川攝津。根之井右兵衛帯刀等呼集。御相談は仁賀保より兩度まて後詰の上は。當年中是非とも仁賀保へ押懸。一軍可仕段申候攝州申は。兎角は明年まて樣子共見屆可然よし申候得は。以之外五郎との御腹立被成候。され共何も強異見申候て。明年まて御待被成候。

一。天正三年八月十六日。仁賀保大和守殿矢島五郎殿。新庄之舘を責る。大雨降て鄉內之渡り洪水にて。三日まて御待被成候へとも。雙方ㇷ゚に空ク川を隔。大和守殿四日目にも雨不止。空ク歸陣被成候。

一。大和守殿より五郎を責落さん迚。玉米之領主小笠原信濃守殿へ後詰御賴候は。天正四。四月廿八日矢島へ押入。廿九日夜五郎との居城新庄へ押込可申候。其節信濃守殿は舘之後山より責寄。日暮て火の手を立候ハヽ。舘へ切登申へく候約束之由。五郎とのへもれ聞へ。五郎との手立には。四月廿八日に信州とのふせき留へきために。神代山難所之通口に。亂杙。逆茂木を引。人馬之通難き樣にせき止メ。根之井右兵衛を付置。廿九日の早朝に。信州との押懸候へとも難所にせき留られ。鉄炮にてふせき候へとも無理にも被登。扨五郎殿は舍弟與兵衛殿を舘に殘置。我か身は後切をせんため。芥川攝津。相庭六右衛門。小番河內。豊島右馬之助。金子尾張。小番喜兵衛。柴田三右衛門　牧修理之介。金丸帯

刀。佐藤和泉。大死普賢坊此ものともを召れ。日暮レ遅しとさすか瀬へ廻り。神代山相圖の火之手を待。矢島與兵衛殿は。信州相圖の火を似て。館之後手に暮六半に篝りを立申候。その時和州との相圖の火立つほとに打立てと下知あれは。仁賀保中務。横岡山城。土門對馬。芹田伊豫此四人軍之下知をして。新庄之館へ押向。大和とのは親子モに根之井館に扣被成候。五郎とのは篝り之火見ると向城へ乗越。後より押つかんと思召所に。根の井に若人殘居候も。知し不申由三右衛門申候ゆへ。根之井ノ館へ乗上ヶ候處に。和州との寛々と御扣被成候ゆへ。四方ゟ取廻し。ときのこへを上ヶ責給ふ内。菊地は次郎とのを歩行にて連て杉澤口へ落給。和州殿は五郎とのと切結。終に五郎とのに討れ給ふ。付添侍も十五人討死す。其ゟ陣小屋へ火をかけて。新庄へ押向勢へ後より押付かんと被成候所に。和州との討死と申。先陣へ知レけれは。後口には火之手見へる。根の井館へも歸られす。谷地澤へ半分。杉澤口へ半分我々所存次第に落行。五郎との兼て杉澤に篝を立けれは。前杉へモ敵廻りたると敵と見め。赤石ノ淵横道へ落行。五郎との取てかへし。八升栗毛に鞭打て追付。長サ一丈貳尺之棒を以て四方へなきたをす。付添面々も人數いくらと云事もなく討倒す。其ゟ五郎殿は前杉へ欠上り。川原村へ打越。落行勢を追かけ〳〵討ほとに。雜兵モに人數百五人之首を取る。次郎とのは菊地に助られ。子吉殿へ漸く落行。谷地澤口へ落行勢は無事に歸る。

一。仁賀保宮内少輔との居城へ。矢島五郎との天正九年四月中旬押懸る五郎との急病指發

り。軍なくして歸陣。同十一年七月十八日宮内殿切腹。家中の侍心替にて如斯。御息女へ子吉八郎殿聟名跡に入。同十四年十月十五日八郎殿御切腹。右之衆心替ニ而如斯。同十五年正月十五日赤宇津とのより。兵庫頭殿御名跡に御入被成候。其節兵庫頭殿より池田庄左衞門を以ご。五郎殿へ申參候は。和州との時代より度々矢島と取合事以之外成る儀。先祖は小笠原一家ニ而御座候上は。自今以來は睦敷仕度旨被仰遣。五郎殿も此家中之ものとも滿足す。此方ゟも御禮として。御使者被遣候。然處に兵庫頭殿先祖より。冬至山の目先に付置て。豐島四郎兵衞か三男矢島領大村杉之杉之木を盜取候を。五郎殿家來熊谷次郎左衞門見當り。逆行を押へて首を取る。五郎殿ふなの木もちへ獄門に懸候樣に被仰候ゆへ。家中の面々さま〳〵異見申は。頃日之和睦にて上下共に滿足仕。安堵仕候所に。ケ樣に被成候ハヽ。又々取合に可成候條無疑候。此度は是非思召留り候樣にと。色々異見申候へとも。一圓御用ひ無之。ふなのきもちに獄門に懸る。然所に兵庫頭との矢島退治之軍迎テ。赤宇津殿。子吉殿。瀧澤殿へ加勢を乞。大軍ニ而矢島へ押來よし五郎殿聞届。四月四日に五郎殿大勢ニ而。ふなの木もち割石に陣を取扣へ給。兵庫殿大軍にて押來る。双方陣を堅め待懸たる時。仁賀保陣ゟ武者一騎壹町程進ミ出。扇にて矢島陣を招く。五郎殿何事そ聞て參ると有て。佐藤越前乘出し。近く寄れは。齋藤源八そ。五郎殿無事を破りて我儘之仕かた絕言語候。就夫に大勢引連矢島退治と思召候儘。五郎殿侍卒とも降參可仕者は命を免。本地加増とふすへしと申越前聞て兵庫との被仰

候事か。汝一分の働かおかしき事を云そと云拍子に拔討に討て。源八は拔請に受。すかさす右之小腕を討ては。太刀打落片手に持。敵陣へ其儘逃込。是を軍初になり。雙方ゑいや／＼と責寄る。五郎殿かしの棒もつて大勢之中へ押込／＼被成候ゆへ。敵陣たまり兼。倉賀川向坂まて押もさす。暫く休給ふ所。仁賀保禪林寺。矢島尊建寺兩僧來て。鮎川筑前との。瀉保双記殿。岩谷内記殿。打越左近殿より無事と御入被成候。由理中さわきしも。仁賀保矢島戰にて御座候。其上本來小笠原御一家にて。左樣之事有之間敷と無事御入被成候由。兩寺双方へ被仰分候。五郎殿は一圓御用ひ無之を。老臣ともさま／＼と御異見申て無事に成り。互に陣を引。

一。天正十七年七月廿日兵庫殿大勢催。矢越八幡堂へ陣取て。廿一日に五郎殿居城へ押寄せんと。御支度被成候所へ。五郎殿廿一日之早朝に八幡へ押寄給ふ。仁賀保との御陣中之馬とも不殘口大キに腫れふくれ。轡もはませられす。敵陣之方へは一足も不進。兵庫殿是は不吉なり迚。則陣を引取とて歸陣被成候。五郎殿木ノ目坂まて押付。跡勢を四五人討留給ふ。馬之口腫レたる儀を。何ゆへと詮議する所。此八幡は小笠原大膳大夫義久信州より初而下り。今之所に八幡大菩薩。諏訪大明神兩社を信州之南社を奉移て。天下安全國家長久御祈禱不怠。社家には太田霞主式部卿初として。五人の社人。八人の八乙女。毎月神樂を奏す。其節之神樂之竈にて。仁賀保勢の舍人も。馬の飼料を煮而喰せたる神靈之祟りにやと申あへり。

一天正十八年五郎殿仁賀保へ押寄。十死一生の軍可仕旨家中へも申含。八月三日兵庫頭

殿。居城根城へ押寄被成。折ふし風雨仕候へは。水之手を切取らんと被成候得とも。用心嚴敷水之手切取候事不成。城は目下に見ゆるれ共。根城へ取付。山グキ長して。一騎討之切所にて寄かたく。兎や角やする內に。物見之もの來て。五郎殿へ申上ルハ。たんこ坂。鞍懸坂か。子吉赤尾津之多加勢に走り登り。此多勢に前後をかこまれては。一人も生て歸る者御座有間敷候。早々引取可然旨申上る。五郎殿一圓御用ひ不被成候を。樣々申なため。車引に引取被成候へとも。右仁賀保勢竈ケ淵にて押付。根之井右兵衞先に引取。人馬を休居けるか。兩勢之押付を見て馬を引返し。敵陣へ切向。根之井郎黨片倉彌五郎。遠藤修理。土田新介主を討せじと馬の口を立ならべ。土門菊地か勢無二無三に切入。貳町程敵を押返て。しづ〳〵と引。その內に

仁賀保勢大勢に成て割石まて追來。其內返し合せ戰候へとも。五郎殿近習に附添者は。金丸帶刀壹人にて。防戰ひ討死す。五郎殿は例之棒にて散々に四方八面を討廻り。馬をふな木もちへ乘込。步行に成りて切て廻。敵大勢といへとも寄付かす。敵陣より鉄炮こ弓は雨の降如く。五郎殿は少も引く氣色なく。角ては危く思處へ。相庭市右衞門。小多河內。同喜兵衞。金子尾張。佐藤右馬之丞。大江三右衞門。新田民部。牧修理之介。佐藤和泉。堀內孫市。茂木左馬。此者とも方より走集り。敵を追散し。五郎殿に向ひ。備も無邊も時に寄者。早々引取可然よし申上候へとも。少も引取氣色もなく。谷地へ入たる八升栗毛を横たきにたき。十間計りたき上ケて乘り上り。敵陣へ押ひき被成。民部御馬之口を取りて引返申候得は。民部か甲をひた打

に御打被成候へとも。何共前後より押包。様々松ヶ臺まて引取給ふ。矢島は金丸帯刀添て三十貳人討死す。仁賀保勢八十八人討死。

一。子吉兵部との〻天正十九年五月中旬。鮎川筑前殿へ內談被成候は。仁賀保殿と矢島殿と折々之合戰何も氣之毒に候。先達ても兩方無事入候へとも その甲斐なく。先以て仁賀保殿は瀧澤殿。打越殿。岩谷殿。赤宇津殿何も一家なれは。荷擔之者大勢。尤兩家は本小笠原一なり。其上最上義光公之御意も如何。兎角は和睦被成。兵庫頭殿へ□ニ御隨被成候樣に仕度。御無事之御計イ被成候。五郎殿殊之外御腹立返事に。敵强きさして降參する事は武士の方にあらす。兵庫頭とのや〻もすれは。五郎殿をかすめ被申は不及是非に候。子吉殿へ右之御禮には。一軍可仕候と御返事被成候。家中老臣とも樣々異見申上候へとも。少も御合點無之。六月上旬大軍を引連。子吉殿居城へ押寄る。兵庫頭殿後詰被成候故。空く引取。その時兵庫頭殿狂歌よみて道心に爲持遣り。

矢しまとの朝のすかたは百合の花
今は子吉の公をむくる哉

矢島との返。狂。

仁賀保との手をかさしたる子吉原
矢しまの風に露や落けり

一。同年五月下旬最上義光公より。矢島五郎殿へ御飛脚被遣候ニは。五郎殿事は。古今無雙之勇力。大閤樣へ達上聞て御逢可被成旨被仰出候ま〻。明年同道にて。上洛御目見可仕旨被仰遣候へとも。五郎との合點不被成。病氣之由被仰分候。又同六月中旬鎧馬抔被下。是非に於最上迄登申は。明年は上洛仕。由理

一郡之大將とも可仕由申來候へとも。いか樣の御計略にも御座候やと。家中ﾓに不爲同心。又病氣之由被仰分候。又天正十九年十月中義光公が御使者にて。大閤樣之御書に矢島五郎事大力武勇之由達上聞。御重寶に被思召候。明年義光ご同道仕。上洛可仕よし。御判も無疑候。五郎頂戴仕。家中共に大悅仕。義光公へ返事には。押付最上へ罷登。御禮可申上由御請申。同十一月五日に留守居には。舍弟與兵衛殿に芥川攝津。根ノ井右兵衛。小番喜兵衛。同掃部。相庭市右衛門。佐藤以下在鄕侍とも貳百人余附置。五郎殿御供には。小番河內。金子尾張。同安部。大江三右衛門。佐藤和泉。新田民部。木村與四郎。佐藤小貳。豐島右馬之丞。伊藤五郎兵衛。小沼縫之助。佐藤越前。同藤太。同津島。柴田修理。眞坂下總。田代次郎太郎。池田左京。此十八人旨と賴。其外都合百五十人召連最上へ登。首尾好義光公へ目見被成候而。御料理に一番の鮭丸身にて。濱燒にして御出被成候を。不殘尾首ともに五郎殿御喰被成候由。御所望と被仰出候得は。四尺八寸三つ指にて拔出し。裏表を引返し御見せ被成候。義光公御意には。當年は此方に逗留有て。明年大閤樣へ同道可仕よし被仰候。御馳走の上緩々逗留被成候處に。兵庫殿。子吉殿。赤宇津殿。瀧澤殿。打越殿。何モ由理大將分之衆中御相談には。五郎殿義光公へ目見の上。首尾能明年は大閤樣へ上洛仕候由。左候へは由理之大將にても給候へは。我々とも浪々の體。その上に如何樣の目にも逢可申哉。此上は五郎殿留守居。與兵衛を討潰し。五郎殿を矢島へ入れさる樣にと。兵庫殿被仰出候然處に岩谷內記殿被仰候は。左樣に仕候ては。義光公より其

儘に差置申へく哉。五郎殿彌以義光公を後立に仕て。由理中退治可仕候。赤宇津殿被仰出候は。留守居與兵衛をたはかり。矢島家中を貳ツにして。兄弟軍をさせ。其上に時節考へ。五郎とのを可討計策も可有之由に相究。兵庫殿家來成田惣左衛門を。根井右兵衛方へ遣申之條々は。五郎殿事一家をも。一家と不思召。家臣とも之諫をも不用。年々及合戰。百姓共も困窮。由理もさわか敷候。此上は五郎殿矢島へ不入樣に御計意可被成候。押て入申は。由理十一頭列座に入亂跡潰シ申へく候。左候ハヽ與兵衛殿へ矢島中知行させ申。十二頭の內へ入。明年は十二頭乇に義光公へ罷登り可申候。左も無之候はヽ。十一頭とも則座に亂入。與兵衛殿跡潰し可申段。根の井右兵衛方へ申遣。右兵衛方より與兵衛殿へ申入候。兼々五郎とのはあらき計にて。老臣の諫めも不用。軍すきにて家中も困窮およひ候へは。留守居の侍共ニ同意して相談究候。其節攝州樣々申候へとも。何も同意せす。則五郎殿御男子貳人御座候を。與兵衛殿手討に被成候。五郎殿奥樣は。西馬音內殿息女ニ而御座候か。女子之お鶴殿と貳人一間所に押入。番を付置被成候。攝州口惜事におもひ。奥樣とお鶴殿を夜之間に盜ミとり。西馬音內へ落る。西馬音內より此趣を爲知申候得は。五郎との義光公へ暇乞もせす。西馬音內へも御寄不被成。神代山懸越。直に新庄之舘へ押込可申由被仰候。神代山に薪切居申ゆへ。與兵衛殿御事尋候へは。五郎殿御歸候ハヽ。則座に討潰シ可申と。要心嚴敷御座候まヽ。其御心得可被成由申ゆへ。何も五郎殿へ異見仕。在鄉へ御入被成候へて。緩々と計略をめくらし。討入可然よし申上

候。就夫猿倉平七は。日頃心實貞成る者に御座候まゝ。此者へ可參被仰候ゆへ。若手之逹者さて。金子安部を平七方へ案内に被遣候得は。平七喜悦仕。家をしつらい。安倍共に御迎に參。御馳走申上る。扨與兵衞殿樣子こも能々聞つくろい。在鄕侍共へも慥成者共へ案内をし。極月十八日大雪に新庄之舘へ押込被成候へは。何も由斷之所なり。取物を取あへす。豐島右馬之丞。小番掃部。相庭市右衞門。佐藤。杉本藏行。小番喜兵衞さ五郎さのさ組合被成候處に。喜兵衞も大力にて。しはし組合。喜兵衞振り切て落。五郎殿押懸討に被成候へ共。おくれ刀にて肩先に少し手負逃る。與兵衞殿働被成候へさも。五郎殿かいつかみ。散々につき通し。與兵衞殿御子息弐人御座候を。直に下ケ切に被成候て。さゝめ木さ云所へ獄門に上ケ被成候。

一。文祿元年七月廿五日由理十一頭相談の上。矢嶋五郎殿兎角は討潰し可申候。八月中上洛之由風聞す。登て後は如何。縱義光公より御不審あらは。隨分申分ケ可申候。若申分立兼候ハゝ。十一頭引籠り。義光公之御馬申受る外無之さ。十一頭之者𪜈惣責さ聞けれは。五郎殿老臣さも御異見を申は。家中も心替して。三歩一は侍共も減り。十一頭へ向戰は難勝。早く最上へ登り。上洛可然よふに申候得さも。さら〳〵御用ひ無之。荒倉之城へ舘籠り。寄廻る大勢を何心もなく待懸被成候。此荒倉之舘さ申は。西大手にて高そひへ。南は小川切入て鳥も難通。北は朽澤さて猶以澤深く。後は東の方山續成る堀切て柵を振り。舘之内場廣く。クツキヤウの地形にて。急には落かたき要害なり。西大手へは兵庫殿大將さして。打越さの。赤尾津殿。岩谷

殿。瀧澤殿は向ひ被成候。山之手へは下村殿。玉米殿。子吉殿。潟保殿。石澤殿。鮎川殿御向被成候。然處に七月廿七日ハ。四方より惣責と諸將之内談究り候處に。廿六日夜最前心變して落行。親類縁者のものとも何方ともなく落行て。貳十騎ならては殘り留るものなく。五郎殿夫にても臆する心もなく。廿七日の朝八升栗毛に打乘て。城へ責登。大勢を例の棒を以て乘落し〳〵。戰被成候へは。大手口之勢しころにて。我々の陣所まて引除。山の手の勢は如何したる事にや。足立も悪く取付も無御座候まゝ。其日は不寄懸。同日之午刻又々大手口より責登り。柳井戸まて責登る。大石つゝ置けるを。上よりころはし落て。敵しころになる所へ。五郎殿切て出棒を以てひた打に討て追落し。人ナタレヲツキ申候得は。又本陣〳〵へ引取る。大江三右衛門。五郎殿へ向て申上るは。殘るものとても手負つかれ。大勢惣責に登り申候は。無氣に切腹被成候より外は無御座候まゝ今宵中西馬音内へ先々御落被成候様に。さま〳〵諫言申候へて。奥様お鶴様をは。柴田半田に山中を落申。五郎殿赤尾津殿御扣被成候。山の手へ切登り。打續者とも大江三右衛門。小番河内。金子親子。豊島右京。新田。伊藤。牧。木村。三浦此八人ぬき連て切登。闇夜にて敵も味方も見へす。かゝりを燒かけたれは。敵大勢しころになつて四方より取まわす。五郎この歩行立なれは。棒を以て四方を打廻る。漸々と五郎殿敵を欠拔て。山の手へ取登候時は。大江三右衛門壹人ならては付添者なし。其外之者共は。深手を負ひ。或は押隔られ。廿八日之夜よふ〳〵西馬音内へ參る。奥様も廿八日之夜御附被成候。お鶴様は敵

陣へ取られ被成候。
一。此年より矢島ハ仁賀保殿領分に成候て。八森城に菊地長右衛門殿を。御城番に御すへ被成候。就夫五郎殿家來ともは皆々矢島を去て。西馬音内の近邊に相詰て。五郎殿へ勤る。
一。同年極月廿八日西馬音内に於て。五郎殿切腹。由理十一頭より小野寺遠江守殿へ中上ケ。小野寺殿より西馬音内殿へ御斷之事御座候て。切腹之よし。
一。大江五郎太夫。満安切腹之後。五郎殿家來共被召返。兵庫殿本知給り候へとも。兵庫殿より御知略にて。頭立たる者ともを外之事になそらへ討取被成候。中にも文祿二年九月中旬。矢島四十人の者ともへ。御料理可被下候由にて。何も仁賀保根城へ相詰。城中大門へ向ひ候と等ク。齋藤甚五郎。大澤式部大勢にて責懸。四十人之者とも一命を輕く戰ひ。一方を切破り迯る。其内小番河内。豐島右馬老武者にて。豐島は武しや壹人組留さし違死。小番河内は敵二人と組て。敵と共に指違死す。相庭市右衛門は屋布之方へ落テ迯るを四五人追かけ。敵一人討て死す。其外又家來共計廿二人討死す。仙北へ迯隱レて住居す。
一。慶長五年八月廿五日酒田之城主志田修理殿より。淺野權之丞軍大將として。九月十日に由理へ遣し候て。由理中城主を責潰し可申候。就夫矢島四十人之者ともは。矢島へ兵庫頭殿より附置。八森之城番を討潰し。一城を構へ。權之丞方より左右次第。仁賀保へ切て出へし。大江五郎との支配之知行所は。四十人へ分知可被下候よし。阿部與四郎を以て大江三右衛門方へ委被仰遣。志田殿直判

被遣候。就夫相庭又四郎。小番忠兵衛。金子安部。豊島右馬之丞。同文四郎。佐藤杉本。大江三右衛門此七人さま〲評定しけるは。御主を討るゝのみならす。親兄弟故なく討殺れ。かよふに浪々之體口惜。ケ樣之儀一味同心仕て。能事悪事も不存候へとも。御主敵なれは。一矢射中も無理には有之間敷相談究り。與四郎を留置て。五郎殿家來筋之もの共へ廻文を廻し候へは。高橋靫負。鈴木兵藏。堀内孫市。佐藤小貳坊。半田伊兵衛。牧修理。新田民部。木村與四郎。伊藤五郎兵衛。茂木左馬之介。佐藤筑後。同和泉。同越前。佐々木津嶋。三浦六郎太郎。同平馬之助。松田掃部。木村與介。柴田新兵衛。茂木民部。佐々木五郎太郎。佐藤藤太。同津嶋。高橋備中。菅若狹。小沼藤太。今野治助。鈴木與介。原田介太郎。大友周防。柴田修理。梶原源左衛門。眞坂十郎太郎。村上美濃。岡田代次郎四郎。眞坂下總。高口隼人。池田左京。今野下野都合四十騎。相庭又四郎。金子安部。同三介。豊島右馬之介。同文四郎。小番忠兵衛。大江三右衛門。右七人の者ともの下知を相背不申。一命を輕ク軍場に望て。一足も退き申間敷よし。誓浢（紙カ）をかき。炭に燒呑て志田殿の下知次第相背申間敷段。阿部與四郎へ申合。百宅ノ山入田また越をして迯る。九月八日の未明に。八森之城番菊地長右衛門大將として。酒井縫之介。菅原勘介。上下五十人籠居城へ押懸責落。則居替る。折節菊地長右衛門は。福王寺へ祈念之事有て。宵ゟ相詰候よし聞て。福王寺へ責登。長右衛門家來土田大學。友江兵部抔討留る。菊地は後山より仁賀保へ落る。菅原勘介は笹子へ公用有て他行す。酒井縫之助討死す。其より志田殿へ以飛脚を。矢

島八森ノ城を切取候よし申遣候内に。志田修理殿は落城して。米澤へ登候よしにて。兵庫殿瀧澤との。赤宇津殿打越との酒田陣より御歸被成。近日矢嶋退治ノ御陣ふれ候由。四十人之者とも此上は無是非候。笹子赤舘を築き。赤舘を枕と思ひ定。八森には小貳坊と堀内孫市を殘置。四大將前杉へ發向候はゝ。早々赤舘へ歸。爲知可申旨申含置候所孫市何角存候や。民部坂へ敵陣之歩行四五人鑓を持て登候所を。只壹人走向。鑓にて突けは敵少身をよこにすれと。敵之前へのめりころひて其儘首を取し。小貳坊柴田を見て。赤舘へ歸來て爲知申候。然處に芥川攝津事五郎殿切腹の後は。赤尾津孫二郎殿從弟に候へは。孫次郎殿へ浪人分にて居申候か。四十人之者ル籠城之由以之外不屆。由理十二頭とは申候へとも。今は四頭にて此四頭へ四十人之もの弓射候事。以之外成る所存ひらに思留て降參し。永く矢島に居住仕候か。本意たるへき由。家來を以て申遣候。四十人赤舘にて評定するは。此軍出ス先サ(マヽ)へ段々先祖を討れ候。その上ケ樣之軍仕出し候上は。降參もけいはくも不入る。赤舘を枕とするより外はなしと。何も思切て使之者へ式對して歸。彌以赤舘をしつらい。瀨目か峠難所なれは。柵を振りて大石を積置。佐藤越前。牧修理。斗田伊三郎。大友周防。菅若狹請取て待懸申候。家の森には豐島友四郎。柴田新兵衞。鈴木與介。佐藤和泉。新田民部受取て相待。籠地山には。金子三介。柴田修理。村上美濃。木村與四郎。今野治介。高橋備中。相待右之四頭之内。兵庫殿。瀧澤殿は川内口を受取可被成候て。瀨目か峠へ御向被成候。打越殿。赤尾津殿は直根口より御向ひ候て。瀧に

陣取て御扣被成候。然處に十二日の未明に。瀬目峠之先手百人程歩行立にて責登る。今野治介鉄炮の上手にて。三人打ころはせは。敵トヨメキ申候。其砌大石をころはし落せは。人へ當るは稀なれ共。難登見へ候所へ。鑓之先を揃へて討て下れは。先陣しところになりて本陣迄引取。其日は川内口ノ軍相止申候。直根口より赤舘へ取付。道は長沼つたへにて。一騎打ノ細道。両方は深谷にてコロフと人馬たまり申所に無之候ゆへ。足輕十人廿人切て向候へ共。竈地山より鉄炮にて目之下之者を討申ゆへ。壹人も近寄す。然處に兵庫殿被仰候は。瀬目か峠は難所に而五人十人之人を防かたく候まゝ。椿の方より家ノ森を目付にし。夜中に道を切て責登るへし。直根口勢はかんじきつらへ。新道を切様にしても。人馬を通し。赤舘西大手より責

へしと御相談究り。夜中に道を大勢にて切る。赤舘にては今日之軍に勝利を得候は悦申候。十三日之朝所々より新道を切る之由聞立候處に。早直根口之敵はカンシキツラへ打越。大手口へ只今向之由告來る。兵庫殿も家ノ森まて追付御向ひ候よし申ゆへ。瀬目ヶ峠人もなけれは。瀧澤とのを家の森之責手に殘置。大手口へ御廻り被成候打越殿赤尾津殿。兵庫殿。三頭して御責被成候へとも。大手も彌以難所にて。鉄炮弓にて防大石抔コロハシ。大木を切たをし置候故。責登事ならす家ノ森へ瀧澤殿御向ひ被成候へとも。遠くより弓鉄炮戰計にて。近邊不寄。明ル十四日は雙方軍もなく。十五日には所之百姓共に案内させ。足場能所より歩行立にて方々より大木小木をかたさり。赤舘之四方ヨリ責寄る。其趣を見て。竈地家ノ森へ分

遺候者共。赤館へ皆とぢ籠て四方之敵を防く。俄城之事に而。藉かやを以て塀を堅目。本丸計りを板塀に仕候ゆへ。外がわ之分へ敵陣より火を付れは。外塀之分は皆燒て落。鉄炮之上手共入替〳〵討て。敵ヨトムトイへ共四方より責寄て。終日戰中候て。十五日七ツ時分は味方も落行て。少々十人程居殘る。其内鈴木與介鉄炮に當死ス。又相庭又四郎鉄炮に當りて倒レ申を。金子安部走り寄て。皆々引懸本丸へ歸らんとする所へ。四方より敵懸合。又四郎を捨置。切結て討死。相庭金子討死すといへ共。城中不殘落行て落城仕候。四十人之内五人討死手負は十五人。寄手死人は廿人。手負十五人トシルヽ。

一。同年六月中。普賢坊を四十人之首頼。江戶へ爲登候は。大江五郎滿安嬖御息女お鶴殿を取立て。五郎殿の跡目を立申度と申願にて。江戶へ登候處。不叶事ニ而。夫より熊野參詣仕。兵庫殿御祈念仕。九月廿五日に仁賀保殿へ御札守差上ケ申候へは。御料理可被下由にて。仁賀保庄左衛門普賢坊に取付。普賢坊殊之外働キ。大勢寄て討殺す。普賢坊供之大貳坊も討殺シ。小貳坊と俗供之新藏漸々迯去て。冬至四郎兵衛所へ迯込み。食貰う候か。何と存候や。小貳坊天目に水を貰らかいして。其水を庭の柴垣之邊にコホシ。新藏と兩人矢島へ落れは。四郎兵衛も半途まて送可申由にて。普賢坊か小金作太刀を。小貳坊持參申を見て。檜渡川ノ懸アカリにて。小貳を打殺。新藏壹人矢島へ迯返り。其後水をコホシ候所に。柳もたせはへ候を。四郎兵衛取て喰。男ノ分は死して子孫絕ル。

一。慶長七年兵庫殿。常陸之內武田へ御國かへにて。其跡は最上義光公之御旗下楯岡豐前

殿。由理五万八千石御知行被成候。右之内壹万石瀧澤刑部殿。矢島三千石は楯岡長門守殿。御支配被成候。豐前殿は赤宇津に御居城被成候て。同十五年本庄ノ城築被成候。元和八年最上との御跡潰レ申て。本田上野殿知行に。由理中成申候て。元和九年十二月兵庫殿。六郷兵庫殿。岩城但馬守との。打越左近殿御下り。由理中御知行被成候。

一。仁賀保兵庫殿寛永元年子十一月廿四日御死去。御子息藏主殿へ七千石。御次男内膳殿へ貳千石。三男内記殿へ千石。四男次郎殿八百石。如斯寛永二年ニ兵庫頭殿御遺言にて分知也。

一。寛永八年未ノ十月八日藏主殿逝去。御跡退轉。右之七千石御臺所ニ成る。酒井左衞門殿へ御預ケニなりて。爲御代官ト。安部竹右衞門殿。寺内八兵衞殿。

矢島十二頭記終

續群書類從卷第六百三十四上

合戰部六十四

越州軍記上

序

夫烏兎影推移如奔箭急流水。愁樂思互替而似開花落葉林者。此世中之有樣。欲謂夢中自夢短。欲謂露間自露脆。何眞定何僞乎。喜憂共感袖涙催于今雖不始。殊更無墓聞。去年八月十三日。越州諸卒於疋檀表討死。同廿日於大野義景傷害被成。後桂田滅亡。富田死亡。其外金津溝江。平泉之爲躰。後代迄之物語トモ可成。故短才愚慮之身上不顧。少々作草案。載紙面處也。博學多通人。有一覽之。加指南。添削非字。可寫白紙者也。

越前國朝倉累代守護之事

於是文明三甲戌年三月下旬ニ。景行天皇ノ苗裔日本將軍ノ後胤。朝倉彈正左衛門尉。日下部ノ朝臣孝景越中ヲ討捕テ。從來英林寺嫡男子春寺氏景。其嫡男天澤寺貞景。其嫡男性安寺孝景。其嫡男左衛門督義景相續シテ。治國既ニ五代ノ間。一百余年風波常ニ穩ニ。國家安全ニシテ。人ノ心自ラ直ニ〆。仁義禮智信ノ五常ヲ以宗トシテ。上ニ居テ不侈。下ニ居テ不亂。古ヲ以鏡ト〆得失ヲ明カニス。故ニ起居姿ヲ繕ヒ容貌形ニ至マテ。朝倉樣ト云ヘリ。中比ノ人ハ榮耀ヲ極テ金殿甍ヲ並テ造立シ。玉床ニ青丹ヲツクシテ畫キ。垣ニ金花ヲカケ。扉ニ水精ヲ磨キ。席ニハ上ニ花ヲ敷。綾羅錦繍ヲ身ニマトヒ。飯ニハ異國ノ珍物ヲ奔走シテ。白鳥雁菱喰明石鯛淀鯉ニアラサレハ不食。酒ハ青州徒事緑一黄醅天野菩提ニアラサレハ不飮。晝夜開

宴横笛太鼓歌舞ヲナシテ。永夜ヲ短トス。雖然ト心正路ヲ宗トシテ一物ヲ不曲。渇スレモ盗泉ノ水ヲ不飲。熱スレモ悪木ノ陰不休。然レハ君臣魚水ノ如シ。今左衛門督義景ハ性安寺宗淳居士ノ一子ニテ。母儀ハ武田中務少輔息女也。親父宗淳天文十七年三月廿二日波着寺參詣アリ。下向ノ路次ニテ頓ニ逝去アリテ。義景志學比ヨリ越前ヲ所持シ玉ヘルカ。文武ニ意ヲイレラレ。其比名ヲ得タル呈瑞軒ト云文者ヲ扶助シテ。螢雪ノ學ヲ專ニナサレケル。故ニ文道碩才ナリ。弓法ハ小笠原ノ一流ヲキワメラレ。歌道ハ二條淨光院。其外京都公家達ニ相傳アリシ故ニ。諸道ニ付テ暗キ事ナシ。依之禪律顯密ノ寺院ニ至マテ。爰ニ時ヲ得。万民ノ悦ヒ德ニ皈シテ盛ナリ。北ノ御方ハ細川右京兆ノ息女ニテヲワシマセシカ。女子一人生レ玉ヒテ早世アリ。其後近衛殿御息女ヲ迎ヘ玉フ。

容色無双ニシテ。夭桃ノ春ノ園ニ綻ル粧ヒ深シテ。柳ノ風ヲ含メル御形。寔ニ西施モ面ヲ耻テ。昭君モ鏡ヲ掩程ナレハ。義景ノ省モ定テ非類ト思ヒケルカ。年比相馴玉ヘモ。御懐姙ノ躰モ見ヘサセ玉ハス。故ニ家督ツクヘキ子息ナクシテハ。如何可有ト内々思案半ノ所ニ。鞍谷殿ノ類葉小宰相ノ局ト申ケル女房。母儀ノ方ニ候ハレケルヲ。一度御覽シテ。他ニ異ナル省アリ。則密ニ取出シテ福岡石見守所ニ置玉フニ。息女二人息男一人生レ玉フ。然レハ近衛殿御息女ハ。義景ノ省。三秋ノ森ノ梢ノ葉ノ如ク。日々ニウスク成シカハ。御息女一生空鴛鴦ノカタラヒモナク。宮中ニ窓ニ向ヒテ春ノ日ノ暮難キヲナケキ。秋ノ夜ノ永キ恨ニ沈ミ玉フ。金屋ニ無人。耿々タル殘ノ灯壁ニ背タル影。薫籠ニ香消テ。蕭々タル暗雨軒ヲ打聲物毎ニ皆御涙ヲ添ル媒トソ成ニケル。然ルニ召仕ル下

女互ニソネミアイテ。御息所ノ御局ヲ咒咀ナサレケルト。專風聞アリケレハ。義景是ヲ聞玉ヒテ。無情御息所ヲ京都ヘ送リ玉ヒケリ。角テ御息所ノ御座アリケル所ノ地ヲ。三尺堀テ新敷土ヲ運ヒ入。新殿ヲ立ラレ。御局ヲ移居玉ヒテ。御二ノ間トソ申ケル。寵愛不斜見ケルカ。翌年三月下旬花吹風ノ心地シテ。終ニ無墓成セ玉フ。然ハ則義景愁傷カキリナク見ヘサセ玉ヒケル間。諸侍𪜈氣ヲナクサメ奉ラン爲ニ。濱ノ犬追物曲水ノ宴ナト催シケル。其後將軍、御下向ニ付テ御遊覽多カリシ所ニ。又不慮ノ外ナル御歎キ出來。永祿十一年三月廿五日ノ暮程ニ。一子阿君殿病惱頻ニヲワシマス。故ニ谷中靈驗智德ノ貴僧祈念アリ。國中ノ名醫種々良藥ヲ與ヘ申トイヘ𪜈。佛法ノ禱モ感應ナク。療養驗モナクシテ。終ニ逝去アリケリ。然レハ親父天ニ呼ヒ地ニ臥テ歎キ。目モ吳竹ノ打シホレ。末ノ世トテモ憑少ク思ヒ。連ネ玉ヒテ袖ノ露カワク間モナク見ヘ玉ヘハ。伺公ノ侍衆申ケルハ。憂患ヲ忘ルヽ媒ハ。婦人ニスキタル事ハナシ。又御家督ナクシテハ叶ヒ難シトテ。方々容色アル婦人ヲ尋ケルホトニ。是ハ誰殿ノ妹。是ハ某殿ノ女ナリト云テ。奉公ノ爲。宮仕ノ爲トテ來リ聚ル事只三千ノ宮女ノ如シ。其中ニ齋藤兵部少輔息女少將殿ト申ニ被寄意ヲ。則諏訪ノ谷ニ新屋形ヲ立置給リ。此女房紅顏翠黛ノ人ノ眼ヲ迷スノミニアラス。巧言令色心ヲ悅シメシカ。義景寵愛甚シテ。別シ人ノ面影ハ夢ニモ見ヘス成ニケリ。角テ年月ヲ經シカハ。息男一人生リ。是ヲ愛王殿トソ名付ケル。然レハ女房達多召使テ。小太夫殿。式部卿殿。又宮內卿殿トテ並ヒ居テ。御前ノ評定。國中ノ公事沙汰マテモ女房衆ノ取扱ト成テ。若上ノ御口入トタニ云テケレハ。無忠モ賞ヲ與

へ。奉行モ理アルヲ非トセリ。牝鷄ノ晨ニ鳴則ハ家ノ盡ル相ナリト古賢云ケリ。誠ニ傾城傾國ノ亂。今ニアリヌト覺テアサマシカリシ事共ナリ。去程ニ榮ル者ハ必衰ヘ。生アル者ハ滅スル習ナレハ。朝倉カ家亡ヘキ時節ナリト覺ヘテ。近年同名被官共。或ハ病死シ。或ハ討死シケル。先右兵衞尉殿景隆嫡男舍弟一年ノ內ニ三人死去アリ。其景隆モ逝去アリ。末子孫三郞一人殘ラル。義景伯父九郞左衞門尉景紀。嫡男太郞左衞門尉景垙ハ加州出勢ノ時。大將相論シテ自害シ。舍弟中務太輔景恒モ死去セラレテ。聽テ親父伊冊モ被果ケリ。其外玄蕃助景連。同次郞左衞門尉景尙。前波藤右衞門尉景當。小林備中守。窪田九郞右衞門尉。黑坂備中守已下千騎二千騎引廻ス者共死滅シテ。若輩ノ佞人ニ世ヲ任セラルヽ程ニ。功アレ𪜈恩賞セス。過アレ𪜈不誅伐。是併金玉ヲ貪ルカ故ナリ。悲哉日月明カナレ𪜈浮雲隱之。池水淸ケレ𪜈游泥濁之理リニテ。下々ノ民怨ミヲナシ。武士憤ヲ含ム處ニ。永祿十一年九月中旬ニ尾州主織田彈正忠信長。義昭將軍御座ノ御伴申サレ上洛アリ。不日ニ平御敵五畿內ヲ靜テ後。近國ニ振威ヲ。諸國ノ武士ヲ京都ヘ召上セラル。然則朝倉左衞門督義景モ。早々可致上洛之旨被成下御教書。雖然朝倉是ハ不上意。皆信長方ノ智略ナリト意得テ。終ニ不致上洛。依之信長殿欝憤ヲ挾ミ。退治朝倉シテ討捕越州ヲ廻籌策ヲ。既ニ元龜元年四月廿二日打入敦賀郡於鐘崎ノ城。朝倉中務太輔景恒ト戰ヒ。城ヲ攻落テ皈陣アリ。同年九月十九日ニ朝倉孫三郞景健幷ニ山崎長門守家吉攻上リ。於下坂本及合戰。信長殿舍弟織田九郞信隆幷ニ森三左衞門尉長康已下七百四人打捕ル。同年十一月廿六日ニ朝倉左衞門督義景馳登リ。於堅田ニ戰ヒ。大將

織田甲斐守。坂井右近。桑原平兵衛ヲ始トシテ。一千五百人誅之。義景於坂下頸實撿有之。其外互ニ度々矢尻ヲ磨。鋒先ヲマシユトイヘトモ。過ニ義景日運ノ樣ナル間。動モスレハ自身出馬有之。朝倉元祖英林寺。他国ノ緣他國ノ因立。違慮可有之ト申置レケル事。今更思知レタリ。

織田信長殿江州北郡虎御前山拵城之事

去程ニ。彈正忠信長殿。江州北郡淺井長政カ城ノ前ナル虎御前山ヲ城郭ニ拵ヘラルヽノ由。淺井方ヨリ急ニ御注進有之間。先一勢可被立トテ。元龜三年七月中旬ニ朝倉式部太輔景紀五千余騎打立テ。淺井カ城小谷ニ着陣アリ。同七月廿四日ニ。朝倉義景一乘ヨリ進發アリ。其人々ニハ。同名孫三郎景健。同三郎景胤。同權守伊冊ノ衆。其外魚住。前波。山崎。鳥居。櫻井。齋藤都合三萬二千余騎トソ聞ヘケル。先敦賀ノ郡ニ着アリ。同七月廿八日ニ江州ヤナカセ村ニ陣トラル。此中大風吹。諸大木悉ク折タヲル間。陣屋モ破損シケルトヤ。同三日ニ淺井カ城ノ高山大ツク嶽ニ義景居陣アリ。諸軍勢ハ近邊ノ峯ヲ要害ニ構テ楯籠ル。然所ニ信長殿濃州。尾州。江州。南方ノ諸卒都合八万余騎。先陣已ニ虎御前山ヱ着ハ。後陣ハイマタ濃州垂井赤坂ニサヽヘタリ。信長殿一日引殿レテソ向ヒ玉ヒケル。旗ノ影天ニ飄散シ。炎ノ先雲ニ照耀ス。其好粧ヲ見ルニ目ヲ驚シケル。角テ諸大名鎧ノ袖甲ノ星ヲソ輝テ。虎御前山ニ馳向テ。晝夜矢軍鐵炮軍有之。龍虎二龍ノ戰トソ見ヘニケル。斯リケル所ニ。同九月十日ニ信長殿十本筋ヲ被指麓ニ下リ玉イケレハ。義景モ大ツクノ麓ニヒカヱテ。互ニ足輕ヲ出シ。双方鬨聲天地ヲ響シテ。須彌ノ八由旬モ此時クツレヌヘクソ聞ヘケル。今日一定尋常ナル合戰有

ヘシト思所ニ。朝倉方ヨリ唯一騎懸出。長嶋大乘坊ト名乘テ。何ニモシテ大將信長殿ヲ射落シテ。恩賞ヲ蒙ラント思ヒテ。小墓ヲ楯ニトリ駆ヒケルカ。敵方ヨリ武者折合散々ニ射程ニ。長嶋カ思慮相違シテケリ。日モクレカタニ成ケレハ。其日モ合戰ハナカリケリ然ル所ニ翌日ニ前波九郎兵衛尉吉繼父子二騎打連テ。白晝ニ敵ノ城ヘ相向ヒ。駒ヲ早メテ行程ニ。諸人此者義景勘氣ノ身ナレハ。一忠節シテ赦免蒙ラント存向カニ思所ニ。左ハナクシテ。虎御前ノ城ヘソ懸入ニケル。此由來ヲ委ク尋ルニ。去年三月下旬ニ。義景鵜鷹逍遙ノ爲ニ。篠尾邊ヱ出給ヒ。傍ナル高キ所ニヲリ居テ。一献ノ酒宴有之。吉繼遲參ストヤ思ヒケン。急キ馬上ニテ打通リケリ。晩日ニ義景歸玉ヒテ。今日ノ九郎兵衛カ乘打ノ爲躰言語道斷尾籠ナリトテ勘當被リケリ。種々以好緣數度佗言ストイヘ𪜈承引無之故ニ。此陣ニ罷立テ。陣中ニ於テ佗ケレ𪜈無赦免。故ニ敵方ヘ行ケル𪜈申。前々敵方ヘ内通シケル由。彼者嫡男義景ヘ訴ヘケル間。深勘氣被成𪜈聞ヘシカハ。誠ニテ候哉。吉繼來リケルヲ信長殿不斜怡悅。恩賞ノ事ハ於越前可被成ト云云。此吉繼敵方ヘ行事案内者ナル故ニ。事ノ外ノ弱リ也ト申ケル所ニ。又四五日アリテ。富田彌六騎馬三人打連テ。敵ノ城ヘ走入ル。其三人ハ富田。幷毛屋猪之助。增井甚内助是等ナリ。サレハ朝倉方ハ每度合戰ハ理運ノ樣ナリト見エケレ𪜈。敵方ノ人ハ不來。當方ノ者ハ拔々行事。是非無事ト云リ。史記曰。軍無財則城不持。軍無賞則士不來。香餌下必有懸魚。重賞下必有勇夫ト云ヘリ。是併恩賞ノナキシルシナリト申所ニ。又池田隼人助信長方ヘ内通シケルハ。今夜此方ノ城中ニ火ノ手ヲ揚ヘシ。其火ヲ相圖ニ大ツク城ヘ相向ヒ候ヘト

テ。譜代ノ加世者ヲ遣シケレハ。彼者敵方ヘハ不行シテ。義景ニ此旨悉ク訴ケレハ。即時ニ人數ヲ以池田カ陣所ヘ押寄。搦捕テ翌日頸ヲ刎テ軍門ニ懸ラレケル。子息六蔵ニ成ケルヲ。越前ヨリ呼上セ。謀叛ノ者ハ根ヲタチ葉ヲカラスヘシト宣テ。同首ヲキリテ父ト共ニソ被懸ケル。哀ナリケル有様ナリ。

虎御前山之城ヱ忍入小屋放火之事

斯ル所ニ。同十月中旬ニ。朝倉出雲守被官人竹内三助。幷ニ上村内藏之助ト云者アリ。彼兩人申ケルハ。數月越前勢集リ居テ。シカ〳〵城ヲモ不被責。只徒ニ月日ヲ送ル事更ニ無詮。去來我等敵ノ城ヲ燒落サン。若燒落シタラハ。古今ノ間ニ無双忠ハ万人ノ上タルヘシ。今度風雨ノマキレニ。城中ヱ忍入。燒落テ天下ノ人ニ目ヲサマサセント申テ。只二人敵方ノ小屋ノ外ニ脊ヨリ着テ。塀二三間堀入。爰ニテ暫休テ内ノ躰ヲ聞ニ。夜廻ノ通リケル其路（跡カ）ニ付テアルキ。先城中ノ案内ヲ見。本丸ノ方ヘ行所ニ。或役所ノ者是ヲ聞付テ。夜中ニ足音シテ潜ニ通ハ怪キ者哉。誰ソト問ヒケレハ。三助取アヱス。是ハ木下殿ノ中間ニテ候カ。今夜アマリニ雨風激クシテ。物騒敷候間。夜討ヤ忍入候ハンスラント存テ。夜廻仕候ナリト答ヘケレハ。ケニモト云音シテ。又問事モナカリケリ。兩人ノ者ハ。サノミ永居シテ無益ナリト思テ。風面ナル小屋ニ火ヲカクレハ。城中ノ者スハヤ夜討入タリトテ。追手搦手一二万サハキ立テ。敵味方鬨ヲ合テヲメキサケフ。其聲地ヲ響シ振動ス。角テ兩人ノ者已前ノ塀ノ破間ヨリヌケ出テ。越前ノ陣所ニソ歸ケル。其時越前勢淺井衆モ責入ナラハ。虎御前山モ落ヘキモノヲト。皆人々（マヽ）ソ申合ケル。斯リケレハ。竹内上村カ忠節拔軍ナリト云ヘリ。恩賞過分ニアルヘキト思

所ニ。サマテノ褒美ナカリケリ。然ハ敵方陣所七百計燒亡スル程ニ。頓テ小屋ヲカケラルヽカト思フ所ニ。虎御前山ヨリ御子村宮部ノ田ノ中島ヲモ不謂堀土居ヲ上。其上ニ高塀ヲ付ラレケル間。是ハ何事ソト人々不審スル處ニ。同十月十六日ノ白晝ニ。濃州ヘソ歸陣ナサレケル。越前勢前々ハ敵除ハ跡ヲシタウヘキナト云シカ。高塀ノ陰ヨリ退レケル程ニ。不知シテ敵ノ人聲ハ何事ソト云テ。越州ノ者モ居タリ。角テ虎御前カ城守ニ。木下藤吉郎。礒野丹波以下五千余騎ニテ堅メサセ。信長殿ハ歸陣ナサレケル。其後双方行テモ無シテ。徒ニ日ヲ送リケリ。義景大ツクノ城丁(下イ)野ノ城ニ番勢ヲ置。同十二月三日ニ歸陣ナサレケルトナリ。

翌年義景敦賀郡江進發之事

爰ニ元龜四年三月上旬ニ。信長京都ヘ上洛之由聞エケレハ。定テ飯洛ノ砌。若州ヨリ敦賀郡ヘ相向ヒ玉フ事モヤアラントテ。江州西地田子左近兵衛方ヨリ注進ノ間。三月十一日ニ義景敦賀ヘ出陣有之。同四月中旬ニ。山崎長門守吉家。魚住備後守景固已下三千余騎指向。若州ヘ打莅テ。栗屋カ城ノ近邊ノ麥ヲ薙キ。苗代ヲカエサセ。近里ヲ放火シテ。沙木ノ城ノ北ニアル。中山ト云所ニ城ヲ構テ。越前勢番手ニ拘サセ。義景ハ同五月十一日ニ一乘ノ谷ヘ歸陣候也。如此年中ニ四五度出陣スル程ニ。諸卒疲勞シ倦テ。世ヲ秋風ノ心地シテ。思ノ露モ重リ。民ノ草葉モ枯々ニ。野モセニスタク虫ノ音モ。歎ノ色ヲアラハス處ニ。同七月上旬ニ。江州田子左近兵衛尉氏久所ヨリ。三方ノ寶仙房心違シテ。信長殿エ内通シケル間。早々先一勢可被成御合力。一戰ノ事ハ拙者涯分仕リ打散スヘシト。飛脚到來ノ間。先山崎長門守吉家。河井安藝守其外中郡ノ衆。都合三千余騎打立テ。江

州西地三方城中ヨリ即足輕ヲ打出テ。双方矢軍有之。口モ暮方ニ成ケル間。吉家ハ敵ノ向イ城ノ山ニ戰陣取テソ居タリケル。然ニ重テ淺井長政方ヨリ。信長殿横山表ヘ打出玉フ由。飛脚追々ニ來リケル間。先式部太輔景鏡可有出陣之旨義景宣ケル處ニ。所勞以ノ外ナル由ニテ不立。魚住備後守ハ此間(下イ)丁野城ノ番手ニ有ケル條。人馬ヲ可焼トテ是モ不立ノ間。義景自身國中ノ諸勢ヲ引率シテ。同七月十七日ニ被成進發ケルカ。母儀廣德院ニ暇乞ノタメニ參ラセ玉フ。則三獻過テ立歸ラセ玉フ。其影何トヤラン無本意樣ニ見ヘサセ玉フ。人々申ケルハ。是ハ備樂ナカラモ。他國エ御出張ノ事ナレハ。悲涙ノ御氣色モ寔ニ理ナリ。サレハ古語ニモ父母ニ雖朝夕事ト。去則可致愁歎ノ思ヒヲ。敢テ以テ莫欲忿怒顏ト云リ。是併孝行ノ至ナリトソ申相ケリ。角テ廣德院モ御名殘ヲシケナル躰ニテ皈セ玉フ。其形ヲ遙ニ御覽シテ。サテモト計ノ聲幽ニシテ。言葉モナク打臥玉ヒヌ。女房タチソヽロニナミ居テ泣聲ノミ聞ヘケル程ニ。御供ノ侍立返テ。是ハ何事ニテ候ソ。御門立惡敷候ソト申ケル。其時母儀宣ヒケルハ。前々ノ出陣ニ替テ。何トモ名殘ヲシク覺ルトテ。ツヤ〳〵供御ヲ參ラサリケリ。上臈ノ御方申サレケルハ。去レハ悲ノ至テ悲シキハ。老テ子ニヲクレ。恨ミテモ猶ウラメシキハ。盛ニシテ夫ニヲクルヽ程ノ愁ナシトハ申セトモ。其レハ死テノ別ノ御事。是ハ目出度御出陣ナリ。左樣ニアマリ御歎候ヘハ。屋形ノ御門出忌々敷候。早々供御ヲ聞召セトソ申サレケル。同七月十七日ニ府中ニ一宿アリ。十八日敦賀ニ着陣アリキ。安養寺ニ暫ク逗留被成ケリ。八月上旬ニ不慮ノ外ナル大事コソ出來リタレ。淺井方ノ要害。山本山ノ城主淺見阿閉。幷ニ月カ瀬

ノ城主等信長方ヨリ黄金過分ニ取テ。忽飜テ属敵ニ。依之淺井方ヨリ注進頻ニ有之。一刻モ早速ニ此表ヘ可有御進發ノ由ヲソ告タリケル。然レハ。則同八月六日ニ義景江州ヤナカセ村ヘ出張アルヘキ由ノ處ニ。傍衆申サレケルハ。此御出馬ノ事可有御遠慮事カ。既ニ信長方大軍ヲ催テ寄來ラレ候ニ。當方一向無勢ナル故。柳ケ瀬村ハ殊ニ大山ヲアテヽ。前ハ何ニモ淺間ナル處ナリ。然ニ柵木ノ一重モ不結處ニ。野陣ヲ取リ候ヘシ。若敵攻懸リ。當方一戰仕ソンスルホトナラハ。悉誅レ候ヘシ。淺井城ノ事ハ。數年拵タル用害ニテ有間。信長勢モタヤスク不可攻落シテ敵馳來ナハ。於當津ニ一合戰ナサルヘウモヤ候ト。再三被申ケル所ニ。鳥居高橋申ケルハ。合戰ノ勝負必シモ大勢ニ不依事ナリ。先異國ニハ。漢ノ高祖榮陽ノ圍ヲ出シ時ハ。纔ニ廿八騎ニ成テ候シカ𪜈。終ニ項羽カ

百万騎ニ打勝テ。天下ヲ保テ候キ。我朝ニ。右大將頼朝卿ハ。土肥ノ杉山ノ合戰ニ打負テ。フシ木ノ中ニ隱レ玉ヒシ時。纔ニ七騎ニ成テ候シカ𪜈。遂ニ平家ノ一類ヲ滅シテ。累代久シク武將ノ位ニ付玉ハス候ヤ。只速ニ御越候ヘト申ケル間。サノミ異儀不及申トテ。同八月六日ニ。江州北郡ヘ進發ナサル。去レハ漢書曰。國ヲ任賢ニ必治リ任不肖必亂ト云ヘリ。是誠ニ朝倉家ノ運盡ンスル驗シナリト云ヘリ。然ルニ何クモ不知。女房白綿ヲ戴キ。烽火ノ番衆ノ所ヘ來テ申ス樣ハ。明日義景江州ヘ御越候ハヽ。一定難ニ相セ玉フヘシ。御出ノ事ハ御無用ナリトテ。氣比ノ大明神ヨリ御使ニ參タリ。我名ハ小天ト申者ナリ。此由早々屋形ヘ申サセ玉ヘト云ヘハ。番ノ衆聞テ打笑テ。何ナル誰レ者ナレハ。無筋事ヲ云ソトテ。取擧ル人モ更ニナシ。良暫クアリテ。彼女房搔消樣ニ失タリケ

リ。サレハ蒭樵ノ詞ニテモ不可默止ト申ハ是ナリ。頓テ披露アルナラハ。思慮有ヘキモノヲト後悔スレ𪜈益ソナシ。然ハ則西地ヘ越ケル諸勢。山崎長門守已下モ北郡ヘ馳向ヒケリ。山崎ハ寶山房ヲ宿テ。人質ヲ取テ來リ。篠嶽ノ麓ニ居陣候ナリ。

義景地藏山ヱ陣替之事

同八月十日ニ。信長大ツクノ城丁野ノ城ヲ可被攻ノ由聞ヘケル。依之ニ義景ヤナカセヨリ地藏山ヘ陣替ヘ有。其時大ツク番手ノ衆ニハ。小林。齋藤民部丞已下。纔ニ四五百計也。丁野ノ城ノ番手ニハ。平泉寺玉泉坊實光院以下是モ四五百計ニハ過サリケリ。十日ニ風雨シキリニ降テ。物騒敷。雷電ノ光ハ太タ多クシテ。雷既ニ福岡カ小屋ニ落ル。夜中ニ信長方ノ勢打立テ。大ツクノ城ヘ責上リ。塀二重キリ破リテ。今一重ニナレハ。小林。齋藤モ腹ヲキラントスル時。前波九郎兵衛尉關ヲタヘイテ申ケルハ。小林殿ハ御入候カ。前波吉繼カ參テ候。是程ニ攻破テ候間。只降參アリテ除キ給ヘ。御身ノ上ノ事ハ拙者路次ノ警固仕ヘキ間。苦カルマシク候。誠ニ無僞申ケル程ニ。小林。齋藤モ死ヲ免テ城ヲソ出ニケル。同夜丁野ノ城ヲ敵五千計ニテ取巻頻ニ攻ル。城中ヨリモ鉄炮箭頻ニ射出シ身命ヲ不惜戰フ處ニ。寄手ヨリ陣僧ヲ玉泉坊ヘ遣テ。只早速ニ御降參アリテ御除候ヘ。恩賞ノ地ノ事ハ以後御望ミ次第ニ可被出ト。無余儀申ケル程ニ。城中ノ者𪜈今死セン命ヲ遁ル間。悦テ急キ城ヲソ出ニケル。然ハ地藏山ノ諸勢𪜈。城ニ烟ノ昇ヲ見テ。騒立テ申ニ。柵ノ一重モ不結。何ヲタヨリニ抱ヘ候ヘキヤ。唯今夜ノ中ニ御却リ候ヘト申ケル間。十二日ノ夜義景地藏山ノ陣ヲソ引レケル。角テ

モ眞直ニ敦賀ヘ除ル、程ナラハ。クルシカル
マシキヲ。運ノ盡ル故ニ。又ヤナカセ村ニナミ
居テ談合アリ。其時山崎長門守吉家申ケル。今
度當國ヘ御進發候事。偏ニ當家運命ツキ滅亡
スヘキ瑞相ニテ候。愚臣敦賀表ニ候ナラハ。涯
分トメ申ヘキ所ニ。吉家河合安藝守サヘ西地
ヘ罷向ヒ候キ。倩敵ノ大將信長方行跡ヲ傳ヘ
承候ニ。智謀無双ニシテ堅ヲ破リ。利ヲ擢クコ
ト異國ニ於テハ漢皇項王ノ威ニ勝レ。弓箭ヲ
取テノ武略ハ本朝ニハ。源義經。木曾義仲。楠正
成ニモ超タリ。故ニ國ヲ被打捕候事。廿ケ國ニ
及ヒタリ。定テ勢ハ雲霞ノ如ク候ヘシ。果報イ
ミシキ事ハ。四海ヲ掌ニ握リ玉シ頼朝卿。尊氏
將軍ニ不劣而已ナラス。士大將ヲ論セハ。智略
拔群ノ勇臣多クアリ。先柴田修理亮。安藤伊賀
守、羽柴藤吉郎此等ノ輩ハ樊噲張良ヲ欺程ノ
者𪜈ナリ。然ルニ當方ハ僅ニ一國ノ主トシテ

無勢ナリ莅虎口ニ一端抱ヘキ者共ハ。或ハ病
死或ハ討死シテ。無云甲斐殘黨葉武者𪜈集リ
居タリ。然ルニ此大敵ニ向テ戰ン事由々敷大
事也。同捨ンスル命ヲ於我國可然節所ニ引コ
モリ。縱大軍强敵寄來𪜈。時節ヲ伺ヒ懸出合戰
スヘシ。若打負ル𪜈。君臣諸𪜈ニ相果候ヘキ
ニ。何ノ淺井メニ勾引セラレテ。譜代ノ分國ヲ
奪取レ。何𪜈不知野原ニ暗々ト逃死メ。屍ヲ曝
ンコト口惜キ次第ニテ候ハスヤト云ヘリ。定
敵早疋壇ロヲトリキリ。猛勢跡ヲシタヒ候ヘ
シ。吉家殿拂仕ルヘキトテ退出シ。今夜一定討
死セント思テ。古歌ナカラ

古郷ニ今夜ハカリノ命𪜈知ラテヤ人ノ我ヲ
待ラン。

ト詠シケレハ、河合安藝守トリアヘス

古ヘモカヽルタメシヲキク川ノ同シナカレ
ニ身ヲヤ沈メン

ト云リ。爰ニ詫美越後守ハ僧落ナレハ詩ヲ作

リ上ニ書置ケリ。

万恨千悲有慕然　誰圖今夜溺黃泉
古郷公莫成愁淚　屍曝戰場野外邊

ト云ヘリ。然所ニ朝倉掃部助被申ケルハ。夜モ定テフケ候ラン。先疋檀マテ御退候ヘト申ケレハ。最ナリトテ義景立出馬ニ乘玉ヘハ。右往左往ニサワキ。下人ハ主ヲ捨テ。子ハ親ヲ捨テ。我先々々トソ退ニケル。此間雨降タル道ナレハ。坂ハ足モタマラス。谷ハ深泥ニテ冑ノ毛モ不見。泥ニ塗レテ足跛ヘ友具足ニ貫テ。蜘蛛ノ子ヲ散カ、如クシテ。其路五六里カ間ニ。馬物具ヲ捨タル事足ノ蹈所モナカリケリ。軍ノ習勝ニ乘時ハ鼠モ虎トナリ。利ヲ失フ時ハ虎モ鼠トナル物ナレハ。草木ノ陰モヲソロシクシテ。シトロモトロニ退キケリ。斯ケル所ニ。信長殿敵コソ唯今退クト覺ヘタル。急キ打出追懸討捕レヤ人々ト下知仕玉ヒ。自身馬ヲハヤメ。烟嵐ヲ捲テ押寄ラル。既ニタウ根坂ニテ追着。跡ヨリヒタキリニソ切臥ケル。退者𪜈敵ニ[illegible]ヲ不切ト路ノアヤウキヲ不知。疋檀ヲ指テ引退ク。山崎吉家皈セヤ兵𪜈ト。馬ノ足ヲ立直々々下知シケレ𪜈。大勢ノ引立タル事ナレハ。一返モ不返。只我先ニト山ノ嶮岨ヲ云ス馳重リケル間。或ハ谷ヘ堰落サレ。或ハ高岸ヨリ馬ヲ馳倒シテ。其儘ウタルヽ者モアリ。唯馬物具ヲ拔捨テ。逃伸トスル者ハアレ𪜈。返合戰ハントスル者ハナカリケリ。夜モ明方ニナリヌレハ。吉家掃部助同事ニ多勢ノ中ヘ懸入。十文字ニ懸破リ。巴ノ字ニ追マワシ。四方ヲ拂テハ八面ニ當リ追直繆リ返シ合。疋檀マテノ間ニ五六度戰ヒケレハ。勇氣既ニ疲レハテ。吉家ヲ始トシテ討死スル輩ニハ。山崎長門守吉家。同名七郎左衛門吉延。同珠寶坊。同御長。和田三郎左衛門。同淸左衛門吉次。鰐淵將監。吉廣神九郎兵

衛吉久。山内彌六左衛門。壁田圖書。吉隆。同七郎吉房。清水三郎左衛門。岩崎宗左衛門。增井五郎左衛門。番宗兵衛。宗俊田房十郎左衛門秀勝。西館彦五郎吉尚。鳥井與七悉ク敵ト引組々々指違テ尸ヲ軍門ニ曝ストイヘ𪜈。名ハ古今無双ノ功ニ殘セリ。去程ニ朝倉三郎景胤。同掃部助夜モホノ〲ト明レハ。一合戰セハヤトテ。駒引返セハ。同彦四郎。河合安藝守。詫美越後守モ續テ返。敵二三百カ中ヘ魚鱗ニ成テ懸入。東西南北ヘワツテ通リ。四方八面ヲ切テ廻ル程ニ。寄手ノ大勢モ懸立ラレテ。足々ナル所ニ。羽柴藤吉郎五百計ニテ折合。皆打捕ケル。其人々ニハ。朝倉彦四郎。同土佐守。同掃部助。河合安藝守。一色治部太輔。詫美越後守。神波宮内助。溝江左馬允。青木隼人佐已下五百人計討死ス。爰ニ朝倉孫三郎。同三郎景胤虎口ヲ打破通テ。義景一處ニ成テ引レケリ。然レハ義景馬引返シテ。軍中ニ於テ腹ヲ切テ屍ヲ戰場ニステント宣ヒケルヲ。鳥居。高橋馬ノ七寸ニスカリテ。先木ノ目峠マテ御除ナサレテ。彼所ニテ勢ヲ揃テ。可被成一合戰ト申程ニ。彼峯ニ著陣アリ。諸勢ヲ聚メ此所ニテ可防ト宣フ所ニ。同名兵庫助被申ケルハ。我等ハ何𪜈分別ニアタハス候ト云テ。馬引寄打乘テ行ル丶程ニ。諸卒悉ク退散シケル間。義景五六騎ニテ漸ク府中ニ着玉フ。十五日ニ府中ヲ御立有テ。一乘ヘト急キ玉ヘ𪜈。此二三日馬ヲモ爾々ト不飼カ故ニ。不得歩ヲ。漸引立テ策ヲ打。其日ノ暮程ニ谷ヘソ入セ玉ヒケル。

印牧成生捕被誅事付朝倉彦四郎首之事

而程ニ。元龜四年八月十三日朝倉江州敗軍ノ時。究竟ノ者𪜈打捕テ。信長殿喜悦ノ眉ヲ開キ。則分捕生捕ノ實檢被成ヘシトテ。前波。富田皆降人ヲ呼出テ。名字ヲ被尋ケル。前波案内者ナ

ルカ故ニ。何モ紛所ハナカリケリ。爰ニ印牧彌六左衛門何トカシタリケン。生捕トナリテ引出サレタリ。信長卿是ハ何者ソト問ヒ玉ヘハ。前波是印牧ト申者ニテ候ト答フ。信長殿是ハ聞及ヒタル者ナリ。死罪ヲ免スヘシ。索ヲトキ候ヘト宣フ。印牧聞テ。御赦免先以忝存候。雖然我譜代。朝倉カ家ニ奉公致シ。殊國中奉行ノ其名ヲ汚シタル者ニテ候。蒙御免許ヲ。存命仕共。千年万年ノヨハイヲ保ツヘキニモアラス。万事ハ皆空シ。一生ハ夢ノ中ノタハフレナリ。唯トク〳〵誅シテ給ルヘシト申ス。吉繼聞テ。御諚御僞ハ候ハシ。本領ノ事モ更ニ別儀有間敷候。畏テ忝ト可被申ト云ヘハ。印牧聞テ大ノ眼ヲ見出シ。吉繼ヲハタト睨ミ見苦シ。和殿モ朝倉ニ譜代ノ者ソカシ。殊ニ義景ニ厚恩賞ヲ受シ身ナリ。去年コソ勘氣ヲ蒙リタレ。實人二君ニ使シトコソイヘ。忽ニ其恩顧ヲ忘レテ。今信長殿ニ屬スル事人ニテハ無ソトヨ。唯御恩ニハ一刻モトク首ヲ刎テ可給ト。實ニ身命ヲ不惜申ケレハ。此上ハ不及沙汰トテ。河原ヘ引出シテ切ラントスレハ。其時弓取程ノ者ヲ打捨ニスル法ヤアル。腹ヲ切ラント云テ脇指ヲコフ。卽脇指ヲ出シケレハ。腹十文字ニカキ切。腹ワタヲツカンテ四方ヘナケテ早々トイヘハ。太刀取頓テ頸ヲ打落ス。サスレハ生アル者ハ必滅スル習トハ。唯モ知レ𪜈其期ニ臨テハ迷フ者ナルニアハレ惜シキ侍カナト。印牧カ心中譽ヌ人コソナカリケレ。爰ニ又犬間源藏長吉ト云者。頸一提テ來テ庭ニ置。信長殿是ハ何者ソト問玉ヘハ。前波見テアナムサンヤ。是ハ朝倉同名。童名ハ權守トテ。今年十六歳ニ成候。定テ彦四郎トソ申ラントテ。涙ヲハラ〳〵ト流ス。信長殿近ク持來候ヘト宣ヒ。彼顔ヲツク〳〵ト御覽シテ。サテモ生ヲ替タル面

影サヘ類ヒナシ。マシテ存命ノ時ノ顔イカハカリソヤト。相像リテ哀レナリ。御邊此人ヲ生捕テ來ルナラハ。イカメシキ忠節ナルヘキヲ。無情モ害スルモノカナ。惣テ物ノ哀ヲ不知ハ。唯木石ニ異ナラス。御邊ノ心中頼モシカラス。當座ニ誅スヘケレドモ。時ノ戰功ヲ默止ニ似リ。今日ヨリ對面叶フマシトソ宣ヒケル。古キ語ニ曰。無情者ハ。不知父恩。無情者ハ不知君恩ト云ヘリ。然レハ信長殿此意ヲ以。犬間ヲ勘當被成ケルカト云ヘル人モソ侍ケル。角テ諸侍立寄テ此首ヲ見ルニ。髩ノ匂芬々トメ三春ノ花ヲ一村雨ノ音ツレテ後紅色替リ移リタル姿風ニ順フ海棠ノ眠レル花ノ如ク也。涙ヲ催ヌ人ハナカリケリ。其後信長殿即僧衆ヲ請シテ。近邊ノ鳥部野ニテ葬禮ヲナサレケル。仁義ノ良將ト感セヌ者ハナカリケリ。

義景皈陣并開谷玉フ事

去程ニ。義景十五日ニ舘ヘ入セ玉ヘハ。昔ノ皈陣ニ引替。殿中蕭寂寞トシテ。紅顏花ノ如クナリシ上臈達モ。一朝ノ嵐ニ誘ハルヽ心地。涙ニ袖ヲシホリ。夜ノ殿ニ入セ玉ヒテモ。外ノ居モナシ。寐頭ニ星ヲ烈シ武士老臣モ。滿天ノ雲ニ掩ハレテ。參スル人獨モナカリケレハ。世上ノ事何トカ成ヌラント。尋聞カルヘキ便モナシ。抑我身ノ上何事ナレハ。是程迄ニ佛神ニモ放サレテ淺マシカリツル浮身ナルカト。前業ノ程モツタナク想像。只世ノ中何ニツケテモ憑ミスクナク思フ所ニ。式部太輔鳥居高橋參リケレハ。宣ヒケルハ。我運命既ニ盡テ此躰ニ成事是全ク戰ノツタナキ所ニ非ス。天我ヲ亡セリ。而レハ明日信長寄來ラハ。懸人屍ヲ軍門ニ曝シ。恨ヲ再生ニ報スヘシトテ。越前ノ重器ヲ取集テ。燒ステントシ玉フ。又愛王殿トテ。今年四歲ニ成玉フ最愛ノ一子ヲ呼出シ玉ヒテ。膝

ノ上ニ置。汝未幼稚ナレハ。我ニ死シヲクレテ。敵ニ生虜ラレテウキ目ヲ見ン事モ心ウカルヘシ。若又我敵ノ爲ニ生虜ラレテ。我汝ヨリ先ニタヽハ。生前ノ思忍難シ。然レハ汝ヲ先タテ。心安思置。明日ノ軍ニ討死シテ。九泉ノ苔ノ下。三途ノ露ノ底マテモ。父子ノ恩愛ヲ捨シト思フトテ。左ノ袖ニ涙ヲ拭ヒ。右ノ手ニ刀ヲ提テ子息ノ自害ヲ進メ玉フ。時ニ鳥居前ニ進出テ申ケルハ。生ヲ全クシテ命ヲ待事ハ。遠シテカタク。死ヲ輕クシテ節ニ臨ム事ハ近シテ安シ。先暫ク御家ノ重器ヲ燒捨スシテ。御曹司ヲ殺コトヲ留メ玉ヘ。何方ニテモ可然節所ヘ御除有テ。敗軍ノ士卒ヲ集メラレ。一合戰被成候ヘト申ケレハ。義景道理トヤ思ハレケン。去ハ加州ヲ後ニシテ。豐原寺ヘ除候ヘシト。宣ヒケルヲ。式部太輔申サレケルハ。只大野郡ヘ御除候ヘ。彼處ハ山中深メ。平泉寺味方申程ナラハ。

信長勢モ暫ク攻亡シ候マシト。宣ケル程ニ。向後ノ事ハ何事モ。式部太輔ニ任スヘシト宣テ。同八月十六日ニ。大野郡ヘ退キ玉フヘキニ定リケレハ。谷中老若貴賤泣悲。上ヘ下ヘ捫搽シ。皮籠。櫃ヲカツキ。子ヲサカサマニ負ヒ。手ヲ引腰ヲ押テ。右往左往ニ走行。東西南北ニ馳走シ。逃行有樣目モアラレス。周章スル事詞モ更ニヲヨハレス。爰ニ桑山淸左衛門入道トテ。老者有。向女房申ケルハ。我事ノ樣ヲ案スルニ。朝倉當國ヲ治テ。今五代ニ至テ安全也。天滿ルヲカケル理ナリ。某不肖ノ身ナリトイヘモ。武恩ヲ蒙テ。已ニ八十ニ餘レリ。今ヨリ後長生シテ。武運ノ傾ン事ヲ見ンモ老後ノ恨ミ。ナカラヘタリモ。指タル思出モナキ身。憖イニ始終ノ恥モ成ヌヘシ。和シヤウイサヽセ玉ヘトテ。我老女ト。又七歲ニ成男子ヲ指殺シテ。腹カキ切テ其マヽ谷川ヘソ飛入ケリ。哀ナリ

ケル所存ナリ。抑此一乗ノ谷ト申ハ。文明三年ニ朝倉英林宗雄居士。當國ヲ討捕玉シ以來一百余年靜謐シケル所ナレハ。金銀珠玉ハ不及申。種々ノ綸貲財寶充滿シテ。青蚨幾万貫ト云事ヲ不知。藏ノ中ニ有ト聞ヘケルヲ打捨テ。出サセ玉ヒケル。御心ノ中推量ラレテ哀ナリ。去ハ古語曰。上主ハ以賢爲寶。以珠玉不爲寶ト。珠玉多ケレハ生災。積而能散スヘシト云ヘリ。實ナル哉。貴賤然モ御内外樣衆モ。悉ク退散シケル程ニ。僅ニ大野ヘ御供ノ人々ニハ。櫻井新左衛門。平井三位父子三人。樂山小五郎。藤田忠左衛門。加藤新三郎。鳥居兵庫助。高橋新助。山内七郎左衛門父子。借ハ式部太輔ナリ。御曹司ハ一刻計先ニ御出アル。伴衆ニハ小河父子。半田宗兵衛尉父子三人。小川六郎左衛門。今藤源三郎。御乳人道藤兵部少輔。同太三郎。九津見淸右衛門尉。西山ノ信眞勝計召具セリ。廣德院殿ノ御伴ニハ。窪田新右衛門尉。中村平五郎。石來民部丞。上田五郎左衛門尉。嶋津此人々計也。同十六日巳刻ニ舘ヲ御出有。何クヲサシテ行水ノホウキノ川ノウキ流レ。カヘラヌ人ノウチツヽク。急計ヤ市波ノ里打過テ。コハ清水落ヌル意ハ淺谷ノイマソ命ノ堺寺。大宮過テスコ〳〵ト。ウキメニカヽル權衡石坂ノ峠モ打越テ。余所ニ見ンモ今ハ只。イヤ耻敷鏡山。クモリテ見ヘヌ狗山ヤ。ヨウロノ村ヲ近ク見テ、心靜ニ居山ノ。東雲寺ニ。夜ノ戌ノ刻計ニソ着玉ヒケル。先平泉寺ノ大衆ノ意ヲ窺ヒ。御ランセラルヘキ爲ニ。書狀ヲソ送ラレケル。

態以一札令啓達候。仍於江州北表。度合戰候所。不慮之外當方士卒令敗北之條。至此郡聚殘黨。重而可勵一戰。然者貴寺一統而廻籌策。被抽忠功者。宜依恩賞望者也。誠惶謹言。

元龜四年八月十七日
朝倉左衛門督
　義景
平泉寺
　衆徒中

如此書狀ニ。黄金名筆ノ繪賛相ソヘ被遣ケリ。然ハ則一山大衆爲僉議曰。此條如何アルヘキ篇目ソヤ。義景可被成同心事最以本意也。數年國主ノ忘恩顧。致別心天ノ照覽難量リ。雖然義景ニ同心有ナラハ。信長明日ニモ攻寄可有破却ト。思案半ノ所ニ。若大衆申ケルハ。義景是程マテ運盡ハテ玉ヒケル間。二度世ヲ開ク事難有。後日ノ沙汰ニモ及フヘカラス。急キ各打立テ。義景ノ御陣所ノ近邊ヲ放火シテ。信長殿ト同心ノ驗ヲ見セ玉ヘト。無情ソ申サル。此儀最ナリトテ。使者未皈ニ大衆打立テ。近里ヲ放火セリ。斯リケル所ニ。式部太輔景鏡ヨリ。平泉寺ヘ使者ヲ立。前々對義景意恨有之條。屬敵ニ滿山速ニ景鏡ニ可成御同心ト云云。

一乘谷中放火之事

斯ル所ニ十八日ヨリ廿日ニ至テ。一乘ノ谷中屋形ヲ始トシテ。館々家々佛閣僧坊一宇モ不殘放火シテ。灰燼ト成テ後其跡ヲ見ルニ。家ヲ守ル雞犬悉ク飛失テ。寒鴉閃々トシテ前山ニ去リ。名ノミ殘レル狗ノ馬場。春風暗々。剪庭前樹根副殘ラヌ柳ノ馬場路ハ草葉ノ打茂リ。門ノ板橋取放シ。鐘ノ響モ絶果ヌ。去テ又篠ノ小篠ヲ分入テ見レハ。古蘿ノ間猿猴ノ間。數寄ノ座敷ノ跡ヤラン。草花々トシテ荊棘芝蘭ノ茂リ合ヒ。郊原寂寞トシテ。ソコトモ知ヌ傍ラニ。奇巖奇石峙テ。細雨斜ニフリ洒キ。回祿ノ餘烟ハ塚ニ殘リ。園ノ樹モ春ヲ忘ルヽ風情ニテ。色香モ見エヌ梅カ枝。南殿ノ花ニ醉ヌル（マヽ）輩。花ハ春毎匂ヘトモ。其人ハ不見。東樓ニ嘲月

ヲ八月ト秋トハ來レ𪜈。身ハ何方ヘ去ヌラン。愍哉。譬ヘハ呉王滅テ後姑蘇臺ノ露瀼々タリ。秦皇空去テ咸陽宮ノ煙片々タリ。誠ニ目前ニカヽル不思義見ル事ヨトテ。何ナル賤士賤女マテモ。袖ヲシホリケルトカヤ。先年義昭將軍御成アリ。南陽寺ノ糸櫻ヲ御覧セラレ。御歌ヲ被遊ケル。

諸𪜈ニ月モ忘ルナ糸櫻年ノ緒ナカキ契ト思ハヽ

ト詠玉ヘハ。義景。

君カ代ノ時ニ相逢糸櫻イトモカシコシ今日ノ言葉

ト申サレケル事マテモ。昔語トハヤ成テ。南陽寺モ亡失テ。糸櫻副切盡シテ今ハナシ。朝夕門外ニ。紅徃紫來連袖勝遊シ。春秋ノ床頭ニ詠花醉月ニ歌舞ヲセシ。恩愛ノ昔ノ朋顔花忽ニ盡テ。何ノ所ニカ去リヌ。酒宴榮樂ノ皷ノ聲ハ。松風ノ音トナリ。宮殿樓閣ハ只邯鄲ノ一炊ノ夢ト醒テ。跡モナシ。戀ヘ𪜈願𪜈甲斐モナク。野ノ蛩ス音ヲノミ獨啼キアカシケリ。

信長殿越前府中ェ御着陣之事

而ル程ニ。魚住備後守景固者。江州中ノ河内口ノ敵ノ押勢ノ爲ニ。義景府中表ニ被置ケルカ。忽ニ心違シ。敵ニ属シテ嫡男彦三郎ヲ敦賀ヘ遣シ。信長殿ニ申ケルハ。義景ハ此十六日ニ人數二三十計ニテ。大野郡ヘ被落候。式部大輔モ不致同心。平泉寺ノ大衆モ一味不仕。左樣ニ候ヘハ。國中ニ御敵一人モ無御座候。急先府中表ヘ可被成御進發トソ申ケル。依之信長殿同八月十九日府中ヘ着陣アリ。其粧ヒ天ヲ響シ地ヲ動シ。大軍催シ來ル有樣古今無双ノ御威勢。前代未聞ノ見物ナリ。眞前ニ足輕大將羽柴 柴田。三千余騎馬ヲ静テ馳來ルカ。近邊ノ在家一間ニテモ放火セス。里人一人ニテモ不誅。誠ニ

聞シニ替タル有道成ケリ。其次ニ御大將信長殿五千余騎打聞テソ御通アル。去バ又諸大名吾モ〳〵ト。二千三千騎駒ヲハヤメテ馳來ラル。府中廣シトイヘモ居餘テ。近里近郷ニ在陣ヲ不取所ハナカリケリ。

於大野義景傷害被成事

斯ル所ニ。同十九日ニ式部太輔以使者義景ニ被申ケルハ。今ノ御陣所東雲寺ハ。我等カ陣所ト程遠候間。六坊エ御座有ヘシ。何事モ心靜ニ可申談ト被申ケル間。酉ノ刻ニ六坊ヘ移リ玉フ。其時マテ有合伴ノ人々ハ。小河三郎左衛門父子。同六郎左衛門尉。加藤新三郎。去テ廣德院若上御曹司ノ伴ニハ。御乳人齋藤兵部少輔。今藤源三郎。九津見淸右衛門尉。西山僧眞勝此等計也。角テ六坊ニ移リ玉ヒ。母上若諸トモニ旅泊ノサヒシサ。茅屋ノ月ニ左遷ハセ玉ヒ。行末今ノ事ヲ思召連テ。イツクヲ賴ノ有世モナク。明ヌ夜ノ心迷ノミ思テ。露ノ命惜クハンヘルモ。アノ愛王カセメテ十歲ニナルヲ不見シテ。明日ムナシク成ラン事ノ口惜サヨト宣テ。臥沈ミ玉フ。亦母儀ハ義景ノ御事御曹司ノ事想ヒヤリ玉ヒテ。御詞モ及ハテハ。中々謂出サセ玉フ一節モナシ。只御淚ニノミ搔暮テ。秋ノ夜ノ千夜ヲ一夜ニ准フルモ。猶詞ハ殘リ明ヌヘシ。世ヲウキ舟ノヨルヘナク。波爰モトニ立來ル心地シテ。泪落ルトモ覺ヌニ。枕ハウキヌ計ナリ。サナキタニ旅寢ハ誰モ悲ニ。明日ヲ期セヌ御命ナレハ。女房達モケニ御理ニテ候トテ。皆々袖ヲソシホラレケル。夜モ明方ニ成ヌレハ。外山ニ鹿ノ鳴聲聞ヘケレハ。景近聞テ。

コトハリヤイカテカ鹿モナカサラン今宵計
ノ命ト思ヘハ

ト申ケリ。高橋聞テトリアヘス。

秋風ニアフタノミコソ悲シケレ吾身空ク成

ヌト思ヘハ
ト申也。義景聞玉ヒテ。何モ古歌ナリト覺タリ。時ノ取合神妙ナリト宣ヒケル。斯ル所ニ。明レハ廿日ニ式部太輔二百余騎ヲ率シテ。六坊ヘ推寄テ鬨ヲ喚トツクリ。鉄炮ヲシキリ放シテ。御運ハ今ハ是マテナリ。急キ御腹召レ候ヘト被申ケレハ。義景ニクキ景鏡カ働カナ。我唯今相果ツト云𪜈。惡靈惡鬼トナリ。三年ノ内ニ父子𪜈ニ害スヘシトソ宣ヒケル。既軍兵緊シク攻入ケレハ。各一防キフセキ候ヘトテ。靜ニ祈念アリ。硯ヤアルト宣ヒテ。疊紙ヲ取出シテ辭世ノ語ニ曰。

七顚八倒四十年中無他無自四大本空

ト書。同廿日酉ノ刻計ニ刀ヲ弓手ノ脇ニツキ立テ。妻手ヘ引廻シ。又胸本ニツキ立テ。臍ヨリ下ヘ切サケテ。高橋ハナキカハヤ〳〵頸ヲ打ト宣ヒケレ𪜈。介錯人ナカリケレハ。加藤新三郎家ニ火ヲカケヨト仰ケレ𪜈。不來レハ自身蠟燭ヲ取テ。彼方此方ニ火ヲツケ玉ヘ𪜈。緋ノ血瀧ノ如クニ流レ落レハ。氣色モ次第ニヨハリ玉ヒテ。サラニツカサリケリ。漸クアリテ。高橋來テ御頸ヲソ打奉リケル。生年四十一歳。哀ト申モ余リアリ。サレハ五更ニ灯消テ」破窓ノ雨ニ向ヒ。海中ニ舟ヲ覆テ一壺ノ浪ニ漂カコトシ。卽御首ヲ式部太輔ニ渡シテ。頓テ高橋モ自害シタリケリ。鳥居モ續テ腹ヲ切ラント思ヒケルカ。式部太輔ヲ一刀ウラミハヤト思テ出ケルカ。兵折合テ。卽時ニ討捕ケリ。角テ廣徳院殿義景ノ御自害ヲ御覽シテ。ワラハモ何迄ナカラヘ候ヘキトテ。袷ヲカタヌカセ玉ヒ。守刀ヲヌキテ。既ニ腹ニツキタテントシ玉ヒケルヲ。御乳人女房達袖ヤ御手ニスカリツキ申ケルハ。御屋形樣コソ空ク成玉フ𪜈御曹司御料人達ノ行末ヲモ御覽シハテヨカシ

餘リニ御心ヨハク御入候ト申サレケレハ。袖ヲ顔ニ押當テ。其儘倒臥テ消入玉フ。女房達樣々ニ妎妁シテ。水ナト御口ニ洒キ。養生シケレハ。纔ニ目計モテアケ玉ヒケリ。然ル所ニ式部太輔又來テ。御曹司廣徳院若上ヲ生捕テ。居山ノ城ニ籠玉フ。其時マテ付纏ヒマイラセシ人々ニハ齋藤兵部少輔。九津見清右衛門尉眞勝。小河三郎左衛門尉父子。此者ハ御曹司ヲ遁シ申サシトテ。景鏡ヨリ目ツケニ居タリトソ聞ヘケリ。各上臈達昨日一昨日ヨリ供御モ參ラサリケルヲ。九津見甲斐々敷。傍ノ在家へ行テ。粟ノ飯。橡ノ餅ナントヲ求來テ參ラセケリ。明レハ廿一日。西南ノ口ヨリ信長殿勢羽柴藤吉郎。稻葉伊與守。柴田。安藤。丹羽已下都合五千餘騎。前波九郎兵衛尉先陣ニテ寄來ル。北ノ口ノ大將ニハ。魚住備後守。平泉寺ノ大衆ヲ引率シテ。都合六千餘騎ニテ推寄テ。式部太輔楯籠ル居山ノ城ヲ取卷テ。晝夜緊ク責ニケル。斯ル所ニ。小河三郎左衛門尉前波馳走シテ。和談ノ扱ヲナス。此時尾張衆申ケルハ。義景ノ事ハ信長モ助ケ申ヘシト。被仰候ツル所ニ。式部太輔私トシテ。總領ヲ討無所存ノ仁ナリ。唯攻亡シ候ヘトテ下知ス。而ルニ羽柴藤吉郎被申ケルハ。既ニ義景ヲ打捕被出ケル間。忠節ニテアリ。忠ノ者ヲ殺スナラハ。後誰カ降參スヘキヤ。各御除候ヘト被申ケル程ニ。和融ノ御曹司廣徳院ヲ敵ニ渡シケレハ。濃州ノ足輕𪜈上臈達ノ十二單ヲ剝取。御曹司ヲアヤシキ薦席ノ上ニ置ケルヲ。美濃尾張衆是ヲ見テ。義景ノ時ナラハカリソメニモカヘル所ニ置被申ヘキヤ。アノ貌目ノ見ハリ唯人ノ子𪜈不見。イマタ十歳ニモナラセ玉ハサルニ。此有樣ノイタハシサヨト云テ。健キ武士𪜈モ鎧ノ袖ヲソ濡シケル。サテ廣徳院若上ヲ前波請取破レタル絺

ヤフレタル笠ヲキセ。駒ニ乘セ。御曹司ヲハ乳人ニ懷セテ。白晝ニ府中ヘ入玉フ。貴殘男女衢ニ立並テ。是ハ何ナル御有樣ソヤト。人目モ不知泣悲事。只般湯夏臺ニ囚レ。越王會稽山ニ降セシ。昔ノ夢ニモ不異。同八月廿六日ニ。丹羽五郎左衞門長秀警固シテ。今城ノ近邊皈ノ里ノ堂ニテ。廣德院御曹司ヲモ指殺メ。卽彼堂ニ火ヲ懸ケルトナリ。爰ニ又義景ノ頸ヲ籠ニ入テ。羽柴。安藤。足輕持來テ。府中ニテ則實撿アリ。暫ク足付ノ臺ニ居置。諸人軍兵ニ被爲見。（後脱カ）二三日以後京都ニ登セ。獄門ニカケラレ。其濃州岐阜ニ懸置ケルカ。八月ヨリ十二月ニイタルマテ。此首少モ爛壞セス。顏色麗ク兩眼ヲ開テ。鮮ヤカナリトソ聞エケル。

信長殿ヱ越前國貴賤禮ニ出ル事

去程ニ。信長殿朝倉義景ヲ誅戮シ。越前ノ國一同不日ニ御手ニ屬スル間。國中武士僧俗朝倉同名衆ニ至マテ。一人モ不選赦免アリケル程ニ。吾先ニト禮出テ。大名高家手ヲ束子。膝ヲ屈シ。首ヲ地ニ不着ト云者ナシ。多日付隨ヒテ。忠ヲ憑ム人タニモ如此。况ヤ昨今マテ義景カ恩顧ニ順テ。有ツル者モ生甲斐ナキ命ヲ繼ン爲ニ。所緣ニ屬シ。降人ニ成テ肥馬ノ前ニ塵ヲ取。高門ノ外ニ地ヲ拂テモ。己カ咎ヲ補ハント思ヘル心根ナレハ。今浮世ノ耻ヲ捨テ。徘徊セリ。淺猿カリシ振舞也。同廿四日ニ。式部太輔景鏡禮ニ被出ケレハ。小性衆被申ケルハ。一家ノ總領ヲ殺ス不覺仁ナリトテ。手ヲ打笑ヒケルトソ聞エケル。大方國中成敗已下前波九郎兵衞尉。瀧川。明智。木下助左衞門尉ニ被申付。信長ハ同八月廿六日江州北表ヘ歸陣被成ト云云時日ヲ不移。淺井長政カ城ヘ取懸。四面ヲ取卷。二三日息ヲモ不繼責ケル間。先父下野守カ城ヲ落メ。同九月朔日ニ傷害ス。次ノ日備前

守城ヲ攻ル所ニ。足弱衆ヲ出シテ可給ト申ケル間。子細ニ不及トテ出ス。長政女房𪜈ニマキレ出テ。則打捕レケルトソ聞ヘケル。角テ城中ニ楯籠ル輩。淺井同名衆ヲ。或ハ誅伐シ。或ハ自害スル人々凡三百余人刹那ノ間ニ相果テケリ。然ハ則江州北表モ不日ニ一遍ニ信長殿ニ屬シケル程ニ。羽柴藤吉郎ヲ淺井跡ノ城ニ居置テ。淺井父子ノ頸ヲ阜岐ニ懸ラレケルトナリ。

福岡ニ義景息女二人預ケラルル事

同八月十六日ニ義景大野ヘ退玉ヒシ時。福岡石見守ニ宣ヒケルハ。汝モ大野ヘツレテ行ヘケレ𪜈。思子細アリ。御邊ニ二人ノ妃預クヘシ。何ナル山林ニモ隱シ置キ。此世靜リナハ姉ヲハ比丘尼ニナシ。喝食ヲハイカニモシテ大坂ヘ遣スヘシ。前々契約ニテアル間。ヨモイナトハ申サレシトコソ思ヘ。御邊此事ヲ不違ハ。草ノ陰苔ノ下ニテモウレシク思ヘケレト。涙ヲ袖ニカケテ宣ヒケル。福岡申ケルハ。我累代奉公致シ。加樣ノ折節付纏ヒ參テ。前途ニ罷立テコソ。勇士ノ本望ニテ御座候ヘ。二人ノ御料人達ヲアツカリ申シ。事難儀ノ計略ニテ候ヘ𪜈。御諚默止申ヘキニアラストテ。則二人ノ息女ヲ引具シテ。急我宿所ニ立カヘリ。女房ニ角ト知ラスナラハ。吾モトモニ連テ行ント云ナラハ。大勢忍カタカルヘシト思テ。只歌一首書置テ。涙ト𪜈ニ出ニケル。

今日出テ廻リアハスハ小車ノ此輪ノ中ニナシト知レ君

ト計ニテ。二人ノ息女ヲ馬ニ乘セ。我モノリテ仲間二三人連テ。豐原寺ヘト志テソ急キケル。然ル所ニ板藏村ノ邊ヲ。屹ト見レハ。何カハ不知。二三十人計ヒカヘタリ。駒ヲ靜テ行處ニ。大長刀打カタケ走リヨリテ。是ハ誰人ニテ御

入候ソト問。福岡アリノマヽニ。是屋形ノ御料人達ナリ。豐原寺ヘ御供申候。路次ノ警固シテ通シ申セト云リ。サテ殿ハ誰ニテ御入候ト云。是ハ福岡石見守ト云ヘハ。サテハ福岡殿ニテマシマスカ其人ナラハエコソ通シ申マシケレ。先年鳴鹿ノ村ノ村人ト。公事ノ時。其方彼等カ奏者シテ。我理運ノ中ヲ負サセ玉ヒツルナリ。何ナル折節モカナ。還テ禮申サント存ツルニ參リ合事幸ナリ。此村ニ人ハナキカ。急キ出テ狂藉ノ人ヲ討留メヨト呼リケルカ。先御料人ノ馬二疋ナカラ吾家ニ引入ニケル。角テ村人百四五十人計喚キ呼テ攻懸ル。福岡今ハ遁ヌ所ナリト思ヒ。下人ニ持セタル長刀ヲツトリ。大勢ノ中ヘワツテ入。東西ニ懸破リ。南北ニ追返ツ。半時計戰テ。卽此所ニテ相果ケリ。其後御料人達ハ。兎狢ノ里ノ犬ヲ恐ル如クニテ。彼方此方ノ山陰。岩ノハサマニ隱レ。忍歩玉ヘルカ。御乳人ハ野尻治部左衞門尉母ナル故ニ。彼所ニ立寄セ玉ヒテ。其ヨリ本郷ノ山寺ニ期須(マヽ)隱シ置テ。賀州ヘ越ヘ玉ヒケルヲ。河合ノ郷ノ八杉喜兵衞ト云者具メ。御喝食ヲ大坂ヘノホセ申ケリ。今ノ門跡ノ后婦ハ義景ノ息女ニテ爲渡給ヒケルトナリ。サレハ元龜四年八月二十日義景失玉ヘハ。播磨ハ明ル正月廿日滅亡シ。魚住ハ同廿四日ニ富田ニ被誅。富田彌六ハ。同二月十八日ニ。長泉寺山ニテ一揆ニ亡サレヌ。式部太輔ハ四月十五日。土民ノ手ニ懸テ。村岡山ニテ討死シ玉フ。去年ヨリ義景ニ對シテ。讎ヲナス同名被官。悉皆目前ニ亡失ケリ。誠ニ不思儀ナル天罰トソ覺ヘケル。

續群書類從卷第六百三十四下

合戰部六十四

越州軍記下目錄

越前江州守護代々之事

夫身ヲ覩スレハ。岸ノ額ニ根ヲハナル、草。命ヲ論スレハ。江ノホトリニ不繫船。然ハ恩愛セシ昔ノ友。別レテ更ニ不見。飛陽ノ夕ノ神イ去テ亦何方ニ行ン。誠ニ是有ニモアラヌ浮世也ケリト。云云。斯リケル處ニ。八月下旬ニ。元龜ノ年號改元アリテ。天正ニナサル。然ハ天正元年九月二日ニ。淺井久政。長政父子傷害シテ後。信長江州越州兩國ヲ打捕玉ヒテ。江州北郡ノ守護代ニ。羽柴藤吉郎ヲ居置。越州ノ守護職ニ前波九郎兵衛吉繼ヲ置テ。一乘ノ谷義景ノ舘ニ居住セリ。然間國中ノ武士僧俗禮ニ出ル事。門前ニ市ヲナセリ。亦北庄土佐守舘ニ三人衆ト號而。木下助左衛門尉。明智十兵衛尉。津田九郎次郎ト云者ヲ置テ。國中武士寺庵之知行百石ニ。黄金八兩宛掛テ被取ケル。八兩ト云𪜈。十兩ニアマリテ掛ル間。黄金所持ノ人ハ稀ナルカ故ニ。或ハ家内雑具家ヲ賣リ。或ハ絹布太刀刀ヲ立物ニ遣シ。東西ニ馳走而。息ヲモスヘキ樣ナカリケル。同十一月中旬ニ。信長上洛有之。然ハ越前ノ武士衆モ皆在京アリ。其人々ニハ。朝倉式部太輔。同七郎。同孫三郎。同出雲守。溝江大炊允。前波播磨守。其外諸侍𪜈我モ〳〵ト上洛ス。同十一月下旬ニ。信長卿越前衆ノ朝飯アリ。其時皆名字ヲソ替ラレケリ。朝倉七郎ハ織田同名ニナラル。式部太輔ハ土橋ニナラル。孫三郎景健ハ安居ニナラル。前波ハ桂田播磨守長俊ニナル。時ニ至テ持參ノ金銀。繪贊。卷物。絹。綿。太刀。刀。何モ數ヲ盡シテ擎ケケル。中ニモ播磨守ハ越州守護職トシテ。義景藏納諸國所ヲ給フカ故ニ。進物目ヲ驚ス計ナリ。先上洛ノ綿ヲイクラト云數ヲ知ラス。十二間ノ遠侍ニ天井ヲセメテ積上タレハ。遠山ニ深雪ノ降リ懸ルカ如ク。サテ詞ニ云。侍衆ニ各

御所望ニ隨テ取玉ヘト云程ニ。我モ〳〵ト取ラル。後ニハ奪取ラント爭。其躰相撲ノ場ノ風情ナリ。信長興ニ乘シテ。地ヲ扣テ播磨守カ智畧奇特ナリト怡悦アル。角テ景鏡。景健ニハ。本領無相違出シ玉フ。魚住ニ丹生郡溝江大炊允ニハ。本領ノ上ニ朝倉土佐守分ヲ出サル。爰ニ富田彌六。同三月中旬ニ。信長伊勢嶋ヲ責ラレケル時。無比類高名仕。先度ニ立ケル間。越前ノ守護ニナルカ。不然ハ半國モ可爲知行ト。内々思所ニ。左マテノ恩賞モ無之故ニ。心中ニ挿欝憤ヲ所ニ。今度播磨守上洛而。富田カ身上與力ノ毛屋。増井カ知行モ過分ニ候トテ押之。富田モ府中ニ居住仕候事。御無益ノ由訴訟仕。奉書ヲ京都ヨリ下シケリ。去ハ古語ニ曰。事ヲトケンニハ不勇シテ万事ヲトカメサレトアリ。長俊カ短智ノ至カナト云ヘリ。然ハ此播磨守ハ。朝倉カ譜代ノ者ナリシカ。先年江州合戰場ニテ。信長卿ヘ馳參シケル。其忠節ニヨリ。越前ノ守護代ニナサレケル程ニ。昨今マテ我ヨリ上タル侍郎等ノコトクニソ使ケル故ニ。朝暮人々花ノ袖ヲ重ネ。紅色ノ袂ヲ連テ夙ニ出テ我ヲトラシト出仕シ。如何ニモシテ其面ニマミヘ。詞ニカヽラハヤト。老若腰ヲ倭メ首ヲ地ニ付テ。畏ル輩小縁ナラス。近里遠郷ノ僧俗禮ノ爲訴訟ノ望ニ。集來ル行人征馬不斜見ニケル。然則彼類葉タル者ハ。奉行探題トナツテ所知ヲ重テ領納シケル間。晝ハ銀鞍ヲ不疲。驊騮馬ニ鵜鷹逍遙ニ夕日ノ移ルヲ忘レ。夜ハ玉盃ヲ靜ニ携テ求好友。歌舞遊興ニ天日ノ明ルヲ不知。名家高位ノ族モ座席ニ列リ。附驥尾ニコトヲ譽トス。喜悦ノ思ヲナセリ。誠ニ果報ノ至リカナトウラヤマヌ人ソナカリケリ。カヽル榮花榮耀モ唯是一炊ノ夢トハ。誰モ白雲ノウヘ人トナルソ不思儀ナル。然ハ富田彌

六猶偏執ノ心日々ニマサリ。桂田ヲ可亡企有トソ風聞スル。去共蟷螂ハ蟬ヲ窺ヘハ。野鳥蟷螂ヲ窺ト云。莊子カ人間ノ喩ヘ。實ニモトソ思ヒ知ラレダリ。

富田彌六桂田ヲ退治之事

去程ニ。天正元年十二月下旬ニ。桂田京都ヨリ下向仕ケルカ。俄ニ大國ノ守護ニナル間。果報ニマケヽルニヤ。路次ヨリ目ヲ煩ヒシカ。忽ニ兩眼シヒテ。日月ノ光ヲ不見。晤夜ニ灯ヲ失フカコトク。是則神明ノ御罸ナリトソ云ヘリ。斯ル所ニ。富田內々國中ノ一揆ヲ引起スヘキ廻籌策ヲ。又播磨守ト中ノ惡敷友カラヲ語ヒテケリ。同二年正月十八日ニ。志伊庄中郡ノ一揆蜂起シテ。所々騷動スル事不斜。同十九日一乘ノ上口下口二手ニ分ケテソ推寄ケル。下口ニハ。大野ノ者モ其外志伊ノ庄。坂北本鄉。粟三鄉ノ者弓箭刀杖ヲ帶シテ。都合三万三千余人。

蜻蜓蜉蝣ノ馬ノ五歲ナルニ乘ツレテ。幻花ノ詣ノ形像ヲ出スカ如クニシテ。下ノ木戶口ヘソ攻寄ケル。上口ノ大將富田カ其日ノ出立。殊ニ勝レテ太多ソ見ヘニケリ。蝸牛ノ角ノ鍬形ウツタルニ。三枚シコロノ甲ノ緖ヲシメ蜘蛛ノヲノ鎧ヲ着。虱子ノ皮ノ双ノ小手ニ。海月ノ骨ヲ磨立テ。輝計ノ袖ヲ付。蟾蜍ノ尾ノ氷ノ如クナル三尺五寸。イカモノ作ノ太刀ヲ佩。蚯蚓ノ皮ノ臑當シテ。雷電ノ光ノ如クナルコソリハノ長刀ヲ指莊シ。紅霓ノ旗ヲサヽセ。蜚蚤ノ小栗毛ノ馬ニ。貝鞍置テユラリト乘リ。飛カ如ニ懸出ル。其次ニ。毛屋增井雨夜冑施頭笠半頰當シテ。胴丸ノ具足ヲ着テ。物ノ具ヲクツロケ。鎧ツキヲシテ寄來ル。此人々ヲ始トシテ。府中表近鄉ノ一揆。都合十八万八千余騎。我ヲトラシトソ馳來ル。爰ニ亦桂田播磨守カ出立。時ニ取テ珍敷ソ見ヘニケル。朝顏ノ花色緘ノ

鎧ノ巳刻計ニ輝クヲ着。如露如電ノ中ニ。兎角ノ鍬形打。泡影夢幻ノ双ノ籠手。天火稲妻ノ影ノ如クナル。三尺三寸ノ太刀佩テ。紅爐焰中ノ如クナル。二尺五寸ノ腰刀ニ。九寸五分ノ鎧通ノ。雪炭ノ如ナル脇指ヲサスマヽニ。蟭螟ノ馬ノ太ク逞ニ打乗テ。上ノ木戸口ノ幻城表へ懸出テ。四方ノ士卒ヲ下知スル有様ハ。漢ノ高祖項羽ノ勢モ是ニハ過シト見ヘニケリ。然ニ長俊駒打寄テ。虎口ノ躰ヲ問ハ。小林ハ木戸口ヨリ外ノ山キワニ。二百騎計ニテ啓ヘタリ。長俊使者ヲツカワシテ。何トテ小林殿ハソレニ御入候ソ。柵ヨリ内へ來リ候ヘト云。小林聞テ。左候。此所ニ有テ。木戸ニ付敵ヲ横箭ニ射候ヘシト申ス程ニ。最ト云。又下ノ木戸口ニハ。小河黨其外寄合衆ナルカ故ニ。無覺束思テ。駒引返ス所ニ。富田勢増井毛屋猪助五六百人木戸ヲ破却シテ。一度ニ跋ト攻入程ニ。內ナル軍兵モ一支モ不支シテサツト崩レケリ。哀ナルカナ。長俊心ハ切ナリト云ヘモ。日ハ不見。敵ハ弓手ニアレハ。妻手ヲ拂ヒ。南ヨリ攻カクレハ北ヲ打拂ヒ。アキレハテタル有様ナリ。斯リケル所ニ。軍勢攻寄テ。馬ヨリ既ニ突落シテ。ハヤ頭（頭カ）ヲソ取ニケル。同正月廿日ノ朝ノ霜トソ消ニケル。爰ニ桂田玄蕃丞ハ。落行所ヲ生捕テ。頓テ御之馬場ニテ首ヲソ刎ラレケル。其小河黨上林源助。此間武恩ニホコル者モ。片時ノ間ニ滅亡ス。長俊息新七郎女房母諸モニ後嶺ノ御雪ヲシノキ。三万谷ト云所へ落行ケルヲ。翌日在所ノ一揆等。一二人シテ同指殺シケルト也。何者カシタリケン。

　ウヘモナクノホリ〳〵テ半天ノ滿レハカク
　　ル月ノ桂田

　桂田ノミノリモアヘスルイチマテ稲妻ノ間
　　ニホクヒ切ケル

トソ詠シケル。サレハ播磨守一人ニカキラス。我モ人モ不與福ヲ賴ミ。浮雲ノ如ナル富貴ニフケリ。泡影ノ如クナル財寶ヲアツメ。此身ヲ養ントテ。貪欲ニ纒縛セラレテ。心意ヲコカシ。石火ノ間ノ浮世ヲ。千年万年ト思ヒ。惡事ヲ作リ。來世必惡趣ニ墮セン事ノ淺增サヨ。世既ニ澆季ニ及ト云ヘトモ。日月ハ地ニ墮玉ハス。其淸光ノ御座アランカキリハ。佛神ノ冥慮是アルヘキカ。唯人ハ佛神ヲ崇メ。信心肝要ナリトソ覺ヘケル。同正月廿一日ニ。一揆等北庄ノ奉行信長御內ニ。三人衆ノ栖籠ル舘ヘ推寄攻ケル所ニ。城中ヨリ鉄炮箭シキリニ射出ス間。寄手タマラスサツト退ク所ニ。景健同孫三郎景胤搦手ヨリ指向ヒケルヲ。中人和談ノ扱ヒヲナシ。三人衆ヲ事ユヘナク出シテ。濃州ヘソ送ラレケル。

富田越前國ヲ討捕威勢ヲ振シ事

而程ニ。此世ノ中ノ有樣ヲ見聞ニ。過去因果經ノ說ノ如シ。殺報々殺ノ因。譬ハ車輪ノ如シ。我人ヲ失ハ。彼又我ヲ害スト云ヘリ。誠ニ此儀ヲ不辨シテ。鬪諍死亡ニ及事墓ナサヨ。同正月廿日富田彌六。桂田播磨守一族類葉ヲ悉ク誅罰シテ。國中ニ勇猛ヲ逞クスル事。大風ノ草木ヲ靡スカ如シ。依之諸侍モ我先々々ト府中ヘ馳上ル事太多シ。誠ニ佳運ノ頁將哉ト云ハサル人モナカリケル。斯ル所ニ不思儀ノ惡事出來セリ。是偏ニ長秀カ滅亡スヘキ企ナリ。其儀如何トナレハ。魚住備後守ハ朝倉時ノ奉行ナリ。殊ニ念比ノ仁ナル間。サマテノ非道ノ事有マシキヲ。富田何トカ思案シケン。此仁有ナラハ始終ハ惡カリナン。押寄テ成敗スルナラハ。國中躁々シカルヘシ。所詮僞テ彼人ヲ誅セント思。同正月廿四日ニ朝飯ヲ結構シテ。魚住父子ヲ呼寄テ。美酒ヲ盡シテモテナシ。酩酊シテ

四方山ノ事モ雑談シ。心靜ニ遊ケル所ニ。富田申ケルハ。今度義景御秘藏ノ中村太刀ヲ所持仕テ候。御目ニカケ候ヘシ。此方ヘ御出候ヘト申テ。奥ノ座敷ヘ請シ。魚住來テ未居直所ニ。彼方太刀拔。細首中ニ討落ス。子息彦四郎コハ如何ニトテ。刀ヲ拔所ヲ。又飛懸指殺シケル。然レハ父子二人片時ノ間ニ朝露トソ消ニケル。去ハ古語云。愛スル則不知其惡。憎則ハ遂ニ殺其善ヲト云ヘリ。舍兄彦三郎ハ鳥羽ノ舘ヘ忍ヒケルヲ。翌日推寄テ誅シケリ。不慮ノ外ナル仕立カナ。寔ニ富田ト魚住ト同心シテ。國ヲ持モノナラハ。長久ニシテ可然ケルヲ。不思儀ナリケル擧動カナソト申ケル。角テ國中ノ諸侍モ富田ニ心ヲ不赦。景健モ出雲守モ逼塞シテ。長秀ト參會ナサザリケリ。嗚呼愚ナルカナ。猛虎ノ類ハ走ル時角ヲ其後ヘニ隱シ。飢タル鷹ハ眼ニ鳥ノ子クラヲ不見。破國ノ敵ハ非法ヨリ悲ハナシ。一ヲ害スレハ万民城郷ヲ去ルト云ヘリ。富田先縮鉾シテ。武人ヲ宥ヘキヲ。若氣ノ至カナト人々申合ケルトカヤ。然ハ同心ノ人ハ稀ナリ。長秀一身シテ。國ヲ持事難成トヤ思ヒケン。內々信長卿前ヲ償ヒテ。越前ノ守護職ノ一行朱印ヲ取リ。舍弟ヲ人質ニ岐阜ヘ遣シケル由風聞ス。因茲ニ一揆等富田ヲ攻亡スヘキ企アリトソ聞ヘケル。

國中一揆蜂起而諸侍ヲ責ル之事

去程ニ。同天正二年二月上旬ニ。國中ノ一揆蜂起シテ。談合シテ加州ヨリ七里參河守ト申大將ヲ呼上セ。是則富田ヲ誅戮スヘキ籌ナリト云リ。七里方長崎稱念寺ニ着陣アリ。貴賤群集シ。行人征馬門前ニ市ヲナス事太多シ。其後豊原寺ヘ陣替アリ。爰ニ河井ノ八杉ト云者アリ。一揆ノ大將トシテ。先乙部勘解由左衛門尉舘ヘ押寄テ責ケル間。乙部卽舘ヲアケテ落行ケ

レハ。八杉即彼館ヘ入替テ居住セリ。同二月中旬ニ。西ノ庄ノ一揆等三富朝倉孫六方ノ館ヘ馳向テ誅戮ス。同中旬ニ河北一揆等發向シテ。黒坂與七カ館ヲ攻ル所ニ。黒坂館ヨリ切テ出テ。火花ヲ散テ戰テ。其日ノ暮ホトニ黒坂與七郎兄弟三人。同兵庫助。同彌次右衛門。小木入道。田ノ谷寺樂藏主歡喜坊討死ス。則黒坂兄弟同名ノ首ヲ持テ。豐原寺ノ大將七里方ニ持參スレハ。何條我等カ下知ニアラスメ。一揆等私トシテ武士ヲ殺ス事言語道斷曲事ノ次第ナリトテ。首ヲ持來ルモノヲソ即傷害セラレケルナリ。嚴重ナリシ成敗ナリトソ云ヘリ。

富田カ衆毛屋增井被誅之事

爰ニ又二月上旬ニ。富田彌六ヲ責亡ントテ。七里方諸方主衆北ノ庄マテ出張有リ。先陣ニハ足南。足北丹生今立ノ郡志伊庄。大野郡坂北河口ノ一揆。始トシテ打立ケリ。爰ニ富田カ股肱ノ臣。增井甚内カ楯籠片山ノ眞光寺ヲ責ケルニ。增井アヤナク討死ス。同十三日毛屋猪助カ籠ル土佐守館ヘ指向テ攻ケル程ニ。多勢ニ無勢不叶シテ。是モ則被誅ケリト云リ。

式部太輔平泉寺ヘ退玉フ事

去程ニ。天正二年二月上旬ニ。大野ノ堺寺式部太輔景鏡居住シ玉フ處ニ。大野弁中郡ノ一揆等可責ノ由風聞急々ナル故。景鏡北ノ御方ニ向テ宣ヒケルハ。日來ノ間ハ縦ヒ思ノ外ニ此所ヲ去事アリ圧。イツクマテモ伴ヒ申サントコソ思ヒツレ圧。敵東西ニ滿テ。道々塞ト聞ヘケレハ。心安ク平泉寺マテモ落退ヌ圧不覺。御事ハ女姓ナレハクルシカルマシ。子圧ハ未幼少ナレハ。敵讐見付タリ圧。誰カ子圧トヨモシラシ。唯今ノ程ニ夜ニマキレテ何方ヘモ忍ヒ出給ヒテ。山陰ニモ身ヲ隱シ。暫ク世ノ中ノ閑ラン程ヲ待玉フヘシ。道ノ間事故ナク平泉寺

へ付ナハ。頓テ御迎ニ人ヲマイラスヘシ。若又我等道ニテ討レヌト聞タマハヽ。何ナル人ニモ相馴レテ。子𪜈ヲ人トナシ。心付ナハ僧ニナシテ。我後生ヲトハセタマヘト。心細ケニ云置テ。泪ヲ流シ立玉フ。北ノ御方景鏡ノ鎧ノ袖ヲ引ヘテ。ナトヤカクウタテケナル事ヲハノ玉ヒケル。此時節少キ物ナントアマタ引具シテ知ラヌアタリニサスラハヽ。誰カ落人ノ其方樣ト思ハサラン。又日來知タル人ノ傍ニ立ヤスラハヽ。敵ニサカシ出サレテ。我身ノ耻ヲ見ルノミニアラス。少キ者ノ命ヲサヘ。失ハレン事コソ悲シケレ。道ニテ思ノ外ノ事アラハ。ソコニテコソトモ角モ成果テ。頼ム木ノ本ノ影モナク。世ヲ秋風ノ露ノ間モ。捨置レ奉リテハ。ナカラウヘキ心地モセスト。彌悲ミ給ヘハ。景鏡心ハ猛シト云ヘトモ。岩木ノ身ナラ子ハ。シタフ別レヲ捨兼テ。北ノ御方御子𪜈達ヲ具シテ。平泉寺寶光院ヲ頼ミ。夜中ニ二十人計ニテ壁倉ノ渡ヲシテ。寺内ヘコソ入玉ヒケレ。依之一揆等平泉寺ヲ可攻聞ヘケリ。

富田與一揆合戰之事

斯リケル處ニ。同二月十四日。大將七里方國中一揆等牒シ合テ。府中近邊ヘ推寄。在々所々ニ陣取ケル。爰ニ上郡新道杣山葉原鯖並ノ一揆打莅テ。二万余騎今生湯尾峠ニ支ヘタリ。西方ノ者共ニハ。八社庄。織田庄。栗屋郷。東三郷都合三万五千余騎。鯖江大虫アタリニ陣ヲ居フ。大野北袋南袋ノ者𪜈。足羽志伊庄河北ノ者。本覺寺專修寺引率メ。都合五万余騎先陣已ニ淺水ニ付ハ。後陣ハイマタ北ノ庄ニ支ヘタリ。是ノミナラス。宅良三尾ノ川内眞柄北村ノ一揆三萬三千余騎。帆山河原ニ打出ル。然ハ異類異形ノ仕立。旗ノ紋ノ風情言葉モ更ニ難及ソ見ヘニケル。爰ニ富田彌六長秀士卒ニ向テ申ケ

ルハ。敵縱ヒ大勢ナレハトテ。目前ニ置。徒ニ時日ヲ送ラン事無念ノ次第ナリ。今日某シ逆寄ニシテ討散サン。若一合戰シテ負ナハ。義ニ曝ラセル屍ヲ。九原ノ苔下ニ可留トヨキモナク申ケレハ。各皆理ニ服シテ感涙ヲ流シ。悉ク此義ニソ同心シケル。然ハ僅ニ七百余騎丑ノ刻計ニ打立テ。先帆山河原ニ支タル二万余騎カ眞中ヘ懸入。東ヨリ西ヘ破テ通。北ヨリ南ヘ追靡テ。追ツマクツヽ馳散リ〳〵。人馬ノ足ヲ不休戰ヒケレハ。日已ニ暮ナントスル時。一揆後陣ヨリ波羅〳〵ト雪レ下タリ。富田カ兵勝ニ乘テ北ルヲ追事。二三里ノ間ニ。二三千計ソ討捕リケル。同十七日ニ府中ノ町人三門徒衆ニ。永代三千石ノ所領ヲ可出ト一行ヲ遣シケル間。鯖江ノ坊主三千余騎ニテ打立。横腰ノ坊主二千余騎ヲ率ヌ相向。府中町人一千五百余騎ノ軍兵一統ニ調ヘ合テ。富田彌六既ニ淺水マテ討出ル。然ハ敵ノ大將七里三河四隊ノ陣ヲ一所ニ舉テ退タル勢𪜈。今ハ何ヲカ可期トテ。彼射落サルレ𪜈。矢ヲ拔ニ隙モナク組テ下ニナレ𪜈。落合テ助ル者ナシ。唯子ハ親ヲ捨テ切合。郎等ハ主ヲ放レテ戰フ。馬ノ馳違フ聲。太刀ノ鐔音何ナル修羅ノ鬪諍モ。是ニハ不過ト震動ス。富田本ヨリ堅ヲ破ル事樊會カ勇ニモ過タリ。四方ヲ拂テ八面ニアタリ。頃刻ニ變化シテ。百般戰フ程ニ。又一揆等許多討レテ。蠅ヲ拂フカ如ク逃去リケリ。雖然ト朝倉孫三郎。同名三郎景胤ハ態ト一軍モセスシテ。長泉寺ノ高山ニ居陣アリ。長秀葉武者ニハ目ヲカケス。景健ノ陣所ヘ同十七日ノ夜討入テ。眞繁ニ切テ懸リ。火花ヲ散テ戰ヒケリ。爰ニ朝倉荒木方兄弟折合テ。一足モ不引戰テ。此所ニテ討死シ玉フ。富田其夜ハ麓ニ引テ明ル待。十八日ニ。長秀山上ヘ攻上ル處ニ。小林三郎次郎吉

隆モ連テ懸出ケルカ。忽心違シテ。後ヨリ鉄炮兩射放ス。不謬富田カ鎧ノ押付綿嚙ハツレニハタト當リ。ツト通リ中ニ射テ馬ヨリ下ニトウト落ル處ヲ。小林馬懸寄テ。首ヲ取テケリ。生年廿四歳。古今無比類兵ナレハ。不惜人ソナカリケリ。不便ナリシ有様ナリ。去ハ平家ハ世ヲ取テ廿四年。富田ハ國ヲ取テ廿余ケ日。誠ニ夢幻泡影ノ浮世ノ中。蝸牛ノ角ノ上ニ何事ヲカ爭ヒ。石火ノ光ノ中ニ此身ヲ寄トハ。今コソ思知レタリ。傍ヲ見レハ。狂歌トヲホシクテ立タリ。

桂田ト富田二段ノアラソイモ果ハカマニテ
ホクヒ切レヌ

角テ國中ノ一揆等侍モノ舘へ押寄〳〵攻亡シケル程ニ。悉ク我身ノ上ニテヤ有ント思テ。晝夜肝ヲ消シ胸ヲヒヤス有樣。武士前々ハ雀ノ上ノ鷹ノ如シ。今ハ猫ノ下ノ鼠ノ如シ。率爾ニ聲ヲモ不立。昔ノ百姓下人ハ小袖ヲ着テ馬上ニテ通レハ。主人襤褸ヲ着シ。自身鑓ヲカタケ。粮米ヲカツキツレテ腰ヲクヽメテ歩行ク。去ハ賤カ貴服ヲキル。是ヲ僭上ト云フ。僭上無禮ハ成國ノ凶賊ト。孔安國カ誡ヲ不知ケルコソウタテケレ。此時府中ノ町ノ小路僧坊佛閣一宇モ不殘放火セリ。其後鞍谷ノ屋形千福眞柄北村氏家瓜生千秋佐々布光林坊已下。或ハ敵方へ内通スト號シ。或ハ別心ト號シテ。一揆等推寄追拂ケルトカヤ。如此ナレハ。武士共ハ云ニ不及。僧法師一寺住持モ其在所ノ道場坊主カ弟子門徒トナリ。朝暮參詣セリト。云云。

金津溝江大炊允舘ヲ一揆等攻ル事

去程ニ。河北ノ一揆等溝江大炊允長速。親父宗天。類葉悉ク攻亡ヘキ由風聞頻ナル間。先加州大將ノ前ヲ扱ント思。下津間筑後。法橋杉浦壹

岐阜大將ヘ子息春學侍者人質ニ下サレケレハ。兩大將別儀有ヘカラサル旨。堅ク誓紙ヲ以被申ケル條。此上ハ子細不可有ト思ケル處ニ。天正二年二月十日。河北ノ一揆蜂起シテ。溝江カ舘ヘ押寄ント聞ヘシカハ。大炊允女中ニ向テ宣ヒケルハ。子二人アレトモ女子ナリ。御身モ女性ニテヲワシケレハ。縱敵角ト知リタリトモ。命ヲ失ヒ奉ルマテノ事ハヨモアラシ。セメテ浮世ニ有テナカラヘ玉ハヽ。イカナル人ニモ相馴テ。ウキヲ慰ム便ニ付玉フヘシ。其ナキアトマテモ心安。草ノ陰。苔ノ下ニテモウレシク思フヘケレト。涙ノ中ニカキクトキテ聞ヘケレハ。女房イヤトヨ水ニ栖ム鴦。梁リニ巣ヲクフ鷰モ翼ヲカワス契ヲ不忘。況ヤ相馴マイラセテ。不覺過ヌル十年アマリノ袖ノ下ニ。二人ノ子トモヲソタテヽ千世ト共ニト誓シ甲斐モナク。御身ハ今此春ノ霜ノ下ト成シ。少キ者トモハ朝ノ露ニ先立テ消果テナン後ノ悲ヲ堪ヘ忍ハンニ。時ノ間モナカラフヘキ我身カヤ。沖モ思ニ堪カネハ。生テ有ヘキ命ナラス。同ハ共ニ無墓成テ埋レン。苔ノ下マテモ同契ヲソスレシト。泪ノ床ニ伏沈テ。是ハ夢ニテヤアラン。夢ナラハサムルウツヽノアレカシト。泣悲ミ玉フモ理リ也。斯ル處ニ。如案同二月十日ニ河北ノ一揆蜂起シテ。溝江舘ヘ打莅テ。四方ヲ稲麻竹葦ノ如ク取卷。日々夜々責戰。其勢都合二万余騎。城中ヨリ頻ニ鉄炮箭ヲ射出ス間。寄手モ若干手負。當座ニ死スル者モ多カリケリ。爰ニ北嶋次左衛門尉坊主分ニテ搦手ノ口ヨリ攻入。塀二重破却シ。多人數ヲ以テ近邊ノ家ヲコホチ。堀ノ埋草ニセヨト下知シケリ。城中ヨリ北嶋カ旗ヲ見テ色ヲ變シテケリ。城ヨリ手續松ヲナケ出テ燒崩シ。鉄炮ヲ射出ス程ニ。一揆等七百人手負ケル間。左右ナク攻落スヘキ様

モソ無リケル。同二月十六日ニ。加州ヨリ杉浦壹岐法橋出張シテ。惣持寺ニ着陣有テ和談ノ扱ヲ被成ケル所ニ。一揆衆申ケルハ。死罪ヲ赦シ可申。當國ニハ居住有ヘカラスノ由申程ニ。其時親父宗天長逸ニ宣ヒケルハ。先年堀江中務丞大坂ト一味シテ加州ヘ退キ。數年候シカ𪜈。知行一所ニテモ無扶助。我等ハ其ニ替テ既ニ敵身ナリ。一端遁死ヲ加國ヘ除候𪜈。扶持ノ事ハ沙汰ニ不及。是ハ先僞リ要害ヲ出シ誅伐サスルカ不然ハ。路次ニテ妻子ヲ剝取ラレ。乞食非人ト成テ疲歩キ候ヘシ。一生ハ皆夢ノ如シ。電光朝露ノ浮身ナリ。今此度遁レ出タリ𪜈。百年ノ齡ヲ持チ候ヘキカ。去年大炊洛中ニ於テ名ヲ得。所領五六千石知行スル間。世上ノ望モ榮花モ是マテニテアリ。唯速ニ腹ヲ切候ヘト宣ヒケル間。各此儀ニソ同シケル。然ル處ニ。壹岐法橋重テ杉浦金十郎ヲ人質ニ出シ。岩倉幷ニ林次兵衞尉ト云者ヲ。兩人使者トシテ舘ノ中ヘ遣シ。當御知行分程於賀州ニ可參スト云ヘリ。大方宗天長逸モ領掌有テ盃ヲ出シ酒ヲソ勸メラレケル。郎土田喜市郎酌ヲ取テ杉浦金十郎呑。其盃ヲ大炊允呑テ林次兵衞尉ニサス。次兵衞取テ呑ントスル時。四方ノ寄手鬨ノ音ヲ踧ト揚タリ。其時土田喜市郎聞之。附贅ノ和談ノ扱ヤ。奴原カ嫐テ云モノヲト云テ。持タル銚子ヲ林次兵衞ニ投ケカケテ。三尺二寸ノ刀ヲ抜テ。袈裟カケニ丁ト切テ打臥セ。大庭ヘ飛テ出ル。大炊允是ハ何事ソト云テ連テ飛出テ。喜市郎ヲ切臥ラル。然レハ衆殿ノ中舘ノ内振動シテ。大手ノ口破テ軍兵既ニ攻入タルト心得テ。ハヤ家々ニ火ヲカケヽル程ニ。魔風飛散テ舘ノ内一度ニ燒上ル。于時同二月十九日ニ。親父宗天上﨟ヲ引寄テ。イサヽセ玉ヘト宣テ指殺シ。ヤカテ腹ヲ切レケレハ。土田喜

兵衛卽介錯シテ。己モ腹ヲ切。大炊允モ又上﨟子モ一々ニ指殺シテ。炎火ノ中ヘ飛入ル。見之舍弟明生院幷榮明圓坊印海。東禪寺英勝。宗性坊等作。小泉藤左衛門尉。藤崎內藏。市川左助。富樫助殿父子三人此人々ヲ先トシテ。三十余人一度ニ自害シテ果ラレケリ。則雜人下女四方ノ土居ヲ乘越ヘ。堀ヘ飛入落行ヲ剝取テ打殺ス有樣目モアラレス哀レナリ。懸リケル處ニ。雜兵モ城中ヘ亂入テ。財寶雜具米錢ヲ奪取。爭フ事上ヘ下ヘ搆擇シテ。方々ヘ走散テ。晚日ニ其跡ヲ見レハ。大風雷電ノ晴レテ後。寂寞トシテ微雨ノ洒々ニ不異。悲哉翠帳紅閨ニ粧ヒヲ寵シ上﨟ノ貌。美女ノ形モ徒ラニ狐狼ノ齒牙ニカヽリ。忽ニ白骨ト成テ游泥ニ交リ。愍哉紅粉翠黛ノ顏色丹花ノ唇柔和ノ眸モ空ク烏鳶ノ觜舌ニ啄カレテ。終ニ筋節雨露ニ穿テリ。哀ナリケル有樣也。爰ニ四本懸ヲ見レハ歌アリ。

サキタヽヌ悔ノヤチタヒ悲シキハ流ル水ノメクリコン(ヌカ)ナリ

トヨミテ。小泉藤左衛門尉トカキケリ。

又英勝辭世トテ一首ノ詩有之。

三十余年夢　驀然今日醒
郊原埋骨後　風定遠山青

又富樫介ト書テ。

木草ニモアラサル竹ノ世ヲ去リテ後ハ石モ誰カ成ヘキ

トアリ。誠ニ優シカリケル心中モナリ。去レハ溝江父子ノ傷害比類ナキ者ナリ。弓箭ノ家ニ生ル者ハ。命ヨリモ名ハ惜ムソトヨ。龍門原上ニ骨ハ埋ムモ。名ヲハ雲井ニ殘スト云事ハ。此人々ノ事成ヘシ。雖然對總領不忠ノ事有シ故ニ。如此滅シケルカ。六七箇年以前ニ廻國ノ躰ニテ。濃州ヘ越ヘ。信長公ニ對面シテ。越前ヘ於出張ハ可有馳走由堅約アリ。依之今度新地

莫大ニ被出ケルト云云。此事對義景不義ナル條今其天罰責身。空ク類葉相果ラレケルカ。雖末世迷義輩ハ。佛陀ノ照覽ニソムキ。神明之冥慮ニ違フヘキ理リ。目前ニ分明ナリ。怖シカリシ事𪜈ナリ。斯ル處ニ。越前ノ國悉ク大坂ノ手ニ屬スル間。惣大將トシテ下間筑後ノ法橋下向有テ。豐原寺ニ着陣アリ。万事如先々ノ成敗已下嚴重ナリトソ聞エケル。

平泉寺退治之事

去程ニ。同二月十九日ニ金津溝江相果。要害落去シテ後。杉浦法橋ハ。龍澤寺ヘ陣替アリケリ。然ルニ富田彌六カ首持來ル間。龍澤寺ニ於テ實撿有。愍レナルカナ大剛ノ者ト云ヘ𪜈。アヤシキ籠ニ入テ來リケル有樣見ルニ泪ヲ催ンケル。斯リケル所ニ。平泉寺ニ朝倉式部大輔タテ籠リ玉フ。義景ノ大敵ナリ。早々是ヲ誅スヘキ由大坂ヨリ注進有之。故ニ同二月下旬ニ彼寺ヲ退治可有トテ。杉浦法橋大將トシテ下間和泉守。本覺寺。專修寺。其外諸坊主衆國中一揆打莅テ大野郡ヘ押寄。在々所々ニソ陣取ケル。大將杉浦幷ニ本覺寺ハ。細野ノ道觀兵衞。嶋田將監カ搆ヘタル壇ノ城ニ着陣アリ。本覺寺衆ハ國中嶋ト云處ニ居陣ス。專修寺ハ土橋村ノ近邊ニ陣トラル。同二月廿八日ニ。諸勢打立テ可責之由內談アリシカハ。志伊ノ庄ノ一揆未明ニ前驅シテ。一忠節セハヤト思ヒ。袋田口ヘソ進ケル。然則寺衆二三百人打出テ弱々トアイシラヒケレハ。一揆誠ニ弱ト心得テ攻懸ルヲ。寺內ヨリ二千騎計切テ出レハ。前ノ詞ニハ不似。一タマリモタマラスシテハラ〱ト引退ク。見之寺門衆悉ク打出追懸討捕ル。爰ニ加州勢ト見ヘテ。五千余騎ニテ半町計後陣ニ引ヘタル程ニ。卽時ニ追返サント。諸人賴母敷思フ所ニ。左ハナクシテ此勢モ同崩レテソ退ケ

ル。然ルニ本覺寺ハ袋田口ニ二百騎計ニテ引ヘケルカ。味方ノ悉ク崩ルヲ見テ切テ出。一合戰セント思ハレケルカ。敵コトノ外ナル猛勢ナリ。攻カヽリナハ悉ク討ルヘシ。懸ルモ引モ折ニコソヨレ。我等カ手ノ者ハ少モ働ヘカラス。敵寄來ラハ一戰シ討死スヘシト下知シテ。切先ヲ揃テ待懸ル處。寺衆何トカ思ヒケン。北島ヲ中ニ置キ。左右方ヘ分テ追切ニスル程ニ。一千五百人討討取。或ハ瀧浪河ヘハマリテ死シ。或ハ其具足ニツナカレテ亡者數ヲ不知ナリ。爰ニ加州若林長門守敵五六百騎ニ渡リ合ヒ。眞繁ニ戰テ分取高名シ。手ノ者二三千人討セケル處ニ。北嶋横鑓ヲ入テ敵ヲ追拂ヒ。靜々ト川ヲ越來リケルハ。大將諸人ニ至ルマテ北嶋カ振舞拔群ナリトソ申ケル。角テ大將杉浦。河キワニ引テ逃ル一揆ヲ。ニクシキタナシ返セ。己ラハ何クマテ逃ルソト云テ討献セ。當座ニ成敗セラレケル故ニ。此所ニアツマリ居タリケリ。如此ナラハ。皆己カ宿所ニ逃去ヘシトソ見ヘニケル。其後重テ寺門ヲ可被攻行モナクシテ。北袋ノ一揆嶋田將監ニ坂北ノ者モヲ五百人宛番カヘニ相副テ。壇ノ城ニ置勝嚴寺ニ坂北ノ諸侍ヲ加ヘラレテ。中嶋ト云所ニ居陣有テ。大將モ本覺寺諸坊主モ皈陣セラレケルト聞ヘケル。

平泉寺ヲ一揆等攻落事

去程ニ。天正二年四月十四日ニ。大野南袋北袋七山家ノ一揆等集テ云ケルハ。村岡山ヲ寺門ヨリ取テ城ニ拵ヘ持ナラハ。此山中ノ田畠悉クカリ田ト成ヘシ。左樣ナラハ山中ノ難儀ナリ。イサヤ各打立テ。今夜ノ中ニ村岡山ニ塀柵ヲ付。城ニ構ヘ持ヘシト云ヘリ。各此儀最ナリト同心シテ。七山家者モ夜中ニ塀柵ノ木亂杭逆茂木ヲ結。少堀ヲホリテ楯籠リケル。漢書

曰。智者ノ千慮ニ一失アリ。愚者ノ千慮ニ一得アリテト云事。後コソ思ヒ知レタリ。然處ニ平泉寺ノ足輕衆。未明ニ打出テ見レハ。村岡山ニ柵木ヲ結テ。軍兵有ト覺テ。双ノカケカヽヤキ。人類ノ聲動搖セリ。急キ打皈テ此由大將ニ告ケレハ。各僉儀シテ被申ケルハ。此分ニテ打置時日ヲヘテ城ヲカマヘナハ。始終難儀ナルヘシ。早々今日中ニ打立テ追拂ヒ皈サントソ申ケル。カヽル處ニ。式部太輔被申ケルハ。今日ハ日柄モ惡シ。暫クハヤ日モ闌テ候間。先延引アリ。能々示シ合可被攻候哉。諸勢寺門ヲ出ルナラハ。南山家ノ者𪜈討入寺ヲ放火スヘシ。何ソ寺内ヲ遠ク離レテ出ラルヽ事不可然ト宣處ニ。大定坊申ケルハ。七山家ノ者𪜈集候𪜈。僅ニ一二千ニハ過候マシ。先度國中ノ一揆等數万騎ニテ向候シニ。寺衆追散候ヘシソカシ。其上今御方ハ勝ニ乘リ大勢ナリ。敵ハ氣ヲ失ヒテ小勢ナリ。山中ノ奴原カ何程ノ事カ仕候ヘキ卽時ニ寄テ討散テ捨ハヤト申ケレハ。景鏡暫ク思案シテ申サレケルハ。合戰ノ勝負必大勢小勢ニ不寄。只士卒ノ志ヲ一ニスルトセサルトナリ。シカルニ大敵ヲ見テハアサムキ。小勢ヲ見テハ畏レヨト申事候。先思テ見ルニ。先度ノ軍ニ大勢討負引退跡ヘ山中ノ者小勢ニテ相向フ志。一人モ生テ皈ラント思フ者ハ候マシ。一揆ト思ヒ玉フ𪜈。志ヲ一ニシテ戰ヲ決セハ。當手ノ者タトヘ退心ナク𪜈。大半ハ必討ルヘシ。此軍ノ事全ク今ノ一戰ニ不可依 多カラヌ 味方初度ノ軍ニ討負ナハ。後ノ戰ニ誰カ力ヲ合センヤ。幾重モ御遠慮有ヘク候ト宣ヒケレ𪜈。若大衆𪜈一揆ハ手モ足モナキ樣ニ云テ打出ケル。是誠ニ平泉寺滅亡スヘキ瑞相。運ノ盡ヌル天罰ナリ。角テ寺内ニハ僅ニ 大聖院已下五六百人殘置。扨ハ老僧阿闍利衆御兒若

衆小性達計並居テ。唯今相果ヘキ事ヲモ不知シテ遊覧シテソヲワシケル。斯リケル處ニ。寶光院。大覺院。明圓坊 光淨院 三世院 寶珠坊此人々ヲ始トシテ。院々谷々衆又ハ式部太輔景鏡ノ勢。都合八千三百余騎。槿花一日ノ夕陽ノ空ニ輝ク計ノ家ノ紋ヲ旗ニサヽセ。次ニ電光石火ノ如クナル招縄目ノ腹卷ニ。初霜ノ巳ノ刻計ニ照光ル三枚甲白紋ノ甲ニ蟋蟀ノ角ノ鍬形打テ。草葉ノ上ノ白露ノ嶺ノ嵐ニ一揺モマレタル如クナル臑當シテ。風前ノ灯ノ影ニ似タル太刀ヲ抜連テ。村岡山ヘ懸登リ。息ヲモ不繼責タリケリ。去程ニ七山家ノ大將ニハ。龜毛ノアセ千兵衛尉 兎角ノ西ノ六左衛門尉。蛙牙ノ東孫右衛門尉。虚亡ノ道場ノ左近太郎。同掃部入道道世。岸陰彌次右衛門尉ヲ始トシテ。山中ノ一揆ヲ引率シテ。各蜘蛛ノ網ノ甲ヲ着。蚊虻ノ羽ノ大擧ノ旗ヲサシ。蚯蚓ノ骨ノ桶皮綴ノ臑當ニ。鼠ノ角ノ鍬形打タル（脱アラン）・土龍ノ目ノカヽヤク計ナル親重代ノ三尺七寸ノ太刀ヲハキ。塗籠籐ノ弓ニ蛟蝶（マヽ）ノ羽ノ矢束解テ押クツロケテ出ケリ。或ハ鯰ノ足ノ手戟椽棒ヲ振テ出。或ハ蝙蝠ノ尾ノ額金梨子打烏帽子半頬當。萌黄糸綴ノ具足ヲ着。蟷螂カ斧ヲ横タヘ。半風ノ皮跛ヲ扣テ泡軍ヲ驚シ。霜露ノ如クナル背ヲ張リ。寄ル敵ヲ待懸。石弩筒ツキヲ放シカケ。鉄炮頻ニ打出ス。爰ニ寶珠坊大圓坊馬ノ鼻ヲ双ヘテカケアカリ。柵ノキハマテ責寄テ。鐙蹈張立アカリテ申ケルハ。我ハ大圓坊ト云者也。定テ汝等ハ見知リケン。今日寺ヲ出シヨリ。先懸シテ屍ヲ戰場ニ埋ン事ヲ存テ相向ヘリ。我ト思ハン者ハ出合テ手ナミノホトヲ見ヨト。聲々ニ呼テ馬ヨリ飛テヲリ。木戸ヲ切落サントシケル間。城中是ニ騒テ土サマ矢倉ノ上ヨリ雨ノ降カ如クニ射落スツフテニ。二人乍ニ討テ空

ク果ニケリ。然ハ村岡ノ一揆勝ニノリテイサミケリ。爰ニ又北山ノ大將ヨリ本覺寺ノ陣所ニ早馬ヲ立テ申ケルハ。敵既ニ攻來リ難儀ニ及候。早々御合力有ヘシト云間。先平田ト云兵ニ二三十人相副テソ遣シケル。雖然自身立ヘシト思ケレドモ。折節無勢ナリ。暫ク思案ノ所ニ豐原寺ノ西方院六七十人ニテ馳來レハ。又方々軍兵馳集テ程ナク七百人ニアマリケル間。村岡ノ後ツメセントテ家ノ紋ノ旗ヲ指擧ケルカ。村岡ヘハ不懸シテ。直ニ平泉寺ヘソ馳ラレケル。去程ニ寺門ノ寄手見之。北嶋コソ寺門ニ攻入レ。院內放火セラレテハ大事ナリト思テ。足々ニ成處ニ。如案寺中ヘ打入ハ。彼方此方ノ者馳來テ放火スレハ。魔風頻ニ吹テ。諸堂諸坊ニカヽリケレハ。焔火有頂天マテ燒上ヲ見テ。寺衆急ニ引返ス。寺內ヘ入ントシテ除ヲ見テ城ヨリ切テ出。追懸討殺ト云ヘドモ一足モ前ヘ退カントコソスレ。返合敵ヲ討ント思フ武者ハ一人モナシ。日來ハ鬼神ノ樣ニ云ケル。山徒等藁ノ芒ニ蹴躓キ獨臥シテ死ニケリ。其外隨分ノ大名坊主達モ。七民ニ出合鎌ニテ首ヲソ刎ラレケル。哀ナルカナ其日ノ討死大方寶光院父子。光淨院。寶珠坊。大圓坊。圓明坊。明王坊。十光坊。勸乘坊。善妙坊。明春坊。大定坊。三世院。其外小坊主衆數ヲ不知打死セラレケリ。

式部太輔景鏡討死之事

爰ニ式部太輔我手ノ者ヲ集テ。一合戰セハヤト思ハレケルカ。皆落行テ纔ニ五六十計ニナリヌ。殘ル輩ニハ杉本父子三人。河瀨才之允。戶松新四郎。江村新馬允。小原父子。宇野一黨計ナリ。此人數ニテモ戰ハント思敵ノ方ヲ見レハ。一揆二三万騎引率シテ相向。景鏡ヲ始トシテ。五十余人ノ者ドモ少モ機ヲ呑レス。前ニ可恐敵モナク。後ニ可退心アリドモ不見ケリ。敵関

ノ聲ヲアクルホトコソアレ。數万人カ中ヘ颯ト懸入。半時計戰テ。百計切臥ツトカケ抜テ。我手ノ者ヲ見玉ヘハ。杉本江村計ナリ。然ハ主從只三騎。又大勢ノ眞中ヘ破テ入。東ヘ追靡ケ南ヘ懸散シ。肝馬ノ足ヲ不休。太刀ノ鐔音矢叫ノ聲鳴リ休隙ナク。爰ヲ最後トソ切合ケル間。ハヤ兩人ノ者モ討レケリ。景鏡今ハ是マテナリト思ヒ。向フ敵二三人切臥セ。大凡下ノ奴原カ手ニ懸ラン事無念ナリトテ。太刀ヲ胸本ニツキ立。馬ヨリ下ヘタウト落玉ヒケルヲ。袋田ノ寶屋カ打合テ。首取テ豐原寺ノ大將下間筑後法橋ノ見参ニソ入ケル。大將郎實檢アリ。嫡子十歳ニ余リ玉フト。六歳ニナラレケル兒弟ヲ尋出シ。兩人ノ首ヲ刎テ。父子三人同木ニ懸ケル。古語云。不義ニシテ富貴ヲ求ルハ風前ノ如浮雲ト云ヘリ。サレハ惣領ヲ害シテ世ヲ持ント思ヒケレ圧。其因果ノ道理不遁シテ。頓テ父子圧ニ果ラレケルナリ。又史記曰。蛇ハ化シテ龍トナレ圧其紋ヲ不變。家ハ化シテ國トナレ圧其性ヲ不變ト云ヘリ。殊ニ此人ハ朝倉ノ嫡々ナルカ。名字ヲ替テ土橋ニナラルヽ程ノ心中ナルカ故。加様ノ土民ノ手ニ懸リケルコソ淺猿ケレ。大野ノ山賤カ云ク。

日本ニ隠レヌ其名改テ果ハ大野ノ土橋トナル

ト詠シケリ。爰ニ院主ノ御坊今年八十三ニ成セ玉ヘルカ。嫡子妙覺院。舎弟大圓坊討死ナリト聞玉ヒテ。我此度命タスカリ。山林ニ隠居シタリ圧幾程ノ事カ候ヘキ。サレハ古人モ長生ヲハ不好。終ニ必見耻ト候カ。無詮長生シテ二人ノ子供ヲ先ニ立事ノ淺マシサヨ。我久當山ニ有テ神物ヲ貪リツル程ニ。拜殿ニテ果候ヘシトテ。墨染ノ袖ヲヌラシテ云ク。

永カレト何思ケン世ノ中ノウキヲ見スルハ

命也ケリ
トテ既ニ拜殿ニ火ノカヽリケルヲ御覽シテ。猛火ノ中ヘ走入。終ニ空ク成玉フ。然ニ又物ノ哀ヲトヽメタル事コソハンヘリケル。波多野ノ千能上方樣ト申テ。今年十六歳ニナラセ玉ヒケルカ。眉目容世ニ勝レテ。嬋娟タル眉黛ハ秋ノ月ノ遠山ヨリ出ルカト怪マレ。宛轉タル紅顔ハ春ノ花ノ後園ニ綻ルカト覺ヘ。肌ハ仙方ノ雪。形ハ淘門ノ柳ノ風ニナヒクニ似タリ。丹花ノ唇ル柔和ノ眸リ。御志ノ深キコトハ滄海却而淺シ。一度清容ヲ見奉ル人ハ。門頭ニ徘徊シテ戀慕ノ思ニ胸ヲコカス。下世歌連歌ヲ翫ヒ玉フ故ニ。一山ノ崇敬不斜。頃日ハ式部太輔モ玉章ヲ遣シ玉フト聞エケル。不慮ノ外ナル此亂ニ逢セ玉ヒテ。深山ノ林ニカクレマシ〳〵ケルヲ。山賊共捜出シ參ラセテ。衣裝ヲ剝取ケルカ。サスカニ紅ノ下帶ヲハ奪スシテアヤシケナル藤衣ヲ出シテ。是ヲキヨト云程ニ。御覽スレハ。秋ノ野ノ古巢ニ鳴ケル鶉ノトコロ〳〵モツヽカ子ハ。何共更ニイフシテノ肩ニカクヘクモナシ。袖モ裳モ朽果テ濯共ナキアカ衣手ニ觸ルタニ苦シキニ。着テハイカヽト思玉ヘ共。肌ヲカクスニ便ナケレハ。啼々取テソ着玉ヒケル。角テ家ノ太夫無情シテ追立草カラセ。牛ヲヒカセ薪ヲ負セテ召使。誠ヤラン昔用明天皇コソ戀ユヘ草ヲカリテ牛ニ飼セ玉フトハ聞ケレ。我ハ其ニモアラス。唯是ハ雪ノ嶋マカキノ檳ニ一年マテモ鼻サス程モタヘカタノ身ヤトテ。臥沈ミ何方ヘモ忍出ハヤト思玉ヘ共。雲サヘ見ヘサル谷カクレナレハ。可行方モシラスシテ。泪ト共ニ時日ヲ送リ玉ヒケル。御心ノ中コソ哀ナレ。其外老僧阿閣利達ノ香ノ袈裟ヲ奪取。漸ク命ヲ赦シテ追ハナセハ。山田ノ鹿ノ如クナル臥戸。荒レタル叢ニ。萩

ヤ薄ヲ折敷テネモセテ夜半ヲ明シツヽ。越方ノ事ノミ思ヒ連子玉フニ。往事渺茫トシテ都テ似夢ニ。舊遊零落シテ半ハ皈泉ト云。朗詠ナト吟シヲワシケルニ。一年關東ノ客僧此山ニ詣テ。當寺ノ躰題シテ詩一首作リ。講堂ノ柱ニ書置ケル。今其ヲ思出ルニ。

初見平泉秀異郷　玉樓銀閣二千房
終宵酒宴亦歌會　錦上敷花座燒香

ト作リ。書置ケル講堂モ悉ク夢ニ成ヌル事ヨトテ泪ニムセヒ玉ヒケリ。然ハ講堂。拜殿。三所權現。社塔。金堂。若宮。大師堂。大堂。寶堂。常行堂。三之宮。三社。鐘樓。此外末社宮々幾多ソヤ。寺内院々朱欄金臺□殿甍ヲ並テ造立シ置ケルモ。片時ノ寸烟ニ伴ナヒテ。空ク灰燼ト成。容顏美麗ナル御兒。若衆。上臈達モ殺害シテ。此郊々原ニ屍ヲ曝シ。清躰花ノ形モ野山ノ嵐ニサソハレテ草根ノ塵ニ交リ。丹ニソメタル紅ノ唇モ化シテ烏鵲ノ觜舌ニカヽリ。百ノ媚アテヤカニ笑ル貌モ腐。皮爛壞シテ虎狼爭テ引チラス。養老二年ニ泰澄大師草創アリテ以來八百余歳カヽル不思儀ヲ聞サリケリ。是併當山衆徒ノ欲心不義ヨリ事起リ。如此相果ケルコソウタテケレ。

波多野玉泉坊傷害之事

爰ニ波多野玉泉坊ハ三千石知行シ。飛鳥井寶光院ハ八千石知行アリ。凡日本國一番ノ法師大名ト沙汰シケルカ。是ニモ猶飽足ラスシテ。玉泉坊密ニ信長公ヨリ一山惣務ノ一行朱印ヲ取テ。社領神物ヲ進退シ。諸院諸坊ニ黄金ヲカケテ。信長公方ヘ遣スヨシニシテ取リケル間。寺衆内々鬱憤ヲサシハサム處ニ。舍兄寶光院申ケルハ。我ハ玉泉坊カ兄ナレハ。我コソ寺門ノ務ヲ持ヘキニ。弟ノ身トシテ寺家ヲ恣ニ至ス事。不意得ト云意趣ニヨツテ。兄弟ノ中不安

ニ成ケル處ニ。正月廿日ニ桂田滅亡シケル條。折ヲ得テ寶光院寺衆幷ニ一揆ヲ語ヒテ。同正月廿三日ニ玉泉坊ヘ押寄テ。坊主父子ヲ誅伐シテ則放火セリ。誠ニ獅子身中ノ虫トハ此事ヲヤ可申。然ハ一揆等齒ニ血ヲ付テ云ケルハ。此寺門ヲ立置。過分ノ所領ヲ坊主ニトラセ無益ノ事也。寺ヲ攻滅ント思企ヲナシケル。カカリケレハ衆徒達被申ケルハ。玉泉坊ヲ不誅シテ置ナラハ。寺ノ威光モ劣間敷モノヲ。無詮事ヲシテ玉泉坊ヲ亡シケル故ニ。寺ノ威光ヨハッ成テ。一揆モニ侮レヌル事是モ寶光院ノ所意ナリト云テ。内々ツフヤキケルヲ。寶光院聞テ。寺門一統ニ相向ナハ。我一人シテ防キ難ト思ヒテ。景鏡ヲ引入テ。同事ニ寺持ヘシト云智略ニテ景鏡ヲ寺内ヘ入許容セラレケルカ。誠ニ寺ノ滅亡スヘキ企ナリト云云。是モ唯慾心ヨリ起リケル淺マシカリケル擧動ナリ。

朝倉兵庫助カ城落之事

斯リケル處ニ。同四月上旬ニ。兵庫助織田ノ庄ノ民屋家財米錢ヲ奪取リ。兵粮ノ爲ニ我要害ヘ運入ケル程ニ。サテハ此人別心ナリトテ。大將幷ニ本覺寺其外大坊主一揆等引率シテ。兵庫カ城ヘ推寄。四方ヲ取卷。猛勢カ鉄炮ヲ放シ。喚呼テ攻上ル。城中鳴ヲ靜テ音セス。サレハコソ落タリト覺ルソ。時ノ聲ヲ揚テ敵ノ有無ヲ知レトテ。三千余騎ノ兵楯ヲ叩テ鬨ヲ作事三箇度也。相近テ上ントスル所ニ。城中ノ東西ノ木戸口ニ大鼓ヲ打時ノ聲ヲソ合セタリケル。外ニ引ヘタル寄手ノ大勢聞之。兵庫助ホトノ者カ籠リタランスル城ノ。小勢ナレハトテ。聞落ニハヨモセシト思ツルニ。如案イマタヽマリケルソ。侮テ手合ノ軍仕損スナ。四方取卷テ同時ニ責寄セヨト。本覺寺下知シケレハ。所々ノ勢一方ツヽ請取テ。谷々峯々ヨリソ責上

リケル。城中ノ者モハ兼テヨリ思儲ケタル事ナレハ。雲霞ノ勢ニカコマレヌレモ不騒。爰彼ノ木陰ニ立隠レテ。矢種ヲ不惜散々ニ射ル。寄手稲麻竹葦ノ如クニ立双ヒタレハ。アタ矢ハ一ツモ無リケリ。敵ニ矢種ヲ蕁サセント寄手ハサノミ射サリケレハ。城ノ勢未一人モ手ヲ不負。然處ニ專修寺申シケルハ。何トテ各ハ無作トシテ御入候ソ。一責々テ御覽候ヘト云ハ。本覺寺ノ衆坊主達ノ仰セトテ。命ヲ塵芥ヨリ輕クシテ一ノ關マテ攻上リ。逆茂木ヲ切落ス間。内ヨリ石弩ノ礫ヲ落シカクル程ニ。アタリテ死スル血瀧ノ如ニシテ。紅波楯ヲ流シ箭鏃ニ紅花ヲ亂ス有様ヲ見テ。山城ノ兵モ氣色替テ賤キカタクソ覺ヘケル。然ルニ五月下旬ニ敦賀浦ヨリ兵船十艘計ニ兵粮ヲ積テ。鹿ノ浦ヘ着テ城ヘ籠ケル處ニ。兵庫助何トカ思ケン。山城ニ軍兵五六百置。妻子ヲ引具シテ此船ニ打乘リテ。敦賀郡ヘソ退ニケル。爰ニ殘黨等扱ヲナシ。死罪ヲ免シ。同六月五日ニ寄手ノ衆城ヲ請取破却シテ。諸勢皈陣シケルトナリ。

江州堀并阿閉カ籠ル木ノ目ノ山城落事

同九月中旬ニ。木ノ目ノ山城ニ信長公江州堀并阿閉ト云者ヲ。城守ニ居置玉ヒケルヲ。諸坊主衆打立テ。四方取卷晝夜キヒシク攻戰處ニ。本覺寺ノ内鐵構ノ衆。北庄ノ衆。同事ニ鉄炮矢雨ノフルカ如ク放ス。城中ヨリモ射出スト云ヘモ物モセス。柵キソニ着テ戰ケル程ニ。城中ノ者モ敦賀江州ノ合力勢後攻ヲ待ト云ヘモ。其義ナキ故ニ城ヨリ中人ヲ出シテ和談ノ扱ヲナシ。ハウ〳〵命ヲ助カリ城守ハ江州ヘソ皈リケル。然ハ諸坊主喜悦ノ眉ヲヒラキ。木ノ目ノ觀音丸ヲハ大將下間筑後守ノ衆番手ニ持ツ。鉢フセノ城ニハ專修寺居陣アリ。鷹打嶽ニハ本覺寺在陣アリ。柚ノ尾ノ城ニハ七里三河

守栫籠リ。其外所々ヲ城郭ニ構ヘ。道場ヲ新ラシク造立シ。此世ノ中ヲ千年万年ト賴母敷思ヒ。快樂ニホコル哀レナリケリ。

従大坂越前守護職居置ル事

去程ニ。桂田富田滅亡シテ後。越前ノ國ハ大坊主衆一揆等カ進退スヘシト思フ處ニ。大坂ヨリ下間筑後守ヲ越州ノ守護ニナシ。杉浦法橋ヲ大野ノ郡司トシ。下間和泉守ヲ足羽郡司ト定。七里三河守ハ上郡府中邊ヲ進退セリ。一揆等ニハ國中諸納所半損ニシテ是ヲ扶助トセラルヽ間。半國取ル心ナリ。大坊主衆モ知行ヲ望ト云ヘ𪜈。大坂ヨリ門徒ノ助力ヲ以贖フヘシト有ケル間。武士百姓等ヲ弟子トシ。我人衆トセリ。如此定メ置ルヽ程ニ。國中靜謐シ。長久安全ナルヘシト。各安堵ノ思ヲナス所ニ。土民猶不足ニシテ云様ハ。坊主達ハ後生ヲコソ賴マレタレ。下部ノ如ク荷ヲ持セ。或ハ下人ノ如ク鑓ヲカタケサセ。召ツカハルル事一向不意得次第ナリ。桂田富田ヲ退治シタル事モ。國郡ヲ進退セント思ヒ。我等粉骨ヲ盡シテ此國ヲ討取ケルニ。何𪜈不知上方衆カ下テ。國ヲ恣ニ致ス事所存ノ外ナリト云テ腹立。十七講ノ衆内談シ。先大坊主ヲ誅スヘシト云ヘリ。本覺寺此事ヲ聞テ。時日ヲ移シナハ。大事出來スヘシト思。諸坊主ニモ聞カセス。天正二年七月十四日ニ講主ノ張行志伊ノ林兵衞ト云者。盆ノ念佛參リニ北ノ庄ヘ行處ヲ。喧嘩ニ事ヨセテ誅罰シテ。天下村ノ川ハタ處ヘ押寄討取。其外河合ノ八杉。河北ニハ本庄ノ宗玄已下一日ノ間ニ成敗セリ。サレハ經ニ曰。未來世ノ一切佛弟子年七月十五日盂蘭盆ニ衆僧ヲ供養シ奉ルヘシト説タルニ。日コソアレ念佛主ノ身トシテ。人ヲ殺ス事是モ功德ナルヘシヤト云人モアリ。然ハ盆ト云。騷動ト云。所々ニ燒ク篝ハ晴

レタル夜ノ星ヨリモ猶茂ク。藻鹽草ナヒク烟ハ糸崎浦三國ノ濱ニ北浦ヤ。鹽越ノ境ニ燒篝ハ。漁舟ニトホス居去火ノ波ヲヤクカト怪シマレ。惣シテ國中ノ山嶺里々ニ篝ノ見ヘヌ所ソナカリケル。爰ニ狂歌トヲホシクテ。本覺寺ノ門ニ立タリ。

彌陀ノチカヒ頼ム坊主ノカカリ火ハ四十八ヨリ多ク有ラシナ。

同壬十一月十九日ニ國中内々調シ合ケルカ。相違シテ河合ノ庄ノ者率爾ニ早ク討立テ。豐原寺ヘ押寄。下間筑後法橋ヲ誅セント八重卷寺ニ馳集ル處ニ。筑後法橋則逆寄ニシテ追拂ヘトテ。若林長門守野嶋ヲ武者大將トシテ。僅ニ八百騎打從テ。先手加嶋表ニ支ヘタリ。然ルニ若林諸卒ニ向テ云ケルハ。此合戰ニ一足モ退タラン者。縱前々ノ忠有ト云𪜈無ニ所シテ本領ヲ可沒取ス。一太刀モ敵ニ打違テ陣ヲ破リ。分取ヲシタラン者ハ凡下ナラハ侍ニナシ。武士ナラハ直ニ恩賞ヲ可與。サレハトテ獨高名セントテ不可拔懸ス。傍輩ノ忠ヲ猜ンテ危キ所ヲ不可見放。互ニ力ヲ合セ。𪜈ニ志ヲ一ニシテ切共打𪜈不退シテ。乘越〳〵可進ト居長高ニ成テ下知シケル程ニ。諸軍勢此命ヲ聞テ無別儀トテ死ヲ一統ニソ定メケル。爰ニ一揆都合三千余。八重卷寺ヲ取テ出勝蓮華繩手ヘ馳向處ヲ。若林少モタメラワス大勢ノ中ヘ只一文字ニ懸入テ。眞先ニ進ケル廣瀨カ馬ノ兩脚切テ打臥セケレハ。一揆是ヲ見テ一堪モ堪ラヘス後陣ヨリ颯ト崩タリ。若林カ勢勝ニ乘リ四方八面ニ追散シテ。妻子𪜈ニ至マテ悉ク川ヘ追ハメテ。勝鬨トツト揚テ。卽時ニ寺ヘソ皈ケル。討殘サレタル者𪜈。家ヲヤカレ蓑笠ヲモキスシテ大雪ノ中ニ徘徊スル有樣眞ニ哀レナリケリ。カヽリケル事ヲ見聞テモ謀叛ノ心

ヲヤメヨカシ。同十二月上旬ニ東郷ヤス原村ノ鐽講ノ衆。又蜂起シテ下間和泉守居所へ押寄タリ。和泉守思儲ケタル事ナレハ。五六十人喵呼テ中ヨリ切テ出レハ。寄手颯ト崩レタルカ。五六尺アマリ降リ積リタル雪ノ上ニ橇ヲモカケスシテ。胸ノ邊マテ落入テ足ヲヌカントスレトモ不叶。只泥ニ粘レタル魚ノ如ニシテ討ルル者三百余。遁ケノヒタル者皆物ノ具ヲステヌハナカリケリ。同三年新玉ノ年立返リテ。二月中旬ニモ成リケレハ。余寒モ漸ク退キ。山嶺ノ殘雪モ半ハ消テ疋馬地ヲ蹈ニ蹤ヲ不勞。今ハ時分能クナリヌ。然ハ信長公越州へ進發可有トテ。敦賀。若州。丹後ノ兵船ヲモヨヲシ。粟浦湊浦へ可被寄ノ由風聞シキリナル故。然ラハ城郭ヲ構ヘラルヘキトテ。大將筑後ノ法橋豊原寺ヨリ下向アリ。湊見嶋九兵衛尉處ニ被置ケリ。其威勢諸人群集少縁ナラス。即安嶋浦ノ三保嶋又三郷ノ高山淺藏山ヲソ城ニ拵ヘケル。雖然大將ト大坊主衆一揆等其内輪不和ナルカ故。唯今敵寄スルトモハカ〳〵敷事是アルヘカラスト。諸人沙汰仕リケルナリ。

信長公越前へ御入國之事

去程ニ。天正三年夏比。伊勢嶋ノ御敵モ早速ニ退治有。武田四郎方モ三河長ノ合戰ニ討負。佗隙モナク落散ケレハ。今ハ三河遠江兩國一統ニ信長公ニ屬シ靜謐シケル間。然ラハ越州へ進發有ヘシトテ。分國ノ首皆猛卒ヲソ牒シ合サレケル。先伊勢。尾張。濃州ノ士卒衆原黨。安藤稲葉。不破瀬河。坂井黨。牛田丹羽以下。宗徒ノ大名數十人。其勢三万三千余騎。左大將ノ前後ニ馳集ル。惟任日向守。羽柴筑前守。丹羽五郎左衛門尉。長岡兵部太輔。塙九郎左衛門尉以下。大和。山城。河内。攝津國。若狹。丹後。江州北ノ郡ノ勢都合五万余騎ヲ引具メ。江州西地海

津邊ニ指向フ。安城家康三河。遠江ノ軍兵ヲ催シテ。都合一万三千余騎殿レ馳ニ寄來ル。爰ニ柴田修理他ノ勢ヲ交ヘス。手勢ヲ勝テ一合戰セント思打立ケリ。先其人々ニハ子息宮内少輔。同伊賀守。同監物丞。佐久間玄蕃助。同帶刀左衛門尉。豊嶋吉田。近藤右近。杉江彦四郎。德山五兵衛。同吉左衛門。井上久八郎。同清八。毛受勝助。中村與左衛門。足輕大將ニハ拜江五助。一瀨甚左衛門尉。安井左近尉以下一万二千余騎ヲ引率シテ。シツ〳〵ト寄來ル。カカリケル所ニ江州表へ猛勢馳集ルト聞へケレハ。越前ノ大將筑後守。同大坊主乘木ノ目杉浦（津カ）口ニテ相支へ。一合戰セントテ國中在々所々ノ者モ。早々上口へ向ヘシトテ相觸レケレハ。七民等云樣ハ。前々所領ヲ納取テ平世活計シタル人達出合テ戰ヒ玉ヘト云テ。進者多モナカリケリ。然ハ本覺寺僅ニ三千余騎打立テ。木目鷹打嶽ニソ栖籠ケル。専修寺二千余騎打立テ。鉢フセノ城ニ籠リケリ。大將乘宮野嶋。安井。稻村以下一千余騎引具シテ。觀音丸ニ居陣ス。七里三河乘八百余中ノ川内口ニ相向。杉津口ニハ大事ノ虎口ナリトテ。若林長門守。府中表ノ坊主乘堀江乘ヲソ相向ラレケル。然ニ堀江中務丞景忠ハ對大坂ニ意根アルカ故ニ。當春三月ニ神波七兵尉。森田三郎左衛門尉密々馳走シテ。敦賀ノ武藤宗左衛門尉ヲ以テ御味方ニ可參ノ旨申上ケシカハ。本領安堵其上ニ賀州二郡可宛行旨。一行朱印ヲ玉ハル間。時節ヲ窺ヒ一忠節致サント思ヲ勵ス處ニ。杉津口へ相向事天ノ照覽ニ叶ヘリト。信感ノ思ヲソ成シケル。同十二日軍奉行ニ仰テ着到ヲソ付ラル。都合十万五千餘騎雲霞ノ如ク。又五畿内ノ輩ノ軍勢我モ〳〵ト馳集ル間。敦賀郡ニ居余リ西地海津ニ引ヘタリ。同八月十五日ニ諸口一

度ニ責寄ケリ。先陣ハ羽柴筑前守。惟任日向守。稲葉伊與守。柴田修理。杉津口ヘ押寄テ時ヲ一聲揚ル程コソアレ。柵茂木ヲ切拂ントス。城内ニハ若林カ兵諸軍勢關戸キワニ立双テ鉄炮矢シキリニ放シ懸ル所ニ。堀江左衛門三郎。同下野守。同左馬介。同兩祭。堺黨神波七兵衛尉。堺圖書助。三國采女丞以下咄ト笑テ後ヨリ切懸レハ。城中ノ兵モ後ノ敵ヲ拂ハントスレハ前ナル猛勢攻寄ル間。アキレテ身退ク爰ニキワマリ敗北既ニ定リヌ。斯リケル所ニ。柴田。羽柴。惟任ノ兵モ早攻入テ。櫓昇楯ニ火ヲカケレハ。城中ノ者一堪モ不堪颯ト崩テ右往左往ニ逃テ行ヲ。追懸討臥切タヲシ。府中マテ追討ニスル者更ニ其數ヲシラサリケリ。角テ水津ノ城ニ煙ノ揚ルヲ見テ。木目ノ城。鉢フセ皆攻落サレテ坊主衆郎等モ悉ク討レケリ。爰ニ朝倉三郎景瀧一揆ノ首二三十討捕。左大將殿ヘ見參ニ入ラルレハ高名ト宣ヒケルカ。頓テ喧嘩出來シテ被誅ケリ。同孫三郎景健四五日後ニ傷害有ケル。然ハ左大將府中ヨリ一乘カ谷ニ四五日御逗留アリ。其後豊原寺ニソ陣ナサレケリ。

諸勢山林ヲ捜シ一揆等誅罸之事

去程ニ。大坊主一揆等山林嶺森ノ間ニ隠レ居タル事有ヘシ。捜シ出シ誅罸スヘシト下知ナサレケレハ。安藤伊賀守。塙九郎左衛門尉。佐久間甚九郎。不破河内守。篠岡兵庫助以下二万余騎討立テ。西方。越知。峯。織田。庄。本郷。山家。糸崎浦三里ノ濱村々里々馳向テサカス中。海道ハ羽柴筑前守。惟任日向守。柴田修理。稲葉伊與守。丹羽五郎左衛門尉此等ヲ始トシテ三万三千余騎。先長崎邊ニ支ヘタリ。大野郡宅良三尾河内ヘハ。前田。佐々。瀧川。武藤。桑原黨。坂井黨ヲ大將トシテ。都合三万五千余騎士

橋近邊ニ馳向。惣シテ此勢押通ルニ。元來無躰ノ兵𪜈ナレハ。民屋ハ沙汰ニ不及。神社佛閣燒拂ヒ。木草ノ一本モナカリケリ。十万余ノ勢𪜈馳散テ。嶺々谷々岩ノハサママテ捜シ。妻子𪜈ヲ殺害シ。手足ニ薪ヲユヒ付テ火ヲ付ケ。地ヲカヘシ穴ヲホル事太多シ。爰ニ一揆ノ大將下間筑後ハ府中邊ナル茅屋ニ忍ヒテ有ケルカ。悉ク捜出シテ誅スル由ヲ聞テ。乞食ノマネヲシテ破笠褐衣ヲ着テ。湊ヲ指テ落ケルヲ。路次ニテ見付テ討捕ケリ。郎等富長ハ川ヘ流テ失ニケリ。角テ諸軍勢加州ヘ討入テ。今湊川ヲ堺ニ放火シ。濫妨苅田シテ大聖寺津葉ノ城ヲ構ヘ。別喜堀江ヲ城守トシテ。諸卒頓テ皈陣シケリ。扨左大將同九月中旬ニ豊原寺ヨリ北庄ヘ御陣替アリ。此時諸堂。三重塔。神社悉ク放火アリ。於北庄當國守護郡司ヲ定ラル。柴田修理ハ中郡川北八郡ヲ進退セラル。府中二郡ハ不破。佐々。前田司トリ。大野郡ハ金森。日根野成敗セリ。同九月廿三日ニ御開陣ナサレケル。同十月上旬ニ。平朝臣信長公上洛アリ。參内有テ左近衛大將。位從三位ニアカリ。官權大納言ニ備リ給フ。嫡男平朝臣信忠五位出羽守兼秋田城之助ニ任シ給フ。武功抽賞ニ依テ。父子𪜈ニ一時ニ相双テ高官ニ昇テ俗骨忽ニ蓬萊ノ雲ヲ踏ミ。臺閣ノ月ヲ攀ツ。加之其門葉タル者諸國ノ守護吏務ヲ兼テ。五馬速ニ驥重山ノ雲ニ三鞁閑ニ衒遊席之花ヲ。誠有難カリシ繁昌ナリ。斯ル威光ニ勵マサレテ。能登越中加賀マテカサルニ味方ニ可參ト云輩拔群ナル間。果シテハ越後長尾身上モ大事ナルヘシト沙汰スル人モ多カリケリ。

貴賤貧福前業ニヨル事

或問テ云。貧福貴賤ノヘタテハ前業ニヨリケルカ。亦自然ノ事ニテ有ケン。答孔子莊子ハ自

然ノ所作ナリト云ヘトモ。佛敎ハ不然。貧福ハ業ニヨルト說レタリ。去ハ業ニ種々ノ品アリ。只今作リタル罪ノ頓テムクフハ頂現業ト云。今作タル罪ノ只今ムクハス。次ノ生ニムクフハ順生業ト云也。次ノ生ニムクハス。其後ノ生ニムクフハ順後業ト云也。此三種ヨリモカロキ業ハイツニテモ便宜ノ時ムクフヘシ。加樣ナルヲハ不定業ト名ツケタリ。輕重ニヨリテ遲速アレトモ。作リケル業ノムクワズシテ唯ヤム事アルヘカラス。去ハ今生ニテ貧苦ナルハ。慳貪ノ業因也。短命ハ先生ニテ殺生シタル業報ナリ。形容ノ見ニクキイヤシキハ柔和忍辱ナラサル故ナリ。俗性ノ下賤ナルハ他人輕劣シタルムクヒナリ。富貴高位ナルハ前生善根ノ善因ナリト經論ニ說玉ヘリ。加樣ノ敎ヲ聞テ心ニ先非ヲクヒテ。哀愍懺悔ノ心アラハ先業ナリトモ消滅スヘシ。今時ノ人ヲ見レハ。朝夕內ニハ惡念ヲタクハヘ。外ニハ惡行ヲノミナシ。サスカニ福分ヲ求メタクワヘ。壽命モナカラヘタク思フ儘ニ。佛ニ祈リ。神ニ詣ル計ナリ。若加樣ナラハ爭テカシルシモ有ヘキヤ。佛力法力モ前業ヲハタヤスク不轉ト云事ハ此義ナリ。佛在世ノ時。瑠璃太子ト釋氏トアタヲクイシ。因緣ニヨリ王位ニツキテ後。釋迦ノ御一族ヲ亡ス事。九千九百九十万人也。目蓮尊者佛ニ申テ云。衆生ノ苦ヲハ親疎ヲエラハス救ヒ給フ事。佛ノ大悲ナレハ。余人ナリトモ加樣ノ難ニ逢ヲハ助ケ玉フヘシ。然ルニ今亡ル人ハ皆佛ノ御一族ナリ。然ヲ助ケ玉ハサル事ハ何ソヤ。佛云彼等カ亡ル事ハ皆前世ノ惡因ノ報ナルカ故ニタスクル事アタハスト云云。目蓮重テ佛ニ問ヒ玉フ。イカナル惡業ニ依テ加樣ニ亡ルヤト問玉ヘハ。前生我類葉金翅鳥ナリ。瑠璃太子ハ大海ノ魚ナリ。金翅鳥ハ兩翼ニテ大海

ヲタタキホシテ魚ヲ取テ服ス。其魚太子ト成テ一族ヲ害ス。是前生ノムクヒナリト宣フ。サレハ佛力ニモ前業轉シ難キ事分明ナリ。然ハ今生ニ貧人トナル事ハ。前生ノ慳貪ノ業因ノ報ナリ。加樣ノ理ヲハ不知シテ。或ハ世ヲワタル計ノツタナキ故ニ貧ナリト思ヘリ。若前世ノ福因ナクハ。世ヲワタル樣ヲサマ〳〵習テ其如ニス𪜈福分マサル事有ヘカラス。或ハ我身ノ貧ナル事ハ。可給御恩ヲ給ヌ故也トテ。主人ヲ恨ル人アリ。或ハ我知行ヲ他人奪ヒ取レタル故ニ貧ナリトテ腹ヲ立ル人アリ。是モ亦御恩カウムラス。所領ヲウハハレタル故ニ貧ナルニハアラスヤト。シカルヘキ業報ニテ可給御恩ヲモ不給。可知行所領ヲモ領知セヌ也。何事モ皆前業也ト思ヒ。惡ヲヤメ善根ヲナシ給ヘシ。春ノ時節耕作ヲセサレハ。秋後ニ米ヲ不取カ如シ。此因緣ヲ能分別スレハ。別ニ怨敵モナク。人ニ述懷モ有ヘカラスト云ヘリ。サレハ如此端的ムクフ事ハ。末世ノ人ハ慳貪ナルカ故ニ天道ミセシメノ爲也。雖然目前ノ有樣ヲ見テモ。惡事ヲ恐ルヽ人ハマレナリト云云。

天正五年四月中旬無宅八十歳書之

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

續群書類從卷第六百三十五

合戰部六十五

賀越登記目錄　全

賀越登記

（成政謀利家縁組付朝日山砦結構事）イニ
利家公成政と御弓箭次第之事

一。抑天正拾貳年。其頃は北國之内（加賀イ）石川 河北二郡。能州一國。前田又左衛門尉利家公御分國ニ而。加州石川郡金澤と申所ニ居城被成候。佐々内藏助成政ハ。越中一國之守護たるゆへ。同新川郡富山ニ居城被仕候。上方ニは大閤秀吉公と尾州の内大臣信雄卿。後剃髮被成常眞と申候天下をあらそひ被成隙なく御弓矢迄ニ御座候處。此時節を幸と被存候哉。越中の立山

さら〳〵（佐羅々々）越といふ難所を。しのひ供のもの上下百計にて。東美濃へ出る。そのころ三州家康公は。信雄卿を御見繼の爲。尾州被成御座候故。內府公へも家康公へも被申上は。秀吉と御取合中々大敵に御座候間。早速に御勝利はおほしめしのことく被成罷間敷候。然は某儀越中罷歸り。北國を切したかへ。時日をうつさす可罷上候。左候得は。日本國中御手にさはり申もの有間敷候間。其刻ハ加賀越前能登三箇國可被下由被申上候。信雄卿も家康公も被仰出は。早々本國へ被歸。弓矢を起さるへく候。捨本意上は。三ケ國之儀子細有間敷之由。互の誓紙御取替せ有て。成政はまたさら〳〵越より歸り被申候。

一。內藏介歸國被仕。早速弓矢起度被存候得共。利家公は爲成政には大敵なりと心の內に分別被仕。先佐々平左衛門。神保安藝守なとを呼出種々談合有之。成政姬二人有之候。一人ハ秀吉公へ人質として上方に被置。其姉御座候を。利家の次男又若殿（孫四郎利政也）を聟に取。後には成政跡をつかせ可申子細は。利家とは古傍輩と云。國ならひ境目等出入以來迄無之樣に。何事も無事ならは。さためて秀吉公も御滿足不過之と。下々までも風聞致させ被申候。然は成政より佐々平左衛門才覺にて。利家公の家老村井又兵衛に談合候而。旣に緣邊相定る。上下目出度と加越能三ケ國ともに悅申候。

如右緣邊相定。其上向後無他事可申合よしにて。內藏介より佐々平左衛門を使として。同十二年七月廿三日。金澤へ被參候。祝儀夥敷進物なり。結句利家よりこそ先祝儀をも可被遣候事なるに。遮而成政より急被申候は。能々ちなみをふかく有度躰ニ。いつれも

致沙汰候。利家公ハ律儀第一なる御人にて御座候故。成政下心有て。如此とは夢にも無御存知。まして家老共もたはかりとは不知。可然儀と思ひ。殊外馳走にて。又若殿に能をまゝせまひらせ。引出物に刀脇差馬なと迄平左衛門に被下。御歸し被成候。

一。利家より村井又兵衛を禮返しに可致遣由。案内被仰遣候所に。八月御祝儀月に非す候間。幾久被存候儀候條。九月被成候へかしと成政方より被申越候故。先指延られ候。然處に内藏介夜々北の矢倉にて。家老共呼集め。色々談合有て。取出拵候所なと究り。中々於御油斷は可爲御越度旨。越中よりひそかに申上もの有之。利家公聞召。此儀僞か實かと御思案候得共。加樣之事を乍聞。油斷して於仕負は。武門の恥辱たるへしと被仰付。村井又兵衛。岡島喜三郎。片山内膳。不破彦三を被召出。御談合有て。先加越之境目朝日山を城に拵候得之由にて。同八月廿二日に。村井又兵衛を大將分にして。高畠九藏。原田又（左イ）衛門兩人を被指添。其外鉄炮大將四人。都合千五百餘人にて。二三日普請して柵を付廻す。然所に同八月廿八日。越中衆佐々平左衛門。前野小兵衛なと大將分にて。五千計の勢を率して押寄。是も朝日山をつね〱心懸候處。加州衆はやく取候故。責落して越中方の城に可仕ため也。朝日山衆は居住の用意にはる〱金澤へ參候て。有合人數七八百計にて可有候。乍去大將村井又兵衛大剛の侍ゆへ。味方を勇め。下知被仕候處。利家公御馬廻阿波賀藤八。江見茂（藤イ）十郎兩人見廻に被參。又兵衛に兩人申候は。加樣の能時分參合候事。誠に冥加に相叶候由申候得共。又兵衛被申候は。利家公へ注進仕度事候。飛脚にて

は成ましく候。江見殿阿波加殿偏に賴入候間。江見阿波加大きに氣色を損申候は。我等金澤に罷在候共。加樣の儀承候はゝ掛付可申に。幸天道に相叶參合候處に。如此の御意無曲存候由被申。又兵衞返答は。仰御尤。誠に賴母敷御心中大慶仕候。乍去路次にもはや一揆起り可申間。各御歸をいやと思し召候も道理に候間。唯是に御留り可被成候由被申候。兩人是を聞。此言葉を乍聞。注進に不參候はゝ。結句臆病の名を可取候間。早々參るとて。馬に打乘罷歸。朝日山と金澤と三里半の所を一刻に馳歸。一々利家公へ申上ル。利家公被仰は。我等不參とても。又兵衞事仕損する者にては無之候。乍去急後詰すへしと被仰。不破彥三。田那（多那イ）村三郎四郎。片山內膳。岡嶋喜三郎。原隱岐。武部（建イ）助十郎なとを被召連。其外の人數は急々打立候得と觸させ。其儘貝をふき立御出陣ありて。先小原口と云所迄御急候。然處に朝日山にては越中衆麓まて押來候得共。如何致思案候哉。遠卷に人數を備る迄にて。大雨降候へは彌越中衆成ましきと存候哉引返申候。此故に利家公も歸陣なされ候。是よりこそ度々の取合に罷成候。

成政利家籠ニ置人數ヲ於能登越中城ノ々ニ事

一。能州七尾の城には。一國の人數過半籠置被成候。本丸には利家公舍弟（兄イ）前田五郎兵衞。子息孫左衞門。高畠織部。中川淸六。國侍長ノ九郎左衞門。其外名ある侍共都合三千餘人數にて候。能登。加賀。越中境目。末森と云所に。城主。奥村助右衞門。千秋主殿介。土井伊與守を大將として。其外人數千五百計被籠置。加州津幡の城には利家公御舍弟。前田右近將監大將分にて。人數百人被籠置。越中境目

山きはに鳥越と申所を丈夫に拵。日加田又右衛門。丹羽源十郎大將分にて。五百の人數被籠置候。

一。成政は栗加(倶利迦羅イ)の峠を城に築。佐々平左衛門野(野々イ)村主水(井イ)。兩人大將分にて。都合貳千餘の人數被籠置。利波の城には前野小兵衛を大將分にして。其外貳千計入置。氷見の青野(阿尾のイ)城には國侍菊地伊豆守子息十六郎大將にて。千騎にて籠。能登越中境日荒山と云所を城に築き。能州七尾押へとして。袋井隼人と申者。是は神保安藝守家老なり。則神保方より此城取立て籠置候。越中森山城には右中成政。あハ屋に神保安藝守子息清十郎。是は成政の聟なり。如此の衆被籠置候。神保は大名ゆへ四千の人數是皆自分也。成政は新川郡富山に在城す。いつれも如此弓矢に及よし。利家公より使者を以秀吉公へ被仰候へば。不大形御機嫌にて。扨も先年柴田打果候刻。成政表裏者と存。又左衛門を加州に置たり。我等目利不違。今度之注進神妙におほしめし候。内藏介又左衛門一戰候ハヽ。必利家の人數にても勝利無疑。心元なき事は利家之分國。能登。加賀廿里に過。ほそなかき國なれば。越中よりは出安所にて候。能州へ働候事如何と計無心元候。乍去利家の武邊ニは。必々切勝可被申間。心易おもひ候。能々越中勢を押へられ候へ。頓而當地平均可申ニ付。出馬可有と被仰。彼使者に御口上にも被仰聞。引出物に黄金三十兩被下御歸し被成候。

末森城後詰事

同年九月十一日に。末森の城へ佐々內藏介成政押寄責る。我身は二里脇候。坪井山と申所に切所を前にあてヽ陣取候。城せむる越中衆は山下甚八。佐々平左衛門。前野小兵

衛。野々村主水。菊地伊豆。同十六郎。寺嶋甚介。同平之助。本庄與兵衛。野入平右衛門。齋藤半右衛門。佐々與（市イ）次右衛門。堀田次郎右衛門。櫻甚（勘イ）介。隨分覺の者共を被向。都合八千余騎にて押寄。町近放火可仕と致候處。城中より土井伊豫守町屋を被損て口惜仕合ニ候間。出て防戰すへきとて。上下貳百計にて突出。無比類働して討死仕。城中には奥村介右衛門。子息助十郎。千秋主殿助。瀧澤金右衛門。其外歴々の者共下知して持堅むるゆへ。寄手も雖蕁粉骨。不及落城ニ候。成政被申候は。定而利家加州より後詰する事有間。押へ息淸十郎被申付故。四千余の人數にて川尻と言所に陣取。加州よりの道をふさく。然處に末森より金澤へ注進候へは。利家公被聞召候て。金澤には舎弟（兄イ）前田藏人入道。魚（五十イ）住隼人。其外名有衆を留守居に被殘置。不破彥三。村井又兵衛兩人を先手ニ被成。金澤を卽日十一日の未刻に打立給ふ。利家公御意被成候は。末森には水乏く。定而城中の者共渴に可及候間。廣岡の名水を汲てたらいに入。急追付可申。後詰の土産にせんと被仰付。誠に名將の御言葉。いつれも感申候由。扨又同國松任と云所は。金澤より三里上の方也。是には御嫡子孫四郎利長（後肥前守と申候）居城なれは。急御出陣候へ。末森を成政數千を以せむる間。後詰被成候と使を被遣。又能州の人數も七尾には前田五郎兵衛父子被殘置。其外之侍共不殘末森へ出向へしと被仰遣。彼是時刻うつり被打立けれは。未ノ下刻に罷成候ニ同國津幡城迄四里の間を御急。程なく津幡に御着候へは。舎弟右近將監御向に。町はつれ迄出被申候は。少當城にて人數をも御待

合可被成候。其内孫四郎殿をも御待請被成。御尤に奉存候由挨拶なり。利家公も然は。先利長も津幡の城へ御着被成。利家公。利長公御父子。侍大將村井又兵衛。不破彦三。其外歴々衆被召寄被仰候は。成政とは互に若年より數度の合戰にあひ候。然とも利家を越候事一度も無之候。乍去無類の者也。我等を敵にしては成政いか樣におもふとも。中々不可思寄。左候へは夜中の後詰にて候得は。味方の人數は小勢。あなたは多勢なり共。打合候ハヽ。無二無三に一合戰心よくすへし。大利を得ん事案の内也と大音に御意被成候へは。各夜の明たるやうに心も晴て。いさましく御座候。扨寺西次兵衛入道。前田右近將監なと相談して。御前へ罷出被申上候は。もはや末森の城は落居可申候。殊更川尻へ神保父子四五千人數に而押へ罷出候と承候。

左候ハヽ味方利を得ん事難成奉存候。同は末森は被爲捨。此所を丈夫に御持堅被成候而。秀吉公へも御注進被成候ハヽ。さためて早速御出張可有候間。身を全く被遊。後詰の勝利御取御尤之由被申候處。利家公被聞食。以之外御氣色替り。左樣のよハ異見。二度無用　候。人ハ一代。名は末代と有金言不珍。自國へ敵に一足にても踏入られ。剰奥村土井千秋捨殺ては。以來天下を知ても此耻はすゝがるへからす。成政大勢にてあらは。我小勢馬廻り計にても。いさきよく一戰して。勝負を可決と被仰。扨又村井又兵衛を御呼寄被成。是非合戰とおもひ候。如何存候哉と被仰候へは。又兵衛申上るは。御意之通乍憚御尤奉存候。有無の御一戰を進め申。利家殊外御悦被成。村井に若くはなしと御大慶不斜。いつれも罷出候へ之由被仰。御出可被成

と被遊候處。右近將監湯漬の御食を被上候。其内重而被申けるは。當地に上手のはかせ御座候間。時取をは見せ御立可然と申されければ。御氣色よからず候へ共。それよべと御意候ゆへ。五十計なる山伏罷出候時。利家御覽被成。はかせは其方かと被仰候得は。頭を地に付罷出候か。山伏懐より物の本を取出して候。其時御意にはとかく後後攻とおほしめす間。能々見よと聲高に被仰候得は。山伏物之本を懐へ押入。今日者吉日。時分も能御座候と申上れは。殊外御擧有て扨々功者かな。能見候。頓而大利を得歸陣之節褒美可被遣と御心よけに御發足被成候。孫四郎殿とかく末森後詰をは御留可被成と思召。御家中の者も町屋へ被遣置候所へ。利家公俄に打出給ふを聞召。利長公御馬印を津幡町末迄横山三郎（後横山山城守）持出らるゝ。扨先手の

大將不破彦三。村井又兵衛兩先を押へ。其外原隱岐守。前田二郎。多那村三郎四郎。武藤助十郎（右イ）。片山内膳。岡島喜三郎。前田慶次。近藤善次衛門。青山與三なとゝ中歴々の者共を始。勇ミ進んて押出る。川尻より一里計此方。高松と申所にて利家甲の緒を強くしめられ。餘りたるを切て捨られ候へは。何も殿樣は今日をかきりと思召候と相見申とて。中々生て歸らん存もの一人も無之候。然は篠原勘六と申利家公御近習の侍。其時分廿三歳に罷成候。折節よこね煩。起臥不自由故。金澤の城に留守居に置れ候處。色々御供可仕由申候得共。是非／＼留り候て。自然我等討死せは。能く城を堅固に持堅め。秀吉公の出陣を待候へ。不叶は腹を仕候へ之由達而被仰候故。無力居申候得共。乘物に打乘。與力侍廿騎召連。川尻所にて追付。爰にて

具足を着。篠原勘六參候と大音にて申上る。利家公。利長公。御大慶不淺。諸傍輩下々迄。あつはれ剛强の若もの哉と譽申候。然は神保父子。川尻河を前に當。山の上に備。加州の押へとして居申候。津幡へ遣候目付立歸申候は。又右衞門殿御父子なから。津幡迄御出勢にて候か。中々後卷可被仕躰にて無御座候由相極候と申候へは。流石神保も尤左樣に可有事必定ト油斷被仕候。利家公ハ先手へ御越有て。不破。村井ニ御相談被成。濱はたを一騎かちに馬の舌をまかせて。いなゝかざる樣に押通被成候。此時たれやらん川端へ斥候に被遣。神保後詰を聞。人數を下し待居候か。見はからへと被仰付候處に見て歸。敵こそ備て待候と申上る。次に富田越後に被仰付。揃六物見して歸り申上るは。敵は御後卷不存候哉。一人も人數下し不申候。

川杭澤山に候か。人の樣に相見へ申候。早々御押通被遊候への由申。利家は御意に川杭とは何を目當に仕候哉と被仰候へは。越後申云。武者ならは並そろひ申間敷候。其うへ指物なとも可有候か。並能そろひ申候。猶もたしかに見屆んため。川中迄馬を乘入。心靜に見屆申候。是を見ちかへ候ハヽ。二たび武士を立ましきと申上る。利家公もいつれも尤たしかなる見樣。侍の手本と感し被申候。神保父子御通被成を夢にも不知。漸く加州人數おくれ候者とも。一里計も跡より追々に掛付候を聞付。きもをつふし。さては利家只今之通そと申候て。俄に鉄炮をうちかけ。さゝへ申候。其間に利家無何事。今濱と云所の右之上なる砂山へ押上被成候へは。ほの〳〵と夜の明かたに罷出候。利家公御馬を乘廻し被成。各はや兵粮をつかひ候へ。今日

の勝利可心易と被仰候得は。何も勇申候。其所にて何も下り立申候を見積候得は。孫四郎殿人數七八百計。彦三人數七百計。又兵衛人數六百計。御旗本千五百には不過候。利家公又被仰候は。今日の合戰於本意は。手柄之面々不依大小。上下一廉恩賞可被遣候。必々無類の働を見せ候へ。若於討死は。子孫を可取立と高聲に被仰候得は。侍も下々迄あわれ能大將軍の御下知哉と。そのつから御一言にて夜の明るやうに勇をはけまし候。御脇に被居候德ノ山五兵衛。御尤なる御意と申時は。御人數六千程は可有候。其より備を押出被成候處。道二筋有之。一筋は末森城への道一筋は成政本陣。坪井山への道に候。其にて村井又兵衛被申候は。つほい山へ押懸。成政をとりこに可仕由被申候得は。利家公被仰候は。尤に候へ共。内藏介足かゝりを取て可備候。唯末森へ押懸。先敵を追掃。城中の者共に安堵させせんと被仰。又兵衛も御尤奉存候。城中のもの共。只今の御意承候へは。悉可奉存候と申候。無程末森の近所へ押懸候得は。早村井家中間野新之丞首を取來。其外小林・六〔彌イ〕左衛門。三木十内野〔屋イ〕後・右〔六イ〕衛門なとゝ申侍頭十一手々に提け。又兵衛に高名仕候と見せ候へは。急き御本陣へと被申付故。早々利家公懸御目候へは。手柄を致候由御感被成。一番首の見樣有。もはや味方勝利無疑と被仰候。餘大音にて御下知候故。御息切れ候へは。如何と德山五兵衛入道被申上候付。大形の者共にはさのみ御言葉もかけ無御座。不破家中の者とも不破十左衛門。同四郎左〔有イ〕衛門。平野齋・〔宮イ〕其外誰々と名乘。首八つ討捕。是も彦三ニ見せ。則利家公御前へ參見參に入候得は。彌御機嫌能事不大形。扨又末

森の城二之丸居候千秋主水助。龍（瀧イ）澤金右衛門。其外侍共越中勢せめ入。をしこみ出し。被追入。數度雖盡勇功。終討死仕。もはや本丸計に罷成。大將助右衛門猶少も屈する無氣色。利家公後詰を待て持堅むる處。砂山に當て朝霧の間に。利家公馬印相見へ候間。城中の者共いさみに勇んて悦申候。今少後詰遲り候ハヽ。本丸迄も踏落され可申所。如此に速の御後卷。偏に利家公御武運强。冥加に御叶被成候と。いつれも申候。然は大手は敵味方入組。村井又兵衛。多野村三郎四郎なと。自身鑓を入。散々に戰候處ニ。村井又兵衛と越中衆の先手佐々與左衛門と鑓を合突合。村井上鑓に成。與左衛門を突伏被申候得は。越中先手大將分ニ而御座候故。身命を輕して三十騎計枕をならへ申候。加州衆は與左衛門討死するを見て。彌强く突懸押崩し。

閧をつくる。掛れ〳〵と申候故。敵敗軍仕候。利家公御旗本は。城中へ御入可被成由にて。搦手へ御廻り候處。爰にも越中衆頭分の侍。野々村主水。本庄與兵衛。齋藤半右衛門。櫻勘介。堀田次郎右衛門なと〻申者とも罷在候故。又戰申候。櫻勘介は鉄炮の上手故。味方手負死人多有之候。利家公御近習ニは御小姓笹原勘六。留田兵左衛門。北村作內。村井又六。木村久三郎。留田源六。御馬廻りには半田半兵衛。山崎彦右衛門。野村傳兵衛。小泉彌市郎。井口茂兵衛。奥野孫市郎。阿波加藤八。江見藤十郎。吉川平太。岡本七介。其外侍五十騎靜に懸候處。半田半兵衛眞先に進み。一番鑓を見よと云所を。越中方櫻勘介鉄炮ニ而打候へは。半兵衛左の手を肩へかけて打拔候故。鑓をいだいて倒れ申候。敵味方とは乍申。半兵衛と勘介は従兄弟にて

御座候故。打はうち候得共。指物にて見知候故。勘介も半兵衛相果候が不便成儀と及落涙之由。後聞へ申候。然處に利家公下知被成候は。加樣の鉄炮筋に延々とひかへ。味方に手負死人彌重而無益候。懸れ／＼と御馬印をふりかけ下知仕給ふ故。何の會釋もなく進ミ懸て押崩。越中衆野々村主水。本〔市イ〕庄與兵衛。齋藤半右衛門。堀田次郎右衛門。櫻勘介究竟の侍とも七十餘人枕を並討死仕候。加州勢勝関を噇と上申候。此時一番鑓。野村傳兵衛。山崎彦右衛門。笹原勘六。富田六右衛門。北村作内等二番鑓を仕申候。扨とそ利家公城中へ被爲入。先城中の與村は不及申。其外之者共迄不殘御言葉被懸。今度之働中々絶言語迄候。利家如何樣に存候共。其方共よはしくて。城を明るか。又下知あしくして城を被落は。口おしき事なるへきか。無殘所仕形。

手柄々々と被仰候。野村と山崎一番鑓。二番鑓の爭を仕候得は。利家被聞召。則高名之上中下。御穿鑿を可被成候。御意にて被仰出候は。半田は一陣を拔出先登を仕候處。冥加なくして深手を負申候故。一番鑓を不合。さとそ其身も殘念に可有候が。さりとも侍の志御あらはし候へは。譽不大形候。然は野村山崎一度に鑓を合すると申共。傳兵衛は今日の一番鑓と名乘候間。一番鑓は傳兵衛に極候由被仰。御感狀被下候。御恩賞は替儀もなく。兩人共に千石宛御加増被下候。半兵衛も御加増被下。本知共に千石に被成候。步行之侍十五人與力被仰付候。然處に成政の本陣へ利家公の後詰のよし聞候へは。內藏介殿御旗本を以。一合戰可被成由にて。佐々平左衛門。其外宗徒の者とも。以上八千計ニ而押出され候。利家公被聞召。此きほひ先ニは何

百萬騎にてもあれ。おそるにたらすと被仰。一番合戰を村井又兵衛に被下。二番をは城代與村助右衛門。多那村三郎四郎。三番不破彥三。四番孫四郎殿。五番利家公御旗本と軍法を被定候。川尻おさへ勢に罷在候神保父子も。川尻を捨て引返。神保に押られ候加州勢も。悉く末森へ來りけり。爰に能州侍長九郎左衛門。四五百計の人數にて。利家公被成御坐候所。廿町はかりあなた迄參候。利家公御覽被成。能州之味方勢か。又は成政方より能州境口に入置候人數共か。末森城責を聞參候哉。見候得とて。物見を被遣候處。長九郎左衛門也。末森おもて利家公御利運埒明申候を聞。九郎左衛門被申候。扨々無念之仕合。遲く懸付候事。高畠中川清六におさへられ。御合戰にはつれ候。偏弓矢之冥加つきはて候と。物見に參候脇田善左衛門野村七兵衛前にてもとゆひを切申され候。兩人罷歸。具に被立御耳候得は。不大形御感有て。長一人是迄身命をなけうつて參候事。忠功不淺と御感悅被成候。此時の九郎左衛門强みは。百度に一度の武邊と何も申候。則利家公よりも努て不思召。結局不淺擧之由。別而御懇切に御誓紙被下。九郎左衛門落淚を被仕。難有由被申候。同十二日辰刻。內藏介殿人數を引廻し。如何被思召候哉。山手へ付引退被成候。家利公。村井又兵衛と樣子御覽被成候得とも。切所故人數をも御付なく候。武者修行者。本田三彌なとは無二ニ御掛候而。成政を討捕候へと被申候。內藏介殿見事に人數を引のかれ候へは。さすがに能大將哉。成政なれはこそあの樣に手かるく被引取候とほめさるものは無御座候。扨又討取首數都合七百五十三あり。利家公御意被成候。

内藏介。末森。不破落候事を口惜おもひ。引廻躰に見せて。津幡の城を可責も不知。然は津幡不勢成間。可責落も不知間。是より又津幡へ御歸可有候とて。如本末森の城ハ。奥村城代に被仰付。歴々六人迄被籠置。何時によらす重ても。内藏介此表へ人數出ニは不移時日。可注進。然は後卷早々可被成旨被仰。奥村助右衛門。千秋主水。いつれも御褒美被下。其外の手柄ものとも。重而御吟味可有と被仰。末守御發足被成候。其時ハ御人數一万計程と相見へ申候。不破。村井また御先を被仰付。濱邊へさし懸り。成政の跡をしたひ。御馬を打入被成候得は。一向成政津幡へは心懸なく引退被申候。

一。内藏介殿鳥越城の近邊被押通候か。敵城なれは氣遣被成。押へを置。旗本を押被申候か。押の備より物見を出し。様子を見候處。城中には一人も無之由見て歸。此趣成政公へ申上候得は。是天のあたへと悦て。先御入候。是をは利家公露ほとも無御存知。津幡の城迄御著有て。其より近邊の城々末森まて御利運に被成。目出度津幡迄歸城候間。彌堅固に城を可相守候旨被仰遣候處。小林喜左衛門。鳥越へ參候か罷歸。鳥越は日加田又右衛門も。丹羽源十郎も明候て。敵入替り申候由被申上候。利家公御腹立不大形して。是より直ニ鳥越へ押寄可被成と御意候を。彦三。又兵衛。徳山入道。片山内膳なと達而被申候は今朝大利を得させられ候上は。鳥越の小城には。さのみ被懸御心間敷候。先御馬を被入。重而御取返し御心尤と被申故。同十二日酉刻には金澤の御城へ御歸城。御留守之侍并町人百姓共御迎ニ罷出。誠目出度御事。中々たとへを申に無言葉候。

一。末守表御利運の樣子秀吉公へ可被仰上と有て。御使者を被爲登候處。秀吉公御大慶不斜。則使者に御對面有て。今度利家の働。誠に日本國中にはヽかる計の手柄也。これみな我等への忠節を被思故と被仰候。前々より成政息女九歲になられ候を人質に取置を。乳母諸共ニ粟田口にはた物御かけ被成候。見るもの泪をなかし申候由。

一。同年十月十四日に。利家公鳥越近邊へ御馬を被出。民屋燒拂被成候か。被仰候は。此城をせめ落すへきとおもふか。其方共如何被存候哉と御尋被成候。不破。村井。多那村被申上候は。尤せめ落し候はん事は。案の內に而候へ共。城中にも二千計入置被申候由承間。左候はヽ。一萬騎三分一は損し可申候。成政富山の城に一万騎の勢にて居城之事候。大事を御かヽゑ候て。是ほとの小城に人數を御ついやし被成候はん事。能には無御坐候と各被申上候得は。尤と被仰候か。又御意候は。何とそして城中より足長に呼出し。付入に可被成と有て。足輕を懸ヶ色々手引被成候へ共。城主久瀨但馬守武邊功者故。少も構不申候故。近邊御燒拂被成候を勝に被成。歸陣被成候。其後は北國の習ひ。雪ふり候故。互に其年中は御弓矢御納被成候。

利家相働越中國中事

一。明れは天正十三年。山々の雪も消。二月十八日に。利家公村井又兵衞を召て被仰候は。去年鳥越の城を目加田丹羽臆病故明退。むざ〳〵と敵の城に仕事無是非仕合。鳥越中へ深働すへきと被仰候へは。御尤之由御請被申。御前を退出して私宅に罷歸。家來の內にて家老分の侍を呼出。內談被申候處に。小林大納言尾（屋イ）後太右衞門と云者。本國越中の

者にて。能案内知たるものに付。此者共申候は。蓮沼と申て。安居と今石動の間に。足かゝり能寺御座候。越中にての名所利波中郡兩郡の健者共彼地に御座候。是所を燒立候ハヽ。敵の弱りに而可有御座候と申候。又兵衞此つもりおもしろき積り成と。此趣利家公へ申上候へは。尤と被仰。村井申候は。然は御先を可仕と申候ゆへ。則一番村井又兵衞。二番は任勢。利長公の人數近藤善左衞門。山崎少兵衞なとを利長公御先を仕。八百計の人數也。其次右は岡島喜三郎。片山内膳。多耶村三郎四郎。八百余騎。其より不破彦三。武藤助十郎。前田又四郎。段々に押。村井は千騎の勢を引連。四井と云忍ひの者を召連。件の小林尾後にも案内させ。備を押。越中之內へ四里の間。同二月廿四日戌の刻に押入候故。中々くらき事前後も不被見分

候處。夜盜四井申候は。何としても。此くらきには無十方候間。今夜は先ッ人數御引取候へと申候。村井腹を立。利家公御前にて。かろ〳〵と御請申程の又兵衞か。闇の夜に恐て可引入候哉。歸り度は各歸國候へ。又兵衞は無二無三に可參と被申候。無程翌日廿五日之曙に。蓮沼近邊彼大寺一度に燒立。當るを幸に男女の嫌なく。三百計切すてに仕候處。案のことくきふね利波近邊の敵城より馳來て。ひしと付候。乍去村井無隱武勇の侍大將なれは。少も不働。諸兵に勇氣をはけまし。靜〳〵と引退處。兩城より操合突懸戰候。村井の內隨分の者共。七八人討死。然とも又兵衞馬印を押立踏留り。自身鑓を取て五六人突伏するを見て返シ合候。武士共。村井與力。吉川平太。江見藤十郎。大窪小五郎屋後太右衞門。阿波加五郎右衞門。小林大納

言。其外彼是二十騎計大將又兵衞左右ニ而。鑓を合申候。中にも吉川江見大將に被越たるを。無念におもひいらち懸りに。あまり强突合たる故。鑓を突をり。太刀うちして。鑓下の首を取。如此何も剛强働く故突崩。究竟の者共十三人首を取。勝時をあけ其まゝ引除候へは。二番松任勢請取。只今の御手柄目をおとろかし候乃由。挨拶して。近藤山崎とて。無隱勇士故鑓ふすまを作り。味方を勇め待かける處に。越中勢村井に突崩されし事を無本意おもひ候哉。又兩城より出たる人數。二手の人數。一手になり。突懸り。黑煙を立。手痛働候故。松任勢足本うき立て。少引退候處を。先刻被働候。村井又兵衞胴勢を進め。横鑓につき懸り候故。敵の備又崩色に罷成候。去共未崩之處。岡嶋喜三郎備ニ。利家公足輕大將。平野五郎右衞門。河村善五郎。

長田猪之助。百余人の鉄炮のものかしつき拔來。手つよく打立候故。堪忍しかねて。三千計の人數押崩。七八十首を取。高所へ引上候ニ付。越中勢も兩度に百計被打取候故。もはや不及戰。城々へ引退。森山神保方へ注進。加州勢足長に。是迄働候。早々御人數可被出。其中成政公も御出陣可有。さあるにおゐては。壹人ものかすましく候と申遣候へは。其間五里計の道にて候ニ付。神保馳着不申候內に。加州勢はや引取候。利家公利長公御父子は。越中の內迄御馬を被出。自然先衆難儀いたし候ハヽ。御救可被成とおほしめし候處。兩度に討捕首共を參持仕。御見參に入候へは。御滿足不斜。就中村井事を被仰は。又兵衞加樣の事不珍と御意被成。又兵衞具足羽織鑓ニ而突ぬかれ候を御覽被成。利長公御具足羽織。御陣刀脇指迄被下候。其時

片山内膳主事を。少いんけん口に申候へは。
利家公御意は。其方いんけんを又兵衛にい
はせ度と被仰。其より頓而御歸陣被成候。
一。右御歸陣被成て。追付村井をめして。今度
の一卷委く御尋被成。吉川平太。江見藤十
郎。屋後太右衛門。小林大納言。是は法印武□此四人
に黄金廿兩宛に。小袖二重宛被添下。其外侍
拾二人。黄金十兩宛被下。三人の鉄炮大將に。
は。米百石宛に小袖道服を被添下候。一兩日
過て。村井又兵衛に貳千石。御加增被下候。

越中勢燒働于鷹巢事

一。同三月廿一日。成政加州境目へ打出。山手
へ懸り。一里あまり働入。たかのすと云所へ
燒働に仕候。是は金澤の城より三里半。山手
に而御座候。彼地より注進有とひとしく。時
刻を不移。觸にも不及。はや貝を立よと被仰
候。御城に有合小姓。馬廻。又は貝を聞馳集
候侍。五六千騎被召連御出陣被成。御いそき
候へは。三十町御座候而。ほの〳〵夜明申
候。十町計先に人數相見へ申候。馬印を御覽
候へは。金のうちでの小つちに。赤きのふれ
んに候。扨は村井又兵衛也。早速に出たると
被仰。追付て。彌御覽候へは。村井百計にて。
はや眞先を仕る。其より五六町跡に不破彥
三。多那村三郞四郞。片山内膳三百餘の人數
にて押行候。利家公被仰は。今朝の出陣はお
そらくは利家と存候處に。各〻被奪。少は腹
立候と御おどけ被成候。村井は二之丸に被
居候故。貝を聞や否や罷出候故。一先に罷成
候。其より御急被成。頓而押付候へ共。越中
勢在家二三ヶ所燒失仕。引取候。乍去引おく
れ候者共を三十人。不破。村井兩手へ討取。
猶追付候處。切所のせはみへ引請て。越中衆
福岡與四郞。佐々平左衛門と申者共踏留り。

鑓を合。顯武勇候故。加州衆も少々しらみ申候。如此候故。敵方も見事に人數を引連退申候。加州衆うち取首共御見參に入候へは。當年兩度の首數見事吉例と被仰。御機嫌能御歸城被成候。

鳥越城責付菊地降參事

一。同卯月八日に。利家公金澤を御發足被成。御先手は御嫡子孫四郎利長公被成。鳥越の城へ御働候而。近邊の山へ御登被成御覽被成。御攻被成度思召候處。足懸りあしく候而。御攻候ハヽ。御人數損へきとおほしめし。先人數を城ちかく被寄。鉄炮を御うたせ候處。城中よりも物見を出し。此方のやうす見移候を。利長公御人數之内。足輕大將衆上坂又兵衛。原田又左衛門。小塚藤右衛門。其外歷々追懸。城きは迄追詰。會釋にて引出可申と見へ候處に。近々と引請。大將久瀬但馬守。其外名有武士四五百計門を開きて突て出。利長公御人數右之衆に追立られ。少々誠まくれ候やうに御座候。利家公御旗本御横合の山の出崎に御備候。御前には齋藤刑部。德山五兵衛。其外罷在候利家公もはやく歸鹽成か。少兵衛は何方に居申候哉と被仰候處。白羽織に鳥毛の棒のさし物。馬印は油しめやいちを付申候にて。追出申。利家公は少兵衛出たるは。はや勝と被仰候處。若き侍共。はや懸らんと仕候を。殊外御叱り被成。あの躰は味方足をためらるゝ所にてなし。能時分に高名さすへきと被仰候。德山五兵衛被申は。只今鑓合申と相見て。地煙立候と被申候。懸處近邊の敵城より馳合候故。敵〳〵備黑み申候。加州勢山崎少兵衛與刀七八間扱。鷲津九藏と名乗て鑓をうち合候を。山崎見物して不助。山崎内の者申は。九藏討死可

仕候。御すけ候へと申。少兵衛たまれさ被申内ニ。はや九藏つきたをされ候を見て。少兵衛進出鑓を合。上坂九郎左衛門鑓を合。足輕のものに細井彌左衛門と申者。鉄炮にて上坂か相手の鑓をたゝき落し飛懸。くみうちに鑓下の高名仕。此首尾組さいなや下のひきみへところひ落。終に敵をうち。おのれか差物をも刀をも拔すて。後敵の具足を着し。刀脇指をさし。羽織にて首を抱て歸候。越中方は。福岡與四郎一番鑓合。互に名乘合甚敷くさり合。終に越中衆を城きはまて追討にうち申候。此節半田源太郎。横山三郎。是は山城事也、神尾圖書。三輪主水なと手柄成。高名仕。鑓相手金卷猪右衛門。然は内藏之介殿馬廻り與力仕。杉江彥四郎と申武士。鳥越近所の城に番手に而居候か。鳥越之事を聞懸付候所を。利家公御小姓此節勘當かうむり被申九里少藏。彥四郎にわたし合。むすさ組て谷へ落。上を下へ返し。少藏に組伏られ。杉江刀ニ手をかけ候處に。下より少藏小脇指ニ而。草すりのはつれを二刀さし。はねかへし。杉江を押伏する。然共少藏草臥候所を。片山内膳家來。伊藤十藏跡より來り。少藏を押のけ相討さ申て首を奪取て參候。越中衆歷々の武士共廿騎被打取。中ニ倉地猪之助。野間兵部も被討。如斯加州勢面々に敵をうち被申候。城にも漸々門をさしかたむるゆへ。早々引拂。御馬を被入候。其夜則高名の上中下御穿鑿ありて。御褒美被下。中にも山崎少兵衛は黄金三十兩。小袖一重。不破彥三鉄炮之もの細井にも御知行被下候。杉江彥四郎首之事御せんさくありて。彌少藏取たるに相極。御前被免のみならす。鞍置馬を被下。

一。成政も。其比越中の面々召集。加州の取合を始候より此方。手柄の品々書付被置候衆へ恩賞給候。中にも前野小兵衛。佐々平左衛門兩人には。二千石宛加増被下。今度鳥越に而籠を仕候福岡與四郎には。黄金廿兩（三十イ）。刀脇指迄給候。

一。青野（越中氷見住阿尾イ）城主菊地伊豆守子息十六郎。談合申候は。利家之武運成政之武運を考候に。何としても成政次第に成ましく候。いまた内藏介殿急度して被居候内に。利家に味方申程ならは。定而可悦候。我等また成政譜代侍ならは。にくみも可有なれ共。元來門侍なれは餘儀理を忘れ候とは。利家も被思間敷候と評儀して。此由利家公へ富田治部左衛門。村井に此よし申候故。村井ひそかに申上候へは。利家公被仰候は。彼ものはかくれなき侫人なり。如何可有と被成御意候。又兵衛申上ルは。先御味方に可被成候。然は私家來を遣し。虚實を見せ可申と申上候へは。能樣に仕候得と被仰候故。又兵衛家老を遣し能々しめし合。ケ樣に仕候得と被申上候付。同年四月二日ニ。俱利加羅の城迄働ニ觸させ。津幡の城にて人數をそろへ。くりからをは右に見て。末森と飯の山の間より。越中國青野（阿尾イ）城へ被成御働候。先手は村井又兵衛。原隱岐守。片山内膳。岡島喜三郎。多那村三郎四郎。山口惣兵衛。其外都合六千余の人數に而。青野（阿尾イ）へ御著陣候へは。菊地父子唯五十計ニ而出向。我等式御味方を申上とて。悪所と申。殊に遠路之處早速御出馬忝仕合可申上樣も無之候由申上。則青野（阿尾イ）の城明渡。其身は五六町わきに居住申候。近邊菊地に不隨在所〳〵燒拂被成候處に。森山の城主神保方より此趣内藏介殿へ注進候へは。成政早々森

山迄懸付。菊地事にくき仕合。一戦して勝負可仕と有て。人數被出候へ共。はや青野(阿尾イ)の城へは加州勢入。利家公も御出馬なれは。無理に懸事も難成。人數を被納に付。青野(阿尾イ)城ニは前田惣兵衛。片山内膳。高畠九藏。鉄炮大將には小塚藤十郎。長田(永イ)權左衛門。人數千餘計入置。御歸陣被成候。

俱利迦羅鳥越兩城御退事

一。右のごとく。菊地さへ敵になり。利家公の武威次第に重り罷成候。成政も無類の大將にて御座候得共。日々に威勢よはく成て。俱利伽羅鳥越の兩城も。おのれと明のき。森山きふね利波(井イ)三ヶ所に取籠。おやべ川を前に當て。時刻を見合被申候。扨こそ礪波郡過半利家公の御手に入故。今石動に城を築き。津幡の城に被居候。前田右近子息 又四郎を被入置。越中の國中を見下給ふや。内藏介殿思案には。礪波郡過半利家手に入られ候間。定而勝に乘。おやべ川を越可被働。其時城々より打て出もみ合。有無の合戦すべきとて。方々に城を築き。森山城主は神保を大將にて。二千五百。利波(井イ)には前野小兵衛大將として二千餘騎。貴舟の城には佐々平左衛門大將にて二千五百騎楯籠候。益山の城には内藏助殿馬廻り替之番勢に被籠置。内藏介殿は富山城に一万計人數に而。時刻を待被申候。越後と越中の境目に城を取て。丹羽權平に五百餘添て被籠置。惣別越中大國に而候へ共。存之外人數過分に被抱候事。何も不審をなし候事尤に候。其故は最前尾州内府公徳川殿と一味して。一度北國の大將に可罷成覺悟して。上方或は諸國の侍ともを。五千石。六千石。七千石なとゝ約束して呼下し。又は千石と言合ては千五百石判形被遣けれは。

我等もしくと聞懸に引つとひ。越中へ心さし下候。扨所付を見れは。山多き國なれは。山野まて詰入。漸々一ッ五歩には過。貳ッニたらぬ物成ゆへ。人の知たる侍共暇を請。本國へ罷歸。或は加州利家公にとめられ。居留ル者も御座候。其内はや加越弓矢になれは。此上は流石見捨候事も難成。無是非居留り候故。おもひの外人數多御座候か。後には皆乞食の躰に罷成者數人有之由に候。如此成政一度は遂ニ本意ニと。時節を被考候を、利家公頓而御分別有て。初に違ひ輕々敷事毛頭無御座。勝て甲の緒をしめて。重ゝ弓矢を御取之故。内藏介殿も御手を被失候。

今石動軍事

一。同年五月中旬に。きふね城主佐々平左衛尉（門カ）。利波の城主前野をかたらひ。五千計の人數にて未明に おやべ川を打越。今石動の近所をやき立候。城主前田右近。子息又次郎。千五六百にて打出。猶以又次郎自身鑓を合。剛強を被働間。平左衛門被突崩候處。前野小兵衛入替り 。進懸候付。右近衆能もの共。拾人計討死仕候。其上被突立候處。くりからの城に罷有候。近藤善右衛門。岡島喜三郎。原田又右衛門。其外千計にて助來り。相對候。殊利家公 鉄炮大將平野與左衛門。眞先に進は。五十余挺の鉄炮を手きはよくうたせ申候。平左衛門もかへし合候へ共。右近父子もくりから助勢に力を得。强く被働故。越中衆つゐに打負。漸々おやべ川を越。敗軍仕候。右近父子五十計 首を取て城へ入。殘人數も倶利加羅へ 罷歸り候。此旨利家公へ注進被仕候へは。御大慶におほしめし候由ニ而。御褒美被遣候。

一。同六月上方より。秀吉公御書を金澤へ被下

候。其旨趣は。度々其表勝利之趣。首數之儀も注進之上を以。一々承屆候。誠に譽之段不淺候。北國仕置彼是に我等出馬可仕候間。必々奉衛に[illegible]働候事無用に存候。自然少ニ而も御仕負候はゝ口惜可存候間。其御心得尤之由被仰下候。

阿尾合戰付能登勢荒山砦乗取事

一。同六月廿四日に。森山城主神保安藝守。子息清十郎。五千余の人數ヲ以。氷見口へ相働候處ニ。青野城主に被入置候前田惣兵衛。片山内膳。高畠九藏。菊地伊豆守父子。其外二千余騎に而罷出。民屋燒せ申ましきと仕候處。はやくさり合て戰候得共。森山勢多勢に而候へは。加州勢突崩れ候。加州衆に小塚藤十郎と申是輕大將。高き所へ取上て。とみ返し〳〵手强ク鉄炮うたせ候故。あまり大崩は不仕候。乍去神保父子大音をあげて下知仕候は。誰にても目をかけるな。菊地父子と見は組打に仕候得。日本一の忠功ならむと一入强ク懸り候。殊に神保旗本を以。横合に進候。青野勢彌敗軍の色付候得は。菊地をうたせては武門の恥辱成と下知して。菊地を押隔て。爰を最後と被働候。しかる處に村井又兵衛利家公の御名代として。城々へ仕置の爲に。馬印迄にて上下三百余にて被打廻候か。折節青野へと心さし被參候。此よしを見て。扨々天道の惠みかなと被申。三百の人數を二手にして。馬印をふりて。横鑓に突懸候。青野勢悉く色を直し。進懸候。兼而村井手並を森山衆存候故。うちでの小つちの馬印を見。肝をつふし候由承り候。如斯候故。神保敗軍仕候。中坂と云所迄二里の間追打に五百はかり首を取。あまり長追しては切所なとにて被迫合。引取しほあい大事と又兵

衛下知被仕候故。引取申候。此趣幷能首八十三殘首は注進にて金澤の御城へ爲登申處。利家公御機嫌能事不大形。第一村井能時分に參合候事。利家公武運天道の御引合也。如何に參合候共。又兵衛剛强になくんは。いたつら事にて可有に。其身大剛のもの故。青野城の助に成と御感悅被成候。いつれも御褒美被遣中に。又兵衛には金子百兩御腰物吉例と被仰。青の御馬迄被下候。

一。能州荒山城。越中神保方より番手を置候處に。同國七尾衆。前田孫左衛門。中川淸六。高畠織部なと。大將分に而押寄候折節。城中に無勢に候。子細は何やらん。神保方に相談の事有て。跡々は三百計殘置參候を。七尾衆聞屆て押寄候故也。如此故卽時にせめ落し。五六十首を取殘者ともをは。山中へ追入罷歸候。利家公聞召。御褒美被下候。先年末森の城を內藏助殿被攻候時分。利家公より後詰可有間。其地引拂。末森迄出合候へと能州衆へ被仰下候處に。能州衆いつれも七尾へより合談合有之候得共。何も被申候は。能州勢漸々三千計の人數に而參候共。万一利家公無御出馬候はゝ。一騎一人も不殘可被打候間。今一度加州よりの御左右可相待と被申所に。長九郎左衛門被申候は。流石の名將利家公。能州を拂可罷出と被仰て。又御後卷を可被止候哉。某九郎左衛門も手勢計にて成共罷向。利家公御出陣におゐては。御眼前にて御先を可仕。若御出馬なくは了簡も無之候。我等計ても一合戰して討死可仕候。兎角利家公御判形次第に可仕とて。居城德丸へ歸。相野吉助と申軍配鍛練仕候者に吉凶を占せ被申所に。吉助申は。末守へ御座候共。御大事御座有間敷候か。利家公とは御對面

成かね可申は。子細はひしきもと申言葉に當り候間。利家公には障子一重ほどへだゝり候と申。九郎左衛門申候は。一段珍重成事。障子の一間程の事は踏破て。利家公御見參に可入と被申候か。持病のむね虫指發り申候故。中々出馬可成躰にも無之候を。家來岡嶋名兵衛と申覺之侍申候は。むね虫の藥は糞にしくはなし。御上り候得と申候へは。九郎左衛門氣色損し候を。名兵衛一口給へ。一段風味能候。利家公御爲と申候付。九郎左衛門利におれてのまれ候へは。程なくよく成て。纔の人數に而被致出馬。末森城へ懸付。無比類强みを被出候故。七尾衆失面目被申候か。今度荒山の城を落して。漸々恥をすゝき候よし。いつれも申候。

秀吉公北國御下向付佐々成政降參事

一。同年八月十八日に。秀吉公上方無事に被成。數万騎にて加州金澤の城迄御下向被成候。後陣はいまた越前北庄に在之由。利家公面目身にあまりて思召ゆへ。色々御馳走筆紙に盡しかたく候。然は內藏介殿。森山きふね刺波其外城へ引拂。富山に引籠り。神通川を前に當て。必死の一合戰と被存候。利家公は秀吉公の先陣を被遊。あんねうほう（安養坊の）坂の上に取出を拵。富山を見下し。川際迄日々夜々御働被成候。秀吉公御本陣は。呉服山に御すへ被成候。誠に成政の滅亡ちかきに有と何も申候。成政家老共を呼寄談合被申候處。山下甚八。佐々平左衛門申候は。秀吉公御出陣ゆへ。山も野も人數と見へ申候。今はいかに思召候共。御一戰成ましく候とかく御無事之御斷有て。秀吉公へ忠功被成候ハゝ。御家長久に可有御座。其上に御時節を御待可然由申上けれは此儀尤と被申尾州內

大臣。信雄卿へ御断被申上候付。瀧川下總。土方勘兵衛爲御使者秀吉公へ被仰上候處。兎角に成政には腹を切らせ可申と。御返事有之處に。重而兩人被遣。達而御詫言故然は如何樣とも信雄卿ニめんして助可申候。乍去利家次第と被仰候。利家被仰候は。某儀若年より終に內藏助に被越候事無之候。まして此兩年之弓矢にも終におくれを取たる事無御座候付。御助御尤と申され。秀吉公尤の被申樣也。さらは助可被成間。內藏介染衣の躰にて罷出候へ共。信雄卿御詫候の上は。無是非新川一郡可被下由被仰出。九月五日に內藏介殿出仕に相極り致出仕候。其時利家公の陣所を通り申候時。いつれも笑ひ申候。內藏介殿さこそ心中には無念に可有御座候へ共。さらぬ躰にて出仕被申。信長公御家に佐々內藏介とて。僅の身上の時より。日本國に名をあらはし。既に越中一國の主と成て。おそらくは名將にいはれ給へ共。武運のうすきゆへに候哉。又は利家公御武運宜故に候哉。今降參の身と成被申候事無是非事にこそ。

一。成政の出仕終ては。越中國御仕置被仰付。礪波射水郡婦負郡三郡を利家一兩年仕置して利長に渡可被申と御判形頂戴被成。新川一郡は內藏介に被下。加州金澤の城まて御歸陣被成。九月十日に利家公を召て。今度の忠功誠に不淺次第に候。內藏介大國を持。謀反を心かけ緣者むすひを企て。たはかり心を解させ。其上多勢を以て働候處。度々の合戰に切勝て。越中利波郡まて切取候事。無比類手柄之段。於日本武門之棟梁たるへしと御感狀に。羽柴筑前守と御名字御名共に其まゝ被下候。誠以末代にも有間敷御譽候。近

國他國にも感し候由。并利家公の家老を被召出。御直に今度の取合に各手柄上方へ相聞へ候。尤滿足不過之と被仰。先利家公御舍兄前田藏人入道には。久敷候而逢候由御意にて。御小袖御羽織被下候。村井又兵衛被召出。今度數度之骨折手柄。一々聞屆候と御意にて。金子百兩。長光の御腰物。御羽織被下候。不破彦三。黄金百兩。御羽織。前田右近も如此。長九郎左衛門。高畠彌次郎。奥村助右衛門。中川淸六。前田五郎兵衛なとにも。金子五十兩御羽織一宛いつれも其品々被聞屆。御ほうひ被下。其外五六人に金子二十兩宛被下候。誠利家公ありがたき被遊樣と頭を地に御付。御禮被成。御上洛之砌も不破村井被召出。度々に利家先手をして無比類働被仕。滿足申と被仰。御具足羽織被下候。何茂油由敷存候。それより追付御上洛被成候。

一。其年より。兩年過越中新川郡も利家公に代官分と被仰分。拜領被遊。其後筑紫御陣の時かんじやくの城を。利長公蒲生氏郷御責候時。利長公手柄候へは。扨も筑前守か子也。鷹は鵰を生ぬと譽申候。重而關東御陣の時も。利家公も御出陣被成候。上州松枝の城御働候處。城主大道寺駿河守詫言申上候間。城を請取。先勢へ大道寺被召加案內被仰付。武州八王寺と中關八州の名城なるを。御父子なから御越候時。きぬ川の早先手の人數半分ほと川向へ越候に。俄に大水出來て。中々船ならては通もなりかたきゆへ。人數つかへ候處。利家公京見ずといふ名馬に打乘被成。川中へ乘入給ふ故。我も〳〵と乘入わたすほとに。川下せきとめられて。一人も不殘渡し候。其夜川のこなたに御陣取て。一揆おこり。先乘大方打取可申候よし。何茂感被申

候如斯の御覺御坐候故。終に大納言の御位に御のほり被成候。既に秀頼公御もりに被爲成候事。前代未聞の御譽には無御座候哉。

一。右此書物數々取集申候事は。私義先年成政之馬廻に有之候處。末〔森ィ〕守御後巻の少前廉に。子細御座候而。ついに内藏介殿斷申。境目迄被進。加州へ罷越。利家公へ馬廻に罷出。末守後詰之砌も罷在。少分なから手をふさけ申候。能々加州越中取合の様子日記に任せ書付申候。今程は越前織田近邊に有之申候。久瀬但馬守も古傍輩故。被懸日候事。何茂可存候。右之通僞少茂無御座候。但落申事可有之哉。我等儀伏見御普請有之時分より。老人と申病者故。御暇を申候而。越前へ引込申候ゆへ。其後利家公御威光。委ハ不存候間。書付未申候。御若き御人様數度御使被下。御所望候間。只今日々の日記取集進上申候。秀細は堀江殿へ申入候間。早々申上候。老後之惡筆御一笑〳〵。

九月十五日　岡本慶雲判

長見右衛門尉様

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

續群書類從卷第六百三十六

合戰部六十六

謙信軍記上之一

傳曰。長尾六郎爲景入道道七者。北越後州ノ國主タリ。其先祖ハ鎌倉ノ權五郎景政ノ五代ノ後胤。梶原平藏景時カ孫葉ナリ。夫爲景ハ博學秀才ニシテ七道ニ達ス。故ニ道七ト號スト云ヘリ。就中ニ敷島ノ道ニ長シテ。數々褒貶ノ詠歌ヲ作レリ。或時百首ノ和歌ヲ詠シテ此ヲ禁裡ニ奉ル。其卷頭ノ歌ニ曰ク。蒼海ノアリトハシラテ稻苗代ノ水ノ底ニモ蛙ツ鳴ナリトアリ。況ヤ武道ニ於テハ。其兵ヲ用ユル術。孫呉ニモ劣ラサルヘシ。誠ニ文武兼備リタル良將也ト謂ツヘシ。

永正三年丙寅。上杉房義越中ニ在テ行迹無道ニシテ。政道正カラス。因是爲景此ヲ惡テ南溝ト云所ニ於テ一戰ヲ遂ケ。コレヲ撃テ亡セリ。永正六年己巳七月廿八日。上杉顯定軍兵ヲ引率シテ。武州ヲ發シテ越中ニ向ヒ。舍弟房義ノ爲ニ爲景ト一戰ス。爲景合戰ニ利無シテ。越中ノ內西濱ト云地ニ引退テ。先ツ陣營ヲ結テシハラク時節ヲ伺ヘリ。於是ニ顯定國府ニ入テ房義ノ政法ヲ改テ。賞罰ヲ行フト雖トモ。國人更ニ順服セス。翌年庚午ノ歲。國中一揆蜂起ス。

顯定此ヲ拒止ルヿアタワスシテ。終ニ信越ノ境ニ退去テ。長森原ニ陣ス。六月廿日。高梨攝津守戰ス。因是爲景時ヲ得テ大ニ興リ。武威日ニ盛ナリ。是ニ於テ越中一揆ノ士大將トモ大略討隨ヘテ而後信州ニ臨ム。其兵鋒比類無シ。信州ノ猛將村上賴平トシバ〳〵戰テ。每戰勝利ヲ得スト云ヿナシ。嗚呼命ナル哉。爲景越中ニ於テ流矢ニ中テ死ス。長男アツテ家督ヲ繼ケリト雖トモ。其國ヲ守護スル器量ニ非ス。次男ハ未タ幼稚ナレハ家老大臣等驕テ上ヲ蔑ニシ。國政ヲモ勤メス、剩ヘ逆心ヲ含テ國家ヲ傾ケンヿヲ謀ル。況ヤ隣國ノ旗下ニ屬スル諸士ニ於テハ。皆心ヲ變シテ敵ト成レリ。寔ニ是長尾ノ家ノ危急存亡ノ秋ナリ。其次男ハ後ニ長尾彈正少弼景虎ニ剃髮シテ謙信ト謂ヘルハ是也。享祿三年庚寅ニ生レテ。小字猿松ト云ヘリ。兒タリシトキ戲翫異樣ナルヲ好ミ。長トナルニ及テ短氣剛腸ニシテ。老臣ノ諫ヲモ用ヒス。其行迹尋常ノ人ニ非ス。故ニ老臣此ヲ惡テ此ヲ疎ンス。

天文六年丁酉。景虎八歲ニシテ彌老臣ノ諫ヲモ用ヒラレス。強暴ニシテ氣隨ナリ。因是ニ大臣等ニ拒出サレテ。關ノ山ニ移居レリ。于時先ツ米山ノ虛空藏ヲ拜シテ山上ヨリ山下ヲ見下シテ曰ク。我再國ニ歸テ逆臣ヲ打亡ヘキ時陣ヲ設クルノ地。必ス此山ニ在ント云ヘリ。相從フ者舌ヲ振テ膽ヲ消サスト云ヿ無シ。翌年景虎九歲ニシテ大臣等ヲ欺計。遂ニ國ニカヱルヿヲ得タリ。

天文十一年壬寅。景虎十三歲。天性發明ニシテ勇強人ニ超越セリ。故ニ父ノ早沒メ大臣逆心ヲ懷キ。其國家ヲ失ハンヿヲ患テ。逆臣等ヲ誅戮シテ先祖ノ國統ヲ續ンヿヲ思ヘリ。於是ニ伴テ大臣等ニ告テ曰ク。我レ父ノ恩澤ニ依テ

奉養豐饒ニシテ。身ノ辛苦ヲ不知。今吾レ修行ノ爲ニ出家ノ志アリ。汝等能ク兒君ヲ輔翼シテ國家ヲ安シ保ツヘシ。兒君若シ不才ニシテ輔クヘカラスンハ。汝等自此ヲ取ルヘシト云ヘリ。大臣等此ヲ聞テ內ニハ此ヲ悅フト云トモ。外ニハ僞テ此ヲ諫留メントス。景虎此ヲ聽スシテ遂ニ出去ル。大臣等モ亦此人國ヲ繼ニ於テハ。我等カ罪遁ルヘカラスト思テ。强テ此ヲ留ス。景虎乃チ廻國ノ僧ヲ倡(トモナイ)テ諸方ヲ經歷(レキ)メ。地形ヲ圖シ。人情ヲ探リ知ル。其從臣ニ語テ曰ク。我レ一世ノ中ニ武名ヲ天下ニ擧テ上洛セスンハアルヘカラス。然トキハ先北陸道ヲ打順ヘ。能登。加賀。越中。越前ヲ以テ吾功臣ノ領國トシ。京都ノ路ヲ通メ障碍無ク。畿內ヲ從服シテ公方ヲ守護シ奉テ。秋津洲ノ外迄モ此ヲ平治セント欲ト謂ヘリ。於是。越中。加賀。能登ヲ一見シテ。朝倉カ城府ヲ窺ヒ見ンカ爲

メニ越前ニ至リ。阿波賀ト云所ニ宿ス。朝倉此ヲ聞テ。其老臣朝倉次郎左衞門ヲシテ使者ヲ以景虎ニ言シメテ曰ク。當地御來儀ノ由承及ヒヌ。明朝予カ茅屋ニ入御アツテ麁飯ヲ召上ラルヽニ於テハ。本望ノ至何者カ如此ニト云ヘリ。景虎此ヲ聞テ姑ク思惟メ從臣ニ謂テ曰ク。思フニ是朝倉カ間者越後ニ在テ。我カ國ヲ出去ルヿヲ告來ル者ナラン。然時ハ是國ニ來テ地形ヲ知ルノ計無益ナリ。明朝早天ニ此ヲ立去ント云テ。先使者ニ對メ答曰ク。明朝一飯饗應有ヘキノ旨感悅不レ斜ナラ。必ス參扣メ可謝一禮ト云ヘリ。使者歸テ朝倉ニ告ク。朝倉此ヲ聞テ曰ク。此人ハ翌(アス)ノ未明ニ立去ント欲ス。是詐計ノ返答ナリ。我此ニ先タヽテ途中ニ出向ハント云テ。曉天ヨリ出テ道筋ノ村里ニ在テ相待テリ。景虎果シテ來ル。朝倉卽出迎テ相遇テ其志ヲ申フ。景虎ノ曰ク。予カ懇意甚タ恥

ルニ堪タリト云フ。朝倉對曰ク。公ノ智慮淺カラスト深感シテ有餘ト云ヘリ。乃酒肴捧テ御盃ヲ賜ランコヲ請ヘリ。景虎辭スルコ能ハスシテ此ニ盃ヲ賜ヘリ。獻酬禮畢テ即別ヲ告テ去リヌ。自是近江路ニ出。比叡山ニ登テ姑茲ニ安坐ス。于時高良神ノ遠苗宇佐神駿河守良勝ハ。本ト關東ノ管領ニ仕ヘシカ。時ノ危亂ヲ察メ身退テ性命ヲ全シ。良將ノ知遇ヲ待テ其志ヲ達ント欲メ姑ク比叡山ニ屏居ス。景虎此ヲ聞テ。三顧メ當世ノ事ヲ諮謀ル。良勝景虎ノ非常ノ資ナルヲ見テ。其家ニ所傳ル神武ノ大道ヲ說テ此ヲ授ク。景虎大ニ悅テ曰。願ハ予カ軍師トシテ相共ニ事ヲ謀ランコヲ請フト云ヘリ。良勝感激メ辭メ曰ク。公ノ天資ヲ見ルニ。寔ニ天ノ縱セル雄武也。何ヲ以テカ敎ユル事ヲセン。吾豈ニ師タルニ當ランヤ。自今以後相從テ臣タランノミト云テ。始テ君臣ノ義ヲ結ヒ。從是忠謀ヲ盡シ。軍事ヲ勤テ夙夜ニ怠ルコ無シ。越後ノ國ニハ大臣彌々君ヲ蔑ニシテ。放ニ國政ヲ執行ヘトモ。君グアンニシテ此ヲ制スルコヲ知ラズ。互ニ威勢ヲアラソヒテ群臣不和。殆ト危難ニ及ハントス。於是群臣憤ヲ懷キ景虎ヲ迎ヘ奉テ主君ト仰テ。國家ノ亂ヲ鎭メント欲スル者亦多シ就中忠義ヲ存スル者四五人。上洛メ叡山ニ登リ。景虎ニ謁見メ諫テ曰ク。冀ハ出家ノ御志ヲ止ラレ。早ク國ニ歸テ先祖ノ國ヲ繼保ツヘシ。然ラハ我等共無二ニ忠節ヲツクスヘキ旨再三言上ス。景虎ハ兼テヨリ如此アルヘシト料見セラルヽニ。其慮ルニ違ス。因是ニ參謁スル諸臣ニ對曰ク。諸臣ノ言ス所最可ナリ。然ラハ我レ國ニ歸テ後。縱ヒ非義ヲ行フト雖トモ。其命ニ違背スヘカラサルノ條。靈社ノ神文ヲ捧ルニ於テハ。國ニカヘルヘシト云ヘリ。參謁ノ臣共此ヲ聞

テ甚悦ヒ。急キ神文ヲ捧テ其命ヲ承タリ。是ニ依テ景虎越後ノ國ニ歸レリ。

天文十二年癸卯。景虎十四歳。頁勝ヲ召サレテ告テ曰ク。國家ヲ毒亂スル者ニ於テハ。タトヒ兄タリト云トモ追出スヘシ。況ヤ一家舊臣ノ逆心ヲ企ル者ニ於テ。此ヲ誅罰セサルヘケンヤト云ヘリ。卽チ前ノ神文ヲ捧ル臣等ニ命メ。戰兵一千餘ヲ引率メ米山ニ登リ。虛空藏堂ノ邊ニ陣ス。逆臣等此ヲ聞テ。軍兵ヲ率ヒテ米山ニ推寄スト云ヘトモ。一戰ニ利ヲ失テ悉ク敗北シ。又景虎ノ軍兵共勝ニ乘テ此ヲ追ヒ擊ントス。景虎サラニ同心無シ。暫時ク晝寢シ給ヒテ。既ニメ目覺テ令ヲ下メ曰ク。今也時刻ヨシト云テ。此ヲ追ウタセシム。逆臣共ノ士卒嶮岨ニ陷テ反シ合テ戰ヘキ手段ナク。討ルヽ者甚多シ。是景虎能ク地形ヲ知リタマフカ故ニ。敵ノ嶮岨ニ落ツヘキ時刻ヲ待テ。シハラク晝寢シタマフ。誠ニ淺カラサル知慮萬夫ノ雄ナリ。

此初合戰ニ大利ヲ得テ。而後逆臣ノ城舘ヘ推寄セ。或バ山野ニ合戰テ此ヲ誅戮ス。始終五年ニメ盡ク逆臣ヲ打亡シテ。國家ヲ平均ニメ。先祖ノ業ヲ中興ス。兒童ノ人ニシテ如此。英武雄功アルヿ。和漢今古比類ナキ事也。

天文十六年丁未。景虎十八歳。八月廿八日信州更級ノ村上義淸浪落シテ來歸ス。景虎ニ對面メ曰ク。我父祖ヨリ以來。公ノ父祖ト互ニ武威ヲアラソフヿ舊シ。而今其辱ヲ顧ス降參ヲ致スヿ別事ニ非ス。予十箇年以來。武田晴信ト合戰ヲ取結ヒ。シハ〳〵戰ヘトモ未タ勝負ヲ決セサルノ處ニ。當月廿四日。上田原表ニ臨テ十死ヲ遂ル處ニ。其利ヲ失テ敗軍ス。進退コヽニ谷テ依據處ナシ。故ニ玆ニ來歸メ公ノ庇蔭ヲ憑ム。願ハ公ノ武威ヲ以再ヒ更級ニ歸住セシメハ。一生ノ厚恩何事カ如レ之ニト云ヘリ。景

虎ノ曰。義清ノ憤寃ヲ察スルニ言語ノ外ニ有餘ヘシ。故ニ予カ所存ヲ伸テ此ヲ告ク。吾父爲景越中ニ於テ戰死ス。其後逆臣等アツテ國家ヲ傾ント欲ス。由是ニ國家殆ト危亡ニ及ヘリ。幸ニ某漸ク長トナツテ。五年ノ間ニメ盡ク逆臣ヲ誅戮メ國家ヲ保シ有テリ。今茲ヨリハ亡父孝養ノ爲ニ。先ツ越中ヲ打取リ。能登。加賀越前ヲ收メテ。而後關東八州海東七箇國ヲ服從シテ。京洛ニ上テ公方ニ謁見シ。一タヒ天下ノ權ヲ執テ。武名ヲ四海ニアラハサント欲ス。此吾素志ナリ。然レトモ義清ノ心底ヲ察スルニ。敢テ此ヲ默止シ難シ。姑ク北陸ノ事ヲ止メテ。武田晴信ニ對シテ一戰ヲ遂クヘシト云リ。義清此ヲ聞テ喜悅ノ餘リ。感襟(キン)ヲウルヲセリ。景虎ノ曰ク。我多年甲州ニ限ラス間者ヲ諸方ニ遣シ。國政ノ治亂軍ノ勝劣ヲ聞ケリ。義清ハ晴信ト多年累戰スレハ。晴信カ戰術法(シユツノホウ)其詳ナルヿヲ聞ント云ヘリ。義清答曰ク凡ソ晴信カ戰術ハ。譬ハ漏船ニ乘テ。風波ヲ凌クカ如シ。戒愼餘アツテ。率爾ニ以戰ハスト云。景虎曰ク。彼ハ正兵ナリ。吾奇兵ヲ以偏强ニメ進驅テ。此ヲ討ツニ如クハ無シト云ヘリ。乃群臣ヲ召メ此ニ告テ曰ク。吾今義清カ故ヲ以。亡父ノ爲ニ越中ヲ征伐スルヿヲ止ム。是孝ノ道ニ違テ罪ヲ天ニ獲ンヿヲ畏サルニハ非ス。然又吾レ思所アリ。義清ハ智謀足ラスト雖トモ。勇强人ニ勝レタリ。若彼ヲシテ更級ニ歸住セシメテ。吾前鋒トシテ。美濃。尾張。參河。遠江ノ諸將ヲシテ吾旗下ニ屬セシムルトキハ。開國ノ基此ニ在リ。子孫ノ父祖ニ孝アルヿ此ヨリ大ナル者アランヤト云ヘリ。群臣此ヲ聞テ對ルヿ無ク。只謹テ感スルノミ。於是ニ老臣ヲ召集テ。合戰ノ評定アリ。各其議ヲ奉ル。而後獨リ眞勝ヲ召テ軍謀ヲ決定ス。令ヲ下メ曰ク。當十

月八日。九日。十日。此三日ノ中信州海平ニ出陣スヘシ。家中ノ將士其用意アルヘシト相觸ラル。此時戰兵八千。雜兵此ニ應ス。今度始テ軍令ヲ出セル條ニ曰ク。

一。推行于他邦。則雖山野之一宿不可不陣者也。故荷粮負鍋而可專要軍食之不乏。並熟食之設。雖趣歸陣。上下共不可絕之事。

一。入敵地之中。非下令則不可妄放火亂妨。於何地亦可待令下。採薪芻牧亦同前之事。

一。行逢嶮難之地。則暫止立前後之備。令作道而後可推行也。於船渡與橋者。不亂列妄渡之事。

此外之法令者。皆如常定可相守者也。既十月八日ニ至テ。先備出陣ス。九日景虎出馬有リ。十日雜兵駄馬發足ス。乃信州ノ境內ニ入テ晴信ニ從服スル人ノ領地ヲハ。悉ク放火亂妨ス。未タ從服セサル人ノ領地ハ。異儀無メ味方ト成ラシム。同十九日海平ニ著陣ス。諸將ヲ集テ軍ノ備立ヲ評議ス。而後景勝ヲ召テ密議メ事ヲ決定ス。今度ノ駄馬奉行ハ。本城越前ト其子清七郎トニ命メ曰ク。駄馬ノ備ハ旗本ヨリ五六町退テ備ヲ立テ。陣氣ヲ揚ヘシト云ヘリ。一番備ハ長尾義景ト土倉也。此兩人ニ命メ曰ク。一手限ノ合戰ハ我家ノ法ナリ。進トモ退トモ。他列ノ力ヲ合スヘカラスト云ヘリ。二番備ハ柿崎和泉。直江山城。大關飛驒。柴田道壽。芋川播磨。安田上總介ナリ。此六人ニ命メ曰。先備ノ者共軍ヲ敗シ畢テ而後。一同ニ進驅テ。亂戰スベシ。其時吾晴信カ旗本ニ驅入テ。急ニ戰禦スヘシト云ヘリ。三番備ハ旗本也。甘糟近江ト。上田トニ命メ曰ク。吾既ニ進驅ストモ。汝等與ニ進ムヘカラス。只備ヲ堅固ニメ。敵ノ進來ルヲ待テ急ニ戰ヘシト云ヘリ。四番備ハ村上義淸。其手勢ト。高梨。淸野。窪田等ト合テ百五十

餘騎。其外梶色部此等ニ命メ曰ク。敵若シ横行ヨリ襲來ラハ。汝等奇道ヨリ此ヲ擊ツヘシト云ヘリ。今度ノ殿後ハ長尾義景ニ命セラル。義景モシ討死セハ。柿崎代ルヘシ。柿崎モ又討死セハ柴田此ヲ勤ムヘシト云ヘリ。於是ニ十月十九日卯時ヨリ人數ヲ繰出メ。巳ノ時ニ至テ矢軍始レリ。少時アツテ後先備兵士共鑓ヲ提ケ面ヲフラス。頭ヲ傾ケ。聲ヲ擧テ。一足モ不退。次第〱進驅ル。因是ニ敵軍戰ハスシテ二町半餘リ引退キヌ。于時義景勇進テ大再拜ヲ擧ケ。馬ニ鞭ウツテ。既ニ此ヲ驅破ントスル處ニ。景虎此ヲ見。直勝ヲ召連テ。早々先陣ニ馳往テ。金ヲ鳴シ令ヲ下メ。人數ヲ引取リ給ヘリ。義景怒テ曰ク。勝軍ニ臨テ引取リ給フヿ何事ソヤト云。直勝答テ曰ク。敵ノ前備ハ負色アリト雖トモ。後陣ヲ見ルニ。各備ヲ堅固ニセリ。今日ノ合戰黄昏ニ及ハスンハ勝負ヲ決スヘカラス。北雲ヲ見ルニ雨ヲ粘セリ。且又宵闇ナリ。是以テ早ク引取テ陣營ヲ結ハンニハ如カスト云。是ニ依テ義景怒氣ヲ止テ。殿後ト成テ引取レリ。此合戰午ノ下刻ニ始テ。申ノ上刻ニ終テ。各陣營ニ入レリ。其夜景虎諸將ヲアツメテ評議ス。義景柿崎進出テ、曰ク。明日一戰ヲ遂ラル、ニ於テハ必定勝利ヲ得ント云。景虎直勝ニ問フ。直勝對曰。熟々晴信ノ備立ヲ見ルニ。公ノ勇驍ニメ當ル所必ス破ル、ヿヲ知テ。專ラ不敗ノ備ヲ爲シテ。當戰ハンヿヲ欲セス。故ニ一旦此ヲ討破ルト云トモ。全勝ヲ得ヘカラス。唯幾ク度モ對陣アツテ。彼カ守ル所ヲ失ヒ。其怠ル所ヲ見テ。急ニ擊テ一戰ニメ全勝ヲ取ルニハ如カス。故ニ先小戰メ後ヲ謀ノ手段ヲ知ヘシト云。景虎此ヲ聞テ尤可ナリトス。乃同月廿三日歸陣ナリ。天文十七年戊申。景虎十九歲。信州表ニ發向セントス。諸將老臣ヲ集

テ評議アツテ。而後景勝ト議メ事ヲ決定ス。於是ニ五月十四日先備出陣ス。十五日景虎出馬アリ。十六日雑兵後勢發足ス。戰兵八千。雑兵此ニ應ス。同廿三日着陣ス。先備ハ甘糟。安田。春日。並ニ千本鑓ノ者共ナリ。千本鑓トハ越後ノ郷士ナリ。此ニ命メ曰ク。陣ヲ結テ陣ヲ張ルヘカラス。敵進來ラハ唯退戰テ。先陣ノ後陣トナル備ヲ守ルヘシ。二ノ備ハ旗本ナリ。川田上田等ニ命メ曰ク。先備ノ戰ニ戰ントスルヲ見テ。脇道ヨリ進驅テ先陣トナルヘシ。三ノ備ハ盡ク散亂メ。一手限ノ合戰ヲハケムヘシ。長尾小四郎ニ命メ曰ク。汝ハ中備ノ間ヨリ四五町引退テ備ヲ立テ。始終不進不退シテ。遠陣ノ勢ヲ張ルヘシ。又村上義清ニ命メ曰ク。其手勢一與ハ游軍ト成テ。催促ノ下知ヲ待テ加勢タルヘシ。如此ノ其手分。法令ヲ定テ總軍龍行ノ陣ヲ作テ戰ヲ待ツ。于時村上義清進出テヽ曰ク。晴信カ陣形ヲ見ニ。其形勢公ノ太刀風ニ觸テ。甚タ此ヲ畏テ。當戰フ志無キヿ疑所モ無ク相見ヘタリ。然ラハ向後信州表ヘノ發向御無用ナリ。願ハ今度某ニ先驅ヲ許サレハ。敵陣ヘ懸入テ。晴信ト組討メ勝負ヲ決シ。日來ノ無念ヲ散セントス。景虎此ヲ聞テ此ヲ宇佐神ニ問フ。宇佐神カ曰。去年ヨリ以來晴信ノ陣形ヲ見ルニ。尋常ノ人ニ非ス。尤義清ノ智慮ニ及所ニハ非スト云。由是景勝(虎カ)亦義清ノ所望ニ從ハス。戰ヲ攜テ此ヲ待テトモ。晴信堅守テ不戰。故ニ對メ徒ニ送日ヲ。於是景虎ハ七月五日ニ歸陣ナリ。

同年八月廿一日。越中表ニ發向ス。於是ニ越中ノ諸大將景虎ノ國境ニ入ト聞テ。各約盟ヲ結テ。己々ノ城舘ニ楯籠リ。景虎ヲ引入レテ四方ヨリ一同ニ蜂起メ。此ヲ引裹テ撃タントス。景虎群臣ヲ集テ評議ス。僉言シ上ルハ。越中ニ於

テハ神保椎名大敵也。先ツ此兩人ノ城館ニ推寄テ攻メ取ルヘシ。然ルトキハ餘ハ風ヲ聞テ皆降參ヲ致スヘシト云。景虎ノ曰ク。是甚不可ナリ。縦ヒ小敵ナリト雖トモ。四方ヨリ力ヲ幷テ起ルトキハ。吾亦兵ヲ分テ此ヲ抑拒カスンハ有ヘカラス。然ラハ吾戰兵八千アリト云ヘトモ。四方ニ分散スルトキハ。殘兵僅ニ四五千ナランノミ。此ヲ大手ノ小手ト云。兵法ニ此ヲ惡メリ。予姑ク此ヲ案スルニ。今度ハ吾先ツ彼ニ小弱ノ勢ヲ示メ。敵ノ心ヲ驕ラシメツヘシ。彼カ驕怠ノ機ヲ察メ此ヲ撃ンコトヲソカラスト云テ。九月三日早々歸陣ナリ。

同年十月五日。近習ノ者七人ヲシテ間者トス。三人ハ甲州ニ往シメ。四人ハ越中。能登。加賀。ニ往シム。因テ是ニ國主ノ政道群臣ノ行迹。庶民ノ風俗ニ至マテ。其善惡月々ニ此ヲ注進ス。

天文十八年己酉。景虎二十歲。信州表ニ發向セントス。軍評定畢テ。四月廿一日。廿二日。段々ニ出陣ス。五月朔日。海平ニ着陣ス。陣法去年ノ備ノ如シ。翌日使者ヲ以テ晴信ニ告テ曰ク。我レ村上義淸ノ爲ニ信州ニ出張ス。數々對陣スト云ヘトモ。未タ一戰ノ勝負ヲ決セラレス。願ハ他國ノ諸將ニ向テ武威ヲ振ハルヽカ如ク。吾ニ對メモ亦一戰ヲ勵サルヘシ。吾武勇ト雖トモ。豈他ノ諸將ニ異ナランヤ。明日ハ是非一戰ノ勝負ヲ期ス。必ス常ヲ守ルコトナカレ。若然スンハ是ヨリ越中ニ發向スヘシト云。然其晴信ハ必ス會戰スヘシトノ返答無シ。故ニ四五日對陣アツテ。其ヨリ越中ニ趣ケリ。六七月ノ間。越中境ニ陣シテ。小戰テ佯北ケ。敵ヲシテ驕ラシテ。早々以テ歸陣アリ。

謙信軍記上之二

天文九年庚戌。景虎廿一歳。例年ノ如ク信州表ニ進發ス。戰兵七千。雜兵此ニ應ス。五月朔日前備出陣ス。二日景虎出馬アリ。並ニ駄馬雜兵發行ス。同十日佐久郡ニ陣ス。翌日挑戰ヲ佯リ退ク。早々營ヲ結フ。十二日ノ曉天ニ陣ヲ拂テ越中ニ趣キ。敵ノ機ヲ伺察ス。六月下旬ニ至テ歸陣アリ。

同年七月越中ヨリ間者歸來ル。言上メ曰ク。風聞ヲ承ルニ。神保椎名其外ノ諸將。小利ヲ得ルニ驕テ。相共ニ謂テ曰ク。景虎重テ此表ニ出張セハ。全ク勝利ヲ得ンコ掌ヲ握ルカ如シト云ヘリ。然トモ。土肥。土屋。游佐カ輩ハ。相共ニ謂フ。景虎ノ智勇希世ノ才ナリ。近年當國出張ノ形勢ヲ見ルニ。弱ニ似テ不弱。强ニ似テ强カラス。是皆良將ノ用ル所ナリ。早ク密事ヲ以テ此ニ降參センニハ如カスト謂ヘリ。景虎此ヲ聞テ。川田豐前守ニ命曰ク。汝潛ニ越中ニ行テ。諸將ノ吾旗下ニ屬セントスル者アラハ。堅ク其約盟ヲ結テ來ルヘシト云ヘリ。川田命ヲ承テ早々越中ニ往キヌ。

天文廿年辛亥。景虎廿二歳。二月中旬越中ヨリ川田豐前歸來テ言上メ曰ク。土肥。土屋。游佐以下ノ諸將。公ノ旗下ニ屬メ二心アルヘカラサルノ旨固ク誓約セリ。急御出馬ニ於テハ。神保椎名等モ亦降參致スヘシ。若然ラスンハ。土肥。土屋。游佐等ニ仰付ラレテ。此ヲ退治アルヘシト云。此外ニ密事トモ多ク言上ストナリ。

同年三月上旬。甲州ヨリ間人歸テ言上メ曰ク。潛聞ク。晴信ハ公ニ對メ合戰スルコトヲ一大事トス。故ニ老臣諸將並軍事ニ狎タル者共ヲ集テ。日夜軍ノ評議アリト云。又高野山ヨリ妙

法坊心陽ト云出家。甲府ニ來テ。近習ノ寵臣市川七郎右衛門ト云者ヲ憑テ。晴信ニ謁見ス。虎卷ト云軍配書ヲ獻ス。晴信卽此ヲ傳受シテ此ヲ秘藏セラレ。彼心陽ニ信州ノ中ニ於テ。二箇所ノ領地ヲ寄附セラルト云。景虎聞之笑テ曰ク。虎卷ハ劍術ノ日取方取ノ書ナリ。軍術於テ用ルニ足サル者也。乃宇野ヲ召メ問曰ク。汝カ天官軍配書ノ中ニ虎卷アリヤ。其理ハ如何ン。宇野對曰ク。虎卷ハ劍術ノ用タリト云トモ。是亦愚者ヲ使カ爲ニ用ヒタリ。事ニ達シタルモノヽ信スル事ニ非ス。總メ天官ノ事。軍術ニ於テ無益ナリ。良將ハ時ニ當テ善ク此ヲ用ヒ。愚將ハ常ニ此ニ拘ル。察センハ有ヘカラス。景虎此ヲ聞カレテ。此理善哉々々ト感シ給フ。同年關東ノ管領上杉則政來テ。景虎ニ對面メ告テ曰ク。我積年逆徒北條氏康ヲ討亡サント欲メ屢合戰ニ及ヘリ。而今反テ利ヲ失テ敗走シテ來ル。自今我カ姓名ト管領職トヲ以テ永ク貴方ニ讓リ。吾ハ上野ニ隱居スヘシ。速ニ北條ヲ退治メ。關八州ヲ平テ。管領職ヲ繼カルヘシト云ヘリ。景虎對曰ク。命スル所尤佗事無シ。敢テ奉承セサランヤ。然ハ來春ヨリハ小田原表ニ發向メ。北條氏ヲ討平テ。公ノ憤懣ヲ散スヘシト云ヘリ。於是ニ北城ニ命メ曰ク。汝潛ニ上州平井ニ行テ。暫ク此ニ留テ北條カ形勢ヲ聞テ。委細ニ注進スヘシト云ヘリ。北城承テ卽上州ニ行ケリ。

同年越中ノ士ニ降參ノ者アリ。此ト密談アツテ。四月三日越中境ニ出馬アリ。而メ六月ニ歸國アリ。

天文廿一年壬子。景虎廿三歲。正月十五日群臣ヲ召メ此ニ告テ曰。我レ剃髮ノ志アリト云リ。各コレヲ聞テ敢テ諫ムルヿ能ハス。於是ニ剃髮メ名ヲ謙信ト號セラル。而後春日山ノ艮ニ

當テ。毘沙門ヲ安置メ。朝暮丹誠ヲ抽テ此ニ祈テ曰ク。吾一度天下ノ亂逆ヲ討平テ。此ヲ一統ニ歸セント欲ス。若此志遂クヘカラスンハ。只病死ヲ賜ヘトナリ。自是魚肉ヲ食セス。況ヤ女色ニ於テハ若年ヨリ此ヲ犯スヿ無シト云。

同年。信州表ニ發向ス。陣法悉ク前年ノ海平ノ備ニ同ジ。先備ハ義景手勢一千餘ナリ。與力ノ兵二百有餘アリ。三月十二日地藏峠ヲ越テ。武田勢ニ向テ以テ一戰ス。于時謙信令ヲ下メ曰。義景カ勢ヲシテ峠ノ半腹ニ退テ。武田勢ヲ誘テ峠近ク引寄テ而後。高處ヨリ落シ驅クヘシト。然ルニ義景令ヲ拒テ背テ退ス。故ニ謙信怒テ義景ヲ捨テヽ峠ヨリ五六町退去テ。遠ク其形勢ヲ候ヘリ。武田勢此ヲ見テ。氣ヲ得テ進戰ヘリ。義景萬死一生ノ勇猛ヲ勵ムト雖トモ。利ヲ失テ退去リヌ。翌日亦一戰セント欲メ。頁勝ト群臣ト共ニ評議メ曰ク。昨日ノ合戰ハ君臣和セサルカ故ニ幾ト危難ニ及ヘリ。無事ニ引取ハ是天幸ナリ。然ルニ今日又一戰アルニ於テハ。必定義景昨日ノ敗走ニ怒テ。令ヲ犯シ法ヲ破テ。陣法必ス亂ルヘシ大ニ利ヲ失フヿ有ンカ。由是一日對陣アツテ。同十五日ニ引取テ。從是直ニ東上野ニ出張ス。於是北城丹後守謁見メ言上メ曰ク。去年ヨリ平井牧橋ニ在テ。關東ノ風聞ヲ承ニ。當國ノ長野信濃守以下ノ諸將。君ノ爲ニ心ヲ傾テ忠義ヲ盡サント欲スル者過半アリ。其外管領則政家來ノ士共ハ。大小トナク君ノ譜代ノ士ノ如ク。皆一統メ君ノ來レルヲ待ト云。又武州ノ太田三樂。無二ノ志ヲ以テ既ニ其情ヲ內通セリト云ヘリ。謙信此ヲ聞カレテ曰ク。然ルトキハ。一兩年ノ中ニハ。關左八州ヲ從服メ。北條氏康ヲ退治セン事掌ノ中ニ在リト云テ。喜悅斜メナラス。又是ヨリ五月中旬ニ越中表ヘ發向アツテ。神保椎名

ト少々足輕合戰メ輕ク引取リ。六月廿八日ニ歸國ス。

同年九月下旬ニ。謙信使者ヲ以能登ノ畠山ニ告テ曰ク。予父爲景在世ノ時ハ幕下ニ屬セラルヽヿ歷然ナリ。今亦前例ノ如ク服從セラルヘキ歟。不然ハ越中ヲ退治メ後。速ニ一戰ヲ遂クヘシト云ハル。使者歸來テ。畠山ノ返答ハ謙信ノ外此ヲ聞者無シ。

天文廿二年癸丑。謙信廿四歲。長尾義景逆心ヲ企ルノ由其風聞アリ。此ヲ糺明センカ爲ニ姑ク他國ヘノ出陣ヲ止メラル。先春日山ノ要害ヲ修繕セラル。又奥越。庄內。佐渡ノ一揆押ノ爲ニ。甘糟。大關。隅田。春日。黑金等ニ命メ將タラシメテ。士卒ヲ率テ。三月十三日ニ發行ス。

同月下旬ニ將軍家義輝ヨリ。一色淡路守杉原兵庫頭兩使トメ來ル。將軍家ノ命ヲ告テ曰。相州小田原ノ氏康。近年放ニ武威ヲ振ヒ。北條氏ト稱號シテ。管領則政ヲ侵伐メ。國ヲ失テ浪落ノ身ト成ラシムルヿ不便ノ至ナリ。且又永享年中。關東ノ公方勅命ヲ違テ。由是終ニ誅戮セラル。然ルヲ其子孫ノ久我ニ在ル者ヲ立テヽ己カ女子ヲ妻セテ。此ヲ公方ト仰クノ由。上ヲ蔑ニシテ私ヲ專ニスルヿ無道ノ至。天罰ノ容サヽル處ナリ。然モ今此ヲ追討スルヿ。謙信ニアラスンハ誰カ克クスルヿヲセン。委細ハ兩使面上ニ此ヲ申フヘシト云ヘリ。謙信此ヲ奉テ。謹テ兩使ニ對メ曰ク。管領上杉則政。北條氏康カ爲ニ戰敗テ其國家ヲ失ヘリ。其家臣曾我兵庫助則政ヲ諫テ曰ク。此上ハ謙信ヲ憑テ。上杉重代ノ太刀天國並ニ系圖ト。管領職ヲ讓リ。則政ハ上州一國ヲ領地シテ。餘ハ悉ク謙信カ支配トシテ。氏康ヲ退治セシムヘシト云。則政此ヲ尤モ可ナリトシテ。卽余ニ就テ此旨ヲ告ク然トモ將軍家ノ命ヲ承スメ。爭カ私ニ

此ヲ受ヘケンヤ。先ツ氏康ヲ追討メ。而後上洛ヲ致シ。嚴命ヲ賜テ而後管領職タルヘシト。内々覺悟仕ル處ニ。幸ニ今關左八州ノ諸將。大小ト無ク過半隨順セリ。必ス二三年中ニ氏康ヲ退治メ。上洛ヲ仕リ。公方ヲ拜シ奉ント欲ス。此趣宜ク公聞ニ達セラレ給フヘシトナリ。兼又鎌倉ノ公方廢絶シテヨリ。關東八州ノ諸士上ニ畏憚ル所無キ故ニ。法度ヲ守スメ放埓ノ輩多シ。冀ハ公方ヨリ其人ノ器量ヲ擇ヒ給テ。鎌倉ニ下シ。公方ノ廢跡ヲ繼シメ給ハヽ。關東平治スヘキ歟。是誠ニ謙信カ欲スル所也。此旨兩使共ニ相心得ラレテ。以次ヲ奏達シ給ヘ。兩使三日逗留アツテ歸京セラル。將軍家江進物。

御馬二疋　越後布三百端

兩使ヘ各同ク白銀五拾枚。越後布二十端ツヽ送給ヘリ。

同年四月中旬。長尾義景カ逆心ノ事彌發覺ス。由是此ヲ誅セント欲メ。此ヲ召サルレトモ。義景コレヲ曉テ虛病ヲ稱メ出テス。卽彼カ舘ニ推寄テ誅セント欲レトモ。國中ノ騷動センヿヲ恐ル。於是謙信深ク謀計ヲメクラサレテ。義景カ居常ニ好所ヲ問ヒ給フニ。義景暑夏ノ節ハ船ヲ池水ニ泛テ。納涼ノ興ヲ催スヿヲ好ト聞給テ。陰ニ水練ニ達シタル船頭ヲ召サレテ曰ク。汝ハ我カ命ニ背テ出ト云テ。義景カ舘ニ行キ。我カ義景ヲ誅セント欲スルヿヲ告知シメヨ。然ル時ハ彼汝カ反忠アルヿヲ喜テ。必ス己カ船頭ト成ヘシ。其時船底ニ穴ヲ穿テ。義景カ游水ノ時池水ニ沈沒セシムヘシト云ヘリ。船頭委細ニ其命ヲ承テ。義景カ舘ニ行ケリ。如案ノ義景此ヲ喜フヿ。謙信ノ計所ノ如シ。船頭終ニ義景ヲ池水ニ沒溺メ殺セリトナリ。

同年五月中旬ヨリ。近習ノ者三人ヲシテ相州小田原ニ間行セシメテ其形勢ヲ諜カハシム。九月下旬ニ間人歸テ言上メ曰ク。北條家ノ群臣武功アル者多シト雖トモ。就中松田尾張守ハ智計深遠ニメ。軍用ノ具常ニ貯テヲコタルヿ無シ。士卒ヲ調練テ。勇進ノ志ヲ勵マス。故ニ氏康モ軍事ニ於テハ松田ト諸事評議セラルト云。此比ハ松田諸方ノ寺ヨリ鐘ヲ取寄テ。毎日此ヲ鑄鎔シテ鉄炮ノ玉トス。然ルニ鎌倉ノ或小寺ヨリ鐘ヲ取ントス。其住僧甚タ此ヲ歎惜スレトモ力及ハス。彼住僧別ヲカナシミ。鐘ヲ抱キ。涙ヲ流メ曰ク。我年來二六時中手ヲ觸スト云ヿ無シ。自今以後再ヒ手ヲ觸ルヘカラス。我此鐘ニ於テ殘念盡スト云テ。聲ヲ擧テ泣々立別ル。怪哉此鐘既ニ小田原ニ至テ。此ヲ鑄鎔サントスルニ。鐘ヨリ水煙ヲ吹出メ。炭火皆滅ヌ。如此スルヿ數箇度ニ及ヘトモ。毎度水煙ヲ吹出メ終ニ不鎔ケ。人皆此ヲ住僧ノ怨念ナリト云フ。然ルヲ老鑄師カ曰ク。古モ加樣ノ例アリ。牛馬ノ糞ヲ炭火ノ中ニ入ルヽトキハ止ムト云。由是牛馬ノ糞ヲ入ルヽトキハ炭火熾盛ニメ。鐘卽消鎔ストナリ。又盲目ニ情強ク意地ヲ立テヽ異相ナル者アリ。氏康此ヲ聞テ喜テ呼出メ。咄ノ者タラシム。然ニ彼盲目和順ニメ意地強キ異體無シ。氏康曰ク。汝意地強キ異相ナルヲ聞テ召出セリ。而今人ニ和順ナルヿハ何ソヤ。盲目對テ曰ク。君意地強キ異相ヲ好メリ。然ルニ能ク和順ナルヿハ。是異相ノ意地ニ非スヤト云。氏康甚タ與ヲ催セリト聞ト云ヘリ。謙信此ヲ聞給テ曰ク。氏康ハ奇兵ヲ好メリ。我正兵ヲ以テ戰ハント云ヘリ。

天文廿三年甲寅。謙信廿五歲。群臣ヲ召テ相議メ曰ク。數年信州表ニ發向スト雖トモ。未タ燒働亂妨ヲセス。是以テ信州先方ノ諸將トモ敢

テ難儀ニ及ハス。今度ハ多勢ヲ以テ四方ニ分テ。亂妨燒働スヘシ。此ヲシテ難儀ニ及ハシメハ。反忠ノ輩出來ンカ。於是戰兵一萬三千餘。雜兵此ニ應ス。卽五月廿七日。先備出陣。廿八日謙信出馬アリ。廿九日後勢雜兵發足ス。六月十日。河中嶋清野ニ著陣アツテ。諸勢ヲ分散メ。在々處々ニ放火亂妨シテ。同十二日ニ虛空藏山ニ登テ。鼠宿布下和田ヲ放火ス。案ノ如ク先方ノ侍共難儀シテ謙信ヘ心ヲ通スル者出來ヌ。五日逗留アツテ。同十八日ニ東上野表ヘ出張ス。又是ヨリ七月三日。越中ニ行テ椎名神保等ト對陣シテ。少々挑戰テ。八月二日歸國ナリ。

天文廿四年乙卯。謙信廿六歲。四月五日。信州河中島ニ出張ス。五日逗留アツテ同十日關東表ニ發向ス。氏康領內ニ入テ數月。足輕戰メ又是ヨリ越中表ニ出テヽ。九月十日ニ歸國セラル。此年十一月ニ改元アツテ弘治ト號ス。

謙信軍記下之一

弘治二年丙辰。謙信廿七歲。四月十日信州表ニ發向アッテ。其ヨリ六月三日關東ニ出テヽ氏康ト對陣メ。同月十日ニ歸國セラル。

同年十月三日。謙信大田三樂ヲ先鋒トメ。上州表ニ出馬ス。北條氏康亦出張シテ。時々對戰ス。時既ニ寒天ニ向フ。越路ノ雪ヲ畏テ。越後勢引去レリ。弘治三年丁巳。謙信廿八歲。四月三日信州表ニ出陣アリ。十二日河中島ニ着陣ス。六月十九日對陣ス。時ニ信玄ヨリ兩使ヲ以テ和睦アルヘキ由ヲ告來ル。謙信答曰ク。我村上義淸カ爲ニ累年信州表ニ出張スト云ヘトモ。未タ勝負ヲ決セス。徒ヲ苦メ兵ヲ勞スルノミ。是義淸カ爲メニスル所ナリ。近年又上杉則政カ爲ニ。小田原表ニ出張メ。北條氏康ト一戰ノ勝負ヲ決セント欲ス。且亡父ノ舊敵タルニ由テ。越中表ニ出馬メ。椎名神保ヲ撃テ亡サント欲。是ヲ以テ用兵ノ疲勞勝テ言フヘカラス。而今公ト和睦ノ儀素ヨリ余カ冀フ處ナリ。然ラハ今年ハ各迭ニ引去テ。來春ニ及テ信越ノ境ニ臨テ一タヒ對面センヿヲ期スト云テ。五月廿三日。兩陣迭ニ引去テ歸國セラル。

同年七月下旬ニ。甲府ヨリ間者歸來テ言上メ曰ク。今度信玄和睦ヲ請ハルヽノ意趣ハ。去年將軍家ヨリ兩使ヲ以テ。北條氏康ヲ退治スヘシトノ命ヲ蒙レリ。是ニ依テ先ツ北條ヲ撃ント欲メ。姑ク和儀ヲ請ト云。又一說ニ。君ノ武威日ニ盛ナリ。武田家危カルヘシト思ハレテ。和ヲ請ハルヽノ風聞モアリト云ヘリ。謙信此ヲ聞カレテ暫ク思案メ曰ク。兩說未タ分明ナラス。弓斷スヘカラスト云ヘリ。

同年上州沼田ニ發向メ。北條氏康ニ對陣ス。然トモ兩陣ノ間難處ナルカ故ニ。雙方只矢軍足

輕戰ノミニシテ日ヲ送レリ。九月上旬ニ歸國アリ。

永祿元年戊午。謙信廿九歲。三月中旬。信州表ニ出馬アリ。時ニ西川ノ渡雪水大ニ漲來テ。雜兵百六七十溺死ス。是ニ依テ早々歸國アリ。

同年四月二日。信州表ニ出張ス。今回ハ武田信玄ト和睦アルヘシトノ風聞アリ。人民此ヲ聞テ悅ヘリ。然ルニ其儀モ無ク。築摩川ノ邊ニ百餘日陣ヲ結テ。七月上旬ニ及テ歸國アリ。

永祿二年己未。謙信卅歲。三月十一日信州ニ出馬アッテ。同廿一日ニ河中島ニ著陣ス。既ニメ四月三日直ニ越中表ニ出張アッテ。椎名神保ト和睦セラル。六月九日ニ歸國アリ。是北條氏康ヲ退治スヘキカ爲ナリ。北條ハ大敵ナリ。大敵前ニ在リ。小敵ヲ事トスヘカラスト思ハルヽカ故ナリ。

同年七月上旬ニ。關東ヨリ間者歸來テ言上メ曰ク。關八州ノ諸將大小ト無ク。公ノ出馬ヲ待テ。北條ヲ退治スヘシト謂ル由。其風聞アリト云ヘリ。謙信此ヲ聞給テ曰ク。時至レリ。來春ハ早々小田原ニ發向メ。氏康ヲ退治スヘシト云ヘリ。其比客星出タリ。謙信宇野ヲ召テ此ヲ問ハル。宇野對テ曰ク。凡客星變氣ハ出生ノ方ニ就テ。其吉凶ヲ占ヘリ。今此客星ハ越國ニ出テヽ相州ニ當レリ。是北條氏ノ凶惡也ト云。謙信聞給テ曰ク。大概占家ハ我吉ヲ言ヿヲ好テ。我凶ヲ言ヿヲ惡メリ。天時不如地利。地利不如人和ト云ト言ヘリ。

永祿三年庚申。謙信卅一歲。三月中旬相州小田原表ニ發向ス。戰兵八千。雜兵此ニ應ス。其外關八州ノ侍共。謙信ノ武威ニ懾服メ。草ノ風ニ偃スカ如シ。且八州ノ外ト雖トモ。管領則政ヘ志ヲ通スル諸國ノ侍共馳來ル由。是ニ一箭ヲ發サス。一刄ヲ接ヘスシテ隨順スル軍兵八九

萬ニ及ヘリ。先備既ニ大礒ノ邊ニ陣スレハ。後備ハ藤澤。田村。大鏡八幡ノ間ニ陣セリ。謙信ハ高麗山ノ麓ニ陣ス。先手ノ一番備大田三樂ハ小礒ニ陣ス。時ニ謙信常ニ操レル所ノ朱裁配ヲ捨テヽ。大根ノ折掛ケ驗ヲ操テ。諸陣ヲ馳廻テ令メ曰ク。諸軍皆一同ニ鬨聲ヲ揚テ。先敵ノ氣ヲ奪ヒ。而後ニ螺音ヲ聞テ進驅クヘシト。於是ニ諸軍一同ニ鬨聲ヲ揚テ既ニ驅向ハントスルトキ。小田原ノ軍兵共一戰ニ及ハスシテ皆敗走ス。先手ノ軍兵共。小田原ノ城下蓮池ノ邊マテ追迫テ此ヲ撃テリ。此時謙信ノ武威ノ雄盛ナルヿ。日本ノ諸大將ヲ合タリトモ謙信一人ノ鋒ニ當ルヘカラサルカ如シ。於是ニ鎌倉山内ニ在テ。京都ヨリ近衞殿下ノ公達ヲ迎下メ。公方ト稱メ此ヲ仰キ。謙信ハ管領ノ職ニ任セリ。四月十五日。鶴岡八幡宮ニ社參アリ。其時上杉則政ノ老臣。大石白倉。長尾小幡等奉從シテ。八州ノ諸士ヲ率テ神前ニ伺候セリ。越後譜代ノ士ハ皆甲冑ヲ帶メ。辻小路ヲ警固ス。爰ニ忍ノ城主成田長安。神前ニ於テ警固ノ武士ト口論セリ。謙信此ヲ聞給テ大ニ怒レリ。長安畏テ虚病ヲ稱メ己カ舘ニ歸レリ。謙信此ヲ誅セント欲スレトモ。今度始テ八幡ヘ社參ナルカ故ニ此ヲ宥テ罪セス。由是ニ關東ノ諸將離散スル者多シ。於是ニ翌日上州平井ニ歸テ。五月三日ニ歸國アリ。

同年六月十日。謙信越後ヲ立テ上洛セラル。同廿八日京著ス。七月七日公方義輝公ヘ參謁ス。奏者細川兵部太輔藤孝ナリ。進物御太刀一腰吉光。御馬一疋。馬代黄金三十枚。母公慶壽院殿ヘ進物有明蠟燭五百挺。緋白三百端。白銀百枚。一乘院殿鹿苑院殿ヘ進物同前也。公方ノ上意ニ曰。今度北條氏康退治ノ爲ニ粉骨ヲ盡サルヽ處ニ。未其休息ノ間モ無ク。早々上洛アル

ヿ。感悦ノ至ニ堪ス。自今以後關東管領タルヘシ。卽輝字並ニ網代ノ輿ヲ許シ給テ。管領上杉輝虎ト稱セラル。輝虎謹テ上意ヲ奉メ曰ク。某一生ノ中ニ無道ノ國ヲ追討メ。天下ノ諸侯ヲメ京師ニ參勤セシメ。尊氏卿御治世ノ時ノ如ク。四海ヲ一統ニメ。武將掌握ノ中ニ在シメント欲ス。是吾素懷ナリト云ヘリ。公方聞召シテ御感不斜也。當時亂世タルニ依テ。早々御暇ヲ給レリ。時ニ輝虎細川兵部大輔藤孝ヲ以テ密ニ言上セラル。只今三好カ行迹ヲ察スルニ。逆心ノ企アルヿ顯然タリ。某幸ニ上洛セリ。願ハ嚴命ヲ蒙テ速ニ三好ヲ討亡サント云ヘリ。公方聞召テ曰。三好カ逆心其迹未タ顯レス。事ノ發覺スルニ及テ重テ此ヲ命セラルヘシトナリ。輝虎モ强テ言上スルハ。彼ヲ讒スルニ似タリ。故ニ重テ言上ニ及ハス。同月廿五日歸國ス。

永祿四年辛酉。輝虎卅二歲。正月十五日ニ。諸臣ヲ召テ曰ク。吾多年信州表ニ出陣スト云トモ。信玄我ト戰ハンヿヲ欲セス。故ニ其陣形ヲ堅メ常ニ只守テ變スルヿ無シ。如何メ彼ト戰テ勝利ヲ得ン。例年ノ如ク各其謀議ヲ紙面ニ記メ。追日ヲ奉捧ヘシト云ヘリ。諸臣皆奉命ヲ退出ス。

同年七月中旬ニ甲府ヨリ間者歸來テ言上曰。信州ノ先方士ノ中。信玄ニ對メ逆意ヲ含ム者アリ。故ニ此ヲ糺明セント欲メ。河中島ニ至テ終ニ悉ク此ヲ誅戮ス。因是ニ先方ノ士トモ狐疑ヲ生メ二心ヲ懷ク者多メ。信州ノ中不和ナリト聞ケリ。又去ル六月。信玄和利カ嶽ニ臨テ小城ヲ攻ルニ。多ク士卒ヲ亡メ。力ヲ竭メ攻拔ノ由風聞アリト云ヘリ。謙信此ヲ聞給テ。默メ言ハス。其翌日諸臣ヲ召メ曰ク。三軍ノ禍ハ人ノ狐疑スルニ過ルハ無シ。是レ一也。兵法ニ

曰。乘勞ト云ヘリ。是二也。急ニ信州表ニ發向スヘシ。諸臣ノ謀議ヲ記メ進ムヘシト云ヘリ。諸臣各謀議ヲ獻ル。謙信一覽アッテ頁勝ニ命メ謀策ノ上中下ヲ分シム。而後謙信三等ヲ見テ曰ク。今吾下等ノ策ヲ用テ發向スヘシト云ヘリ。諸臣此ヲ疑フ。謙信ノ曰。上等ノ策ハ信玄既ニ知テ備ヲ設テ待所ナリ。既知テ相待ニ出テヽ。何ソ勝利ヲ得ンヤ。中等ノ策ハ累年ノ手段ナリ。下等ノ策ハ信玄カ不意ニ出テヽ。十死一生ノ合戰ナリ。今我此ヲ用テ勝負ヲ決センノミ。然ラハ先貝津ノ城ヲ蹈越テ。西條山ニ陣メ。彼ヲ圍ムカ如クニメ此ヲ攻ス。信玄カ後詰ヲ待ヘシ。深ク敵地ニ入トキハ。タトヒ我軍敗ルトモ散亂スヘカラス。越後ヘ引取ト云トモ敗北ストハ謂ヘカラス。兵法ニ曰ク。歸師勿遏ト云ヘリ。又信玄西條山ヘ寄來テ攻ルトキハ。彼カ陣形常々ノ守ヲ失ヘシ。其時我無二ノ一戰ヲ遂テ。勝負ヲ決ヘシ。又信玄直ニ貝津ノ城ヘ入トキハ。我急ニ攻テ無二無三ニ乘取ルヘシ。又信玄河中島ニ陣メ越後ノ通路ヲ遮ルトキハ。我雨宮ノ渡ヲ越サス。直ニ西條山ヨリ貝津城ヘ取懸ケ。一時攻ニメ貝津ノ城ヘ入リ。信玄カ寄來ルヲ得テ勝負ヲ決セン。兎角此行ハ信玄我ト一戰ヲ遂ルヿ。是吾願フ所ナリト云テ。八月下旬ニ西條山ニ陣ス。時ニ信玄後詰トシテ卽來リ。雨宮ノ渡ヲ遮テ。六日對陣メ而後廣瀨ノ渡ヲ涉テ。貝津ノ城ニ入レリ。於是謙信九月九日ノ晩景ニ及テ。諸將ヲ召テ曰ク。信玄ハ明日必一戰ヲ遂ケント欲スト見ヘタリ。今夜速ニ子ノ刻以前ニ雨宮ノ渡リヲ越シ。河中島ニ陣メ。潜ニ信玄カ諸軍ノ西條山ヘ向ヲ覘テ。旗本ヘ突懸リ。其不意ヲ撃ツヘシト云ヘリ。頁勝其命ヲ承テ令メ曰ク。各陣火滅シ。熟食ヲ調ヘ。枚ヲ含テ言ハシメス。寂々ト

メ捨篝火ヲ殘メ亥ノ上刻ヨリ立出テヽ。子ノ下刻ニ河中島ニ到著ス。其令ニ違ハス。雜兵ニ至マテ一人モ殘ラス來著ス。寅時ニ至テ備ヲ立戰兵八千前備ノ大將ハ。柿崎二千餘七手組。次ハ輝虎一千餘五手組。内近習四百騎。後備ノ大將ハ甘糟二千五百餘六手組。直江一千五百餘八手組。次ハ雜兵駄馬ナリ。備ヲ立替リ。一手限ノ陣法ナリ。明ル十日。卯ノ上刻謙信ノ察シ給フ如ク。信玄貝津城ヲ出テヽ築摩西川ノ邊ニ陣メ。善光寺ノ道筋ヲ遮リ。越後ノ往還ヲ塞ケリ。然ルニ謙信ノ諸軍不意ニ出タリ。信玄備ヲ立直メ。既ニ兩陣ノ先備戰ヲ接テ迭ニ勝負ヲ爭フ處ニ。謙信大根ノ折掛驗ヲ伏セテ。潛ニ脇備ヨリ信玄ノ旗本ヘ驅入リ。左右七八町ノ間ヲ究崩シ。究竟ノ士大將トモ數多討取レリ。然ル處ニ西條山ニ向フ甲州ノ諸將此ヲ聞テ。追々ニ驅來ル。其兵勢ニ力ヲ得テ。信玄ノ旗本勢又暫ク蹈止レリ。是謙信ノ豫ヨリ信玄ニ會メ。一タヒ太刀打ノ勝負ヲ決メ驅通ルヘキ陣法ナリ。故ニ甘糟カ備ヲ以テ大將ノ本陣トシ。謙信ハ後陣ヲ先陣ト爲テ。敵ノ不意ニ出ルノ兵術ナリ。合戰ノ以後。謙信諸將ニ語テ曰ク。笠ノ如ナル甲ヲ著シ。手ニ團扇ヲ持テ牀机ニ踞(コシカケ)タル武者アリ。是信玄ナリト見テ。馬上ヨリ三刀續テ打テリ。時ニ牀机ヨリ立上ントスル所ヲ。又二刀續テ此ヲ打。卽笠ノ甲ノ端ニ當テ。牀机ノ上ニ落ツ。時ニ我カ乘所ノ馬太刀音ニ駭テ驅出タリ。其時後ヲ顧ハ。信玄ノ旗本勢甘糟直江ニ相向テ。入亂テ相戰テ。廣瀬川ヘ引退ケリト云ヘリ。後ニ彼牀机ニ踞タル武者ヲ問ヘハ。是信玄ナリト云。始ハ越後ノ通路ヲ遮塞テ。越後勢ヲ擊取ント謀レトモ。反テ甲州ノ歷々士過半討レテ。越後勢ハ名アル士一人モ討レス。唯途ニ迷タル雜兵少々討ルヽハ

カリナリ。此時甘糟西川ノ邊ニ三日陣ヲ張テ雜兵ヲ集メ。勢ヲ揃テ歸ル。謙信モ三日善光寺ニ逗留アツテ。使者ヲ以テ信玄ニ告テ曰ク。今度ノ合戰ニ於テハ。有無ノ勝負ヲ決セント欲スル處。其志ヲ果サス。由是ニ此地ニ逗留メ未タ國ニ歸ラス。近日亦再會メ一戰ヲ決セントト云ヘリ。信玄答テ曰ク。先今度ハ迭ニ引去テ。軍兵ノ勞ヲ休メ。明年ニ及テ速ニ對陣スヘシトナリ。謙信善光寺ニ在テ。卽兵士ノ軍功ヲ論シ。時刻ヲ移サス功狀賞祿ヲ與テ。而後歸國アリ。凡今度ノ合戰ハ。信玄ノ負ニメ謙信ノ勝ナリ。其如何トナレハ。謙信ノ計ル所百皆違コト無シ。信玄ノ思所ノ手段相違メ。謙信ノ謀圖ノ中ニ落ラレタリ。法ニ曰ク。智先於人者勝。後於人者負ト云ヘリ。謙信ハ智先於人ニ。能致人者乎。信玄ハ智後於人ニ致於人者乎。且信玄太刀創ヲ被テ危ニ及ヒ。一族歷々ノ侍大將トモ討レタリ。越後勢ハ雜兵少々討ルヽノミ。是辨察セスンハアルヘカラス。

同年十月謙信近習ノ士四百五十騎ニメ。信越ノ境ニ出馬アツテ。道橋田畠等ノ修理ヲ仰付ラレ。一日逗留メ歸リ給ヘリ。

謙信軍記下之二

永祿五年壬戌。輝虎卅三歲。三月上旬ニ。武州松山城代。上杉友貞。北條武田兩將ノ爲ニ攻圍ルヽノ由。大田三樂方ヨリ注進ス。輝虎ノ後詰ヲ乞ヘリ。由是卽戰兵八千ヲ引率メ越後ヲ發ス。上州牧橋ニ著陣スル。其二日以前ニ友貞ハ松山ノ城ヲ開テ退去レリ。輝虎大怒テ。三樂ヲ召テ此ヲ責ム。三樂兼テヨリ輝虎ノ怒ルヘキコヲ慮テ。友貞カ人質ヲ相具シ。城ニ籠置ク所ノ用器トモ悉ク記注メ。此ヲ持參メ輝虎ヘ言上ス。友貞カ怯弱言ニ足ラサル者ナリ。如此ナル者ヲ不知シテ城代トスルコ。是偏ニ三樂カ罪ナリト云ヘリ。輝虎怒テ卽友貞カ人質ヲ殺害セラレ。三樂亦既ニ罪ニ及ハントス。少時アツテ輝虎怒テ三樂ヲ召テ問テ曰ク。北條カ持城山根ヘノ行程是ヨリ幾計カアル。三樂對テ曰ク。一日ニ往來スル地ナリト云。輝虎聞給ヒテ。然ラハ此ヲ攻取ルヘシト云テ。乃利根川二本木ノ渡ヲ越シ。船橋ニ至テ。先使者ヲ以テ北條武田ノ兩將ニ告テ曰ク。今度松山後詰ノ爲ニ出陣スト云トモ。未タ牧橋ニ至ラサル以前ニ。兩旗ノ大軍ヲ以テ。既ニ此ヲ攻取ラルヽノ由。殘念ノ至也。由是ニ明日山根城ヲ攻取テ。其憤ヲ散セント欲ス。恐クハ北條武田ノ兩旗ノ大軍ヲ以テモ此ヲ支留スルコ能ハサランカ。如此ノ言遣ハス。明卯刻ニ利根川二本木ノ船橋ヲ斷流メ。斷渡ヲ。是韓信カ背水ノ備ナリ。於是ニ北條武田ノ陣前近ク踏越テ。山根城ニ押寄セ。一日半夜ニ攻崩メ。老若男女共ニ三千餘ヲ屠殺ス。又使者ヲ以テ告テ曰ク。今明中ニ凱還スヘシ。遺恨ニ思レハ。一戰ヲ遂ラルヘシヤト云ヘリ。于時信玄押太鼓ヲ打テ進驅ル。越後勢此ヲ見テ。物具ヲ固メテ驅向ントス。輝

虎令メ曰ク。是信玄カ進來ルニ非ス。必退去ル者ナリ。躁動スヘカラス。甲冑ヲ脫キ馬ノ鞍ヲ卸シテ休息スヘシト云ヘリ。果メ其言ノ如ク。五六町進來テ。終又退行ケリ。其時諸臣感服メ曰ク。奇哉。神哉。良將ノ敵ヲ料ルヿ。其情遁ルヽヿ無シト云ヘリ。輝虎ノ曰ク。是別ニ神奇アルニ非ス。眼前ニ山根城ヲ攻取ルヽヲ見テ。信玄此カ後詰ヲスルヿ能ハス。然ルニ今何ソ進懸ンヤ。只是退口ノ懸色ト云者也。諸將此ヲ知ラスンハアルヘカラサル者ナリト謂ヘリ。其後牧橋ノ城代長尾謙忠。有罪誅セラル。北條丹後守ヲシテ牧橋ノ城代タラシム。

永祿六年癸亥。輝虎卅四歲。正月十五日。諸老臣ヲ召テ曰ク。今明年ハ先他國ノ出陣ヲ止テ。士卒ヲ休息セシメ。政道ヲ修メ。國ヲ富メ。軍國ノ用ヲシテ乏シカラシムルヿ無レト云ヘリ。老臣各其命ヲ奉承メ退出ス。今年甲子宇佐神駿河守良勝死去ス。

永祿七年甲子。輝虎卅五歲。今年專戰功ヲ論メ。其甲乙ヲ定メ。賞罰ヲ行テ諸士ヲ練習シ給ヘリ

永祿八年乙丑。輝虎卅七歲。細川兵部太輔ヨリ五月廿二日ノ飛檄到來メ曰ク。三好叛逆メ將軍義輝公ヲ殺ス。由是ニ京師大ニ騷動メ。兵革息マス。故ニ以急ヲ此ヲ告クト云。輝虎聞給テ淚ヲ流メ曰ク。我前年上洛メ謁見シ奉ル時。密ニ言上スル所是ナリ吾言ヲ用ヒスメ。此害ニ遇ヘリト云テ悲歎セリ。而後諸臣ニ謂テ曰ク。今ノ世誰カ逆臣ノ三好ヲ追討スヘケンヤ。願ハ汝等カ所存ヲ聞ント云ヘリ。諸臣以テ對ルヿ無シ。輝虎ノ曰ク。思ニ吾ト武田信玄トニ在ルノミ。然トモ兩人ハ皆遠國ニ在テ其勢及ハサルヿアリ。只是京師ニ近キ者此ヲ追討スヘシト云ヘリ。

永祿九年丙寅。輝虎卅七歲。七月下旬ニ上州ニ

發向ソ。和田城ヲ攻取ント欲ス。既此ヲ攻取ントスル處ニ越後ヨリ飛脚到來ソ曰。家臣長尾帶刀逆心ヲ企ツルノ由告來ル。由是ニ早々歸國アリ。

永祿十年丁卯。輝虎卅八歲。暫上州牧橋ノ城ニ居レリ。于時北條氏康。其子氏政三萬五六千。武田信玄二萬餘。兩旗合テ五六萬ノ人數ヲ引率。牧橋城ニ押寄ス。十月八日ヨリ十一日ニ至マテ攻戰ト云トモ。勝負ヲ決セスソ引退ケリ。其時城中ノ兵追慕テ此ヲ討ント云。輝虎制止ソ曰ク。必此ヲ慕フヘカラス。敵ノ情察スヘカラス。若伏上ノ設アラハ。反テ利ヲ失フヘシ。只三軍凱聲ヲ揚ケ。貝鼓ヲ鳴シ。門戸ヲ敲テ追慕テ出ルカ如ニスヘシト云ヘリ。既乃如此スルトキハ。如案ノ大軍驚亂ソ。利根川ニ臨テ。水中ニ溺死スルモノ其數ヲ知ラス。是誠ニ不戰而屈人之兵者也。同月下旬ニ歸國アリ。

永祿十一年戊辰。輝虎卅九歲。輝虎數國ヲ平治セント欲ソ。先北條氏康ト和睦アリ。由是ニ七男三郎殿十七歲。輝虎ノ養子ト爲テ越後ニ來ル。遠山左衞門尉。山中民部相副テ來ル。又同年能州畠山ノ末男八歲ニソ越後ニ來ル。是亦養子トス。此人後ニ上杉喜平次景勝ノ姉聟タリ。

永祿十二年己巳。輝虎四十歲。七月中旬ニ北條氏康氏政父子ヨリ兩使ヲ以テ來告テ曰ク。武田信玄小田原表ニ寄來ノ由其風聞アリ。公出馬アツテ上州牧橋ニ屯アルヘキ歟。然ラスンハ信州表ニ發向アツテ。信玄カ出軍ヲ妨ケ給ヘシト云リ。謙信答テ曰ク。未タ北條武田ノ武略ノ勝劣ヲ知ラス。一戰ノ勝負ヲ見スンハ加勢スヘカラス。且ハ加勢タリト云トモ。公ノ指揮ニ從ハ。信玄カ思フ所モ無念ナリト云ヘリ。此時北條武威ヲ關東ニ振ヘル故ニ。如此ノ

返答セラルトナリ。

永祿十三年庚午。輝虎四十一歲。六月中旬北條氏康氏政ヨリ兩使來告テ曰ク。去年信玄小田原表ニ發向メ小利ヲ得タリ。由是ニ今年亦上州箕輪ヘ出張スルノ由其聞アリ。今度ハ是非御加勢ヲ憑入ル由ヲ言ヘリ。謙信辭スルヿ能ハスメ出馬アリト云ヘトモ。一戰スルニ及ハスシテ。早々歸國アリ。今年十一月改元アッテ元龜ト號ス。

元龜二年辛未。輝虎。四十二歲九月上旬公方義昭公ヨリ松原道友尼子兵庫上使トシテ來告テ曰ク。近年織田彈正信長。己カ武威ニ傲テ。公命ヲ畏レス。放肆ノ行迹前代未聞ノ事ナリ。輝虎ニ非ンハ誰能此ヲ踏壓セン。速ニ信長ヲ追討セラルヽニ於テハ。本懷ニ相愜フ者也ト云ヘリ。輝虎卽上使ニ對面メ曰ク。逆臣織田信長ヲ追討スヘキノ命ヲ蒙ル。謹テ此ヲ奉承ス。委細ハ兩使奏達セラルヘシ。此事深ク隱密ナルカ故ニ。翌日兩使歸洛セラル。同年北條氏政ヨリ使來告テ曰ク。十月三日父氏康卒去スト云リ。由是ニ三郎景虎小田原ニ行ク。日ヲ歷スメ越後ニ歸レリ。

元龜三年壬申。輝虎四十三歲。德川家康ヨリ使者ヲ以テ深ク入魂アルヘキノ趣誓紙ヲ以テ告來ル。其進物太刀一腰。馬一疋。馬代黃金十枚。唐頭ナリ。輝虎使者ニ對面アッテ曰。自今以後。互ニ固ク入魂スヘキ旨返答セラル。同年十月信州河中嶋ニ出陣ス。信玄早速出張アルニ因テ。卽歸陣ナリ。又同年ニ長沼表ニ出陣ス。于時武田勝賴勇進メ一戰ヲ遂ント欲ス。輝虎其志ヲヤサシトメ引去テ歸陣ス。

天正元年癸酉。輝虎四十四歲。甲府ヨリ間者歸來テ言上メ曰ク。信玄四月十二日病死セラル。深ク隱密タルニ依テ。甲州ノ中上下共ニ靜謐

ナリト云。于時輝虎膳食ニ當レリ。此ヲ聞給テ箸ヲ捨テヽ落涙シ。暫愁歎ノ色アリ。同月下旬ニ輝虎諸臣ニ謂テ曰ク。今年ハ他國ノ出陣ヲ止テ。兵士ヲ休息セシメント欲ト云ヘリ。此年柿崎誅セラル。人其罪ヲ知ヿ無シ。

天正二年甲戌。輝虎四十五歳。正月下旬ニ兩使ヲ以テ。武田勝頼ニ告テ曰。我ト信玄ト十五六年ノ間屢對陣シテ雌雄ヲ爭ト雖トモ。終ニ勝負ヲ決セサル處ニ。去年死去アリト聞ケリ。誠ニ可惜ム哉。自今以後ハ對我ニ勇武ヲ爭フ者無シ。故ニ脫甲胄ヲ裝弓矢ヲ武事ヲ絕ント欲スト云ヘトモ。近コロ聞織田信長暴惡ニメ武ニ傲リ。公方ヲ蔑如メ威ヲ畿內ニ振ヘリト云。是已ムヿヲ得ヘカラサル者也。來春ハ我越前表ヨリ上洛メ此ヲ退治セント欲ス。公亦東海道ヨリ打上ラレ。尾州ニ至テ兩旗ヲ合テ信長ヲ踏倒セント云ヘリ。然トモ勝頼肯テ承引無シ。輝虎怒テ曰ク。我豈勝頼カ兵威ヲ負テ上洛セント欲センヤ。信玄死去ノ後ハ哀憐ノ心ヲ加テ。武田領地ヘ馬ヲ出スヿ無シ。彼其志ヲ感スルヿヲ知ラス。後必ス信長カ爲ニ其國家ヲ危センノミ。

同年能州ノ畠山家臣ノ叛逆ニ由テ危難ニ及ヘリ。因是ニ急ヲ越後ニ告テ其援兵ヲ乞ヘリ。輝虎卽畠山ノ末子越後ニ在ル者ヲシテ大將タラシメ。戰兵一千餘ヲ率ヒテ兵船ニ取乘テ。能州ニ往シム。不幸ニシテ惡風ニ逢テ。此船速ニ進ムヿヲ得ス。是以テ未タ著岸セサル三日以前ニ畠山ハ逆臣ト戰敗レテ死ス。然トモ逆臣等亦越後勢ト戰テ敗走メ亡ヌ。故ニ能州自ラ輝虎ノ領地ト成レリ。卽三郎景虎喜平次景勝ヲシテ此ヲ守ラシム。

天正三年乙亥。輝虎四十六歳。正月五日諸將ヲ召シテ出軍ノ評議アリ。諸將僉言上メ曰。先武

田勝頼領分信州表ヲ退治アツテ。而後飛驒越中ノ内武田カ幕下ニ屬スル郡縣ヲ打從ヘシト云。輝虎聞給テ所言ス善ナリト云ヘトモ。勝頼去年ヨリ大敵ノ信長家康ニ對メ。今年ハ是非共ニ勝負ノ一戰ヲ遂ヘキ由ヲ聞ケリ。然ルニ我今彼カ領地ニ出張セハ。彼カ存念ヲ妨ルニ似テ。ヲトナゲ無シト有テ。姑ク此ヲ止メラル。

天正四年丙子。輝虎四十七歲。武田ノ幕下飛州ノ江間常陸守ヲ退治スヘキ由ヲ以テ。白屋越前方ヨリ軍兵ヲ乞ヘリ。輝虎聞給テ曰ク。信玄カ死去ノ後。武田カ領地ヲ取ント欲セハ。甲府タリト云トモ豈是難カランヤ。然ルニ我敢テ馬ヲ向ケサルヿハ。乘弱キニ勝頼ヲ侮ニ似タルヿヲ耻レハナリ。併ラ今江間常陸守ハ我ニ服從セサルトキハ。必信長ニ屬スヘシ。此時ヲ失フヘカラスト云テ。卽柴田色部兩人ニ命メ大將トシテ。戰兵三千餘ヲ率テ江間ヲ退治メ飛州ヲ打從ヘリ。今度ノ忠功ニ白屋ヲシテ飛州ヲ守ラシム。同年越中表ニ出馬アツテ。椎名神保ヲ退治メ。川田豐前守ニ命メ國政ヲ修テ此ヲ守ラシム。是ヨリ又直ニ加賀ニ發向アツテ。尾山ニ至リ。少々一揆共ヲ討取テ歸國アリ。

天正五年丁丑。輝虎四十八歲。三月下旬ニ加賀ノ松任表ニ發向アツテ長野カ城ヲ攻ム。時ニ信長四五萬餘ノ兵ヲ率テ後詰ス。然トモ信長未タ至ラサル前ニ城ヲ攻取テ。長野カ首ヲ擊取レリ。其翌日信長後詰ノ兵至ル。其兵ヲ追散メ引取ントスレトモ。後詰ノ軍兵此ヲ遮留ルヿ能ハス。一戰ニ及ハスメ其夜皆迯散ス。輝虎ノ武威近年彌々盛ナリ。同年九月中旬。輝虎使者ヲ以テ織田信長ニ告テ曰ク。來春三月中旬越後ヲ打立テ越前表ニ於テ一戰ノ勝負ヲ以

テ。其雌雄ヲ決センヿヲ期スト云ヘリ。信長ノ返答相敵スルヿヲ欲セス。只降和ノ意ヲ申フト云。同年十月中旬。諸將ヲ召テ軍ノ評議アッテ陣法ノ定メアリ。凡ソ越後佐渡飛驒越中加賀能登庄内上野ノ軍兵共不殘ラ來春三月中旬各一左右ニ從テ出陣スヘシ。予越前路ヨリ相向テ信長ヲ退治有ルヘキ旨諸國ヘ號令セラル。爰ニ同年十一月ヨリ明年正月ニ至マテ。輝虎ノ姉君善道院ニ怪異ノ事アリ。其長四五寸ニモ足ラサル人形ノ。小馬ニ乘テ毎日爐中ヨリ出テヽ徘徊ス。人近ツイテ此ヲ見ントスルトキハ則失セ去ル。又春日山毘沙門堂ノ邊ニ頭髮逆ニ生タル。髮ヲ以テ其面ヲ掩テ。夜々ニ出ツ。此ニ逢ヘル者ハ驚走セスト云ヿ無シ。是柿崎カ寃魂ナリト云。

天正六年戊寅。輝虎四十九歲。三月九日厠ニ行テ初テ腹痛ヲ患フ。終ニ已マスメ。同十三日ニ薨去シ給フ。群臣悲泣シ。幕下ノ諸士貴賤上下ニ至マテ歎惜メ感涙ヲ流サスト云ヿ無シ。其辭世ニ曰ク。四十九年夢中醉。一生榮耀一盃酒。ト書給ヘリ。卽春日山ノ艮維ニ此ヲ葬レリ。

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

續群書類從卷第六百三十七

合戰部六十七

丹州三家物語

目　錄

丹州三家物語

一色修理大夫滿範丹後國拜領之事

後小松院の御宇明德二辛未の歲にあたつて。山名陸奥守氏淸謀反を起し京都しはらく穩ならす。然共程なく氏淸亡ひけれは。天下泰平に治り。めでたき御代と成にける。將軍義滿公此たびの兵亂に忠節をつくせし大名諸士に。氏淸か舊領をわけて。それ〳〵に國郡を給りける。中にも。一色修理大夫滿範。父詮範と親子の手へ氏淸か首を得て。軍功若干たりしかは。丹後國をたまはりて。明德三年壬申の春の比。丹州へ入部なり。それより數代相續して。天正の比ほひまで。百七十餘年の程。丹後の國主にておはしける。

一色家衰たる事

爰に滿範か末葉。一色五郎滿信といふ人有しか

ゑの代の習ひにや。家運次第におとろへて。天正九年の比。明智細川等に謀れ給ひ。漂泊の身と成て。猶丹州與佐郡荒木といふ。わつかの所に居城なり。一類初として。數代の家人も背つゝ。國中に散在して。所々在々に城を搆。互に隣郷隣畔をあらそひ。百姓せり合やむ事なし。此故に一色殿をもないかしろに仕り。われ〳〵持の國と成。あやうかりける時節也。

細川父子丹後國入來之事

丹波福知山の住人。細川兵部大夫藤孝子息與一郎忠興。丹後入國の由來をくはしく尋るに。天正の比ほひ。織田上總介平信長。弓箭盛にまし〳〵て。東美濃尾張。西は播州を限。五畿南海悉信長に屬し奉る。然といへとも。丹後の國はいまた御手に入さりしを。明智日向守光秀か計ひとして。河北石見といふ者を大將に仕。雜兵二三百はかりにて。丹後の國を大物見にて差越ける。河北石見先與佐郡石川谷に打入。堡二三ヶ所攻おとし。其いきほひに國中を遵見せんとせしか共。國侍强して。在々所々にて河北か人數を討とめける間。河北石見はう〳〵の體にて丹波をさして北歸りぬ。猶も明智は當國に謀をめくらし。終に一色五郎を賺。細川の聟に仕る事を取持ぬ。細川與一郎忠興は。光秀かむこたるゆへにや。丹後半國を細川父子にまいらせつれ。一色細川兩旗にて堅固に治め給ひなは。始終然るへきのよし光秀强て取持けり。一色殿は代々丹後の國主として。一色五郎近年は宮津八幡山に居城たりしか。天正三年父左京大夫卒去の後。國中の諸士五郎殿を背き。我々にして曾以不敬時節なれは。本意にはあらねとも。流に棹さす心地して。光秀か計ひにそ任らる。中郡竹野郡熊野郡は。一色殿與佐郡加佐郡は細川とさため。其上一色

殿は奥郡手つかひの爲とて。弓木の城へ移し。八幡山をは細川に渡さるへしと定りて。細川父子入國の事を領掌せられける。是そ一色滅亡の基ひなり。斯て細川父子の人々。天正九年の三月宮津に至り。八幡山へ入城せられけるか。兼て河守邊より。奥宮津までの地侍百姓等。細川に隨ひけり。城持には公庄但馬下村の城主上原德壽軒。奥宮津の小倉播磨惣村の城主北庄鬢九郎。此等の者共先細川殿に隨ひぬ。翌年子の年より。又宮津の平地海によつて城郭を築れけるか。丹波の國より明智か人足多く來て。城普請を致ける。

千賀日置喧嘩の事

細川父子丹州入部のよし聞えければ。國中の侍とも。隣城緣家もよりよりに通談しけるは。抑今つら／＼世の盛衰を考るに。元龜天正の比迄は。天下いまた半治半亂とは申せとも。織田信長天下をしろし召れん事掌をさすかごとし。殆ちかきに可有。細川の此國へ來る事。皆信長の所爲なるへし。然は懲に細川に楯突て。後難をまねかむより。はやく和睦を以て細川に對面すへきか。又は國中の各催し合。難所を前に當防戰すへきか。あるひは所々の險城に。大將栖籠。細川か人數を所々へ引分て可討かと。評議まち／＼なりといへとも。親き者は遠路を隔て。近所の者は年來讎をむすひ。あるひは頑しき者共にて。此事終に熟談せす。心々に成にける。爰に與佐郡大島の城主千賀兵大夫。日置むこ山の城主。日置彈正といふもの兩人かたらひ。細川入部の迎として。普甲峠の麓迄。たかひに連騎いたしけるか。彈正はかくれなき美男にて。衣裳馬鞍に至るまで聲花なる出たち也。千賀は元より貧にして。にくさけ男の違風者。衣服馬具迄見くるしければ。彈正千

賀に對して戯言しけるは。はしめて細川殿に可會身か。かゝる見くるしき裝束やある。□たる戻の肩衣をは着かへ給へといひけれは。千賀大に腹を立。口論募て。既に喧嘩に仕。兩人即時に打果ぬ。家來も互に切合て。忽死人七八人に及ける。

一色五郎討るゝ事

天正九年の三月に。細川父子入國せられしかは。光秀兼て取もたれし契約の事なれは。其年の五月に藤孝の息女を一色殿に嫁し給ふ。同十年九月八日。五郎殿宮津の城へ聟入ありて。細川父子に對面なり。此時いまた宮津の城なかすして。はかばか敷座席もなかりけれは。大手の内家臣有由四郎右衛門の宅に於て。五郎殿を饗應し。既に酒宴に及ける。藤孝の杯を一色殿にさし給ふ。五郎盃とりあけていたゝかむとせし時に。忠興一色を討給ふ。かねあひすとし迦れけん。弓手の肩を討れたり。五郎もさすか壯士にて。勇猛震といへとも。大勢出合取籠て終にはうたれ給ひけり。痛はしかりし有樣なり。五郎の扈從蘆屋千八。金川與藤といふ者有。かれら二人は常に身ちかくつかへし故。此時も召具せられ。次の間に有けるか。兼て討手を認し置。一色殿と一同に二人の者をも討せける。蘆屋金川勇士にて。懐敷拔合討手も手負けれと。多勢に無勢不叶して二人も討れける。其外の一色衆。兼て大手の門外に町屋を點して置けるか。城内何さま騒しく。一色討れ給ふと聞えけれは。すは我先にと拔つれて。追手の門へ込入しを。細川衆切て出。大手の橋を轟し。追つかへしつ戰ける。手負死人多かりけり。一色方に十三人枕を並て討れける。生殘りたる一色衆。皆弓木へ引取て。堅固に城をかためたり。

米田監物弓木の城に向ふ事

忠興兼て米田監物に密談せられけるは。一色五郎を打とめは。汝ははやく弓木に馳向ひ。五郎か室を請取へし。若城内の侍共。少も擬議する族をは一々に頸を刎。城を破却し歸へし。出馬の相圖は狼煙なりと云含。騎馬十四五騎に足輕從ておかれける。宮津より西に當てのろしか嶽とて高山有。此山に兼て煙の役人付置れ。一色を討とひとしく城内に煙を上れは。山上にものゝろしを立。彼十餘騎の兵とも。方々の一味の者此煙を見るよりも。監物に隨て弓木に押よせて。城内へ云入けるは。御内室の迎として。米田監物是迄來り候也。此上は子細なく渡し給へと申つかはしたりけれとも。城内曾て返答にも不及。中々稠敷鉄炮を打出す。城中には天下無雙鉄炮の上手稲富伊賀といふ者籠居て。分薑を打ける間。よせて忽死人多かりけれは。監物先野田の橋つめ迄引取て。重て使者を以城中に申遣けるは。内室たに渡給はゝ。面々には子細有へからす。只今率爾の働し給ふ故。味方に手負少々有之といへとも。それは武士の作法なれは何苦ふ候へき。藤孝前をはよろしく取成可申と。念比に申遣たりけれとも。城内評議區々にて。とやかくといふ間に。傍の者とも内室を人質に取て。うしろの山より忍ひ出。但馬をさして落行ける。監物是を聞よりも。諸鐙にて追懸たり。但馬の國藤の森にて追付。無恙内室を取返し。米田は宮津へ歸ける。

一色五郎死骸盛林寺に葬事

一色五郎を座上にて討れし事は。只一端の巧に非す。豫め光秀か胸中より出たる謀なるへし。其ゆへいかにとなれは。丹後國を信長公の御領國になし奉る忠謀の體に披露して。必竟

聟の忠興を丹後の國主に可成と。兼て計と見へにける。斯て細川殿おもひの儘に滿信を討亡し其悦は限なし。然とは申せとも。さすか聟の事なれは。死骸をは念比に納むへしと。細川下知をくはへらる。一色家數代の菩提所。大圓山盛林寺に送り給ひける。住持趙室和尚念比に葬禮の儀式を行ひ。法名は前一色賞雲源忠大禪定門と引導せられける。

一色五郎内室歎きの事

一色殿の御内室。宮津へかへり給ひし後。五郎殿のうたれ給ふはしめ終りを聞給ひ。最期の時を思像ふかくなけかせ給ひけり。過にし八日の卯の刻に。わらはにむかひて宣ひしは。今日は細川殿より對面せん。我等か家と細川殿。たかひの先祖はしたしくて。代々公方様につかへつゝ。爰かしこの戰ひに。互に頼みたのまれて。ちからを合と相見えて。古きふみとも有けれは。子孫の末とはなりぬれと。むかしをおもへはなつかしきに。かく親子の縁と成たりし宿縁の淺からぬふしきさよと宣ひて。誠にいつよりむつましく。馬鞍きれいによそほはせ。弓木を出給ふ。去年の夏の五月のころ。一色殿に參りし後。かくにき〳〵しき供人にて。いつ地へも出させ給ふ事あらされは。わらはも一しほ嬉しくて。城の窓より見をくれは。須津のはまみち過給ひ。山路にかゝり給ひしか。いまた朝霧吹はらはて。いとゝ幽に詠るに。おひしけりたる松陰に見失ひまいらせて。供人も見えされは。心の内にあちきなく。そゝろに泪のこほれしを。しのひて人には見せねとも。いまはしくおもひけれは。さかつきを出させて。女房たちをもなくさめしに。思ひの外の事ありて。うせさせ給ふ悲しさよ。かやうのくはたて有しとは。みつから夢にもしらねと

も。御最期の其時にさそ〳〵恨給ふへしと。明くれ歎かせ給ひけり。

國中地侍進退之事付細川丹後國主成事

天正十年の秋。一色五郎討れて後は。宮津近邊の城持とも。細川殿へ隨ひけり。大久保の城主一色左近大夫。栗田の城主河島備前。府中の城主延長修理進。須津村の大内宮内右衛門。龜山の城主石川淨雲齋常吉。幾地の地頭。此等の者を先とゝて。拾人に及一時に宮津へ降參す。是より彌細川に威勢くはゝり。國中の城々を攻落す。在々の地侍細川衆を引うけて。戰死者も有。あるひは館を相渡。卽時に隨ふものもあり。中郡熊野郡の地頭とも。他國へたち退者多し。中にも成願寺の星野因幡。江波和泉。黒郡の城主松田遠江は。細川を引うけて各うちまけ亡ひたり。間人村の荒川武藏島村の二ヶ城。石川尾張羽太越前は城を渡して降參す。下岡の高屋好淸。徳光村の後藤惡介。いつれも但馬へ立退ぬ。爰に與佐郡日置より北方。並に竹野郡の地侍は。本庄菅野蒲入宇川邊の領主山の内將監通倫を大將として。將監か在所本庄菅野の兩城に楯籠。本庄には龜島の城主島田藤兵衛。野室の太田右京。土井小十郎。平村の城主小倉備前籠ける。菅野の城には竹野郡の内吉永の矢野兵衛佐。後藤金藏。岩木の城主井上卒度右衛門。岡ヶ城の小瀨因幡籠ける。寄手の大將は細川與一郎忠興。同舍弟頓五郎。其勢千餘りにて先本庄の城取まきて。一日一夜せめけるか。城中事の外强見へけれは。寄手先攻支度せよやとて。在家を毀ち。竹木なとをはらひよせけり。斯處に忠興申されけるやうは。此城主山の内將監は。元來公方家の臣下にて。本國は丹波也。公方の都にまします時。此將監同親父山內伊勢守とは常々御所にて參會

し。公私に付て父子ともに互にしたしき舊友たり。先年京都の逆亂に。皆ちり〳〵に成し後。此人何國に有とも不知也。何とて此所には住れけるぞ。いにしへをおもへはあなかち攻可亡に非とて。既に和談に成にける。籠城の地侍其在々安堵の事子細有へからさるの旨事究る故に。將監は本庄菅野の兩城を細川にそ渡ける。しかれは忠興將監に對面せんとある所に。將監俄に胸痛して。天正十年十月二日に頓死せり。法名雄譽院前親衞校尉雪岫了卓居士と號す。將監か一子三郎兵衞通忠いまた若年たり。細川父子懇志不淺して。終に忠興へ奉公す。彼山内は代々公方家の臣たりしか。萬松院義晴公の御治代より。公方家以の外御衰微にて。剰永祿八年五月十九日。光源院義輝公。三好松永等か爲に御生害の砌より。公方家の諸臣流浪しける時。山内伊勢守。同子息將監丹波國船井郡橋爪といふ我舊領に隱れ居て。世間の體をそ窺ける。爰に丹波國の住人。本庄菅野の城主。水戸部丹太郎安親といふ者あり。山内伊勢守通意と故ありて常に音問したりける。其比丹太郎か一子。島太郎安治伽謝郡へ舟軍して。成生浦にて討死せり。然は丹太郎一子を討れて。味方弱き事を歎き。潜に丹波へ馳參り。山内に厚談して。將監を丹太郎か聟に仕。當國へ同道して。本庄菅野兩城のぬしに致せしなり。それより將監此國に心をかけ。せん〳〵に伐取て。天正十年秋の比は。與佐半郡竹野郡手に入。既に丹波郡を脊所に。細川父子當國に來り。落(マヽ)年本庄表も平均になりしかは。與謝中郡竹野熊野の四郡忠興にしたかひけり。伽佐郡には頭立たる城持八人（姓名追而可尋也）有けるか。藤孝家臣石寺治右衞門を先田部尾安の何かしか許へつかはして。宮津より西北四郡治

めぬる條。加佐郡の各はやく〳〵宮津へ出て禮會可有哉と申つかはしたりければ。尾安の徳内左衞門石寺に對面仕。内々是より可罷出由。近邊の者共ゝ申合といへとも。數人の相談かれ是と遲々仕候。近日宮津へ參御禮可申上旨申ければ。左あらは其程逗留して。各ゝ同道仕歸へきよし申ける。依之徳内左衞門催促して。殘る七人の地頭とも。尾安か舘に集りて。石寺に對面仕り。田部より舟に乘。宮津をさして漕行ける。宮津には藤孝松井佐渡に仰けるは。加佐郡の者ともか遲參せし條。汝はやく田部へ參石寺に逢て。兩人催促可致と有ければ。松井佐渡畏て。人數少々舟にのせ。田部をさして急けるか。加佐郡の各を石寺同船して來けるに。金崎にて行あひたり。松井は石寺か鑓印を見付。いかに石寺殿歸り給ふか。各の遲きゆへ。又某被仰付候ゝいひければ。石寺申けるは。無子細いつれも御同船申そとて。兩方互に舫して。人々松井に一禮有。松井又各へ挨拶畢て後に。松井申けるは。石寺殿はこなたの舟へ乘給へといひければ。石寺各へ目禮して。松井か舟へ乘移むとせし所を。田部衆おもひけるは。扨はわれ〳〵を鉄炮にて打ものよと心得て。尾安の徳内左衞門飛懸て。石寺治右衞門を一太刀に打はなし。海中へ突はめて。急田部に漕歸る。石寺か家來あるひは討れ或は海へ投込。壹人も不殘殺されたり。松井佐渡大に怒て討死せんとひしめけとも。田部衆は大勢也。舟は次第に漕離。いかんともすへき樣なかりければ。是非なく宮津へ歸りつゝ藤孝へ此よし申ければ。さらは田部へ可向と。藤孝直に出馬有て。田部着陣せられしか。彼八人の地頭とも各妻子を引つれて。思々に立退。城々を捨ければ。何の手間取事もなく。加佐郡治りける。天

正十年壬午の十月に丹後五郡悉細川殿の手に入て。すなはち國主と成給ふ天是を與か。いかめしかりし次第なり。

國中の城々を割て當國に六城立る事

永祿元龜の比より。當國殊(殊イ)に安しく成て。既に天正の比は丹後一州を地侍共三十六人として分領し。海邊の者共は海賊を事とし。廻船を腦し面々に掻上を構て城主といはぬ者もなし。かゝる所に。天正九年細川父子此國に來りしより。同十年に丹州五郡悉手に入けれは。降參の者共をは念比に扶助して皆家臣とせられける。然共在々所々のかきあけ共悉破却て。宮津田部は根城にて。其外四ヶ所に城を立。宮津は忠興居城とす。田部は藤孝隱居城。峯山は細川玄蕃。久美の城には松井佐渡。中山には有田四郎右衛門。河(何カ)守は國侍上京德壽軒か居城なり。德壽軒は細川殿に兼て一味の者なれは。丹波おさへの城として其まゝにおかれける。

細川父子秀吉公へ御目見 付御當座藤孝被繼事

藤孝忠興。丹後の國主となり給ふ。其歲の六月二日。信長公は明智か爲に御生害。明智は又同月十三日秀吉の爲に亡ひけり。さありて天下頓秀吉公の御手に入れけれは。在國の諸大名皆上洛せさるはなかりける。其比細川父子。秀吉公へ御目見御前に伺公有けれは。秀吉公。

細ゝ川とそふたつなかるれ

と宣ひけれは藤孝やかて

御所車ひき行あとに雨降て

と申されけれは。秀吉公御感ありて。御懇に御いとまを下されける。其後藤孝隱居して幽齋玄旨と改名し。安樂の身と成て。田部の城に住れける。翌天正十一年の正月は。一しほ目出度春とやおほしけん。歲旦に筆をところむとて

あら玉のこととしはとしをゆつり葉の常盤の
色にならへとぞ思ふ

つね〳〵よみをかれし幽齋の集を詠るに。まことに花實さうたいして。よのつねならぬ風情也。

邦城分數貢稅誌拔書之事

丹後者。元丹波之內也。本朝建神祠蓋始此州。到於今于與謝郡有遺蹟祠。尙名山勝水可賦者不少也。風土記曰。丹後國與佐郡艮方有速名里々中有長大崎。長二千二百二十九丈。廣九丈二尺。是名天ノ橋立。所謂陰陽二神立於天浮橋之上。是故得此名。又名久志濱。又名久志之渡云々。元明天皇和銅六年四月。割丹波五郡始置之。丹後。在丹波北。後北之義也。方位行程東西二日。南北一日半。江海相交而巨魚小鮮有。平地寡山嶽多。草木長茂而材薪得之安也。山河相紛。田園滋。是故無有水旱凶年矣。土地厚壤而五穀饒也。蠶繭土產而絹紬美也。紙麻綿帛亦有之。以精好呼名。凡無不足國用也。田地八千八百六十五町。其保種十二萬三千餘斛。實貢稅得七八萬斛也。

ある時幽齋二男頓五郎殿に仰けるは。いにしへ將軍義滿公の御時。日本國々の大小上下方角米高名物等を誌させ給ふ。其書を封域分數貢稅誌といふ。先祖より傳りて其書わか家にあり。今當國の事を見合るに。國の形容たかはぬぞとて。此拔書を頓五郎殿に給ひけり。

百姓落書之事

ある時幽齋白杉といふ所へ鷹かりに出られけるか。何者かしたりけん。道の傍田の畔に竹枝を立て書たる物をかけ置たり。幽齋是を見られけるに。百姓のしわさと見へたる落書なり。其文句に。いちめいわく仕るは。若々敷御仕置にて。さん〳〵しほうけ。言語道斷。六月の日

てりには。七ひんほうをかゝけ。はちをひかくふせい。國に堪忍なるやうに。十分に無之とも。仰付られ可被下候と書てあり幽齋大に笑給ひ。閑雪と中側坊主をめして。其紙の奧にかけとてこのまれける。十分のよの中に。くせ事を申百姓哉。八幡きくましきとはおもへとも。七しやうより此かた。ろくになきは地下の習。とくもんにかくるか。しはりて腹をゐんとおもへとも。さんりんにかくれぬれは。にくきしたかを引かへて。一國一命ゆるすもの也と書せて。もとの所におかせらる。

一色五郎後室篠原五右衛門改嫁之事

五郎滿信の後室は。幽齋にはこくまれ月日を送り給ひしか。よはひも闌ておはしけれは。あはれにや覺しけむ。家臣篠原五右衛門か妻室に給ひける。嫁祝過て二三日ふるほとに。篠原隅然として雨あしを差のへ。內室に申けるは。痿て候。此足摩り給へといひけれは。內室おふきに腹を立。何とも物はのたまはて。一間所に立かくれ。くとき事こそあはれなれ。我さいはひならすして。一色殿にわかれし後は。栢舟の詩をまもり。心をすまし有けるを。ちゝこの命の重きゆへ。かひなく爰に來りしさへかなはぬうき世とおもひしに。脚さすれとは何事そや。いきてかひなきわか身哉。今女の貞の耻しやと。泣々城へそ歸らるゝ。幽齋是を聞召。大きにいかり給ひつゝ。御息女をよひ出し。汝は三從の道をしらさる也。それ女といふものは。人に隨ふ物なれは。さして敎の道はなく。唯三從の道にかり也。親の家に有時は。父母に相隨ひ。人の家へ參りては。夫の心にたかはぬなり。老ひて夫にわかるれは。我子にしたかふ習ひにて。一生みつから心を遂る所はなき者そ。されは佛も女にみつの家なしと說給ふ。篠

原必しも汝をいやしむる事にはあらし。つら〳〵思に。世の中の人の。女房たる者をいましむ。世上の手ほんになさんと篠原か心さし。鑑にかけてたかふまし。はやく家に歸るへし。もし〳〵是を用ひすは。二度對面有ましと座敷を立せ給ひけれは。ちゝこの道理に責られて。是非なくもとり給ひける。

當國名所舊蹟幷古歌

幽齋は歌道の達人たりしかは。わか敷島の名所にあまねく心をうつして。和歌の道に遊ふ事を常とせられける。されは此國は久かたの神代のむかしよりも。あまつ神。くにつ神あらはれさせ給ひしかは。そのふるき蹟をあらためむとて。みつから所にいたり。もしほかるあまにたつね。山かつの翁とひて。其おもむきを古き文にたゝし合て。自歌古歌をよせられし物を見侍りけるまゝ。いさゝか爰に記しくはへぬ。

萬代濱。延喜式所載神名帳。日本國中大小神社之三千一百三十二座。長曆三年秋八月定二十二社數。其末之神迄于爰。神齋祠宮津。八百萬神宮造于爰御座也。故云爾。

久世渡久志渡也。

與佐海

濡衣今はわつきにかけてほす
かつきしにけりよさのあま人　兼昌

いさりするよさのあま人とよひさへ
あふことと浪に袖ぬらせさや　後法性寺入道

よさの海や汀の千鳥あられにそ
さゆる霜よに友よはふなる　爲家

よ佐の海霞わたれる明かたに
沖こく舟の行衞しらすも　長方

よさの海おきつ汐風浦に吹
まつなりけりと人にきかせむ　後京極攝政

うかりけるよ佐の浦波かけてのみ

思ふにぬるゝ袖を見せはや　隆信
汐風によ佐の浦松音さえて
千鳥とわたるあけのこのよは　俊恵法師
かけてたに頼まぬ浪のよる〳〵を
まつにつれなきよさの浦風　雅經
よ佐のうらやならはぬあまの居去火は
螢とひかふ夕やみのそら　鴨長明
よさの浦に島かくれゆく釣舟の
行衛もしらぬ戀もする哉　俊頼
千鳥なくよ佐の浦風心せよ
みやこ戀しきたひの枕に　隆信
松かねはしほのみちひにしつかにて
月に鳴わたるよ佐の浦風　仲實
よ佐の海のあまのあまたのまてかたに
おりやとるらん波のはななし　和泉式部
よ佐の海のあまのしわさと見しものを
さもわかやくとしほたるゝ哉　同

倉橋山
しら雲のたなひきわたる倉橋の
山の松ともいふはしらすや　貫之
倉橋の山のかひより春霞
としを見つゝやなりわたるらん　朝忠
きりはれぬ倉はし山の秋風に
をとにや月を聞渡るらん　慈鎮
倉橋川
はし立のくらはし川はかる草の
なかき日くらしすゝむころ哉　後鳥羽院
枯木浦
枝もなきかれ木の浦もかせ吹は
波の花とそ散みたるらめ
天橋立
あき霧のへたつるあまの橋立を
いかなるひまに人わたるらん　上東門院
おもふことなくてや見ましよ佐の海の

天の橋立都なりせは　赤染衛門
君かよにつくりはてゝむよ佐の海
行末遠きあまのはし立　光輔
よ佐の浦のかすみはれ行たへ間より
木末そみゆる松の村立　殷富門院大夫
橋立やよ佐の浦波よせくると
あかつきかけて千鳥鳴也　仲實
こひわたる人にみせはや松のはも
したもみちするあまの橋立　範家
舟とめて見れともあかす松風に
浪よせかへる天のはし立　紀伊
はし立や松風かすむあけほのに
あまとひ歸る春のかりかね　慈鎮
うつろはぬ松につけてや橋立の
久數世をはかそへ渡らむ　讀人不知
風わたる松のしたねの小夜枕
ゆめちとわたるあまのはし立　雅經

みつしほにくちせぬ松やはし柱
あまの橋立千代もかきらし　家隆
かりてほすあまの見るめもいさまなみ
こやよを渡る天の橋立　知家
わたの原松吹風に霧はれて
月すみ渡る天のはしたて
むは玉のよわたる月のすむさには
けに久かたの天のはし立
かすみ見ゆる雁のはたれの霜の上に
月さへわたるあまの橋立　定家
たよりあれはまたれし雲の上人も
けふふみそむるあまのはし立

内外濱
よ佐の海うらとのはまは浦さひて
よをうみわたる天の橋立

梶島
あかつきの夢に見えつゝ梶島の

、岩こす波のくたけてそおもふ　式部卿

伊禰

わかめかるよ佐の入海かすみぬと
あまにはつけよいねの浦風　通貞

千門

雄島

見せはやなをしまのあまの袖たにも
ぬれにそ濡し色はかはらし　殷富門院大夫

あかつきををしまの磯の松風に
衣かさねよよ佐のうら人　顯仲

とまりする小島の磯の波枕
さこそはふかめよ佐の浦風　通貞

淚浦

なみたかた松のしつ枝をくもてにて
かすみ渡れるあまのはし立　俊頼

眞井原　鶺鴒石　爲夫婦之始

籠太明神　御神體豐受大神也。神皇正統記云。雄畧帝二十一年丁巳冬十月。伊勢皇太神敎大倭姫命令迎豐受太神於丹波國。(余社眞井原云々)豐受太神者國常立尊也。

吹井浦

天津風吹井の浦にいるたつの
なとか雲ゐにかへらさるへき　清正

はし立やよ佐の吹井のさよ千鳥
とをよる沖にさゆる月影　衣笠内大臣

ほの〳〵とよ佐の吹居のあさなきに
あらはれ渡る天の橋立

朝妻狩場　よ佐本庄泊村の内なり。又栗田の狩場村共云。

あさつまやかりはの山そあはれなる
ふするのとこを鳴渡るらん　幽齋

大山

春かすみ立わたる也はし立や
松原こしのよ佐の大山　光俊

子日崎

はるかなる子の日か崎にすむ海士は

海松をのみ引やよすらん

足占山

ゆきゆかすきかまほしきは何かたに
ふみさたむらんあしの浦山

かならすの旅の行衞はよしあしも
とはてふみみるあしの浦山　幽齋

齋宮社

來て見れは爰にいつきの霜はしら
（齋宮社内陣より）雪もたまらぬ浪のあとかな

濱よ佐

おしてるやよ佐の濱こそこひしけれ
なみだをよするかたしなければ　慈心上人

磯同

明かたのよさの磯間に舟とめて
かたふく月をうら地にそ見る　行家

穴憂里

昔に聞あなうの里やこれならん

人の心の名にこそありけれ

阿遲可麻潟　可家湊　琴引濱　五色濱　根アカリ松

根あかりの松に五色の糸かけて
ことひきあそふみつのうら〳〵　幽齋

遊浦

うちよする見るかひありてよさの浦の（海カ）
あそひの浦に衣へぬへし

笛浦

をとたかき□浪よりて聞しかは
笛のうらにも風は吹けり

湊よ佐

松たてるよ佐のみなとの夕すゝみ
今もふきなんおきつ汐風　後京極

朝日間　夕日間　當世浦

あさ日さし夕日ははやく月のよを
とこよの浦に舟かけてみん　幽齋

水江

明てたに何にかはせん水の江の
浦島か子をおもひやりつゝ　中務

吉野宮 浦島子祠也　大和ノ吉野。武藏入間ノ郷ノ吉野。丹後水江ノ吉野。是を三吉野と云。

浦島

夏の夜は浦島か子の箱なれや
はかなくあけてくやしかるらん

百千鳥うら島か子はかへるとも
はこやの山はときはなるへし　俊成

見すは又くやしからまし水江の
浦島かすむ春のあけほの　後嵯峨院

あし鶴のいさはく入江の水江の
世にすみかたき我身也けり　人丸

水江のまこもし今はおひぬれと
たなれの駒をはなちてそ見る　紀伊

ありし夜や浦島かこの箱なれや
明にし日より逢ことそなき　永縁

浦島を波のあけくれうつせ貝
あまのはこのみむなしとそ思ふ　俊頼

あくるまは古郷遠き旅枕
心そやかてうら島かはこ　定家

よるは來て明るかなしきはこ島の
いつ浦島に通ひそめけん　爲家

日本紀。大泊瀬幼武天皇雄略帝二十二年秋七月。丹後國餘社郡管川人。水江浦島子乘舟而釣。遂得大龜。便化爲女。於是浦島子感以爲婦。相遂入海。到蓬萊山。歴覩仙衆。語在別卷。浦島子傳及扶桑略記載。雄略帝時。丹後國與謝郡有水江浦島子者。釣龜水江。化爲少女。於是浦島子與女到常世國海神之都蓋龍宮也。浦島子不老不死。其後欲歸故里。省父母時。神女授與玉匣曰。欲再來此者。必勿開斯箱。浦島子還鄕見之。知者無一人。驚怪問人。人答曰。聞昔浦島子者。遊海遂不返。於是始知

其到蓬莱。而急將赴神女所。向海不知在何許也。浦島子惘然憂之忘神女言。少開玉匣。紫雲忽出。變於常世國。浦島子大悔。其貌俄爲老翁。遂死于時天長二年。從雄略御宇至此。蓋三百四十餘年云。

小代村

若狹國。八百比丘此所住人也。其父一旦入鶴崎。過異人。與祖到一處。殆一天地別世界。其人孚一物曰。是人魚也食之延年不死。父携歸家。其女子迎歡取衣帶。因得人魚袖裡。乃食之蓋肉芝之類歟。

根蓴浦（オヌナハノ）

くる人もなきねぬなはの浦なれは
心とけすは見ゆるなるへし

大江山

大江山幾野の道の遠けれは
またふみも見ぬ天のはし立　小式部

ふる雪にいく野の道のすへまては
いかゝふみ見んあまのはし立　正親町院

子もきか島（熊野郡湖水の中の島なり）

あつさ弓ひくかたよはきわかこゝろ
子もきか島に住あかぬ身を

細川越中守内室大坂屋敷にて自害之事

奥州會津の城主。長尾喜平治景勝は。（時に上杉會津中納言）太閤御他界以後。繼目の御禮延引せり。因茲家康公より上洛可有由度々使札に及といへとも。更に承引なかりけり。左あらは景勝退治さて。大軍を催し給ひ。家康公六月十六日。大坂を御進發の時。細川越中守忠興も。家康公の御供なり。爰に石田治部少輔三成は。內々家康公と不和なるか。常に隱謀有けるにや。時節來と悅て。家康と一戰を遂。勝負を可決とそ勇ける。此石田三成は。江州彦根に於て。僅に十八萬石の所帶なれは。家康公に對敵すへき人に

はあらねとも。秀吉公の御時より。五奉行の第一にて。諸大名の心入。天下の風味を呑さかや。一味の歷々多かりけり。先七月十九日に。家康公の御留主居佐野肥後守を追ひ拂。其外此度關東下向の諸大名大坂に殘し置妻子達を悉本丸へ取込ける。爰に越中守忠興の內室をも。城中へ可入とて催促數度に及ひけれとも。骨て承引なかりけれは。城より人數を二千はかりつかはして。細川の屋敷を取卷ける。內室是を見給ひて。只一筋にと思ひ切。十歲の男子さ八歲の女子有しを手つからこれを刺殺。其刀にて自害せり。女性の身のしわさにはたけしとも奇特とも例しすくなき次第也。忠興留守に殘されし三人の家來は。小笠原正齋。河北石見。稻留伊賀といふ者なり。正齋石見はからひて屋敷に火をかけ。兩人も腹切て焰の中へ飛ひ入ぬ。稻留伊賀はゆへありて。大坂いまた無事の時より城中に有けるか。主人の妻子自害有て屋敷も灰燼となりけれは稻留聞てあきれはてとてもいひわけ立かたしと。行方しれす成にける。

稻留一夢か事

稻留一夢。はしめの名は伊賀なり。丹後國の住人にて。一色五郎滿信の家臣たりしか。滿信亡ひ給ひし後。忠興の侍にそ成にける。此度大坂屋敷の留守に忠興おかれし處に。主人の用に不立して。剩其行方も知されは。忠興ふかく是を憎み。何とそして此者を搜出し。火あふりにせんと索らる。斯て稻留か城中に罷有。主君の役に不立事。無是非次第と聞えける。其ゆへいかにとなれは。稻留伊賀鐵炮の名人ゆへ。大坂衆の歷々に弟子たる人多かりぬ。此故に稻留かほろひん事を惜みつゝ。鐵炮稽古に事よせて。兼て城中へ呼入たり。此時いまた敵味方の

文色もなかりし時なれは。早晩の事と心得て。稲留は城中へ參りしも。了簡なき所かや。抑此稲留といふ者は。奇妙奇代鐵炮の上手也。其妙を語るに。いまた見さる人信しからすおもはぬ者はなかりける。稲留か常に用る鐵炮は。玉目一兩より八匁まて限りにて。其町間も八町の外を不好なり。八町より內の物信蓋を切ならは。不中といふ事なし。あるひは暗夜に狐狸の聲を聞するゐて。闇中に打留るは只螽の內の物を拾かことし。稲留廿五歳の時。橋立大明神に一七日斷食して。目くら打といふ工夫をせしとそ聞えける。十能十藝いにしへより手練の者は多けれとも。離切たる飛道具。稲留ほと精敷者はいまた不聞所なり。關か原鎭りて後。畏も權現樣御直に越中守に御侘言あそはされ。頭剃せて一夢と號し。世上の師とそなされける。

宮津城自燒する事

越中守忠興。宮津の城には。家臣篠原五右衛門と云者を留守居に殘し。關東へ出陣の跡。上方の亂によつて丹波但馬の諸大名大軍を引率して。此國に寄來。田部宮津を攻けるよし聞けれは。篠原五右衛門幽齋へ伺申やう。某今度宮津の留主を被仰付候へとも。小勢にて中々此城持かたし。慭に籠城仕敵の爲に落城せは。敵に威を增し候條。城をは自燒仕り。其御地へつほみ可申由羽檄を飛せて申けれは。幽齋いかにも納得にて。七月十六日に五右衛門は宮津の城を燒はらひ。留主の人數を引連て田部の城に籠ける。

小野木縫殿頭田部の城攻事付幽齋歌の事

丹波福知山の城主。小野木縫殿頭は。內々石田治部少輔三成に一味して。山陰道の敵味方を

窺けるか。小野木心に思ふやう。田邊には細川幽齋居城せり。面の敵なれはまつ丹後の兩城を可攻と。隣國近邊廻文し。軍勢を催しける。かゝる處に大坂城より小野木か許へ申來るは。細川越中守忠興か妻子自害せし上は。忠興千に一も味方に不參事決定せり。急き田部の城を可攻よし到來す。小野木に一味の人々は。藤掛三河守。谷出羽守。高田豐後守。杉原伯耆守。別所豐後守。生駒左近。小出大和守。都合其勢一萬餘騎なり。縫殿頭は福知山に在城し。陣代として舍弟神山喜三郎幷竹元與右衛門といふ者に。人數を付てそつかはしける。慶長五年七月廿日早天に。田部の城に押よせて。竹多把を付。仕寄をかまへ。大鐵炮を放かけ。晝夜をわかたす責ける程に。あまり鐵炮夥敷。西の大手は壘は少も不殘打落。壁下地あらはれたり。當國の人數は。皆忠興に隨て關東へ下りけれは。かたのことくの無人の籠城危かりとは申せとも。幽齋さすか老功にて。大敵を事ともせす。防戰の手配に越度はすこしもなかりけり。爰に寄手の內。但州山口の住人。赤澤主水正手の者ともに云ける。城中はいかにも無勢と見えたるそ。此城を攻事はわつか四五日の程なれとも。防箭の鐵炮。中々まはらにすくなし。倡やかたく。某か手より乘入。一手柄すへしと思ふはいかゝあらんと云ければ。赤澤か手勢八十人然へしとそ同しける。さらは潛に乘へしとて。七月廿五日の未明に。大手の海際より竹はしごを持より。鑰なわを打かけ。主水正眞先に乘入ければ。手勢不殘乘込ける。とかうする內夜明ければ。城內是を見付て。二の丸の櫓より筒先を揃て打ける間。群雀を鬪ことくなれは。赤澤を初手勢。八十人ひとりも不殘討れける。誠に赤澤其志は武けれとも。小勢を以

大城に向ひ。理不盡に働ゆへ。あへなき討死致ける。神山喜三郎諸手へ觸廻しけるは。赤澤無下に討れたるとて猶豫有へからす。いさや不移可攻とて。喜三郎か手勢を以て。各か持口をすゝみける程に。諸勢おとらしと攻より。既に外曲輪西南の隅を責破り。我もくと押込ける。此城三の丸堀廣く。矢倉高し。霰のことく鐵炮を打出しけれは。寄手五六百人。時の間に打倒さる。喜三郎も手負て引兼けるを。竹本與右衛門肩に懸て引ける間。寄手も先引退。此後はよせての諸將示合。力せめにする事停止とて。其手々々を固めける。斯所に後陽成院此事叡聞ましくて。細川の幽齋は當時歌道の達者。武家の和歌所としつる者そ。いかてか是を失む。いそき兩陣和睦させよと宣下有けれは。三條大納言田部に下り給ひ。勅命を演られける。因茲兩陣既に和談に成。九月十二日諸將圍を解けれは。德善院か名代前田主膳正城を請取在番す。此時幽齋年來相傳の源氏物語。幷廿一代集を禁裏へ捧奉り。一首の歌をそへられけり。

いにしへも今もかはらぬ世中に
　心のたねを殘すことの葉

其後幽齋上京して。しはらくの程東山吉田の邊に幽閑の住居せられける。

古今箱傳受之事

烏丸殿光廣。中院殿通村。三條西殿。此三人の人々は。常々細川幽齋に古今の口傳をふかく望まれたりしかとも。いまた相傳なかりしか。不慮の大變出來り。幽齋籠城たりしかは。幽齋思はれけるやうは。此度は討死せん事必定たり。然は彼三人の人々に。古今の相傳むなしくせは。殘多や思はれけんとて。籠城支度の其中は。事忙敷折ふしに。古今の口傳を書認。箱中

に封し入。三人の人々へ使を立て謂れしは。古今我家の口傳年來望給ひしか共。忩劇に被妨。今迄延引申なり。俄に大軍引うけて。老後の軍致なり。此度は打死せむ事近きにあり。打死したりと聞えなは。此箱を開て是を見給へとて。一つの箱をそ送られける。かく忙しき境界に。神妙也ける生得かな。それ心狂眼盲耳聾三悖を以。人を牽ル者難しと云々。誠に幽齋玄旨は。文武の二つを兼備して。良將の器と見えにける。扨三人の人々封筐をうけとりて。傳受を得むとは思へとも。幽齋の身の上を痛敷思れける。斯て都の風聞に幽齋討死たりといふもあり。いまた落城せさりしか。一兩日はたもつましと區々にいひければ。中院殿。三條西殿兩人は。田部の左右を待兼て。彼箱の封をとき開て是を見られける。今の世に古今箱傳受といふ是なり。烏丸殿光廣は。かの箱を不開して幽齋玄旨の落着を聞まほしく思れしか。忝も幽齋事御門にも惜み覺しめし。兩陣へ勅使を下されて。幽齋圍みを出られけり。光廣大に悦て。彼口傳を入たる箱の蓋に。

明て見ぬかひもありけり玉手箱
二たひかへすうら島の波

と書て。幽齋のかたへもとし給ひければ。幽齋不斜感入。其志に堪かねて。光廣卿の宅に行。直に知傳有とかや。此ゆへ光廣は。筆外の口傳を得て。くはしきとこそうけ給る。

小野木縫殿頭切腹の事

關ヶ原表。家康公御利運になりしかは。諸大名に御暇下され。國々へ歸られける。此時細川越中守忠興。權現樣に被申上けるは。小野木縫殿頭か居城福知山は。幸某か在所へ歸る道なれは。通りかけに。蹈潰し小野木か首を見て。可罷通にて候と申されければ。家康公もさやう思召

處なり。忠興心次第たるへき旨仰有けれは。慶長五年十月十七日。福知山の城を取巻て。只一乘にと揉立ける。去る十月縫殿頭田部の城を責けるゆへ。其意趣甚深けれは。小野木か首を見るまては。日夜をわけしと下知せられける。此福知山の城は。巽の方よりさし出て岫崎に本城を取る。其下は蛇か鼻とて東西引廻したる。大河の内に堀を堀。此ほり要用の堀なれは。峻事幾尋といふ限なし。然るに萍有て淺見えけれは。細川衆先手の人數。われ先にと飛入ほとに。若干の人數溺死せり。うしろ堅固の繩と見えたり。忠興是を見られて。蛇か鼻おもては闇とて。南之丘より攻ける所に。忠興の舊友山岡道阿彌はせ來り。扱に入けれは。小野木城を開つゝ。則剃髮染衣と成。上方へ退けるか。忠興憤怒不醒而又兵を追かけさせ。龜山にて捕て。壽仝庵と云寺にて無敢腹を切せたり。法名は松樹院殿□貞宗岳大居士と號せり。

幽齋忠興不和に成事

慶長五庚子のとし。奥州會津の城主。長尾景勝御征罰の時。細川越中守忠興は。家康公の御味方にて宮津より出陣せられける。幽齋は隱居の身なれは。田部の城に居給て忠興計出られける。斯て忠興雜兵ともに三千の人數にて。六月十一日宮津の城を出馬なり。御暇乞申さんとて。田部の城へ立より。其夜は田部に宿陣たり。幽齋は天守にのほり。軍勢の行列を見物してそおはしける。忠興は若州を經て。近江路へ打出んと丹若の境なる青坂まて押れける。爰に若州熊川には。近年關所有けるか。敦賀の城主大谷刑部少輔下知をくはへ。熊川の關所を彌堅固にして。往來たやすからさるよし聞えけれは。忠興申されしは。若州より近江路へ打出んとおもへとも。存子細の有けれは。丹波路

を行へしとて。吉坂より取て返し。丹波路を山家へかゝり。伏見へこそ出られける。幽齋此事を聞給ひ怒て申されけるやうは。刑部少輔か計ひとして。忠興を可支子細もなし。頃日世間物忩の時節なれは。いかにも關所へ行かゝり。子細を見屆可通を吉坂迄押たる陣を取て返し。丹波路へ出し事不覺悟の至也。忠興存命仕自然に歸陣したりとも。對面はすましきとて。豁歯を嚼て被怒けるか。又無程小野木田部をせめし時。勅命とは云なから。今少不恢して幽齋城をわたされて。京都へのほり給ひけれは。忠興も不悦。互に隔心出來り。漸々不和に成けるか。後は次第に募つゝ。父子の間の侍とも。一日に兩度迄鑓を合せし事有けり。

細川越中守國替之事

中古より。細川家を見れは。寶篋院殿早世おはしまし。鹿苑院殿幼く。征夷將軍に備給ふ。此時前武藏守頼之朝臣後見し奉らる。それより細川家代々。三管領四職の間を出さりしか。天文廿一年の春。三好筑前守長慶。細川に代て天下の權を執。細川晴元を擯て芥川に押込てより。細川家衰微して。永祿元龜の頃ほひに。細川兵部太輔藤孝。微々たる體にて。山州長岡に住居たり其頃京都七人衆（稻屋妻豐後守。下津權内。岩成主税介。秋田龜之助。細川兵部大輔。小泉某。鴨川某。）といひし其一人なり。嫡子與一郎忠興。明智日向守か聟となりてより。明智贔負を以せん〳〵に立身ありて。天正九年に丹後へ來り。翌年中に丹後一州悉手に入て。廿餘年の間。丹後の國主にて慶長五年關ヶ原の一亂に莫太の軍功有しかは。國替を被仰付。豐前幷豐後の杵築を被下て。其歳の冬豐前の小倉へ入部とて。宮津の城を出給ふ。家の再興宮津より起りて馴入（ナジミ）の國なれは。殘多や覺しけん。犬の堂を過るとて。天の橋立を詠て。

立わかれ松になとりはおしけれと
おもひきれさの天のはし立

京極修理大夫丹後國拜領之事

信州伊奈の城主。京極修理大夫は。丹後入部ありし後。丹後守高知（正五位侍従）とそ申ける。此京極氏は人王五十九代。宇多天皇八代之後胤。近江國の住人佐々木三郎秀義より十八代。近江守氏信より十五代。佐渡判官高氏（法名道誉）より十二代。此時より京極と申ける。高知の親父京極長門守高吉は。江州北の郡の屋形にておはせしか。平信長の爲に天正年中に近江源氏悉滅亡せり。京極長門守は天正九年正月廿五日に亡給ひし時。男子兩人有けるを。無恙隱し得て。江州田野谷に忍て。月日を送られける。斯處に翌年六月二日。信長亡ひ給ひて以後。秀吉公の御代となる。彼長門守の子息達兄弟なから秀吉公に召出され。御旗本に有けるか。次第に出身ありて。舍兄は江州松本の城主と成。京極三位大津宰相高次是なり。舍弟は信州伊奈の城主と成。京極修理大夫高知是なり。又太閤の御寵遇。松丸殿と申せしも。長門守の息女にて。此人々の姉御也。斯而慶長五年。關ヶ原御合戰の時。京極宰相高次は。上方一遍の敵中に。ひとり松本に籠城して。無隱忠節たり。京極修理大夫高知は。濃州岐阜の城搦手の一番乘せられけり。關ヶ原表鎭りて。諸大名に忠賞を行はれし時。細川越中守は豐前の國へつかはされ。其あとを京極修理大夫に下されて。同年の冬入國也。それより二十三年後。元和八年八月十二日高知病死せられける。法名は瑤泰院前拾遺眞嚴道可居士。

宮津越之事

京極高知の所帶丹後五郡の貢税。十二萬三千百七拾石三つに分れける。道可の嫡子采女正

高廣七萬八千百七十石。居城宮津。二男修理大夫高三。三萬五千石。在所田邊。三男主膳正高通壹萬石（所帶八一萬三千石三千石八從公方被下）在所峰山如此道可遺文有けれは。台德院殿御代右のことくに定りぬ。道田部の城を宮津へ引。宮津古城を取立らる。道可御死去四年後。寛永五乙丑の歳。五月廿八日采女正宮津の城へ遷給ふ。是を宮津越と申也。時に四位侍從に補任せられ。采女正を改。丹後守高廣とそ申ける。承應三甲午の歳迄。三十年の間、高廣政を治。其とし五十六才にて隱居ありて。安智軒道一とそ申ける。家督山城守讓りを受給ひ。四位侍從に昇進ありて。山城守を改丹後守高國とそ申ける。

安智軒京都住宅の事

京極前丹後入道安智軒道一。隱居の宅地を宮津の城東に構。安閑無事を樂み給ひけるか。家督丹後守幾程なくて。政道不宜。父の掟をも三年のうちより改替有事多けれは。安智軒折々是をとかめ給ひけれとも。丹後守あらため給ふ事もなく。剩孝心次第に薄けれは。道一思れけるやうは我既に七句に近く。病身餘命もなかりけるに。家督虐政を聞事も物うく。其上田舍濕寒の地に住わひぬれは。所詮在所をさらはやと覺しめし。備前の少將光政を賴。京都のすまひを願はれける。およそ大名の花洛に住む事。其例あらさる事なれとも。安智軒は公儀にも御由緒ふかく思召。其上年來天性質朴の人體なれはとて。京都の住居心に可任の旨上意を蒙り給ふ。寛文三年二月に上京ありて。東山岡崎邑に方百間の宅地を求て幽栖なり。それより四年過て。寛文六年五月に丹後守御改易たりといへとも。安智には公儀より御構も無之。其儘にておかれし也。延寶五年の四月廿二日卒去有て。南禪寺に葬ぬ。在世の時天授庵

承長老に歸依して。道號を天心と改めらる。則安智院殿天心道一大居士と引導す。

京極丹後守高國御改易之事

丹後守高國は。世に無隱仁體にて。しかも博辨怜悧にして。其器量さしもの人たりしか。いかなる運轉の所行にや有けん。讓を受給ひし後。政みたりにして又不孝の聞えありけるか。終に其罪露顯して。寛文六丙午の歳。五月三日領地を沒收ありて奥州へ謫し給ふ。南部大膳大夫重信是を預りぬ。すなはち盛岡の城下中津川のほとり。閉伊海道といふ所に配所の住ひと聞えける。宮津への爲上使。青山大膳亮幸利。幷城地請取として。松平若狹守康信。松平主殿頭忠茂。小出伊勢守吉親。在番には水谷左京亮勝宗。九鬼長門守隆昌也。丹後守父の讓りを受られてより。纔十三年に成ぬ。誠に守文は草創よりもやすしといへとも。守文も又難しと見えたり。太閤の草創を。秀頼公守文ならす。されは唐の太宗群臣に宣ひけるは。天下を始て一統すると世を治るとはいつれか難しとすへしと宣ひけれは。房玄齢か曰。天下を始て得む事難しと申けれは。魏徴はいや〱世を治る事こそかたき事なれ。世上既に靜り。上の侈を究ぬれは衰る事やすしと申けれは。太宗皇帝宣ふは。玄齢は以前戰に從て合戰し苦勞せし故に。草創の難き儀をしれり。魏徴は今天下治りたる上に。驕逸のはし起るを見て。守文の難きをおもふ。何れも其いはれ有。されとも草創はかたき事。守文に過たり。今よりは世を治る事難義を愼思ふへしとこそ宣ひけれ。是誠に國天下を可保大人の可守ことは也。今丹後守高國再興の高知より。三代の守文ならさるも。皆驕佚の成す所かや。

以宮内省圖書寮本校訂畢

續群書類從巻第六百三十八

合戰部六十八

三刀谷田邊記

細川越中守忠興系圖

六條王 經基 ― 多田 滿仲 ― 河内守 賴信 ― 伊與守 賴義 ― 陸奥守 八幡太郎 義家 ― 足利式部大輔 義國

足利治部大輔 義康 ― 矢田判官 義清 ― 廣澤判官 義實 ― 細川次郎 義季 ― 細川八郎 俊氏

細川八郎太郎 公賴 ― 細川讃岐守 賴春 ― 細川掃部頭 賴有 ― 細川刑部大夫 賴長

刑部大夫 持有 ― 刑部大夫 教美 ― 播磨守 常有 ― 刑部 政布 ― 刑部 元有

細川播磨守 元常 仕公方義晴公 ― 細川兵部大夫 藤孝 號長岡 法名幽齋玄旨 ― 長岡與一郎 忠興 細川越中守 參議 三齋

忠利 細川越中守 内記 ― 光尚 細川肥後守 ― 綱利 細川越中守

興元 細川玄蕃

三刀谷田邊記 目ニハ三刀谷記トアリ

長岡兵部大輔藤孝ハ。義輝公義昭公ニ仕テ後。將軍信長。關白秀吉兩代ニ相續テ功業ヲ勵シ。嫡子越中ノ守忠興軍忠アリシカハ。勲功ノ賞モ厚ク。子孫モ繁昌シテ。丹後國田名邊ノ城ニ住シ。入道隱居シテ幽齋玄旨ト稱シ。其性奇才アリテ藝能ヲ極メ。和歌ノ道ニサヘ巧ナリケレハ。其業ヲ得テ主上ヲ始奉リ。月卿雲客ノ師範トシテ。時ノ堪能トソ聞シ。慶長五年秋七月。八條宮ヲ救世ノ戸ノ文殊堂ニ請シ奉テ。名ニアフ浦ノ氣色モ見カテラ。褒貶ノ御會ヲ觀奉ラントテ。佐方吉右衛門之昌ト云者ヲ使節トシテ。京都ヘ上セラル。佐方ハ既ニ入洛シテ。賀茂ノ神職松ノ下ト云者ノ家ニソ旅宿シタリケル。抑豐臣博陸殿下世ヲ去玉ヒシ後。天下相續テ不穩。東西忽ニ劒ヲ磨キ。鏃ヲ琢ク。天地其命ヲ改ヘキ機既ニ顯レケル。于玆三刀谷監物孝和ト云者アリ。淸和源氏下野守滿扶ノ後胤トシテ。諸國ノ守護職ヲ歷。中比家衰テ後承久年中合戰ノ賞トシテ。雲州三刀谷ノ鄕ヲ賜ル。元弘建武ニ新田足利ニ屬シ。應仁明德ニ山名佐々木ニ從テ軍功ヲナス。尼子家ノ縁ニ屬シ。大内氏ノ冑子ヲ亡シテ。中國ニ其功隱レナカリシ。監物カ父彈正忠久扶カ代ニ當テ。毛利元就卿中國ヲ掌ニ握ラル。彈正ヲ旗下ニ屬シ。毛利家一方ノ柱石トシテ。芳契他ニ異ニ。戰功群ヲ出タリシ。天正十六年。彈正物詣ノタメトテ上洛シケル。其比東照權現聚樂ニ御座アリケルカ。黑田如水ヲ以テ彈正ヲ召ス。前年秀吉公鎭西征伐ノ時。毛利家ノ軍士ヲ司テ。如水ノ手ニ屬ケル因ナリケル故トソ聞シ。彈正思フ子細ヤアリケン。再三固辭シテ。召ニ應セサリケルヲ。天性剛毅ニ耽ケルノ由聞

シメサレテ。時ノ堪能ヲ召集テ。園碁ノ御遊ニ寄セ給ヒテ。終ニ召シ出シ。西國ノ武略ノ風度ヲ下問シ玉ヒ。御味方ニ可參由ヲ密ニ仰下サレケル。其事毛利家ニ洩聞ヘ。甚不審ノ思ヲナシ。僞テ彈正ヲ招キ。本領ヲ他國ヘ改替セラル。程ナク彈正病死シテケリ。監物十九歳ナリケレ㕝。安國寺惠瓊長老彈正ト因アリケレハ。寺ノ內ニ養育シテ。程ナク成長シテ。勇力最モ人ニ勝レ。朝鮮ノ軍ニ鋭ヲ摧キ。固ヲ破ル。天南ノ師ヲ奪。晉州ノ先登シ。八箇國功第一ト聞ヘケレ㕝。本領ヲ安堵セス。其性倜儻ニシテ人ノ下風ニ立ン事ヲ思ハス。終ニ毛利家ヲ去テ。洛外吉田山ニ隱テ世ノ變化ヲソ窺ヒケル。長岡入道玄旨ト　吉田左兵衛督兼治朝臣ハ縁アリケレハ。孝和ニ會シテ其志他事ナカリケリ。慶長ノ戰既ニ萠ケル比。安國寺惠瓊密ニ孝和ヲ招テ宣ヒケルハ。今度秀吉舊功ノ諸將會談シテ。大事ノ子細ノ出來レルナリ。其故ハ內府家康公ノ志ヲ見ニ。終ニ天下ヲハ奪給ハン事。掌ヲ指カ如クナルヘシ。豐後國ニ横灘湯院ヲ細川越中守ニ賜リ。信州ノ大庄ヲ森右近大夫ニ賜リヌ。若退治延引セハ。臍ヲ噬ニ益アルヘカラス。謀畧既ニ儀定セリ。孝和ハ勇功其器ニ當レリ。毛利家ノ藩屛トモナリ玉フヘシ。其上丹州田名邊ニ。長岡玄旨アリ。手合ノ合戰ニ先玄旨ヲ誅戮アルヘシ。孝和幸ニ案內者也。先陣ヲ賴思召ノ由。細々ト申進ラレケル。孝和ハ提テ承リ候ヌトハ申ケレ㕝。心ニ思ヒケルハ。家康公ノ氣象ヲ思フニ。天下ヲ幷呑シ玉フ。今度景勝爲退治。東國發向相從輩。皆良將也。西國ニ黒田如水アリ。東國ニ伊達。蒲生等アリ。常ニ志ヲ合タリト聞ク。秀吉公ノ御時ヨリ。勇謀人ニ勝タル人々ハ皆麾下ニ屬セン事ヲ思ヘリ。其上年來ノ分國ヘ打歸テ兵ヲ催シ玉ハン

ニ不足ナシ、嶋津ト牒合テ西國へ下シ奉ハ。中國皆秀頼公石田三成カ味方ナレハ。能謀ナルヘシ。關東へ下奉ランコト至終宜カルヘシトモ覺エス。與スマシキ物ヲト思ナカラ、イマタ其旨ヲバ言サリケリ。カヽル處ニ。佐方吉右衛門ハ、八條宮ヲ招請シ奉リ。監物ニモ御供申シ玉フヘキ由、玄旨宣ヒ遣シケレハ、孝和カ宿所ニ行向ハントス。孝和所用ノ子細有テ他行シケル時シモ。百万返ノ堂ノ前ニテ。佐方ニ礑ト行逢ケル。孝和悦ヒ。携手テ多日ノ疎遠ヲ謝シ。比シモ初秋ノ殘暑ヲ凌カン爲ニ。本堂ノ閑所ニ入テ物語リシケル。孝和此間ノ謀計、有リノ儘ニ語タクハ思ケレトモ、戰國ノ有樣、親子ノ志モ計カタシト思返シ。僞テ申ケルハ、中國近日物忩ニ及ヘリ、吉川カ謀反ノ由聞ユル間、彼ハ良將也、屬スル者モ多カラン、丹州ハ邊國ナリ、不慮ニ敵寄來ハ、田名邊ノ城ニ於テハ兵粮（本ノマヽ）玉芸手ニ立ヌヘキ、兵粮何程カアルト尋ケレハ。佐方畏テ申ケルハ、田名邊ト申ハ。山陰道第一ノ名城ニテ候、要害ニ於テハ不足ナシトハ申セトモ。越中守殿次男玄蕃頭殿、關東へ御供ニテ候ヘハ、物ノ用ニ立ヌヘキ軍勢コソ候ハ子、偶殘リ留ル者トモ二心ナク、忠ヲ存ヘキ者トモ見エス候、松井佐渡、有山四郎右衛門ハ豐後ノ國へ罷リ下リ候ヌ、敵寄來ラハ御自害トコソ存候ヘト申ケル處ニ、南ノ方ヲ見レハ大ノ男一人走來ル、怪ト見レハ近付クホトニ孝和カ郎從土屋彦右衛門ト云モノナリ、孝和出向テ如何ニト尋ケレハ、暫ク息ヲ休テ申ケルハ、唯今祇園縄手ニ於テ、瓊長老ニ逢奉ル、長老乘物ノ戸ヲ押開テ、汝ハ三刀谷殿ノ家僕ト見ハイカニト御座候シ間、畏テ承リ候ヘハ、三刀谷殿へ申スヘキ樣ハ、先日申談セシ事既ニ儀定セリ。其ニハ跡ニ從ヘル家頼北村五郎

左衛門ニ相尋テ委ク孝和ヘ申ヘキト候シ間。引退テ跡ニ候シ北村ヲ招テ尋テ候ヘハ。北村耳ニ口ヲ當テ。近日可申合急用ノ候ヘハ。一兩日ノ間ニ。東福寺ヘ御出アルヤウニ御申アルヘシ。委申ニ不及トコソ候ツレトソ申ケル。孝和サレハコソト思ヒ。佐方ヲ招テサノミツヽムヘキニアラサレハ。有ノ儘ニ事ノ次第ヲカタリ。某カ事ハ幽齋多年ノ志モ難默止サシモノ名將ノ御坐ラン城ヲ。ヤミ〳〵ト馬ノ蹄ニ掛サセ余所ニ見ルヘキ事ナラス。其上故彈正殿ノ遺言アリ。家康ハ必ス天下ノ氣象アリ。如何ニモシテ御味方ニ參ヘシ。伏見ニテ約束シ奉タル事モアリナント。最期マテ宣シ事モ耳ノ底ニ留レリ。關東マテハ道遠ニシテ。ハヤ敵モ所々ヲフサキヌラン。ナマシヰナル小勢ニテ。仕出タル事モアルヘカラス。隱レ居タル郎從等ヲ招ナラハ。何トナクモ四五百ハカリハ有ヌヘシ。ヨシ〳〵丹後ニ馳下テ。一生ノ浮沈ヲ此一戰ニ任スヘシ。若運微ニシテ討負ナハ。玄旨ト差違テ冥途黃泉マテ多日ノ芳志ハ忘ルヘカラス。炎王モ見玉ヒナハ。アツハレ勇士ヤトソ宣フヘキト申ケル。佐方ハモトハ三刀谷カ累代ノ家人ナリ。當時ハ玄旨ニ仕ヘケレハ。謹テ申ケルハ。能々御思案ヲ廻サレ候ヘシ。以ノ外ノ無勢ナレハ。關ノ負軍ト存ルナリ。御兄弟アリト申モ。孝和ニ超ヘ玉フヘキ御器量モナシ。天下ノ反覆此時ナリ。御先祖ト申セハ。代々武勇ニ馳玉ハス。功業ヲ立ルハ孝之終ト申候ヘハ。今ノ時ニ當テ御家ヲ興シ玉ハンコソ有マホシケレ。一日モ怺ヘカタキ城ニ入玉ハン事。口惜ク存候ヘト申ケレハ。孝和イヤ〳〵某カ手勢。四五百人皆義心金鉄ノ者モナリ。最後ノ一軍ニハ事闕マシ。汝ハ急キ八條宮ヲ申留奉テ。丹後ヘ下ルヘシトテ立ケ

レハ。佐方ハサル由々敷御諚カナ。サアラハ某ハ御跡ヨリ罷下ルヘシトテ。宿處ニ皈ヌ。孝和モ吉田山へ歸リ。油語彦兵衛ヲ使トシテ。安國寺長老へ近日可參由ヲソ申ケル。

孝和ハ郎從等ヲ招キ集ケレハ。所々ヨリ馳セ集ル。宿所ハ人モ洩聞ラントテ。吉田百万神春日ノ松原ニ打出テ。郎從等ヲ召シ。先ツ腰刀ヲ拔テ石壇ニ向テ金打セントス。家僕三刀谷藤兵衛側ニ有ケルカ。自害スルトヤ思ヒケン。袂ニスカリ。士ノ志ヲ不得事ハ常ノ事也。何故ニカヽル無勿躰御擧動カナ。武功人ニ越玉ヘハ。飛龍有天ハ。此ノ時ナリ。爭カサル事ノ候ヘキト申ケレハ。孝和打笑テ自害セントニハ非ス。吾志ヲ不可變ノ誓約ナリトテ。社ノ階ニ切ツケントセシカ。事ニ逢ヘキ打物打損シテハ無益ト思ヒ。柄ニテ打石壇。土屋某ヲ招テ。瓊長老ヨリ申サルヽ。意趣兼テ思ヒシ心サシ一々ニ演へ。丹州下向ノ儀ヲハ此土屋カ知レル處ナリ。家ノ安否ヲ一擧ニ定ナント思フ間。小勢ヲ以テ大敵ニ向ハン事。十カ一ツモ勝利ヲ得カタシ。共ニ可死。共ニ可生輩ハ相伴フヘシ。異儀ヲ存ン人々ハ不可召具ト云ケレハ。佐方小左衛門進出テ。吾等苟モ累代相傳ノ御家人トシテ。幼稚ノ昔蓬ノ矢竹ノ弓ヲ携シヨリ。片時モ離レ奉ラス。御恩ト申。情ト云。誰カ此時ニ及テ退者ヤアルヘキ。見義不爲無勇。今度討負玉ハヽ。某御介錯シテ冥途ノ御供仕リ候ヘシトソ申シケル。孝和佐方カ志ヲ感ケル處ニ。佐方次郎助ト云若モノ有ケルカ。ツト出テ申ケルハ。少左衛門カ言コソ聞事ナレ。イツ腹切習ツテ。切腹ノ御供セントハ申スソ。誰カ譜代ノ御家人ナラスヤ。御内ニ人ナキヤウニハ申共。各ハ腹切玉へ。某ニ於テハ田名邊ノ城ノ石垣ニテ。首ヲ微塵ニ打碎キ自害ノ手本

ニ看セ申サントソ申ケル、願ル傍若無人ニソ聞ヘケル。其面魂諒ニ一足モ引間敷ク見ヘタリケレハ、自余ノ輩累代ノ家人ト云、況乎彼等ニ義ヲ進ラレテ異口同音ニ命ヲ芥塵ニ比シ、義ヲ金鉄ニ同シツヽ、同枕ニ討死セントソ申ケル。孝和快ケニテ着帳セヨト云ケレハ、少左衛門執筆、最後御供ノ覺ト記シ、巻頭ニ己カ名ヲソ書タリケル。宗徒ノ侍佐方少左衛門安信、同名與左衛門友信、同次郎助信幸、油語彦兵衛久憲、三刀屋與三扶輝、同藤兵衛扶村ヲ始トシテ、南方石糸賀櫻井安部宗徒ノ兵五十余人、軍勢僅ニ五百三十余トソ記ケル。孝和ハ三刀屋藤兵衛扶村ヲ招テ、郎従多キ中ニ、汝ハ殊更二心ナキモノ也、頼ヘキ事アリト云ケレハ、藤兵衛畏テ、何故ニカヽル事新シキ御諚ヲモ承リ候物カナト申ケレハ。孝和席ヲ近カ付テ、更ニ余ノ儀ニアラス、故郷ニ幼児ヲ一人殘置シ、汝カ知レル處也、敵ニサカシ出サレテハ家ノ瑕瑾ト思フナリ、汝ハ忍テ急キ故郷ニ歸リ、吾討死スル由聞ユルナラハ。幼少ノ女ヲサシ殺シ自害セヨ、汝ヨリ外ニ頼ヘキ者ナシトソ申ケル。藤兵衛ハ暫ク物ヲモ申サス。弓矢取身ハ。能敵ト鎗ヲ合討死スルコソ高名ナレ、今度ノ一大事ニ先陣懸テ見参ニ入レントコソ存レト申ケレハ、孝和氣色ヲ損テ。汝カ言葉ニハ似ヌ者カナ、勇士ノ敵ニ向テ高名スルハ當ノ事ヨ、難ニ似テ安カルヘシ。是ハ又引替テ死ヲ節義ニ守ル事ノ。安ニ似テ難キソカシ。此條相背ニ於テハ、二世マテノ勘當也トソ申ケル。扶邑重テ辭スルニ言葉無シテ、御諚ノ趣キ諒ニ余義ナク存スレハ。畏テ承リ候。又御幼子ノ御事ハ御心安カルヘキニテ候也。サリナカラ丹後雲州遙ノ境ニテ候ヘハ。安危モ承リカタシ。アヘナク害シ奉ルモ痛ハシク。犬死センモ

口惜カルヘシ。柿木九右衛門コソ力量モ人ニ超ヘ足早キモノニテ候ヘハ。御生害ノ後御首ハ定テ大坂ヘ上リ玉ハン。盗取テ孝養ニモ報奉リ。其ニモ告知ラスルヤウニ仰付ラルヘキヤラムト申ケレハ。汝カ申處サル事也。柿木ハ幸京都ニアリ。イマタ此邊ヘモ見不來。二心アルヘキモノニハアラス。呼ヒ招ンニ時刻モ移リヌヘシ。汝委シク言聞テ傳サスヘシト云ケレハ。扶村ハ涙ヲ流シ御諚ハ畏テ承リ候。又是ヲ最期ト存スレハ再ヒ見ルヘシトモ存セストテ。暫ラク坐メモ立サリケリ。カクテ有ヘキニアラサレハ。孝和ハ急キ吉田殿ヘ御暇申ノ爲トテ行向フ。吉田殿頓テ出合ヒ玉フ。孝和近ク居ヨリテ。此間ノ有增語ケレハ。驚嘆不斜。孝和ノ武勇ハ兼テ存ノ前ナリ。舊交ヲ忘玉ハス。志中テモ余リアリ。長岡ノ安危此時ナリ。武士ハ骸ノ上コソ大事ナレ。恥辱ナキヤウニ御計有テ賜ルヘシトテ饗應シ玉フ。簾中ハ幽齋ノ息女也。取アヘス粧ヲモ恥玉ハス出向玉ヒテ。三刀谷殿ヲ見ル事ハ。玄旨ヘノ余波ソト。墓ナク涙ヲソ落シ玉フ。孝和ハ御心安カルヘシ。某マカリ向ニ於テハ。ヤミ〳〵ト御自害ヲハ召サセ申マシ。何万騎モ候ヘ追拂ヒ日出度御左右可申ト由々敷ケニ申ニテ少シ心ヲ慰メ玉ヒケル。孝和川意ノ爲ニ一日逗留シテ翌日早旦ニ打立ニケリ。丹波路ニカヽツテ。マタフミモ見ヌ旅ノ空。末ノ白雲モ分ル間ニ老ノ坂ソト打登リ。萩ノ下葉ニ秋風ハ通ヒナカラモ。夏山ノシケミカスエニ遙カナル。愛宕山ヲ打詠メ。頑直カ身ニモアラサレハ。寒涙ヲモ淩キ難キ龜山ノ宿ニソ着ニケル。暮鴉舊林ニ急キ。晩鐘歸家ヲ催シケレハ。旅宿ノ經營トシテ同名與三扶輝ヲ遣シケル處ニ。孝和カ舍弟同名加平次爲成。同太郎兵衛爲光等先立テ

丹後ニ下タルニソ行逢ケル。孝和ハ兼テ今度ノ軍十死ヲ出テ一生ニ逢ヒカタシト思ケレハ。氏族ヲ悉ク斷セン事不可然トテ知ラセサリケルヲ。與三ニ向テ是ホトノ大事ヲ知ラセ玉ハサリケルトソ申ケル。與三急キ馬ヨリ下リ。此旨ヲ孝和ニ申ケレハ。ヨシ〳〵家ノ爲トコソ思ヒツレトテ。共ニ鵜山ニ一宿シテ。明レハ早天ニ山家ト云所ニ着ヌ。爰ハ谷出羽守カ領地ナリ。足輕ノ將ト覺シキモノ一人出向。饗應ノ躰ニモテナシ。三刀屋與三ヲ留置テ。丹後ニハ大事ノ子細コレアルナリ。御下向無詮ニ候也トソ留メケル。程ナク孝和モ來ケルカ。聞敢スアサ笑テ。丹後ノ事ハ某能々存處也。其故ニ罷下ルナリ。留タクハ留テ御覧候ヘトテ。馬ノ脇ニモタセタリケル。長刀取テ鞘ヲハツシ。靜ニ馬ヲソ進メタル。其勢ヒ思切タル氣色。郎從等色メキ渡テ見ヘタリケレハ。アシク當テ一軍シツヘキ形勢。警固ノモノモ痿シテヤ有ケン。ヲメ〳〵トソ通シケル。其日モ漸ク暮レホトニ。丹後田名邊ノ近境。七日市ノ宿ニツキ。七月十五日夜ニ入テ。田名邊ノ城ニソ着ニケル。則佐方吉右衛門カ亭ニ入。白晝ニ打入サル事ハ。軍兵ノ行粧武具ノ爲躰城下ノ騷動ヲ憚ル處ナリ。

玄旨ハ此由聞玉ヒテ。カヽル大事トハ夢ニモ知ラス。孝和ヲ饗應アラントテ。佐方カ亭ニ出向玉フ。一禮事終テマカリ下ル事余ノ義ニアラス。御身ノ上ノ大事此時ナリ。多年ノ御志モ不奉忘。同ク斯城ニ骸ヲ埋テ。春風原上ノ苔ニハ朽候モ。名ヲ九天万里ノ雲ニ殘サント存切テ候ト。次第ヲソ語ケル。幽齋以ノ外ニ驚キ玉ヒ。兎角ノ返答ニモ不及。先隱密シ玉フヘシトテ歸リ玉ヒニケリ。孝和案内者ヲ玉ハルヘキヨシ申ケレハ。上林久四郎ト云者ヲ遣ス。則

是ヲ召具シテ城外ノ嶮難廣狭ヲ委クソ見タリケル。人未知ケレハ怪思フモノ多カリケリ。同十六日孝和カ下向ヲ饗應セントテ。幽齋ノ家臣麻野吉左衛門カ亭ニ招キ請シ。幽齋モ取キラメキアルシヽ玉ヒ。奉膳半ナリケル時。大坂ニ御坐シケル越中守忠興ノ室家ヨリ。藤木某ト云者ヲ使トシテ申サルヽハ。石田治部少輔。安國寺瓊長老謀反ノ聞ヘアル處ニ。蜂須賀阿波守四國ヨリ早速上洛ニ依テ。兩人不知行方云云。諸人ノ安堵不如之ト也。麻野ハ末座ニアリシカ罷リ出テ。是ハ目出度御左右カナ。サリナカラ由斷アルヘカラス。兩人ノ御事ハ某能々存テ候。勇謀ノ人傑ニテ候ヘハ。阿波守殿小弱ナル勢ヲ以テ。争カ追伐セラルヘキ。武畧ニ隱居玉フトコソ覺ユレト申ケレハ。幽齋以ノ外ニ氣色ヲ損テ。麻野ヲ睨マセ玉ヒケレハ。麻野ハ再ヒ申ニ不及シテ。首ヲ低テソ退ル。麻野密ニ孝和ニ如何思召サレ候ソト申ケレハ。孝和ハ御手前ノ申所理リナリ。今度ノ武畧ニ於テハ某カ存ル所ナリトテ。有ノ儘ニ語リケレハ。麻埜ハ興醒シテ案煩テソ見ヘタリケル。幽齋石寺甚介ヲ使トシテ。家僕等ヲ召集メ。同十七日大坂無事ノ賀儀トシテ饗應アリ。酒宴漸ク亂ニ及ヘリ。孝和ハカヽル大事ノ前ノ長酒盛カナト思ケレハ。旅宿ニ歸リ備軍ノ用意ヲ案シケル處ニ。敵寄來ルノ由城下ノ騷動不斜。孝和物ノ具スヘキ暇ナカリケレハ。羽織ヲ着シ。長刀取テ急キ城ノ方ヘ行ケルニ。其比松下殿ト申京家ノ人下向シテ御坐ケルカ取物モ取敢エス上洛シ玉フニテソ有ケル。孝和ニ逢玉ヒテ。不思儀ノ時節參リ合コソ幸ヒニテ候ヘハ。見屆ケ申スヘキ旨申シテ候ヘトモ。幽齋無詮由强テ留メ玉フニ依テ。マカリ上ルトソ宣ケル。孝和ハ公家ノ御事ハ詩歌コソ專

ニテ候ヘ。弓矢ノ道ハ無益ニ候。最ナル御上洛カナトソ答ケル。八町縄手ヲ見出セハ。資財雜具ヲ東西ニ運ヒ。稚子ヲ抱キ。老者ヲ助ル。形勢既ニ大事流布セリトソ見ヘタリケル 斯騷動ヲ誤テ敵寄タリトソ申ケル。カヽリシホドニ。大坂ヨリ飛脚到來シテ。忠興ノ家室七月十七日。秀頼公ヨリ寄手向ケレハ自害シ玉フ。家老小笠原備前入道正齋介錯シテ切腹ス。正齋カ介錯ヲハ河北石見。石見カ介錯ハ墓所人某首切ハナシ。屋形ニ火ヲ掛猛火ノ中ニ飛入テ死ニケリ。此時ニ當テ。家臣稻留伊賀逐電ノ由中來レリ。城中ノ周章不斜ソ見タリケル。孝和ハ急キ登城ス。遠侍ヲ見レハ。幽齋ノ家來貫井內藏助一人有テ。人アリトモ見エス。玄旨齋藤甚兵衛ト云者ヲ使トシテ。多年ノ芳契ヲ忘レ玉ハス助來リ玉フ御志。生前ニハ難報。サリナカラトテモ可開運ニアラス。敵寄來ラハ速ニ自害スヘシ。故ナキニ三刀谷殿ノ御生害コソ痛ミ存候ヘ。吾レハ齡傾キ。余算幾程ナラ子ハ思事ナシ。御心サシ誠アラハ。急キ舟ノ用意ヲ致ヘシ 前田肥前守ハ忠興カ相婿也 北國ヘ下リ玉ヒテ。夫ヨリ關東ヘモ打越ヘ玉ヒ。忠興カ內府ノ御味方ニ候ナレハ。力ヲ合テ玉ハルヘシ。親子ノ恩愛コソ忘レカタク存レハ也トソ申サレケル。孝和甚兵衛ニ向テ申ケルハ多年ノ志他ニ異ナルニ依テ御詮途ヲモ見屆ケ。家ノ安危ヲモ定メント存テ罷下リ候ヌ 是ヨリ北國ヘ打越テ候トモ。肥前守殿イシウモリ加リタリトヤ思召ラム。聊其儀ニアラスト參リタリトハ思召候マシ。扨ハ計略ノ爲ニ參大形思切タル氣色。甚兵衛如何見タリケン。其儀ニテ候ハヽ。暫ク御待候ヘシ 吾等家人ニテタニサシタル覺悟モ候ハヌソカシ。感入タル御心サシニテ候モノカナ。且トテ奥ヘ入。幽

齋ヘ斯ノ由ヲ申ス。幽齋急キ出玉ヒテ。孝和カ手ヲ携涙ヲ流シテ是ホトノ御心サシヲ辭シ申ヲ。サコソ遺恨ニ思召ツラントテ小書院ヘ伴ヒ玉ヒ。ヤミ〳〵ト自害センスル處ニ。三刀谷殿ト相共ニ腹切ナラハ。生前ノ思出冥途ノ荒言ナルヘシ。未敵寄來前ニ。ソレ精進ニテ盃出セト有ケレハ。家僕等酒肴ヲ持來レリ。幽齋盃ヲ擧テ。是ノ盃ト申ハ二世マテノ契盟ナリ。亭主ニテ候ヘハ。三刀谷殿ヘサシ申サレ。御盃ハ玉ハルヘケレ㡯。カヽル時ノ盃ハ跡ヘ返ヌ法ナリ。誰ニナリトモ玉ハルヘシトソ宣ケル。孝和打笑テ。某腹切テ候ハヽ介錯セント約束仕タル家僕ノ候ヘ㡯。イマタ若キ奴ニテ候ヘハ。切損スル事モヤ候ラン。誰ニテモ三刀谷カ首切テ玉ハルヘキ人ニ。此盃ヲ參ラスヘキトソ申ケル。麻野吉左衛門ハ末坐ニ候ラヒケルカ。進出テ御心サシ諒感入奉テコソ候ヘ。御內ノ人ノ仕損スヘキニハアラス。自然ノ事モ候ハヽ。某御介錯可仕間。御盃ハ玉ハラント出タリケル。孝和ハ賴モシキ御事カナトテサシタリケリ。酒ヲ十分ニ請ケルカ。四分ハ淘覆シテソ見タリケレ。其杯ヲ井戶利跡ニサス。利跡カ杯ヲ佐方吉右衛門ニソサシタリケル。佐方ハ席ヲ去テ不憚前後大盃ヲ以テ三度引受々々傾タル面魂。麻野カ擧動ニハ似ルヘクモナシ。アツハレ男ヤトソ見ヘタリケル。去程ニ坐中靜リカヘツテ不言。孝和申シケルハ。サシモノ名將ノ矢一ツヲモ射玉ハス御生害ハ穩便ノ至リ。餘ニ云甲斐ナク覺候。某カ手並ハ毛利宰相殿。其外ノ人々御存ノ前ニテ候ヘハ。城中ニ有ナカラ一軍モセサラム事ハ口惜ク存候。合戰ノ事ハ某ニ御任セ候ヘシ。城外ニ馳向テ一當アテヽ御目ヲ覺シ候ハント申ケレハ。幽齋斜ニ喜玉ヒ。存生ノ間ニ。三刀谷殿ノ勇力ヲ

見申ンコソ。冥途ノ思出ニテ候ヘトモ。以ノ外ノ無勢ニテ候ヘハ無力存ルソカシ。三刀谷殿ノ家來ハ召具シ玉フラン。見參ニ入ラントテ。宗徒ノ者𪜈七八人幽齋ノ前ヘメシ出ス。幽齋坐ヲ立玉ヒテ。主ノ安危ヲ見ツカン爲ニ下向ト云ナカラ。幽齋カ爲ニ命ヲ捨ツヘキ人々也ト感嘆シテ。武具ヲソ各玉ハリケル。孝和ハアツハレ彼等ニ一軍仕ラセ候ハント事モナケナル風情ナリ。孝和重テ申ケルハ狹間クハリシテ持口ヲ定メン事アラマホシク候ヘ𪜈。人數ナケレハ力ナシ。大手搦手コソ專ナレトテ。大手ノ門ハ三刀谷加平次父子。搦手ハ玄旨三男愛宕下坊福壽院妙菴弟子ノ福万中庄次ナント云者𪜈ニ預ラル。城下ノ外ニ橋アリ。大橋ト名ツク。長十間横二間計ナリ。孝和下知シテ中二間ノ板ヲ放シ。竪ニ四枚打渡シテソ置タリケル。麻野ハ軍勢ヲ出サンニハ道セハシトツフヤキケレハ。孝和ハ小勢ナレハ足長ニ出テハ何ノ用ソ。馬武者少シ。麻野ハ形ハカリノ武者ソカシトソ嘲ケル。大手ノ町口醫師宗叔カ亭ニ相集テ。軍ノ評諚アリ。孝和申ケルハ。宮津城ニ忠興ノ息女三人。妾二人。高森ノ城ニ次男玄蕃頭殿ノ妻女一人。久米ノ城ニハ松井佐渡カ妻女ハ御息女也。此人々ヲハ急キ此城ニ引取玉ヘカシト申ケル。幽齋宣ケルハ。兩城ノ者𪜈ヲ見捨ニハアラス。籠城ノ妨ナリ。兵粮モ少シ。宮津ニハ篠山五右衛門アリ。高森ニモ少々籠レル侍𪜈ノアルナレハ面々ニ討死スヘシト也。孝和申ケルハ。此城ト申ハ。少々兵モ籠レリ。大將ノアル所也。宮津高森久米ノ城ニハ兵粮乏シク餓死シ玉ハン事ハ。日ヲ算テ可待。其ウヘ敵ノ擒ト成リ玉ハヽ。長岡家ノ恥。ナラスヤ。共ニ餓給ハンコソ本意ナラメト申ケル。異儀區々ニシテ不一決。合戰ハ勝コソ本

意ニテ候ニ。無謂女中達ヲ取籠玉ハン事不可然ト。家臣等ハ申ケル。孝和ハ菜此席ニ有ナカラ。カヽル臆タル評諚ニ同タリト、忠興ノ思シ召サンモ最ト愧シ。且ハ人聞キ不可然、カヽル御相談ニハ重テモ御免可有ナリ、武勇ノ事ニ於テハ何時モ罷リ出ヘキニテ候トテ坐ヲ立ケレハ。佐方吉右衛門ハ同ク坐ヲ立テ。孝和カ袖ヲヒカヘ御道理至極セリ。サリナカラ余リニ無興ニ候ヘハ。御歸有テ仰合サルヘキヤト申ケレハ。孝和更ニ聞不入。宿所ニソ歸ケル、幽齋暫ク思案シテ、理リトヤ思ハレケン。妙菴ヲ迎トシテ。人々ヲ田名邊ヘ引取リ玉フ。妙菴先ツ孝和カ旅亭ニ來テ事ノ由ヲソ謝ラレケル、久米ノ城ハ程遠シ、敵ニ遮ラレテハ叶フマシ、先々山林ニモ隱ヨトソ下知セラレケルトソ聞シ、信近義言可復ト云ケン事ソ諒ナルカヽリシホトニ。寄手ノ諸將ハ。谷出羽守、藤掛三河守。齋村左兵衛。伊駒左近大夫。小野木縫殿助、前田主膳正、高田河内守。別所豐後守、杉原伯耆守。小出大和守。石川備後守、川勝右兵衛、毛利民部大輔。早川主馬助。山崎左馬允等都合七千余、田名邊ノ西一里ノ外、福井ト云處ノ峯ニ陣ヲソ取ニケル、孝和ハ今日ノ軍、何樣討勝ヌト覺ユルソトテ、斥候ノ爲ニ軍ヲ進、玄旨ノ家來山本三四郎ト云者ヲ聊忠興勘氣セラレケルカ、流牢シテ居タリシニ忠心ヤ有ケン、孝和ニソ屬シケル、三四郎ヲ以テ福井ノ山下ヲ物見ノ爲ニ遣ス。其擧動神妙ニソ見ヘタル、然ル所ニ舟二艘福井ヲ心サシテ漕キ行、怪ト見ル處ニ、麻野吉左衛門カ拔懸ト覺ヘテ朱ノ鹿ノ角ノ立物眞先ニソ見ヘタリケル。既ニ福井ノ濱ニ着ケル處ニ、寄手峯ヨリ舟ニ向テ鉄炮ヲ散々ニ打掛。矢軍スルト齊シク。谷出羽守。藤掛三河守カ旗ト覺テ。二手ニ分テ挾テ

ソ攻タリケル。三方ノ敵ニ攻ラレ陸ニ上ル事ヲ不得。舟横ハリケル處ニ。寄手ハ勝ニ乘テ詰リ掛ケ。波打際ニ控テソ戰ケル。船中ノ兵上ルヘキヤウアラサレハ討レ疵ヲ蒙ル者多カリケリ。孝和ハ遙ニ是ヲ見テ。不謂麻野カ武勇哉。初度ノ軍仕損ヌレハ。闔ノ氣ヲ失テ。後日ノ軍仕ニクキソトテ。遙ニ控ヘタル手勢ヲ麾キ。靜ニ討テカヽル。一陣佐方與左衛門。二陣佐方少左衛門。三陣孝和。四陣油語彥兵衛ナリ。三刀屋與三ニ促兵ヲ差添。後ノ山ニソ伏タリケル。孝和ハ與左衛門ト相𪜈ニ山下ノ廻リ路ヲ進ケル處ニ。寄手ハ麻野カ舟ヲ捨テ。孝和ニ向テ討テ掛ル。孝和少々鉄炮ヲウタセケレハ。敵ハ小勢ナリト侮ツテ屯ヲ亂シ。吾先ニト進ケルヲ。孝和靜ニ一町計リ引タリケレハ。元來城ハ小勢ナリト聞ケルウヘ。一モミニ攻落ナントヤ思ヒケン。散々ニ成テ追ケル處ヲ。三刀屋與三思ヒモヨラヌ處ヨリ鉄炮ヲ放チ。打テ懸リケレハ。漾フ處ヲ。孝和自ラ取テ返シ。鎗ヲ合セ散々ニ追拂フ。一返モ返サスシテ。福井ノ濱ノ細縄手ヲソ北タリケル。孝和ヲ小勢ナリト見タリケレハ。物ノ數トモセス山上ノ敵諸將一手ニ成テ討テカヽル。兵二騎魁ニ進ケルカ。下知スル躰ニ見ヘテ。間近ク成ケル處ニ。孝和カ手勢少々散亂タルヲ集メ。既ニ殆ク見ケレハ。佐方少左衛門一陣ニ進テ不動事山ノ如ク。靜ニ討テ掛リケレハ。大勢ナリトイヘ𪜈。屯ヲ亂シケル事ナレハ。一支モセス散リ亂レケルヲ。二町計リソ追タリケル。鉄炮ニ當リ深田ニ入テ死者數ヲシラス。油語彥兵衛兼テ用意シタル旗𪜈。森林ノ陰ニサシ出シ。兵ヲ二手ニ分テ節所ヲ前ニ當テソ待タリケル。寄手ハ玄旨小勢ニテ籠リケルナレハ。一日モ怺（及カ）ヘカタシト思ケル上。諸將吾先ニト下知モ汰ハサリ

ケレハカヘル楚忽ノ軍シテ。思ヒノ外ニ討負。思ヒショリモ侮トリニクシトヤ思ヒケン。大勢トヤ見タリケン。引返ス者モ無リケリ。孝和モ敵ノ首三十余討取リ物始ヨシトハ悦ケレ𪜈、元來小勢ト云ヒ、アマタ手負討レケレハ。勝テ冑ノ緒ヲ認ヨトテ。靜ニ城ノ中ヘソ歸ケル。其夜ニ入テ寄手敗軍少々相集テ陣取ラントシケル處ヲ。孝和ハ小勢ノ軍ハ殊更不意ニ出ルニ如ス、今夜コソ究竟ノ夜軍ヨトテ。佐方與左衛門、同少左衛門二手ニ成テ。促兵二百余人丑ノ刻計ニ討テ掛リケレハ。晝ノ軍ニ勞ケル上、敗軍ノ習トシテ。親ハ子ヲ忘レ。主ハ郎從ニ助ラレテ。散々ニソ成ニケル。カクテ福井ノ陣ハ破レケレ𪜈。又敗軍ヲ集メテ城下ニ十町ノ外、二日市ト云處ニ陣ヲソトリニケル。或夜麻野吉左衛門、孝和カ亭ニ來テ申ケルハ。城下ノ引上マテ敵忍來テ、日屋ヲ放火ス。夜懸ノ敵ト覺エ候。此方ヨリ兵ヲ出シ追拂ヒ玉ハンヤト申ケレハ。孝和ハ佐方吉右衛門。同少左衛門ヲ先トシテ促兵ヲ率シ。搦手ノ門ヨリ出ニケリ。十八町行テ深田アリ、細繩手一筋ニ兵ヲ伏テ相待ツ處ニ。敵近ツキ來。孝和十余人ヲ相具シテ。畔ノ陰ニ平伏ス。佐方吉右衛門ツト立アカリ。鎗ノ柄ヲクリ出シテ鑓ツケントシタリケル、孝和鑓ノ鹽頸ヲ取テ手答ヘサセ制シケル間ニ。敵ハ過半往キ過ヌ。時分能キソトテ。同音ニ鯨波ヲ作ル。遙ニ引タル敵返シ來ル。少左衛門先陣ニ進ケルカ。聲ヲ聞ケハ味方也、何者ソ名乘レト申ケレハ。加藤新助ナリ。誤リ玉フナトソ答ケル。孝和サテハ闇ナリ。爭カ是マテ出タルソト申ケレハ、新介サレハ麻野殿ノ下知セラレ候シハ。日屋ハ敵ノ仕寄ニ成ラント思フナリ。夜陰ニ放火シ玉ヘカシト宣ヒシニ依テ。三十余人相トモニマカリ

出テ候ヌトソ申ケル。新助ハ玄旨ノ近習ニテタノミ思ハレケル郎從ナリ。孝和思ヒケルハ。麻野カ擧動ノ不審サヨ。先日大橋ノ板ヲ離セシ時ノ氣色。今夜ノ方便何樣キヤツハ陰謀ノ心サシ揭焉トソ思ケル。

或夜敵陣騷動シケル。何事トハシラサリケレトモ何樣今夜逆寄シテ一當アテントテ。孝和ハ城下十四町ノ外。伊佐津ト云在家マテウケ出藪ノ茂リニ竹ヲ折カケ。細路ノ詰リ〳〵ニ要害トナシ。在家ノ林ノ陰ニ作旗少々立並ヘ。小高キ所ソ有ケルニ物見ノ兵ヲ出シ。相圖ヲ定メテソ待タリケル。繩手ノ廻路ニ小高キ岡ノ陰ニ。孝和ミツカラ兵ヲ伏テソ控タル。敵モ少々足輕ノ兵ヲ出シ。遠矢ニハ打合ケレトモ。謀アリトヤ思ヒケン進マサリケル。玄旨ハ進士佐左衞門ヲ使トシテ。大敵ノ中ヘ小勢ニテ進ミ玉ハン事。終ニハ討死ト覺ユルナリ。サアラハ誰カ後日ノ軍ヲ勵スヘキ。急キ軍ヲ入給ヘカシトノ玉ヒ遣ス。進士ハ馬ヨリ下リ。孝和カ轡ヲ取テ制シケレハ。孝和ハ善戰者不死ト申候ソ。一方便アリ。御手前モ是ニ有テ働玉ヘト申ケレハ。進士モケニモトヤ思ヒケン。鎗ヲ取テソヒカヘケル。玄旨ハ進士ヲ待カ子玉ヒ。子息妙菴ヲ召テノ玉ヒケルハ。先ニ進士ヲ遣ヌレトモ未歸來。孝和討レ玉ハヽ。此城忽チニ落ヌヘシ。汝ハ急キ行向テ。此ヨシ申ヘシトアリケレハ。妙菴馬ヲ馳テ。孝和カ陣ニ來テ再三其旨ヲ述玉フ。孝和サアラハトテ。在家ニ煙ヲ立テ。作旗少々殘置。廻路ニ鉄炮少々伏テ靜ニソ引取ケル。敵モ敢テ追ハサリケリ。玄旨ハ迎ニ出玉ヒ。勞タル小勢ニテ大敵ト戰ヒ玉ハム事ハ。御思案アルヘシト諫メタマヒケレトモ。孝和用ヒスシテ。又アル夜子ノ刻ハカリニモノヽ具ヒシ〳〵トカタメテ。軍勢二百余人。伊

佐津ノ松原ニ伏セ。佐方與左衞門ヲ將トシ。二百余人玄旨ノ家人伊賀甲賀ノシノヒニ馴タル者。一兩人相加ヘテ。ウシロノ山ヨリシノンテ入リ。谷出羽守カ陣ニ火ヲソ掛ケタリケル。思ヒヨラサル俄事ニ。縱横無碍ニ切タテラレ。散々ニナツテ冑ヲ甲トシ。太刀ヲ脊ニ佩テ。四角八方ニ逆チルアヒタニ。佐方ハ兵ヲ引テ。孝和カ陣ニ來リケル。孝和勝鬨聲ヲ作テ。鉄炮ヲウタセ。首取ヘカラス。手フサケニシルシハカリヲ取テ退ヘシト下知シテ。少々敵ヲハウチシカトモ。サノミニハ不追山陰ヘ兵ヲソ入タリケル。謀アルモノナリケレハ。近邊ノ森林ニ火ヲ擧ケ。其光リ相ツラナツテ。數百騎ト見ヘタリケレハ。敵モ追キタラス。シカリトハイヘトモ。小勢ノ夜討ト云ヒ。何トカシタリケン。アマタノ陣ハ不破トソ見ヘシ。玄旨ハ謀ノ次第妙菴ニ尋テタマヒ。感嘆不斜。酒肴ヲオクリ。其勞ヲ謝セラレケル。

寄手ハ先日福井ノ合戰手痛カリケル上。度々ノ夜討ニ騷動シテ。且クハ攻サリシカ。流石ニ城中小勢ナリケレハ物トモセス。七月廿五日亥刻ハカリニ。大手ヘハ谷出羽守。藤掛參河守。石川備後守。齊村左兵衞。伊駒左近太夫。小野木縫殿助。搦手ヘハ小出大和守。前田主膳正。川勝右兵衞。毛利民部大輔。海手ノ方ヨリ高田河内守。別所豐後守。早川主馬助。山崎左馬允。杉原伯耆守等一同ニソ寄タリケル。城中甚タ周章ス。孝和物具シテ馬ニ打乘。大手ノ木戸ヲ開カセ。町ノ小路ヘ打出。覺ヘス采女ノ一曲ヲ擧タリシカ。イヤ〳〵物前ニ不吉ナリト思ヒ返ヘシ。風ハ吹トモ山ハ不動。吾等カ身コソ安ケレト。高ラカニ謠ヒケレハ。城下ノ下民等是ヲ聞テ。スハ三刀谷殿ノ御出アルハ。是ノ鋒先ニ當テハ。誰カハ面ヲ可向。心安トソ申ケ

ル。孝和愈勇テ。大橋ノ爪ニ到。馬ヨリ下リ。力足二ツ三ツ踏ンテ木戸ヲ開カセ出ニケリ。麻野吉左衛門ハ。先陣ニ出ケルカ。引退キ來テ。孝和ニ向テ申ケルハ。敵ハ大勢ナリ。中々面ヲ向ケ難シ。御討死アルヘシ。是ヨリ先ヘハ無益ニ存トソ申ケル。孝和アサ笑テ。敵ノ顏ヲモ不見シテ。某ハ引クヘカラス。汝モ是ヨリ引返セ。吾ニ續ケトソ申ケル。麻野ハソラ耳ツブシ。城ノ中ヘソ引ニケル。孝和ハ一言ヲ出メ胸中ヲ知。麻野カ利口ハ臆病ノ至リカ。若生テ歸リナハ。斯言ヲ忘ルヘカラスト罵ケル間ニ。谷出羽守先陣シテ。木戸ヲ込入ラントス。孝和自ラ鑓ヲ取テ散々ニ防戰フ。鑓先ノ交ル事ハ恰モ電光ノ戟ニ異ナラス。三刀屋與三鎗提テ。木戸ヨリ外ニ進マントス。孝和汝フカ入スナトテ。取草摺引留ケル間ニ。敵ノ鑓與三カ擧ニ當テ。眞倒ニ倒ケルカ。如何シタリケン。人ヨリ先ニ木戸ヲ出テソ戰ケル。玄旨家僕上羽作右衛門ト云精兵ノアリケルカ。矢タハ子押クツロケテ。與三殿助ケ申サントテ。散々ニ射。同キ家僕ニ村山久右衛門ト云剛ノ者太刀ヲ拔テ打入リ。敵ヲソ防ケル。敵軍是ノ勢ニ切立ラレ。少シ引退クト見ヘシカ。前ニ有カトスレハ敵ハヤ後ニ回ケル。孝和些共不騷。木戸ノ内ヘ引退ク。敵ハ後ノ町ノ屋ノ上ニ登テ。鑓ヲ取テ散々ニ突。孝和鑓取直シ眞先進メハ。相從兵共吾劣シト擔下ヨリ手答シテ突キ落シ。四方ヘ追拂ヒ。大橋ノ爪ニ引退ケハ。東方正ニ白ナントス。孝和アツハレ者共ヤ。一騎當千トハ汝等カ事ナルヘシ。何万騎ノ敵成共。物ノ數ニヤ有ルヘキト。兵ヲ勇テ扣ヘタル。アクレハ廿六日卯ノ剋ニ。敵軍入替々々續テ責入ケル勢。如何ナル樊會周勃モ。勞タル小勢ニテ面ヲ向難クソ見ヘタリケル。小野木縫殿助友ヲハ某カ攻

ル所也トテ、普請ノ料ニ橋ヨリ外ニ拾石アリ。是ヲ見立ニ取テ先鋒ノ兵七八人進ミケル。孝和是ヲ見テ、無左右橋ヲ超サセテハ防カタシト思ケレハ兼テ橋板ヲ放セシハ斯ノ用也ト獨言シテ、自ラ木戸ヲ開キ出ントス、佐方吉右衛門ハ。孝和カ鎧ノ袖ニスカツテ、物ニ狂ハセ給カ懸ル大勢ノ中ヘ御自身出給フヘキ事カ。討死眼前ナルヘシ、御勿体ナシト制ケルヲ。孝和ハ力量群ヲ出ケレハ。佐方ヲ取テ提ナカラ。木戸ノ外ヘソ出タリケル、佐方ハ力不及シテ鑓作テソ扣ケル、孝和橋ノ上ニスル／＼ト走上テ。四枚ノ板三枚取テ落シ。一枚殘ケルヲ久代太郎助ト云者（後孫右衛門ト云）助奉ント言葉ヲ掛テ橋ノ下ヘソ落ケル。太郎助ハ元來逸見ノ某ナリ。流牢ノ者ト成テ、丹後ノ城下ニ商賣ノ業ヲ營ケルカ、昔手馴シ舞ナレハ、戰場ニ進ケルコソヤサシケレ、孝和木戸ノ際ヘ立皈テ。後ヲ吃ト見レハ。板一枚滯テ、向ノ橋桁掛ケテ落サリケリ、又立歸ツテ橋桁ヲ渡テ。件ノ板ヲ落シケル、佐方ハ足ノ下ヲ御覽候ヘト云ケレハ、急度見レハ、釘頭双簇ヲ蒔タル如ク也、カヽル中ニ佐方ハ目ノ明キタル男哉トソ思ケル。孝和鎗取直シ。橋桁ニ望ミ。大音擧ケ唯今橋板ヲ落シタルハ某ナリ、寄手ハ誰ソヤ名乘レ聞カン。ナト出合テ鑓セヌソ。出ヨ／＼ト喚ハツタリ。敵ハ飽マテ欺レテ。石ノ陰ヨリ進ミ出。橋ノ上ニ登ケルカ。板ヲ離タル所ニ猶豫シケル所ヲ、孝和下知シテ鉄炮ヲ透間モナク打セタリ。先懸ノ兵手負討タル者多シト見ヘケルカ、尙橋ヲ渡ラント地ニ伏テ居タリケル。孝和兵ヲ下知メ木戸ノ內ヘソ引タリケル、孝和カ兵手足ノ鉄炮多カリケレハ。思シヨリモ矢坪ハ違ハサリケル。藤掛參河守、石川備後守、伊駒左近太夫

一手ニ成テ荒手ヲ入替ヘ。木戸ヲ破ラント橋桁ヲ渡テ、回天ノ力ヲ出サントス。闔ハ替ル勢モナシ、勞レタル小勢ニテ。木戸ヲ出テハ惡カリナント。因敵轉化而木戸ヲ閉テソ侯タリケル。手勢ノ外佐方吉右衛門已下。僅ノ勢ニテ大敵ノ門ニ余レルヲ防カン事ハ。蟷螂遮車ニ異ナラス。殆シトソ見ヘタリケル。闔ノ兵共討死ノ氣色面ニハ顯レケル。佐方吉右衛門ハ。孝和カ鎧ノ押付ヲ叩テ申ケルハ、今日ノ討死コソ本意ナレ、相傳ノ主君ハ孝和也。當時ノ主ハ幽齋ナリ。云彼。云是。捨ン命ハ露塵ヨリモ安カルヘシトソ申ケル、孝和佐方ハイシウモ中タリトハ思ケレ𪜈。將若不勇ハ。三軍ノ志ハ落スヘシト思ケレハ。佐方ヲ竊ト睨テ、寄手ニ誰カ名將ノアル、手並ノ程ハ知スカセリ。其上先日手痛ソ當テタル奴原（扇疑カ）。市ニ集マレルカ如ク也、其カ鎗一本ニテ。大團ヲ以テ蠅ヲ拂カ如クナラント。俺テ荒言吐キ。鎗取直シ力ラ足二ツ三ツ動々ト踏鳴ス。斯ノ言ニ勇メラレテ。軍勢氣ヲ直テソ進ミケル。アツハレ猛將ヤトソ見エタリケリ。後ヲ見レハ二町計リ引下ツテ。紺屋町ノ角ニ當テ。麻野吉左衛門。篠山五兵衛門挽テソ見タリケレハ。孝和使ヲ立テ。斯木戸ヲ破ラレナハ落城ハ疑ナシ。何ノ用ニソレニ扣ヘ玉フソト云遣ケレハ。兩人申シケルハ。敵ハ日ニ余レル大勢ナリ。僅ノ御勢ニテ防キカタシ。宗徒ノ者五三人討セ玉フトモ。捨置玉ヒ。此邊ヘ先御引退有テ。變ヲ伺御合戰候ヘカシト申ケルカ。麻野急キ來テ。孝和カ鎧ノ袖ヲ扣ヘ。自身ノ御働アルヘキ所ニ非ス。討死シタマハヽ、落城決定ナルヘキト申ケルヲ。孝和耳ニモ聞入ス。又大橋ノ土手ノ上ニ臨テ見下ロセハ。鹽入ノ所引鹽ナリケレハ。先登ノ兵水ノ淺瀨ヲ渡テ打テ上ル。是コソ此手ノ早雄ノ兵ヨ

ト見タル武者一人、孝和ヲ目懸テ進來ル、孝和自ラ鉄炮ヲ取テ放ントシケルカ、口藥ヤ濕リケン斷消シタリケル。鉄炮ヲ擲捨、是程ノ奴原引抓々々堀底ニ擲入テ。閾ノ眠醒ントツト立アカレハ。妻手ノ方ヨリ佐方少左衛門鉄炮ヲ取揀ケルカ。當ノ敵ヲ閣テ孝和ニ向フ兵ヲソ打タリケル。不誤眉間ニ當ルト覺ヘテ、眞倒ニ堀底ヘソ入ニケル。是ニモ不屈乘超テ攻上ル。孝和太刀ヲ提テ一陣ニ進ハ。相從輩吾モ〳〵ト土手ニ下リ塞テ。散々ニ防戰。孝和ニ向フ敵内甲ノホソ頸、或ハ尻居ニ打スヘ手ノ下ニ三人切臥タリ。孝和カ帶タル刀ハ一年秀吉公鎮西征伐ノ時。龍造寺隆秋降參シタリシニ。肥前ノ本領ヲ賜ハル。隆秋悦申サン爲ニ献レル所ノ刀ナルヲ。毛利宰相秀元ニ賜タリシ、孝和朝鮮ニアリシ時、蔚山敵表三ノ丸ヲ相抱極月廿二日三日ノ戰味方ノ兵敗軍セシニ、九度マテ殿シテ。本朝ノ勢ヲ助タリシ日、秀元ノ賜ケル左文字ノ刀也。去程ニ敵ノ兵町屋ノ少々殘ケルニ打上テ、究竟ノ矢倉ヨトテ、鉄炮ヲ放ス。孝和カ兵手負討ルル者多ク。土手ノ陰ニ扣タリシニ。佐方次郎助鉄炮ヲ提テ土手ノ上ヘ登ケル。敵ハ佐方ヲ目掛テ透間モナク鉄炮ヲ打ケルニ。少モ不震、先鋒ノ武者一人撃倒シ後ニ玄旨ノ家僕宍戸半助カ扣タルニ。半助看トソ申ケル、半助モ不劣ト鉄炮ヲ提テ土手ニ登リ。武者一人打倒シ、次郎助看トソ申ケル。次郎助又土手ニ走リ上テ、敵一人打倒シ。半助ト呼ハル。半助又土手ヘ上ラントシケル所ニ。運ヤ盡タリケン。弓手ノ髃ヨリ妻手ノ肋ヘ腕加テ打抜カレ。犬居ニソ臥タリケル、孝和アタラ者半助カ首、敵ニ取スナトテ。玄旨ノ下部ニ與一兵衛ト云ケル者ヲ召テ。ソレ〳〵ト下知シケレハ、肩ニ引掛テ城ノ中ヘソ皈ケル、與一

兵衛己カ小刀ト半助カ養（ママ）指ノヨカリケルニ指替タリ。カカル物忩ノ中ニモ、ヲカシカリケル事共也。寄手ハ終ニ大橋ヲ渡テ、木戸ヲ破ラントス。孝和折節如何シタリケン、持タル鎗少シ柄長カリケルヲ打振テ、前後ヲ見ケル所ニ、玄旨ノ家人杉勘之丞ト云者、孝和ニ屬シ出ケルカ、力量尋常ニ超テ、持所ノ鑓シ多ヽカニ見ヘタリケル。孝和其鑓吾ニ取替テ得サセヨ、與アル軍シテ見センスト云ケレハ、杉ハ首ヲ振テ聞入サリケル。孝和ハ汝其鑓ニテ高名スヘキカ、血ヲ不付ハ比興ナリト申ケレハ、杉ハ聞モ不敢、吾等モ武士ニテ候トアサ笑、鎗取直シ地打シケルカ、透間モナク打ケル鉄炮當腕テ倒ニケリ。孝和論ハサモアレト思、首敵ニ取スナト云ケレハ、孝和カ中間抱立テ見ケルカ、ハヤ前後不覺ナリ、則彼カ下部ヲ招テ渡シケレハ、城中ヘ退ケルカ、斯疵ヲ痛ハリ、終ニ死ニケルコソ不便ナレ。孝和兼日幽齋ノ御家人ノ頸、吾等ニ屬候ハンニ於テハ、一人モ敵ニ取スヘカラスト申ケル言葉ヲ違カヘシトナリ、孝和ハ杉カ鑓思ヒノ儘ニヲツ取リ。攻入敵ヲ防カント、閫ヲ下知シケル所ニ、鎗ノ鹽頸ニ鳥毛ヲ付タル武者、藤掛三河守カ家來小石新兵衛ト名乘テ、鉄炮ノ透間ニ橋桁ヲ渡リ、木戸ノ柱ノ陰ニ進寄ル。孝和カ甲ノ立物、熊ノ二本棒揭焉カリケレハ。是ヲ目掛ケテソ來ケル、孝和柱ノ陰ヨリノソキケル所ニ。小石新兵衛眞中ヘ飛テ出、マイラント詞懸ル。孝和コラヘス早リ武者ニテ。心得タリト鎗ヲ合、兩虎二龍ノ戰勝負決スヘシトモ見ヘサリケル、是ヲ始トシテ。ツヽク兵シコロヲ傾ケ。橋桁ヲ超來ル、孝和カ兵吾モ〳〵ト防キ戰フ、サシモノ小石カ勞膚撓ケルニヤ、孝和ニ突立ラレ。土手ノ陰ヘ引タリケル。孝和カ兵モ小勢ナレハ追ハサリ

ケリ。軍散シテ後、鳥毛ノ鎗ヲ以テ水底ヲクク
リ。先日大橋ニテノ鎗ハ小石新兵衛ト申者也。
見テ置レヨト申ケル。アレ打トテ鉄炮ヲ放シ
ケレ圧。當ラスシテ。靜々トソ上リケル。去ル
程ニ寄手ハ小石討スナ續ケ者共トテ。大橋ノ
橋桁ヲ渡リ木戸ヲ破ラントス。閾ノ兵鑓ヲ振
廻シ手延ナリケレハ太刀ヲ拔テ木戸コシニ
散々ニ突タリケル。寄手モアマタ手負ケレ圧。
大勢ナレハ事トモセス。木戸ヲ押ス。閾モ互ニ
押合ケルカ。木戸ハ上ヘ押立ラレ。タツノ口
ハツレテ倒ニケリ。寄手ハ力ヲ得テ込入ケル
ヲ。孝和鎗ヲ取テ散々ニ防キ戰フト云トモ目
ニ余レル大勢ニ可叶ニ非サレハ引退ケル敵
ハ是ニ氣ヲ得テ。喚キ叫ンテ追掛來ル孝和ハ
靜ニ返合〳〵。紺屋町ノ繩手ニテ。三度マテソ
返シケル。然ル所ニ運命天ニヤ叶ケン。大潮滿
チ來テ。繩手ノ上ニ湛テ漠々平々タリ。寄手ハ

案内ヲ不知、足ノ立所ニ迷ケルヲ。孝和天ノ
與ル所ヨト勇テ引返。油語彦兵衛一陣ニ進テ
防キ戰フ。彼カ鋒先ニ當テ水中ニ入者數ヲ不
知。寄手ノ兵ノ中ニ魁ノ促兵ト覺シキ兵七八
人。孝和カ冑ノ立物甲ノ樣見トカメテヤ有ケ
ン。何樣爰ニ引武者ハ今日ノ大將ト覺ユルソ。
アマスナト云聲シテ。鎗先ヲ揃テ打テ掛ル。孝
和甲ヲ打傾ラレ。眼上ニ掩ケレハ引カナクリ
捨ントセシカ、急度思ヒ返シ。後ノ越度ト成
ルヘシト。鎗ニ持添大童ニ成テ戰ケル。玄旨遙
ニ天守ノ武者走ニ登テ看給フニ。大橋口既ニ
破テ。味方負軍ト見ヘタリケル。孝和一人怺テ
大勢ノ敵ニ渡リ合。折節續ク閾モナシ。敵ノ首
ヲ鎗ニ取添タリトソ見タリケル。玄旨誰カア
ルト尋玉ヒケレ圧折節人モナシ。貫井内藏助
是ニ候トテ出タリケレハ。アレ見ヨ孝和ノ働
ヲ。力量人ニ超タリトハ云圧。終ニ討死ト覺ル

ソ。本ヨリ此城運ハ開マシ。速ニ自害セント思シニ。孝和不慮ニ卒援兵馳來テ。今日マテハ得力所ナリ。汝急キ馳合テ力ヲ加ヘ引取玉ヘト宣ヒケレハ。貫井畏ツテ承ハリ候トテ。甲ノ緒ヲ認メ金ノハレンノ大指物浦風ニ吹鳴シテ進ミ來リケル。寄手ハ是ヲ見テ。叶ハシトヤ思ヒケン。勞テヤ有ケン。引退ケルヲ。孝和比興者返セ〳〵ト冐懸テ。追拂貫井ト打連引退ク郎從等ハ。何トカシタリケン。大勢ノ敵ニ押隔ラレ。土橋ノ上ニ集リ居テ。誰カ此ノ中ニ御行方ヲ知リ給ヘルヤ。討死ハ決然ナリ。一人モ御供申ヌコソ口惜シケレ。イサ面々ニ討死セント寄來ル。敵ヲ俟ツ所ニ。孝和忽然トシテ來ケレハ。郎從等吾先ニト走リ向ヒ。鎧ノ袖ニ取付テ。喜事無限。郎從等申ケルハ。爰ハカケ場モヨシ。暫ク敵ヲ防カント云ケルヲ。孝和ハ闕勞レタリ。大事ノ軍仕損シヌヘシトテ。土橋ノ木戸ニ入テ。梅酸ノ渇ヲ休メニケリ。寄手ハ大勢土橋ノ際ニ到リ。先鋒ノ兵七八人木戸口ニ眺テ打テ入ラントシケル處ニ。究竟ノ手足共鉄炮ヲ繁ク打ケルニ。七八人犬居ニ打倒サル。孝和スハ時分ハ能ソト木戸ヲ開キ。一同ニ切テ掛ル。久代太郎助ヲ使トシテ。首不可取。討捨ニセヨ。某是ニテ實撿スルソ。手ヲ不可塞トソ下知シケル。寄手ノ方ニ齊村左兵衛一陣ニ進ミ。是ノ小城一ツ攻落サヌト云甲斐ナキ奴原カナトテ。荒手ヲ入替東町口ヨリ靜ニ打テ懸リケルカ。寄手ノ逃ル勢ヲ敵トヤ見タリケン。友崩シテ引ケルヲ。孝和カ兵追懸ケレハ。齊村左兵衛促兵七八人返合々々戰ケルカ。町屋ニ長差物ツカヘテ退得ヌ者多カリケリ。寄手大勢荒手ニ成テ。一同ニ大橋口ヘ入替ケレハ。齊村又力ヲ得テ。引返シ。先鋒シテ進ミ來ル。孝和カ兵共度々ノ軍ニ氣勞ケレハ。可防ヤ

ウハナカリケリ。孝和ハ元來吳子孫臏カ謀ヲ學タル者ナリケレハ。靜ニ手負ヲ助ケ。名アル死骸ヲ取ノケ。少モ不騷シテ。折節追風烈ク吹ケレハ。玄旨ノ町奉行曲齋某カ許ヘ使ヲ立ケルカ。返答ヲ俟ツヘカラストテ。町屋ニ火ヲソ掛タリケル。兵火塵煙ヲ捲テ。敵軍ニ掩ケレハ。寄手大勢ナリト云トモ。面ヲ向ヘキヤウモナク。七縱八橫ニソ逃タリケル。亥ノ剋ヨリ今日申ノ剋ノ初マテ。十有余度手痛ク戰ケレハ。寄手モ叶ハシトヤ思ヒケン。城西一里ノ外。愛宕山ノ陰マテ引退テ陣ヲソトリニケル。

孝和ハ虎口ノ死ヲ遁テ。薄手アマタ所々負ケル上。郎從等モ余リニ勞ケレハ。靜ニ大手ノ木戶ニ到リ見レハ。大手ノ門ヲ開タリ。コレハ誰カ下知シケルソト申ケレハ。番ノ者共麻野殿ノ下知ニ候ト申ケル。爾ル所ニ誰カ云トモナク。孝和討死ノ由申ケレハ。幽齋扱ハトテ小手ヲハツシ既ニ自害ノ用意ト見ケル處ニ。孝和不圖差出ケレハ。玄旨ハ掌ヲ拍テ悅玉フ事涯ナシ。天未捨玉トソ宣ケル。孝和ハ合戰ノ次第濃々ト語リ。某カアラン程ハ。敵ノ足ヲハタメサセ申スマシト申ケレハ。幽齋斜ス感玉ヒ。既ニ生害スヘカリシ身ノ。三刀谷殿ニ助ラレ奉ルソカシ。一戰ヲ快フシテ再ヒ歸來リ給フ上ハ。夕ニ死共可也トソ悅ヒ玉ヒケル。言ハ半ナリケル處ニ。奧ヨリ物音ソヨメキアヒテ聞ヘケレハ。玄旨ノ內方孝和ニ對面ノ爲ニ出玉ヒニケリ。帶ニ小脇指ヲ挾ミ玉ヘリ。三刀谷殿トハ御事カ。今度ノ御働目ヲ驚タル事共也。幽齋ト天守ニテ見マイラスル。武勇ニ於テハ恐シキ有樣。年タケ玉フカト思ヘハ。イマタワカキ御人也。願ハ越中守ニ見セタクコソ候ヘ。幽齋ト二世ノ契約ノ御志。有難ク覺候。女ハ覺悟アリト申セ𪜈。覺束ナク候ヘハ。最期ヲハ三

刀谷殿ヘ賴申トソ宣ケル。流石ニ女性ノ習トシテ淚ヲソ流シ玉ヒケル。近侍ノ者ヲ召テ。三刀谷殿ニ酒進メヨト有ケレハ。幽齋酒ハ呑玉ハスト宣ケレハ。飯湯ヲ參ラセヨトテ。提ニ入テ持來ル孝和甚勞レケレハ。三度傾ケケル所ニ討取ル處ノ首共三十余級荷ヒ來リケレハ。內室ハ眉ヲ顰メテ入玉フ。女性ナリケレ𪜈。由々敷人ナリケレハ。自ラ下知シ玉ヒシナント。後ニ云ヒ沙汰シケルトソ聞エシ。

二十六日夜ニ入テ。敵ノ忍一人搦手ノ門ニ來リ隱文ヲ捧ク福壽院妙菴。則チ玄旨ニ達シ玉フ。其長三寸許リ。蠟紙ヲ以テ包タリ。玄旨自筆ニ返書ヲ調ヘ使ヒヲ返シ孝和ヲ招テ密ニ宣ケルハ城中宗徒ノ者數輩賞ヲ約シテ回忠ノ由城外ヨリ隱文ヲ以テ知スル所也。聊疑ソヘキ所ニ非ス。不日ニ彼等ヲ誅シテ賜ハラントソ宣ヒケル。孝和ハ何方ヨリ告來リ候ソト尋ケレ𪜈。幽齋如何思ヒ玉ヒケン。誓言ヲ以テ返事シヌ。心ヲ隔奉ルニハ非ス。申シ難シトソ宣ヒケル。孝和ハ內ヲサクルノ謀ニテモヤ候ラン。率爾ニ誅シ候ハヽ。落城ノ端ト成ヘク候也。去ナカラ思案コソ候ントテ。宿所ニ皈リ。藤掛三河守寄手ノ諸將ニ斷リ。樽ノ中ヲ露顯シテ送リケル酒肴アリ是ヲ饗應セントテ。麻野篠山等宗徒ノ者共五六人ヲ招キ請シ。孝和郞從等ニ宣ケルハ。彼等ヲ招キ寄テ可云渡子細アリ。若異儀ニ及ハヽ。某下知スヘシ。二ノ間ヨリ一同ニ切テ出テ。不殘誅スヘシト云計テ。郞從等ハ物具シテスアト云ハヽ。ツト出ツヘキ躰ニテ障子ノ陰ニソ扣ケル幽齋ノ郞從等ハ夢ニモ是ヲハ不知。多日ノ籠城ノ欝氣ヲ散ントテ。酒宴既ニ半ナリケル𪜈。孝和出テ申ケルハ。今日ノ御出悅入候ヌ。勇士ノ同シ城ニ籠テ。命ヲ一所ニ捨ント存ル程親シキ事ハ有

ルヘカラス。偶今日マテ城ヲ全ク守リ玉ヘル忠臣義士。争テカ二心ヲ存ンヤ。然トハ云トモ。當世ノ有樣ハ。親子トテモ頼ナシ。孝和殊更城外ヨリ馳入テ候ヘハ。定テ疑ヒ玉フラント申ケレハ。家僕等謹テ申ケルハ。斯城ト申ハ。要害コソイミシク候ヘトモ。軍勢武具兵粮モナシ。玄旨ノ運命既白氷タル思ヲナシ候シニ。今度兵ヲ率。御加勢ノ御事ハ。龍ノ得水虎ノ嵩山カ如クニ候シウヘ。數度ノ力戰諒ニ目ヲ驚シ奉テコソ候ヘト申ケル。孝和重而諸人ノ疑ヲ散ン爲ニテ候ヘハ。某カ居室ノ屏垣キ悉ク打崩シ見エスク樣ニ仕ヘシ。是ヲ手本トシテ。各モ如斯シ玉フヘシ。妻子ノヲハセン所ハ。屏風ニテ圍ヒ玉ヘ。城外ヘ所用アラハ。撿使ヲ添テ人ヲモ出シ玉フヘシ。コナタヘモ撿使ヲ賜ハルヘシ。異儀ヲ存セン人々ハ逆心ソト申ケレハ。列坐ノ者共異論ニ及ハヽ。遁スマシトヤ思ヒケン。畏テ承ヌトテ。則人ヲ遣シ牆壁ヲ崩シ。野外ノ辻堂ノ如クナリ。其後ハ反逆ノ企モ止ニケリ。幽齋ハ斯由申ケレハ。勇士ノ龜鑑ナリトソ感玉ヒケル。

カヽリシ程ニ。八月上旬ニ及テ。八條殿ノ御使。前田德善院案内者ヲ添テ。丹後ヘ下シケレハ。玄旨ハ兼テ和歌ノ達者ナリケレハ。時ノ公卿武家ノ華麗シキ人多カリ。家傳ノ歌書アマタ内裡ヘモ奉リ。公卿ヘモ各形見トテ參ラセラル。三條大納言ハ殊サラ他事ナカリケレハ。兼テ宣ヒ送ラレケルハ。秀吉大閤ノ御代ニ二心ナク忠ヲ存候ヌ。秀頼公ニ對シ。疎略アルヘキニ候ハス。但シ越中守内府ノ味方ニ候事ハ。天下ノ御後見トテ。召具セラレ候上ハ。是非ニ及ハス存生ニ思ヒ殘ス事ナシ。此旨奏聞ヲ歷ラレ。大坂五奉行ヘモ御斷有テ。可賜ト申サレケレハ。當今陽成院哀ニ思召テ。勅使ヲ以テ大

坂ヘ仰セラレケルハ。長岡幽齋籠城ノ由叡聞ニ達スル所也。武家ト云ナカラ和哥ノ棟梁トシテ。傳受彼家ニ有。急キ和平アラハ悦思召スヘキト也。德善院ハ兼テ忍テ奏聞申ス子細有ケレハ。不斜悦ンテ則此旨披露シ。子息主膳正カ許ヘモ申遣ケル。丹後ノ國ヘ勅使トメ。富小路中院兩家ヲ差下サル。中院殿ハ先年勅勘ノ子細有テ。丹州ニ漂流シ給フ因ミアリトソ聞シ。寄手ノ諸將ハ。勅宣ヲ蒙テ城中ヘ告ラレケレハ。幽齋去ラハトテ。佐方吉右衛門ヲ以テ。勅使ヲ搦手ノ會所ニ請セラル。佐方ハ中比八條宮ニ仕ヘ奉テ。京家ニ馴タル故也。玄旨會所ニ出向ハル。兩勅使宣ヒケルハ。幽齋不慮ニ危難ニ逢ヒ。和歌之柱石其時ニ到テ斷絕セン事ヲ歎キ思召テ。宣襟更不穩。急キ降軍門可乞和トノ勅宣也。玄旨勅答申サレケルハ。天氣ノ趣諒ニ身ニ余リ候ヘトモ。今更降參ハ本意ニ非ス。所詮一人城ヲ出テ自害シ。城中ノ者𪜈ヲ助ケ賜ハルヤウニ。宜ク勅宸アラハ。天恩是ニ過キ候ハシト也。城中ノ愚ナル者共ハ喜ヘル色ニソ見タリケル。勅使ノ往來ノ間ニ。前田德善院玄以病氣ニテ有シカ。羽檄ヲ飛セテ云ク。勅使ノ下向ノ事ハ某カ申セシ所ナリ。其故ハ天下大亂ニ及フト云トモ。終ニ家康公ノ御勝ナルヘシ。如何ニモシテ勅命ニ任セ城ヲ堅固ニ守リ玉ヘ。關原ノ一戰勝負ヲ決候ハヽ。寄手ノ敗北ハ疑ヒナシ。且ハ某カ嫡子前田主膳正。丹州龜山ニ在リ。彼カ命ニ於テハ助ケ賜ハラムトソ申サレケル。玄旨暫カ程ハ計畧カト疑給ケルヲ。孝和强ヒテ申ケルハ。縱ヒ謀ナリトモ心移シ心還リトテ。古ヨリ良將ノ智謀ナリ。勅宣ト云計畧ト云。先ニ和平アッテ世ノ變化ヲ窺ヒ玉ヘカシト申ケレハ。此義最ナレハトテ。其旨勅答ヲ申サル。輿賴アル和平トハ議

セラレケレ、未タ敵陣ヘハ通セサリシカトモ。前田主膳カ内通ト覺テ。寄手ハ玄旨和平ト大坂ヘ注進シテ。己カ身カマヘニノミ心ヲ入テ。城ヲハ攻ズ。元來兩端ヲ窺人多カリケレハ。中〱軍ハ無リケリ。城中ニモ七月中旬ヨリ九月下旬マテ。兵粮モ兼テ用意セス。俄ニ籠ケレハ。士卒城外三四町カ間ノ稲ヲ苅ケル、形勢ニテ。打テ出ツヘシトモ見ヘサリケリ。八月下旬ニ到テ、越中守忠興羽書ヲ以テ中サレケルハ。家康公ノ御供申シ。到下野國小山之所。於途中聞石田氏ノ鋒起、而馳到尾州、爲先鋒、赴濃州。抜岐阜之城畢。家康公ノ威權掩海内之間。近日ノ合戰必勝不可疑、然者其間玄旨籠城肝要也云云 城中ノ者共喜ヘル事涯ナシ。玄旨賀儀トシテ。孝和幷家僕等ヲ請ラル。玄旨宣ヒケルハ。今度不思ニ臨危ノ所ニ。三刀谷殿ノ御加勢諒ニ佛神ノ加護ト覺エ候。殊更武略ト云。勇力ト云。皆是厚恩ニ候ヌ。城中ノ者共誰カハ斯旨ヲ不存。泰山ヨリ重ク。滄海ヨリモ深カルヘシ。子孫ニ到マテ忘却アルヘカラスト也。家康公於勝利ハ。某モ丹波ノ國ヲハ賜ハルヘシ。上杉梅谷上林山家四ケノ庄。凡ソ一万六千石。小分也ト申セ共。三刀谷殿ヘ參ラスヘシ。案内ニモ不及シテ。所務アルヘシトソ宣ケル。孝和ハ御志喜入存候トハ云ケレトモ。ヲカシキ事ヲモ宣フ物カナ。斯城ヲ保テ數日ノ合戰。謀畧ハ其功誰カ作ス處ソヤ。幽齋ハ夫婦天主ノ臺ニテ見物シ。所領ハ賜ハラス。前ヨリモ心當ノヲカシサヨ。家康公ヘ言上有テ賜ハラハコソ。本意ナラメト思ケル。言ハテモ色ニ顯レケルニヤ。玄旨重テ是ハ先ツ某カ隱居分ノ志也。忠興カ御禮ハ如斯ニハ有ヘカラス。兩親妻子一族數人ノ命ヲ助ラレシ莫大ノ御恩ヲ。爭カ忘レ候ヘキト宣ケレハ。幽齋ト云ケル遁世者ノ有ケ

ルカ。誠ニ前代未聞ノ御働。鈴木カ高舘へ下リケルモ同御志哉ト申ケレハ。玄旨扇ヲ取テ席ヲ扣テ。汝カ言ハ誤也。鈴木ハ義詮ノ家人。弟ノ亀井モ高舘ニアリ。僅ニ一人下リシソカシ。孝和ハ集カ家人ニ非ス。纔ノ恩ニモ預リ玉ハス。多年ノ入魂ヲ不忘シテ。家ノ武名ヲ擧ントテ馳來レル所也。高舘ト申ハ義詮ハ名將也。相従フ輩ハ一騎當千ノ兵共。況乎鬼神ノ如ク。世ニ謂ハルヽ坊主メナントカ籠リ居テ。終ニハ運ヲ開カス也。孝和僅ノ勢ヲ以テ。度々大軍ヲ應シ玉フコトハ。鈴木ト同日ニ不可語。大橋ヲ渡玉ヒシ事ハ。少シ筒井ノ浄妙ナントニ似リトヤ申ヘキ。凡ソ百年已來ノ働ナルソト宣ケル。當座ノ狂言トソ聞ヘシ。徳善院ハ智アリケルニヤ。兼テ勝負ヲ察シ。幽齋へ内通ノ因ヲ成シ。武士七八騎城中へ入ヘシト也。秀頼公へモ勅宣アツテ。和平ノ事ヲ仰セラル。幽齋モ賢

キ人ニテ。兼テ申サルヽ旨モアリケレハ。其旨ヲ請ナカラ。兎角シテ城中へハ入サリケル。往還ノ間ニ秋ノ半モ過ニケリ。去程ニ關原ノ合戰。家康公ノ御勝ト聞ヘシカハ。寄手ハ取物モ取敢ス。四角八方ニ敗北ス。徳善院玄以。使ヲ馳テ城中へ此旨ヲ賀シ。且ハ幽齋龜山ノ城ニ入テ。主膳正ヲ助玉へト也。孝和斥候ヲ出シ。寄手ノ實否ヲ伺ヒケル。兵粮武具マテヲソ捨タリケル。忠興羽書ヲ飛セテ。關東ノ勝利ヲ告給ヒ。父ノ敵内府家康公ノ御敵ナレハ。福地龜山ニ於テハ。其承ツテ攻ル所也トソ申來ケル。玄旨ハ急キ前田カ城ニ入玉フ。孝和モ同ク入ニケリ。軍勢前後ニ散亂ス。不審ノ思ヲ成ス所ニ。徳善院ノ家人小池淸左衞門。幽齋ノ迎トシテ。丹波丹後ノ境。シウチノ郷ト云處ニテ。孝和ニ行逢ヌ。御約束ト申セ共。心ヲ安セサル所ニ。令案堵ヌトテ。手ノ舞足ノ踏所ヲ覺エ

ス。後ニ聞ケルハ。玄旨龜山ニ入ラスンハ取留メントノ策トソ聞シ。某日ノ暮方ニ及ンテ。玄旨龜山ニ着玉ケレハ。主膳正ハ喜テ。二ノ丸ニ請シケレ𪜈。忠興ノ着陣ヲ不聞。安堵ノ思ハ無リケリ。前田カ家人挾間眠リ。籠城ノ躰モナク。恐アエル計也。慭ヒ馬鐙カケタル馬𪜈。物陰ニ引立タリ。是ハ逃支度カ。城外狹ケレハ。馬ヲ馳スヘキ地ライモナシ。亥ノ刻ニ及テ城十町外馬堀ト云所ニ。忠興着陣シ。玄旨使ヲ以テ。速其旨給ケレ𪜈。忠興怒テ其旨ニ應シ玉ハサリシ。使ノ往來數回ニ及テ。玄旨ハ前田カ多日ノ志ヲ宣フ。忠興ハ德川家ノ逆徒也ト宣ケル。兎モ角モ三刀谷殿ノ御目ニ懸テ。志ノ實否ヲ承ハラント宣ヒケレハ。幽齋則チ使ヲ立ラル。孝和モ城下ニ有ケルカ。急キ忠興ノ陣ニ來ル。井戸ノ利跡ト云者一人ヲソ殘ケル。利跡ハ斯城ニ捨賜テ。俊寛カ鬼界ニ殘レルニ異ナラストソ利口シケル。前田家僕小池淸左衞門ハ覺悟シタルソト騷ヌ躰ニソ見シ。孝和ハ德善院ノ志具ニ申ケレハ。忠興心解テ。サアラハトテ主膳正ヲ召ニケリ。籠鳥ノ雲ニ入。淵魚ノ得水タル心地シテ。馬ヲ馳テソ來ケル。降人ノ禮儀ナレハ。昨日マテハ膝ヲ双ヘシニ。庭上ニ蹲テ敢テ正ク見サリケリ。アマリニ引カヘタル形勢痛ハシク見ヘケレハ。孝和見ニ堪ス。自ラ立テ手ヲ取リ。坐ノ右ニソ請ケル。恐テ席ニ登ラス。廣縁ニ躊躇ス。暫ト計ニテ殘間シカリケル事共也。忠興遂ニ主膳ヲ見テ。福地ニテ小野木ヲ攻ヘシ。其方先手セラレヨト有ケレハ。主膳ハ畏テソ立レケル。孝和ハ主膳ヲ送リケレハ。主膳ハ申請テモ仕ヘキ先陣ナリトテ。城ヘ用意ノ爲トテ歸ケル。忠興ハ孝和ヲ座上ニ請シ玉フ。辭スト云𪜈。强テ玄旨ト共ニ引座ス。忠興末座ニ蹲踞シテ宣ケルハ。玄旨運命既ニ

極ケル所ニ。三刀谷殿不慮ニ兵ヲ發シ。小勢ヲ以テ大敵ヲ靡シ。自ラ敵ニ當リ玉フ事。勇力ト云ヒ。武畧ト云。感入候ヌ。多年ノ因ヲ思召テ。一家。氏族。家來命ヲ保ツ事ハ。三刀谷殿ノ恩也。何トカ報シ申ヘキ。子孫マテ申傳ンスルソ。家人等モ定テ此旨ヲ存候ハントテ。舍弟玄蕃頭興元（ノキモト）ヲ召テ。坐敷ヲ隔テ頓首シテソ候ハレケル。孝和ハ座ヲ立ントス。忠興シイテ留玉フ。兩人ノ間ニ坐ケレハ。玄旨ハ三刀谷殿ノ足ニハ腫物アリ。安坐シ玉ヘトテ。平脚ニシテ坐ス。忠興ハ玄蕃頭ニ向テ。兩親妻子御手前ノ妻女。松井カ妻女。已上八人指ヲ折テ彼等カ命ヲ助ルノミナラス。家名ニモ疵ヲツケサル事ハ。長岡ノ氏族タラン者。爭カ忘レ申ヘキトテ。舍弟與十郎孝之家來宗徒ノ者共。一同ニ召シ。孝和ヘ一禮シテ。厚恩ヲソ感ケル。忠興椽ニ出玉ヘハ。庭上ニ忠興ノ軍兵並居タリ。一方ニ玄旨ト孝和カ郎從等少々並居タリ。忠興家來ニ向テ。先ニ宣シ如ク。委ク述ヘ。汝等モ皆恩ヲ蒙レリ。忘ルヘカラスト宣ケレハ。一同ニ皆平伏シテソ候ケル。孝和暫ク庭上ニ出ニケルニ。暮秋ノ雪平白タリ。藁草ヲ取テ坐ケルニ。忠興來リ玉ヒ。手ヲ雪中ニツイテ席ニ於テ中ツルハ。猶言不足ト宣ヒ。孝和カ郎從等ニ向テ其旨ヲソ述ラレケル。程ナク豐前ニテ領地ヲ賜リ。長岡ハ日ニ増シ榮ヘ玉ヒケレ圧。孝和カ功ヲハ家康公ヘハ如何宣ケン。組カケ一万石余ノ領ヲ賜リ。家人ノ如クモテナシ玉ヒシカハ。孝和怒テ豐前ヲ去。龜井豐前守ハ先祖雲州ニテ因アリケレハ。豐前守ノ領地。因幡國ノ山中ニソ隱ケル。家僕佐方少左衞門。同與左衞門ハ。細川家ニ殘ケルヲ。勇士レナハトテ賞セラレケルトソ聞エシ。諺ニ謂ル事アリ。犬ノ骨折ハ鷹ノエシキトカヤ。ヲカシキ事共ナリ。前田

主膳正ハ差タル高名モナク。降ヲ乞。忠興ニ助ラレテ。己カ恥ヲヤ思ケン。幽齋ハ城ヲ明テ。小埜木ニ擒ヘラレシヲ。某入替テ在番セシヲ。今一兩日モ怺タリセハ。關東ノ御勝聞ヌヘシ。幽齋臆ケリトテ。忠興ハ悔ミ玉ケルナント云沙汰シケル。跡ナキ僞トソ聞シ。小野木ハ福地山ニ楯籠ケルヲ。忠興攻玉フ。山岡道阿彌ト。小野木トヨカリケレハ。和ヲ入テ小野木降參ス。井伊兵部直政小野木トヨカリケレハ。家康公ヘ一命ヲ乞ケレモ。忠興ト常ニ不和ニシテ。剰ヘ今度田名邊ノ寄手ナリケレハ。强テ申謂ルニ依テ誅セラレシト也。田名邊ノ寄手或ハ降參。本領ヲ安堵シ。所領ヲ滅セラレ。罪ヲ宥テ命ヲ續ク中ニモ。小出大和守。前田主膳正。其外兩端ヲ窺。サセル合戰モナシ。齊村左兵衛ハ。赤松則祐カ后胤トシテ。武勇ノ名家也、初ヨリ關東ノ閫ニ志アリケルカ。軍ヲモ心ニ入レス。龜井豐前守トヨカリケレハ。降ノ事ヲ申ケレモ。龜井如何シタリケン。家康公ヘ申サス。宮部カ籠リシ因幡取鳥ノ先登シテ。攻落スト云トモ。其功モ空クシテ。龜井カ爲ニ討レケルトソ聞ヘケル。

右一册者。三刀谷伴藏源扶明。應我之所覔。而贈者也。扶明者我斷金之友也。子孫勿忽畧斯書也。

時元祿元年秋八月既望

梅菴主閑鷗居士

續群書類從巻第六百三十九上

合戰部六十九

播州佐用軍記序

川島氏正友。號忠左衛門尉。元播之生也。少而仕于備陽之大守前黄門。前黄門トハ宇喜多中納言秀家卿也。秀家卿備作及播州之内三郡ヲ領シテ。備ノ岡山ニ在城也。秀吉卿吹擧ヲ以テ官位累リニ黄門侍郎正三位ニ至ル。慶長五年關ケ原ノ役ニ國亡テ。筑前中納言秀秋卿備作二州ニ封セラレ。備ノ岡山ニ在城也。因玆備作ノ民等カ秀家卿ヲ。前ノ中納言殿ト稱シ。秀秋卿ヲハ後ノ中納言殿ト云傳タリ。今黄門ト書タルハ。秀家卿ノ御事ナリ。及壯年。仕于播州大守源耀政。耀政ハ清和天皇後胤池田信輝入道勝入二男也。家康公ノ姫君ヲ嫁シテ。播州備前淡路三ケ國ニ對シ姫路ニ在城。參議ニ任シ三位ニ昇進タリ。父赤松氏。正澄號。高嶋右馬助佐用郡高嶋城ニ居。故稱高嶋也。後領赤穗郡。住居於高野城上也。羽柴筑前守秀吉卿發軍。與ニ。佐用。上月ニ戰。夫正澄始其外西播磨一族悉ク退去城籠。下于佐用。上月。太平ノ山。城上。智謀計畧雖レ得ヨト規矩ヲ矣。遂糧竭卒疲レ。一族悉自殺太平城中矣。當時正友未レ滿ニ十歲ニ。依ニ父命ニ正友及弟兩人相伴。家臣早瀨正規號藤兵衛。彼等相屬蟄居ス同州書寫山也。正友及レ長。與早瀨等嘗記錄此書矣。爪聽京師書肆再三雖レ願ニ追加ニ。此書梓工已成矣。嘗不レ僥空歸下舊里矣。正友之男川島正與號忠太輔。以ニ此書ヲ附ニ屬于正與ニ又傳ニ于予ニ。正友曾於

洛陽梓工許密通。而以下所書寫織田信長記上追下加于佐用軍記而合爲全部以藏櫃而貯焉有歲月予令以佐用軍記別拔出之爲三部二卷號佐用軍記。聊顯先人之忠功欲不空亡滅焉。且接同姓之遺念而已。時明曆元年乙未三月川島氏好和（號忠兵衛）考訂于備陽岡山寓居成云。此書ハ佐用郡上月城內日記ナリ。傳云。佐用合戰ニ及テ。於大手本丸高島ト小林軍中ノ次第撰之。杉原八兵衛尉。櫛田久藏此兩人執筆シテ。以日記之於搦手二ノ丸早瀨。横山。是ヲ桐山市之進ト廣澤入道後軒是ヲ執筆矣。然上月落城之日於大廣間政範正澄義列座シテ件之執筆四人ヲ召。高島中サレケルハ。籠城ノ抱（マヽ）既今日ニ迫レリ。去ハ此日記共亡滅センヿ弓本意ナケレハ。後日ニ何ヲ以テカ是ヲ正サンヤ。唯云甲斐無フ攻落サレシト云レンモ口惜ヘシ。然ハ櫛田桐山ノ兩人ハ。此日記ヲ持チ城ヲ落行テ書寫山ニ走リ。密ニ妙覺院法印ニ謁シ。汝ラカ城內ニテ見聞スル所ト。ヨノ風聞ヲ補入シ。淸書シテ是ヲ右衛門ニ與ヨトナリ。時ニ兩人カ云。今此節ニ臨ンテ退散仕ランコト本意アラス。兎ニモ角ニモ御一所ト申ス。正澄聞テ最也。乍去此日記モ死セハ。凡今度籠城セシ輩萬人ニ及ヘシ。是皆犬死共餓死セリ𪜈云レン。此日記ニ存セハ。義ヲ守リ討死セシ者共永ク世ニ存セル也。物存亡ヲ辨サル者カナト。氣色奮テ申サレケレハ。兩人辭スルニ言葉ナク同十二月十七日ノ黃昏時。祖父市進ト櫛田ノ何某城ヲ忍落。桐山ノ鄕。是ハ上月ノ城ヨリ西北ニ當リ。則桐山カ領地ナリ。兩人爰ニ忍居テ。頓テ剃髮シ。後書寫山ニ登。一生ヲ行ヒスマシ。終ニ坂本マテモ出スト承ル。サテ右衛門長スルニヲヨンテ。妙覺院。早瀨。櫛田。桐山相共ニ佐用城中ノ日記ニ間時ノ風說ヲ補テ淸書

ス。故ニ此書ニ城外寄手ノ人ノ剛臆ト。諸大將ノ中ニ佳名アル人。及ヒ討死セシ輩ノ其名ヲ城中ニテ知サレハ不記ト見ヘタリ。後覽ノ人是ヲ補ヒ給ヘカシ。但戰場日々夜々勝負ナレ。目前ノ儘ニテ親疎ヲ不論トカヤ。唯寄手ノ旌旗ト幕ノ紋ト。歲來相知レル國人等。多ハ秀吉卿ヘ組シツレハ。彼ト其ト記スモノカ。此書ノ末ニ旌見聞識有リ知ラレヌヘシ。扨又秀吉卿姬路ニ三年御座在由。故ニ右衞門兄弟三人桐山。櫛田。早瀨等世ノ恐ヲ謹。法印ノ許書寫觀音御堂ノ床下隱居。日光ヲ白地ニ不拜ト承傳タリ。時去リ事古リテ。平信長記。及太閤記。天正軍記竹中傳記ナト云ヘル書ヲ閱スルニ。佐用合戰ノ次第ヲ他ノ書ニ委不記之。正友是ヲ嘆息シテ。上月カ軍記太以疎略也ト書リ。予承知仕ル所。依御所望書進之者也。

貞之

右者於播州西郡桐山氏末葉等何某。貞之者在依望。佐用軍記一部遺永一覽。其節右一件桐山方ヨリ添返狀。饋予許。故追加之者也。

妙覺院ハ 高島右馬之助弟。號秀仁法印。播州書寫山住居ス。

右衞門ハ 川島忠衞左門尉正友ト稱。稚名。幼年書寫山蟄居恐世ノ聞。政氏外氏用號川嶋。

于時萬治三庚子立秋

川嶋氏末葉誌之

播州佐用軍記上巻目録

播州佐用軍記卷之上

一。羽柴秀吉卿播磨江下給事

天正五年丁丑七月上旬。播磨ノ國ヘハ信長公ノ代官トシテ。羽柴秀吉卿其勢一萬八千餘騎ニテ。府中ノ城主小寺カ舘エトツ下リ給フ。小寺ハ赤松ノ氏族ニテ。當國飾東郡。飾西郡兩郡ヲ幷領ス。去レハ當國赤松ノ統領近年亡テ。其一族等播備作ノ間ニ有テ。近年ハ藝州毛利輝元ノ旗下タリ。就中播州八郡ヲハ三木郡別所長治統領之。國府ノ二郡ヲハ小寺領之。西北ニテ五郡ヲハ佐用郡上月赤松藏人統領ス之。其外ノ一族餘有リト云ヘトモ。或旗下ニ付。或家臣ノ樣ニテ所々ノ端城ニ居レリ。小寺モ始ハ御着ト云所ニ居レリ。其後府中今ノ城地ニハ非ス。少シ隣タリ爰ニ城ヲ構居レリ。然ルニ小寺如何ナル思慮ヤ有ケン。秀吉卿當國ヘ入給ト聞ヨリ。家老共ヲ呼出シ意趣ヲ略云捨テ。刀脇指投出シ。元取切テ其ヨリモ簾中ヘ入リ。其日ノ暮程ニ行方知ス成給フ。此故ニ家老ヲ始其外郎從共騷動シテ。己カ樣々退散セリ。カヽル處ニ。其臣ニ小寺官兵衛尉高孝ト云者在リ。同國端城ノ別府ニ居レリ。高孝ハアエナクモ舊約有テ默止難クヤ思ヒケン。頓テ秀吉卿ノ御迎トシテ路次マテ出向ヒ。先吾舘ヘ請シ入。無二ノ臣トナランコトヲ子カヒヌ。秀吉卿モ喜悅不斜。互ノ誓約有トカヤ。去程ニ秀吉卿當國ニ下リ給フ。其濫觴ヲ尋ルニ。先年小寺一身之才覺ニャ有ケン。高孝父子其外之家老ヲ聚メ相談ヲ以テ。當時信長公ノ武威ヲ聞キ傳ヘ。歸服仕ラント決定シテ。則此高孝本苗ハ黑田ト稱ス。今小寺ト改ム。信長公ヘ使者トシテ申遣ケルハ。某族播州御味方仕ヘシ。然ハ國中皆一族ニテ候程ニ。彼等モ違儀ニハ及マシ。御

公達ノ御中一人大將トシ播州ヘ下シ給ヘ。此方ヨリモ人質トシテ一子ヲ可レ奉ト申テ。潜ニ岐阜ヘ遣ケル。信長公其比ハ。濃州岐阜ニ御座在ケレハ。高孝急キ岐阜ヘ參リ。其由斯ト申入ケレハ。頓テ奏者木下藤吉郎出合タリ。高孝密情具ニ演説シケレハ。秀吉快然トシテ。此由信長公ヘ申上タリ。公幸ヒノ事ト思召。則高孝御前ヘ召出サレ。其趣具ニ聞召。高孝計畧方便委ク申上ケレハ。公御感有テ仰ケルハ。吾レ爲天下ノ發義兵ヲ。然トモ攝州播州ヲ始メ。中國西國ヘハ有テ志未促。然處ニ小寺歸服セラレンヿ。甚以祝着也。早速ニ大將ヲ下スヘケレ𪜈。上方未レ治ラ。畿ノ內ヲ鎭ンヿナリ。一兩年程經ヘシ。畿內ヲ鎭テ後。則大將トシテ秀吉ヲ可遣。此由其ニ小寺ニ申スヘシ。サテ汝モ器量者ト覺ユ。隨分忠節ヲ勵ムヘシ。其功ニ因テ一廉大名ニ執立ヘシ。先々是ニテ藤吉郎ト能々示合ベシト仰有テ。樣々饗應ノ後御太刀一腰。御手自賜テ。御暇下サレタリ。高孝面目身ニ餘リ退出シ。其ヨリ秀吉ヘ人質ナトノ事爾々ト云談。頓テ姬路ヘ馳歸。小寺ニ斯ト申ケレハ。小寺不斜悅ヒ合リ。サテ人質ノヿハ小寺ニ男子一人而已ニテ。證人ニ可立子無ケレハ。郎高孝カ一子松千代丸トテ。今年十二歲ニ成ケルヲ人質トシテ。潜ニ岐阜ヘ參ラセタリ。其忠勤無比類。小寺ハ信長公ヘ人質ナント遣渡シテ。時節到來スルヲ待ケレハ。此事隱シテ國中ノ一族モ知ル人無シ。ソレヨリ小寺ハ國中ノ一族ヘ折々參會シテ。何トナク世上ノ物語ノ序ニ。信長公ノ武勇樣々語出テ後。唯各向後ハ信長公ヘ歸服仕給ハンヤ。某思フ處ハ。近年ノ間ニ上方勢押下ルヘシ。其時節至テ降參センハ先祖ニ對シ面目ナシ。又戰ハントセハ必定味方悉可亡。兎ニモ角ニモ子孫相續セン事

ヲ思フナリト。度々勸メケレ𪜈。佐用別處ヲ始メ。小寺ナル一族共國人ニ至マテ。輝元ノ心入不淺ト會テ。同心無コソウタテケレ。此故ニ小寺獨毛利ニ背キ。信長公ヘ降參センヿモ流石也。又今更信長公ヘ舊約ヲ違ンヿモ如何ト。進退爰ニ狼狽シ。斗方ニ暮テ小寺ハ遁世スルカ。サレハ高孝今度秀吉卿ヘ與センヿ一朝一夕ノ所謂ニハ非ス。先年信長公ヘ直答申上シハ。以公命重ヲ代身專易シト申上シカハ。今小寺カ遁世ノ。郎從心々ニ退散スレ𪜈。高孝ハ秀吉公ニ與スルヿ。是併因義當節ニスレハ。何レヲ是非ト云難シ。加之同州三木ノ別所長治モ。叔父ノ諫ニ依テ。先年同姓孫右衛門尉ヲ使者トシテ。信長公ヘ歸服仕ルヘシト密ニ臨ム。此事調フ故ニ秀吉卿播州下向ノ時。路次ヨリ三木ヘ使ヲ立ラレ。府中ヘ參ランヨトナリ。依之長治幷家臣別所吉親。三宅忠治ヲ俱シテ秀吉卿ノ陣ニ參。一兩日逗留シテ病ト稱シ。三木ニ歸リ。其後出仕ヲ爲サリキ。其意趣ヲ聞ハ。長治兄弟三人幷家臣三宅忠治ト與別所山城守吉親。同孫右衛門尉重棟異儀有カ故也。其濫觴ヲ尋ニ。長治若輩ノ時。彼ノ叔父等カ計トシテ。毛利ヲ背キ。信長公ヘ歸服セシ故ニ。國中ノ一族等。近年不通ト成ヌ。長治是ヲ無本意思フ。是一。又此度ノ大將ニハ。信長卿ノ公達ノ御中ニテ有ラント思ヒツルニ不然。是一。今秀吉ヲ大將トシテ此人之先蒐センヿ。先祖ニ對シ面目無ケレハ。サテコソ病ト號シ不出逢サレ𪜈。三宅カ計略ニテ。信長卿秀吉ヘ使者ヲ以申ケルハ。某疱病治セハ姫路ヘ罷出ヘキニテ候。去レハ當國ニテハ。先西播磨之者ヲ攻給ハンカ。然ハ佐用大平城ハ第一要害ノ山城ニテ候。其外櫱城何レモ節所皆山城也。殊ニ毛利ニ深ク因候得ハ、備前ノ宇喜多先ニシテ押合ヘシ。毛

利モ後詰仕ルヘシ。去程ナラハ合戰度々ニ及ヘシ。或ハ城ヲ攻。或ハ平場之蒐合。又ハ國堺ヘ出テ戰ヒ。味方城々ヘ引籠。士卒ヲ休テ防戰フ事十度二十度モ候ハンカ。然ルニ三木城ハ。父カ時ヨリ大破ニ及ヒ。籠城ノ便リ不候。今此間ニ吾城ヲ執繕ヒ申ニテ候ト案內シテ出仕セストモ聞エサレトモ。始ノ程コソアレ。別所カ方ヨリ曾テ音信無ケレハ。秀吉不審シ給ヒ。三木城外ヘ物見ノ諜使ヲ附置。事ノ樣ヲ窺。又何樣夜々近鄕ノ武士ト覺ヘ。三木ノ城邊ヘ寄集リ。夜更テハ退散ス。此由具ニ府中ヘ註進申タリ。因茲靡キノ城々ヘモ諜使餘多附置ルニ。夜々ノ往還不斜。此故ニ秀吉卿諸大將ヲ召。別所カ逆心無疑。ミヨヤ東方北方ノ武士等府中ヘ參ルハ一人モ有マシ。吾當國ニ下リテ萬思フニ相違セリ。今又別所カ不出仕。剩己カ館ヲ執繕ト云。是ヲ緩々ニ沙汰セハ。國人擧テ隨フマシ。急キ押寄攻落スヘシト躁（サハキ）給フ所ヲ。小寺。淺野。谷。堀尾蜂須賀。一同ニ申ケルハ。先國人等カ許ヘ廻文ヲ被成遣宥メ居テ御覽（マヽ）候へ。强テ不參候ハヽ。兎モ角モ御計候へ。無樣三方ヨリ攻給ヘカシト申ケレハ。秀吉卿實モト思召。汝等カ申所モ謂レ有。其儀ニ任スヘシトテ諍（認カ）給フ。其後信長卿ノ御敎書ニ。秀吉ノ廻文サシソヘテ。國中ヘ觸ラルル。中ニモ佐用ノ上月ヘハ。西播磨ノ本城大名也トテ。森源藏。山中鹿之助ニ儒者一人サシ添テコソ遣ハレケレ。

二。秀吉卿ヨリ佐用上月使者之事

去程ニ。西播磨ニハ。赤松藏人大輔政範ト云人有。稚名八十郎ト云。遠ハ赤松佐用次郎賴景。近ハ赤松左京太夫政則カ孫右京太夫政元カ嫡子也。佐用郡上月太平山之城ニ住ス。佐用赤穗揖西揖東完粟之五郡ヲハ幷領シテ。西播磨殿

ト申ケル。同舎弟次郎政直ト云。佐用早瀬城ニ住居ス。同叔父高嶋右馬助正澄ハ。赤穂郡高野須城ニ住居ス。同早瀬帯刀。正義宍粟郡柏原ニ城居ス。同舎弟横山藤左衛門尉義祐。揖西郡室山之城ニ居ス。其外一門家族繁昌シ。所々ニ要害ヲ構ヘ住居セリ。角テ政範一族郎従ヲ集中サレケルハ。□近日羽柴筑前守秀吉當國ニ押下。府中ヘ在テ振威由其聞有。去レハ事新ニ雖云トモ。當國ハ赤松代々領之年久。猶又元弘建武以來。當家軍忠抜群タル故ニ。代々從將軍ニ賜テ。一門配分シテ保ツ之。然ルニ近年四夷ハ荒。悉ク論□□一族他門ヲ不云戰携テ。終ニ赤松家嫡滅テ一族類ヲ離ル。然トモ天文之始弘治年中迄ニ。祖父カ代ニ至マテ此城不去。是併依天助也。其後北國尼子。或ハ山名ト戰フ事。雖及度々。一度モ不敗國ヲ保ツ。父カ時亦西戎。陶。大内。毛利等交ル々々ニ兵ヲ差遣ス節

彼ト戰フ。八箇年ノ間一度モ不覺光。然後毛利益振猛威。折節赤松政則カ臣浦上備前守逆心シテ。政則ヲ弑シ。國亂ル。當家ハ猶殘テ浦上ヲ討ント方便廻スノ所ニ。浦上又爲ニ宇喜多カ滅ヒ。又宇喜多ハ浦上臣也。角テ當國ヘ敵襲來。凡十二箇度政元カ一族等ツイニ戰ヒ疲レ。郎從微ニ成テ。政元ハ爲宇喜多城ヲ落。山林ニ身ヲ隱ス。于時宇喜多和泉守直家ヨリ。和睦ノ使者トテ尋來事及三度。然トモ尚是ヲ不更。廻計畧。其後直家獨身ニテ尋來請和及數日。其旨ハ輝元ヲ始吉川。小早川。宇喜多等近年ノ間ニシテ上方ヘ討テ出ツ。然レハ政元ヲ始別所。小寺ノ一族悉加勢。先蒐ヲ頼ント思フニ無他。當家ノ斷國ヲ奪ントニハ非スト言ヲ盡シ中程ニ是ニ違フテ此時ニ至リ。適々殘ル一族郎從等ニ至マテ斷絶セン事モ流石也。曲テ全スルハ世ノ習ソト思慮シテ。和睦ニ決シテ輝元

ノ幕下ニ與セショリ以來。當國ハ元ノ如ク一族配分シテ案堵スル所也。然ニ近年又一家之中ニ異儀區々有。吾今雖不背臨事節背毛利。信長ヘ下ラン事無本意候。人々ハイサシラス。政範ニ於テハ此城ヲ枕ニセント存極候也ト。議ニ無余儀申サレケレハ。右馬助正澄不敢聞。長高ニ居シ滿座ヲ見渡シ申ケルハ。是ハ隔心候間ニクシ。誰人カ此席ニ連ル人ノ異義ニヤ及ヒ候ハント申サレケレハ。正義。義祐。政直。小寺。小林。太田。林。川嶋。柏原。別所。大谷。浦上。丸山。芳賀。端山。永良。國府寺。鵜野。佐用。上月ノ人々一同ニ申ケルハ。正澄ノ仰ノ如誰カハ異儀候ハン。唯運ヲ天ニ任セ疾々府中ヘ押寄可攻落一決シテ。觸催トスル所ニ。秀吉卿ヨリ使者トテ出來ス。高嶋。早瀨。横山幷瀨川。眞嶋。出向使ノ趣ヲ聞。一族郎從集居タル最中ナレハ。十重ニ並居タリ。良有テ上ノ間ヘ請シ。政範。政直對面有リ。卽チ信長卿ノ御教書ニ。秀吉ノ廻文ヲ指添出シケレハ。衣笠新助請取テ。政範ヘ捧ケレハ。政範是ヲ押戴。披テ高讀上タリ。政範暫思案シテ申サレケルハ。御教書ノ趣幷秀吉卿ノ廻文謹テ承候。又實ニ有難奉候。殊信長卿秀吉ヘ奉對恨可申條露計モ不候。雖然某等近年毛利ニ賴レ候テ。無ニ因候。又然レハ輝元御味方ニ參候ハヽ。彼等カ先陣仕リ。輕命勵忠節ヲ可申候。輝元若御味方ニ不參候ハヽ。得コソハ御請申間敷ニテ候。此等趣宜御申上賴入候ト。禮義正ク申サレケレハ。三使モ當然ナレハ信服ノ躰ニテ。兎角ノ言モ無リケル時ニ。高嶋右馬助正澄申ケルハ。某存候ハ。政範若ク候得ハ。斯存詰候。不禮ハ御免候ヘ。某老年ノ事ニ候ヘハ。能々申含候テ重テ是ヨリ御請可申。如何樣共宜ク御申上奉賴候ト申ケレハ。三使ハ是ニ力ヲ得テ會釋シテ退

出ス。政範政直次ノ間マテ見送リケレハ。正澄。正義。義祐其外一族郎從見送。其中ニモ右馬之助ハ小門ノ内マテ見送リ。式臺ヲ歸ス。正澄屋形ニ皈リ申ケレハ。事急ニ聞ヘ候得ハ。少時日ヲ延タル也。搆遠慮モヤ御座ラント。色々評儀有ケレ𪜈。兎角降スマシキ決定ス。其儀ニテ有ランニハ。早ク籠城ノ支度有レ候ヘ。思ニ菓返事ヲ待。秀吉モ四五日ハ油斷メ有ナン　各居城ヲ去テ。此城ヘ一擧ニ籠リ給エ。思フ子細ノ候得ハ。幼稚ノ子共女性ナトヲ。備前美作ノ方エモ思々ノ退ラレ。兵具ト糧(カテ)ヲ急キ　此城エ納給エ。殊更農夫ノ時得タリ。各領地ノ苅田サセ。夜ヲ日ニ繼テ　城納仕給ト申サレケレハ。最ニ候ト。諸大將郎從ニ至テ思々ニ支度セリ。實ニ人界ノ定メ無コソウタテケレ。影ノ形ニ添コトク。片時モ離レヌ妻ヤ子ニ。老タル父母ニ至マテ。馴テ久キ故鄕ヲ物詣スルヤウニ。只假初ニ立出テ。歩モ不習山路ヲ。其𪜈不知迷行。心ノ中コソ悲ケレ。是コソ永キ別トハ。後ニソ思ヒ知レケル。

三。政範籠城之事

其後評儀有テ。足輕大將小寺庄之助。別所左門。丸山八助。此三人ニ仰テ熊見川ノ上下有艘。苅屋マテノ川筋渡船悉奪取。碎テコソハ捨タリキ。加之敵ノ渡ラント思フ。瀬毎ニハ亂杭打テ水底ニハ。藤綱多張置タリ。斯テ秀吉卿ハ右馬之助カ返事ヲ待御座有ケルカ。其事ト無ク十餘日マテ兎角延引セラル。佐用ニハ城ノ要害捕繕所々ノ一族郎從馳集。其勢三千八百余。足輕七百余人。雜人一千人。城内所々持口手分シテ弓鉄炮ヲ搆。詰リ々々嶽切峯ノ上ニハ。大木大石石弓ヲ積上タリ。大手搦手橋外ニハ。鹿垣。柵。逆茂木結廻タリ。此城ト申ハ。東向ニ大堀一重有テ。橋ヲ渡シ。橋ノ南北矢倉有。追

手小山崎ト云ヒ。南方二ノ丸谷口マテノ眞篋嶽ト云フ。大雪積嚴滑ノ切峯ニテ。城際エナタレタリ。大手堀ヨリ東河原マテハ地下リ。平福川マテハ五町余有リ。北ノ方ハ小山續ケレ𪜈。城山間ニ猪之谷トテ。大手ノ堀ヨリ城ノ後大沼エ環。城山ヨリ數十丈ヲ見下セリ。南方下上月ノ上山ヲ二ノ丸ト云。搦手ト定。搦手土橋ノ外。九折(ツヽラ)坂一町余ヲ下テ。荒神谷ト云坂下ヨリ西ノ方ニ大沼有。南エ四五町隔テ。形山見ト云大山有。本城ノ後ハ西ニ當テ大嶽ニテ麓ニ。沼或ハ澤田畑續也。去熊見川ノ渡ハ。大手道筋ナレハ大河ヲ隔テ防トテ。右馬之助正澄。大田新兵衛尉則近。小林宇右衛門尉滿末五百餘騎。弓鉄炮ノ足輕ヲ引連。靑野原ノ後ノ山經出張ス。山端ヨリ態ト馬ヲハ城エ戻ス。上ノ瀨エハ太田二百余人。足輕八十人ニテ馬上ノ左右大藪林陰。堤ノ北方ニ扣タリ。下ノ瀨エハ馬上少廣ケレハ。高嶋小林上下ニ分レ。是モ大藪林陰ニ兵足(マヽ)ヲ隱扣タリ。南方九崎ノ渡エハ搦手ヨリ早瀨帶刀正義。同子權太郎正繼。川嶋三郎四郎賴村。鵜野彌太郎吉則。廣戸五郎左衛門尉相隨兵五百余騎。弓鉄炮ノ足輕二百余人引連テ。九崎ノ上下三ヶ所ニ出張シテ。藪林陰ニ扣エ。馬ヲハ城ヘ戻ス。敵若シ南方ヨリ寄スル事有ン。國見ト云所ヨリ赤松ト云所マテノ岬(ホキ)路ヲ切崩シ置ス。此ハ天正五年九月下ノ十日。秀吉卿ハ佐用上月ヨリ。兎角ノ返事無リケレハ。不審ニ思召。彼表ヘ物見ノ輕騎諜士ヲ遣テ見聞スヘシトテ。手分シテコソ遣ケル。件ノ物見ヨリ。翌月所々ヨリ馳歸テ申ケルハ。上月ハ籠城ニ疑所不候。先近郷之端城共悉ク開退。大川筋ノ北方ニハ田面々ヲ苅揚タリ。加之所々ノ渡船壹艘モ無ク候程ニ。川ヨリ西ハ見聞不仕ト申ス。偖ハ上月ニ謀タリ。此上ハ緩々ニ沙汰

セハ國人皆敵ト成ナン。急キ押寄可攻落トテ。其勢一萬五千餘騎三手ニ分カレ。姫路ヲコソハ打立ヌ。先ノ壹軍三千余騎小寺官兵衛尉。竹中半兵衛尉大將トシテ。同州佐用郡福岡野ニ栖籠福原藤馬允カ城エ押寄ス。其次ノ一軍三千余騎堀久太郎。木村源藏ヲ爲大將ト。國人少々相交テ。上月ノ城ノ搦手九崎之渡エト押行ヌ。其翌日秀吉卿ハ千余騎ヲ五手ニ分ケ。先二千余騎堀尾茂助。蜂須賀彦右衛門尉ヲ大將トシテ。是モ國人少々相交テ。熊見川ヲ越。上月城ノ東二位山ニ補登ラント押出ス。熊見川ト云ハ。上ノ渡リヲ上津ト云。下ノ渡ヲ九崎ト云ヒ。中ノ道ノ渡ヲ熊見川ト云也。扨其次ニ秀吉卿三千余騎ヲ三手ニ分。中道通リエ押出給ソ殿ヒハ淺野彌兵衛尉千餘騎ニテ押出タリ。去程ニ秀吉卿ノ先勢堀尾。蜂須賀ハ同日ノ暮程ニ。熊見川ノ渡ニ着テ。馬ヨリ下リ兵粮ナト遣ヒ。馬ニ秣飼テ暫ク休居タリケレハ。程ナク日暮ニケル。角テハ敵ニ如何ナル計畧カ有ラント。明日渡セ人々ト下知有ケレハ。各川端少引退キ。二十余町カ間先陣後陣打連テ陣取。篝火ヲヤキ連タリケレハ。天ニヤカヽヤキ。山野ヲ照シ。殆以同晝ノ如シ。城ヨリ出張ノ兵態ト篝火ヲモ不燒。鳴ヲシヅメテ扣タリ。去程ニ明曉天ニ寄手ノ陣中ソゥ動ス。出張ノ陣中ニモ兵粮ナト遣テ。矢把脱テ押クツロケ。火繩繰シテ待カケタリケルトソ有ケリ。

四。熊見川渡ニテ寄手ヲ防之事

明レハ九月廿二日ノ曉天ニ。熊見川上下二ケ所ノ瀬頭エ寄手同時ニ馬ヲ乘入ケレハ。天明ニ成ヌ。タカイニ弭ヲ取組ヲメキサケンテ渡シケレハ。サハカリノ大河トハ申セモ。水色更ニ不辨。大山ノ崩カヽルニコトナラス。去レモ高嶋。太田。小林何モ物ナレタル者ナレハ。少モ

不騒足輕ヲ手配置待カケタリ。敵川半エ渡懸所ニ、水底ニ張置タル藤綱ニ障テ踟躅セリ。此時高嶋。太田大鞁ヲ打ケレハ、隱置タル足輕二十人宛走出。川中ニ支タル敵ノ中エ鉄炮段々打懸ケル。加之大藪蔭ニ扣タル、五百余人同音ニ鬨ヲ上ル程ニ。件ノ鉄炮ニ中リ、又ハ凱歌ニ驚キ、河中ニテ人馬共ニ揉合程。逆巻水ニ押流レ、人馬一捲レニ成テ流レ轉有様ハ、前代未聞ノ事トモ也。未向ノ川端乘浮メル大勢モ。鉄炮ノ響ト鬨聲ニ、馬共狂亂シテ揉合ケルニ水早レハニヤ、是モ一捲ニ成テ押流レ、浮ヌ沈ヌ紅連返ケル、川エ乘不入ハアレ𪜈。是モ一捲ニ流、人馬共ニ騒動シテ、或馬ニ刎落サレ、或共ニ押落サレ、彌上ニ落重モ傷シ、城ヨリ出張ノ兵此有様ヲ見テ、旗鎗ヲ敲鬨ヲアケヌ。又大藪陰ニ引隱ケレハ。日光頂ノ上ニ輝ケレハ。各難有登ヲ脱ケ拜シケル、秀吉卿ハ無念ノ事ニ思召。

諸大將ノ許エ軍使ヲ立。竹把用意シ楯トシ渡レト下知有ケレハ。足輕人夫ハ申ニ不及。軍兵悉近郷エ走廻テ。竹切捕トテ其日ハ徒ニ暮レヌ。城ヨリ出勢ノ兵ハ。猶爰ニ押居タリ。城ヨリハ軍使來リ、一端ノ防ニテ引給エト也。去トモ高嶋今一度防テコソトテ不引。此故ニ又城ヨリ加勢トメ太田民部少輔。同美作守。高嶋七郎兵衛尉。小林左兵衛尉。浦上刑部。衣笠頓宮ヲ始メ。宗徒ノ人々拾余人。軍勢三百余。足輕百五人ヲ引ツレ。同日未ノ刻ハカリニハ。熊見川ノ渡エ加リケル。日暮ケレハ。高嶋手ヨリ猶原六郎左衛門尉。奈波權正此ノ山ノ腰エ遠見トシテ遣置ヌ。是ハ若秀吉卿夜中ニ陣ヲ替給事モ有ラント思テ也。寄手方ニハ色々評議有、斯テ大川ヲ堺テ防兵多レハ。味方利ヲ失ハンコト勿論也。殊事水底ニ張リ綱有ト覺ユ。如何ニモシテ切流テコソト申レハ、堀尾茂助申ケ

ルハ。思意モ左様ニ存ツキ早ノキノ者潜ニ申含メテ候也。願ハ此事ヲハ某ニ仰ヲ蒙トソ申ケル。吉晴聞召テ。其儀ニテ有ンニハ。汝能々計ト仰ケレハ。吉晴畏候ト御請ヲ申テ。吾陣ニ歸リ。侍ニ足輕人夫ヲ附テ。近郷エ遣シ。小船ヲ二艘求得テ。宵ノ間ノ闇ヲ幸ト。戌ノ下刻計ニ件ノ船ニ水練ノ足輕二人。侍一人宛取乘テ。上瀬ヨリ二町上ヨリ舟ヲ下シ。潜ニ上瀬流懸テ張綱有ヤト尋レハ。案ノ如ク杭ニ水逆卷有。是ニ船指寄テ見レハ。藤葛ノ綱餘多張置タリ。頓テ杭ヲ搖動シテハ押流。綱ヲ切テハ突流ス程ニ。一捲リニ成テ流ケル。先上ノ瀬ニハ杭モ綱モ無リクレハ。船ノ者トモ呼合テ出張ス。敵ハ有ヤ無ヤ。先安穩ニ仕濟タリト悦ンテ。其ヨリ下ノ瀬ニ舟指下シ。彼方此方ト尋レトモ。其ト覺シキ杭モ綱モ無リケレハ。偖モ不思儀ノ事乎哉。御陣ノ若キ人々カ。水練シテ

切流スカ。左ラスハ上ノ瀬ニテ切落スカ。綱ヤ杭ノ亂杭ニ流レ寄テ洪河ノ流強レハ。杭ヲ水ヤ穿ツラン幸也ト悦ンテ。虎口遁ルヽ心持シテ。東方ノ川岸エ舟指寄。元ノ陣ニ歸ケル。偖コソ明ル廿三日ニ。寄手大勢渡リケル。斯テ明レハ廿三日。巳刻ニ寄手雲霞ノ如ク川端ニ打望見繕躰ニ見エケルカ。泌テ落ル瀬枕エ一度ニ噇ト喚キ。馬ヲ颯ト乘入タリ。今度ハ二十騎計宛一組ニシテ。各一枚楯ノ竹把ヲ。馬ノ頭ニ押簪シ。浮ヌ沈ヌ渡リケル。實ニ昨日此渡ニテ徒無死ヲ致ス者。其數ヲ不知。其ヲモ不恐。加様ニ渡ル兵ノ心ノ中コソ勇々シケレ。斯テ出張之陣ニハ。足輕三十人ツヽ一組トシテ。前ノ如ク藪陰ニ伏置キ。川中ニテ漂所ヲ走リ出テ。打テト下知シテ待ケルカ。思ヒノ外川半容易渡リ。馬上今四五間ニ成テケリ。時ニ高嶋太鞁ヲ打セ。軍勢同音ニ鬨ヲ上レハ。足輕ハ段

々ニ走リ出。鉄炮打懸テ車蒐リノ如。足輕入代々々鉄炮ヲ打懸ル程ニ。川中ニ指傳タル敵ナレハ。空矢無ク癹ヲセント探合程ニ。水早ケレハ人馬一捲ニ押流事夥レハ。川中ニ乘浮タル敵忽チ一人モ見エサリキ。未タ川エ不來入者共ハ。續テ渡ルヘキヤウ無リケレハ。身悶（ミモタエ）シテ押傳處エ。出張ノ大將高嶋右馬之助正澄半日ニ巴附タル旗一流指擧ケサセ。馬上堤ノ上エ差顯シ。扇ヲ揚ケ招中ケルハ。人々憶ニ聞給エ。天上方人々ハ不知案内ノ事成ハ。此川ニテ不覺ハ耻ナラス。乍去俄ニ湧出ニモ不候。當國第一ノ大川也。然レハ御手ノ人ノ中ニハ。當國育ノ者モ馳集タリト覺テ。見知タル旗ノ候。ナト彼等ニ先陣給ハサル。斯中某人數ナラヌ者ニテ候。乍去夫トヤ人ニ問給ン。軍旅之思出ニ名乘申候ハン。是ハ當國山家育ノ古狸。加様云云ノ折得テ毎モ妖出候テ。多ク人ヲ計誑癡者也ト國人擧テ戯レ申。高嶋右馬之助正澄。太田先生則近。小林字衞門尉滿季ト申者也。亦コツ見參申ント云捨テ引退ハ。高嶋七郎兵衞尉。小林左兵衞尉。奈波權正。浦上。衣笠等勢兵ノ弓ノ手垂ナレハ。郎從四五人ツヽ倶シテ。川端ニ出指矢ヲ代々ニ射カケケレハ。向川端ニ扣タル寄手ノ大勢射落サレテ。不怺發トヒキ退ク。矢懸リニハ敵一人モ無リケリ。上ノ瀬ニハ太田父子三人ト。頓宮弓鉄炮ヲ打懸テ。大勢打流ス。向ノ川端ニ集居タル。敵中エ矢ヲ射カケル程ニ忽敗軍ス。高嶋右馬之助鐘ヲ鳴シ。川端エ出張タル。弓之兵兩勢共ニ堤ノ上エ引上タリ。時ニ高嶋旗指上テ。一番ニ引退ケレハ。上ミ下モノ惣勢段々ト川端四五町引退ケレハ。日ハ西山ニ傾ヌ。斯テ秀吉卿ハ昨日今日ト打續キ。味方大勢討レ。剩俺テ敵ニ欺レケレハ。無念類ヒ無フ齒咬シ給ヒ。折節寄手ノ陣ヨ

リ。僅拾四五騎川端ヱ蒐出。高聲ニ呼張リケルハ。敵ハ引ソ。人々渡サテ果ヘキヤ。イサ續ケ者共ト。川ヱ颯ト打入タリ。彼等ニ言葉ヲカケラレテ。所々ニ扣タル寄手。五六十騎馳出。人ニ先ノハセサシ物ヤト。聲々ニ呼張テ。川ヱ颯トノリ入タリ。何モ馬強ナレハ。川中ニテハ頓テ一所ニ成テ渡リケル。今ハ防敵ナレハ。篦直形ニ向馬上ニ乘上タリ。斯テ堀尾蜂須賀是ヲ見テ。今制ストモ止ルマシ。味方討スナ者𪜈イサ渡レト下知スル程ニ。打集タル他ノ勢モ。主ノ下知ヲモ不待。我先ト乘入タル勢百四五騎計。浮ヌ沈ヌ渉リケル。此故ニ惣軍躁立皆川端ヱ打臨ム。秀吉卿是ヲ制セラレテ。軍使來テ制シ止メタリ。斯テ先ニ渡リケル二百計ノ兵共川ヲハ容易打渡。馬上ヨリ堤ノ上ヱ乘上ントスレ𪜈。堤ヲ急ニ切立タリケレハ。馬ヲ乘上ル事不叶。左右ハ大藪ニテ狹キ馬上ニ揉合居

タリケルカ。各馬ヨリ下リ。堤ニ馬摸ヲ附テ段々ニ馬ヲ牽上見レハ。二三町間近ク敵一千騎。鋒頭ニ陣ヲ張テ扣エタリ。寄手ハ堤ノ上ヨリ見テ案ニ相違シ。呆惘果テ居タリケル所。後ヨリ渡リケル兵共馬上ニ乘上テ。稲麻竹葦ノ如ク打寄タリ。堤ノ上ニハ先陣ノ兵カ指傳流石川ニモ引返サレス。片唾ヲ嚥テ揃合タリ。懸ル所ニ出張ノ陣ニ太鼓ヲ打ケルカ。足輕共出。堤ノ上ニ集居タル寄手ノ中ヱ鉄炮ヲ打カケケル程ニ。將棊倒ノ如人馬彌カ上ニ打倒サレ。共ニ馬上ケ堤ノ下ヱ捲落タリ。元來馬上ニハ後勢指傳居タリケレ𪜈。弓鉄炮無ケレハ。入代可防樣モ無ク。互ニ揉合身悶スル所ヱ。出張ノ陣ヨリ鎗長刀ヲ打衾タル兵𪜈。足輕共ニ入代。堤ノ下馬上テ集居タル寄手ノ中ヱ。鋒ヲ並テ揷蒐ケル程ニ。或討レ或ハ後ノ川ヱ捲入者共數ヲ不知。斯テ出張ノ兵共ハ勝鬨ヲ揚テ。各堤

ノ上エ引上タリ。向川端ニ扣タル寄手ハ。目邊ニテ味方大勢討レ。不安思ヒケレ共。助合スル事モ不叶。身ヲ採居タリケルヲ出張ノ陣ヨリ高嶋兄弟奈波猶原ヲ先トシテ。城兵ノ士彼是以上十四五人。馬上川端エ走リ下。川向ニ群聚シタル敵中エ矢ヲ射カケタリ。敵兵大勢打鬪タル中ナレハ。空矢無ク。弓手妻手エ射落程ニ。何カハ以テ可怺。村々發ト引崩レ。急テ川端ニハ敵一人モ見サレハ。頓テ高嶋奈波等モ堤ノ上エ引上リ。正澄鐘ヲ鳴シケレハ。弓ノ足輕段々ニ引退。是ヨリ一勢々々城ノ方エト引退。殿ハ太田美作太郎。小林左衛門。高嶋七郎兵衛尉。足輕三拾人宛先立引退事夥シ。四五町計過ケル比。跡ヨリ其勢百四五十騎計馳來。引行城ノ兵ヲ。返セ戻セト呼懸タリ。高嶋七郎兵衛尉是ヲ見テ。天晴敵哉志ノ武士成リ。弓鉄炮ニテハ打ベカラズ。此敵之轉化テハ。某防テ見ン

トテ云儘ニ。草ノ袋ニ入テ持タル鐵菱竹菱ヲ退ク後細道ニ。百歩計カ程ヨリ蒔タリケル。斯テ總軍ヲ態ト足早ニ成テ引給エト。先勢エ軍使ヲ立。殿ニ有ケル三人郎從足輕ニテ騒動タル様ニモナシテコソ引退。斯テ追來敵。件之菱ニ馬乗カケテ。忽馬倒レ人顚彌上ニ落重ル程ニ。後勢ハ是ヲ見テ半ハ馬ヲ留メテ扣タリ。實ニ前車ノ覆シヌレハ。後車ハ是ヲ以戒トスル事有ト云エル本文ヲ。此人々ハ知レル哉。乍去川ヲ不越サキニ遠慮有度所歟。斯テ路左右ハ深田水澤而已ナレハ。廻ニ便リ無ク。唯忙然ト暇トリ居タリ。其間ニ城ノ兵共道筋ノ橋ヲ刎落シ。西ノ山路ヲ經テ。青野カ原エ打出。靜ニ城ノ追手引入レハ。程無ク黄昏ニ及ヌ。件ノ追來敵𪜈昨日熊見川ノ渉ニテ。大勢討レタリト姫路エ開エケレハ。羽柴秀吉ノ軍勢ヲ催促セラレテ。五百余騎今朝ノ篠日ニ。府中ヲ立

馬ニ濕米打飼テ。揉ニ揃フテ馳ケルカ。同廿三日ノ中ノ刻計ニハ。先勢百余騎ハ。熊見川ノ渉ニ着ス。俺迄血氣ニヤ乗シケン。秀吉卿川端四五町隔テ。北方ニ御座御陣エモ不參。諸大將等カ所々陣シテ有ケルニモ會釋セス。直ニ川端エ乗カケ。馬ニ水飼テ。其儘川エ乗入トテ。共ニ呼張合ヒケルカ。去レハトヨ。此川ニテイカニ味方之者共カ渡損テ有ケルソト荒言シ。眦ヲハリ馬ニ聲カケ喚叫テ渡ケルカ。左右ナフ向ノ馬上ニコソ乗上ケル。寔ニ彼等ハ昨日今日ノ敵ノ旗頭ヲモ不見。増テ鉄炮ノ音ヲモ不聞。幾等カ此川ニ打流タル人馬共ニ大川ノ水ニ押流テ。末ノ井積ト横タワリ。水底ノ張綱モ今ハ無ク。其様不審モ無リケレハ。唯人ヨリ先ニト一筋ニ思切テ渡シケルナルヘシ。斯テ東川端ニ扣タル寄手。其後勢ヲハ漸ニ制シ止ケルトカヤ。去レハ寄手ノ先勢分々ニシテ。

其二ヲハ熊見川ニテ討レ。殘勢共其日ノ暮程ニハ不殘川ヲ越ケレ共。所ハ皆深田或水澤或高山谷深シ。馬武者ナトノ百騎共屯ロスヘキ地モ無ク。闇ハクラシ。大川ヲ越タル兵成ニ。折シモ野分吹來レハ。軍卒皆冷凍ス。殊更ニ糧可炊ク便無レハ。人々ノ安心ハ無リケリ。如何ナレハ秀吉卿中國ノ管領ヲ給テ。諸卒ノ命ヲ司程ノ人。敵國エ入ナカラ血氣ニ任テ無謀ニ押寄。アタラ兵共ヲ水ノ淡ト成給フ事ヨト。心有モ心無モ私語合フ者ノ多カリケレハ。何様今度ノ城攻ハ墓々シカラント。人々眉ヲ顰ケルカ。果シテ不覺ヤ仕給フラン。前表已ニ明ケシ其夜。月ノ滿テル比。惣軍河ヲ越ケレハ。秀吉卿モ其曉天ニ川ヲ越給ヒ。田ノ邊水澳ヲ前ニシテ陣給フ。其夜城ヨリ足輕ヲ出シ。是劫サハ寄手ハ立足モ無追立ナン。城主此圖ハハツシツル。去レ共如何ナル慮思ヤ有ツラン。寄

手ノ爲ニハ幸哉。

五。寄手惣勢上月表ノ山々ヱ取登之事

斯テ南方搦手ヱ廻リケル堀久太郎。木村源藏。糟屋。櫛橋等ハ。九月廿二日ヒル。上月南方九崎ケナイト云三ヶ所ノ渡ニ着キ。各手配シテ。同時ニ川ヲ渡リ蒐ケルカ。爰モ水底ニ藤綱餘多張置ケル間。川中ニテ件綱ニ障ラレテ漂フ所ヲ。早瀬川邊鵜野廣戸田足輕共大藪陰ヨリ段々ニ出。鉄炮ヲ打カケル程ニ。川中支タル人馬共ニ打貫レ。一捲押流サル。後勢是ニ驚キ揉合所ヲ。鉄炮ヲ打カケケル。或是ニ中リ或ハ水ニ押流サレ。群連ヲ返溺レ流ル者共數ヲ不知。向ノ川原ニ充滿シタル寄手ノ中。上城兵足輕ニ入代リ。矢ヲ射カケケル程ニ。彌上ニ射落サレ。剩馬ニ刎落サル丶者モ夥ケレハ。後勢不怺逃崩レ共押倒レテ爰彼所ニ人塚ヲツキ。殘黨等東西ノ方ヱ迯去。又出張ノ陣ニハ是ヲ見テ。箙鎗ヲタ丶キ。同音ニ鬨ヲ揚。頓テ川端ヲ引退キ。藪林ニ隱居テ。兵粮ナト遣ヒ。暫見繕ヒ。明ル廿三日曉景ニテ。向川原マテ敵一人モ見エサレハ。同夜ニ入テ潜ニ九崎ヲ引退。形見山ノ尾崎ヲ經テ。廿四日曉天ニ上月ノ搦手ニ悉ク引込。又秀吉卿ハ今日上表ノ山々ヱ軍使ヲ遣。城計ノ形像ヲ見セラル。軍使歸申ケルハ。先城ノ大手ト覺シキハ。東向前ニ堀有。橋ヲ渡シ門櫓高矢倉有。城ヨリ五六町ヲ隔テ。平福川南ノ方淙ニ流ル丶。城麓町屋民家南北ニ續キ。民家ト流ノ間ハ棚田段々ト〆汜下リ所々ニ溝アリ。鹿垣逆茂木引懸。大手ノ橋ヨリ二町計北ニ當リ。西ノ山ノ腰ヨリ川端マテ鹿垣逆茂木ノ丈夫引カケ。南北ノ道ヲツシ塞ノ。城山ニツ丶キ南ノ方小山ノ上ニ屋形有。矢倉アリ。二ノ丸モ搦手モ可申カ。此要害ヨリ南四五町隔山有。此山ノ尾崎東ニ雲頓タリ。爰モ川ヨリ山

涯マテ二重ノ柵有テ離貫セリ。川ヨリ南北遙成山續。麓ニ民家所々ニ有。民家ト河原ノ間ニ柵田畑段々也。此山ヨリ城ノ大手マテハ。近ハ五町。遠キハ十町二十町ト次第ニ間遠也間。城山ノ方モ北エ山續。麓ニ所々民家有ト委細ニ申上ケレハ。秀吉卿聞召。其有增ヲ圖ニメ。明ル日ヨリ秀吉本陣ハ上月ノ城外廿余町ヲ隔北東ニ當リ。山脇ト云山ヲ本陣ニ定ラレ。此山續南方エ五拾余町カ間ノ山々ニ寄手ノ軍勢手配有テ。同十月始メヨリ各行渡。青野原二位山ノ麓ニ陣屋ヲ並打爾。晝ハ旗天ニ飜シ。夜ハ通宵ノ篝火ニ山川部野輝渡リテ夥シ。彼山脇ト云所ヨリ。平福川ヲ隔。西北ニ當テ福原藤馬允栖籠ル城ト。上月ノ城ノ間ナレハ。爰ヨリ見下シ給ヒ。下知ヲカラレンタメト也。去程ニ福原カ城エハ小寺、竹中。明石。櫛橋。相交リ向ヒケル所ニ。城ヨリ川ヲ越。東ノ山々エ出張シ、伏

兵ヲ所々ニ置テ。寄手ノ不意ヲ討テ防キケル程ニ。寄手ノ大勢ソクハク討レ。疵ヲ蒙ムル者多ケレハ。容易ニ城エ寄兼テ。漸九月廿五日ノ暮程ニ佐用姫ト云所ノ東河原近ク攻寄。同廿六日川ヲ渡リ押寄ケルニ。城ヨリ城兵打出。川端ニテ防戰。毎度川エ追入ラレテ打負ヌ。漸後ニハ佐用姫ノ前ヲ渉兼テ。佐用姫ノ社ヲ形捕テ。二町四方ニ鹿垣二重離貫ノ柵ヲフリ。此内ヲ向城ニ搆エ。是ヨリ晝夜旦暮ニ足輕ヲ出シ。鉄炮ヲ打。遠矢ヲ射カケ。遠攻ニコソ攻タリケレ。去共城ハ遙ニ見上ル山城ニテ。要害ノ地ナレハ是ヲ事トモセス。遠物見ヲ置。寄手ノ怠リヲ見テハ打出。或鉄炮ヲ打。或遠矢ヲ射カケル間。寄手ハ日々ニ手負死人多ケレハ。竹把ノ陰ニ隠レ。ハカ〳〵敷イクサハ無リケリ。寄場平地ナレハトテ。後ニハ城ニ續シ後山三所ニ陣ヲ張。守居タル計也。斯テ上月城モ西河原

ニ陣ヲ寄スレハ。城ヨリ直見下シ。弓鉄炮打懸ンニハ便無。又川ヲ前ニ當テ攻寄ントスレハ。河原狹ク。殊ニ河原ト山トノ間ハ。南北遙ニ皆棚田棚畑段々トシテ。平地ハ更ニ無。人馬ノ蒐引難ケレハ。先田ヲ埋畑ヲ切崩。平地ノ如クシテ。人數ヲ自在ニ變化セヨト。秀吉卿ヨリ下知ニ依テ。諸大將各陣屋ノ前ヨリ河原マテノ間町場ヲ定。人夫足輕ハ中ニ不及。若侍ニ至マテ。山々ノ尾崎々ヲ切崩。田畑ヲコソ埋タリケレ。斯テ四五町過ケレハ。棚田三分一ハ埋ケル程ニ。南北五十余町カ間ハ廣々トシテ驛路ノ如シ。斯テ城中ヨリ是ヲ見テ。何樣寄手近日川ノ此方エ攻寄ヘシ。山下ノ町屋民屋ヲ其儘ニ置ナラハ。敵ノ隱家ト成ヘシ。急キ燒拂ヘシトテ。丸山八助。衣笠新助。廣戸五郎左衛門尉此三人ニ仰テ。城ノ麓エ指遣ハル。于時廣戸ト衣笠トハ足輕三十人宛引連テ。大手河原近ク上下二ヶ所ニ分レ。足輕ヲ張。寄手若シ河ヲ越寄來ハ。川端エ出合テ打拂ト扣タリ。丸山ハ足輕人夫ヲ以テ。町屋民屋ヲ悉ク燒拂ヒ。橋ノ外柵逆茂木ヲ捕リ繕ヒ。足輕人夫ヲ以テ引取ケレハ。衣笠。廣戸兩人モ。足輕ヲ引段々ニ城エ引入タリ。偖コソ城ノ麓ハ河原表ト一面ニ成テ廣野ニ等シ。如斯城ヨリ打出レモ寄手ハ出合モセス。普請ヲ止居タリケレハ。城ノ者共唯其儘ニテ引籠タリ。兎角スル間ニ。日モ暮近ク成ケレハ。寄手モ小屋々々エ引入リ。篝火ヲ燒連。用心ノ躰ニ陣シタリ。斯テ大勢ノ業ナレハ。十月ノ末比ニハ段々トシタル田畑所々ノ片岸山々ノ尾崎悉ク平地ト成ケレハ。人馬ノ蒐引自在成ント勵合テソ勤メケル。今日モ早暮近ケレハ。足輕人夫奉行頭人等モ町場ヲ引ヤ。不引ヤト。皆空氣ニ成ス。斯ル折節今日ハ十月廿七日未ノ刻計ノ事成ニ。城ノ大手搦手

ヨリ同時ニ打出タリ。大手エハ鵜野彌太郎。小寺庄之助。同子息右衞門佐。小林宇右衞門尉。同子息左衞門允此三組足輕三十人宛ヲ一手ニ成シ。橋ノ外柵ヲ出ツレハ。三手ニ分テ走リ出。鵜野カ足輕ハ川端眞向ニ出。青野カ原ノ前成人夫ノ中エ鉄炮ヲ打カケ〱タリ。此三所ニ群聚シタル寄手共。城ヨリ打出ト躁立揉合ヒ逆崩ケルニ。城ノ足輕走出。鉄炮ヲ打懸ル程ニ。込合タル寄手彌上ニ倒サレ。或共ニ押倒サレ。或將棊倒ノ如ク倒重ル者有様ハ。前代未聞ノ事共也。山々ノ方ニハ諸大將。奉行。頭人其外軍勢集居タリケレハ。出合ントスル者モ有レ𪜈。大勢ノ足輕人夫共カ皆山ノ方エ逆ケレハ。出合スル者𪜈彼等ニ揉合所ヲ。城足輕鉄炮ヲ打カケル程ニ。大勢打倒サルヽ間。出合事不叶。一捲ニ成テハイグンシ出合者一人モナキ事コソアサマシケレ。去レハ寄手ノ諸大將ハ。山ノ中所々ニ出。普請ノ甲乙ヲ下知シ扣タレハ。城兵打出ル見テ。川端エ出合。防ント思フ人モ有レ共。名與カ手ノ者足輕等皆普請場ニ有テ。敵蒐合センヿ不叶。其間ニ城兵早川隼マテ來リ。鉄炮ヲ打カケル程ニ。引ントスレハ勢指傳テ共ニ揉合。地形ハ新ニ切平タル後上リ如クナレハ。蹈ニモ行ニモ墓々シカラス。兎角揉合其間ニ。城之兵早鉄炮シキリニ打カケレハ。大勢爰ニテ滅タリ。斯テ城ノ足輕トモハ。川隼マテ追タリ。鉄炮ヲ打カケ。遠矢ヲ射カケケル處ニ。鵜野。小寺。小林シキリニ鐘ヲ鳴シテケレハ。先弓士足輕共少モ不滯段々ト引トリ。一聲々々大手ヲ指テ引入ケレハ。殿ニ小林父子足輕ヲ鶴翼ニ立引入(マヽ)ケレハ勇々敷ク見タル。加之大手柵ノ外一町キ左右ニ林隼人正。鵜野小太郎。同庄宮浦上七郎兵衞尉足輕二十人宛立テ扣タリ。是ハ寄手出合テ。先勢難儀ニ

及ハ丶。爰ヨリ出合テ入代防ヘキ爲也。去レトモ慕來敵先レハ。小林父子カ後ヨリ引退。柵補繕橋ノ詰板引籠ル。實ニ兩山ノ間マテ敵味方ノマノアタリ成レハ。多ノ敵ヲ討而已ナラス。規ニ叶ヒシ師哉ト。敵モ味方モ感シケル。搦手ヨリハ横山藤左衛門尉。頓宮亦兵衛尉。同子息新八郎。神吉太郎左衛門尉足輕百人一手ニ成テ。土橋坂ノ下ヨリ左リ下。上月ヨリ河原表エ出向。河原美泥ノ尾崎々々群聚シタル時。寄手ノ中ニ鉄炮ヲ打カケタリ。此所ハ東ノ山根近岬岸棚田棚畠多分内狭ケレハ敵打出リトサソキ立。押合揉合テ。唯南北エト敗軍スル所ヲ。鉄炮打カケタリ。是打貫者幾等カ云ハン。寄手南北エ退イ散スレハ。城ノ足輕西ノ川原ヲ二手ニ分レテ。追カケ〱鉄炮ヲ打カケル。新ニ切平ントスル地形ナレハ。爰ニ倒レ。彼所ニコロヒ。彌上ニ倒レ重リ押殺レ。蹈殺ルモ夥シ。

斯テ大手ニハ鐘ヲ鳴ス事頻リナレハ。搦手ニモ横山カ手ヨリ鐘ヲ鳴シ。足輕ヲ引取。段々ニ搦手エ引退。搦手ニモ敵若出合テ。防キ戰フハ入代ント下上月ノ邊マテ別所左門。衣笠虎松。丸山八助。廣戸五郎左衛門尉。足輕二十人宛立三所扣タリケレ𪜈。蒐合スル敵モ無ケレハ。此人々殿シテ靜ニ搦手エ引籠ル。斯テ霜月ノ始マテハ。寄手モ手コリヤシツラン。埋寄スル業モ止ケルカ。秀吉卿ヨリ下知有ケルハ。何マテ斯テ有ナン。楯竹把ヲ突揲寄ヘシ。山々ニ遠見ヲ附置。城ヨリ打テ出ハ。早ク告知スヘシト相圖ヲ定置ト仰ケル。此故ニ十一月二日ヨリ。又寄手大勢徘徊シケルカ。仕寄竹把柱材木ナトヲフスマ連。河原ノ間敵ノ寄ヘキ地形ヲ計。此方エ竹把突雙。是ニ柱材木ヲ搖立テ貫ヲ通シ。竹把ヲ結揲矢狹間ヲ明此方ヨリモ鉄炮打様ニ士足輕ヲ守置。前ノ如岸モ田畠モ一面ニ

引率ヨト群聚シテ。仕寄ヲ附ル人モ有。田畠ヲ埋ル方モ有テ。ハシリ廻コト夥シ。

六。秀吉卿ト與宇喜多合戰之事

斯テ秀吉卿ハ度々ノ合戰ニ。味方若干滅ヒケレハ。無念之事ニ思レテ。憤リ給フ事限リ無シ。懸所ニ兼テ國中幷國堺毎ニ物見ノ輕騎ノ侍諜士餘多出置レ。國ニ逆心ノ者有ルカ。他國ヨリ後詰有ハ告來ト附置ケルニ。霜月廿日早旦ニ備前堺ニ出シ置タル。輕騎ノ諜使山脇エ馳歸申ケルハ。昨日ノ暮程ニ。敵ノ諜士ト覺テ。三石邊ニ徘徊シ候カ。頓テ先勢押來リ。三石邊ニ宿シ候。此勢ハ上月ノ城エヤ參リ候ラン。然ハ今日既晝夜ノ中ニハ着候ハントソ申ケル。秀吉卿聞召。其ハ宇喜多カ見繕勢ナラン。サアラハ急キ馳向ヒ追散ン。早出馬スルソト觸サセシヨリ。上月ノ城外エハ山中鹿之助ヲ遣シ。福原カ城エハ桑名彌太郎ニ仰テ。後詰ノ勢來ルナレハ。攻口ヲ嚴ク圍ムヘシ。城中エ引入ラント必定打出ヘシ。此旨諸大將ニ可申トテ仰ケレハ。兩人御請申。急キ馳向 侍々ト申ケル。雜人等是ヲ聞。前後ニ敵ヲ請申ハ。滿行方ノ無ルヘシト。早迯支度ニテ周章騷キ鎭レ其不止キ。是ハ扨置。秀吉ハ谷大膳ヲ眞先トシテ。足輕五十人一枚梯ノ侍添二行ニ押出タリ。其次ニ騎馬三十。是ハ地形因テ一行二行ニ步セタリ 此次ハ谷カ馬廻ニ步行ノ兵百余人。半ハ弓半ハ長刀鎗ヲ打衾タ一町計隔テ。糟屋左近足輕五十人二行三行ニ先立。其次ハ騎馬ノ兵三十。糟屋カ馬廻ニ步行ノ兵八拾余。或弓。或鎗長刀ヲ携タリ。其次一町余リヲ去テ。山中鹿之助。足輕五人。騎馬ノ兵三十。是ヨリ少シ隔。山中カ馬廻ニ步行ノ兵五拾人。弓鎗長刀ヲ打擔。靜ニ行。此勢ヲ二町計隔。秀吉卿足輕百人。四手ニ分。前後左右元大文字ヲ附。地

形ニ因テ前後ニ押。又四手ニ分。公ノ馬廻ヲ圍押。先ノ足輕二十八人ヲ少シ隔テ。騎馬五十騎。法ノ如歩セタリ。此ヨリ一町計去テ。秀吉卿ノ馬廻ニ歩行ノ兵二百余人。半ハ弓。半ハ鎗長刀ヲ衾キ。是モ地形ニ因テ。前後ト成リ。大概ハ經ヲ守テ不亂。是ヨリ二町計去テ。淺野彌兵衛尉。足輕百人二行三行先立。次ニ騎馬ノ兵百騎。其次ニ弓ノ兵五十余。是ヨリ少シ去テ。淺野馬廻ニ歩行ノ兵。弓鎗長刀ヲ持。淺野ヲ圍行。此次二町計隔。中條宮川カ足輕三十人ツヽ立。此間ニハ陣具兵粮ヲ馬ニ附。人夫ニ持セテ打ツレタリ。實ニ前後行例ノ勇々シサ云計無シ。加之蜂須賀彦右衛門ハ。足輕百人。騎馬ノ兵三拾騎。歩行ノ兵二百余人。何モ弓鎗長刀ヲ打衾。蜂須賀カ馬廻ニ打連タリ。此後二連具兵粮ヲ馬ニ附テ。今朝巳刻ニ秀吉卿ニ先立。九崎ト云所ヨリ下郡エ廻リ。川端ヲ下リニ竹

間ノ此方ヨリ西ノ山路ヲ經テ。敵ノ後エ廻リ攻合ヘシト押行。又去程ニ。備前ノ國守喜多和泉守直家ハ。藝州毛利輝元幕下トシテ。備前播磨美作三ケ國ノ旗頭也。此故ニ先日高嶋右馬之助カ許ヨリ。輕騎ヲ馳テ秀吉卿ヨリノ使者之趣。政範ノ返答幷ニ一族等カ所々ノ要害ヲ聞。佐用太平山城エ一擧ニ指籠候ヘシ。此城元來名城也。軍兵一万余モ候ハンカ。然ハ秀吉卿二萬ニ不足勢ヲ以。攻ントナラハ欺ニ不足所也。但當季ノ納米未タ熟候エハ。如何ニモシテ兵粮運送ヲ奉賴候ト。羽檄ヲ飛セケル。此故ニ直家先備前美作ノ軍勢ヲ催促シテ。舍弟宇喜多掃部助廣雄ヲ大將トシテ。其勢三千余ニテ指遣ス。此廣雄ハ太平山城主政範ノ爲ニハ妹聟也。此勢十一月廿日ノ晝程ニ。上月ノ城ヨリ西南ニ當テ。秋里ト云所ノ南山ノ尾崎ニツヽキ。兵粮ナト遣ヒ。爰ヨリ上月ノ城外エ諜

士ノ物見ヲ遣置。今日暮レハ太平城エ打入ラント休居タル所ニ。件ノ物見ヤカテ走歸申ケルハ。上月城外北東南ハ寄手遠巻スル事。稲麻竹葦ノ如シ。西ノ方ハ城ノ後ニテ大嶽。其麓ハ或沼。深田。水澤ニテ跕絶タリ。故ニ寄手不附カ。去程ニ又出張ノ勢ト覺テ。新ニ押來城ヨリ南ノ山間エ。足輕段々先立テ。此方ノ路西ヲ指テ押來事。凡二十余町モ續キ候ハンカ。其先勢今十四五町モ候ハントソ申ケル。廣雄聞テ。其義ナラハ幸爰ニ待敵直下ニ爰テ戰ント思フハ如何ニト有ケレハ。本間小馬其外諸大將打寄。彼物見ノ士ニ路次ノ形像ヲ尋勘。今少進坂ノ上エ士卒ヲ馳登。松林之中エ引隱シ。足輕大將代安寺。三村。馬淵。高森ヲ坂下エ指下。路ノ左右林ノ陰ニ足輕ヲ置。坂ノ上ニハ宇喜多カ馬印押立。態ト纔百騎計馬ヨリ下リ。休居タル躰ニ見セ。殘ル軍勢ヲハ坂ヨリ後隱シ。弓絃ヲ濕シ。火縄繰シテ待カケタリ。去程ニ秀吉卿ノ先勢ハ。敵ニ逢マテト馬ニ白淡咬セ馳ケルカ。無端赤松山ノ西尾崎ニテ。敵ヲ坂上ニソ見上タリ。宇喜多カ指顯タル勢モ。態ト驚騒躰ニ見セタリ。秀吉卿ノ勢斯テハ地形悪カルヘシ。今スコシ引戻。敵ヲ僞下。平場ニテ戰フヘシト俄ニ足輕ヲ繰戻ケル程ニ。後勢ノ行列段々ニ躁立。秀吉卿之行列マテ混亂シテ指支タリ。宇喜多カ方ニハ代安寺。三村ヨリ廣雄エ軍使ヲ立。敵ノ陣騒動仕候ヌ。足ヲ留ヌ先。鉄炮打カケ候ヘシ此費ニ乘テ蒐下給エト云ヤルヨリ。早一番ニ代安寺。三村左右ヨリ足輕三十人宛起立テ。亂レ引退。敵ヲ追カケ。其間二十余間計ニテ。鉄炮ヲ打カケタリ。寄手ハ坂ノ下ヨリ宇喜多勢喚テ走出ケルヲ見テ。專周(マヽ)章騒キ採合所エ。鉄炮ヲ打カケケルニ。空實無ケレハ。將棊倒ノ如打倒サレ。彌上ニタヲレ重ヌ。

馬淵高森モ續テ足輕ヲ進來リ。代安寺。三村カ足輕ニハ。代々鉄炮ヲ打カケ進程ニ。鉄炮ニ中リ或共ニ押倒レ。先陣後陣大半討レ。殘黨等ハ後陣エ迯カケ。人馬一所ニ混亂ス。宇喜多カ足輕勝ニ乘リ。入代込替是ヲ討ツ。宇喜多ハ坂上ヨリ太鼓ヲ打。同音ニ鬨ヲ揚ケ。軍勢ヲ段々ニ馳下ス。一番ニ神宮寺。下河原ハ足輕ヲ進メ。三村 高森。代安寺。馬淵等ニ入替リ。鉄炮ヲ打カクレハ。本間小馬ハ騎馬ノ兵三百余ヲ三手ニ分。宇喜多カ馬印押上。先ノ神宮寺。下河原カ少(ソ脱カ)後ニ押續ケルカ。先ノ足輕鉄炮ヲ打カケル見テ。本間大鼓ヲ打セケレハ。先ノ足輕大將等。果テ足輕ヲ左右エ披ヌ。時ニ小馬新兵衛尉騎馬百騎ニ手ニ分。噇ト喚テ蒐入ケレハ。谷糟屋カ敗軍ノ者モ。後陣エ迯カケル最中ナレハ。後陣ノ人馬採合。將棊倒ノ如。共ニ押タヲサレル事夥シ。小馬カ兵勝ニ乘リ蒐寄々々追討ス。去レモ秀吉卿ノ陣ヨリ山中鹿之助先勢敗軍シテ。我陣エ崩レカケル見テ。手ノ者與力下知シテ。兵ヲ左右エ颯ト披手。谷糟屋カ敗軍ノ勢ニ入代テ。小馬カ勢ニ打カケ。互ニ喚叫テ切結。切テ落スモ有。馬ノ平頭切。刎返組テ落首捕テ立上ラントスルヲハ。歩行ノ兵走來テ頭ヲ掻モ有。互ニ隙モ無キ處ニ。本間内藏助百五拾騎ヲ三手ニ分テ。小馬カ左右ヨリ敵ノ左右ノ手先エ噇ト喚テ捶カケヌ。山中カ陣エハ谷糟屋カ敗軍ノ兵ヲ集。以前ノ耻辱ヲ雪ント。命モ不惜。面モ不振爰ヲ專ント防戰フ。加之秀吉卿ノ陣ヨリ餘多馳加リ。入亂火花ヲ散テ攻戰。斯ル所ニ掃部助廣継ハ。本間カ後ニ押來。馬印ヲハ態ト本間ニ渡シ置。三百余騎ヲ三手ニ分。左ノ方秋里ノ方エ蒐廻シ。秀吉卿ノ陣エ横合ニカケ下ス。秀吉卿ノ陣ニハ披合セントスレハ。山間ノ地狭ク。南方深田ナレハツ

ナエ直スニ自在ナラス。唯魚鱗ニ立テ馳合ト云程コソアレ。共ニ揉合所エ宇喜多カ先蒐百余騎加作見ヨリ障ト蒐入。又宇喜多カ二陣ノ百余騎ハ、山中カ陣ニ横合ニ蒐入程ニ。戰ヒ疲タル山中。谷。精屋一捲ニ成テ不思モ後陣エ崩カケス。小馬。神宮寺。下河原。代安寺。馬淵。三村。高林勝ニ乘テ急テ追討スル程ニ。山中。谷。精屋一捲ニ成テ敗レ。手ノ者大勢討レ。或後ノ深田エ追入事夥シ。去レ共秀吉卿ノ陣エハ。淺野。中條。宮川入代火花ヲ散シ防戰エハ。宇喜多カ陣エハ本間小馬ヲ始。惣軍入替々々戰フ。兩陣互ニ西ニ崩レ。又東エ捲立ラレ。七八度カ程ソ揉合タリ。此故ニ兩陣ニ討ルヽ者其數ヲ不知。互ニ不引不退。命限リニ戰エモ。何レモ勝負ハ不決。日既暮レ。山谷闇然トシテ。敵味方ノ笠印分明ナラサレハ。軍ハ明日ト約請シテ。兩方共ニ引分ヌ。秀吉卿ハ東方五六町引退給テ。深田水澤ヲ前ニ捕テ陣シタマエハ。或強者中ケルハ。昔漢ノ高祖ノ大將韓信ト云者ハ。加樣ノ敵對陣ノ時ハ。水ヲ後ニ當テ陣取タリト聞シ。今此陣ノ張樣ハ。事替リタリト歎キ私言ヌ。斯テ宇喜多ハ士卒ヲ秋里ト云所ノ南。尾崎林ノ中エ引上陣シタリ。今日總テ二時計ノ合戰ニ。兩陣ニ討ルヽ者七百余人。手負者ハ數不知。

七。上月城ヲ捕圍事附城ヨリ夜討之事

同霜月廿日巳ノ刻。上月ノ寄手城表寄手ノ陣中ニハ。秀吉卿ヨリ軍使來テ。隣國ヨリ後詰スル間。城外堅ソ固ニ捕圍ヘシト也。是ニ因テ大手ノ寄手調シ合テ。兩攻口エ押寄。大手ハ城ヨリ結タル北方ノ柵ヲ堺。南ハ民家ノ燒跡ヨリ堀涯マテ。大手ノ橋ヲ中ニ當。橋ヨリ一町近ク箕手成ニ竹把ヲ仕寄附。此中ニ鉄炮ヲ伏置。軍兵河原ノ門ニ打圍陣ヲ張ル。搦手ハ是モ川

ヲ越。形見山ノ北ノ尾崎下上月ヨリ搦手ノ門ヲ中ニ捕テ。竹把ヲ仕寄。此中鉄炮手打伏軍兵充滿シタリケレハ。縱後詰ノ勢押來トモ。爰ヨリ出合テ鉄炮ニテ打立ンハ。城エ入ン事思モ寄ス。マシテ城ヨリ打出ル事不叶ト。勇進ヒカエタリ。城中ニハ寄手川ヲ渉リ。竹把仕寄衾來雨曲輪先エ寄テ。竹把仕寄テ構立ルヲ見テ。所々ノ櫓門櫓渡塀ヲ指固。橋ノ中間板刎返待カケタリ。寄手モ矢懸リマテハ不寄。ハシロヨリ鉄ホウ一ツモ不打。鳴ヲ鎭テ居タリケル。懸ル所ニ午ノ下刻計ノコナルニ。近隣ニ當テテツハウノ音夥ク聞ケレハ。政範ハ諸大將ヲ扣テ被申ケルハ。不思議今ノテツハウ響。福原カ城ヲ攻ル山彥不然ハ宇喜多ノ見繼勢トヲホヘテ候出力ヲ合セズンハ。無念ノ事ニテ候ハントソ申ケル。政範ヲ始メ。諸大將何レモ此儀尤ナリト同シ。左ラハ打出ン。誰彼ト手配評シ

ケルトコロニ。早瀨帶刀高聲ニ申ケルハ。先々靜リ給ヘ。夫軍ハ敵ノ不意ヲ討手今ノコトク攻口ヲ嚴ク押閉候得ハ。打出テハ益ノ候マシ。從宇喜多後詰ニテ。敵ニ押隔ラレ戰モ。ホトナク日ノ昏ヌヘケレハ。勝負モ決スマシ。互ニ引去陣スベシ然ラハ今夜ノ子丑ノ刻ニ寄手ノ陣ヘ夜討シ給ヘ。去程ナラハ寄手必定敗スヘシ。懸ル責ニ乘テ後詰ノ勢ナラハ。城ヘ引入レン方便ハ。節運ニ候ハン物ト申サレケレハ。政範ヲ始。高嶋。林。横山。太田。川嶋。小寺。鵜野。小林何レモ此儀可然左アラハ面々用意仕給ヘト相言葉ヲ定メ役所々々ニ歸リツヽ。刻限ヲ待居タリ。兎角スル間ニ。近隣ノ鉄炮響喚叫山彥ノ音モ鎭ヌ。斯城ヲ閑ム寄手モ。黄昏時モ過行マハ持口少シ寛テ。各篝火ヲ夥ク燒連テソ陣シケル。去程ニ。城中ニハ相圖ノ刻限近ケレハト。我モ々々ト出立ス。朧月夜ヲ幸ト。

大手一番太田新兵衛尉。小林宇右衛門尉。別所左門此三人足輕三十人宛ヲ一手ニシテ。先立半町程後ヨリ弓ノ士一所ニシテ。百余人ヲ進メ。其後ヨリ將三人鎗長刀ヲ持タル兵二百計俱シテ。橋ノ外ヨリ左リヘ微反二町計。足輕ヲ忍出テ。敵ノ小屋今一町余リ此方ニ伏タリ。後勢モ段々ニ行止リ伏ヌ。二番高嶋右馬之助。同猶子七郎兵衛尉。高野與市郎。桑波權正。此人々ノ足輕一手ニシテ。百人ヲ先立。橋ヨリ眞向一町計忍出テソ伏タリ。其次ニ弓士百余人。次ニ鎗長刀ヲ持タル兵百五十計。將ニ隨ヒ鶴翼ニ披伏ス。三番小寺庄之助。同子息右衛門佐。柏原士佐守。岡田半左衛門尉。此人々ノ足輕ヲ一手ニシテ。百余人先立。橋ヨリ右リヘ微反一町余忍出テ。寄手ノ小屋々々ノ今一町計箕手ニ披キ止伏ハ弓士百余人。鎗長刀ヲ持タル兵。段々押出タリ。高嶋ハ前後ノ手配調ヲ見テ。正澄太皷ヲ打セタリ。城内城外大手搦手口ハ鐘太皷ヲ打テ。同音鬨ヲ上タリケレハ。山川ニ響テ渡テ夥シ。寄手ノ陣ニハ宵ノコソ篝火モ燒ツ。何時ノ間ニカハ消果テ。前後モ不知伏タル最中ナレハ。鬨ノ聲ニヲトロキ起惑。闇ハクラシ共ニ押合揉合テ。上ヲ下ヘト騷動スル事夥シ。城ノ足輕𪜈ハ三方ヨリ走來。敵ノ仕寄竹把押仆込入揉合。敵ノ中ヘ鉄炮ヲ打懸ル程ニ。彌上ニ打倒。將棋仆ノコトク倒重有樣ハ。前代未聞ノ事𪜈也。適後ニ有シ者𪜈モ。敗軍ノ味方大勢迯懸一揆ニ成テ後川エ迯入テ水ニ溺ルヽ者其ノ數ヲ不知。斯テ鉄炮打事一人ヨリ二三ト定ケレハ。打拂タル足輕ハ。又玉込シテ將ノ前ニ來レハ。弓士竹把仕寄ヘ矢射懸ケレハ。此火敵ノ假屋コトニ燒散ヌ。角テ高嶋カ手ヨリ鐘ヲ鳴シケレハ。是ヨリ一勢々々大手橋エト引退。高嶋七郎兵衛尉。別所左門。

岡田半左衛門尉三人ハ。足輕三十人ツヽ引分三所ニ止リ。殿ニ引退。元來追慕フ敵無ケレハ。各無異引入テ。橋板ヲ行(マヽ)引返。小門ノ中エ入ニケリ。搦手ハ一番横山藤左衛門尉。川嶋三郎四郎。鵜野彌太郎三人ノ足輕ヲ一手ニシテ。百余人先立弓鎗長刀ノ兵法ノ如ク立。土橋板下ヨリ左エ二町計忍出伏タリ。二番林對馬守。嫡子隼人正。舍弟四郎左衛門尉。一手ニ成リ。足輕十余弓柄道具ノ兵段々ニ立。同坂下ヨリ右一町余リニ足輕ヲ伏タリ。三番早瀨帶刀。衣笠虎松。丸山八助。此足輕ヲ一手ニシテ。百余人坂下眞向。微反一町余伏タリ。次ハ大手ノ関ヲ爰テ聲ヲ合セタリ。寄手陣中周章騷ヿ夥シ。横山カ足輕敵竹把西ノ明間エ走寄。揉合敵中エ鉄炮ヲ打懸ツ交々ナリキ。込合タル敵中ナレハ彌上ニ折倒ヿ夥シ。此寄場南ノ方ハ形見山ノ尾崎殊城ヨリ東西ヘ二重ニ柵ヲ立ツレハ通絶タリ。北ハ己カ附タル仕寄竹把寄場ノ前ハ一面ニ突揲ケレハ。件ノ柵ト竹把間ヲ東ノ方エ逆崩タリ。横山林カ足輕ノ追懸テ。是ヲ打程ニ。唯將棊倒ノ如ク打伏タリ。時ニ早瀨衣笠丸山ハ始ヨリ。関ヲモ不合靜リ居タリケルカ。我前ノ竹把ノ中ヲ東ヘ逆行ヲ見テ。突並タル楯ヲ敲キ。関ヲ嚾ト上ケ。楯踏倒シ足輕ヲ出シケレハ。相圖之如ク横山早瀨カ足輕止テ。鉄炮ヲ不打早瀨カ足輕走寄。竹把ヲ押仆込入々々鉄炮ヲ打懸ケルニ。空矢無ケレハ打貫モノ夥シ。斯テ矢倉ヨリ引鐘ヲ合セケレハ。弓士是ニ入代リ。竹把所々ノ小屋𪜈エ火矢少々射懸横山。林諸𪜈ニ搦手エ引退ク。殿ニハ鵜野林四郎左衛門尉。丸山八助。此人々足輕ヲ連テ繰引ニ。土橋マテ引ケルニ。慕來敵モ無ク。夜討城兵足輕ナントマテ。一人モ不討。實早瀨帶刀カ鑑ラレシ所。夜討圖ニ叶フ事𪜈哉。

八。城中エ後詰ノ勢入附相圖ノ松明之事

斯テ城ヨリ夜討ニ出タル人々ハ。大手搦手𪜈ニ思ノマヽニ敵ヲ追討却テ仕寄竹把燒拂ヒ。足早ニ引退懸ル所ニ、搦手形見山ノ西尾崎ニ當テ夥ク鬨ヲ上ケタリ。敗軍ノ寄手ハ是ヲ恐懼シテ遁走事急也キ。城ニハ是ヲ怪(アヤシミ)、此故ニ搦手ノ殿鵜野。丸山。林等末ノ土橋邊ニ指傳ヒケレハ。又足輕ヲ立直ス。木戸エ引入タル人々モ一勢々々立止メ斯ニ如何ト見繕ヒ所ニ鬨ヲ上ケタル勢ト覺テ坂下近ク走寄ケルカ、是ハ宇喜多掃部之助廣維後詰仕候、城中ヨリ出合給ヘ。本間内藏之助。小馬新兵衛尉。下河原傳右衛門尉、唯彼先エ參候ト聲々ニ名乘ケルカ。其聲ノ中ヨリ一丈余リノ松明一ツ指上ケ。其脇ニ黒白ノ角掃紙ノ馬印ヲ指上タリ、坂上ヨリ鵜野、丸山、林是ヲ見テ、木戸ノ中エ斯ト云遣タリ。宇喜田ノ陣エ軍使ヲ遣シ伺ケルニ、疑ヒ無シ。則宇喜多カ武者ニ和氣甚太夫ト云者三使ニ指添テ。野林丸山カ許エ案内ス、是ニ因テ三人モ頓テ和氣ニ逢テ。夫ヨリ和氣ニ人ヲ指添、城内早瀬カ許ヘ遣シ、三將ソレヨリ打連、宇喜多カ許ヘ迎ント打越タリ。城中ヨリ先エ又軍使立ツ、使坂下ニテ本間、小馬。下河原ニ會釋シテ、宇喜多カ陣ヘ行向事ノ由ヲ申シ急キ城ヘ入給ヘト同道シタリ。城ノ三人モ坂下マテ行向ケレハ。使走歸テ下河原ヘ對面ス。此間ニ神宮寺太郎左衛門尉、別所與五郎。彼是三百計ニテ來ヌ。是ヨリ宇喜多モ出來ケレハ、城ノ三人出向、對面シテ夫ヨリ一番ニ廣維、本間。小馬、神宮寺殿城ヘ入リヌ。木戸ノ内外ニテ早瀬、横山、川嶋、林父子衣笠出向對面シ、頓テ同道ニテ本丸ヘ入込ヌ、宇喜多軍勢不殘土橋迄打入ケル。其間者坂下ニ鵜野庄、宮林左助、丸山、小源治三所ニ足輕ヲ張テ、寄手若シ

來ンコモ有レド相待ケレ𪜈。近邊ニ敵ノ音モ不在ハ。三人ノ人々殿シテ引登坂上ル柵ヲ閉。木戸内ヘ引籠ケル。斯テ暫アレハ秀吉卿赤松山ノ陣ヲ去テ。形見山ノ西エ捕登。城外ノ騷動ヲ見聞シ玉ハント出來給シカ𪜈。城ニハ門柵ヲ閉テ音モセス。味方ノ寄場ト覺ツ所ハ。仕寄竹把小屋々々燒拂レテ。人一人モ無ク算ヲ亂スコトク。手負死人充滿タリ。秀吉卿見玉ヒ惶レサセ玉ヒ。拳ヲ握リ。齒咬シ玉フ。角テハ又此責ニ乘テ。城ヨリ打出事モヤ有ンスラント思レケルニヤ。暫モ不留宇喜多カ陣ニ歸玉トテ。敗軍ノ味方ヲ集メサセヨト。所々エ使ヲ遣シ歸リ玉フ。其路ニテ堀ト明石トニ行逢玉ヒ。夜討ノ次第味方ノ敗軍ノ爲躰尋玉ヒ。不興セサセ玉フ。斯テ宇喜多モ城エ入タルヤラント。事ノヤウス申上ケレハ。此由ヲ聞召サセル方無茫然ト扣サセ御座ケル。宮川御馬ノ前

ニ近付。如何ハ申タリケン。頓テ直ニ山脇ノ陣エ歸玉ハント。總軍赤松山ト形見山トノ間ヲ。九崎ノ方ヘ押出。ケナイト云所ノ下瀨ヲ渉リ。高嶋山ノ北尾崎ヲ經テ山脇ノ本陣ヘ歸リ玉フ。此間爰彼所山田尾崎新ニ埋タル造リ路田畑ホトリ川原表ニ至マテ。敗軍ノ味方勢𪜈二十人卅人ツヽ蹲踞タル有リ樣。手負在リト見エタルハ口惜カリシ事𪜈也。此日秀吉卿人夫共カ陣具負疲レ。後レテ漸山脇ヘ歸トテ道ニテ友トチ語リケルカ。去ル程ニ前後ノ敵ヲハ打漏ツルコヨ。加樣ニ仕合惡ケレハ。我等カ蹈所マテ塞テ。墓ノ行スト云ケレハ。後ナル男ノ云ケルハ。サレハコソトヨ。我々ハ耕食ノ此身ナルニ。反テ此北田ヲ埋メ。是地神ノアカメ玉フテ我等カ足ノ蹈所殊ニ墓ノ行ヌソトタハムレテコソ通ヌ。彼等カ殿ノ爲ニ押ケル。何某馬ヲナラヘテ打ケルカ。彼人夫等カツフヤク

ヲ聞テ。二人目配シテ云ケレハ。實モ軍ハ筋ノ運ニ寄トハ申ナカラ。將ノ智謀計略コソ第一成ヘケレ。兵法曰。計於始能者ハ。謀於其末非ニ云々 然ルニ昨日出陣ヨリ合戰ニ至マテ。其規悉ク違リ。去レハ敵ノ襲來ニ此方モ出張シテ。道ニテ戰ハンニハ。敵ノ來ラン路筋エ先輕騎諜士ノ物見ヲ。二十町十五町。八町ト段々遣置。其注進ヲ聞。敵ノ多少。或ハ軍勢備押ノ調ト不調ト。路次ノ遠近地ノ廣狹節所平場ナントヲ悉ク聞。敵ニ因リ勢ノ分際ニ因リ。平場ニ出合カ又幸ヒ山アラハ鳥雲ノ陣ヲ張待テ戰カ。或ハ弓鉄炮ニテ廻リ合ケルカ。或軍兵ヲ隱伏。小勢ヲ出シ挨ヒ。終ニ敵ヲ僞引。伏兵ヲ以テ戰カ。或ハ態ト戰暮。互ニ引去陣シテ夜討ヲ入ンニ。敵ノ横合或後ヘ廻リ。弓鉄炮ヲ打懸ルカ。方便サマサマ有ナントコロニ。其謀一モ無キハ如何ニハヤ昨日合戰ノ初二ヿハ敵何處ニテ求ヲモ不知。節所ニ待懸タル敵ヲ坂下ヨリ親ニ見上度ニ惑ス。（マヽ）敵ハ此方ヨリ押行ヲ知レルカ故ニ。節所ニ相待タリ。味方坂下ニテ待ナ敵ヲ見附タリモ。責テハ先陣少モ不騷。芝居ヲ蹈テ備ヲ堅ク足輕ヲ張リ。敵蒐來ンヲ待ナン敵不下何時マテモ。如是セハ。縱昨日ノ如ク敵ニ伏兵有モ。後陣入代リ鉄炮ヲ打懸ハ。敵モ先陣ハ皆討ルヘシ。敵ノ伏兵ヲ討倒ハ。又次ノ陣ヨリ足輕ヲ坂中マテ出張セ。挺楯ヲ突雙窓ヨリ鉄炮ヲ打懸ハ。敵來ヿ難シ。然ラハ此方ヨリ頻ニ鉄炮ヲ打懸。攻登カ。或日ヲ暮シ夜ニ至リ。潜ニ勢ヲ分。夜更ハ敵ノ横合或後ヨリ鉄炮ヲ打カケ矢ヲ放チ。夜討スル方便有ナン。又昨日ノ軍ハ勝負不決ト云人アレモ。第一味方ハ大勢討レ。手負其數ヲ知ラス。亦宇喜多カ陣シタル坂ノ邊ヨリ。日暮テ互ニ引分レタリ。戰場迄ハ凡其間十四五町余リ追討セラレヌ。是等ヲ

不辨者ヤ有ル。然勝負不決ト云シ族。味方ニ多ケレハ。度々ノ軍ハ仕損ケル。又城中ノ者モ夜討次第其謀規ヲ得ツレハ。實唯一端而已ニ非ス。敵ヲ滅却シ。剩金鉄ニ等キ加勢ノ軍兵數千人ヲ得タリ。其得失幾許乎斯旨嗄信服メ語リ行間ニ。愁ヒ寒氣モ打忘。山脇ノ陣ヘ歸リニキ。其夜宇喜多ハ搦手ヨリ城ヘ入テ。頓テ城中ノ人々同道ニテ。本丸ヘ參ラル。政直正澄道マテ迎出ラレケレハ。打連大廣間ヘ出ラレケレハ。政範對面有リ。昨日秀吉ト合戰アリケルニ。事故無ク此城ヘ入給ヘ。希代不思議。武運長久ノ至リ。祝著實ニ不過之候ト。本間小馬ヲ始。其外諸大將ヘ對面セラレテ。軍旅ノ勞ト無異ノ了。其慇懃會釋有ケレハ。廣維申サレケルハ。仰ノコトク今度ノ御大事加勢仕ラント馳參候。近隣ニ於正シク秀吉ト覺候處。戰幕引分。山林ニ分入。夜ハ引違テ此城外ヘ罷向。寄手ノ者モ一戰仕リ。運ヲ勝負ニ任セ候ハント存シ。昨日痛ク手負タル者。幷ニ雜人ト馬ヲハ夜半ニ至リ。國許ヘ歸サンカ爲ニ。態ト山越ニ指遣。殘ル軍勢八百余人ヲ具シテ。對陣ノ前ヲ潜ニ引違。搦手近ク忍寄候。折節城外夜討ノ騷動夥ク聞候程ニ。途中ニ進テ扣候キ。時ニ城中ヨリ相圖ノ鐘ヲ聞エ。頓テヨリ城中ヘ引籠ル。御勢段々ニ候得ハ。頓テ押續キ。搦手坂下邊ニ近着候處ニ。御使者ヲ玉ハリ。加樣ニ御城内ヘ入リ。不思議ニ尊顏對スル事。盲龜浮木優曇華ノ華待得タル怡モ是ニハ不過ト申ケレハ。政範悦喜無限。先以テ御合戰ノ次第御計略ノ勇々シサ。古今無雙ト覺テ。實ニ悅入候ヌトテ。倶セラレタル諸大將。本間小馬ヲ始。外樣ノ軍勢ニ至ルマテ。並居對面有テ後。各假名實名ヲ著到シテ。八百十三人ト記ス。昨日手痛ク働タリト見ヘテ。各不手負人モ無ケレハ。血ヲ吸疵ヲ

縫ヒ。能々イタハリ候得トナリ。

九　寄手惣勢城麓攻寄之事

斯テ十一月廿一日ニハ、敗軍ノ寄手面目無ク。己カ陣々ヘ歸ケレ𪜈。手々ノ鑓或太刀鎗長刀弓鉄炮ヲ捨タレハ。蹈崩レシ燒跡ヲ遙ニ見遣テ。茫然トシテ只小屋々々前ニテ弓一挺鎗一本ニハ二人三人捕附テ。我ヨ人ヨト奪合有樣ハ。是ゾ希代ノ樣ナリ。斯テハ陣中騒シトテ。諸大將走リ廻リテ鎮ケリ。其後秀吉卿ヨリ軍使來リ。急キ敗軍ノ兵ヲ集メ。陣ヲ張リ。番匠ヲ寄。勢樓ヲ組立。攻口ノ堀近押建。是ニ取登リ。城中ヘ鉄炮ヲ打入事。晝夜不怠打ヘシ。城ニハ加勢在シハ。血氣ニ乘シ打出ハ僞引出シ。後ヲ押切。不漏討留ヨ。間能ハ城ヘ乘入ヘシ。敵不出ハ毎日モ蒸攻ニシテ。城中ヲ疲勞去程ナラハ。終ニハ降參スルカ餓死スルカ。二ツノ中ハ過マシト。委ク下知仰下サレケル。此故ニ諸大將示合。急キ攻口ヘ仕寄。竹把丈夫ニ附テ伏鉄炮ヲシ。晝夜ヲ番手ニ守セ。此方ニハ勢樓ヲ拵ヨト。同十一月廿二日ノ早旦ヨリ。寄手雲霞ノ如集。仕寄竹把ヲ衾來平福川ヲ渡リ。兩攻口ヘ竹把ヲ押揲鉄炮仕雙敵打出ヤト守ルモアリ。西川原表ニハ材木ヲ餘多寄セ。番匠ヲ集メ勢樓ヲ組立事夥シ。城ニハ是ヲ見テ。如何ハスルソト各持口ヘ出合。弓鉄炮ヲ張リ。鳴ヲ鎮テ居タリケル。大手橋外ト搦手坂下ヲハ。箕手ニ竹把揲此陰ニ鉄炮ヲ伏テ守ルナレハ。城ヨリ容易打出ヘキ樣モ無ク。寄手モ矢懸リ遠ケレハ。鉄炮一ツモ不打ケル。角テ四五日過ケルカ。件ノ勢樓組立ケレハ。頓テ攻口ノ仕寄竹把際ヘ衾來リ。大手搦手門矢倉隅矢倉ノ近クハ除キ。二ケ所ツヽ押立。是ニ搔楯ヲ揲。矢間ヲ切テ蓋(フタ)ヲ据番シ。是ヨリ城中ヘ鉄炮ヲ打入ントワ巧ミケル。加之彼勢樓ノ左右ニ寄手陣屋

ヲ懸雙ル。川原表ヨリ兩堀渡ヲ堺テ打圍立並リ。實モ今日ヨリ後ハ打出カタキ。夜討ニモ晝討ニモ不叶シテ。降參スルカ餓死スルカ。二ツノ間近カラント勇々ノヽシリ普請スル事大タ急ナリ。去レドモ城ハ高山ニテ一遍ノ雲ノコトク見上。諸々切岸出塀矢倉ノ前ニハ竹把ヲ搩立タレハ。假令件勢樓ヨリ鐵炮ヲ打懸ルドモ。近ドモ一町余リヲ隔ヌレハ。彼竹把ヲ越テ城中ノ人ヲ破ラントハ見ス。此故ニ城ニハコレヲ事ドモセス。結句城ヨリ見下テ。撰打スル鐵炮遠矢ニハ。寄手大勢是ニ中リ死ヲ致ス者有ル故ニ。寄手ノ陣中騷動シテ。楯ヨ裏板ヨト奪合テ士卒自在ニ不働。明ケレハ霜月廿八日。城中ニハ諸大將會合シテ。如今敵ニ圍マレテ籠鳥ノ雲ヲ乞ヒ。泥魚ノ雨ヲ乞コトク終ニハ疲レ果ンモ無念ナリ。折コソ來レ。今日疾風ニ火矢ヲ射懸寄手ノ陣屋ヲ動サント申ケレハ。時ニ川嶋頼村ト小林滿季莞爾ト〆笑進出。此儀最可然。此席ヘ不參先ニ我々モ存付。兩人潜ニ示合。何樣今日夕暮ニハ一矢宛仕。人々ニ眠ヲ醒サセ申サント巧ニスマシテ待候キ。此上ハ一同ニ調合テ仕ラン。哀レ寄手勢樓ヤ造リ雙ヘシ。役所ヲ燒ケハ。是ソ項羽カ秦宮ノ室ヲ燒ニ等シカルヘシト申ケレハ。高嶋申サレケルハ。殿達ノ御智略ハ今ニ始ラヌ事ナレドモ。能モ軍ヲ心ニ待セ給フソヤ。然ハ兎ヤセン角ヤ有ラント示合テ。各役所ヘカヘラルヽ。去ルホトニ大手ノ矢倉ハ高嶋カ持口ナレハ。川嶋。小林相交テ火矢三本同所ヨリ猪谷口マテノ渡塀門矢倉眞篦カ嶽渡塀マテハ高嶋カ猶子兒弟小林カ二子并ニ川嶋大夫。猶原。高野。奈波。片嶋。瀨川カ相圍タリ。此手ヨリ火矢三本。南方二ノ丸谷口ノ矢倉ハ横山カ持口ニテ。鵜野兄弟。三宅。野村相交リ。南北ノ渡リ塀マテ彼手ノ郎從

役所ヲ雙同タリ。此人々ノ持口ヨリ火矢三本。南ノ出丸ヲ搦手トシテ。東ノ隅矢倉ハ早瀬父子持口ニテ。眞嶋浦上端山頓宮父子相交リ固タリ。此手ヨリ火矢三本。同所西ノ隅矢倉ハ政直ノ持口ニテ。太田父子三人。佐用三郎權正相交リ固タリ。此寄場ハ大沼ニテ寄手ノ小屋勢樓モ遠ケレハ火矢ニヲヨハス。同矢倉ヨリ東西ノ渡塀マテハ。國府寺左近。同子息勝兵衞尉。廣戸五郎左衞門尉。丸山八助。同子息兒弟所々行渡リ相固タリ。爰ノ敵間遠ケレハ火矢ノ兵三人ヲ坂中ヘ下タシテ相圖ヲ待。城ノ後ノ大嶽ハ敵登事難ケレモ。所々大石大木積置綱扣タリ。二重ノ堀アリ。コレニハ万遍ニ竹把ヲ搩立守リノ人々ニハ。衣笠虎松。同舍弟小治郎。岡田半左衞門尉。山田。大谷。中村役所ヲ並陣シタリ。北ノ方栖谷ノ矢倉ハ柏原土佐守。子息主馬之助。小寺庄之助。子息右衞門佐相交テ固タリ。是モ敵間遠ケレハ火矢ニハ不及。見繕テ守喜多ハ他ノ勢ヲ不交。百人。二百人宛一組ニシテ城中ヲ打廻リ。時ニ臨テ何レノ持口エ無モ相加ントト。晝夜ヲ手配シテ不怠コソ廻ケル。去程ニ今日モ早暮ヌ。寄手ハ所々ノ勢樓ヨリ城中エ鉄炮ヲ打カケル止時無ケレ共。元來城山高ケレハ敢テ益ナシ。皆退屈シテ扣タリ。折柄寒氣キヒシケレハ。寄手ハ凌カ子タル處ニ。思スモ黄昏時城中ヨリ同時ニ火矢ヲ射出タリ。此火矢陣物ノ如クニテ。寄手ノ勢樓止ト等ク燒出ケルニ。近ノ小屋々々エ件ノ火吹カケケレハ。所々ノ勢樓ノ上ヨリ捲落ケレハ。役所々々ノ兵モハ煙ノ下ニ迯惑。爰彼所ニ倒重。彌上ニ伏マロヒ益無死ヲ致ス者幾等トカ云也。實ニ焔火地獄ノ罪人ナリモ是ニハ爭勝ルヘキ。城中ニハ貝鐘太鞁ヲ打テ鬨ヲ上ルニ。河原表ニ陣シタル寄手モ。件ノ火ニ驚キ

迷ケルニ。城中ヨリ打出ト心得。我先ト川ヲ渉リ迯ントスル程ニ。水ニ溺ル丶モ夥シ。城中ヨリハ寄手ノ敗軍ノ節追討セン。然ラハ悉ク平福川エ追入レナハ。一人モ遁ルハ有ジト手配シテ扣ケルカ。俄ニ高嶋如何ハ思ケン。頻ニ鐘ヲ鳴シ。矢倉ヨリ軍使ヲ出テ是ヲ制シ止タリ。斯テ兵此火ニ騒動シ。山脇エ隠レ無ケレハ。秀吉卿ヨリ谷大膳。山中。桑名。中條等ニ足輕餘多指添。段々指越タマエ圧。寄手ハ右往左往ト敗軍シ。攻口ノ役所勢樓ハ燒ル最中也。城ヨリ打出ル圧見エサレハ。青野原ノ前ニ各馬ヲ扣。城ヲ遙ニ見上テ興醒（ケウサメ）テ扣タリケルカ。馬ヲ一所ニ寄テ出ケルハ。抑今度ノ城責ハ。如何成霊躰（アヤカシ）ノ附添テ兎スレハ斯ト打返ス事直ナラスト惘レ果テ候ケル。ソレヨリ敗軍諸將ヲ尋逢テ。誤タル燒亡亂兵火ナリト聞ル次第。是ヨリ城兵如何成方便ヲ爲ラント。松吹風ニモ恐ル丶計也。爰ヨリ搦手エ軍使ヲ立ル事ノ爲躰。人數ノ減打ナトスルヤウヲ聞テ參レト云遣シ。谷山中ヲ始メ各山脇エ歸リニキ。

十。福原カ城攻落之事

斯テ兩日過キ行ケルカ。寄手ノ諸大將會合シテ。先非ヲ悔。無念ト云也人ハ無シ。此城縱鐵壁成トモ。攻テ不破不可有。幾度モ仕寄竹把ヲ付テ攻ヨル。防ク暇ノ無ンニハ。終ニ城中エ乘入ラン物ヲト一決シテ。仕寄竹把ノ支度ナント丶訇哽合。是ニ因テ軍兵圧臆病神ヤサメテツラン。責テ討死セハ其名ハ子孫ノ面ヲ悦シメン。空死コソ念ナシト勇進者モ有。諸大將是ニ力ヲ得。各一枚楯ヲ用意セヨトテ。躁々シケレハ。外樣ニハ是ヲ又無謀ノ推攻哉。哀レ計策モ哉トツフヤキテ。動ヌ人モ多カリケレハ。兎角ニ陣々ノ人々ハ。思々心々ニ不卯合コソ不審ナレ。斯テ福原藤馬允カ城ヲハ。小寺。竹

中。明石。梶原其外ノ國人相交。是モ晝夜ヲ不分攻ケレ共。名譽ノ要害ニテ防ク兵多ケレハ。寄手毎度打負死人數不知。今ハ唯向城ニ引退遠攻スレハ。城ヨリヒタト夜討スル程ニ。防貧痩果タル計ナリ。斷カナ。夫レ兵法ハ謀ヲ專トスルコト成ニ。始ノ程ハ我々カ血氣ニ任セ。諸大將不狎(ナレアハ)合。心々ニ計略一ナラス。唯推攻スル計也。城ニハモトヨリ要害能ク。士卒ハ普代相傳ノ郎從ニテ。軍ハ我身一ノ大事ト人々心ヲ合。敵ノ不意ヲ討ント晝夜辛志ヲ盡防戰程ニ。寄手毎度多討レ手懲シテ攻兼テソ見エタリケル。斯テ十一月晦日ノ晩景。福原カ攻衆ノ中エ附置タル軍使。桑名。樋口兩人山脇エ馳歸言上シケレハ。福原カ城强ク味方大勢討レ。今有小勢成ニ然モ疲レ候。御加勢ヲ給スンハ叶難クト申ケレハ。秀吉卿聞召。何條福原カ城カ强ケレハトテ。謀ニハ落サレヌヤハ。遠卷シテ不可叶。夜ヲ日繼テ攻サスヘシト仰有テ。御氣色損メ爲入給エハ。兩人モ爲方無ニ退出ス。斯テ先日宇喜多押來シ時。彼カ後エ廻リ攻合スヘシ。先立ラレシ蜂須賀ハ。去ル廿日早旦。山脇ヲ立テ下郡竹間越ニ向モ。宇喜多カ後ヲ取切。附募攻合ント打越出ルニ。此道筋大酒ト云所ヨリ。赤松マテ岬路小徑ノ難所ナレハ。彼方此方ト辛苦シテ。馬ヨリ下テ馬ヲ牽キ。或腰ヲ押手ヲ引。峯ニ嶇嶮ヲツタヒ。谷ニ下リ坂ヲ越。心計ハ急ク山路ニ日暮ケレハ。各下居テ陣取ヌ。此故ニ古赤松里山合戰ニハ合ハテ。空ク歸ケルヲ無念ト思ヒケル由。秀吉卿内々ニ聞召ケレハ。頓テ蜂須賀ヲ召レ。福原カ城ノ攻衆加勢シ。方便ヲ廻シ可攻落ト仰ケレハ。蜂須賀畏テ御請ヲ申。其翌日早旦ニ二位山ノ陣ヲ立。態(マヽ)ト福原城ノ搦手ニ廻。明石。梶原。樋口等爾々ト示シ合。大手エ向ヒタル小寺。竹中。

桑名方エ軍使ヲ遣シ評議ヲ加エ。我身ハ城ノ西北ノ山手ヨリ仕寄。竹把ヲ突寄。鉄炮ヲ打セ。矢ヲ射サセ。鬨ヲ上喚叫乗入ントソ攻タリケル。大手モ是ニ力ヲ得。仕寄竹把衾連寄場ニ充満メ遠矢ヲ射懸。鉄炮ヲ打懸攻タリキ。去レ𪜈此城要害堅固ニシテ。弓鉄炮ノ手垂有テ透間ヲカソエテ撰打ス程ニ。大手搦手ノ寄手又大勢討レ手負夥ケレハ。推攻不叶トテ攻口ヲ引退。士卒ヲ休ス。寄手ハ一息攻加様ニ蒐引攻ケレ𪜈。城ニハ一人モ不討疲子ハ。彌寄手退屈シテ攻兼タリ。城ニハ寄スレハ爰ヲ専ト防キ。敵引ハ打破タル所々ノ要害捕繕。石材木ヲ寄テ乗入ラントスル所ヲ指固。貝鐘大皷ヲ打テ士卒ヲ勵シ防ケル。此故ニ福原モ上月モ寄手益（マヽ）兼タリト聞エケレハ。淺野宮部兩人秀吉卿へ申ケルハ。上月。福原カ兩城𪜈ニ。節所ノ山城ニテ攻ルニ利無候テ。味方若干滅。以今ノ如ク

是急ニ攻□（戰カ）ハンニハ味方彌ツカレ候ヘシ。願ハ唯城中ヨリ漏不落ヤウニ攻口少シ引去。鉄炮ヲ張リ諸大將三四人ヲ殘シ守ラセテ。惣軍ヲ引具シ給ヒ。國府へ一途引セ玉ヘカシ。敵ニ因リ。要害ニヨリテ急ニ攻又ハ蒸攻ニスル方便然ヒヤウモヤ候ハン。左モ候ハヽ。我々先殘候テ何方エ成ト𪜈罷向申ヘシ。今二三人被仰附候ヘシト勇進テ申上ケレハ。秀吉卿ノタマヒケルハ。兩人ノ異見神妙ノ至リ祝著也。乍去此遠巻シテ城ノ疲ヲ待ン事モ餘リニ云甲斐無。其上味方ニ属セン國人等如何ナル異義カ有ナン。又他國ヨリ後詰來ン其時悔𪜈益有マシ。此儀ヲ思フ故ニ。我假當所ニテ命隕ス𪜈。引退ン事ハ思モ不寄。紅葉ハ散リヌ大山ノ華見ニ慰ム便有レハ。松ヤ榾柮折クヘ寒氣ヲ凌キ。春マテ爰ニ長陣スルト思フヘシト。事モ無ニ仰ケレハ。兩人モ不興ニ思ヒ切テソ退

出シケリ。是ヲ傳聞諸軍勢。咡ヤキ嘲ケレハ。無情ノ仰カナ、和ヲ以テ強ヲ折方便ヲ知シ不召事ヨト歎者多カリキ。實ニ上方東海南道ヨリ遙々ト附隨タル兵。無用下ニ立テ益無死ヲ致ス事。其罪一人ニ歸セン ニハ。將ノ御身ノ上如何ニト心有モ心無モ眉顰メヌハ無リケリ。斯ル所ニ。福原カ城攻落タリトテ。小寺。蜂須賀カ許ヨリ早馬ヲ以テ秀吉卿エ軍使來リヌ。即秀吉卿三人ノ使ヲ近召テ。其樣ヲ直ニ尋サセ給フ。使者中上ケルハ。先日蜂須賀加勢仕リ候シヨリ以來。搦手ヨリ鉄炮打テカヽル事晝夜間斷不仕、故ニ城中ニ搆ツテ是ヲ防キ。殊矢ヲ放テ鉄炮打ツ事頻リナレハ。寄手モ手負死人大勢也。互ニ爰ヲ専途防キ候ニ。城中終ニ矢種玉藥竭候程ニ。蜂須賀勝ニ乘リ鉄炮嚴ク打セケル間、城中ノ者モ搆テ搦手エ乘。竹把ヲ揲裏板ナント被キ寄木戸ヲ固メ防ケレハ。大手ヲ守ル城ノ兵扶疎ニソ見エシ。斯折節小寺遑兵三拾騎計ニテ。大手橋近ク馳寄。城中ヲ白眼荒言シテ嘲リ味方ヲハ諫勵マシ。態ト閑カニ引退折節。藤右馬允大手ノ矢倉ニ居シケルカ。元來血氣ノ勇者ナレハ。側ニ有合兵三拾人召連。門ヲ開キ走出。引行小寺ヲ返戻ト呼懸テ。疾風ノ如ク追出タリ。小寺是ヲ見テ。態ト馬ヲ一所ニ踊テハ。半町計ソ譎引ケル。兎角スル程ニ。福原間近成ヌ。時ニ小寺同音ニ唖ト喚キ取テ返シ。八方ニ分レ。鎗長刀ヲ馬ノ右背サキニ押カサシツキ蒐ヌ。福原カ郎從モ譜代相傳ノ者。殊更年來福原我ニ不劣力者二拾八人マテ近習ニ召集。常ハ力業相撲ヲ好ム彼等カ。今鐵棒手鉾大長刀ヲ以テ開テ馳來。敵ノ馬ノ平首請肢ヲ。當ル幸ニ伏々々走通ル。小寺カ騎馬ノ兵ハ敵進來レハ手綱攻繰カケ違。敵走通レハ又追テ行。縱横八面ニ切テ廻ルニ。面ヲ合

スル者ハ無シ。斯テ城中ヨリ我モ〻〻ト打出レハ。寄手モ爰彼所ヨリ蒐合。敵味方入亂。北エ追立レハ又南エ追返。西エ靡ト見レハ東エ崩レ。千騎カ一騎ニ成マテモ互ニ引ナト鬭合テ。戰防程ニ。兩陣ニ討ル者數ヲ不知。斯リシカ𪜈未勝負分タサル所ニ。竹中ト與桑名コヽヲハ打ステ。騎馬ノ兵十四五騎ニ弓鉄炮ノ足輕餘多連。城ノ大手橋爪エ馳寄爰ニ弓鉄炮ヲ張テ藤右馬允カ引歸ラハ打止メント手配シテ。騎馬ノ兵歩行ノ士ヲハ城内エ遣シ。出合者ヲ射伏突伏。或生捕シ。降參スル者ヲハ頓テ刀脇指捕上。斯コソ城内ヲ蒐討ヌ。竹中。桑名。英積。中桐等ハ大手橋ノ上ニ扣ケルカ。各鞍高ニ立上リ。聲々ニ呼張リケルハ城ヲハ竹中。桑名。英積。中桐等カ早乗取タリト。大音聲ニ訇テケル。藤右馬允遥ニ是ヲ聞。樊會（ハンカイ）ト勇ム心モ忽チ蹇（アシナエ）打太刀モ弱リ果。福原モ郎従モ城エ引歸事不叶。今ハ是マテトヤ思ヒケン。猶モ小寺ヲ目ニカケテ。大勢ノ中ヲ打破リ。打破テ切廻程ニ。福原カ頼切タル郎従殘少討レ。福原今ハ獨武者ト成分ニ敵ヲ茲テ防戰ケルカ。終ニ小寺カ手ニ鎗スソメニ成テ討レタリ。福原カ郎從ノ中ニ。依藤彌七郎。中吉新右衛門尉ト名乘テ。鉄棒ヲ杖ニ突。唯二人立雙テ敵ヲ欺キ呼カケテ暫休居タリケレ𪜈彼等ニ打居ラルヽ者幾等ト云其數不知。此故ニ敢テ近邊エ打寄敵無レハ。如何ニ人々今一度見參セントハ存スレ𪜈。冥途ニ趣ヲ我々カ罪ノ程モヲソロシケレハ。今ハ是マテニ候トテ。鉄棒ヲ投。槍其ニ刺違コソ死タリケレ。惜哉。勇哉。落ハ落得ツヘシト也。然レ𪜈此人々ニモ西播磨ニヲイテカクレ無レハ。名ニ代リタリシ命コソ惜ス人ハナカリケリ。搦手ヨリ蜂須賀。明石。樋口梶原等同時ニ搦手ノ木戸ヲ打破亂入。屋形ニ

入テ男子ト見エテハ幼マテ奪捕刺殺ス。爰ニ藤右馬允カ室ト見エテ。赤地ノ腹卷シ。長ナル髮ヲ押亂。白綾ノ鉢卷シテ長刀ヲ振テ出タリ。乳母ノ女房侍二三人。弓鎗長刀ヲ携。先ニ進ミテ局ニ打入ントスル敵七八人マテ射伏。突伏。薙倒間。寄手モ不叶シテ引退ケレハ。女姓ハ其間ニ颯ト引奥ノ間ニ入ケルカ。終ニハ皆自害シタリケル。誠ニ甲斐々々シキ有樣也。此外女姓少々見エシカモ。是ヲハ打捨外邊ニ出。大手ヨリ亂入タル寄手ト一所ニ成テ。屋形ノ前ニ人數ヲ集。同音ニ勝鬨ヲ上ル事三度シテ止スト言上ス。秀吉卿段々ニ次第ヲ聞召。不斜思召由仰ラレ。先使者ニハ當座ノ引出物ヲ給テ。暫城中ニ相同候エ。是ヨリ御下知有ヘシト仰テ。使ヲハ歸サレタリ。其後評議有テ福原カ城跡エハ。諸大將士足輕分出。桑名。樋口ニ與力手ノ者ヲ加エラレ。在番仰附ラレ。小寺。竹中。蜂須賀。明石。梶原。英積等ハ山脇御陣エ參レト軍使ヲ遣サレケレハ。其翌日ノ晝兵引連テ各山脇ノ御陣加ハリケル。

十一。霜月晦日上月ノ城攻之事

斯テ十一月廿八日ノ夜マテニ。上月ノ寄手討レ兵共ヲ日記スルニ。凡二千余人ト記セリ。其外足輕雜人等馬ナントノ。爰ヤ彼所ノ河原面ニ彌上ニ重伏有樣ハ。ムザント云モ餘アリ。其外殘ル者トテモ。明日ハ誰身ノ上無數ニ入ン事ヨト人々弱果進者モ無リケリ。實討レシ者所縁シタシキ父母ニ妻ヤ子ノ歎キ悲ム其愁押計テ哀也。城中ニハ此日マテ。宗徒ト聞シ人ハ一人モ不討。剩備前ノ宇喜多加勢メケレハ。城ニハ勇氣益盛ナラント。寄手ハ彌機疲レテ見エニケル。カヽル所ニ福原カ城落タリト聞エケレハ。上月表ノ寄手モ少シ色ヲ直ケル。去程ニ小寺。蜂須賀。梶原ハ秀吉卿ノ命ヲウケ

テ。上月ノ大手エ加リケレハ。明石。英積ハ國人猶加リテ。上月ノ搦手ニハセ加リヌ。加之國中ニモ味方ニ屬スル者アマリ多山脇エ參リケレハ。彼等皆上月攻衆ニ加リケル。此故ニ城ノ四方三里ノ間ニ居餘リテ。晝ハ旌旗ノ天ニヒルカヘリ。鎧ノ金物日光ニカヽヤキ。夜ハ通夜四方ノ篝火空ニ遷リ。山川部野ニ光リ夥シ。人ノ心ハ機ニ觸テ陣屋コトニ語リ合ルヲ聞ハ。哀レヤ此城モ幾ホトカ可怺。今參ノ人々ニ先蒐ナントハ不爲モノトテ。キノウマテモケフテモ城山ノ方ヲ見上テハ。恐怖者モ臂ヲ張ル族モ有。又カタハラニ寄合テ辭々此城ハ當國一ノ要害殊更譜代重恩ノ士𪜈カ。一萬餘栖籠。是等カ心ヲ合計畧ヲ宗徒トシテ。百ニ百度方便ヲ替テ戰ナラハ。其落城ノ斯ヲ不知。況ヤ我等カ露命ヲヤト。共ニ嘆息打噓キ。頂ヲ垂レテ眠ル形ニ打伏人モ多カリキ。加樣ニ取々

樣々ト人ノ心和セサレハ。陣中常ニ物騷敷ソ見エタリ。去レ𪜈諸大將會合シテ攻ニ如クハ有シトテ。霜月晦日大手搦手ノ寄手同時ニ川ヲ越。兩曲輪先二町間近仕寄竹把ヲ揲立。是ニ鉄炮ヲ伏置。北ノ方ハ猪ノ谷柵際マテ寄。爰ヨリ城ノ東北ノ矢倉指テ鉄炮打カケ事夥シ。南方ハ西荒神谷ハ大沼也。搦手出口坂下ヨリ。二町余リ隔。爰ヨリ下上月堀涯マテ竹把ヲ付テ。此陰ヨリ鉄炮ヲ打事太急也。猪ノ谷ヨリ此寄場マテ之攻衆ハ。皆今參リノ人々也。此人々ハ昨日ヨリ今朝ニ至マテ。攻口一番先エ寄ント議セシカ𪜈。谷堀尾木村ヲ始トシテ。殘ル武者ニ至マテ。始ヨリノ攻口ナレハトテ。曾テ是ヲ不用。口論ニ成ケルヲ漸ニシツメケル。此故ニヤ。本ノ攻衆曉天ヨリ軍ヲ發テ。大手搦手攻口エ一番ニ押寄。捕闉タリト也。加樣ニ寄手各鉄炮ヲ打懸ケレ𪜈。城其外所々ノ矢倉渡堀

マテハ。二町三町ヲ隔。上矢ナリケレハ。唯益無キ事ニ覺タリ。城中ヨリモ矢懸リ遠ケレハニヤ。鉄炮一ツモ不打靜リ返テ見ケレ𪜈。寄手モ流石ニ攻口近クハ不寄從二日暮レナントスルマヽニ。寄場ニ陣スル事モ夜討又ハ火矢ノ恐レ有リトテ。各攻口ヲ引退。川ヲ越。猶川心シテコソ陣シケレ。明レハ秀吉卿青野原山端ニ出勢在テ。諸大將ヲ召サレ。今ノ如ク遠攻計シテハ。何時攻落スヘキ。斯ヲ不知。其上夜前城ヨリ足輕ヲ出シ。附捨タル仕寄竹把ヲ悉ク燒タラハ。皆徒事成テ無念ノ事ナラン。今日ヨリシテハ攻口ヲ不引。晝夜番手ニ代リ。弓鉄炮ヲ張嚴攻ヘシ。番手代リノ次第鬮取サセテ日記ヲ定ラレタリ。其外大名大身ニハ。足輕人夫ヲ以テ。堀水ヲ切落シ。草ヲ入埋寄。調子合切岸ヨリ乘入ヘシト仰付ヲル。各承引。夫ヨリ番手ヲ手分シテ。晝夜ヲ代リ揉ニ揉テ

攻ルモ有。或ハ堀水ヲ切落シ。或ハ堀ノ前深田ヲ埋寄者モ有。何レ隙有モ見エサリケレ𪜈。攻口ヨリ打鉄炮ニテ城中ノ人ヲ破リタリ𪜈不見。結句城ヨリ高嶋カ下知ニ依テ。强手ノ手垂ニ鉄炮ヲ交エ。矢比ト思フ矢倉ノサマ。出塀ヨリ是ヲ射サセケル程ニ。此矢ニ中ル者大勢手負ト死人有ケレハ。攻口ノ寄手モ水切落者共モ。怺不得シテ皆竹把陰ニ逃入テ。今ハ成業モ無リケル。此故ニ其ヨリ後ハ田之邊。堀涯所々ニ竹把ヲ搩。仕寄ヲ附テソ埋寄ケル程ニ。堀ヨリ溝川餘多堀切堀水ノ落ケレ𪜈。元來城山ニ秘泉湧出テ。件ノ堀エ漏落處多ケレハ。堀水ヲ切落トモ何時竭ヘキトモ不見ケリ。剰堀水ヲ切落。溝川餘多堀切ケルニ。或ハ往來ノ煩。或堀寄田邊水潭所々大沼ノ如ク成レハ。埋ントスルモ墓々シカラス。斯テモ是ヲ軍役シテ埋ル程ニ。大勢ノ業ナレハ。柴薪材木土

俵砂石ナントヲ。若士ニ至マテ我モ々々ト持行埋寄ニ。又近郷ヨリハ人夫𪜈カ民屋マテ馬ニ附。負ツ荷ツ行大勢晝夜ヲ不分埋草ヲ以テ埋ケル程ニ。城ノ麓ノ深田モ悉埋タリ。堀ノ中ニハ其幅二拾余間計ニ三通マテ道ヲ埋ヨセ。向堀際マテ今二丈計ニ成ヌ。各勇ミ勵ヲ成シ埋寄事夥シ。實モ此道出來ランニハ。寄手悉堀ヲ越。假人之切岸高ク𪜈。終ニハ城エ乘入ントソ見エシ。城ヨリハ是ヲ守リ居タリケレ𪜈。矢懸遠ケレハ。此所エハ鉄炮一ツモ打懸ス。寄手ハ是ニ利ヲ得テ。士足輕人夫ヲ不論混亂シ。實ニ寒風高(サム)折柄ナレ𪜈。各汗水ニ成テ寄ケルハ。器量リ見エケル。斯テ一兩日過テ十二月二日晝程ニハ。西ノ堀涯今弓長計ニ成テケル。此時城中ヨリ時分能トヤ思ケン。隅矢倉出塀渡矢倉ノ矢狹間ヲ一度ニ押開。同時ニ鉄炮ヲ打懸タリ。寄手ノ奉行頭人。足輕人夫ニ至マテ。傳居タル事ナレハ。件鉄炮ニ打貫レ。將棊倒ノ如討レニケリ。タマノヽ造道ノ後ニ有ケル大勢ノ者ハ。是ニ驚惑。左右ノ堀エ押落サレ共。捲入彌上ニ重リ。水ニ溺ルヽ者其數ヲ不知。實ニ紅蓮(グレン)大紅蓮(グレン)ノ地獄ニ落入罪人成𪜈是ニハ爭可勝。又東ノ堀端ニ集居タル寄手モ。此騷動ニ躁立共ニ押合揉合。所々城ヨリ鉄炮打カケ。遠矢ヲ射カケルニ。是ニ中リ或迯惑。彼所爰ノ溝川エ捲入落重ル者ハ幾等トカ云ハン。適遁得タル者モ。爰彼所ニ倒顛半死半生ノ者夥シ。漸川ヲ渉リケレハ。日既ニ昏實ニ城ヨリ打出ルト迯迷フ野分ハ前代未聞ノ事共ナリ。

十二。臘月四日城ヨリ打出之事 將棊倒前代未聞此本ノ要語カ。

斯テ昨日ハ。寄手堀ノ造道ニテ大勢討レ。殘少ク成テ引退ハ。今日ハ城ノ麓堀ノ邊ニハ附寄タル仕寄竹把ノ押倒タル計リ。扨ハ堀ノ上造道ニ寄手ノ死骸計也。唯攻口ノ寄場ニハ。今モ

怺テ鉄炮打事不怠。去レ𪜈馬出門出塀ノ邊ニハ。竹把ヲ楪ニユタリ。殊ニ堀ヲ隔ツレハ。件ノ竹把ヲ越揚矢ノ。城内ニ落テ人ヲ破ル𪜈不見。城ヨリ打出鉄炮ニテ。寄手ハ手負死人多ケレハ。今日ハ皆攻口ヲ引退。河原ニ陣シタリ。折コソ有レ降タル雨霙交テ。山嵐猶モ烈ク吹ケレハ。寄手ノ惣軍肌ヲ割如ニテ。手足スクミテ不働。刀柄握リ不得。弓絃ヲ分ルニ難ケレハ。今モ敵ノ打出ハ犬死セン事コソ無念ナレ。三日三夜降雨ニ檜ヤ柏ノ柴タキヽ絞ル計ニ濕ヌレテ。糧ヲタニ炊不得。増テ焼火篝伐クヘテアタル便無ケレハ。鎧ノ袖膚マテ沍ト凝ル計ナリ。斯テ同三日子ノ刻計ノ事成ニ。城中ヨリ夜討打出タリ。大手一番ニ川嶋三郎次郎。舎弟杢太輔。高嶋七郎兵衛尉。檜原。高野。桑波。片嶋。瀬川相交足軽五拾人先立。次ニ弓ノ士ハ拾余人。其次ニ鎗長刀ヲ携エタル兵。將ノ前ニ進テ大手ノ橋ヲ出。眞向二町余リ忍ヒ出。足軽兵ヲ伏タリ。二番ニ宇喜多ノ一族本間。小馬。下河原。三村。馬淵相交リ。足軽三拾人。弓鎗長刀ノ士段々ニ立テ。橋ヨリ左リ柵ニ添テ。二町余ニ止テ披伏タリ。三番ニハ太田民部少輔兄弟。小林兄弟。別所左門相交。足軽五拾人。弓鎗長刀法ノ如ニ立。橋ヨリ右三町計出。惣勢ヲ伏タリ。斯テ搦手ヨリ出勢調ラント思比。太田カ手ヨリ太鞁ヲ打ケレハ。大手ノ矢倉ニ是ヲ受。太鞁ヲ打程ニ。城中城外大手搦手同音ニ鬨ヲ上タリ。夜ノ事ナレハ。山川郭野ニヒヽキワタリテ夥シ。寄手ノ小屋ニハ思ヒヨラス。寝タルヤ晩驚。或心配サハキ。己カ大刀刀ヲ取ヤ不捕揉合所エ。夜討ノ足軽寄手ノ小屋々々ノ前エ走リ寄。竹把ヲ押破込入。件ノ寄手ノ中エ鉄炮ヲ打カケル。是ニ中リタル者幾等トソカ云ン。偏ニ將棊倒ノコトク打倒ル。川端近ク陣シタ

ルハ。皆河ヱ迯入。水ニ溺ル者夥シ。夜討ノ足輕兼テ下知ノ如ク。半ハ敵ニ追筋違フテ川端ヱ走出。東河原ニ陣シタル敵ノ俄起惑テ。躁合所ヱ鉄炮ヲ打カケタリ。斯テ城ノ矢倉ヨリ鐘ノ鳴事頻也。夜討ノ人々ハ是ヲ相圖ニシ。足輕ヲ段々ニ引セ。城ヱ引籠。橋ノ中ノ間板引退(同カ)楯籠ル。搦手ヨリ打出タル眞嶋。浦上。頓宮父子。鵜野。長管。國府寺。廣戸。丸山。山端。岡田。大谷等敵ヲ追討シテ。下上月マテ追行處ニ。城ヨリ相圖ノ鐘鳴シケレハ。亂タル足輕兵ヲ集メ。岡田大谷兩人手勢引分殿テ搦手ヱ引退。坂上木戸ヲ閉テ引籠ケレハ。東方天明トシテ夜漸明タリ。斯テ城ノ陣屋ニ殘ル者トテハ。ツナキ捨タル馬。倚ハ旌旗ノ地ニ倒レ蹈破タル幕ナトノ野分ノ風ニ吹上タルハ。人在顔ニ思レテ。敵カト怪懼旗マテ希代ノ様ト可謂。斯ル所ニ城中ニハ若士共寄合テ。寄手ノ小屋々々ヲ渡去來サセ。人々一揆シテ敵ノ捨置ル幡幕共ヲ取テ。追手搦手出塀ニ張置ヘシ。是ソ楠正成金剛山ニテ名護屋カ陣ニ夜討シテ。幕ヲ取。城ノ大手ニ張置シニ等カルヘシト。早打出ントヒシメキケル。高嶋是ヲ聞付テ。矢倉ヨリ走下リ人々制シケル。如何今打出給ントヤ。先各ニ三ノ非法有。其一ニハ白晝大勢ナラハ敵附幕ニ引入難シ。又小勢ナラハ皆以テ討ルヽヘシ。二ニハ夜討出タル時。敵敗セハ楚忽ニ捕歸ンハ格別也。是ハ唯敵ノ捨タル今新ニ取出給ン非法ニ。三ニハ正成時代ト。合戰其シナ大ニ替レリ。今時鉄炮有レハ聊爾ニハ出カタシ。但鉄炮ニ二ノ品有。是得失ナリト制シケレハ。皆信服シテ止ケルトカヤ。

十三。寄手猪ノ谷陥城ヱ鉄炮打懸之事

去程ニ。寄手毎度大勢討シ殘兵共モ氣ツカレ。身躰勞役シテ進者無ケレハ。諸大將モ彌セン

カタ死。退屈シテ見エタリ。爰ニ谷大膳ハ手者少々召倶シテ。山脇ノ御陣エ參リ。淺野。宮部。竹中ニ參會シテ。コノ間方便モノ徒ニ成ノミ成ラス。味方大勢滅タリ。誠ニ不便ニモ口惜モ存候エ。彼城名譽ノ要害。五千ニ余ル兵。殊ニ籠城ニ狎タル者モカ死シ一ヅニ思ヒ切。種々方便ヲ廻セリ。如此數代相傳ノ兵楯籠ヲ對タリ取集勢ヲ以テ攻給ンヤ。兵法ニ可攻所ヲハ攻メ可退所ヲ退キ。可降處ヲ見降之。攻ニハ天ノ時ハ與地利難哉。是今天ノ時ト地ノ利人ノ和ヲ考思ニ。皆以テ味方ノ爲ニ凶事也。旁以唯一端引セ給テ。後日ノ謀ヲ御覽候エカシト存ル故ニ。只今參リ候。谷如何ニト申ケル。淺野。宮部。糟谷。竹中聞テ。我々モ内々左樣ニ申ツレモ。御承引無。然レトモ人ノ爲テ候程ニ。今一同ニ可上トテ。頓テ谷カ參ル由申ケル。谷諸共ニ出ヘシトテ。各罷出タリ。谷ハ心中ニ思所ヲ憚無ク申テ。上月カ押トシテ糟谷谷兩人相殘候ヘシ。其外ハ皆倶セラレテ。一途引給エト。恐ル眼ニ涙ヲ浮テ申ケル。秀吉卿聞召仰ケルハ。中所モ其謂有。乍去先ノ日モ二人エ云如ク。谷能ク聞給エ。今爰ヲ退モノナラハ。國中ニテ味方屬セン輩モ必定逆心スヘシ。然ラハ遠境ノ敵猪(マヽ)宥テ中國退治難儀成ヘシ。我倩是ヲ思フニ縱城中強モ籠鳥ナレハ恐ルニ不足處也。見ヨ々々頓テ玉薬矢種糧モ竭ナン。然ルヲ今引退物ナラハ。城ニハ運逆開ケテ味方ハ機ヲ失フヘシ。兎角不叶ハ我爰ニテ命ヲ損スヘシ。唯幾度モ攻口ニ仕寄ヲ丈夫ニ附テ。晝夜鉄炮ニテ打閉ヘシ。終ニハ城中精疲ヘシ。縱城中ヨリ火矢ヲ射懸ルモ。一端ハ引。又寄手是ヲ攻サセヨ。過ツル夜攻口ヲ退シ故ニ。城兵夜雨ニハ出ツレ。返々モ間斷無弓鉄炮ヲ打カケハ。城兵打テ出難シ。思子細有レハ堀尾ニ參レト仰ケレ

ハ。頓テ彌兵衞カ許ヨリ堀尾カ方ヱ使ヲ立タリ。谷モ堀尾カ參ラン程相待ヘシト仰有テ。奥エ入セ給フ。暫有テ吉晴二位山ノ陣ヨリ來リケレハ。淺野對面シテ。頓テ斯ト申上レハ。秀吉卿出サセ給ヒ。思所有ハ。谷ト堀尾兩人ハ與力足輕ヲ俱シテ。上月城ノ北ノ山ヨリ鉄炮ヲ打セ。與力手ノ者ヲハ城ノ後ヱ夜々出シ置ヘシ。彼方ハ節所ナレハ今手配セス。城中疲ニ及。嚴ク攻ハ忍落ヘシ。左モアラハ討止生捕ニモセヨ。兵糧運送等モ此方ヨリ相計ヘシ。旁以夜廻懈事ナカレ。大手搦手ヨリ形ノコトク攻サスヘシト。專ト高聲ニ宣ケレハ。兩人ハ御請シテ退出ス。次ノ間ニテ淺野谷ヱ申ケレハ。嗚呼命ナルカナ。唯不如戰。眉ヲ顰ケレハ。谷聞テ。元來生死ヲ共ニセハ悔ハ非シト。苦笑テ歸ニキ。是ヲ聞末々ノ者マテ一端引給ニヤノ頼モ切レ。共ニ骸ヲ曝ス事ヲ嘆息セリ。斯テ谷。

堀尾ハ二位山ニカエリ。與力手者足輕ヲ引連。十二月六日ノ晝大平山ノ北ノ山ヱ陣具ト糧ヲ持セ。總軍ニ引分テソ寄タリケル。所柄トテ極寒甚ク。山下風ニ吹來風霜雪ニ可厭便リ無ケレハ敵ニ逢ヌ隙ハ無レ𪜈。將モ士卒モ諸トモニ安キ心ハ無リケリ。サレハ谷。堀尾カ陣ヨリ城中所々ノ矢倉出塀マテハ近ク𪜈。二町余リ三町ヲ隔。此間ハ猪ノ谷トテ極テ深キ所也。城ノ所々塀ノ上ニハ竹把操谷。堀尾カ陣ヨリ始ノ程ハ鉄炮嚴ク打懸ケレ𪜈。上矢ナレハ縱ヒ城中ヱ落𪜈人ヲ破ラントハ見エス。殘兵𪜈ハ谷間ノ所々ニ行渡。漸テヤ落ルト夜ハ通宵待明ヌ。谷間ノ寒氣烈ケレハ。篝火ヲ燒連タリ。城ヨリ是ヲ見テ。鉄炮ヲ打カケ矢ヲ放ツ程ニ。下矢ナレハ出張ノ者共是ニ中リ手負死人多ケレハ。谷間ヲ守ル番手ノ者怺兼遂ニコソ引退。所々ニ役所ヲ搆エ。雨露霜雪ヲ凌ク方便

ノ外ハ更ニ無シ。大手搦手ノ攻口ヨリ。諸將交々ニ鉄炮ヲ打セ。晝夜怠リ無ケレ𪜈。爰モ矢カヽリ遠ケレハ。詮方無メ見タリケル。下矢火矢ニ手懲シテ。橋ノ柵涯マテハ寄サリキ。斯テハ又何時可攻落ヤウ有ト。諸將寄合評議シテ。追手ハ橋近ク。搦手ハ土橋柵際。或ハ堀ノ造道エ竹把ヲ衾寄。此陰ヨリ鉄炮ヲ打セタリ。寄手勝ニ乘リ。二位山青野原ニ扣タル惣軍我不劣ト攻寄ケレハ。城ノ麓ニ雲霞ノ如ク指傳サレ𪜈。城ニハ鎮リ反テ音モセス。同キ十二月七日ノ晝程ニ。城ヨリ矢比ヤ能ト思ケン。指矢遠矢ヲ射カケタリ。此矢不誤寄手ノ仕寄ニ中リ。或ハ竹把ノ陰ニヒカエタル兵ノ鎧甲ヲ透シ飛ニ及フ者多ケレハ。敢テ寄場ニ溜リ不得。村々發ト引退キ。仕寄竹把押倒テ。今ハ寄手一人モ無リケル。件矢ニ中リ死ケル者ノ矢ヲ後ニ見レハ皆羽中ニ假名實名漆ヲ以書付ケル。其中ニ殊ニ多ハ佐用新次郎直政。早瀬權太郎正繼。川嶋三郎次郎頼村。同樽丸頼春。同李太輔義行。丸山八助吉成。柏原主馬助利明。鵜野庄高吉之。廣戸五郎左衛門尉隆代。高嶋七郎兵衛尉俱春。長谷彌三左衛門尉遠光。小林左衛門尉頼信。鷹峯源八郎友治。佐用三郎政茂。上月權正恒織。高嶋小七郎正侶小寺四郎兵衛尉隆遠。中村猪之助光易。太田美作太郎滿義。横山藤左衛門尉義祐ナトヽ書付有矢𪜈ノ。竹把裏板ヲ射抜。其陰ニ扣タル兵ノ甲冑ヲ裏掻マテニ通サレテ。算ヲ亂テ伏ケレハ。荒膨弓勢ヤ。誰ヤ又此矢先ニカヽラン事ノ恐シサヨトテ。我先ニト崩引。明日ノ晩景マテ寄手敢テ寄サリキ。小林宇右衛門。高嶋エ中ケルハ。寄手今日ハ手懲シテ。寄來𪜈不見候。攻口ニハ仕寄竹把揲立タリ。斯テハ打出ヘキ樣モ不候。蒸攻セラレンヨリ附捨タル仕寄竹把ヲ差テ。火矢ヲ射カ

ケ燒拂。道ヲ開テ後。間能ハ打出。手痛蒐立候
ハヽ。近鄕ヲ追拂申サント申ケル。正澄聞テ仰
最ニ候。乍去斯テヽ敵モ居候マシ。一兩日モ過
行ハ。捨置タル仕寄竹把ヲ便トシテ寄來ナン。
其時火矢ヲモ射給ハ仕寄竹把而已ナラス。打
集タル敵(マヽ)𪜈ノ多ク滅候ハン。唯道開ント計ニ
ハ。矢ノノク又兵衞モ度々ニハ不爲事ニコソ
ト制シケレハ。小林モ最也トテサテ止ヌ。明レ
ハ十二月八日巳ノ刻ニ。二位山靑野原ノ前成
河原ヱ敵コソ大勢打出タル。皆一枚楯ヲ突連
テ。川渉事雲霞ノ如。頓テ件ノ仕寄竹把陰ニ集
リ居テ。鉄炮ヲ打カケル事夥シ。城兵所々ノ持
口ヲ固メテ居タリケル時ニ。川嶋義行ハ高嶋
エ申ケルハ。實播磨ニ軍始テヨリ以來。寄手數
ヲ盡シテ討レタリト覺ユレハ。玉藥矢種モ有
シト思ヒツルニ。猶今日ノ寄手大勢成シ事ヨ。
乍去何拾万人寄タリ𪜈。何程ノ事カ有ント歟(マヽ)

ク城中ノ人々ノ巧ノ程コソ恐怖シケレ。高嶋
聞テ。誠ニサモ候。戰フトナラハ縱敵十倍二十
倍タリ𪜈。謀ヲ以テセハ味方ノ人々不覺ハ仕
給シ。サレハ城ヲ攻ニ堅固ノ地ニ然モ勇將籠
リ謀ヲ以テ防ンヲハ。寄攻ニハ永陣ヲ好テ城
兵ヲ屈スカ。今寄手此法ニ反シテ。頃日ハ意ヲ
永(マヽ)テ推攻スル事ヨ。又籠城シツレハ勝負ヲ急
ニ決セヨト也。此ハ是籠兵ハ終ノ疲ヲ思慮ス
ルカ故也。各其心得有テ。然シテ進退ヲ節度ニ
任給ヱト申サレケレハ。各信服セリ。今日モ
城ヨリ撰打スル鉄炮ニ中テ。寄手餘多討レケ
ル。其郎從所緣者𪜈ノ手負死人ヲ肩ニ掛。陣屋
遙ニ引退程ニ。専寄場ハ騷動セリ(マヽ)。斯テハ悚難
トテ。又散亂シテ引ケルカ。後ユカハ是ニ入替
リ。埋殘ツル堀ノ中成三筋マテノ造道運寄テ。
恰似驛路ノ如ナレハ。堀ノ上ヲハ容易越ヌ。去
レ𪜈堀ト切岸トノ間モ又深田有テ。往來自由

ナラストテ爰又コソリ埋タリキ。實ニ此所モ埋タリセハ。如何ニ切岸高クトモ。乘入事ハ易カリナント。汗水ニ成テ埋タリケル。斯テモ城中ニハ矢ノ一筋ヲモ不射出。鉄炮一ツモ打サレハ寄手勝ニ乘テ仕寄。竹把ヲ押立々々埋ケル程ニ。頓テ切岸近ク埋寄タリ。去レ𪜈岸上高キ事ハ。凡五六丈、或拾余丈モ見上タル。眞篦嶽ト云ノ大嶽成レハ。城中ニハ少モ不騷扣タリ。寄手是ヨリ切岸下ヲ追手搦手ノ木戸口エ直ニ廻リケルニ。東ノニハ堀有。兩切岸堀エナタレテ道モ無ケレハ。大勢爰ニ指傳。只茫然ト扣タリ。此時大手ノ隅矢倉出塀ヨリ。矢ヲ射カケ。鉄炮ヲ打カケルニ。寄手大勢討レ。殘黨等一捲ニナリテ矢比遠引退。南方ハ谷間ノ矢倉出塀ヨリ弓鉄炮ヲ打カケル程ニ。大勢爰ニテ討レ。或堀ヘ捲レ落。或所々ニ押倒サレ。彌上ニ重伏。殘黨等ハ爲方無日モ暮近ク成ケレハ。皆造道ヲ經テ又本ノ陣々エ引退。此方ノ苦勞シタル事モ徒ニ成。淺マシサヨト皆先非ヲ悔計也。

十四。寄手以梯所々切岸エ登之事

同十二月九日。寄手又雲霞如押寄。兩曲輪先エ充滿シ。鉄炮ヲ打カケ扣タリ。切岸ノ方エハ兼テ支度シテツギ梯幾等モ持來。眞篦嶽所々ノ切岸ニ倒カケ。是ニ捕登リ。アタカモ連珠ノ如クサシモケンソノ嶽トハ見ケレ共。唯今ノ程ニ乘入ントソ見エタリケル。去レ𪜈件ノツギハシゴノ上今二丈計見上タリ。兼テ用意シテ熊手打鉤ヲ手々ノ上帶ニ指ケレハ。先達是ヲ拔出切岸ニ打立。是ニ便登ントスル。去レ𪜈此所皆岩ヲナメラカニシテ。熊手モ打鉤モハ子反テ。不溜得。或又濕氣土熟テ地ヲ穿テ便リ無。志ハ節ナレ𪜈打鉤熊手モ用ナラズ。進退失度ヲ大勢爰ニ身悶スル程ニ。件ノカケハン繞々ニ颯灑リ。實ニ余所ノ見ルサエ氣モタマシ

ヒモ消ル計。況階ニ乗タル心ノ中推圖テ。唯靜ニヲリヨ〳〵ト後陣ヨリ聲々ニ呼張。手足ヲナヤシテ走惑。城ニハ是ヲ見テ相圖ヤ有ケン。貝鐘太鞁ヲ打。同音ニ鬨ヲ上。敵附タル嶽ノ上ヨリ釣置石弓切放ケリ。加之出塀渡塀ノ上ヨリ大木ノ一咫計成ヲ數十本落カケタリケルニ。件ノ梯ニ登タル者共ノ上ニ。落カヽル程ニ。石材木梯人諸共ニ。一度ニ捲レ岸ノ下エ鳴渡リ落ケルハ。前代未聞ノ事𪜈也。元來岸ノ下ニモ大勢込合押合居タリケルカ。上ヨリ落懸共ニ倒レ。彌上ニ重テ死ヲ致ス者共數ヲ不知。大手搦手門矢倉隅矢倉ヨリ同時ニ火矢ヲ射カケケレハ。攻口ノ寄手ノ仕寄竹把ニ火燃附一度ニ燒上ル程ニ。寄手ノ躁動不斜混亂ス。九所ノ城ヨリ鉄炮ヲ打カケ。指矢ヲ射出ケル。或是ニ中リ。或共ニ押倒。彌上ニ倒重死ヲ致ス者夥シ。城ニハ鬨ヲ上ル事三度ニシテ打テモ出ス。其

後ハ靜返リ音モ不爲。兎角スレハ日ハ早暮ヌ。宵間ノ月ヲ幸ニ寄手ノ殘黨等東河原ニ引退シ爲躰。口惜カリシ有樣也。今日秀吉卿モ青野原ノ西尾崎ヘ出勢有テ。陣ヲ備テ御座ケルカ。寄場ノ敗軍ヲ御ランシテ。齒咬ヲナシモタエ給フ。味方ハ算ヲ亂テ崩レ來。仕寄竹把ハ燒散ス。入代ルニ益無ケレハ先川端エ兵ヲ出シ。城ヨリ追出ハ川ヲ渡リ。敵ノ横合エ蒐入ント下知シテ御座ケル。去レ𪜈城ヨリ打モ不出ハ。味方ノ諸大將ノ許エ軍使ヲ遣シ。敗軍ノ兵ヲ集メテ陣ヲ張セカケル。費ニ乗テ城兵夜討ニ出ル事モ有ラントテ。桑名。樋口。中條此三人ヲ加勢セヨトテ殘サレ。秀吉卿ハ山脇エ歸給ヒ。斯テ桑名。樋口。中條ハ足輕手ノ者引連テ。青野原ノ前成川瀬ノ此方之河原三所ニ出張シテ。態ト篝ヲモ不燒。鳴ヲシツメテヨモスカラ討ヤ寄スルト待ケレ𪜈。城兵モ出サレハ。ホノ

〱明ニハ各足輕ヲ引連テ。河原形見山ノ東尾崎ニ打集タル寄手𪜈。夜更儘ノ山下風川風強ク吹ケレハ。ハタエヲサキヌ計ニ。ヒエコヽエテ寢レヌ儘ニ。昔滅シ者ヲ算ニ暇ナケレハ。哀レカヽル時節ニ逢フヲ嘆キ侘。友トチ語リ悄嘆ケレハ。此城ノ有様ヲ思フニ。昔楠正成千劒ノ城ニ籠ケルヲ。諸國ノ武士百萬ノ兵ヲ以テ三月ニ余リ攻ケレ𪜈。城強ケレハ寄手ハ日々夜々ニ滅ヒ。不叶シテ終ニ退散セシト聞。又赤松入道ハアレニ見エタル白幡山ノ城ニ籠。三千ノ兵ヲ以テ新田義貞六万余騎ニテ晝夜ヲ不分五拾余日攻ケレ𪜈。城兵ハ一人モ不討手モ不負防戰ニ。寄手ハ日々夜々ニ討レ疵ヲ蒙者多ケレハ。攻ニ不叶終ニ退トカヤ。今此城ノ爲躰。彼千劒。白幡山ニ可劣哉。然レ𪜈又其圓心ト今ノ城主近流ノ一族也。郎從猶譜代相傳ニテ。兵法ノ術其規不去程ニ。今ノ分ニテハ味方假令百倍シテ攻ル𪜈落間敷カリケル者ヲト。谷。堀尾カ申セシ如ク可攻所ヲ攻。可退所ヲ見テ退。是良將トハ云ソ。其計畧ハ楠ト與義貞。圓心今上月臨機應變ニシ節ニ當ルカナ。我黨ノ將テ如何。嗚乎嗚乎。今歳如何ナル年ソヤ。秋牟ハ始ヨリ臘月ノ今ニ至リ。命ヲヲトス兵ヲカソフルニ。凡三千ニ及ヘリ。其外痛手負テ鄕ニ歸ル兵ハ數ヲシラズ。又足カル雜人等カ盡ナク死ヲイタスモ計ルニ不暇。所以蒼々タル衆民誰无父母。提携捧負ヲ畏ル不壽ヲ。誰无兄弟。如手如足。誰无夫婦。如賓如友。生也何ノ恩ソ。殺之何咎。其存其沒。家莫シ聞知。人モ或ハ有言。將ニ信セントシ將ニ疑ハントス。憂思心目寤寐見之。噫噫時耶命耶。從古如斯。爲之ヲ奈何。云云。斯ル古語ヲモ年來ハ余所ニノミ聞シ物ヲ。今身ノ上ニ成シ事ヨト嘆息呷合リ。其明日秀吉卿青野原エ出勢有テ。諸大將ヲ召レ。每度味

方ノ利ヲ失フ事。予カ瑕瑾ト思フ故ニ。死ヲ共ニストモ。當所ヲ引マシキト思極タリ。サリナカラ。今ハ士卒モ疲レタルラン。サアラハ一タン引退。後日ノ變ニ可任。然レ𪜈軍勢悉引ハ。宇喜多毛利等ニ押逢テ。當城退治重テ乎。只諸大將ノ中二三人ヲノコシヲキ。此城ヲ守ヘシ。先足輕人夫ヲ以テ曲輪先兩口一町計此方ヲ堀切セ。上土ヲ以テ此方ニ堤ノ上ニ竹把ヲトリ。コレニ鉄ハウヲ置。晝夜ヲ番手ニ交リ守ラスヘシ。斯シテ城ヨリ漏レ出サル樣ニ打閉ヘシ。其堀堤ノ出來時當所ニ殘シ止ムヘキ者ヲハ可申附。其マテハ我モ爰ニ居テ。倶ニ普請ヲ急クヘシ。各情ヲ書ヘシ。ソレ〳〵是ハ當座ノ引出物ヨ。寒風ヲモ防タヨリニセヨトテ。紙子ノ綿フクレタルニ。金子拾兩米百俵宛諸大將ヘ御手自賜ヒケリ。其外樣ノ面々ヘハ。淺野カ前ニ目錄ヲ積重。五人十人ツヽ呼出。足輕雜人原

ニ至マテ。應々ニコレヲ賜ケレハ。上下アケテ有難シト退出シ。陣々ノ賑勇進ム事不斜。實ニ宜キ謀ソト聞ケル。去レハ昨日マテモ今日マテモ君ヲモ恨ミ。身ヲカコチ打萎タル軍勢等。今ハ如何ナル鬼ニモ神ニモ出アヘトテ。血氣ツヨクナリニケル。所以昔一日ノ恩ニ感メ我百歳ノ命ヲ報ストハ。今コソ思ヒ知レタリ。斯テ谷大膳。堀尾茂助兩人ニハ。此間ハ溪ヨ峯ヨト苦勞セリ。彼ノ溪ケンナンナレハ。此口ヽハ沒落事有マシケレ𪜈。手配無クテモ叶マシ唯兩人ニハ前ノ寄場ヘカエリ候ヘ。手ノ者一兩人ツヽノコシ。彼ノ足輕ヲ呼晝ハ遠見ニ守セ。夜ハ所々エ手配シテ。城ノ後ヲ守スヘシトヲヽセケレハ。兩人御請ヲ申。溪間ヘハ久德。小嶋。懸樋。藤岡ニ弓鉄炮ノ足輕六拾人計指ソエ遣ス。彼等同キ晩景ニ。又以前ノ谷間ヘ打越。シロノ後西方ノ谷口ニ手分メ。切木ヲ

寄。溪間五拾余間ニ柵ヲ結。柵ノ外ナル山陰ノ兩口ニ陣屋ヲ懸。夜ハ終夜猪ノ谷ヨリ兩大嶽ノ麓。沼ノ外邊ヲ廻リケル。堀尾茂助ト山中鹿之助ヲモ搦手ヘ加ラレ。普請ヲ可ㇾ急由被仰附ケリ。角テ秀吉ハ其日ノ晩景ニ山脇ノ御陣エ歸給キ。

十五。十二月十日城ヨリ夜討之事

角テ城中ニハ諸大將出合テ。昨日寄手大勢討レ。敗軍セシカハ。今日ハ去リトモ人種モ有シ。縱城外ニハ足ヲハ留マシト思ツルニ。案ノ外ニ遠引モセス。結句大勢徘徊シテ欺ク躰ニ見エタリ。何樣臆病神ハ醒マシケレハ。今夜討ヲ催シ。打散シ去ホトナラハ秀吉當所ニハ四極不ㇾ怺ト思也。是ヲ其儘指置モノナラハ。前ノコトク。兩曲輪指塞カレ。籠鳥ノ思ヲセンモ可ㇾ口惜。各是ニ一決シテ。相圖ヲ定メ刻限ヲ待居タリ。寄手ノ陣ニハ皆川ヨリメ東河原尾崎々々ニ陣シタリ。今朝巳ノ刻計ヨリ大勢打集リ。何トハ不知走廻リ。呼張冒腹(ヨハハリノヽシリ)指傳程ニ。城ニハ是ヲ見テ。今日モ亦攻寄ス度々ノ軍ニ。手並ハ知ラン不敵サヨ。先々持口エ出合ヘシトテ。指圖居タリケルカ。日暮ケレトモ攻ル躰モ無ク。黄昏比ヨリ陣々篝火燒事例ヨリモ夥ケレハ。夜攻スル支度ニヤト。城ニモ矢倉。出塀ノ挾間ヨリ遠見ヲ附置ヌ。斯テ宵ノ程コソアレ。夜更ルマヽニ寄手ノ陣屋ノ篝火ハ。次第々々ニ消果。子ノ刻計ニハ敵ノ篝火一所モ無シ。扨忍寄スルヤト待ケレトモ。左モ非ス。高嶋ハ同姓小七郎ニ云ケルハ。敵ノ陣屋ハ躁ク躰モ不ㇾ見ヨナ。大凡陣屋ノ篝火ヤ相圖火ヲ舉事。敵モ味方モ大事ノ心得有。然ルニ今度寄手熊見川ノ川端ヨリ篝火ヲ燒始。今夜ニ至マテ法ニ違フソヤ。是將ノ誤也。所ハ山谷川近ケレハ。唯寒氣ヲ凌ク爲計ニ。雜人原カ松柏柴薪ナ

ントヲ折捕。燒アタルニ絶間ハ敵ノ窺便ヲ不辨。燒捨寨タル計也。然モ將タラン人ハ其法知タキ事ニコソアレ。將知之我等ニ斯ハ隙ヲ窺マシキ物ヲ。是等ノ業計ニテモ寄手ノ者ハ人々ニ欺レケルソヤ。軍ハ我身獨ノ大事ソト名將ノ戒置レタリ。士卒ヲ無益死ヲ致セン事。將ノ大ナル罪。末代耻辱ナリト申サレケレハ。正侶信服シテソ候ヒケル。斯テ鷄鳴ニモ近ケレハ。夜討人々時分ハ能ト 打立ケル。大手眞先ハ別所左門。小林字右衛門尉 大谷新左衛門尉。一手ニ成テ足輕二拾人先立。橋ヲ出左リエ微反川端エ 忍ヒ伏タリ。其次ハ弓鎗長刀ノ兵三所ニ分レ。將ノ前ニ扣タリ。二番ニ宇喜多掃部助廣維ニ本間小馬。下河原相隨。足輕拾五人ヲ先立。橋眞向川端エ忍ヒ二手ニ分テ伏タリ。次ニ弓ノ士鎗長刀士將ノ前ニ進ミ。忍出タリ。三番ニ 小寺庄之助。川嶋三郎次郎。衣笠虎松

一手ニ成リ。足輕二拾人弓鎗長刀ノ兵法ノ知立橋ノ右エ微反河原ニ位山ノ前瀬頭ニ披伏テ。相圖ヲ待テ扣タリ。搦手一番ニハ早瀬權太郎。横山藤左衛門尉 丸山八助一手ニ成リ。足輕二拾人先立。次ハ弓鎗長刀ノ兵 土橋坂下ヨリ左エ二町余リ出。形見山ノ尾崎ニ 扣タル敵ニ中ラント。足輕兵ヲ伏テ相圖ヲ待。二番ニ鵜野彌太郎。浦上七郎兵衛尉。頓宮又兵衛尉。同子息新八郎一手ニ成。足輕二拾人。弓鎗長刀ノ兵ヲ先立。坂ノ下ヨリ左エ二町余リ出。形見山ノ西尾崎ニ 扣タル敵ニ當ラント。各兵ヲ伏シテ相圖ヲ待テ居タリ。二番ニ林ノ一黨一手ニ成。足輕二拾人弓鎗長刀ノ兵法ノ如先立。坂ノ下ヨリ眞先一町余リ微反。形見山ノ尾崎ノ敵ニ中ラント。二町余リ忍出相圖ヲ待ツ。大手ノ櫓ニハ。赤松政範正澄相圖ヲ計ヲハシケレハ。搦手ニハ舍弟正直。叔父正義相圖ヲ受テ扣

タリ。去程ニ大手搦手ヨリノ出勢相調ヲ見テ。政範正澄太鼓ヲ二三度打セケレハ。搦手ニモ是ヲ受テ太鼓ヲ打ト等ク。城中ニ出勢モ同音ニ閧ヲ揚。貝鐘鳴シケル。夜ノ事ニテハ有。山川部野ニヒヾキ渡リ夥シ。寄手ノ陣々ニハ今夜モ油斷シテ寢タリケレハ。件閧ニ驚キ。例之如ク上ヲ下エト採合所ヲ。大手出勢三所ニ川瀨ヲ涉リ。敵ノ小屋々々間近走寛テ鉄炮ヲ打。矢ヲ射カケケレハ是ニ中リ彌上ニ倒重者數ヲ不知。矢ヲ放チ鉄炮ヲ打事三四度定ケレハ。各打拂テハ後エ引退是ニ入代ラント鎗長刀ノ兵等先ノ弓ノ士ニ入代追討セント進ケルヲ。宇喜多制シ止ケルハ敵ハ大ニ敗セリ。暗夜ト云ヒ地形惡ケレハ。追討スル事有マシト。殘ル諸大將遂エモ使ヲ立ラレテ。先ツ一番ニ宇喜多川端エ退ケレハ。諸大將モ是マテニテ。各川端エ引集リケル所ニ。城ノ大手搦手ノ櫓ニ鐘ヲ鳴シケルハ。夜討ノ出勢皆敵ヲ追捨。段々ニ引退ニ。足輕ヲ殿ニ立。敵附慕フ事有ハ打拂ト。靜ニコソハ引退。懸ル所ニ大手青野原ノ尾崎ニ陣シタル小寺。梶原ト二位山ニ陣シタル蜂須賀。山口等ハ兼約ヲ成シ。城ヨリ夜討ス間。必出合セシト與力手之者足輕ナントニ。是ヲ云合。近日何ト無ク各陣屋ヲ替テ候キ。此故ニ今夜々討ノ難ヲノガレタリ。去程ニ夜討有テ。其騷動夥シケレハ。去レハコソトテ手者與力足輕マテニ出合ヘシト催促ス。然レ𪜈闇夜殊ニ篝火モ無キ小屋ノ中ニ込合タル軍勢等カ。夜討有ト聞テ。我小屋成ト思ヒ起或採合押合テ。己カ大刀ヲサエ取得ス。甲ヲ着タルハ一人モ無シ況足輕等弓鉄炮ヲ打倒シ迯去テ出ントスル者ナシ。蜂須賀小寺梶原山口等身悶テ。出合ヤ返戻ト呼張廻ルニ。漸近習ニ有シ從者僅ニ打寄ケル。諸將先彼等ヲ打連青野

原ヱ打出タリ。斯テ夜討ノ者共ハ早川ヲ越ケレハ。小寺。蜂須賀是ヲ見テ。引行夜討ヲ打漏ス無念サヨトイキトヲリ扣タル中ニ。我小屋々々ノ前ヨリ五人拾人宛走出。主々ノ許ニ集タル弓鉄炮二拾人計。得具持タル兵百計有ケルカ。是等コソ先幸ヨ鉄炮不足ナレ圧追カケヘキハ今也。兵共川ヲコエルト云程コソ有レ。諸將眞先ニ進テ。川端エ走行ハ。從者是ニ勵テ我モ々々ト追着川エ。一番ニ打入タリ。斯テ後ヨリ又谷。中嶋。山田。石津。本巣等味方ノ諸將等カ夜討ヲ追募ト見テ。敗軍ノ勢ヲ集メテ是モ續テ川エ打シタリ。又小寺。蜂須賀。山口。樫原ハ東河原エ打上リケレ圧。余リ無勢成ハトテ。見積居タル所ニ。後ヨリ續ク勢有ト見テ。サラハ先追カケ鉄炮ヲ打カケヨ。人ニ先ヲカケラレナト勵テ。風ノ如ニ足輕ヲ走ラシメ。二陣ニ打物ノ兵ヲ進テ追カケタリ。谷。山田。中嶋。

石津。本巣モ鉄炮ノ足輕弓ノ士。彼是十余人進テ炳然トメ河ヲ渉リケル。去程ニ小寺。蜂須賀足輕共ヲ。敵間二町計ニ近着ヌ。斯テ夜討ノ兵ハ前々無異ニ引入。ツカニマギレテ敵慕ン圧思ヒ不寄。引退後ハ川瀬ノ音高キニ相添テ猶物騒敷ケレハ。是ヤ味方ニ引後レタル者ヤラント油斷セシ所ニ。間一町計ニシテ。頓ニ鉄炮打カケル程ニ。夜討ノ勢ハ。折節左右ハ新ニ敵ヨリ堀水ヲ切落タル小川有。中ノ小路ニ引カヘリ相支タリケレハ。件ノ鉄炮ニ中テ將基倒ノ如打倒ヌ。元來殿ニハ足輕弓ノ士ト立ツレ圧。打殘サレタル兵等。周章騒キ。皆後ロ成弓ノ士ノ中エ逃入間。小林。高嶋カ手ヨリ鐘ヲ鳴シケレハ。追手ノ弓士通ル敵ヲ追捨。足早ニ引退キ。橋ノ外邊ニ南北二手ニ分レ陣ヲ張ル。手負テ引兼タル兵ヲ介シャクサセ。悉門内エ入ヲ見テ。其後小林。高嶋。高野。檜原等ダン

〳〵ニ兵弓ノ士足輕ヲ引連。大手ノ橋エト引退。高野カ執事三宅正道ト。小林カ武者竹内ト兩人足輕ヲ連殿ニ候キ。此兩人又足輕ニ拮橋ヲ引カエセテ。後ノ小門ヲトチテ引籠リヌ。政ハンハ高嶋ト林カ師。今ニ始ヌ事ナレ𪜈。能モ變ニ應スル事ヨ。斯ル武者ヲ幾等モ持ナカラ。運開ヘキタヨリ少事カナト申サレケレハ。正澄申サレケルハ。穴賢夫レ高祖ト項羽ト戰事七拾余度タリシカ𪜈。終ニハ一戰ニ項羽滅テ高祖ノ世ト成レリ。况吾黨ノ兵ハ戰度毎ニ勝是又幸ニ不有ヤ。勝所ヲ能計テ戰エハ必勝者乎。運トハ天運也。天運ハ勿論也。凡慮(ボンリョ)ノ才ニハ非シトタハムレタリ。

十六。十二月十六日ノ夜大平城搦手合戰之事

去程ニ。搦手出勢人々モ敵ノ小屋々々近ク忍寄テ相圖ヲ待所ニ。大手ノ大鼓ヲ聞テ。同大鼓モニ鬨ヲ合ケレハ。出張ノ人々ハ態ト聲ヲモ不立。足輕トモカ敵ノ小屋小屋エ走着。竹把押破リテ。所々エ亂入シニ茫然ト起惑テ揉合所エ。鉄炮打カケケルニ。込タル敵ナレハ空矢無打倒事夥シ。兼テ鉄炮弓ナントヲ張置ケレ𪜈。俄ニ驚起惑。闇ハクラシ揉合テ。弓鉄炮モ彌カ上ニ押重リヌ。弓手妻手エ打倒者多ケレハ。其殘黨等何カハ以テ可恢。一捲ニ成テ迯散ケルヲ。夜討ノ中ノ兵。勝ニノリテ各玉込替テ二三宛打拂タル。足輕ハ後エ引程ニ。早引鐘ノ相圖ヲ合セ。林カ手ヨリ鐘ヲナラシテ。足輕兵ヲ引捕ケレハ。横山。鵜野モ鐘ヲ合テ。ダン〳〵ト足輕兵ヲ引捕テ。是ヨリ諸大將ノ足輕ヲ一所ニ合セ。殿ニ立テ引退。寄手モ堀尾。山中兼テヤ斯シタリケン。城ノ夜討ノ兵思フサマニテキヲ追討シテ引退折節。形見山ノ東谷ニ陣シタル。堀尾山中カ弓ノ兵ヲ進テ引退夜討ヲ追

慕フ。コヽニ夜討ノ引勢共早半ハ土橋ニテ引上。半ハ坂下坂中邊ニ指傳フ所ニ。尾堀カ弓ノ士疾風ノ如ク追出テ。其間二三(間脫カ)拾計リニシテ。鉄炮ヲ打カケ矢ヲ射カケタリ。夜討ノ方ノ殿ニハ。横山藤五郎。浦上七郎兵衛尉兩人カ足輕ヲ引連ケルハ。前々無異ニ效テヤ。又明方近殊風烈ク吹ヌレハ。敵慕來𪜈不思ヤ。唯先勢急々ト聲カケテ足ハヤニ引退所ニ。件ノ弓鉄炮ヲ打カケラレテ敗軍シタリ。寄手ノ後陣ニ横山浦上モ足輕共ニ下知シテ立直シ。鉄炮ヲ打矢ヲ放チ敵ヲ。追返ト制シケレ𪜈。追手ノ弓鉄炮ニ中テ弓手妻手エ打倒ス。元來矢種ハ盡ヌ引立タル者𪜈ナレハ。我先ト迯崩。横山。浦上僅ノ勢ニテ急度後ニ踏止リケルニ。堀尾山中カ弓鉄炮ハ段々ニ近着ヌ。勝ニ乘テ矢ヲ放チ鉄炮ヲウチカケケル程ニ。横山浦上モ終ニ爰テ討レヌ。堀尾。山中ハ勝ニ乘テ矢ヲ放チ。後ハ鎗長刀ヲヒラメカシ追討スル事太急也。加之堀尾。山中カ敵ヲ追慕ヲ見テ。以前ニ追立ラレツル寄手。爰彼所ヨリ返合テ。堀山中カ後押續程ニ。夜討ノ兵大勢討レタリ。城ヨリモ兼テ坂下エノ左右エ。太田先生。林對馬守。衣笠虎松。岡田半左衛門尉。彼是四五人出張シテ。足輕ヲ張。寄手附慕ハ爰ヨリ追返サント扣ケルカ。引來味方ノ後勢坂下近ク成ケル時。寄手大勢追來テ。夜討ノ殿ニ引ケル者ニ。鉄炮ヲ打カケラレテ。弓手妻手エ打倒。敗軍シテ坂下ノ方エ崩懸程ニ。兼テ是ヲ防ント出張シタル。太田。梶原カ陣エ味方ノ者𪜈迯カヽリケル。是ヲ投合セントスルニ。城ノ方ハ堀ナリ。分内狹ケレハ共ニ足輕混亂シテ引合。兼テ追來敵ニ不出合。此故ニ夜討ノ殿ニ引ケル諸大將ヲ始。足輕等ハ數ヲ竭テ討レタリ。去レトモ衣笠。岡田漸ニ制シ進テ追來ル。敵ノ左右ノ手先エ足

輕ヲ出シケルニ追手モ今ハ鉄炮ハ不打。鎗長刀ヲソヒラメカシテ間近ク追來ル所ヲ。衣笠岡田ハ追手ノ敵ト見テケレハ。打テト下知シテ打セケルニ。追手ノ兵共將棊倒ノ如ク打倒ケル程ニ。後勢不怺。忽崩レテ右往左往ニ逃行所ヲ。太田。林又足輕ヲ進テ。衣笠岡田カ足輕ニ入代。鉄炮ヲ打懸追討スル程ニ。寄手益討レ剩堀尾。山中ハ重手負テ。漸々彼等カ郎從ノ肩ニカヽツテ萬死ヲ遁レ去ヌ。斯テ寄手ノ陣ヨリ堀木村ハ形見山ノ東尾崎ヨリ捕返タル手ノ者足輕ヲ集テ。堀尾。山中カハルカノ後ヨリ追テ行。先蒐ノ堀尾山中モ又敵ニ捕返サレ。大勢討レ殘ル兵モ又敗北ス。時ニ堀尾山中カ敗スル勢ニ入追來。城ノ兵モ鉄炮ヲ打カケ矢ヲ放チ手エ打倒レ敗軍ス。堀。木村勝ニ乘テ兵足輕ヲ入代々鉄炮ヲ打セケル。太田。林。山田。衣笠。岡田等防ニ便無リケレハ。嚾ト喚テ突懸ケレモ。堀。木村カ弓ノ者モ披合々々テ矢ヲ放ケレハ。終ニ太田。林。郎從ニハ鵜山。橋本。井澤岡部ナトヽ云宗徒ノ者モ討死ス。城之兵モハ一捲ニ成。坂下ノ方エ崩行ヲ。寄手勝ニ乘テ追討シテ。坂下マテ追上。又堀。木村大音上ケテ進者モ城エ附入ト呼譟。聲山谷ニ響ケルハ。獅子ノ怒ル其聲モ。是ニハ過シト身ノ毛モ彌立計也。夜討ノ方ニハ兵牢土橋マテ引退タル折節。寄手慕來テ。後ノ戰急ナリト聞テ。早瀬。丸山。鵜野等土橋ヨリ捕返。坂中エ追來敵ヲ亂テ攻戰フ。隅矢倉ヨリ是ヲ見テ。早瀬帯刀正義ト佐用次郎政直此由ヲ見給テ。出張ノ諸大將既ニ難儀ト見エ。是ヲ捨殺ハ。末代迄ノ耻辱也打出テ敵ヲ追拂ト政直先ニ下リ給エハ。上月權正佐用三郎ヲ始トテ。近習外樣八拾余人吾モ々々ト走出タリ。木戸ノ内ニテ東矢倉早瀬正義ノ武者眞嶋。端山物見ニ出テ有ケルカ。政直

ノ打出給フヲ見テ。正義ノ許エ斯ト註進ス。因茲帶刀モモタシカタシト持口ヲ明テ百余人引率シテ打出ラル。木戸ノ前ニテ持口ノ人々ヲ始トシテ。政直ニ逢給フ。門（矢脱カ）倉ヲ固タリシ國府寺左近兩將エ出向テ申ケルハ。今夜敵味方止ル事無節ト見候者哉。ソレ合戰ハ時ノ運ニモ寄ヘキ歟。故必勝ヘキ者トモ不決。但其兵ヲ用ルト不用トハ。末代マテモ評スヘキナリ。去レハ進退ハ其規ニ違ヒ給フナ。愚意ヲ申サハ。雖夜合戰打込ニセリ合フ事ニ候得ハ。夜討ノ人々ハ不知。殿達ハ是ヲ攻給ンハ如何ニト申ケル。早瀨閉モ不敢。仰最ニ候。敵味方共ニ血氣ニ乘シテ然モ今戰疲ヌヘシ。此節敵ニ先非ヲ悔者有テ加勢セハ。味方打莵ラント勢ヲ見セハ。敵ハ恐懼セシヲ。味方是ニ力ヲ得ント思フ計謀マテニ候。引兼タランスル味方ヲ誘引スル方便トモ成ンカシ。心易カレト申サル程コソアレ。政直弓ノ兵ヲ先ンシテ。早木戸ノ外エ走出給エハ。正義頓テ二陣ニ押續。弓ノ兵ヲ眞嶋。神吉。柏原ニ相屬シテ先立テ押出ラル。先エ進ル政直エ使ヲ立テケルハ。坂下分內狹ルヘシ。二手ニ成テ向ヒ候ハン。貴邊ハ南ノ加作見ヨリ向給エ。某ハ北ヨリ寄ナント也。政直心得候ト返答シテ。頓テ坂下ヨリ微返押向エハ。正義ハ堀ニ添テ弓ノ兵ヲ進メラル。去程ニ先勢ノ義祐。正繼。鵜野。丸山等カ二百計ニテ。爰ヲ最斯ト防戰ニ。敵ハ堀尾。山中。英積。英賀。羽栗。春日部等カ度々夜討晝討ニ逢テ。味方毎度追立ラレシ事ヲ。無念ニ思ヒケレハ。今夜ハ去リトモ夜討等ヲ追返サント思ヒ切。喚キ叫テ相戰。兩方何レモ勇者ナレハ。討ル者夥シケレトモ引ナ々々ト勵合テソ戰ケル。斯ル所エ正義政直二百計南方北方ヨリ二手ニ成テ。弓ノ兵ヲ進メ。義祐。正繼。鵜野。丸山カ戰ヒ稍

シタル兩ノ手先エ押出矢ヲ射カケリタリ。殊更此兩將ノ手ニハ。强弓勢兵有テ。彼等カ矢ニ中ル者將棊倒之如射伏ラルヽ間。忽寄手散亂シテ一捲ニ成テ敗北ス。城兵勝ニ乘ツテ追討スル事太急也ケレハ。山中堀尾モ此節所々ニテ返合。敵ヲ防キ味方ヲ引セントシテ。既討レント見ケルカ。漸急キ免タリ。此故ニ重手負テ郎從ニ引立ラレ引退時ニ。早瀨ハ追討スル兵ヲ制シ止。段々ニ繰引ス。正義政直新手成レハトテ、兩將二百計引下リ。殿ニ引登懸ル所ニ、寄手明石。櫛橋。板垣。三澤等ハ。堀尾。山中。羽栗カ二度ノ蒐ヲ見テ。我々徒ニ有ンヤ去來ヤ堀尾。山中ニ力ヲ合セント。近隣ニ徘徊スル誰カ手ノ者共モ不問。每度加樣ニ追立ラレ無念不成ヤ。返シ合日來ノ憤ヲハラセ者共ト勵テ。眞先ニ進テ弓鉄炮ヲ少々催促シテ。十余人ヲ押立。彼是百余計ニテ。堀尾。山中カ後ヲ慕テ走リ行。近邊ニ有合敗軍ノ味方。我モ々々ト返合。明石。櫛橋ニ加リケレハ。勢ハ不足モ無リケリ。斯テ堀尾。山中。春日部ハ又追立ラレ、剩重手負ト見テ漸引退躰也。城兵ハ早引捕ヌト見テケレハ。何樣城兵引退トモ一追々テコソト旗ヲ上テ足輕ヲ進メ。其ニ走行程ニ。引退城兵坂中邊ニ見上タリ。不斜悦テ今少進テケル時ニ。正義ハ武者ノ眞嶋。川嶋ニ申サレケルハ。敵ハ慕來也。兩人ハ手ノ者共ヲ具シテ、左右ノ岩間ニ可伏。我返合センマテハ起立ヘカラズ。敵ヲ捕籠討ンソト云含メラル。因玆兩人左右ニ走拔タリケレハ。彼從者僅二拾四五人計引分テ主ト共ニ鰭伏。斯テ明石。櫛橋ハ坂下マテ追來、敵間ハ打遠ケレモ。鉄炮ヲ打カケヨトイラキケレハ。足輕共頓テ坂下エ引上ル。敵中一町余リ隔テ鉄炮ヲ打カケタリ。實ニ九折ノ坂ナレハ。引行夜討モ見エツ隱レツ貞

カナラス。去レ𪜈指傳タル夜討ノ勢成ハ。件ノ鉄炮ニ中リ將棊倒ノ如打倒レタリ。夜討ノ方ニモ弓鉄炮ノ矢種ハ竭タリ。可防樣モ無リケリ。此節次郎政直モ。近習ノ兵三十余人ヲ甲斐々々シクモ殿ニ御座ケルカ。爰ニテ余多鉄炮ニ中。剰政直モ鉄炮疵ヲ蒙レヌ。去レ共從者一度ニ捕テ返シ噇ト喚キ鎗ヲ傾鎧ノ袖ヲエリ合蒐散サント打テカクル。二陣ニ有ケル正義太鼓ヲ打テ鬨ヲ揚返合ケレハ。木戶。土橋マテ引登ツル人々モ夜討ノ相圖成故ニ。鬨ヲ合テ捕テ返ス。是ヨリ門矢倉。東西ノ關矢倉。出塀役所々々ヲ固タル城兵。貝鐘太鼓ヲ打立テ鬨ヲ揚ル事三度也。其聲山谷ヒビキ響ケレハ。城ヨリ大勢打出ルソト心エ明石。櫛橋カ先エ進タル足輕モ。矢種ハ盡ヌ。爲方無テ皆鉄炮ヲ投捨テ逃走ケル。後ノ弓ノ士少々有テ。入代ト云程コソ有レ。先足輕弓ノ者又ハ明石。櫛橋カ

前備エ逃入混亂スル程ニ。弓ノ士モ入代ントスル不叶揉合所ニ、政直ノ遲兵二拾余騎。大長刀ノ鋒ヲ揃テ走リ下ル間。正義ノ伏兵今ハ溜フヘキニ不有ト。一度ニ起立噇ト喚テ打テ蒐ル。明石櫛橋カ先勢ヲ更ニ躁立テ。一捲ニ成テ敗軍スルヲ。城兵ノ眞嶋川嶋兵ヲ進テ追討スレハ。政直ノ兵モ押續入代々々追討スル事太急也。正義ハ政直重手負ト見テ。郎從ニ介錯サセ。其外ノ手負共ヲ指添テ引セケル正義ハ尚坂中ニ止テ見禁扣ラル。斯テ芳賀七郎左衛門尉。舟越安永寺カ申ケルハ。其等是ヨリ眞嶋。川崎等ニ力ヲ合候ヘシ。早々爲引給エト申ケレハ。正義イヤトヨ。吾爰テ引ナハ。眞嶋。川崎ヲ捨ルコニソ有レ。先蒐シテマエツキナラト也。兎角引セ給エト問ン答スル所ニ。土橋ヨリ竹林井口モ加勢ニテ走リ下レハ。横山。丸山。早瀬其外太田兄弟段々ニ坂中マテ加勢セント押下ケ

ル。正義是ヲ見給テ。途中ニ是ヲ押止タリ斯テ明石。櫛橋。春日部共ニ所々返合。城兵ヲ防ク。敗軍之味方共ヲ引セントシテ。是モ既ニ討レント見エケルカ。郎従打圍テ漸愛ヲ遁レタリトカヤ。寄手ニ宗徒ト聞シ神東西筧モ討シト也。斯テ帶刀正頓テ鐘ヲ鳴シカハ。追討セシ城兵兼テ相圖成レハ。遁ル敵ヲ追給段々ニ引登ニ。太田。早瀬。横山。林。丸山カ手ヨリ弓兵ヲ分出セ。余人殿ニ入代。國府寺庄兵衛尉。芳賀兵衛尉殿ノ將トシテ。百余人引下テコソ引セケル。寄手ニ附慕者モ無ク。各無異ニテ。正義義祐ヲ始。諸將之軍卒皆土橋。木戸ノ内エ引入ハ。殿ノ國府寺。芳賀ハ土橋ニ扣テ。坂ノ上成逆茂木ナトヲ結立サセテ。木戸ノ内エ引入ケレハ。早夜ハ天明ト明タリケル。去程ニ次郎政直重手ナリケレハ。木戸ノ内マテ郎従介錯シテ入給トモ。頓テ絶入給ヒケリ。惜哉。此政直ト申ハ。城主政範舍弟ニテ。新次郎トソ申ケル。先年政直備前浦上及宇喜多。藝州吉川。小早川等發軍播州勢ト相戰事度々ニ及ヒヌレハ。西勢勝ニ乘リ。政直ノ一軍ヲ以テ味方ノ先勢ニ入代リ。弓箭ノ勢ヲ以テ大軍ヲ追崩事度々ニ及リ。斷哉。力量ハ勝ニ孟賁。射術ハ欺ニ后羿ヲ。襄中國ニ溢ス矣。今度籠城ノ間ニ。寄手城外エ仕寄二町三町ニシテ。楯竹把ヲ搆攻寄時。政直遠矢放ツ毎ニ。寄手ハ楯竹把ヲ通サレテ。後ニ扣居タル兵共。鎧甃射抜死スル其數ヲ不知。嗚呼惜哉。死生有命終討死畢ヌ。去程ニ其夜討死セシ城中宗徒ノ人々ニハ。太田先生則近。小林宇右衛門滿末。鵜野彌太郎吉則。小馬新兵衛尉。下河原傳右衛門尉。林對馬守。子息次郎左衛門尉。横山藤五郎。浦上七郎兵衛尉。岡田半左衛門尉。山田彌右衛門。大谷新左衛門尉。衣笠虎松是等ヲ宗徒ノ人々ニシテ。政直ヲ

始諸大將拾四人。其郎從四百余人。其足輕大勢討レヌ。此夜寄手モ大勢討レ、疵ヲ蒙ル者夥シ。宗徒ト聞シ小寺、竹中、蜂須賀。堀、木村、櫛橋、山中ヲ始重手負ス人モ無ク、惣軍討レシ者七百余人ト記リ。實ニ大手ノ寄場拾余町カ其間。敵味方ノ死骸山ヲ築タリ。此ニ附テモ頼無ハ、今此時哉、何ヲカ憂何ヲカ歡ハン。昨日寄手諸大將ヲ始下々ニ至マテ。秀吉卿ヨリ金銀米錢ヲソレ〳〵賜リケレハ。諸軍勢軍旅ノ疲ヲ忽チ忘レ。陣中ノ賑大形不成、勇ミ進シ樂モ一夜ニ不過、討死セシ輩幾トカ云也、昨日友トチ戯レ言ニモ。明日ヨリ寄場ニ場々廻シ、堤ナントヲ築立ハ、皆己カ歸々國々エ引反ントテ。怡勇シ、其聲モ無、實ニ生死不辨、是非事夢ノ中ニユメヲ見ル今ノ有樣ヤト、討殘シ人々モ心細ソ思レケル

十七 政範集諸大將饗應之事

明レハ十二月十一日。政範大廣間エ出ラレテ諸大將ヲ集中サレケルハ、偖人々我籠城ノ始コリ晝夜ノ合戰粉骨(フンコツ)ヲ碎レ、此アカツキハ勇戰計略應變ノ働。古今無双ト可謂、最當家ノ面目何事カ爾之ニ、就之ニ宇喜多殿ヲ始、諸大將ノ働拔群タル事感スルニ堪候、軍旅ト云人々ノ辛勞押計候、是等報謝致ン事。我期ヲ思計也。定テ今日ハ敵モ寄マシケレハ、少心ヲ休息シ給エ。タクワエタル酒ノ候程ニ、倶ニ給ラントテ、酒宴興ヲ催シケル。宇喜多ヲ始滿座ノ人々悅補ニ入リ、興ニ乘シラレケル、此間ニ西大嶽ヲ圍シ神吉太郎左衞門、衣笠新助ハ高鳴早瀨エツケタルハ。扨モ此曉敵無二ノ働ト云エトモ。大手搦手モ終御利運無中計候、去程ニカヽル騷動半成シ比及。城中エ兵糧運送仕ル者有ト見候キ。然所エ西方持口之寄手共ニ出合ト見エテ、暫防戰躰也、此節坂本エハ寄手慕來

リシカモ、採合ノ最中ニテ城入事不叶。兎角ス
ル程ニ其採合モ止候キ。定テ備作ノ人々カ、不
然ハ近郷ノ者可成。先夜モ如何成故ニ城ヨリ
助合スル事モ無。徒ニ捨殺候。又此後如何ハ
候ヘキト申ケル。正澄聞テ。去レハ其事ヲノミ
苦労セリ。志有カ斯ル時節ニ出來城エ不入モ
天命カ。若運送ノ使赤松山秋里桐山邊何レノ
所成トモ相圖ノ螢火流星ナント上ケハ、城ヨ
リ先ンシ兵ヲ出サハ。縦寄手寄スルモ。敵ハ不
意成ハ城兵利ヲ得ツヘシ。サモ無兩度マテ敵
ニ奪ル事無本意ノミニ非ス。運送ノ使益無死
ヲ致敵ハ又ソレト心付便ト成事。嘆ノ重キ所
ナリ。乍去籠城ヲ致ナレハ。互ニ悔ハ可無ル。
唯時節到來ト思セト申サレケレハ。兩人其外
ノ人々モ是ヲ聞此上ハ穴賢佗力ヲ可待事ニ
モ不候。運ヲ天ニ任セ。勝負ヲ急カルヘキニ
他ナシナト申ス。斯ル所ニ山脇ヨリ秀吉卿加
勢有テ。青野原ノ東ノ山ニ陣ヲ張給エハ。宮部、
小田垣、中條等相屬シテ。足輕五拾余人。弓ノ
士一揆鎗長刀ノ兵彼是以上三百余ニテ、二位
山尾崎ヲ經テ。美作ノ瀬ノ頭ニ少猶豫スルト
見エケルカ。騎馬ノ兵拾六騎ト喚テ瀬枕エ馬
ヲ颯ト乘入ケレハ、足輕モ騎馬ノ兵ニ押續キ、
少川上ヲ喚叫テ渉リケル。其次ニハ弓ノ兵鎗
打物ノ兵段々トシテ打渉、頓テ西河原ニ打上
リ。爰ヨリ足輕弓ノ士少モ溜ハス。下上月邊ヨ
リ形見山ノ尾崎マテ。鴈翅ニ連テ鉄炮ヲ張弓
杖突テ陣ヲ備、是ヨリ半町余リ隔。件ノ騎馬
ノ兵打物ノ兵相支タリ。大手青野原ノ上ノ瀬
頭東河原エハ、糟屋。中村。杉原相屬シテ鉄炮
五拾余リ川端ヲ少隔扣タリ、又川上エ少引上
テ弓ノ兵一揆陣ヲ張是ヨリ一町余東ノ方エ引
上テ。糟屋貳百計ニテ陣シタリ。本渉ノ瀬エハ
竹中英積、岸本。海津孫八郎相屬シテ。川端式

三拾間計隔テ足輕五拾余リ鴈翅ニ立タリ。川上ノ方エハ弓ノ兵一揆三拾人計ニテ扣。同東エ一町余隔。竹中カ勢彼是貳百計ニテ陣ヲ張。是ヨリ尾崎々々ニハ蜂須賀。小寺。谷。梶原。中嶋。山口。木巣等カ役所々々ノ前ニハ兵ヲ出シ。足輕ナントヲ集テ少々陣ヲ張レリ。去レハ秀吉此城外ニテ夜討騷動ヲ聞給ヒ。軍使ヲ以テ聞召ニ。寄手大ニ敗軍シテ。剰大勢討レ。諸將モ不手負ハ無ト聞エシカハ。後詰シ給ント觸催シケルニ。軍卒モ急ニ不調早巳ノ刻計ニ成ケレハ。漸先勢所エ馳着ヌ。秀吉卿モ手勢有ルトモ。早城兵ハ一人モ不殘引籠ケレハ。爲方無炳然給フ計也。斯テ竹中申ケルハ。斯ル費ニ依テ。城兵打出ル事モ候ハン。然ラハ敗軍ノ味方打集事候マシ。早攻口エ押寄テ。足輕ヲ張ント申ケル。秀吉卿聞召。城兵ハ中々打テハ出マシケレトモ。其義ナラハ搦手ハ味方ノ軍勢ノ川向ニ寄ツレハ。宮部小田垣ヲ始。川ヲ越テ陣ヲ張ヘシ。大手ハ川ノ此方ニ足輕ヲ張ヘシ。味方川ヲ此方ニ陣スレハヤト仰ケル。因茲斯コソ手配リ有ケル也。軍卒重手負テ死ニモヤラス。引兼タル者ヲフケレハ。彼等ハ是ニチカラヲ得テ。己ト漸川端ニ出ルモ有。又友呼聲ニ依テ。加勢ノ諸大將ノ中ヨリ侍足輕人夫ヲ遣シ。西河原邊或形見山ヨリ寄場ノ間ニタヽヨセ居タル手負トモヲハ引捕。又其外敵味方ノ死骸滿充タレハ。彼ヲ看是ヲ見ルニ付テモ。今日ハ又我身ノ上ソト思ヒ。胸ヲ碎ヌ人ハ無シ。去程ニ城中ニハ云合シテ。饗應ナトノ最中成ニ。敵コソ寄ルト所々ノ櫓ヨリ注進ニ依テ。何程ノ事カ有ナント。乍去持口エ各我モ々々ト出合ケレハ。大廣間ハ忽淋クソ成ニケル。去トモ寄手攻口マテモ不攻寄。又城ヨリ打テモ出サレハ。敵味方タカイニ今日ハ無異ニテ。日

ハ暮ヌ。寄手ノ方ニハ今宵モ城ヨリ夜討ヤスラント用心ソ。通宵カヽリ火ヲヤキツラヂテソヲコタリナケレハ。打出スヘキヤウモ無イタツラニ默止ケリ。

播州佐用軍記上之卷終

續群書類從卷第六百三十九下

合戰部六十九

播州佐用軍記下卷目錄

播州佐用軍記卷之下

一。寄手城内江夜討之事

天正五年丁丑十二月十二日。山下風烈ク吹ケレハ。彌寄手寒凝安キ心モナク。剩手負益多ケレハ。昨日羽柴筑前守秀吉卿下知有シ堀々ル氣情モ無リケル。角テ谷。蜂須賀兩人ハ。殘リシ諸大將ニモ不レ知シテ。今朝山脇ノ御陣ヘ參リ。城ヨリ夜討セシ有樣引敵ヲ附慕。大ニ働シ爲躰。秀吉卿ヘ申上ヌ。去程ニ御下知ノ如ク堀リヲ堀リ。堤ヲキツキ城中ヨリ打出ル通路ヲ指塞。蒸攻ニ仕ルヘシ。但シ味方毎度利ヲ失ノミナラス。堀堤ヲ構敵ヲ防ン事余リニソヲンヒンニモ候ンカ。末代ノソシリモ口惜カルヘシ。縱骸ヲサラストモ運ヲ天ニ任。幾度モ攻玉ハンヤト申上ケレハ。秀吉卿聞召。淺野彌兵衞尉長政ハ如何思フソトヲヽセケレル。彌兵衞尉承リ。兩人申條最其謂候。去ナカラ味方疲レ。半手負。又城ハ堅固ノ地ニテ攻ル便少ケレハ。是ヲ推攻シ玉ハンヨリ一端引セ給ヘカシ。味方ノツカレニ乘テ國ニ逆心ノ者出來カ。他國ヨリ加勢在ラハ。御大事ナラント申ケレハ。兩人重テ申樣ハ。城ニモ大勢討レタリトヲホユ。籠鳥ニシテ疲左コソト存候。程無矢種モ盡ヌヘシ。加樣ノ事トモ無念ナレハ。夜討ニモ、晝討ニモ唯攻玉ハンニハ不レ爾ト申。亦秀吉卿聞召テ。兩人カ申處謂有。我元來左思トモ。士卒ツカレツレハ力ナク。又新玉ノ年モ近ケレハ。端引ントヲモヘトモ。疲ニ望ム敵ヲ見ナカラ引退ハ。上方ノ味方共ニ欺ンモ無念也。唯總攻ニセン。淺野彌兵衞尉其旨觸サスヘシトヲヽセケレハ。堀々沙汰モ止。攻ルニ決シタリケル。諸卒ハ是ヲ辛苦シテ。命アレハ身ヲ抱ツ疾々討死セヨト訇嚏合フ。サルホドニ明レハ。十

二月十三日上月。兩曲輪先ヘ押來。楯竹把ヲ突撲。矢懸近方ヨリ鉄炮打懸事夥シ城ニハ所々ノ持口指圖靜リ返テ音モセス。互ニ替ル方便モ無ク。日モ暮ントスルマヽニ寄手悉引退。大手ハ川ヲ越シ。搦手ハ形見山ノ東尾崎ニ陣シタリ。此日寄手ノ諸大將會合シテ。今ノ分ニテハ何マテ攻ルモ味方ノミ疲テ益無ルヘシ。夜攻ニセント一決シテ。所々ノ手分相言葉定テ。諸大將ノ中ヨリ二十人三十人五十人百人ト撰出一揆ノ相印附テ。十二月十三日ノ月沒スル比。各兩曲輪先ヘ忍寄者モアリ。堀ノ造遣ヲ經テ切岸下ヘ寄スルモアリ。去レハ何手ヨリ成モ早ク乘入タラハ。城内ノ役所々々ヘ火ヲ放ツヘシトテ。胴ノ火マテヲ持タリ。城中ニハ夜討入ラントハ思サレモ。兼テ夜々毎ニ諸大將ノ中ヨリ番手ニテ。二頭ツヽ城中ノ詰々切岸邊ヲ詰廻リ。所々ニテ互ニ廻合。其夜ハ高嶋右馬助兄弟。小寺庄之助各侍足輕ヲ連テ靜ニコソ廻リケレ。角テ子ノ刻計ノ事ナルニ。高嶋小寺ニ云ケルハ。不思議ヤナ不時寄手ノ陣中ニ。馬共ノ嘶ハ如何ニト申ケル。小寺聞テ共ニ行向聽ニ。所々ノ陣屋ニテ疑フ所モ無ク馬嘶ソ聞ケル。小寺高嶋ヘ申ケルハ。貴殿ハ能心附給フソヤ。是ハ定テ夜ニ紛レ乘入ントスル支度ナラン。夫レ馬ハ能ク物ノ變化ヲ知テ。人ニ先ンシテ進ミヌ。先ンシテ陰氣ト成レリ。城定テ夜乘ニセント存ス。イサヽラハ所々ノ持口ヘ告知セントテ。兩人カ郎從ヲ前後ノ役所々々。其列二ノ丸マテヘ遣シ。各靜ニ出合ヘシ。火繩筒。火ヲ隱セ。最炬火停止ト觸遣ス。其ヨリ高嶋大手ノ櫓ヘ上リ。門櫓渡塀ノ間ハ相隨共五百余人。足輕トモヲ手配シ。弓鉄炮ヲ伏セテ待懸タリ。小寺ハ猪ノ谷矢倉出塀邊ノ持口ナレハ。柏原兄弟相隨固タリ。搦手ハ

門矢倉ヨリ東西渡塀マテ上月權之正。國府寺父子、廣ノ戸。丸山父子三人固タリ。同東ノ矢倉ニハ。早瀨父子。同東西ノ切岸渡塀マテハ眞嶋、浦上、頓宮、端山弓鉄炮ノ足輕ヲ張扣タリ。二ノ丸谷口ノ矢倉ハ横山カ持口ニテ。南北ノ切岸出塀邊ニハ神吉。佐用。中村固タリ。城ノ後大嶽ニハ芳賀、衣笠。大谷、岡田、山田、三宅。野々村等北嶽ノ上行ワタリ足輕ヲ張居タリ。加之宇喜多掃部助、本間、神宮別所ヲ引、他ノ勢ヲ不交三百余。是ハ持口ヲ不定時ニ臨テ急ナル方ヘ加ラント打廻ヌ。去程ニ寄手ハ若城ヨリ打出ハ、追返サントテ大手橋ヨリ二町計隔テ、北ノ柵際ヘ糟屋、竹中、中村、杉原、英積、岸本。長濱甚吉、海津孫八等カ鉄炮一揆弓一揆二手ニ備テ出張シ。城兵若打出ハ爰ヨリ出合テ追返サント出張ス、蜂須賀、小寺、中嶋、本巣、山口、堀、木村、堀尾、山中何レモ是ヲ憤リ、

入ノ後ニ着ヘキ様ヤアル。攻口ヘ寄セント催シケレ𪜈、其身々ニ手負、況士卒ヲヤ。殊ニ身心疲果、意ハカリハ流葉𪜈進退度ヲ失フ有ヤフ也、去レトモ軍使ヲ廻シ、足輕弓ノ士軍勢ヲ催促シテ攻口ヘ遣ス。忍入ラントスル者モ橋ノ外柵ヲ手々ニ破リ。十八二十人ツヽ橋際ヘタヽミ、板材木ナントヲ持來。橋板ヲハ引迠ツレハ、頓テ打渡サント續ク味方ヲ待。切岸邊ヘハ階梯子梯ヲ夌來。或打鉤熊手指柵ヲ破リ入ル、坂中ノ左右ニハ宮部、小田垣、中條等潛ニ足輕十四人弓ノ兵三十四人ヲ倶シテ出張、爰ニ足輕ヲ伏セ、城ヨリ追出ハ追返サント扣タリ、城ノ後ノ大嶽ニハ、當國ノ案内者小寺、梶原、英積、志方、曾禰ノ國人等ニ谷、堀尾、山中カ手ノ者少々分出、是モ熊手打鉤脇挾タリ。去レハ城ニハ鳴ヲ鎮居タリケレハ、待トハ知ラテ寄手𪜈カ囁合テ、偖モ頃日耳ニ立峯ノ嵐

松ノ風。風躁ハダヘマデ劊カコトシ。寒風モ今夜ハ忍フ我々カ鐘ノ金物ノ立ニ紛テ幸ナリト悦合テ勇進。楯竹把ヲ橋ノ行桁打渡シ。橋ヲハ易々ト越シ。小門ノ前少シ隔テ後勢ヲ待躰ナリ。哀レ此度ノ計畧モ。三五ノ十八破羅利ト違ハンコヨ。知ラヌハ凡夫ノ身ノ上ナリ。角テ城ノ矢倉ニハ。政範高嶋日配シテ。相圖ノ大鼓ヲ打セラルヽ等ク。大手搦手所々ノ持ヨリ。同音ニトキノコヱヲ上タリケル　夜討ノ寄手ハ案ニ相違シテ揉合所ヲ。城中ノ矢狹間ヲ驚（開カ）キ揉合シテ押合テ押仆。或ハ堀或溝川ヘ捲落タル有樣ハ。前代未聞ノ事𪜈也。嶽切岸ヲ登ラントスル所ヲ。上ヨリ大木石弓ノ綱切放程ニ。人モ梯モ石材木ニ至マテ。一捲ニ成テ崩落。其響山野ニ徹シテ夥シ。造リ道ニ充滿シタル者𪜈。左右ノ堀ヘ崩レ入。水ニ溺レ半死ノ者モ多カリキ。城ノ後ノ嶽ヲ上ル者ハ。石材木ニ打レ。

又麓ニ指集タル者共ハ。大沼ヘ捲入者其數ヲ不レ知。元（モトヨリ）兩曲輪先ヘ寄タル者。半ハ鉄炮ニ中リ共ニ押倒レ。彌上ニ重伏橋ノ上ヨリ押落レタル程ニ騒ク事夥シ。城ニハ夜討敗軍セハ其費ニ乘テ討テ出。追討セント柏原父子。小林兄弟足輕ヲ出シ。小門ヲ披カセケルカ。橋ノ上ニハ寄手ノ死骸充滿シタリ。闇夜ニ地利悪ケレハトテ。足輕ヲ引入下知スル所ニ。寄手ノ方ヨリ元來出張シタル糟屋。竹中。英積。岸本。海津。長濱。杉原。中村。中島。山口。蜂須賀。谷。小寺カ足輕大將等先陣ノ味方ノ敗スルニ入代。橋ノ外柵ノ邊ヘ出來ニ。柏原。小林カ侍足輕共橋ノ上ナル寄手ノ死骸ヲ熊手ヲ以テ。左右ノ堀ノ中ヘ掊落。行桁ノ上ニ夜討ノ方ヨリ渡タル。楯竹把ヲモハ子ヲトシ。小門ノ方ヘ引ントスル折節ナレハ。糟屋。竹中。海津等カ足輕一番ニ進ケルカ。橋ノ西脇小門ノ前ニ指傳テヒ

シメキケルヲ見懸。何樣是ハ城ヨリ追出タル者ナラント。是非無ク鉄炮打懸タリ。依之小門ノ前ニテ土佐守カ武者横山五郎左衛門尉。鵜山權六ナト云宗徒ノ者ヲ始メ。小林カ武者足輕少鉄炮ニ中テ討レケリ。殘シ者モ敗軍シ。爲方無ケレハ。其ニ小門ノ中ヘ引入タリ。柏原。小林等モアヤウキ所ヲ免レテ引籠ル。角テ寄手ハ段々ト返シ來テ。橋際マテ寄ケレ𪜈。城兵ハ皆引籠ヌ。橋ノ中ノ間ハ掊返ツ。容易打渡ン事不叶。橋ノ外ニ指傳徘徊スル處ニ。大手ノ矢倉ヨリ鉄炮ヲ打。或精兵ノ弓ノ手垂ナントカ指矢遠矢ヲ射懸ケレハ。是ニ中ル寄手大勢ナレハ不怺。散々ニ成テ引退。兎角スル程ニ夜ハホノ〴〵ト明ニケル。東ノ山端ニ秀吉卿御座ケレ𪜈。攻口ニハ人一人モ無ク城中ニハ音モ不爲。東ノ河原ニ打集タル者𪜈ノ方ヘ。軍使ヲ立ラレ。敗軍ノ士卒ヲ集サセナカラ不興氣ニ御座ケル。爲方無ケレハ。敗軍ノ諸大將ノ許ヘ軍使ヲ立ラレテ。敗軍ノ士ヲ集テ陣ヲ張リ候ヘ。味方ノ虛ニ乘シテ城ヨリ打出ル事モ有ンソト。下知セラルヽ事頻リ也。城ニハコノ費ニ乘テ打テ出ント。宇喜多殊ニ進ケルカ。諸大將ノ中ニ少シ異儀有テ終ニ止ヌ。搦手ヘ寄タル夜討ノ寄手モ。支度相違シテ大勢討レ。疵ヲ負テ這々ノ躰ニテ殘黨引退。城中ヨリハ國府寺父子。眞嶋治郎右衛門。三宅。中村。野村坂ノ中端マテ追討シケルカ。寄手ノ宮部。小田垣。中條等坂中ニ足輕ヲ伏テ居タリケルカ。得タリ賢ト足輕ヲ起テ。弓鉄炮ヲ打懸ル間。三宅。中村。野村。頓宮又兵衛ヲ始。大勢打倒サレヌ。殘黨等敗軍シテ迯ノホル。宮部ハ矢種盡キヌ。元來小勢ナレハ是マテニテ足早ニ引退。善哉。坂ノ上ニハ國府寺父子。眞嶋。芳賀カ弓ノ兵ヲ張テ扣ケレハ。若宮部勝ニノリテ追登

ラハ必定討レナン。又國府寺ヲ始トシテ。各追テモ不ﾚ出。手負ナントヲ介錯サセ。柵逆茂木ナトヲ捕繕。頓テ木戸へ引籠ヌレハ。夜ハホノ〴〵ト明ニケリ搦手ヨリ追出宮部カ爲ニ討レシハ。頓宮又兵衛尉。眞嶋彥六。三宅左兵衛尉。野村又助ヲ始トシテ。宗徒ノ武者六人。郎從三拾余人其外足輕少々討レタリ。芳賀父子頓宮ハ。坂上左右ニ足輕ヲ張リ扣居テ。殿シテ木戸ノ内ニソ引入ケリ。

二。寄手城後大嶽ニ夜討一揆引殘之事

角テ十二月十一日ノ夜寄手退散シケレハ。城ニハ追出タル者共敵ヲ追捨テ。相圖ノ鐘トモニ。頓テ城へ引籠ル。于時大手ニハ高嶋右馬之助正澄。小寺庄之助隆則。兵足輕ヲ引連レテ。門内ヨリ左右ニ分レ。今一度城中ヲ打廻リ。役所へ引ント約諾シテ打廻ス。懸所ニ城ノ後ノ大嶽ニ吶合。其聲ヲ高嶋手ノ者是ヲ聞付テ。正澄へ斯ト申タリ。高嶋聞テ。サル事モ有メト。頓テ岸涯ニ寄テ伺聞ニ。疑フヘクモ無ク。敵コソ亂破ニ着タリケレ。サラハ小寺ニ知ラセント。急キ使ヲ立テ。衣笠。芳賀。大谷。中村カ役所近ケレハトテ。是へモ案内人々頓テ出來ル。高嶋出向テ備々ト語リケレハ。小寺聞テ。是コソ愚人夏ノ虫。飛テ火ニ入ル譬候。釣置タル石弓ヤ。大木トモノ綱切テ落懸申サント云。正澄小聲ニ成ツテ。殿ハ尤宣ハント。今モ小七郎ト申タリ是ヲハ先々捨置給へ。乘得ン事ノ難ケレハ成。去レハ懸ル節所ニ乘懸タルハ敵ナカラ不便也。唯其儘ニテ差置へシ。夜モ程無明ヌへシ。守ノ人ヲ殘シヲキ。去來サセ給へ。歸リナント各打連テ。役所々々ニ歸リニケリ。跡ニハ高嶋七郎兵衛尉。小寺右衛門允。手ノ者弓鉄炮ノ足輕ヲ連レテ。爰ヲ押へ守タリ。兎角スレハ夜ハ天明ト明タリキ。高嶋。小寺ハ爰彼所ト指

覗見レハ。案ノ如嶮岨ニ着タル敵コソ白地ニ見ヘタリケレハ。去レハ此所ハ谷底ヨリ十餘丈ノ嶽ナリケルニ。今ニ丈計ニテ乗得。岩ノ狹間ニ各捕附。於爰進退度ヲ失ル有樣ナリ。皆笠印ヲソ附タリケル當國武士明石。高砂。曾根。志方ノ者モト覺タリ。于時高嶋大音聲ニ呼張ケルハ。其ニ見タル人々ノ笠印見知リタルヤウニ候ソヤ。去レハ當國育ノ人々不聞及給乎。此所ハ獸スラ不通。況甲胄ヲ帶スル人々ヲヤ。鷹賢ヲ候テ。人ノ不通所ヲ知リ。年々巢ヲ掛候ソヤ。惑給人々哉。誤テ不快ニ逢給フナ。是ニ石弓余タニ候ソ。去程ニ人々ノ爲躰ヲ見テ存出セル古語アリ。鳥懷ニ入ヲハ。狩人スラ是ヲ不殺乎。増テ人倫ニヲキテヲヤ。元來知レル中ソカシ。情無ハ候マシ。斯申ハ小寺右衛門允隆遠。高嶋七郎兵衛尉正建ニテ候。各疾シテ歸リ給フヘシ。指繩ナントノ不足候ハヽ。是々參ラセ候トテ。差繩余多投下シ。左右ト云捨。其ヨリモ兵足輕引連レテ。役所役所ヘ歸ケリ。角テ夜討ノ者共ハ。虎ノ尾ヲ蹈毒蛇ノ口ヲ免タル心持シテ。漸ニ辛苦シテ此所下リテ飯ニキ。是ヲ寄手ノ陣中ニ傳聞人毎ニ。高嶋小寺カ其志ヲ感ツヽ。鎧ノ袖ヲソ濕ケル。落城ノ後マテモ犬打童部ノ戲ニモ。小寺殿カ高嶋殿ヨト口號諷遊ケルトカヤ。

三。寄手又仕寄附城攻之事

去程ニ。明レハ十二月十二日寄手ノ方ニハ夜討之計略相違シテ敗軍スル而已ニ非ス。宗徒ト聞ヘシ者共余多討レケレハ。今日比舉レ有シ者。或力量ノ人ニ勝タル者迄モ。皆心身疲ニ倦テ。人心持無ク。爰彼所ニタヽスミ居テ。茫然タル有樣也。諸大將ハ頼切タル郎從ヲ余多討セヌレハ。力ヲ落ス事不大形。實ニ兎スレハ角ト打返ス。不運ノ程コソ直事ナラスト。勇

進ル人ナケレハ。其末々ノ者カ。打萎モ理也。懸ル所ニ山脇ヨリ秀吉來リ玉フテ。諸大將ヲ召サレテ、夜討ノ方便味方ノ敗軍ノ爲躰ヲ聞召テ。斯計略ノ敵ニ漏ツラン。軍ノ利無ケレハ。士卒ノ疲モ不便ナリ。去モ今更爰ヲ引退モ無念也。去レハ城攻ハ十度攻テ利非スモ。終ノ勝ハ寄手ニ有リ。勇ヘシ。勵ムヘシ。重テハ兩曲輪先ヘ箕ノ手ニ仕寄ヲ付。是ニ弓鉄炮ヲ伏置。晝夜ヲ番手代ニ守ラセ。城ヨリ漏出ヌ樣ニ。捕圍蒸攻ニセヨト仰ケレハ。其明ル日ヨリ寄手又竹把材木ヲ運レテ仕寄ケル。加之大手南北ノ堀涯ヘハ。足輕大勢押寄。屯シテ弓鉄炮ヲ構ニ城ヨリ打出テハ。打拂フト待懸タリ。加樣ニ用心シテ橋外柵ノ邊。所々ノ地ヲ穿。是ニ柱ヲ立。竹把搔楯ナントヲ結揲トノ巧成搦手ヘハ。九折ノ坂下ヨリ西ハ大沼マテ。東方ハ堀涯ヘ押寄テ。柵竹把ヲ附返ヘキ支度也。坂下ニハ足輕大勢來テ。弓鉄炮ヲ伏置テ。城ヨリ打出テハ追返サント構緊陣ヲ張。普請ヲ急キ混亂ス。城中ニハ大手搦手共。櫓出塀ヨリ是ヲ見テ。加樣ニ路ヲ指塞テハ運ヲ開難シ。早打出追立ントコソ催ス。其時刻コソ移ケレ。寄手ハ足輕。侍雜人原ニ至マテ入交テ。竹把材木押立ント相傳タリ。斯テ城ノ大手門ヲ開キ。拮橋邊マテ弓鉄炮ノ士噇ト走リ出。寄手ノ弓鉄炮ヲ構居タル陣ヘ。鉄炮ヲ打懸矢ヲ放ツ。寄手兼テハ期シタル事ナレモ。城兵ノ弓鉄炮ニ中テ。大勢打倒間。殘黨不怺弓鉄炮ヲ投捨テ。右往左往ト逃走ル。普請場ノ大勢周章騷キ。竹把材木押倒、迯走リケルニ。件ノ竹把材木ノ押ニ討レ。或共ニ押仆サレ。所々ニ彌上ニ倒重タリ。加之城ヨリ足輕大勢走出。拮橋ヲ打渡ケレハ、鉄炮弓ノ士橋ヲ走渡、矢ヲ放チ鉄炮ヲ打懸タリ。是等ニ押續、城ヨリ林隼人正。同舍弟四郎左衛門

尉。同左助相随。騎馬十騎弓ノ士ヲ先立。次ニ柄道具打擔タル士。後ニ騎馬一面ニ立。橋ヲ眞向追出。逃敵ニ矢ヲ射懸ケ追テ行。三番ニ本間内藏助。神宮寺太郎左衛門尉。別所與五郎隨兵ノ騎馬十騎。是モ弓ノ士ニ鉄炮少々相交先立。次ニハ歩行士乗馬ノ兵段々トシテ橋ヲ出。左ヘ微反追討ス。四番ハ高嶋七郎兵衛尉。奈波權正。小寺右衛門允。廣戸五郎左衛門尉。騎馬彼是十五騎弓鉄炮ヲ先ニシテ。鎗長刀持タル歩行ノ兵二百余人。乗馬ノ先ニ立テ。橋ヨリ右ヘ微反。逃敵ニ矢ヲ射懸。鉄炮ヲ打懸追行程。弓鉄炮ニ中リ共ニ打倒サレテ。彌上ニ仆重ヿ夥。河原表ニ扣タル寄手大勢有ケレハ。敗軍ノ味方ニハ入代レト下知シテ手配スルニ。味方三方ヨリ崩懸リケル。是等ニ揉合程ニ。入代ヿ不叶。敗軍ノ味方ニ押立ラレテ。一捲ニ成。後ノ川ヲ渡ルトテ。水ニ溺レテ死スルモ多カリケリ。同搦手ノ城兵モ。大手ヨリ相圖ノ左右有ケレハ。木戸ヲ開キ。諸手ノ足輕一手ニ成シ段々ト走出テ。坂下ノ左右ニ弓鉄炮ヲ張扣タル敵ノ中ヘ。笠見ヨリ鉄炮ヲ打懸。喚呼テ走下ケルニ。周章騒キ揉合所ヘ。弓鉄炮ヲ打懸ラレ。是ニ中テ弓手妻手ニ打倒ル者多ケレハ。不怺踵ト崩レテ逃走ル。城兵勝ニ乗テ追討スルヿ太急也。加之搦手ヨリ柏原土佐守。同子息主馬助。佐用三郎左衛門尉。上月權正彼是一手ニ成テ。騎馬七騎歩行兵百五拾餘人坂下ヨリ眞向形見山ノ方ヘ逃。敵ニ矢ヲ射懸。追テ行。其次ニ顧宮新八郎。中村三郎左衛門尉ヲ始。騎馬六騎歩行ノ兵百五拾餘人ヲ先立。坂下ヨリ左ヘ微反。堀ニ添テ東方ヘ逃行敵ニ矢ヲ射懸。鉄炮ヲ打懸々々追討ス。三番ニ芳賀小太郎。太田民部少輔。國府寺勝兵衛尉。衣笠新助彼是騎馬十騎。歩行兵二百餘人。坂下ヨリ右リ荒神谷ノ方

へ逆敵ニ矢ヲ射懸。鉄炮ヲ打懸追討スル程ニ。寄手一度モ不返合敗北ス。角テ城ノ内ニモ兼テ相圖有ケレハ。柏原。佐用。上月。芳賀。太田。國府寺ヲ始。各馬ヲ駈居テ。山ト相言葉シケレハ。追行兵者ハ。敵ヲ追捨捕返。下上月ノ方へ追行タル瀬宮中村ト一所ニ成テ。下上月ヨリ引チカヘ。河原ヲ登ニ押上リ。二位山ノ上瀬ヨリ東河原へ打上。暫息ヲ繼。其ヨリ青野原ノ北ニ戰居タル大手ノ味方ト一所ニナリ。蜘手十文字ニ打敗相戰フ。以前ヨリ戰居タル大手ヨリ出タル味方共ハ搦手ヨリ加勢在ルヲ見テ。當ノ敵ヲ追拂テ。十人廿人宛一手ニ成テ。蝶ト相言葉シテ皆河原へ各走拔テ。息ツキ居タリ。寄手方ニハ蜂須賀。小寺。谷。堀尾。梶原ヲ始。曾禰。高砂。英賀。志方ノ餝磨。別府國人美濃尾張三遠ノ軍勢ト。秀吉卿ノ陣ヨリ淺野。宮部。宮川。糟屋。竹中。中條。中桐何レモ爰ヲ敗テハ。

秀吉卿御大事ト命ヲ不惜防キ戰ヘハ。城兵ハ元來人ヨリ先キニ討死セントス。大勢ノ中ニ在テ。四角八面ニ打敗ハ。蒐拔一息繼ヲハ懸入々々切テ廻ル程ニ。寄手ハ大勢ナレモ手負疲タル軍勢ナレハ。思切タル城兵ニ蒐合テ。防戰者夥ケレハ。毎度追討レ。或所々へ追倒テ。簾上ニ仆重者其數ヲ不知。角テ河原表へ引退。息ツキ居タル城兵中村。岡田。松尾。瀨川彼是三拾余人一所ニ在ケルカ。柏原。佐用。上月ノ人々。今ハ戰疲又ヘシ。我々何マテ斯テ見物セン。助合セント一度ニ芝居ヲ蹴ト喚走出タリ。林。高嶋。宇喜多是ヲ見テ。先ラレタリ。去來サラハ二ノ目ヲ蒐ン人々ト鬨ト打立。同音ニ鬨ヲ上。各箕ノ手鳫廻ニ連テ押出タリ。先ノ岡田。中村等カ一手ハ。早敵ノ中へ蒐入切廻ルニ。寄手大勢成トイヘモ。城兵ニ切立ラレテ。後ノ秀吉ノ陣ノ方へ崩行程ニ。秀吉卿ノ陣ニ

モ投合入代トスルニ。東ハ山西ハ段々ト有片岸ニテ地形惡ケレハ。唯少引退入代ト繰引躁立所ニ城兵林。高嶋。本間カ兵二百余人。河原表ヨリ蒐入々々喚叫追討スレハ。先ニ戰居ケル柏原。芳賀。國府寺水ト相言葉スレハ。其郎從等敵ヲ追。筋違テ東ノ方ヘ微反蒐ニ追討スル程ニ引立タル寄手ナレハ爲方無ク秀吉卿ノ陣ヘ崩入。共ニ混亂シテ敗軍ス。城兵ハ尚勝ニ乘リ喚聲ヲ上テ追討スルヿ夥シ。角テ秀吉卿ノ陣ヨリ宮部。糟屋。中條等與力手ノ者ヲ集テ。百計引分テ山手ノ方ヘ微反出少扣テ待ケルカ城兵味方ヲ追討シテ。競懸其横合ヘ蒐入ント打テ懸ル。頓宮。衣笠。中村。大谷等カ右ノ手先ニ在ケレハ。鎗長刀ノ鋒ヲ並テ蒐合。火花ヲ散相戰ニ。互ニ討ル者ヲ蹈越乘越防戰ヿ夥シ。懸所ニ城兵本間。芳賀。神宮寺。國府寺。太田。小寺何レモ手先ニ迯ル敵ヲ追捨テ八十餘人魚鱗ニ連レテ。宮部。糟屋カ陣ノ横合ニ噇ト喚テ揷入ケル程。宮部糟屋忽敗北シテ討ル者夥シ。蜂須賀。谷。柏原返合。城兵ヲ防キテコソ。宮部。糟屋ハ漸ニシテ免タリ。是寄手モ返合。爰ヲ最期ト防戰ヘハ。城兵ハ元來討死センヿヲ思切ケレハ。入代々々喚叫テ相戰フ程ニ。寄手終ニ捲立ラレ。大勢討レヌ。城兵モ此時余多討レ。或手負疲タル者ハ引退。或自害スルモ多カリキ。秀吉卿ハ淺野。竹中。宮川ニ殿サセラレテ。山脇ヘ引玉ヘハ。早黄昏時ニ成ヌ。城兵モ戰疲氣倦。味方ハ殘少討レ。日ハ暮ニ及ヌ。今ハ是マテナリ。山ト相言葉シテ迯敵ヲ追。十五人十八ツヽ打連。河原表ヘ引退相屬シテ。早瀨ノ上ノ瀨ヲ渡。小山崎ノ大手ヘ引籠ル。去レハ今日城兵大手搦手ヨリ打出タル軍勢六百余騎也。馬ノ兵モ多カリケルカ。或討レ或馬ヲ乘倒シケレハ引退。其時ハ乘馬ノ兵一

人モ無ク。歩行ノ兵二百計ニモ不足キ。此合戰ニ城兵討死セシ宗徒ノ人々ニハ。柏原土佐守。林隼人正。高嶋七郎兵衛。神宮寺太郎左衛門。別所左門。廣戸五郎左衛門。頭宮新八。中村三郎。衣笠新助ヲ始。十餘人其外武者余多討死セリ。去程ニ二位山青野原ノ北ノ尾崎造路河原表ノ間ニハ。敵味方ノ死體充滿シテ。平福川下垂血ハ。涿瀧ノ川紅波楯ヲ漂スト書シ本文。今コソ思知レテ哀ナリケルコト共也。

四　城中寄手陣ヘ夜討出之事

去程ニ十二月十四日ノ晝。城ヨリ打出戰ヒ昏シ。僅討殘サレ引籠リケル者共モ。手不負人モ無ク。剩宗徒ノ諸大將大半討死ス。兼テ期シケルコトナレモ。先立人ヲ哀モ惜ハ是世ノ習カヤ。增ヤ云ハン一族舊友父子兄弟ノ中ヲヤ。去レハ弓箭ノ家ニ生レシ身トテ。親ハ子ノ爲ニ勇ミ。子ハ親ノ爲ニ進ム。城中ノ人々ノ心意ノ程コソ哀ナリ。斯テ同日ノ申ノ刻計ノヿカトヨ。城中ニハ川嶋樗丸。芳賀兵衛尉。柏原六郎左衛門尉此三人ヲ始。騎馬十三騎其勢四百餘人。大手ノ門内ニ打集ヌ。是ハ城外ノ合戰味方難儀ナリトヤ思ヒケン。又兼テ約諾ニヤ有ケン。助合セント。後勢ヲ待躰ニ少有餘ス。于時高嶋右馬助櫓ニ在ケルカ。急下リテ人々ニ逢。是ハ今打出給ハントヤ。去レハ敵味方亂合テ相戰時。新手加勢スル時ハ立ニ勝利有ナン。軍早敗軍ト見エ候程ニ。加勢ニハ及マシ。其上日モ程無ウ暮ヌヘシ。殊更搦手ノ寄手大手ノ陣ヘ加勢スルト見エテ。唯今美況ノ川瀬ヲ渡リ。東ノ河端ヨリ押登リ。又各今打出テ。前ナル川ヲ渉リ打上ラントスル時。搦手ヨリ廻ル敵必馳合ヘシ。各川中ニテ防ク事難儀ナラン。然ラハ去ンヌル九月熊見川ニテ。味方利ヲ得ツル謀畧モ徒ラト成テ。後日敵ニ欺ヌヘシ。縱先勢ハ

敵ノ敗スル費ニ乗テ。山脇マテ追行ハ。流石敵大軍ナレハ返合サレテ悉ク滅スヘキナレハ。見給ヘ先勢モ頓テ追捨テ引退ヘシ。左無モ先勢ヲハ捨殺シ給ヘ。味方ノ小勢ヲ以テ大勢ノ敵ニ戰ハンスハ。惟幾度モ敵ノ不意ヲ討給ハンコソ肝要ナレト制シケレハ借止ヌ。懸ル所ニ搦手ヨリ兼テ相圖ノヿナレハ。大手門内ヘ來ル人々ニハ。太田美作太郎。丸山八助。浦上刑部、鵜野小太郎其外騎馬八騎。其勢三百余出來ケルカ。此人々高嶋カ制スル間止ヌ。去程ニ搦手ヨリ廻寄手。堀。木村。明石。櫛橋。山中等其身手負テ有ケレハ。攻口ヘハ與力手勢ヲ遣。其身ハ皆形見山ノ東尾崎ニ在ケルカ。攻口ヨリ寄手悉追立ラレテ敗軍スル所ヲ。城兵追慕ケルカ。下上月ヨリ引違フテ。河原ヲ登ニ大手ノ方ヘ押行ヲ見テ。堀。木村軍使ヲ以テ敗軍ノ味方ヲ集サセケレモ。漸打寄軍勢三百計有ケレハ。此勢ヲ先立。諸大將等ハ秀吉卿ノ御陣急也ト聞テ止事ヲ不得馬ニ昇乗ラレ。二位山ノ下瀬ヲ渡リ。河原ヲ登ニ打出ケルニ。大手ノ合戰敗シテ北ヲ指シテ崩レ行。何樣秀吉卿ノ御大事ナリ。加勢シテ討死セント心計ハ葉流モ。軍勢疲レテ墓不行。青野原ニ着タル此城兵ハ。早瀬ノ下ノ瀬揔ヲ渡リ。西ノ川端土井河邊ニ支タリ。敗軍ノ味方ト覺テ中村。山脇ノ方ヘ引モ。大勢ニテ二位山ヨリ青野原ノ上下ニ。人一人モ無ケレハ。先各爰ニ息繼居タリケルカ。山脇ノ御陣無覺束トテ。其ヨリ頓テ參リケリ。角テ山脇ヘハ、今度上月表ニテ軍勢余多討レ。責ニ難儀ナル由。信長公聞召。高山右近。福富平左衛門尉兩人ニ二千余ノ軍勢ヲ付テ加勢トシテ指下サル。此城勢十二月十日同州姫路ニ着。又羽柴小市郎秀長ニ對面シテ。同十二日ノ晝姫路ヲ立。十三日ノ晩景ニ山脇ノ御陣ニ着

タリ。其折節寄手大ニ敗軍シテ山脇ヘ引集ケレ圧。軍勢皆手負疲果ケレハ。今モ城兵逆寄ニ寄タランハ。難儀ナラント軍勢悉閣ノ裏ヘ入。橋ヲ引。四門ヲ閉テ籠ケル。折節高山。福富。大勢ニテ着陣ス。秀吉對面在テ喜悦不斜。總軍モ少シ色ヲソ直ケル。加之。堀。木村。明石。櫛橋等モ出來ケレハ。山脇ニ集ル軍勢雲霞ノコトシ。依之大手搦手ノ持口攻衆ハ急キ馳歸。各持口ヲ差固候ヘ。敗軍ノ費ニ乘テ城漏落カ。不然ハ逆寄ニスルヿ有ナン。公ヨリ御加勢在レハ。一兩日ノ間士卒ヲ休。大手搦手ヘ手配スヘシ。疾歸給ヘト在ケレハ。各承リ罷立トスル所ニ。高山申ケルハ。各暫待給ヘ。某等加勢トシテ着陣ノ上ハ暫時モ溜ラフヘキニ不候。直ニ同道申スヘシ。新玉ノ年モ程近ク。去圧懸ル長陣ハ益無事ニ候ト。悪々敷ソ申ケレハ。滿座不興ニ聞ケル。去レ圧秀吉ハ其御氣色モ見不給。實

ニモ高山殿ノ仰最ニ候。然ラハ大手ヘ成圧搦手ヘナリ圧。御望ニ任セ候ハント仰ケレハ。高山望申サンハ何レカ益ノ候ハン。但運ハ天ニ有リ。何方ヘ成圧强カラン方ヲ承リ候ヘシ。何條罷向候ハン方ヲハ打破テハ置候ハンヤト申ス。備人々ノ耳ニ立テ聞タリ。于時福富申ケルハ。公ノ仰ニモ。秀吉ノ軍談ハ公ノ御下知ト存知ヨ。トコソノ仰ニテ候。大手搦手ヲ分ケラレテ承リ罷向候ハント禮儀正ク申ケレハ。秀吉卿悦甫ニ入リ玉ヘル御氣色ナリ。其時宮部進出テ。是ハ唯大手搦手ト分テ鬮ニセサセ給ヘカシト打笑テ申ケレハ。秀吉卿サラハ宮部鬮ヲ出サレヨト有ケレハ。宮部承リ頓テ次ノ間ヘ出テ鬮ヲ調ヘ持出テ。兩人カ前ニ置。高山。福富是ヲ捕披テ見ルニ。大手ト書タルヲ福富カ取タリ。高山サラハ堀殿。木村殿同道申サント座ヲ立ントシケレハ。秀吉卿宣ヒケルハ。

暫是ニテ人馬ヲモ休ラレヨカシト仰ケレハ。高山申ケルハ。人ノ生死ト敵ノ打出候ハンヿハ。雨ノ晴間ヲ待事ニ不レ候ト申ス。秀吉卿其儀ニテ候ハヽ攻口ヲハ堀。木村ト番手ニ代リ攻給ヘ。先懸論ヒ仕給フナ。信長公此事ヲ能々謹ムヘシト仰候也ト申サレケレハ。各御請申退出ス。去程ニ攻口少シ遠ケレハト。一番ニ堀。木村。明石。櫛橋其外國人上方勢相属シテ。山中カ手ノ者與力相交テ。五百余ニテ打出タリ。此勢皆度々ノ合戰ニ手負疲レタレハ。墓々シクハ無ケレモ。新手ノ加勢多ケレハ。皆勇メル其様ニテソ押行ヌ。此勢一町計リ隔テ。高山弓鉄炮鎗長刀持タル兵段々トシテ先立。其後ヨリ騎馬三拾騎計二行ニ馬ヲ歩セタリ。此兵ヲ少去テ。高山カ馬廻リ二三百餘打園ミ押ス。其後少シ隔テ陣具兵粮人馬ニ負テ打連タリ。實ニ今參リノ新手ナレハ。朧月夜ト云ナカラ。

馬物具ニ至ルマテ爽カ也シ粧也。是マテノ勢皆搦手ノ攻衆タリ。是ヨリ二町余去テ蜂須賀。小寺。堀尾。福富。梶原。曾根。高砂。志方。餝磨。別府。神東。神西ノ國人美濃尾張參河近江ノ軍勢段々トシテ打連テ。上月カ城ノ大手青野原二位山ノ上ミ下ヘト押行タリ。去程ニ城兵川嶋。芳賀。楢原。太田。丸山。鵜野。浦上此人々ハ今日打出テ。秀吉ノ陣ニ蒐入テ運ノ勝負ヲ決ント相議ス所ニ。高嶋カ異見ニ因テ晝打出ルヿソ默止ケルカ。各一所ニ居テ何マテ斯スヘキ籠城ソヤ。幸敵悉山脇ノ要害ヘ引籠ヌ。是皆疲ニ及フ故ナレハ願所也。イササラハ今昏山脇ヘ押寄。一軍シテ城中ノ運ヲ開カ。不然ハ人ヨリ先ニ討死セント其手配ス。此由高嶋聴付テ。今夜敵ノ疲ヲ討ンヿハ其節ニ非可止。急大廣間ヘ出テ政範申サレケルハ。此間諸大將頻リニ合戰ヲ急ニス。善其トテモ運可開ニ候

ハ子ハ。疲レヲ不待モ斷也。但短慮ニシテ圖ヱ達ヿモ候ハン能々制止給ヘ。名ハ末代ニテ候。サラハ打出面々ニ逢中サント宣ケレハ。諸將ノ方ヘ正澄カ許ヨリ此由案内使ヲ遣ケル。大廣間ニハ政範。正澄。正義。義祐。宇喜多。川嶋。太田。小寺。林ヲ始一族余多並居タリ。斯テ太田美作太郎。芳賀兵衞尉。川嶋樗丸。浦上刑部少輔。鵜野小太郎。丸山八助。永良八郎。檜原六郎左衞門尉此人々縁類ニテ。甲ヲ脫列座ス。各身近キ郎從二三人ツヽヲハ大床マテ俱セヨト也。政範人々ニ對面在テ。各ヘ門出祝申サントテ。打鮑ヲ自手玉ハリ。申サレケルハ。人々度々ノ戰功比類無ヿ候。今夜ハ先疾シテ歸參ラレヨ。一所ニ安否ヲ究メンソト宣ケレハ。皆忝仰哉。生前ニハ頭ヲ隕。死テ草ヲ結ハント存知仕ハ。臣タル道。今以テ空カルヘカラス。一度御運ヲ可開トソ申ケル。于時川嶋賴村ハ子息川嶋賴春ニ向テ。汝果報ノ者ソカシ。兼テハ一人當千ト賴レ參セ。常ニ無慙放逸ニハ有シソカシ。懸ル厚恩ヲ今戰場ニ於テ可奉報ヿノ浦山シサヨヤ。但忠ハ一端而已ニ限ルヘカラス。唯御專途ヲ見屆ヿヲ可存ヿ肝要候トソ申ケル。賴春頭ヲ下ケテ。願ハ忠孝ヲトコソ存知。旦暮是ヲ忘レ不申トコソ申ケル。心ノ裏ニハ今ヲ限ト思フニヤ。武面ニ淚ヲ浮テモタケ不得。滿座ノ人々モ父子恩愛ノ中。親ノ子ヲ思慈悲ヲ感テ。共ニ淚ヲ催セリ。サレハ此樗丸ハ今年十九歲。其長六尺余リノ大力也。常ニハ十四五人ニテ持ケル大木大石ナントヲハ。賴春是ヲ輕々ト捕テ一振々テ投渡ハ。決シテ十四五間ヲ飛セリ。強弓ノ手垂父ニ增レリ。長刀打物ノ達人。常ニ相撲ヲ捕ニ於テハ中國無双人。此故ニ政範常ニ近習ニ侍シム。其夜ノ出立態ト鎧ヲハ諸共ニ着代タリ。塗籠籐ノ弓銀ノ

矟打タル五人張十五束ノ征矢森ノ如ニ負ナシタリ。弓長刀ヲ大麻二郎等是ヲ持タリキ。身近郎從ニ瀬川熊助。永野八右衞門尉。舟越五郎次郎、高森左衞門尉。金津又大夫ナト云ル郎從八人ヲ倶シタリ、于時芳賀申ケルハ。時移候。去來サセ給ヘ。御暇給ラント申テ各退出ス。正澄。正義、義祐。宇喜多。川嶋。小寺。小林。永良。端山其外ノ一族宗徒ノ郎從居合タル人々何モ見送タリ。早夕暮ニ成ヌ。今宵幸ニ朧々ニ打曇ケレハ。忍出ルニ便リアリ。殊更城外ニハ敵一人モ無シ、門内ニテ丸山カ云ケルハ。各馬ニテ忍難ト評議シテ。皆歩行ニテ一番川嶋、芳賀。楢原一手ニ四百余人。内ニ弓ノ士百計有ケルヲ。先立川端迄近ク進ケル時。後勢段々ニ押出。弓ノ上向ニ打上ル。此後勢川ヲ渡ル。如是行列シテ青野原ヨリ造路ヲ北ニ向テ押行ヌ。元來二位山ノ上下青野原ニ寄手ノ小屋多ケレハ。用心スルノ評議有ト也。二番ニハ太田。丸山。浦上。永良一手ニ成テ五百余。是モ弓ノ士ヲ一町計先立。上ニ上月土井ヲ渉リ。早瀬ノ下ヲ打渡リ。河原ヲ北ヘト押行ヌ。懸所ニ山脇佐用ノ方ヨリ。敵大勢出來由。諜士ノ物見等走歸告タリ。丸山云ヤウ。是ハ（マヽ）定テ大手搦手ノ寄手共カ。山脇ヘ引行タルカシラ。夜中ニ己カ陣々ヘ皈ナルヘシ。秀吉卿ニテアラハコソ。幸ニ蒐合勝負可決ヿナラン、與力ノ黨ニ逢テ十死一生ノ軍ハ無益也。敵間遠ケレハ。此方ノ出勢センヿヲハ思ヒ寄マシ。急忍伏給ヘ、遣過テ後引違山脇ヘ寄セン。若シ敵見付蒐來ラハ戰フヘシ。何條疲ニ及ハン敵ナレハ。物ノ不數、各井積ノ上下五ケ所ニコソハ伏タリケレ。去程ニ押通ル敵伏兵ノ在リトモ不知。東尾崎ノ造路ヲ南ヘ打通ニ。思ヒノ外ニ大勢也ト呼キ合テ伏居タリ。角テ打通敵半ハ過ツラン。何樣此

敵ハ騎馬ノ兵多ケレハ。若秀吉ニテヤ有ラン。然ハ願フ所也。蒐入テ勝負ヲ決セン。立トコロニ勝チナント各呼キケルヲ。丸山强テ。縱秀吉ナリモ遣過シテ山脇へ寄給へ。防兵少カラン。役所々々ヲ燒拂テ。直ニ捕返何所迄モ追詰テ戰ント方便秀云ケル程ニ。人々同心シテ鎹ヲ傾ケ守居タリ。斯山脇ノ大手へ向シ川嶋カ一揆。青野原ノ北ノ尾崎造道ヲ北ヘト押行所ニ。賴春カ物見ノ諜士走返テ。山脇勢打出タリト告タリキ。是ニ因テ各立止リ。遙ニ見渡ニ。果テ疑フ所無シ。賴春云ヤウハ。天晴敵哉。爰等ニ待テヤ戰ハン。相蒐ニヤ向ハント。葉流ケレハ。檜原云ヒケルハ。イヤ〳〵今夜ハ山脇へ寄テ運ノ一合戰ト決セリ。但搦手へ向シ太田。丸山カ途中ニ戰ンニハ此方ニモ止事ヲ不得。是等カ押行ヲ幽カニ見送候シカ。今ハ其樣不見候。必定伏タリト覺候。去レハ丸山ノ公事武者カ機變スルモノ哉。我々急キ伏候ハン。馬ヲモ制止ツレハコソ。伏兵ノ法ヲモ用ヒ。彼方此方ト指圖シテ。青野原ノ尾崎三ケ所ノ山陰ニコソ伏タリケレ。實打續タル戰場ナレハ。敵味方ノ死骸累々タル故ニ。添伏スルニ便有。南無阿彌陀佛觀念シテ伏居タリ。斯テ山脇ノ軍勢ハ。所々ニ伏兵在モ不知通ケルカ。青野原ノ尾崎ニ伏居タル樗丸是ヲ見テ。思外ナル大軍哉。其上騎馬ノ兵多シ。弓鉄炮其行列彼ト謂是ト謂。秀吉ナラスンハ爭斯有ヘキ。齊起立矢ヲ射懸敗軍スル所へ蒐入テ。縱橫八面ニ切捲モノナラハ。秀吉ヲハ討捕ナント思。前後ノ味方ヲ指晲ケレモ芳賀。檜原ハ靜リ返テ音モセス。賴春兎角見繕ヒ。其間ニ先キノ一軍ヲハ通タリ。其後少シ隔テ。是モ弓鉄炮騎馬步行ノ兵段々トシテ大勢押通ル。賴春是ヲ見テ何樣此敵ハ秀吉ニ疑無シ。人々ハ不知天ノ與ル所

也瀬川永野起立ト呼張ケレハ。頼春カ手ノ兵百五十余人一度ニ噇ト起立。此勢ニハ弓ノ兵多ケレハ是等兼テ手配有ケレハ。八拾余人眞先ニ走出、敵間近々ト寄テ。騎馬ノ兵ヲ見懸テ横様ニ矢ヲ射懸タリ。敵ハ福富也ケルカ。伏兵ノ起立噇ト叫其聲ニ人馬共ニ揉合所ナレハ。矢ニ中リ將棊倒ノ如ク彌上ニ落重リ。或馬ニ刎落サレ。或共ニ押倒レ。忽人塚ヲソ築タリケル。頼春カ弓士勝ニ乗テ矢ヲ射懸事大降雨ノ如クナレハ。殘リ少ク成テ河原表へ崩レ行。角テ頼春カ兵ノ發スルヲ見テ。北ノ尾崎ニ伏居タル芳賀モ噇ト喚キ弓ノ士三拾余人一番ニ走出騒キ立タル敵ノ二陣へ矢ヲ射懸ケルニ。此矢ニ中ル者夥シ。殘黨一捲ニナリテ。河原表へ人雪頽ヲ築テ崩出ル所ヲ。川嶋。芳賀カ兵鎗長刀ノ鋒ヲ並テ追討スル事夥シ。山脇勢ハ軍ナリシカト。若干討或共ニ押倒レ。殘少クナリテ河原ヲ北へ崩行。角テ堀。木村。高山ヲ始先勢共後ニ合戰有ト見テ。一番ニ高山太皷ヲ打テ先ノ弓鉄炮繰戻ト下知シケルカ。歩行ノ兵ト弓鉄炮混亂シ揉合テ躁ク間。高山早意テ懸ヨト云捨眞先ニ懸出ケレハ。騎馬兵三拾六騎噇ト喚テ馳出タリ。椙原ハ川崎芳賀カ兵ノ發スルヲ見テ、南無三寶相圖違フ物哉。我黨ノ人々能伏路へ押通タル騎馬ノ大勢返合スヘシ、去程ナラハ弓ノ士一番ニ走出、騎馬ノ兵ヲ見莵テ射ヨ。端武者ニ目ナカケソ。矢乏ケレハ空矢無キ様ニ射ヨト下知シテ伏居ケル所ニ、案ノ如ク高山カ騎馬ノ兵。馬ノ鼻ヲ並テ懸來ル。椙原カ弓士三十余ノ敵ヲ向筋違雁翅ニ走出、矢ヲ射懸ケル程ニ。高山カ騎馬ノ兵弓手妻手へ射落サレ或馬刎落レ。僅殘黨西河原へ駈散所ヲ。弓ノ士進テ矢ヲ射懸ル程ニ、椙原カ弓士其外ノ兵ヲ制シ止メ、北ノ山陰へ打連

テ去テ扣タリ。兎角スル程ニ。高山カ歩行ノ兵追々ニ出來ケレ𪜈。騎馬兵悉射落サレ。半死生ノ者モ有ケルニ。高山殊重手負ケレハ。介錯ナント、當惑タリ。檜原是ヲ見テ。敵蒐來躰ニモ非ス。去𪜈後ヨリ大勢押來ヌ。味方小勢ナルニ。然モ別々ニ成テ戰フヘキニ非ス。イサヤ人々川嶋芳賀ト一所ニ成ナン。急キ給ヘト長刀捕テ打擔(カタケ)北ヲ差テ走行程ニ。弓士與力手者打(マヽ)門テ。足早ニ成テ押登ル。去程ニ上河原ニ伏タル太田。丸山鵜野浦上。永夏ノ人々。敵遙ニ打通ル。サラハ山脇ヘ寄ント起立所ニ。青野原ノ北ニ當リ軍有リト覺テ喚叫聲太急也。偖ハ只今押通ルハ秀吉ナレハコソ。川嶋等カ蒐合テ戰ヌ。ヨシ端武者ナリ𪜈今ハ助合スレハ不可也トテ躁立ケレハ。丸山云樣。靜リ玉ヘ人々敵ハ秀吉ニ非ス。思ノ外ニ騎馬多ケレ𪜈見給タルカ馬印替レリ。唯府中ヨリ加勢ト

覺ユ。是ヲ秀吉ト誤リ見タルカ。不レ然今宵ノ朧月敵面ニ行向戰フナルヘシ。善シ其ハ兎モ角モアレ。籠城ハ早詰ノ勝負ニ決リ。直ニ山脇ノ搦手ヘ寄ヘシ。秀吉出勢ニ於ハ。殘黨等ヲ追討テ山上山下ノ陣屋ヘ放火シテ。頓テ捕跡。何所マテモ追詰勝負ヲ決スヘシ。秀吉山脇ニアリ𪜈。懸ル騒動ノ聞ハ。出勢スルカ手配ナント、躁所ヘ。搦手ヨリ切入ラハ立所ニ勝ナン。此方ヘ急タマヘト。丸山眞先ニ走出ケレハ。彼カ與力手ノ者我先ト走行程ニ。殘リシ人モ可止ナラ子ハトテ。段々ニ走着ケレハ。丸山モ待請テ。サラハ是ヨリ各手配シテ可寄。若シ秀吉途中ヘ出勢セラル、カ。或出張ノ勢モコソアレ。弓士ヲ先立給ヘト各一所二手ニ分テ。先立ツル事一町計。其後ニ五人ノ武者東西二手ニナリテ。山脇ノ北方搦手ヘト押寄スル。斯テ後ノ合戰急也ト見テ。次第ニ騒動夥ク聞ケレ

ハ。永良八郎左衛門尉ハ小高キ所へ走登。後遥ニ省續走着人々ニ申ケルハ。敵味方ハ不レ知。此方ヲ指テ大勢崩來ス。何樣後ヨリ附慕ト見エテ。大勢ノ軍卒暫ク猶豫スル其樣ハ。返合テ防戰ヤラン。其程三町計ニハ不レ遠ト見エタル。去程ニ秀吉山脇ニ在ナランニハ。此騷動ニ用心シテ、節所ニ相待カ。又ハ出勢スルカ。何樣先後ニ近着。軍勢ヲ爰程ニ伏テ見屆。味方ノ人々ナランニ。幸ニ我々入代。一防々戰人々息ヲモ繼セン、敵ナランニ於テハ勿論ノ事。前後ヨリ攻合セハ。唯一戰ニ追崩シ候ハント申ケレハ、各此儀可然ト。佐用ノ鄉下方棚呂陰五ケ所ニ弓ノ兵ヲ前ニ伏シ。其ヨリ段々ト伏タリキ。丸山云樣。今宵ノ夜討墓々シカラシ。相圖違カ故也ト齒咬シテコソ伏居タリ。斯テ造道河原ノ間ヲ北ヘ崩來者ヲ指覗キ見ルニ。味方𪜈不疊皆戰疲。手負ナント、見エテ肩ニ懸ケ或五人三人カ介錯シテ引立〳〵通モ餘多有。段々ト打續ケルニ。中絶テ其後ヨリ僅ノ勢ニテ打通ケルカ。働スレハ先勢ノ中へ蒐入々々追討シテハ。引下引下レハ。後勢走出〳〵入代テハ追討ス。是コソ川嶋。芳賀。楢原ニテ在ケニ見エツ。是等モ戰疲タリト見エテ。追討スルモ急ナラス。引勢モ流石ニ度々返合テ防程ニ。追手モ次第ニ兵減セリ。此故ニ太田。浦上ヲ始メイサ、セ給ヘ助合テ味方息繼セント起ケルヲ。丸山カ云樣。暫待給ヘ。後ヨリ大勢押來レリ。敵カ味方カ計難。若敵ナランニ於テハ段々ト混亂シテ。十死一生ノ合戰成難シ。一陣ハ戰フニ圖違𪜈。二陣ハ是ヲ攻メスンハ皆血氣ニテ。兵法ニ又是ヲ戒サランヤ。人ハ不レ知楢原ハ如何ニ今宵ノ合戰ハ仕出セルナト、制止ケレハ。人々又草伏ヌ。去程ニ高山池尻ナントコソ矢疵ヲ負テ進ム事ヲ得サリシカ

𪜈此人々ノ軍卒或堀木村ヲ始。搦手ノ攻衆悉返合テ。川嶋、芳賀、檜原カ度々慕ケルヲ。檜原度々返合防ケルニ。寄手大勢討レケレハ。敢テ追慕フ事ヲ不得、敵近着サレハ、檜原ハ與力手ノ者ヲ引纏テ 川嶋芳賀ニ走着引行ハ、堀、木村 高山カ兵卒テ附慕、檜原カ働比類(脱アラン)事𪜈也、角テ後勢太田 浦上。丸山等カ伏居タル目通ヲ打過ル程ニ、丸山今ソト云程ニ、喠ト喚起立。疾風ノ如ク追懸タリ。寄手ハ思ヨラサル事ニテハ有、山脇南ノ岡へ崩行所ヲ。鵜野、永良。太田三手ニ分レテ是ヲ追討スル程ニ。討ル者其數ヲ不知、或追倒レテ弓手妻手ニ彌上ニ仆重リ 亦ハ南方へ迯行者モ多カリキ 城兵是ヲ追捨。路ヨリ東ノ岡へ迯。敵ヲ目ニ懸テ太田、浦上 永良 鵜野、丸山カ兵ヲ鶴翼ニ立テ 山脇ノ方へ追立々々追討スル事甚急也。先キニ追行川嶋、芳賀。檜原ハ是ヲ見テ 五陣ニ迯來ル敵近着程ニ。返合テ攻合へキ。左ハ無テ山ト相言葉スルト聞エケルカ。西河原ノ方へ披去ケリ「是ヨリ迯ル敵ヲ。太田、浦上。鵜野。永良、丸山カ兵共喚叫テ 追討スル程ニ。先キニ迯行敵ト高山カ兵一所ニ成、揉合テ引テ行ハ、川嶋。芳賀。檜原ハ太田。浦上。鵜野。永良、丸山カ後ニ着テ 息ヲ繼ク 去レハ軍散テ後秀吉卿此節ノ城兵ノ師立ヲ度々仰テ感玉ヒキ。

五。城兵秀吉卿ノ陣へ紛入之事

去程ニ十二月十三日ノ夜。山脇ニハ秀吉卿諸大將ヲ召サレテ仰ケルハ。今南方ニ合戰有テ其騒動夥シ 是ハ定テ寄場軍勢悉小屋々々ニ着所ヲ 城兵打テ出タルカ然ラスハ。途中へ出張シテ戰フナルへシ。サレ𪜈何程ノ事カ有ラン 今夜ハ高山福富新手ニテ、弓鉄炮共ニ不足無ケレハ 軍ハ忽勝ナン。但此陣へモ手配シテ寄ル事モ有へシ。各其心得仕給へト仰ケレハ。

皆御請申テ退出ス。然レ𪜈軍卒疲レ手負多ケレハ。敵ヤ寄ラント躁動スル事夥シ。此故ニ諸大將打廻テ漸陣ヲ張タリ。去レハ山脇陣ノ張ヤウハ、要害樂地ヲ中ニシテ、西坂南尾崎ヘハ。宮部竹中カ持口也。同西北ノ間造路ノ邊ニハ、小田垣宮川カ陣ヲ張リ。其外北東山上山下四維ノ陣大手口ハ鳥雲ニ陣ヲ張レリ。角テ青野原ノ合戰。山脇勢忽敗シ。大勢討レ。殘黨悉造路ト河原ノ間ヲ北ヘ崩ケル。山脇ノ遠ク候。士等モ初ハ敵味方。不貞ト軍使ヲ立ラル、。宮部小田垣モ山上傳軍使ヲ出シテ。是ヲ窺シムルニ。其間二三町近着ケレハ。各物見ノ士走歸リ申ケルハ。押來勢南北十余町カ間ニ打續候。敵味方混亂シタリト見エテ。防戰ノ段々ニ候。先勢五六百計コソ押來候ト申ケル。宮部竹中モ敵味方混亂シタルカ。別段ナキカ慥ニ見ヨト軍使ヲ遣シ。其ヨリ陣ヲ一町余リ南ノ谷間ヘ押出テ。兵ヲ伏隱居タリキ。去程ニ兎角スル間ニ。押來敵ハ當國勢ノ笠印ト見エ候由物見等皈テ申ニ高山福富ハ如何ト思扣居タル所ニ。程無ク先勢押通ル間。一町計横様ニ見レハ。果シテ明石高砂。曾禰。別府ノ國人等カ笠印入交リケルカ。手負タル者共カ手ヲ引カレ肩ニ懸テ。莫々シカラヌ其様ニテ引來程ニ。苦々シフモ人望無フモ見遣テコソハ通リケレ。此勢一町計モ北ヘ引通リ。小田垣宮川カ造道ヨリ。河原ノ間ニ陣シケルヲ見。流石ニ耻カハシフモ思ケン。尾崎ノ方ヘ微反テ山脇ノ搦手ノ方ヘ引行程ニ。宮川小田垣輿ヲ醒シ。此者共ハ何所ヘトテソ引行ソト呼キ合テ扣居タリ。去程ニ城兵川嶋樗丸。太田美作太郎。丸山八助此三人手者三拾人計相印ヲハ鎧ノ引合ニ隱シ。引行寄手ノ後ニ付。鎗長刀ヲ杖ニ突。如何ニモ疲レタル躰ニテ打紛テ通リケル

ニ宮部竹中ヲ始メ。宮川小田垣等カ今參リノ味方ソト思ヒテ通ケルコソ方見ケレ。斯テ敗軍ノ寄手ノ後勢等モ宮部竹中カ陣ノ前近押來ルニ。城兵附慕程ニ。動モスレハ皈合セ防戰ニ城兵少シ退ケレハ。山脇勢又引退ス。敵引退ケハ。城兵附慕テ追討ス。宮部。竹中是ヲ見テ。起立ヤットト呼張程ニ。與力ノ手勢五百余人ト喚キ起立ニ。此手ニハ弓ノ士少々有レハ。眞先ヘ走出。城兵ノ横合ヘ矢ヲ放。是ニ中ル者多ケレハ。殘黨軍ヲ亂セリ。城兵ノ武者檜原。浦上。山田 杉岡 鵜野。舟坂 芳賀彼是百五拾余人後ニ有ケレハ。鎗長刀ノ鋒ヲ双テ 宮部。竹中カ競懸勢ノ中ヘ向 筋違ニ噇ト喚テ攎蒐程ニ。城兵ノ總軍同音ニ鬨ヲ上テ颯ト懸合テ 火花ヲ散シ相戰ニ。城兵ハ元來今夜ヲ手詰ノ軍ト思カ故ニ。討ルヽ者ヲハ乘越々々防キ戰フ。是ヨリ寄手ノ敗軍モ取テ返。高山。堀。木村。明石。

楠橋。山中カ與力手ノ者ヲ始。搦手ヘ向フ上方勢其外國人等モ追着ケレ𪜈。皆手負疲レタレハ墓々シカラ子𪜈。宮部。竹中ニ助合セントスルニ。敵味方入亂タル夜合戰。何レヲ敵𪜈貞ナラスシ後ニ徒ニ扣タリ。角テハ宮部。竹中カ兵モ晝ノ軍ヨリ手負疲ヌレハ。若干討レ殘黨不怺東尾崎ヘ噇ト崩レテ引退ク。城兵勝ニ乘テ鯨聲ヲ上テ是ヲ追討ス。爰ニ高山カ執事松本カ打寄スルト等ク。笠見ヘ捕登敵ノ笠印ノ働ヲ。城ト手ノ者𪜈ニ知ラセテ。其勢二百計ニテ噇ト喚キ走蒐ニ追討スル程ニ。高山カ兵一手ニ擧テ三百計リ松本ニ走着。城兵ノ中ヘ蒐入々々切テ懸レハ。鵜野浦上返合テ縱横八面ニ攎捲レハ。芳賀檜原。永貞其外城兵返合々々テ戰ニ。谷。堀尾。小寺。蜂須賀カ與力手者ヲ始。宮部竹中カ兵ヲ進テ。城兵ヲ中ニ追捕籠テ討ントス。城兵魚鱗ニ連テ。大勢ノ中ヲ打破々

々切テ廻リ。或走抜テハ一息繼嘩ト喚テ蒐入々々撞廻ニ。面ヲ合スル者ハ無。元來疲タル山脇ナレハ。毎度追討ル者其數ヲ不知。去レ𪜈山脇勢ハ流石ニ大軍也。高山。福富等今夜ノ軍仕損スレハ。今ハ討死スルカ。打破ルカ。引ナ〳〵ト下知スル程ニ城兵武ク進𪜈。ゲニモ百千ニ倍シタル敵ニ蒐合フニ。其身金鉄ナラ子ハ。終ニハ大敵防クニ暇無ケレハ。今ハ戰ヒ疲。數ケ所ノ手負討ルモアリ。或引退テ其ニ指違或自害スルモ多カリキ。角扶踈ニ成テ戰ヘハ。山脇勢勝ニ乗以前ノ恥辱ヲ雪カント勇テ戰タリ。角テ先ニ引行タル一揆ノ勢𪜈ハ。宮部小田垣カ陣ノ前ヲ打通リ。一町計リ北ノ尾崎ニ糟屋カ陣ヲ張扣ケルカ。少此方ヨリ右ヘ微反。造道ヨリ河原ノ方ヘ引行ヌ。角テ以前ニ紛入タル城兵。太田。川嶋。丸山ハ時分ハ能ト思ヒケン。川ソト相言葉シテ。只三人甲附ノ首一宛手々ニ提。長刀打擔テ糟屋カ陣ヘ通計走リ入レハ。三人カ郎從三十余人ハ兼テ相圖ニヤ有ケン。更ヌ躰ニ見ナシテ。敵ノ中ニシテ同ク河原ノ方ヘ紛行ケルカ。頓テ半町計過ケルカ。又右リヘ五人三人宛引分レテ。河原ノ上ニ居敷ヌ。去程ニ件ノ三人糟屋カ陣ニ入ラントスル程ニ。是ヲ異思所ニ。丸山カ云ケルハ是ハ小寺。蜂須賀カ手者ニテ候カ。夜討ノ大將ト名乗ツル高嶋。早瀬ヲ組討仕候間。君ハ何所ニ御座候ソ。敎テ給ハレ。實見ニ入候ハント申ケルニ。其器量骨柄ニヤ恐ケン。又實ソト思ケン。少シ猶豫スル其間ニ。打通後ノ英積。岸本。中條。中村。樋口等陣ヘ蒐入ケレヲ見狎ヌ人也。暫止レト云ケルヲ。此三人何條サルコトカ候ハント押入通ラントスルヲ。イヤトヨ止給ヘト。問答シテ騒ケレハ。糟屋モ陣ヲ寄セ秀吉卿ノ陣ヨリモ出合テ。十重廿重ニ捕圍間。三

人ノ者モ今ハ遁ヌ處ト思ヒ。サラハ此首見參ニ入ラレヨト云テ。右リヘ取直スト見エシカ。敵ノ中ヘ陂ト云テ向樣三方ヘ抛(ナクル)ニ。是ニ當ル者彌上ニ打倒タリ。去程ニ周章騷揉合所ヲ。三人カ長刀ヲ以テ三方ヘ切入ケルニ。力量人ニ勝レ。何レモ六尺豐ナル大兵ナレハ。嵐ニ木ノ葉散コトク迯走所追討ケルヿ夥シ。殘黨カ後ノ秀吉ノ陣ヘ迯懸ケル程ニ。秀吉モ近習ノ侍四五人打圍ミ。後ノ山岡破ナル方ヘ捕登リ玉テ。其難ヲハ遁サセ給キ。城兵元來秀吉ノ出張ノ陣ヲ不知故ナラン。角テ河原表ニ扣居タル。太田。川嶋。丸山カ郎從モ走出テ。大勢ノ揉合フ敵ノ中ヘ矢ヲ射懸。矢種盡ヌレハ。太刀ヲ拔連喚叫テ切入レハ。南ノ岡ニ戰居タル城兵是ニ力ヲ得テ蝶ト相言葉シテ五人十人ツヽ一手ニ成テ。敵ノ中ヲ打破〳〵テ。太田。丸山。川嶋ト一所ニ成。四角八面ニ切テマハル。山脇勢ノ宮部。竹中。小田垣。糟屋ヲ始トシテ。敵ニ謀(タハカツ)テ陣ノ前ヲ通シケルヨト齒咬(ハカミ)シテ。夜討ノ後ヨリ追慕ヘハ。高山。福富。谷。堀尾。小寺。蜂須賀ヲ始メ。搦手ノ寄手我モ〳〵ト秀吉ノ陣ヘ打寄ケレ𪜈敵味方入亂タル夜合戰ナレハ。同士討ナントモ多カラン。斯テ淺野ハ山脇ノ要害ヨリ。丑寅ニ當テ又一段高キ所陣シケルカ。夜討ノ騷動近着ノミナラス。秀吉卿ノ陣ヘ夜討寄タリト聞テ。五百余ノ兵ヲ三手ニ分ケ。東尾崎ヘ押出篝見ニ扣テ合戰ノ樣ヲ見聞シテ。士卒ニ下知シテ云右往左往ト迯ハ多追討スルハ少シ。何レモ笠印附サレハ敵味方分明ナラス。但進テ追討スルヲ城兵ト知ヘシ。月搔(カキ)疊ヌレハ。同士討スルナ。者𪜈只蒐ヨト云テ與力ニ手者ヲ相交テ。二十五人ツヽ組テ指下。太皷ヲ打テ軍兵ヲ進。我身モ百五十余人ヲ俱テ。淺野彌兵衞尉是ニ有ト呼張。敵ハ小勢

也。返合テ切テ懸レハ。吾黨者𪜈敵ニ後ヲ見ナト勵シ混亂シタル其中ヘ。三方ヨリ瞳ト喚テ切入ケル程ニ城兵餘多討レタリ。淺野ハ糟屋中村ニ逢テ。秀吉ノ御在所ヲ尋問ニ不知ト云フ。此故ニ淺野ヲ始御行衞ヲ尋兼テ。今ハ混討死セント蒐入〳〵獨武者ト成テ戰ケル去程ニ城兵ノ太田。川嶋。丸山。永良ハ隱レ無キ大力成ケルカ。四人一所ニ成テ長刀ヲ以テ大勢ノ敵ノ中ヲ縱橫八面ニ當テ切テ廻リ何所ニカ秀吉ノ御座ラン。撰討ニセント追立々々走リ廻リケレ𪜈終ニ其ト思フ敵ニモ不逢。彼等ニ薙居タル其數ヲ不知。芳賀。浦上。鵜野。楢原ハ宮部。高山。福富等カ手ニテ討死。或自害シテケレハ。次第ニ城兵扶疎ニ成ヌ。是ニ依テ山脇勢勝ニ乘リ。入代〳〵防戰程ニ。十方ニ押隔ラレテハ。又一所ニ成ヿ七八度也。永良モ討死ス。太田。川嶋。丸山モ敵ノ屯スル所ヲハ。秀吉

ナラン。千度百度蒐入リ懸破程ニ。數ケ所ノ疵ヲ負續味方ハ無シ。今ハ是マテトヤ思ケン。三人一所ニ成テ通計走拔。岡ナル所ヘ走上。長刀ヲ杖ニ突大音上テ云樣ハ。如何ニ人々唯今自害仕ヲ見給ヘ。一人ハ當國立野ノ者。一人ハ同竹間ノ者。今一人ハ作州津山者也。首捕當所ノ者ニ問給ハヽ見知レル人モヤ候ハント云儘ニ。突タル長刀投捨テ。自首ヲ搔落。三人𪜈ニ內伏ニ成テ伏タリケル。是等カ郎從モ所々ニ戰居タリケルカ。是ヲ見テ當ル敵ヲ切拂剪拂テ同岡ニ走上。或自害シ指違テ死スル者二十八人。最期ニ勇マシカリシ事𪜈也。斯テソ軍ハ先止ニケル實ニ十三日ノ晝ヨリノ軍。其夜中マテ小止モ無ク戰場ナレハ。山脇ノ山上。山下。長谷。中村ヨリ上月ノ大手搦手マテ五拾余町ノ其間ニ倒レ重リタル死骸ハ。田面モ陸モ川岸モ尺寸明間無ク。地ハ紅ニ染ツレハ。明ル

春ノ半マテ平福川ノ流ノ末井積(イセキ)ニ懸ル其骸ハ。南方ノ海邊マテニ打續テ。歴タルハ哀ト云モ余リアリ。

六、臘月十四日合戰之事

明レハ十二月十四日ノ曉ニハ。山脇ノ夜合戰止ミケレ𪜈。打續タル合戰ナレハ。山脇勢殊更ニ手負多疲果テ。打集タル兵ハ少。秀吉ノ御在所ヲ尋見ントテ。淺野彌兵衛尉ヲ始メ。諸大將方々ヘ手分セントテ。會合ス懸ル所ニ佐用坂ヨリ山根藤岡カ走來。御在所ヲ申テコソ皆悦甫ニ入リ。萬歳ヲ唱ケレ其ヨリ山根。藤岡ハ直ニ立返リ。要害ノ裏ヘ御供申ント走出ケレハ。淺野。宮部。樽屋モ御迎ニ參リ。御供申シ山脇要害ヘ歸リ玉フ。打散タル軍勢モ。漸打集テ糧ナントヲ營ケレハ。所々ニ煙立登テ賑(ニギハフ)サマニ見タリキ。斯テ城中ニハ。夕部打出タリシ人々ノ一人トテモ引テ歸ルハ無ケレ𪜈。敵モ今ハ疲ツヘシ。費ヲ打タント。同十五日ノ未明ニ打テソ出タリケル。眞先ハ横山藤左衛門尉義祐其勢二百四人ヲ分タリ。先キハ百五拾余人。弓ノ士ニ鉄炮ノ兵少々打交テ。上月ノ方ヘ押出タリ。此勢ヲ少シ去テ龜(キ)甲ノ中ニ右文字附タル茜ノ旗一流。馬上ニ是ヲ指揚サセテ。義祐隨兵永頁。黑岩。井上ヲ始メ。騎馬ノ兵六騎二行ニ歩マセ。左右ノ手先ニ弓鎗長刀打衾(カツギ)タル六百余人進テ。土井川ヲ渉リ。福原カ古城ノ下瀨ヲ渡テ。山脇ノ搦手北坂ヘト押出タリ。其次ニ宇喜多掃部助廣維三百余ニテ。是モ二手ニ分ケ先キハ弓ノ兵相交テ二百余人。此勢ヲハ半町計去テ。黑白二ツノ角捕紙ノ馬印ヲ馬上ニ押揚サセテ。廣維隨兵代安寺。三村。高森。馬淵ヲ始メ。騎馬六騎兩ノ手先ニ弓抦道具ヲ持タル兵百計打閑テ押出。早瀨ノ下ヲ打渡。山脇ノ大手西坂ヘト押向フ。其次ニ早瀨權太郎正繼

百計ノ兵是モ弓鎗長刀ノ兵五六十余リヲ先立タリ。此勢去テ正繼カ騎馬ノ兵六騎。兩ノ手先ニ弓ノ兵三十余人。馬閑ニアユマセ押ス。亦半町計後ヨリ。早瀨帶刀正義水色ニ白浪下濃（ナミスリコ）三ケ日附タル旗一流指揚サセ。其勢二百計先立。其ヨリ半町計去テ。正義隨兵神吉太郎左衛門尉。眞嶋次郎右衛門尉。相山。河崎彼是六騎兩ノ手先ニ弓柄道具ヲ。打交タル兵五拾余人。同瀨梡ヲ打涉リヌ。宇喜多ヲ始東河原ニテ前後ノ勢ヲ待揃。其ヨリ造道ヲ經テ東山際ニ添テ押行ヌ。去程ニ山脇ニハ遠物見ノ方ヨリ使來テ。城兵押出タリト注進スル間。軍勢等是ヲ聞傳テ。周章騷事大形ナラス。理リナル哉。打ツヽキタル合戰ナレハ。諸大將スラ手不負ハ無シ。況重手ヲ負又ハ疵ヲ蒙ル者𪜈幾等トカ云ハン。未糧疲タ軍勢ナレハ。唯疾逃去ナント支度シテ噪事夥シ。去レ𪜈秀吉ハ西ノ山端ヘ出玉テ。寄來ル敵ノ分際ヲ遙ニ見玉フテ。淺野。宮部ヲ召レテ。アレヲ見給ヘ城兵二手ニ寄スル凡五六百ニハ過ヘカラス。味方ノ軍勢ハ是ニ百千倍セリ。思フニ城ニハ早糧盡タリト見エ。止ムコトヲ不得シテ加樣ニ葉流出ルナルヘシ。味方ノ疲ヲ討ント計ニモアラシ。去レ𪜈今疲レタル軍兵ヲ以テ平場ニ戰ンヨリ。諸卒悉山上サセ。鳥雲八陣ヲ張。城ヲ攻ル敵ノコトク防戰シムヘシ。重手負タル者𪜈ヲハ。主々是ヲ撰出シ。予カ圍ノ内ヘモ入ヨカシ。武者等ハ南北ノ山端ニ出合テ防クヘシ。小寺。蜂須賀。谷。堀尾。堀。木村。高山。福富ヲ始。其外ノ武者幸此陣ニ居合ケルコソ祝着ナレ。南北ヲ鬮取シテ出張セラルヘシト。先々軍兵ヲ繰上。手配セヨト諸大將ノ許ヘ軍使ヲ立ラレケル。是ニ依テ諸大將我モ〱ト山上ス。俄ノコトニテハアリ。敵ハ近着ト云。我先ト混亂シテ揉合騷ク有

様ハ。前代未聞ノ事共也。サレハ山脇ノ本陣ト申ハ。佐用ノ郡山脇山ノ頂上ニ。方三町ニ堀ヲ堀廻シ。堀ノ揚土ヲ以テ堀ノ裏際ヲ高サ五尺ニ築地ノ土手ヲツキ。土手上ニ柵逆茂木或高茂架竹把ヲ揲タリ。四方ニ門馬出拮橋アリ。四門ノ左右土手ノ上ニハ掻楯ヲ突雙ヘ是ヨリ弓鉄炮ヲ打出ス様ニ構ツレハ。如何ナル大敵成共攻入ヘキヤウハアルマシ。當時三方ノ拮橋ヲ引テ門ヲ閉。南方一ケ所ヲハ大手口ト定メ押開。是ヨリ懸引セント成ニ。去レトモ今コソ陣中ニハ弓鉄炮無コソ方見ケル。前宵ノ合戦急ナルニ依テ。矢種竭或戦場ニ捨タリト也。東南西北ヲ手配有テ。諸大将悉ク出張シテ八陣鳥雲ノ陣固ケレハ。要害ノ地ト云人々トモ頼母鋪フニ思ヒ。各持口ヘ向フトテ山脇ノ山上山下ノ軍勢混亂シテ揉合フ事夥シ。斯テ城兵宇喜多。早瀬父子ハ山脇ヘ今十町計ニ近着。又

山脇ニハ尾崎々々ノ小屋々々ヨリ軍勢悉山上スル。其騒動ノ夥ケレハ。早瀬帯刀遙ニ是ヲ見テ。急度思案シテ。先キニ押行宇喜多ト子息正繼カ陣使ヲ立テ。暫扣給ヘ。山下ノ敵共ハ皆山上ヘ捕登候。然ヲ今向サマニ寄セハ。偏ニ城ヲ攻ルニテ。味方利無ルヘシ。幸ニ其程山上スル小徑有。其ヨリ此方モ山上シ。峯傳ニ寄セテ山々ノ嶽片ヘ追落給ヘ。岑々然モ平ニ候。但此邊ノ事ヲハ愚息正繼ニ案内セサセ。彼ニ先打サセラルヘシヤト云フ。遣正繼カ許ヘモ爾々ト云ヒヤリ。又廣維此由聞テ。實モト同心シテケレハ。其ヨリ正繼先陣シテ。東尾崎ノ廻破傳ニ山上シ。山脇ヘト押行ヌ。角テ山脇ノ北坂ヘ廻リシ横山ハ。福原カ古城ノ下邊ニテ。山脇ノ騒動山下ノ軍勢右往左往ト山上スルヲ見テ。永良黒岩ニ云ケルハ。アレ見給ヘ人々。敵陣ノ有様ハ早敗軍ノ機顯レタリ。只今ノ程ニ追立

クレンスル物ヲト。旗ヲ進メテ打タリケル。去レハ福原滅テ後コノ城ヲ秀吉ノ捕出ノ爲ニ軍勢ヲ入置タリ。此故ニ横山出勢ノ時。高嶋中サレケルハ。早瀬ノ下ヨリ川ヲ越給ヘト也横山承テ候。去ナカラ昨日夕部ノ合戰ニ必定加勢仕ラン。然ハ城ニハ殘黨不足ト存候。若加勢爲ナラン程ノ者共ニオヒテハ。義祐カ打通ラン陣アタリヲハ。爭(イカテ)遮申スヘキ山脇ノ北坂ヘハ直路ニテ候ヘハ。福岡野ノ渉ヲ越シ申スヘキニテ候ト也。高嶋ハ不レ入(バ)強身ト思ヒケレ𪜈出勢ノ時至リケレハ。問答無益ナリト思。然ハ兎モ角モト申テ此渡ヘ押向ト也。此義祐ト申スハ。高嶋カ舍弟ニテ。當國室山ノ城主ニテ隱レ無キ良將也。去程ニ横山ハ福岡野ノ城近キ道通リニ。弓ノ兵ヲ立城ヨリ打テ出テハ暫矢軍セヨト。永良黑岩ヲ指添置。義祐ハ一町計南ノ山際ニ僅五六十計ニテ。旗押立テ扣居タリ。其間ニ先勢百五十余人前ナル川瀬ヲ打渡。向川原ヘ打上ルヲ見テ。義祐旗押上サセ。馬廻ノ兵ヲ先ニタテ。騎馬ノ兵ヲ後ニ立テ。渉瀨ニ颯ト打入リヌ。其後ヨリ大道筋ニ扣タル弓鉄炮ノ兵五十余人ハ。義祐カ後ヨリ殿ニ打渡リタリ。此勢悉向川原ヘ打上リタリ。ケニモ義祐カ推量ノ如ク。福岡野ノ城ヨリ兵一人モ出合サレハ。城兵無異ニ河ヲ越。河原ヲ登ニ打ケル。及比大手ヘ向フ宇喜多。早瀬父子カ軍勢ハ。造道ヨリ東ヲ北ヘ押登リケルカ。俄ニ旗ノ手ヲ押テ。軍勢悉ク東ノ山間ヘ微反登ル。横山急度見テ。カレ見給ヘ人々。敵ニ依テ轉化スル宇喜多。早瀬カ師哉ト心能ケニ戯レテ。各馬ヲ靜ニ山脇ノ北坂差テ押行程ニ。北坂モ早不遠。未タ巳刻ノキラ／＼ニ近所ニ敵在リ𪜈不思哉。誠伎倆(キリヤウ)事柄勇マシカリケル大將トソ見エケル。角テ大手ヘ向城兵。先陣ノ大將早瀬權

大頁正繼ハ峯傳ニ押ケルカ。途中ニ扣テ後陣ヲ待揃。其ヨリ三手ニ分ケ鋒頭ニ立テ。何レモ弓ノ士ヲ先ニシテ押向所ニ。正繼カ物見ノ諜士走來テ。山脇ニモ城兵峯傳ニ寄スルト見テ。軍勢ヲ俄ニ手配替テ。峯々ヘ出向フ由ヲ申ス。去程ニ山脇ヨリ南方五町計隔テ。少シ平地有。此攸ニ山脇勢高山。福富一千余ノ兵ヲ東西二手ニ分ケテ出張ス。爰ニテ兩人カ手ヨリ兵百余人宛出シテ。三百余ノ兵ヲ亦一町計南ノ松林冬枯ノ柴草陰ニ伏置キ。合戰半ナラン時起立。敵ノ後ヨリ攻合スヘシト云含メタリ。去程ニ城兵早瀨正繼一番ニ押向ヒ見ルニ。敵ノ出張段々タリ。正繼是ヲ見テ、敵間三十間計ニテ鬨ヲ噇トソ上サセケル。是ニ依テ城兵二陣三陣同音ニ鬨ヲ上サセケルニ。山林ニ響キ渡リテ夥シ。去レハ高山。福富等カ兵𪜈ハ。新手ナリケルカ。前ノ夜ノ合戰ニ大勢討レ。殘ル者モ手不負ハ無シ。剩弓鉄炮ヲ捨テ敗軍シケル者𪜈ナレハ。城兵ノ勢ヒ猛ナルニ。弓ノ兵進テ不戰。先ニ敗軍ノ機顯レテ。色メキ騷キ立ケル所ニ。正繼ハ西ノ山端ニ扣タル高山カ陣近ケレハ。直ニ弓ノ兵ヲ進メ。騷キ立タル敵ノ中ヘ矢ヲ射懸タリ。正繼カ弓ノ兵ハ強弓ノ勢兵多ケレハ。此矢ニ中テ弓手妻手ヘ倒ルヿ將棊倒ノ如クナレハ。殘黨不怺一捲ニ成テ敗走ス。正繼ハ弓ノ士ヲ制シテ。鎗長刀打物ノ兵ヲ進。一追々討サセテ。頓テ彼ヲモ制止。法ノ如兵ヲ立直。靜ニ馬ヲ進メ押向フ。高山ハ敗スト云𪜈猶後ニ敵有ト見テ。兵ヲ不亂ト也。斯テ城兵ノ二陣ニ押ケル宇喜多ハ。東ノ岡ニ扣タル敵ヲ目懸テ進ケルカ。早瀨カ西方ノ敵ニ矢ヲ射懸ケルニ等ク。弓ノ兵進テ矢ヲ射懸サセタリ。敵ハ福富ト也。是レモ弓鉄炮ハ無シ。西ノ岡ナル高山モ散々ニ成テ逃走ルヲ見テ。福富カ兵

モ防ヘキ便無ケレハ。噇ト崩レテ迯走ル所ヲ。宇喜多カ弓ノ士敵ヲ追サマニ矢ヲ射懸タリ。此矢ニ中ル者大勢也。宇喜多モ矢種ヲ惜ミ頓テ弓ノ兵ヲ制シ止メテ。猶後陣ノ敵ニ當ラント。弓ノ兵ヲ前ノ如立テ福富カ陣シタル地ニ兵ヲ扣テ見繕居タリ。懸ル所ニ高山。福富カ伏兵起立テ。噇ト喚キ拔連テ城兵ヲ打テカヽル。城兵ハ早瀨帶刀也。帶刀是ヲ見テ。騎馬ノ兵ト與打物ノ兵南北二手ニ颯ト分レテ。敵ヲ中ニ捕籠ト披合ケレハ。先ニ進タル早瀨カ弓ノ士。後ニ敵有ト見テ。一度ニ捕テ返シケル程ニ。山脇勢不叶トヤ思ヒケン。噇ト亂テ西ノ岡ヘ敗走スル所ヲ。正義カ馬廻ニ倶シタル弓ノ士拾余人有ケルカ。カレヲ一番ニ追出テ。敗軍ノ敵ノ中ヘ射懸タリ。此矢ニアタリ。或共ニ押倒。彌上ニ重ル者多カリキ。早瀨ハ弓ノ兵ヲ制テ唯追討ト下知スル程ニ。打物ノ兵鎗長刀ノ士鉾ヲ並テ追討ス。騎馬ノ兵弓ノ士。南北ヨリ敵ヲ捕卷ヤウニ追行程ニ。山脇勢一捲ニ成テ西ノ山端ヘ崩レ行。正義旌ヲ上ケテ喚叫テ追討スル程ニ。所ハ不案內ナル上方勢ニテ。行先狹キモ不辨。後ヨリ敵ノ急ニ追討スル儘。西ノ山端ノ片岸ヘ追懸ラレテ。彌上ニ追落サレタリ。正義ハ不意ノ敵ヲ忽追落シ。鬨ヲ噇ト上。直ニ旗ノ手ヲ先陣ノ方ヘト押行ス。角テ高山福富ハ早瀨。宇喜多カ弓ノ兵ニ射立ラレ。右往左往ト敗軍ス。爰ニ山脇勢竹中ノ何某其勢二百計ニテ。高山カ後一町計阻テ陣ヲ張扣ケルカ。高山カ敗軍スルヲ見テ。竹中頓テ入代テ早瀨ニ打テ蒐ル。竹中ハ弓ノ士少々有ケルヲ先立テ。魚鱗ニ立タリ。早瀨モ兵ヲ先キニ立。我身ハ里ト相言葉シテ。敵ノ向サマ少右リヘ微反。隨兵五騎馬廻リニ有ケル弓ノ兵十余人一手ニ成テ。敵ノ左ノ手先横合ヘト懸出。敵間二

十間計リニ馬ヲ懸居テ。矢ヲ射懸タリ。正繼ハ隱レ無キ強弓ノ手垂也。從者モ不劣勢兵也。コレ等カ放矢ニ竹中カ先勢射伏ラル、間。殘黨不怺一捲ニ成。後ヘ崩レ懸リ。混亂スル所ヲ早瀨カ弓ノ兵三十余人。箕手ニ行渡リ。揉合タル敵ノ中ヘ矢ヲ射懸ケル程ニ。空矢無ケレハ。弓手妻手ヘ大勢射伏ラル、間。何カハ以テ怺ヘキ。曈ト崩レテ迯走。城兵ノ鎗長刀ノ士先ノ弓ノ兵ニ入代。喚キ叫テ追討ス。正繼カ一手ト弓ノ兵ト東西二手分テ。迯敵ヲ捕卷ヤウニソ追懸ケル。竹中武トイヘ圧一度モ返合セス。敗軍ノ味方ニ押立ラレテ。西ノ山端ノ片岸ヨリ追落サレ。彌上ニ落重タリ。竹中モ半死半生ノ躰ニテ漸引ケルト也。早瀨ハ頓テ兵ヲ集。以前ニ竹中カ陣シケル所ニ引捕テ。暫ク息繼居タリ。斯テ東ノ岡ニハ宇喜多カ出張ノ敵ヲ一戰ニ追崩ケル所ニ。山脇勢宮部カ入代テ押出。弓ノ兵進來程ニ。宇喜多モ弓ノ兵ヲ進テ。吾身ハ騎馬ヲ一手ニ歩行ノ兵少々引連。態ト東ノ笠見ヘ馬ヲ懸返ス。宮部カ先勢ト宇喜多カ弓ノ士。端タナク三十間計ニ行合テ。互ニ矢射違所ニ。城兵代安寺。馬淵等カ東ノ岡ニ馬ヲ懸居テ。宮部陣ノ横合ヘ矢ヲ射懸タリ。彼等ハ名譽ノ強弓也。打圍タル敵ナレハ。宮部カ兵大勢射伏ラレ。剩宮部モ重手負ケレハ。宮部忽敗北シテ。左往右往ニ散亂スル所ヲ。宇喜多カ打物ノ兵是ヲ追討スルニ。宮部モ既ニ討レント見ヘケルカ。從者餘多返合。防ケル其隙ニ。虎口ノ死ヲ免テ引ケルトナリ。宇喜多ハ鐘ヲ鳴シ軍兵ヲ制シ止メ。笠見ヘ引上見繕居タリ。宮部ハ漸爰ヲ引退。直ニ山脇ノ園ヘ入ケルトナリ。爰ニ山脇勢ノ中ニ。小田垣。宮川。中桐。糟屋段々ト出張シテ扣ケレハ。先勢敗スルニ入代ラント。我モ〳〵ト兵ヲ進メテ押向フ。城兵ニハ

早瀬正義押來テ。敵ノ段々ト押出ヲ見テ。予カ相當ルヘキ敵ナリト思ケレハ。宇喜多カ陣ヘ軍使ヲ立テ。今ハ某入代申スニテ候。御陣ヲ寄ラレヨト云。ヤカテ弓ノ兵ヲ先立テ法ノコトク押向フ。敵ハ小田垣。宮川二百計ノ兵ヲ二手分テ押出ケルカ。弓鉄炮無ケレハ早瀬カ弓兵進來ルヲ見テ。進退度ヲ失テ途中ニ扣テ進ミ不得。早瀬是ヲ見テ。敵ハ皆打物ナリ此方モ矢トホシ、鎗長刀ノ鋒ヲ並テ撞懸レト。太皷ヲ打テ兵ヲ進テケレハ。先ノ弓ト左右ヘ颯ト分レ。敵ノ兩ノ手先ヘ矢少々射懸タリ。小田垣。宮川カ兵此矢ニ中。弓手妻手ヘ倒ル、間。殘黨噇ト崩レテ敗走ス。小田垣。宮川モ共ニ押立ラレテ崩行所ヲ。早瀬カ兵勝ニ乘テ追討スル事太急也ケレハ。討ル、者夥シ。爰ニ糟屋。中桐二陣ニ在ケルカ。小田垣等カ兵色メキ浮足ニ成ヲ見テ。先勢ハ敗スルソ防ヘシ。爰ヲ破ラレテ敵ニ後口ヲ見センヨリハ。討死シテ名ヲ末代ニ殘スヘシト制シ勵マシテ。東西二手引分ルレハ。案ノ如ク先勢散々ニ成敗北ス。糟屋。中桐披合テ城兵ニ打懸ケレハ。早瀬魚鱗ニ成テ噇ト喚イテ突蒐ケレハ。糟屋。中桐頃刻支テ戰タリ。元來山脇勢ハ手負多殊更疲レタル者共ナレハ。討ル者ヲ多既敗セント見ヘシ所ニ。糟屋。中桐後ニ扣テ兵ヲ入代々々味方ヲ勵シ下知シテ戰シム。加之以前ニ敗シタル高山。福富モ敗軍ノ兵ノヲ集テ。糟屋。中桐カ兩ノ手先ヘ押出テ。爰ヲ引ナト喚叫テ戰ハ　宮川。小田垣。宮部カ與力手者モ。小田垣。宮川カ手ニ附テ。彼是三百計ニテ相加ケル程ニ。返合テ戰。山脇勢雲霞ノ如支タリ。早瀬ハ敵段々ニ押來ヲ見テ。東ノ笠見ヘ馬ヲ懸出シケレハ。旗指ヲ始騎馬ノ兵前後弓ノ兵皆早瀬カ後ヨリ走リ着ク。角テ早瀬ハ敵ヲ西北ニ見テ。其間三十間

計ニ馬ヲ懸居タリケレハ。騎馬ノ兵彼是五十計走着程ニ。段々ト進テ敵ノ中ヘ矢ヲ射懸サセタリ。勢兵ノ弓士多ケレハ。此矢ニ當テ將棊倒シ如射仆ル丶間。糟屋。中桐。高山。福富一捲ニ成テ敗走ス。早瀨カ兵勝ニ乘テ追討スル事夥シ。加之城兵ニハ宇喜多掃部助。二百計ノ兵ヲ亂テ押來リ。先ノ早瀨カ兵ニ加勢シテ。迯ル敵ノ中ヘ蒐入々々箕ノ手ニ連テ追討スレハ。早瀨。宇喜多モ騎馬ノ兵各一面ニ立テ。味方ノ殿ニ扣テ。靜ニ押行ヌ。又西ノ岡ニ早瀨正繼カ高山。竹中ヲ追散テ。續ク敵在リヤト見繕ヒ扣居タリケルカ。東方ノ軍急也ト見エテケレハ。イサ人々東方ノ味方ト一所ニ成テ。山脇ヘ寄セント歩行ノ兵ヲ先立テ押出ケルカ。宇喜多。早瀨カ敵ヲ追立テテ旗ノ進ムヲ見テ。騎馬ヲ直先ニ馳テ迯ル敵ノ中ヘ懸入々々長刀ヲ以追討スル程ニ。敵ノ大勢騎馬ニ懸ナヤマサレ。所

々ニ追倒サレテ。彌上ニ倒重コト夥シ。正繼カ歩行ノ兵モ走着。敵ノ可然者ト見ユルヲハ。撰打シテ追テ行。去レハ城兵ハ常ニ鹿狩狐狼ヲ狩ルニ馬ヲ以テセリ。此故ニ今山上ニテ敵ヲ追立々々懸引變ニ應シ。自在ナル有樣ナレハ。疲タル敵共ノ懸惱モ理也。爰ニ山脇ノ武者蜂須賀。中村。堀。木村。櫛橋等ハ打ツ丶キタル合戰ニ與力手者余多討レ。其身モ手負ツカレタリケレドモ。幸今月山脇ニ居合。出張ノ手配タリケレドモ。軍勢疲タルニ弓鉄炮無ケレハ。偏ニ討死セント思ヒキリ。小高キ所ニ陣シテ扣ケルカ。味方ノ先勢敗軍シテ。右往左往ト迯來ヲ見テ。鎗長刀ノ兵ヲ前ニ立テ。東ノ筮見ニ兵ヲ立テ待懸タリ。敗軍ノ高山カ武者ニ。海津。八橋ト福富カ郎從稻隈。鹽田等蜂須賀。中村カ東ノ岡ニ扣タルヲ見テ。今ハ返サテハ叶ヌ所ト思ヒ返シ合ルソヤ。我ト思ハン人々ハ。返合

テ防戰ト呼張テ。味方ノ中ヲ押分〳〵テ。東ノ端ヘ押出ケレハ。打散タル手ノ者ヲ始。小田垣。宮川續テ東方ハ微反通リヌ。此人々ニ勵サレテ。糟屋。中桐其外ノ軍勢我モ〳〵ト返合防戰程ニ。蜂須賀。堀。木村。櫛橋。中村モ兵ヲ進テ打テ懸ル。城兵早瀨父子。宇喜多。三所ニ分レテハ一所ニ成。又三方ヘ敵ヲ追立。防戰程ニ早瀨カ旗ト宇喜多カ馬印ノ逢テ別ル事七八度也ケレハ。旗指モ馬ヲ馳倒シ。歩行ニ成リ。旗馬印ノ地仆ル事度々ニ及ヒケレ氏。終ニ是ヲ捨サリキ。城兵ノ騎馬ノ兵モ半ハ馬ヲ離レ。歩行ニ成テ戰フモアリ。追討死スルモ在ケレハ。元來城兵小勢ナレハ。今ハ扶疎成ケレ氏。大勢ノ敵ヲ追立々々蜘手十文字ニ打破テハ。懸拔。一息繼テハ掛入々々相戰フ程ニ。山脇勢モ若干討レ。或一所々々ニ追倒サレ。半死半生ノ者多カリケレ氏。皆討死セント思切テケレハ。城兵競懸レハ。披合蒐拔レハ。追蒐千度百度破ラレケレ氏。遠引モセス。芝居ヲ蹈テ防戰ニ。城兵モ其身金鐵ナラ子ハ。戰ヒニ疲テ見エタリキ。斯テ城兵ノ早瀨權太郎正繼。同從者舟越。藤懸。是等ハ末馬強也ケレハ。唯三騎連レテ東笠見ヘ馬ヲ通計掛出。敵ノ後横筋違テ馬ヲ懸居射殘ス矢少々有ケレハ。打圍タル敵ヲ撰テ放矢ニ中リ。弓手妻手ヘ倒程ニ。殘黨不怺一捲ニ成テ敗走ス。早瀨モ矢種竭ケレハ。三騎馬ノ鼻ヲ雙テ。迯敵ヲ追テ行。加之廣維正義モ兵ヲ進テ攻合ケルニ。山脇勢終ニ破ラレテ。右往左往ト迯走。城兵モ小勢ヲ以テ大敵ヲ破ヿ數ケ度成ケレハ。次第ニ兵減シ。機儀ト見エテ。正義鐘ヲ鳴シ追討スル兵ヲ制シ止メテ。聽テ宇喜多與早瀨父子一所ニ成。東ノ方少シ岡ナル所ヘ軍兵ヲ別上ケ。旗打立暫息ヲソ繼タリケリ。打集タル兵僅ニ百四五十ニハ不足キ。

是等モ皆手不負者モ無リケリ。城兵引去レハ。山脇勢所々ニ芝居シテ。息ヲソ繼居タリ。去ハ今日高山。福富カ手合ノ軍ニ利ヲ失。軍兵餘多討レ。其身モ疵ヲ負ナカラ。今ノ蒐引。變ニ應シ防戰フ有様ハ。拔群ナリシ事𪜈也。

七。山脇合戰附横山自害之事

角テ城兵横山ハ。山脇ノ搦手北坂ヘト押寄ケルカ。遠町ヲ廻ル其間ニ。大手ノ合戰始テ。喚キ叫フ其聲ノ山川モ崩ル丶計リニ夥シ。去レ𪜈横山ハ少𪜈不騒。旗押揚サセ馬ニ白泡咬セ靜ニ歩行。去程ニ山脇ノ北坂ニハ。敵寄スルト見ヘテ。淺野。谷。堀尾。小寺。梶原。曾禰。志万ヲ始メ國餘多相屬シ。北坂ニ出張シ。左右笠見々々手配。烏雲ニ陣ヲ張テ待掛タリ。九折坂ナル路カ丶ル堅キ陣ヘハ如何ナル子房韓信ナリ𪜈。坂拔ヘキ様アラシトソ見エシ。去レ𪜈軍勢等ハ度々ノ合戰ニ手負疲タル者𪜈ナレハ。敵ノ近着ヲ見テ。皆浮足ニ成。敗軍ノ機ニ色メキ騒キ合フ間。淺野走廻テ。諸大將ニ逢士卒ヲハケマシ進テ打通。淺野カ手ニハ弓鉄炮少々有ケルヲ。所々ニ手配シテ。坂口一番先キニ出張シテ待居リ。横山ハ遥ニ北坂ノ敵陣ヲ見渡シ。旗指井上ニ云ケルハ。天晴敵ヤ縦何千人モアレ。烏雲ノ陣ヲモ張レ。唯一捲リニ追立テンツ。只吾此所案内ナルニ可懸法ニ非スハ勝テ實ナラスト人ニ嘲哢ヲ受ケンヿモ口惜カルヘシ。謀ヲ以テ勝タランヿソアラマホシケレ。去來ヤ人々佐用ヲ經テ。地下人柴苅路ヨリ山脇ヘ寄セント。北坂ノ此方ヨリ引違テ。水ト相言葉スレハ。先キニ押行弓鉄炮ノ士是ヲ請テ佐用坂ヘト押登ル。横山ハ馬ヲ少シ早メケレハ。前後ノ士黒烟ヲ立テ。佐用坂ヘト揉モンテ押登ル。北坂ニハ淺野ヲ始メ。武者蹀立テ敵ハ後廻ルト見ユ。此方モ軍勢ヲ指下シ。後

ヨリ追懸ンヤト騒動スル所ニ。福井。山仕強テ申ケルハ。軍敵間遥ニ行延後テ候程ニ。敵坂上ニ待テ防キ候ハヽ。大坂ヲノホル。味方ナレハ忽利ヲ失ヒ候ヘシ。唯此儘ニテ軍勢ヲ段々後ヘ繰上給ヘカシト論スル其間ニ。横山ハ通計馳通。佐用坂ノ邊ヨリ右ノ小徑ヲ經テ。淺野カ元ノ陣屋ノ前ヘ打出。少モ不遛打通ル。角テ北坂ノ軍勢ハ淺野カ許ヨリ軍使ヲ以テ。諸大將ノ陣々段々ニ後ヘ繰戻シ。御陣ノ南門ヘ出合給ヘトナリ。是ニ因テ諸大將一勢々々繰戻ケルニ。山路ノ小徑道狹キ。大軍ヲ俄ニ繰戻サントスル間。混亂シテ指傳タル有樣也。斯テ山脇御陣ノ後北ノ方當テ一町計隔テ。山田。長濱。桑名。樋口等陣屋ヲ雙テ居タリケルカ。思ヒヨラス。後ヨリ茜ノ旗一流指揚テ。城兵一揆懸出タリ。山田。桑名カ手ニハ弓鉄炮無ケレハ防ニ便非ス。兵士皆迯入。笹柴ノ鹿垣陰ニ引隱レタリ。横山是ヲ見テ少ノ敵ナレ𪜈。伏兵ナレハ後口ニ殘スヘキニ非スト。弓鉄炮ヲハ永良黒岩ヲ指添テ。敵ノ役所ヨリ二三間計東南ヘ押廻シ。歩行ノ兵百余人ヲハ敵ノ役所ノ後ヨリ。鹿垣押破噇ト喚突入タリ。義祐ハ井上。於路坂。奈波是騎馬ニ馬廻ノ兵五拾余人ヲ倶シテ。先ノ弓ノ兵ニ少シ引下リテ。敵ノ小屋ノ東ヘ懸寄タリ。斯テ横山カ兵敵ノ三所ノ役所ヘ押入。鎗長刀ノ鋒ヲ反テ喚聲ヲ上テ撞懸ケルニ。敵忽敗軍シテ。崩出ント揉合所ヲ。城兵手繁撞蒐ケルニ。大勢突ラレ半ハ共ニ押倒。彌上ニ重伏テ殘黨僅ニ成テ。西ノ方ヘ敗走ス。義祐是ヲ見テ。彼ヲ追討マテニ不及ト下知シテ引捕。直ニ秀吉ノ陣ヘ押行。東門ヘ今ニ三十間計ニ寄テ見ルニ。橋アレ𪜈引返シ。門ヲ閉。堀ノ裏土手ノ上ニハ竹把或ハ搔楯ヲ揲タリ。横山急度見テ。少モ不溜旄ヲ上テ。頓テ南ノ方ヘ

押廻ス。角テ南門前ニハ勢ノ程二百計。東西ニ分レ出張ス。横山ハ弓ノ兵ヲ進。押向ケレハ吾身ハ騎馬六騎歩行ノ兵ヲ先立テ。南ノ方へ微反静ニ押廻ル。是ハ築地近ケレハ。弓鉄炮ヲ除ニヤ亦門前ノ敵ノ横合へ蒐入ラント思フニヤ。賢キ師ナリト秀吉卿築地ノ上ヨリ見玉ヒテ感シラレタリキ。去程ニ横山カ弓鉄炮南門ノ敵ニ押寄（マヽ）三十計ニシテ矢ヲ射懸ケル。山脇勢ハ弓鉄炮無ケレハ。城兵ノ弓鉄炮進來ヲ見テ忽敗軍シテ。門ノ内へ迯入モアリ。西ノ方へ散走スルモアリテ。指支タル敵件ノ弓鉄炮ニ中者大勢也。殘黨等走散。頓テ橋ヲ引。門ヲ閉。正ハ横山直ニ攻入ベキヤウ無ク旄ヲ上テ弓ノ兵ヲ引播。南へ一町計引去テ。暫見繕居タリ。斯テ西ノ方ヨリ勢ノ程二百計押出タリ。是ハ先ニ敗タル山田。桑名。樋口。櫻井。岸本等カ敗軍ノ兵ヲ集テ押來リ。横山ニ打懸。横山又弓ノ兵鎗長刀ノ兵ヲ指添。相蒐ニセサセ。義祐ハ騎馬ヲ揃テ一揆シ。馬廻ニ逞兵二十人計ヲ連。敵合西ノ方へ押廻ル。偏ニ敵ノ横合後ヨリ蒐破ラン勢タリ。山脇勢ハ以前ニ云甲斐無ク。横山ニ追立ラレタルヲ無念ニ思ヒ。南門出張ノ味方ト押合テ。御陣前ニテ一軍セント打テ出ケルニ。南門出張ノ味方敗レタリト見エシカモ。今更不戰シテ引へキニ非スト打向ケルニ。城兵ノ弓鉄炮先立テ押出ヲ不叶トヲモヒ。色メキ騷立所へ。城兵噇ト喚キ蒐出ケル。城兵ニ兼テ下知アリ。敵ニ弓無ケレハ。此方モ打物ノ兵ヲ以テセヨト也。此故ニ打物ノ兵聲ヲ發スレハ。先ノ弓ノ兵左右へ颯ト披テ。于時打物ノ兵鎗長刀ノ鋒ヲ雙テ揰蒐ケルニ。山脇勢元來ヨリ浮足ニ躁立ケル者モナレハ。一支モ不爲噇ト崩レテ敗走ス。城兵ハ勝ニ乘。猶是ヲ追討ス。加之義祐カ騎馬ノ兵ヲ以テ。迯敵

ノ中ヘ懸入々々追討スル程ニ。大勢討レ或共ニ押倒サレ。彌上ニ仆重ルモアリ。義祐馬ヲ懸居旌ヲ上ケ追行兵ドモヲ引捕敵ハ是ニ限ルヘカラスト。懸場前ニ殘シ兵ヲ立直扣タリ。角テ北坂ニ出張シタル山脇勢ト覺テ段々ト押來横山兼テ期シタル敵ソカシ廣見ヘ出シテハ惡カリナン弓ノ兵進テ射ヨト下知シテ。義祐ハ亦騎馬ノ兵一手ニ成テ。西方ヘ少懸拔扣タリ。步程ニ横山カ弓ノ士段々ト走出敵ノ中ヘ矢ヲ射懸タリ。廻門ナル所ノ狹キ地ニ指懸タル敵ノ大勢ナレハ。件ノ矢ニ中テ弓手妻手ヘ倒臥者多ケレハ後勢忽逆崩テ揉合コト夥シ義祐旌ヲ上レハ鑓長刀ノ兵ドモカ弓ノ兵ニ入代リ時ト噢テ突懸リ追討スルヿ夥シ敵ノ後勢モ內簇ケレハ入代ヘキヤウモ無ク敗軍スル味方ニ押出ラレ一捲ニ成テ崩レ行。角テ山脇南門ヨリ兵ヲ出サレテ。横山カ後ヘ

押來ル。義祐是ヲ見テ。頓テ弓ノ士ヲ打向吾身ハ騎馬六騎ニ廻ニハ。步行ノ兵僅廿人計ヲ俱シテ。南ノ方ヘ懸廻ケルカ。敵ノ横合ヘ蒐入ラント見エシ勢ナリ。山脇勢ハ城兵弓ノ士押向ヲ見テ不叶トヤ思ヒケン。途中ニ扣テ進ミ不得義祐弓ノ士ヲ進メケルニ。弓兵一揉モンテ走寄ヲ見テ。山脇勢散々ニ成テ遁行程ニ義祐カ騎兵六騎一度懸出。所々ニ馬ヲ蒐居テ矢ヲ射懸ケル義祐永良。於路地。黑岩何レモ究竟ノ强弓ノ勢兵ナレハ。此矢一筋ニテ二人三人射倒テケリ城兵モ矢ヲ惜ミ續矢ヲハ不放唯附倒テケリ城兵弓ノ士諸共追懸ケレドモ悉南門ヘ捲入リ桔橋ヲ引ケレハ頓テ門前ニ三十間計此方ニ追止リ。人馬ノ息継セ緩々ト扣居タリキ。斯テ北坂ヘ追行シ横山カ兵モ後ニ敵有テ義祐返合ケルヲ見テ。彼等モ敵ヲ追捨テ捕テ返シ義祐カ旗ノ前ニ來リ息繼タリ。

懸所ニ北坂ニ支タル小寺。梶原。谷、堀尾。淺野ヲ始トシテ。城兵引去ヌレハ。段々ニ捕テ返押出タリ。中ニモ淺野ハ北坂ノ上ヨリ築地ノ北小路ヲ打廻リ南門ノ方ヘ打出タリ。此道ニテ英積。岸本。樋口等モ淺野ニ組シテケリ角テ横山ハ南門近ク攻寄ケレモ敵悉楯籠橋ヲ引ク間攻入ヿモ不叶頃刻見繕扣居タリ。懸所ヘ北坂ヘ出張シタル山脇勢南門前ヘ東西二手ニ成テ押出タリ。横山是ヲ見テ東方ヨリ押出タル敵ハ弓鉄炮少々先立タリト見テ此敵ニ懸テハ悪カリナント思ヒ則ト相言葉シテ。西南ノ方ヘ二町計颯ト蒐退。爰ニテ兵粮丸橋紅水ヲ用ユ。角テ西ノ方ヨリ押出ル敵間一町計ニ成ヌ。義祐弓ノ兵ニ打物ノ兵ヲ交テ態西ノ方ヘ微返懸リニ押廻ヌ。敵ニハ弓鉄炮無ケレハニヤ。途中ニ扣テ進ミ不得横山ハ騎馬六騎弓ノ兵拾余人ヲ連テ。尚西ノ方ヘ敵ノ右山脇ヘト蒐廻ス角テ山脇勢ハ城兵後脇ヘ押廻スヲ見テ。騒キ合ケルカ。不怺噇ト亂レテ東ノ方ヘ崩レ行。横山得タリ賢箕ノ手ニ成テ引行敵ノ中ヘ遠矢少々射懸追テ行程ニ先ニ進タル横山カ弓ノ兵共ノ目通ヲ半ハ敵引過程ニ。件ノ弓ノ兵走出テ矢少々射懸テ敵ヲ東ノ方ヘ追向タリ。角テ南門内外ヘモ圍ノ裏ヨリ。軍兵餘多出張シテ居タリケルカ西ヨリ敗軍スル味方ノ南門近フ成ケル程ニ敗軍スル味方ニ助合テ城兵ヲ防クラント見ル所ニ思ノ外ニ門内ヘ引入テ。驚テ橋ヲ引門ヲ閉タリ搦手ヨリ敗軍スル山脇勢ハ。元來皆手負疲タル者共ナレハ。一返モ返シ不得。僅ナル城兵ニ押立ラレ。剰討者夥シ。角テ東ヨリ押出タル山脇勢南門前ヲ西ヘ押向ケルカ搦手ノ味方崩來程ニ。敗軍ノ味方ヲモ制シ止メ彼等ニ人代ラント中途ニ扣ヘテ居タリキ城兵頻リニ

追立ケル。敵一捲ニ成テ淺野カ陣ヘ迯懸ケル程ニ、淺野モ俄ニ披合ントスルニ、北ハ要害堀アリ。南ハ山地形惡シ。唯雁翅ニ引披追ヒ來ル敵ヲ防ント、弓鉄炮ヲ立テ直ス所ニ、敗軍ノ味方迯入、淺野カ軍勢ト混亂シテ揉合間。猶引退防クヘシト繰引ニスル程コソアレ。各一所ニナリテ捲立ラレ。一度モ返シ合スルヿ無シ此時城兵ハ騎馬一手ニ成リ、南ノ笠見ヘ懸廻、矢種盡ヌレハ、長刀ヲ以テ迯敵ノ然ルヘキ者ト見ルヲ切伏撞伏追討ス、山脇勢ハ討ル丶而已ナラス、或其ニ押倒レ、所々ニ彌上ニ追仆ル者其數ヲ不知。去レトモ淺野ト山田心早走拔、南ヘ微反蒐出ケレハ。彼カ手ノ者我モ〳〵ト走拔テ、主ノ許ニ走寄者多カリキ、角テ城ノ騎馬一手ニ成追來ヲ見テ、是コソ城兵ノ大將ナルソ。走寄テ馬ノ諸膝平頸切テ刎落サセ、首捕テ高名セヨ。吾ニ續ケト勵ン、淺野、山田百五十四人同音ニ関ヲ上、切先ヲ揃、鱗ニ連テ蒐向。義祐ハ態ト騎馬ノ兵六ケ所ニ分、懸向フ横山。永良、黒岩、奈波。於路地ナトハ群ニ勝レタル大力也、此等馬上ニ長刀ヲ振テ懸向ニ。山脇勢不怺披靡テ敗走ス。義祐ト井上ト山ノ邊ニ騎馬ノ鼻ヲ雙。懸入々々切テ廻ル。其外歩行ノ兵トモ義祐カ旗本ヘ走集、縱横八面ニ當テ戰ヘハ、淺野モ僅二十余人計打圍テ防ケル、城兵競懸レハ。披合蒐通レハ附纂散亂スルトモ遠引セス。蒐引變ニ應テ相戰程ニ。敗軍ノ諸大將諸卒等マテ是ニ力ヲ得、吾モ〳〵ト返合、城兵ヲ中ニ捕籠テ、追ツ返シツ戰ニ。山脇勢大軍也トイヘトモ、僅ノ城兵ニ捲立ラレテ、討ル者其數ヲ不知、去レトモ山脇要害ノ前ト謂、度々ノ合戰ニ利ヲ失、無念ノヿニ思ヒケレハ、今ハ討死セント思切、防戰フ程ニ、城兵モ元來討死センヿヲ思ヒ切テケレハ。十方ヘ追分レテ。又一所ニ

集ヿ凡三十余ケ度ニ及ケレハ。城兵武勇也トイヘ𪜈。大敵防クニ暇無ク。處々ニテ討レ。終ニ南門ヘ攻入ヿモ不叶。今ハ義祐ハ輿旗指。井上騎馬ノ兵唯二騎歩行ノ兵二十余人計ニ成テ。四角八方ニ敵ヲ受テ戰ケルカ。今ハ是迄トヤ思ケン。義祐旌ヲ上テ南ノ岡ヘ懸拔ケレハ。井上ヲ始歩行ノ兵𪜈當ノ敵ヲ打拂ヒ。皆南ノ岡ヘト引テ行。山脇勢ハ大勢ナレ𪜈。至テ疲果ケレハ。横山カ引退ヲ見ナカラ追テモ行ス。皆芝居シテ息繼居タリ。角テ横山ハ二町南ノ岡ヘ懸拔テ。馬ヲ北頭(カシラ)ニ立テ居タリケレ𪜈。近着敵モ無ケレハ。頓テ馬ヨリオリ芝居シツ。其郎從等射甞甲ヲモ打落サレ。鎧ノ袖草摺ノ外モ切落サレ。鑓長刀ニ至マテ。簓(サヽラ)ノ如ニテ各紅ニ成タリ。横山ハ此時シモ落ハ易カリナン。偏ニ討死ヲ思ヒ切テヤ在ケン。目邊大敵在リ𪜈不恐。可レ退地アレ𪜈不見。唯由々ト扇子遣テ居タリケリ。懸ル折節上月表ヨリ後詰ノ勢打出タリ。是ハ高嶋小七郎ト與國府寺勝兵尉。兼テ相圖アリテ。兩大將其勢二百余也キ。先陣ハ高嶋白旗上絃ノ月下ニ在。三巴附タル旗。奈波新兵衛カ馬上ニ是ヲ指上タリ。相隨武者中村四郎左衛門尉。瀨川三郎兵衛尉。檜原新右衛門。同六郎太郎乘馬ノ兵六騎。歩ノ兵百五拾余人ヲ先立タリ。此一組少シ隔テ。國府寺カ水色ノ旗三柏附タルヲ。神吉八兵衛尉馬上ニ是ヲ指上ケ。桐山。莢積。岡ノ里彼是五騎歩行ノ兵百五十余ヲ先立テ。早瀨ノ前ヨリ川ヲ打渉。河ヲ登リニ造道ヨリ。東ノ山間ノ小徑(ホソミチ)經テ山上ス。秀吉卿要害ノ前ニハ。横山カ攻寄テ合戰急ナリ。南方ノ岸ニハ又出張ノ山脇勢城兵ヲ防クニ倦タリト。其注進櫛ノ齒ヲ挽カ如シ。猶城兵二町計間近攻寄タリ。騷合折節。又城ヨリ新手ノ軍兵大勢打出タリト。其騷動夥シ。懸ル

所ニ淺野カ許ヨリ山脇ヘ軍使ヲ以テ中ケルハ。南門ノ敵今ハ僅ニ打殘テ引退候。然モ南嶺ノ合戰未決所ニ城兵ニ加勢スルト見エテ候。尤モ彼モ小勢ニ候得ハ。何程ノ事カ候ヘキ。但出張ノ者モ今ハ戰疲テ候ハン歟。御陣堅固ニ候得ハ。其ハ南ノ岡ニ加勢仕ルニテ候成ト申遺テ。打集タル軍勢三百余人ヲ引率シテ押向。角テ横山カ引退テ息繼居タル所ヨリ。一町計東ノ岡ヲ南ヘ打通間。義祐モ始ハ敵打向ソト馬ニ打乘リ。是ソ最期ノ軍也ト。旗指ト馬ノ鼻ヲ雙テ扣タレハ。二十余人ノ歩行ノ兵ハ。二手ニ分レテ騎馬ノ兩ノ手先ニ扣タリ。去レモ淺野ハ横山カ陣ヲ人無打見テ。直ニ南ヘ打通ス義祐ハ兼テ相圖ソレハ。大手ヨリ攻寄スル。宇喜多早瀬ト押逢テ。南門ヘ今一度寄テ。十死一生ノ軍セント思フ所ニ。山脇勢引違テ。南ヲ指テ押通レハ。偖ハ吾ヲ欺クナルヘシ。左

ナキタニ。我敵ヲ見テ不戰臆シタリヤナントヽ云ハレンヿ末代マテノ耻辱ナリ。去來ヤ殿原此敵ヲ今一度蒐散サント。井上ト諸共ニ馬ヲ噇ト懸出セハ。歩行ノ兵モ喚キ叫テ走リ出タリ。淺野ハ横山カ陣ヲ目通過テ。軍兵南ヘ押通ケル。反比ナレハ横山ハ敵ヲ追サマニ懸寄タリ。淺野モ兼テ期シタルヿナレハ。物々シヤ大敵ヲ欺ク猪武者。披合追捕籠テ討ト。少東方ヘ引披ケル。淺野カ軍卒モ共ニ披合ントスル程コソアレ。横山カ懸來ル其勢ヲ見テ。兼テ手並ハ知リヌ。何カハ以テ怺フヘキ。東ノ岡ヘ一捲成テ崩行。横山ハ隱無大力ニテ。馬上ノ達者也。三尺二寸ノ大長刀ヲ打振テ。敗走スル敵ノ中ヘ掛入々々拂切スル程ニ。討ルヽ者又ハ馬ニ當倒ルヽ者其數ヲ不知。加之義祐カ旗指歩行ノ兵モ。横山カ馳通後ロヨリ魚鱗ニ連テ漂敵ヲ打捨々々縱横八面ニ押通。淺野ハ浙習

二十三人計兵ヲ倶シ、横山カ懸來レハ。披合馳通ハ追慕蒐騰、敵變ニ應シ、防キ戰フヿ比類無シ。此故ニ横山カ旗指モ馬ヲ馳倒、終ニ討レ。其外歩行ノ兵モ十方ニ追隔ラレ、所々ニテ討レケレハ。今ハ義祐唯一騎ニ成ケルカ、馬强ケレハ。手モ不負、氣不撓、敵ノ中ヘ蒐入々々拂切シテハ、懸拔テ馬ニ息繼セ、扇遣テ息繼ヿ度々ニ及ヌ。淺野モ疲レケレハ追不行、打散タル兵𪜈モ芝居シ、息繼キヌ。角テ横山又淺野陣ニ懸入ケル程ニ。淺野此ニ討レントスルヿ度々也ケレ𪜈、運ヤ强カリケン、終ニ恙無カリキ。横山今是マテトヤ思ヒケン、東ノ岡ニ半町計駈拔ケルカ。頓テ馬ヲ敵面ニ引返、大音聲ニ、是見給人々、唯今自害仕ル。名乘テモ不候、吾旗ノ紋當國ノ者ニ問給ヘト云捨テ、長刀ヲ敵ノ方ヘ投渡シケルニ、十四五間計飛、頓テ太刀ヲ拔キ、逆ニ捕直シ、首ヲ前ヘ搔落、馬ヨリ逆樣ニ落タリシ最期ノ式。比類無カリシ事𪜈也、ヲシイ哉、此人今年三十四歲、力量早業弓馬ノ達人ニテ、能大將ニテ。今モ人皆袂ヲソヌラシケリ、淺野ハ今日モ與力手者大勢討セケレ𪜈。マカ大將ヲ討捕ケレハ。不斜悅ヒ、頓テ横山カ首幷旗ヲ指添テ、飯沼ノ何某ニ持セツヽ、秀吉卿ノ陣ニ遣シ、其身ハ猶南方ノ味方ニ加勢セント。敗軍ノ兵ヲ集居タリキ、去程ニ秀吉卿ノ陣ニハ、南ノ方ノ合戰ハ先止トイヘ𪜈南嶺ノ合戰急也ト見エテ喚叫。ソノ騷動夥キ所ニ、城ヨリ又新手ノ軍勢打出タリト周章騷ヌ、是ニ依テ淺野モ南峯ヘ加勢スル所ニ横山途中ニ出合ヌ、追ツ捲ツ相戰シカ𪜈終ニ横山自害シテ、右戰忽止ヌ。然レ𪜈淺野モ軍勢余多討レ。其身モ疲レ果テ、今ハ進退度ヲ失ヒイタリ、此由宮部竹中カ聞テ、其身モ重手ヲ負、陣屋ノ中ニ在ケルカ、不易ヿニ思ケレハ、

兩人秀吉卿ノ前ニ出テ。今日ノ合戰ノ樣、先日ヨリ打續敵晝夜ヲ不分打出トイヘ𪜈引歸敵一人モ候ハヌハ。毎度味方勝ヿヲ得タルニテ候歟。然リトハ申𪜈。御勢若干亡ヒ。殘黨又手負多。殊更勞疲極タリ。今新手敵押出タリト申候。是ハ唯味方ノ疲ヲ討ノ儀也。斯ノ如ク敵ノ謀又落テ。味方ノ損モ有ランヨリハ。出張ノ者𪜈ヲ一端此要害ノ中ヘ引セラレ。敵ノ謀ヲモ折候ヘカシ。恐ク此要害ヘ引籠メ防候ハヽ。上月カ城ニハ劣リ候マシ。四方ノ堀深土井高クシテ。攻ニ利ヲ失フヘシ。此間ニ疲タル軍勢ヲモ休メ。敵ノ怠ヲ見テ打出追拂引籠。懸引自在ニ敵ヲ惱候ハヽ。戰フ度毎ニ勝ヿ掌ヲ指カ如ニ候ハントソ申ケル。秀吉卿信張眼御座テ。頓テ御側ニ候ヒケル中村。山根兩人ヲ使ニテ。淺野ヲ始メ出張ノ諸大將ノ許ヘ速御陣中ヘ入レテ。氣ヲ助テ後打出スヘシト。謀士ノ物見ヲ餘多指添テ遣ハレケリ。角テ南門前東西ヘハ。福原カ城跡在番ノ軍勢等。夕部御陣ヘ加勢ニ來テ有。彼等ハ弓鉄炮少々有ケル間。此者𪜈二百余人御陣中ニ置レケレ𪜈。彼等ニ仰テ出張ノ者共カ引來ル時。敵附來ラハ追拂ヘシトテ。二ケ所ニ分置レタリ。角テ中村。山根等ハ輕士餘多引連テ。淺野ヲ始諸大將ノ面々ニ行向フテ。事ノ由ヲ。爾々ト云ケレハ。皆仰ヲ承リ。其ヨリ段々ト山脇ノ南門ヘ繰引スル所ヲ。城兵入替々々是ヲ追討スレハ。山脇方ニハ。蜂須賀。高山。福富交々ニ引下リ。防テコソ大半死ヲ免テ引籠ヌ。城兵モ南門ノ中ヘ附入セント進ケレ𪜈。弓鉄炮ニテ防ク間。附入スルコトモ不叶。南ノ岡ニ進止ヌ。此故ニ山脇勢悉ク南門ノ裏ヘ引籠リ。橋ヲ引。木戶ヲ閉タリ。寄手ノ宇喜多。早瀨父子又引去テ。人馬ニ息ヲ繼セテ扣居タリ。爰ヨリ南門前。東西南北ノ岡上ニ

倒レ重リタル死骸ノ充滿タリケレハ、早瀬ノ云ク、横山ハ先ンジテ南門ニ戰フト覺タリ、然ルニ今搦手ヨリ寄タル味方。此邊三人モ不見。偖ハ。義祐討死シタリト覺ヘタリ。吾々調シ合南門ヘハ寄セント約諾セシニ。寄場ノ合戰隙ナクテ、押合サルコソ運ノ竭ヌル所ナレ、實モ後レ先タツ有様哉。ト苦笑セラレケレハ、廣維。正繼手綱取（マヽ）繰、イヤ／＼討死ニテハ候ハシ、此方ノ旗ヲ見附給ハヽ、頓テ打寄給フヘシトソ申サレケル、カクテ城ヨリ加勢セント、高嶋、國府寺ハ其勢二百余旗。二流指上サセテ。南嶺ヨリ押來ケルカ。宇喜多。早瀬カ旗ヲ見付テ、馬ヲ馳寄テ。合戰ノ次第横山幷山脇勢悉要害ノ裏ヘ引籠ケルヲ聞テ。扨ハ猶籠敵直ニ攻ルモ益候マシ。又僞引出サントスルモ、手負疲レタル敵ニテ。急ニハ打テ出候マシ。是ヲ守リ居ハ、味方ノ急（マヽ）リヲ窺レン端ナリ。今日既未ノ

下刻ニテ候ハンカ、然ラハ一途引セ給ヘシ、急セ給ヘ、友治御先仕候ト。國府寺旗ヲアケテ西坂ノ方ヘ馬ヲ馳ケレハ、國府寺カ手ノ軍勢皆走出ス、宇喜多、早瀬會釋シテ。頓テ續テ押出タリ。于時高嶋ハ、弓鉄炮ヲ後ニ立殿シテ引退、斯テ國府寺ハ西ノ方ヘ一町計馳行ケルカ。宇喜多。早瀬カ引來ヲ見テ。北ノ方ヘ少徼反、兵ヲ立。馬ヲ扣テ宇喜多、早瀬ニ式臺シテ先立。其ヨリ高嶋、國府寺ハ弓鉄炮ヲ一手ニ合セ。後ニシテ兩人爰ヨリ殿シテ。西坂ヲ經テ竹中、宮部カ陣屋ノ前ヨリ南ヘ出テ。造道ヲ横ニ河原ヲ下リテ。早瀬ノ前ナル川瀬ヲ打渉。大卒城大手ノ橋ヘ悉ク引籠ヌ。去レハ今日ノ軍何時果ヘキモ見エサリシ所ニ、宮部竹中カ思慮依テ。山脇勢要害ノ内ヘ栖籠リシ故ニ。城兵モ為方無テ引退ヌ。秀吉卿ハ築地ノ上ニ出玉テ山脇勢ノ要害ノ裏ヘ引入ヨリ、城兵ノ引退ク

有様。高嶋國府寺カ可引處ヲ見テ。味方ヲ誘引スル師ノ勇々シサヨト。開陣ノ後マテモ度々感シラレシト承ハル。

八、十二月十五日上月城攻之事

去程ニ山脇ニハ寄手退散ストイヘトモ若懸ル費ニノツテ夜討ヤ寄ヌラント用心シテ。先所々ノ築地ノ上ニ遠見ヲ置。堀ノ上ヨリ材木ナントヲ渡シ。乗入コトモ有ント。燒草投松明ナトヲ用意セリ。角テ秀吉卿ノ御前ヘハ。諸大將ヲ召サレ饗膳ヲ賜リ。引出物ナトヲ賜リケリ。其外軍勢ニモ悉褒美夫々ニ下シ玉フ。手負タル者ヲ殊ニ憐玉フテ。衣服マテ應々ニ賜ケルハ。類有ラジト覺タリ。扨諸大將ヘ仰ケルハ。城兵若夜討ニ寄ケルカ。不然明ケナハ又逆寄スヘシ。是ヲ防ント出張センニハ。武者軍勢等益疲レタリ。亦今ノ如ク引籠居タランハ。還テ城兵ニ攻ラレタリト人ノ嘲ヲ請ヘシ。倩思ニ。唯明ナハ此方ヨリ寄テ。曲輪先ヲ捕圍。蒸攻ニセンハ如何有ラン。吾モ後詰セント仰ケレハ。各然ヒヤウ存候。某等モ何時マテ攻口ヲ引退居候ハンヤ。今夜々半ニ御陣ヲ打立罷向候ハント申合テ候間。彌御計ノ如ク仕ルヘシトソ申ケル。秀吉卿御心ヨケニテ。左ラハ用意アラレヨト。皆々御暇玉ヒ退出シタリ。角テ子丑ノ刻ニモ成ケレハ。陣具兵粮捕持セ。寅ノ一天ニ先搦手ノ寄手。堀。木村。高山。櫛橋。明石ヲ先トシテ。造道ヲ下リニ。二位山ノ下美泥ノ東。河原ニ着タリ。大手ヘハ。小寺。蜂須賀。谷。堀尾福富ヲ先トシテ。國人余多相交リ。是モ造道ヲ南ヘ青野原ノ北尾崎ヨリ。二位山ノ上ミ下ノ尾崎々々ニ着タリキ。中ニモ谷ト福富兩人ハ。弓鉄炮少々集テ。青野原ノ前ナル川瀬ノ上。下ノ河原二ケ所ニ分テ陣ヲ張居タリ。殘ル諸大將ハ。皆元ノ役所ヲハ昨日城ヨリ出勢シテ

悉燒拂ケル程ニ。先各燒跡ニ尋來テ。小屋々々ヲ營ム躰ニ指傳ヌ。搦手ヘ寄スル軍兵ハ。美泥ノ涉ヘ打集ケル。高山。木村カ手ニハ弓鉄炮少々求ケレハ。此兩人カ軍勢五六百計ニテ。一番ニ川ヲ越。下上月ノ前大道通二ケ所ニ陣ヲ張ケレハ。夫ヨリ總軍悉川ヲ渡。形見。山北。尾崎ヨリ東南ノ尾崎々々燒跡ニ居テ。小屋々々ノ營ナントヽ相支タリ。斯テ山中ハ先キノ日重手負テケレハ。乘馬スル事モ不叶。此故ニ與力手ノ者ヲハ。楠橋カ手ヘ指添テ。山脇ヘ加勢シ。其身ハ郎從十余人ヲ倶シテ。高嶋ト云所ヘ忍。其ヨリ府中ヘ使ヲ遣シ。軍勢弓鉄炮ヲ少々求得タリ●此勢百計ニテ出來ヌ。鹿之助不斜悅。昨日ノ晝形見山ノ東ノ尾崎ヘ出張シテ居タリケルカ。今日ハ味方ノ軍勢押來ヲ見テ。頓テ山中モ出合テ。高山ニモ參會シ。其邊ニ弓鉄炮ヲ少々立。陣ヲ張リ。搦手ヨリ打出ハ防キ戰ハント待懸タリ。加之北國勢嶋根。大原。久來與五郎二百余人今日ノ晩景ニ山中カ手ヘ加勢ニ來リヌ。是ニ因テ搦手ノ諸大將軍勢等ニ至マテ。機ヲ直シタリ。角テ城中ニハ其夜ハ小林。兄弟手勢ヲ打連。大手城內嶽切岸邊マテ打廻ス。搦手ニハ丸山右源治。端山小治郎兩人詰々マテ打廻タリ。其外小寺一黨。川嶋一黨。鵜野廣戶。大田。眞嶋左近太郎ヲ先トシテ。其勢四百余ハ。此曉山脇ヘ寄ントス楯ヨ梯ヨナントヽ用意シテ。子丑ノ刻既ニ打出ント。大手門內ニ打集リシ及比。大手櫓ノ遠物見走來テ。山脇ヨリ出勢有リトソ告タリケル。是ニ依テ諸大將各矢倉ニ登リ窺見ニ。疑フ所無シ。イサヽラハ青野原ヘ出合フテ追立。直ニ山脇ヘ寄セント評儀スル所ヘ。正澄。正義。廣維出來。此由ヲ聞テ。高嶋正澄被申ケルハ。イヤトヨ敵既ニ先ンシタリ。先夜合戰ニ馴テ弓鉄炮ヲ立。路地ノ

用心シテ押來ナン所ニ。此方ニハ今矢種乏キニ。川ヲ越ト云大敵ト云旁以テ出合ヌ所也。先キノ日度々ノ軍ニ味方勝事ヲ得タルハ或敵ノ不意ヲ討。或弓鉄炮ヲ以テ也然モ今秀吉出勢ニテ有マシ先々敵ノ働ヲ見給ヘ。唯山嶋ヘ一兩度寄給ヘト制セラレケレハ。出勢ヲ止ヌ去ハ城中ノ人々籠城ノ抱モ近日ニ迫リケレハ今ハ軍ノ勝負ヲハ必シモ不見可討節ト見ハ其圖ヲ不外出ツヘシト將モ士卒モ諸共ニ白地ニハ不云ドモ人々ノ同心ノ有様也角テ此日ハ寄手モ城近ハ不寄城中モ打テモ不出互ニ守リ居テ徒ニ日ハ暮タリ其夜ハ殊ニ靜ニテ。山谷ノ月澄上リ白晝ニ不異去ハ寄手ハ此ノ日小屋掛ナント捕繕日暮ヨリハ所々ノ陣々ニ篝火ヲ燒連テ賑サマニ見エタリケリ城中ハ唯閑リ返テ居タリケレハ。專物淋敷ク見タリケリ。此故ニ何トハ無シニ人々モ

打萎タル有様ヲ。高嶋頓テ心得テ。貯置ケル酒肴ヲ取寄大廣間ヘ出テ諸大將役所々々ヘ使ヲ立。參會シ。今宵ハ痛ク寒ク候得トモ懸ル月ヲモ詠給カシ。殊更寄手ノ篝火ニ山谷水邊ノ致景増セリ。城ハ當國第一ノ要害ナレハ敵寄スルモ不用是此故ニ籠城ノ辛苦見給ハス人々ノ心中ノ健サヨ。夜寒ニ候御酒一ツ聞シ召ト正澄呑テ廣縄ヘ指ス宇喜多一ツ受テ申ケルハ。仰ノ如四方ニ景アル名城也春秋ノ花紅葉朧月今宵ノ月景ニ。東西南北ノ篝火ノ太山深谷河水ニ移ル其氣色是等如何ニ賀茂川ヤ宇治ノ川瀬ノ螢火モ。是ニハ爭増ルヘキ城ハ鐵壁士卒ハ子房韓信ヲ友トセリ兵ノ交賴在ル中ノ酒宴哉ト扇ヲ揚テ舞謳其盃ヲ早瀬ニ指其ヨリ川嶋小寺小林柏原林高嶋小七郎早瀬權太郎眞嶋國府寺永良廣戶川嶋杢大輔本間代安寺鵜野端山丸

山兄弟ト廻テ。其ヨリ宗徒ノ郎從ヘ順逆ノ差別無ク飮ンツ歌ツ戯レ遊事有樣ハ。面白カリケル事𪜈也。懸ル所ニ政範亦酒肴持セテ出ラレツヽ、荒面白ヤ珍ヤ。酒宴ノ興ニ打モテラレヌ遊女ノ人ニ問レヌ。亦思アリ。同シ太山ノ冬木立嵐ヲ獨ヤ厲ヘキ。吾モ諸共酌トテ。一盃受ケテ客人ナレハト宇喜多ヘ指。廣維ヨリ正澄ヘ高嶋ヨリ政範。其ヨリ早瀬。川嶋ト廻リ。頼村ヨリ亦政範。其ヨリ一族ノ面々ヘ廻シテ。眞嶋ヨリ政範乞請ラレテ。一受。其レヲ銚子ヘ移サレテ。外樣ノ郎從親キ陪臣マテニ賜リ。イテ肴申サン。夫々トアリケレハ。茜染ノ布數十端ヲ持參ルニ。政範仰ケルハ。各ニ是ヲ割與ヘ。今ヨリシテハ是ヲ押戴。頓テ鎧ノ袖ニ附タリケル。斯テ夜ハ深更ニ成ケレハ。各暇玉フテ城主ハ。奧ヘ入給ヘハ。各退出シタリキ。兎スレハ早東方白ク成ケレ𪜈。寄手ノ陣々ニハ。

篝火ヲモ燒不止。村々徘徊シ。用心スル躰ナリキ。城中ニモ酒宴舞遊ケレ𪜈。諸大將代ル々々夜廻リ遠物見不怠。既其夜ハ明タリケル。角テ十六日ノ曉寄手ノ陣々色メキケルカ。弓鉄炮少々先立。勢ノ程五六百計走出。川ヲ颯ト打渡。大手柵ノ涯ヘ押寄タリ。其ヨリ段々ト後勢押來。橋ノ左右ノ堀際ニ充滿タリ。城中ニハ元來橋ノ中ノ間坂ヲハ括返ツレハ。櫓渡リ堀所々ヘ各出合テ。指固居タリ。寄手モ攻入ヘキヤウ無ケレハ。時々鉄炮ヲ打懸ケレ𪜈。堀ノ外ヨリシテ矢懸遠ケレハ。詮無キ事ニ見エタリ。城ヨリモ態ト打テ不出。見繕居テ弓鉄炮ヲモ不打。靜返テ音モセス。搦手モ寄手。弓鉄炮ヲ先立。坂ノ上土橋柵際マテ押寄ケレハ。後勢ハ坂中ヨリ坂下ヘ段々ト押詰タリ。角テ寄手モ攻乘ヘキヤウモ無ク。城ヨリ打テモ不出。寄手ハ柵際ニ徘徊シテ。色々ニ荒言シ。城兵ヲ僞引出

サントソ欺ケル。大手ノ矢倉ニハ。高嶋。川嶋。小林。鵜野。相交テ。寄手ノ變化ヲ見テ居タリケリ。于時川嶋賴村。高嶋ヘ申ケルハ。敵間近ク寄候程ニ。推攻ヤスラント存スル所ニ。左ニモ不候。唯馬出ヲ指塞。蒸攻ニスルト見ヘ候。去ドモ此方ヨリ打出ヘキヤウ不候。守リ居タランモ口惜候。哀レ矢比能候ハンニハ。一矢仕ランモノヲト戯ケレハ。高嶋ヲ始。小林。鵜野何レモ然ヘウ候ハン。敵ニ興ヲサマサセ給ヘ。見物申サント勸ケリ。川嶋サラハ仕候ハン。射損ナハ御笑種ト。頓テ郎從ニ持セタル。塗籠籐ノ弓。銀弭打タルヲ追捕。弓絃喰濕押シ張リ。中黑ノ征矢爪搖シテ。唯二筋件ノ弓ニ捕添テ。矢狹間ヨリ指覗キ居タリキ。懸ル所ニ寄手ノ中ヨリ。大ノ男黑糸威ノ鎧着テ。熊ノ毛植タル甲ノ吹返ニ。五寸計ノ耳裏ヲ金箔ニテ置タル塗木ノ弓ノ握リ太ナルニ。山鳥ノ尾ニテ矧タル矢ヲ。森ノ如ク負ナシ堀涯マテ進寄。頻ニ高言吐。扇遣テ立タルケルハ。一際群ニ勝レテ見タリキ。賴村是ヲ見テ。何樣此者ハサリヌヘキ者ヨ。第一己カ量ヲ慢シタル者ト思ヒケレハ。頓テ狹間扇ヲ揚テ申スヤウ。寄手ノ人々余リ不興ニ見エ候物哉。角申某ハ當國龍野ノ住人川嶋三郎次郎賴村ト申者ニテ候。一矢仕リ候ハン。請テ試給ヘト。打番タル十五束三伏引懸。固テ切テ放ツ。此矢不誤堀ノ上一町余リヲ越。堀涯ニ弓杖突テ立タリシ。熊毛鎧着タル兵ノ胸板咽輪ノ外ヘ發シト中リ。後ロヘ尺計射貫レテ。仰氣ニコソ倒ケレ。其邊ニ並居タル者ドモ是ヲ見テ肝ヲ消。足ノ蹈所ヲ不知揉合タリ。矢倉ニハ射タリヤ〳〵ト聲ヲ揃テ讃タリキ。懸ル所ニ寄手ノ後陣ヨリ。大勢ノ中ヲ押分々々出來者アリ。頓テ堀端ニ立テ。此矢一筋受テ見ヨヤト呼張懸テ。染羽ノ矢打番ヨツヒ

イテ切テ放ツニ。弦ヤ胸ヲ打ケン。又元來小兵ナレハニヤ。此矢向櫓下石垣ニ當リ。卽堀水ニ浮タリケレハ。矢倉ニハ又射タリヤイタリト笑ケル寄手是ヲ無念ニヤ思ヒケン。弓ヨ鉄炮ヨト揉合タリ。高嶋小七郎ニ申サレケルハ。敵共カ負腹立テ見ユルソ。足力ヲ留ヌ先キニ。遠矢少々射懸ヨト申ケル。正侶承リ。櫓ニ居合タル人々ヲ催ケルニ。川嶋李太輔。松尾。山田瀨川。片嶋。高野。栴原。奈波權正。高嶋小七郎此人々弓ニ手矢計取添テ。矢狹間ヤマヲ押開テハ。小寺隆家是ヲ手配シテ。交代ニ射サセケル。件ノ人々何レモ强弓ノ手垂ナルニ。唯一矢ツヽノ晴ト固テ切テ放ツ。誤ス堀ノ向ニ指傳タル敵。此矢ニ中リ弓手妻手ヘ倒者十四五人ニ及ケレハ。殘黨不怺。村々發ト崩行。櫓ニハ高嶋扇ヲ舉テ。一張弓ノ勢タリ。東西南北ノ敵ヲ秦ク平ト諷ケレハ。滿座ノ人々同音ニ押返テ諷ケル。去ハ高嶋カ矢ニ中リケル者ハ。當國ノ住人英賀太郎左衛門尉ト云。隱レナキ力量ノ兵ナリトソ。斯テ城ニハ寄手敗軍ヲ見テ。貝鐘太皷ヲ打テ。凱歌ヲ上ル事夥シ。加之小林兄弟。鵜野庄官。廣戶右兵衛尉。細月。櫛田相交テ。騎馬ノ兵拾一人。歩行ノ兵三百余人。間能ハ打出ント見繕居タリケレハ。敵敗スルヲ見テ。得タリヤ賢ト木戶ヲ開。拮橋ヲ打渡シ。直先ヘ騎馬ノ兵段々ト懸出ケル。小林次郎左衛門尉。鵜野。細月甚大夫ハ何レモ强弓ノ勢兵ナレハ。逃ル敵ノ中ヘ矢ヲ射懸ケニ。此矢ニ中。或共ニ押倒サレ。或溝川ヘ押[illegible]サレ。彌上ニ落重者夥シ。城ノ歩行ノ兵モ。鍮長刀ノ鉾ヲ揃。追詰々々切伏擲伏追討ス。寄手ノ諸大將ハ皆西河原ニ扣ケレハ。先勢ノ敗スルニ入代ントスレモ。近習ノ兵少ケレハ。只敗軍ノ味方ニ走向テ。旗ヲ上テ踏止リ防ケト勵ケレモ。後

ロヨリ大勢迯來ニ依テ返合踏止ル事不叶諸將モ引違入代ラントスル程コソアレ。噇ト崩懸ケレハ共ニ一捲ニ成テ河原ヲ南ヘ崩レ引モ有或ハ千種川ヲ渉越ント川ヘ打入モ大勢ナレハ水ニ溺ル丶者夥シ。去レハ寄手ノ兵此間弓鉄炮多捨。矢種モ乏テ府中ヨリ乞求テ。今日大手搦手寄聚ノ中ニ弓鉄炮少々在テ力ヲ得ツルニ。是モ今敗軍ノ者ノ蹈草モ足纏モ成ケル事前代未聞ノ凶事哉斯テ追出タル城兵河原ヲ南ヘ逃ル敵ノ中ヘ懸入々々追討スルニ寄手ノ中ニモ返合テ城兵ヲ討モ有或組テ指違モ有大手柵ノ外ヨリ下上月形見山ノ尾崎々々ノ間マテニ寄手返合スレハ。城兵魚鱗ニナツテ打破騎馬ノ兵ト歩行ノ兵。二手ニ分。入代々々追討スル程ニ寄手大勢討ル如斯打込ノ軍ナレモ城兵ニハ騎馬ノ兵有歩行ノ兵共相印附タリ。何レモ最期ノ軍ナリト思切互ニ勵合テ揷入ケレハ。討ル丶者ヲハ乘越々々防戰事隙ナケレハ。乘馬ノ兵モ馬ヲ馳倒大勢ノ中ニ捕籠ラレテ討レ元來小勢ナル城兵今ハ抹陳ニ成テ見ヘタリキ懸所ニ搦手寄手モ。坂上ニ柵涯マテ寄テ。時々鉄炮ヲ打懸木戸ヲ打閉坂下マテ充滿シテ支ケレハ。城ヨリ打テ可出ヤウモ無シ。矢種モ盡ケルニヤ弓鉄炮モ不打キ。是ニ依テ寄手ハ柵ヲ破リ土橋ノ半マテ込入テ徘徊ス門櫓ヲ圍タル國府寺眞嶋丸山兄弟時分能ト。矢狭間ヲ一度ニ押開鉄炮ヲ打懸ケルニ。土橋ニ大勢相交タル寄手ナレハ。件ノ鉄炮ニ中リ彌上ニ打倒サレテ殘黨不レ捄柵ノ外ヘ崩出タリ。坂中坂下ニ指傳タル寄手モ。騒立テ押シ合揉合事夥シ城ニハ兼テ掛シタル事ナレハ。敵敗スルト等ク。貝鐘太皷ヲ打テ。関ヲ上クレハ。門櫓ヨリ木戸ヲヒラキ。二百余人鎗長刀ノ鋒ヲ揃打

出ツレハ、弓ノ兵十余人、左右ノ手先ニ進テ。逃敵ノ中ヘ矢ヲ射懸ケルニ、此矢ニ中リ、或共ニ押倒サレテ、九折ノ坂中ニ、彌上ニ倒重事夥シ、此時城中マテ寄タル高山カ與力ノ者ト、甞根志方ノ者ドモ、彼是三百計ニテ扣ケレハ、先陣ノ敗スルニ入代防ント、西ノ方行岸ニ擧テ。少見繕居タリケレドモ、坂中ト云、分内セハク。敗スル先勢ニ揉合テ、屯スルニ不叶、是等モ共ニ押立ラレテ敗走ス、城中兵ハ、坂下ニ寄手大勢在ケレハ、坂ノ中ヲハ態閑ニ矢少々射懸、追下リ、坂下近着儘、関ヲ作リ蒐敵ヲ後陣ヘ追懸タリ、左ナキタニ敵ノ後ニ在ケル大勢ハ、半ハ手負多、諸將モ手負疲レテ。ミナ形見山ノ小屋々々ニ居テ。大形郎從計催促ニ依テ、攻口ニ打向シ者ドモナレハ、返合防カントスル者一人モナク、先陣ノ討レ敗スルヲ見ナカラ、右往左往ト引退ク、城兵ノ武者國府寺勝兵衛尉、子息左近太郎、眞嶋兵庫助、同舍（弟脱カ）甚兵衛尉、丸山左源治、舍弟右源治此人々ノ郎從、中村。福吉、相山、秋里山、鵜山、竹間、舟越、松本是等ヲ軍使トシテ、追行先勢ノ許ヘ云ケルハ、逃敵ハ大勢ニテ、剰東西ヘ引分タリ、味方ハ然モ小勢ナレハ、唯東方ヘ引敵ノ方ヘ追討ト下知スル間、先勢坂下ヨリ、東ノ方ヘ二手ニ成テ追討ス、城兵敵ノ費ヲ見テ打出、一軍シテ討死シ、後代名ヲ殘サント思切タル事ナレハ、敵返合、防戰フニ、主討ルレドモ郎從不退、或郎從討レ、獨身ニ成テ戰トイヘドモ、心不撓蒐人々々命ヲ限リニ戰フ程ニ、寄手每度追立ラレケルニ、城兵勝ニ乘リ追討スル間、寄手大勢討レケリ、角テ下上月、形見山ノ東尾崎邊マテハ、追手搦手ノ寄手ト成、兵一所ニ混亂シ、追ツ返ツ戰程ニ、兩陣ニ討ル、者其數ヲ不知、斯テ搦手寄手ノ中ニ。坂下ヨリ西ノ方ヘ敗走シタル大形ハ。木

村。櫛橋。山中カ與力手ノ者。或國人多カリケルカ。城兵坂下ヨリ皆東方ヘ追行ヲ見テ。頓テ取返。城兵ノ後ヨリ追慕所ニ。又搦手ノ城内ニ殘リ居タル。太田民部ト端山小次郎是ヲ見テ。吾々モ打出ヘキ節也トテ。與力手ノ者八十余人。木戸ヲ開走出タリ。是ニ依テ赤松白幡形見山ノ住兵トモ持口ヲ固テ居タリケルカ。イサ人々打テ出。太田端山ト一所ニ成。軍〲安否ヲ決セント。押續テ打テ出ケル程ニ。上月形見山邊ニテ。寄手ト城兵ト段々ト折重。何レヲ敵味方トモ不辨。同士討ナントモ多カリキ。斯城兵ハ元來小勢也。寄手ハ今モ百千倍々シツレハ。哀レ兼テ手負不疲レハ。城兵如何ニ武クトモ。悉亡ヘキニ。ワツカ敵ニ追討レ。東西南北ヘ走散事。今日ニ始ヌ事ナレトモ。口惜カリケル事哉ト。其比都鄙ノ人口嘲哢ノ暫モ止事無リキ。角テ日暮十六夜宵闇ニ。敵味方ト見分難ケレハニヤ。城兵川ト相辭シテ。形見山ノ北尾崎打集シ人々ニハ。國府寺左近太郎。眞嶋甚兵衞。太田民部少輔。廣戸左兵衞尉彼是四人。其外士卒八十餘人也。暫扣息繼居タリケルニ。打寄ル味方モ無ク。押來敵モ無ケレハ。今ハ是迄ナリ。吾々カ今日ノ命難面サヨト打笑皆紅ニナリテ搦手ヘコソ引籠ラレケリ。

九。十二月十六日城兵山脇ヘ夜討之事

去程ニ同十六日ノ晝。城中ニハ追手搦手ニテ川嶋ト國府寺カ。弓勢ニテ寄手城外ヘ退散ス此費ニ乘テ城ヨリ打テ出テ。追討スル事夥シ。此節城主政範大廣間ヘ出ラレ。諸大將ノ持口ヘ使ヲ以テ。申サレケルハ。寄手今城外ヘ退ラル丶條神妙也。去ハ昨日今日秀吉城外ヘ寄ラレハ。一軍セント待ケレモ。城外ヘ出給ハス。何時迄カ期スヘキ。寄手ハ皆南方ヘ退散スル事ナレハ。吾又引違テ山脇ヘ寄。十死一生ノ

一合戰スヘシ。然ハ正澄正義ハ大手搦手ヲ指圍給ヘ。其外宇喜多ヲ始、不殘打出ヘシト也。城主出勢ト相觸ケル間、四方ノ持口ヨリ大手門內ヘ我モ〳〵ト打集ヌ。于時高嶋ハ櫓ヨリ大廣間ニ出、政範ヘ申ケルハ。出勢ノ時至レリ。但今城外ノ合戰太急也ケレハ、其騷動彩シ、定テ山鵬ヘ聞ユヘシ。秀吉必定後詰タルヘシ。然ラハ途中ニテ逢給ハン、今此方ニ弓鉄炮乏ク矢種盡タリ。敵ニ弓鉄炮アランニハ、平場ノ合戰十死一生叶マシ。若シ秀吉要害ニ在𪜈。此方ヨリ寄スルヲ見ハ、節所ニ出合テ防ハ。直ニハ寄カタシ。要害マテ寄タリ𪜈、橋ヲ引柵ノ裏搔楯ノ陰ヨリ、弓鉄炮ニテ防ハ、攻拔難カルヘシ。程無ク日暮レハ、中半ノ陣難ク引退時ハ附慕ヘシ。旁以先出勢ヲ待給フヘシト申テ。此日モ城主ハ、出勢ヲ止ラレタリ。其後正澄申サレケルハ。今日ノ合戰寄手悉敗走シ、城外ニ敵無シ。此節唯城主ハ引違テ、一途備前美作方ヘモ御開、重テ運ヲ開カレンコソアラマホシケレト申サレケレハ、政範宜フハ、毛利宇喜多ヨリ重テ運送後詰無事ハ。是モ秀吉ヘ組シタリト存ス。彼方此方最迷。先菲ヲ悔ヨリハ、孤城ヲ枕ニシ死ヲ善道ニ致サント、思切テ申サレケレハ。高嶋、早瀨、宇喜多、川嶋、小寺何モ此上ハ力不及、今一合戰シテ安否ヲ極玉エト也、其軍評定アツテ。今日黃昏時山鵬ヘ夜討セント決定シテ、各退出セラル。其夜ノ計策ハ。川嶋ト與楢原、小寺。三人ヨリ出タル方便也。角テ城外上月形見山邊ニハ。寄手一擧ニ成、城兵ト追ツ返ツ相戰ニ、城中ニハ其ヲハ打捨殘人々夜討出ル支度也。去ハ城中ノ人々度々ノ合戰ニ一度モ不覺無リケレ𪜈、近頃ハ矢種モ糧モ竭ケレハ。一族郎從𪜈ニ至マテ、人ヨリ先ニ討死セン事ヲ。色ニハ不出戰ヲ急程ニ。無

謀也。後日ニ嘲哢セラレン事ヨト。高嶋是ヲ嘆息セリ。去程ニ十二月十七日ノ晩景ニハ城中高嶋。早瀬。宇喜多。川嶋。小寺。柏原此人々ヨリ。弓ノ士ヲ五人三人ツヽ出シテ二十人。何レモ火矢三筋ツヽニ。征矢少々捕添テ。黄昏時宵闇雪氣ノ空ニ掻曇ルヲ幸也ト。一番ニ打出小山カ崎ノ川瀬ヲ渡リ。青野原ノ東山路ヲ經テ。此方ヘ廻リ。山脇ノ後ヘト忍ヒ行。其後ロヨリ高嶋小七郎。梢原與市郎。黒田。高野。中村。奈波十藏彼是六人。隨兵百五十餘人何レモ鎗長刀ヲ携ヘ。弓ノ士少々相交テ。同瀬ヲ渉リ。先勢ニ少シ後レ。青野原ノ山上ヲ經テ。秀吉ノ要害山脇ノ東南ノ間二町計ニ忍寄。林ノ陰ニ兵ヲ伏テ相圖ヲ待居タリ。二番ニ川嶋三郎次郎。同舍弟杢太輔。頼川片嶋。松尾。山田彼是六人。隨兵百三十余人。各鎗長刀ヲ持タリ。弓ノ士少々將ノ廻リニ附。同シ瀬ヲ渉リ。東ノ山路ヘ。

先勢ニ少シカクレテ。山脇ノ東南ヘト押寄ヌ。三番ニ神吉甚太夫。廣戸右兵衛。鵜野新八郎。大谷新左衛門尉。彼是五人。其郎從九十余人。一手ニナリ。西坂ヘト押向。四番ニ小寺庄之助ニ。隨兵細月。櫛田。山ノ里。長谷。彼是五人。其郎從百余人。先ニ少下テ押行ヌ。五番早瀬正繼。隨兵岡田藤四郎。佐用。舟越。川崎彼是一組郎從百五十人。打圍押續。六番ニ本間。内藤助三村。岡ノ里。中嶋彼是五人ヲ先トシテ。他ノ勢ヲ不レ交八拾餘人先勢ヨリ少シ引下リ。各同瀬ヲ渡段々ニ押行。佐用ノ郷山ノ山陰所々ニ伏。相圖ノ火ヲソ待ケリ。懸ル所ニ早瀬カ諜士ノ物見一人走歸テ申ケルハ。山脇西坂ノ上ニハ。敵出張ルト覺テ。所々ニ役所有テ。篝火ノ夥見エ候。正繼聞テ。サモアラハ此邊ニ扣テ。變化ヲ見給ヘト西坂ヨリ五町計此方。東ノ山陰ニ後勢段々芝居シテ扣タリ。去程ニ。山脇

ニハ城兵向出。遠物見ヨリ告ケル間、御陣ノ騒キ夥シ。于時宮部。竹中カ許ヨリ。陣中ヘ軍使ヲ走シテ、御下知候。鎮リ候テ。四方ノ持口ヘ出合指図ヘシ。(掛カ)捨橋引ト觸マハル、折節戌ノ下刻計ノ事ナルニ。御陣ノ東北ヨリ火矢ヲ射懸ル事五十餘度也、築地ノ北ニハ、山田。桑名。英積、岸本。樋口。小田垣。中桐等カ小屋ヲ並タルニ。是等カ役所ヨリ。一番ニ燒上。其ヨリ御陣ヘ燃上ヌ、折シモ北風吹敷、燒散ケル程ニ。御陣上ヘヲ下ヘト走リマヒ。南門ヘ込出ルニ。指傳テ彌上ニ押倒サレ。或度々迷テ燒死者數ヲ不知。秀吉卿ハ陣中ニ誤タル燒亡カ。若ハ味方ニ逆心有テ、放火スルナルヘシ。前ニハ城兵寄スルト云 迷ヌ所ト思召ナカラ。宮部 竹中其外近所ニ 在合侍十餘人倶セラレテ 東ノ隱門ヨリ通斗出玉フテ、佐用坂ノ方ヘ隱玉フ、此時柏原亦太郎 甲斐々々敷モ御導申テコソ。無異ニハ御座ケレ。角テ山脇ヨリ二町計南西坂ノ笠見ヘハ。福原カ城跡ニ在番サセラレツル、蜂須賀。小寺。竹中。梶原。中村、堀尾、谷。堀。木村 宮部 粕屋カ與力手者トモ。去ヌル十四日山脇ヘ加勢來テ在ケレハ。此者モト淺野カ手ヨリ吉村、河傍ヲ始メ。三十餘人ヲ分出ヌ。此等大半弓鉄炮也。坂ノ上南ノ方ヘハ。福岡野ヨリ來集リシ勢也、北ノ方片岸ノ上ニハ 淺野カ與力手勢ヲ 引具シテ。出張ノ陣也、南門ヨリ南二町計ニハ。小田垣。宮川兩人ニ。宮部。竹中カ與力手者相加リ。二ケ所ニ分レ山上ヨリ寄スル敵有ランニハ防ント待懸タリ。丑寅ノ方三町余リ外ハ 淺野陣屋ノ前ヘ出張ス。北ニ當テ一町余ニハ桑名、山名。英積 岸本。小田垣相屬シテ 役所ニ在ケルカ、忍ノ城兵案内知方故ニ忍寄テ思ノ儘ニ放火セリ。斯テ東南山ノ上ノ方ヨリ寄タル城兵高嶋、川嶋ハ築地ノ裏

ヨリ燒出サレタル大勢。南ノ門前ヘ崩レ出ケルヲ見テ。偖ハ此中ニ秀吉ノ在事モ有ント蒐入撰打セヨ。聲ナ立ソト下知シテ弓ノ兵二十餘人ヲ一番ニ進。崩出敵ノ中ヘ矢ヲ射懸ケルニ此矢ニ中テ死スル者多ケレハ。山脇勢忽西坂ノ方ヘ一捲ニ成テ崩レ行ヲ。高嶋カ武者中村次郎兵衞尉。黑田甚助。高野與五郎。川嶋カ武者瀨川。片嶋。松尾ナトヲ始彼是百五拾餘人鋒ヲ揃テ弓ノ兵ニ入代迯敵ヲ追討ス。高嶋ハ叉楢原。奈波ト一手ニ成テ百餘人箕ノ手ニ立テ少シ南ヘ押廻蒐入々々追討ス。川嶋ハ同杢太輔。山田藤藏カレ是三人。隨兵六十余人ヲ先立テ。高嶋カ西ノ方ヘ押出。打懸ル程ニ。返合スル者モ無ク。大勢討レ。共ニ押倒サレテ。彌上ニ仆重ル者夥シ。斯テ南ノ岡ヘ出張シタル山脇勢。小田垣。宮川ハ。懸ル兵火トハ不知。唯陣屋ノ燒亡夥ケレハ。御陣ヘ歸ヘシト。各打連レ。南門ヘト急ケルニ。件ノ火十方ヘ燒散リケル程ニ。御陣軍勢悉ク南門ヘ込入ケレハ。小田垣。宮川興ヲ醒シ。途中ニ扣テ見繕ヒ居タル所ニ。東方松林ノ中ヨリ。茜染ノ相印附タル兵二百計モヤアルラン。二手ニ成テ蒐出ケルカ。南門ヨリ崩出ル山脇勢ヲ。東南ノ方ヨリ指挾テ。西坂ノ方ヘ追立追立討スル事甚急也。小田垣作右衞門。宮川七郎兵衞。同弟三郎助。五郎兵衞尉トテ三人云ケルハ。敗軍ノ味方ノ中ニ。秀吉ヤ御座ラン。サレモコノ勢ニ揉合テハ惡カルヘシ。蒐退暫見給ヘシト。頓テ南ノ岡ヘ走拔。弓鉄炮ヲ伏テ居タリケルニ。南門ヨリ崩レ出タル大勢。敵ニ追立ラレテ西ノ方ヘ敗走ス。其殿ハ城兵ト見エテ。迯ヲ追討事甚急也。是等早目通ヲ過テ。西ノ方ヘ追行程ニ。今ハ何様ニモ可溜ニ非ス。イサ蒐ヨト下知スレハ。弓鉄炮少々有ケル。是等先立テ。城兵ノ後ヨリ追

懸。敵ヲ追サマ。筋違弓鉄炮ヲ打懸ル。是ハ宮川ハ舍弟三郎助カ裁判ト也。城兵此矢ニ中テ。將棊倒ノ如ク大勢討レタリ。城兵高嶋。川嶋ヲ始。武者等爰ニ討レヌ。殘シ城兵一度ニ返合。噇ト喚鉾ヲ雙テ搖テ懸ル。小田垣。宮川カ兵颯ト披合。城兵ヲ中ニ捕籠。討ント進ケレハ城兵魚鱗ニ連テ。山脇勢ヲ四角八方ヘ追立。追詰突テ廻リ切テ廻ルニ。面ヲ合スル者ハ無シ。懸ル所ニ。西ノ方ヘ崩レ行山脇勢ノ中ヨリ。山本新右衛門。下條甚五郎。平塚八郎治。堅田作十郎ナト丶名乘。味方ヲ招呼。張懸テ三十餘人一度ニ取テ返シ。城兵ニ打蒐レハ。敗軍ノ者𪜈山本。下條ニ勵サレテ。我モ〳〵ト返合ケル。依之小田垣。宮川。猶勝ニ乘テ。喚キ呼テ攻合ケル程ニ。城兵武ク進ムトイヘ𪜈。東西ヨリ敵大勢ニテ攻戰ヘハ。元來小勢ナレハ。大敵防ニ暇ナフテ。城兵今ハ殘少クナリ。縱横八面ニ當

テ相戰。懸ル所ニ初ヨリ東北ノ方ニ忍ヒ寄テ。火矢ヲ射懸タル城兵。敵ノ要害ニ火燒散テ。軍勢悉南門ノ方ヘ迯出ト聞テ。矢種ハ竭ヌイザサラハ。南門ヘ打廻敗軍ノ敵ニ蒐合。味方ニ力ヲ合。一所ニ成ラント打廻見ルニ。東西南北ヘ追ツ返ツ相戰程ニ。少モ不漂蕩。二十餘人ノ者共。箕手ニ成テ大勢ノ中ヘ走入。相印ヲ目ニ懸テ。爰ヲ最期ト切テ廻ルニ。山脇勢又四角八方ヘ追立ラレテ。討ル丶者其數ヲ不知。此節宮川兄弟三人。小田垣。藤岡。柳瀬。長濱。山本。下條。杉原。白石等所々ニ返合。城兵ヲ防敗軍ノ味方引カセント。大ニ働ケルカ。終ニ城兵ノ爲ニ討ニケリ。角テ西坂ヘ寄タル城兵ハ。山脇ノ陣中燒上ヲ見テ。得タリ賢ト川嶋カ弓ノ兵ヲ一番ニ進テ。西坂ノ麓ヘ押寄ケルニ。山上南ノ笠見ヘ小寺。蜂須賀。淺野。竹中。梶原。宮部。梶尾。木村。堀。糟屋。明石等カ與力ナント押合テ

相支ケルカ。城兵坂中ヘ攻登ル所ヲ。一番ニ堀尾カ與力ニ白石權六下知シテ。彼カ黨芝居ニ蹈留ル間。宮部カ手ノ者是勵サレテ。殘黨不退。故ニ各段々弓鉄炮ヲ打懸タリ。神吉。早瀨。小寺カ先勢。是ニ中リ弓手妻手ヘ將棊仆ノコトク打倒サレケル間。殘黨忽敗シテ坂下ヘ崩引間。二陣ニ城ノ弓鉄炮ノ士其外打物ノ士入代攻登ル。其中ニ究竟ノ强弓七八人有ケルカ。頓テ北岸ヘ披合テ間ヒ半町余リヲ見上ケ。山上ニ支タル敵ニ矢ヲ射懸タリ。岸ノ上ニ充滿シタル敵ノ中ナレハ。件ノ矢ニ射貫レテ。弓手妻手ヘ仆者夥シ。殘黨不怺忽散亂シテ。村々發ト引退。賴村。早瀨是ヲ見テ。キタナシ汝等。透間無ク攻登レト。眞先進テ攻登ル間。總軍我モ我モト押登ル。早瀨。宇喜多カ弓鉄炮ノ士一所ニ成テ。彼是三拾余人一番ニ坂ノ上ニ至リケレハ。頓テ南ノ坂上ヘ捕登。敵ノクラキヲ見繕テ扣ケレハ。二陣ニ押登リシ神吉。廣戸。鵜野カ與力弓鉄炮ノ士彼是五拾人。續テ坂ノ上ヘ進ミ。先勢ニ會釋シテ。眞向半町計進ケル所ニ。東方ニハ喚叫テ相戰ト見エケルカ。軍敗シケルニヤ。西坂ノ方ヘ崩來ル事夥シ。神吉。廣戸是ヲ見テ。何條敵ヨ今少シ進テ笠見ニ伏シテ。敵ノクラキヲ見ント。一町計走寄テ。南ノ岡ニソ伏タリケル。神吉カ後ヨリ。小寺。早瀨。本間段々ト押登ル所ニ。以前ニ走散シタル山脇勢。相催シテ。南東ノ方ヨリ押出ケルカ。間一町計ニシテ。川嶋カ陣ヘ遠矢ヲ射懸。鉄炮打懸ケル程ニ。川嶋兄弟。瀨川。松尾等モ射殘シ矢少々有ケレハ。形如ノ矢軍セリ。去レ𪜈川嶋カ陣ハ小勢ナレハ。一所ニ打圍タリ。敵ハ大勢ニテ。三方ヨリ鉄炮ヲ打。矢放。川嶋何モ矢ハ竭タリ。此故ニ宗徒ノ城兵爰ニテ討レ。カシコニテハ射仆サレ。殘黨不怺。山ノ雪頽ヘ捲レ落

レヌ。角テ西坂ノ上北方一町計ニ。糟屋カ陣シテ在ケルカ。西坂ヨリ夜討押登リ。相戰ヲ聞テ。弓鉄炮ヲ手配シテ。見繕居タリケルカ。城兵坂ノ上ヘ押登事。段々大勢也ケレハ。頓テ弓鉄炮ヲ進テ押向。城兵小寺。早瀨。本間ト也。小寺。早瀨。先立ケレハ。糟屋カ押向ヲ見テ。二手ニ颯ト分ヨリ。先ンシテ鉄炮ヲ打懸ケル程ニ。小寺。早瀨カ賴ミ切タル弓ノ兵餘多打倒レ殘黨騷立ヌ。サレモ。細月。山ノ里。早瀨。岡田。舟越。佐用。川崎何モ何モ强弓ノ手垂ナレハ。所々ニ披渡テ。糟屋カ陣ヘ矢ヲ射懸ケルニ。打圍タル糟屋カ兵。此矢ニ中者將棊倒ノ如ナレハ。糟屋モ矢疵負テ。タチマチ備亂テ敗走ス。本間內藏助。三村。馬淵。中嶋等八十餘人西ノ如作(マヽ)ヨリ押出。糟屋ヲ追討ス。斯テ東方ヨリ高嶋ニ追立ラレテ。西ノ方ヘ崩來ル山脇勢雲霞ノ如也。此勢ナカハ押通ル及比。以前ニ寄タル神吉。廣戶。鵜野。中村。南ノ笠見ヘ伏テ居タリケルカ。川嶋カ合戰急也ト見テ。五十余人喤ト喚起立テ。小寺。蜂須賀カ兵ノ後ヨリ蒐寄テ。矢少々射懸。切入ケル程ニ。山脇勢忽敗テ討タル者夥ク。僅ニ打殘サレタル者モハ。同西ノ片岸ヘ唯一捲ニ成テ追落サレヌ。角テ東ヨリハ。燒出サレタル山脇勢ト。高嶋ニ追立ラレツル軍勢混亂シテ崩レ來程ニ。早瀨。小寺是ヲ見テ。當ノ敵ナレハ。余所ニ見ナシテ通スヘキヤウヤアル。蒐入テ討ト下知シテ。三百餘人ヲ二手ニ分。半町計南ヲ西ヘ打通ル。敵ノ中ヘ魚鱗ニ成テ蒐入リ。喚ヤ聲ヲ上テ撞テ廻ニ。面ヲ合スル者三方ヘ蜘ノ子ヲ散スコトク迯走所ヲ。城兵勝ニ乘テ軍ヲ亂テ追討ス。加之本間カ一組。神吉カ一組南北ヨリ助合。笠印無者ヲ敵ト見テ。縱横八面ニ追討スル間。討ル者其數ヲ不知。或ウタレ。或所々ニ追倒サレ。彌上ニ顚(コロヒ)重

卒(ニワカニ)死スル者モ多カリキ。懸所ニ築地ノ西ノ妻ヨリ。桑名。山田。樋口。小田垣カ猶子八郎右衛門尉。英積。岸本彼是二百計ニテ押出。城兵ニ打テ向。是等カ手ニモ弓鉄炮少々有ケレ𪜈。敵味方入亂タル軍ナレハ。各扣テ見繕居タリ。此等モ築地ノ二町計北ニ出張シテ在ケルカ。小屋々々ヲ焼イタサレ。秀吉ノ御在所ヲ尋來ルトカヤ。又東方ヨリ淺野三十余ニテ押來。弓鉄炮ヲ一面ニ立テ。小高所ニ打上。暫見繕居タル所ニ。秀吉ヨリ軍使トシテ。中條作兵衞。岸本彌次郎走來。御在所ヲ中テコソ淺野悦ヒヲナス事限リナシ。サテ召倶シノ人々不足也。先誰彼參レト云所ヘ。山田。桑名。樋口。英積。岸本。小田垣八郎右衛門。中村新藏彼是二百計ニテ。淺野カ陣ヘ出來程ニ。幸哉ト思ヒ。急キ御陣ヘ參ラレヨ。某カ手ヨリ弓ノ兵ヲ分參ラスヘシト。昨日諸將ヘ示合。戰場ニ尋求タル弓五拾余。淺野カ手ニモ有ケレハ。此内三拾射手ヲ揃テ。人々ニ指添。秀吉ノ許ヘ參ラセ。吾陣ニ廿余人ノ弓兵ヲ張置ヌ。角テ手ノ者與力ノ軍勢ニ云ケルハ。カレヲ見ヨ。人々入亂レ戰フ其中ニ。赤笠印附タル者有。進テ然モ小勢也。臘月ノ夜軍ナレハ。其レヲ見カケテ同士討スナト下知シテ。蒐ヨト云フ程(ホト)コソアレ。弓ノ士ヲ先立テ押向(ムカフ)。敵間近着スレハ。件(クダン)ノ弓ノ士ヲハ。吾廻リニ立。鎗長刀ノ兵ヲ鉾頭ニ立。四角八方ヘ追ツ捲ツ突テ廻ル程ニ。城兵ハ淺野カ爲ニ若干討ヌ。是ニ依テ敗軍ノ山脇勢モ。淺野ニ勵レテ防戰ハ。城兵ハ元來小勢ナレ𪜈。思切タル樣ニテ。五人十人ツヽ一組ニ成リ。大勢ノ敵ノ中ヲ蜘手十文字ニ追立々々突テ廻リ。打破テハ走抜息ヲ繼噇ト喚テハ亦蒐入。此陣ニ秀吉ノ御座スト。互ニ勵合テ討ル者ハ乘越々々。少モ不レ撓。淺野カ陣ニ蒐入テ。陣ヲ破ル

事數ヶ度也ケル。淺野モ既ニ討ントスル事度々ニ及ヌ。城兵ハ亦淺野カ手ニテ。矢疵餘多負テ。悉ク滅テ。軍ハ扱止ヌ。去ハ軍ハ節ト運トイヘトモ。城兵ハ安否今夜ノ一戰ニ決スル其謀ト。秀吉ノ心早クモ要害ノ裏ヨリ出給フ。又宮川。小田垣。白石等カ節勇才ニ依テ。城兵ノ諸將ヲ討シ。惜哉此三人モ終ニ爰ニテ命ヲ隕ス。實ニ德ハ一代名ハ末代。弓馬ノ家ニ生ルヽ人ハ。臨氣應變ニ。勇才トナリテン事ヲ常ニ心ニ不嗜難カラシト。楠カ傳記。赤松カ家書ニモ見ヘタリシハ是ナンメリケリ。

十。秀吉卿後詰之事

斯テ十二月十七日ノ夜。山脇ノ軍勢要害ノ兵。火ノ爲ニ燒ケ出サレ。右往左往ト惑出ル所ヲ。城兵圍ノ外ニ待テ押寄々々攻討スル事夥シ。サレハ山脇ニハ。今モ大軍也ケレトモ。打續タル合戰ナレハ。將モ士卒モ手負疲果。敵ヲ防カントスルニ力無ク。爰彼所ヘ迯散。或片岸。或岩ノ破狹間ニ捕登リ。命ヲ繼ントスル計也。城兵ハ又元來小勢ナルニ。所々ニテ討レヌレハ。今ハ一所ニ打寄スル𪜈。僅百計ニ成テ。西ノ山端ヘ走拔ケ。息繼居タリ。淺野ヲ始。山脇勢ハ大勢討レ。殘黨手負疲ヌレハ。城兵モ引退ケハ。芝居ニ落伏。又懸ル所ニ秀吉兵火ノ時ハ心早ク。圍ヲ出サセ給ヒ。トアル所ニ御座ケルカ。山田。桑名ヲ先トシテ。彼是二百計ニテ參リケレハ。合戰ノ樣ヲ聞召シ。後詰シタマハントテ。頓テ件ノ兵弓鉄炮ヲ先立。山脇要害ヨリ辰巳ノ角ヘ打出ラレ。事ノ躰ヲ見玉テ御座在リケルカ。先鯨波ヲ上テ。味方ニ力ヲ附ヨト仰有シカハ。鬨ヲ上ル事三度ニシテ。其ヨリ淺野ヲ始。其外諸大將ノ許ヘ軍使ヲ立ラレ。勢ヲ集テ夜討ノ殘黨ヲ攻討ヘシ。重テ敵加勢スル事モアランソ。ト仰遣リ玉フ。依之淺野一番

ニ進テ。西ノ岡ニ扣タル我兵ニ當ラント押出ツレハ。所々ニ息繼居タル山脇勢モ。段々ニ押出ケルカ。皆手負疲テ墓々シカラス。淺野カ郎從岸本七郎。藤懸等ハ。弓ノ兵少々集メ。眞先ニ進タリ。角テ城兵ハ西ノ岡ニ打寄セ。橘紅水ナト飲ンテ息ツキ居タリケルカ。山脇勢閧ヲ上ケテ。三方ヨリ雲霞ノ如ク寄スルヲ見テ。別所太郎。廣戸右兵衛天晴敵哉。最期ノ軍ナレハ願所也。御先仕ラント一番ニ進出ケレハ。彼等郎從八人走リ出。主ノ先ニソ進ケル。其志有難シ。誠山脇勢ニ見合スレハ。百千ノ其一ニモ不足城兵ナルニ。勇氣少モ不撓有樣也。角テ別所。廣戸カ進ミ行ヲ見テ。小寺云ケルハ。敵大勢ニテ三方ヨリ打向ナレハ。此方ノ小勢ヲ手分シテハ惡カルヘシ。各一手ニ成テ。一方ヨリ蒐給ヘ。ト呼張ケレハ。百餘人鋒頭魚鱗ニ連テ。鎗長刀ヲ前ニ進メ。相蒐リニカヽリ。敵間一町計ニ成ケレハ。城兵噇ト叫テ蒐入ケルニ。山脇勢一支モ無ク敗走ス。城兵勝ニ乘リ追討スル事急成ケレハ。敵後陣入代ントスルモ不叶。淺野。糟屋等モ。共押立ラレテ崩行所ニ。小田垣。宮川カ百計ニテ。城兵ノ横合ヘト打蒐ル。城兵北ノ方ヘ颯ト披。逃ル敵ノ中ヘ走入々々テ。敵ト混亂シテ突廻リ切テ廻ル程ニ。山脇勢大勢討レ。右往左往ト敗スル計也。去レ𪜈小田垣。宮川。渡邊等城兵ノ後ヨリ追慕。急ニ討蒐程ニ。城兵小寺。早瀬カ殿ニ在ケレハ。三十餘人ニテ取テ返シ。縱横八面ニ切テ廻ル程ニ。小田垣。宮川。渡邊。中條ヲ始。八十余人討ケレハ。城兵ニハ小寺。廣戸。櫛田。山里。岡田。細月。佐用。川嶋等ヲ始。二十餘人重手負ヒ。又ハ自害シ。指違テソ死ケル。斯テ淺野ハ軍使ヲ以テ。秀吉ニ申ケルハ。夜討勝ニ乘候トイヘトモ。元來小勢ニ候ヘハ。蒐引變化シ防候間。頓

テ滅ヒ候ヘシ。但後詰ヤ仕ラン。殿ハ唯佐用坂ノ笠見ヘ御陣ヲ移サセ玉フヘシト申遣ケレ𪜈。秀吉今ハ何程ノ事有ヘキソトテ。前ニ弓鉄炮ヲ張。陣ヲ囲備ヘ。軍使ヲ以テ諸大將ヲ進勵シ。下知セラルヽ事櫛ノ歯ヲ引カ如シ。此故ニ山脇勢モ城兵競懸レハ。披合。蒐廻レハ附慕。散亂スレトモ遠引モセス。防キ戰フ其志ハ節ナレ𪜈。皆手負疲レテ力無ケレハ。城兵ニ討ル者夥シ。サレ𪜈流石ニ大軍ナレハ。十方ニ群カル山脇勢ニ兵不ㇾ透。城兵ハ勇進トイヘ𪜈。日ニ余ル程ノ大敵ナレハ。所々ニ押隔ラレ。大勢ニ捕籠ラレテ討ル者多ケレハ。今ハ城兵扶疎ニ成テ。縱横八面ニ陣ヲ破テ防戰程ニ。淺野カ頼切タル岸本。藤懸。山口。英積。神東。神西等ノ國人等モウタレタリ。城兵モ次第ニ兵減機疲ケルニヤ。山ト相言葉シケルカ。西ノ岡ヘ各走披。一所ニ芝居シ。息續居タリシ人々ニハ。

早瀨權太郎正繼。川嶋三郎四郎頼村。同舍弟川嶋杢太輔義行。本間内藏助廣行。三村定右衞門。立川六郎。舟越與四郎。大崎（坊ヵ）左京之進。松尾六左衞門尉。鷹峯源八郎。杉之防左太郎。鵜野新八郎吉滿。長谷彌三左衞門尉遠光。中條猪之助。小寺四郎兵衞尉。同舍弟小寺左吉良。宮本三左衞門尉。岡田市允。佐用政茂。上月權之正恒織。高野彌三郎正行此人々ヲ始。宗徒ノ勇士十四人。其郎從彼是六十餘人。前ニ敵有𪜈不ㇾ恐。後ロニ退ヘキ地ヲモ不ㇾ見。太刀長刀ヲ押直。更ヌ躰ニテ居タリケリ。山脇勢ハ又散々ニ蒐悩テ。十方ニ走散リ打テ懸ラントスル者モ無シ。秀吉ハ遙ニ是ヲ御覽シテ。今ハ此陣ヲ寄テ打捕ト。弓ノ兵ヲ進給ヘハ。御側ニアリケル宮川。竹中申ケルハ。夜合戰混亂タリ。御手ヲ下サルヘキニ非ス。淺野。精尾。中條并其專カ與力手者ニテ滅ヒ候ヘシ。先々御待候得ト申

ケレハ止ミ玉フ。斯テ今ハ城兵モ去ル引退ヌラント思所ニ。各討死ト一決シテ。先早瀨カ郎從芳賀半藏ト云者ニ合戰ノ次第。又ハ所(マヽ)ニ討死スル有樣ヲ城主ヘ申セト云含メ。城ヘ歸シテ後。各一度ニ噇ト喚キ。雁翅ニ連打テ蒐ル程ニ。所々ニ扣タル山脇勢色メキ立テ。敗軍ノ機ニ見ヘタリ。是ニ依テ淺野。糟屋カ與力手者ヲ中村相屬シテ有ケルカ。所々ニ芝居シ。息繼居タリ。城兵打懸ルヲ見テ。各兵ヲ進メ。魚鱗ニ立下知シテ云ケル。アレヲ見ヨ旁(カタ〳〵)城兵ハ是マテ也。僅ノ敵ニ中ヲ破ルナ。追捕籠討留ヨト呼張テ。相蒐リ打向程ニ。山脇ノ總軍勢モ淺野中村ニ勵サレ十方ヨリ打寄セタリ。蜂須賀。小寺。堀尾。谷。梶原カ與力手者トモ少々討殘サレ。一所ニナリテ息繼居タリケル。是等モ亦中村ニ言葉ヲ懸ラレ。勵サレテヤム事ヲ不レ得。弓ノ士少々先立。城兵ノ通ル横合ヘト出向。城兵ニハ長谷鷹(タカ)峯。先ニ進ミケルカ。是ヲ見テ敵間近ケレハトテ。頓テ此敵ニ打向程ニ。本間。早瀨。佐用モ押續蒐向所ニ。件ノ弓ノ兵矢ヲ射懸タリ。去ル城兵扶踈ニ打散。鏃傾ケ鎧ノ袖ヲ指簪無二無三ニ走蒐ヌ。城兵何レモ勝タル力量者ニテ鎧厚ケレハ。裏搔ス透間ヲ射サレハ。手モ不レ負三方ヨリ打散テ。疾風ノ如ク蒐入タリ。山脇勢ハ城兵ノ勢ヲ見テ。元來可防矢種竭ケレハ。不叶トヤ思ケン。迯走ル程。城兵是ヲ追。筋違テ左ノ手先ナル敵ノ中ヘ蒐向。山脇勢ハ流石ニ今モ大勢ナルニ。僅ニ城兵蒐來ヲ見テ。四角八方ヘ散亂スル所ヲ。城兵勝ニ乘テ喚叫テ追討シケルカ。東ノ笠見エ秀吉陣シテ御座ケルカ。城兵其トヤ知タリケン。迯敵ヲ追立追廻。秀吉ノ陣エ追懸タリ。山脇勢ハ後ロノ岡ニ秀吉御座ケレハ。淺野。中村敗軍ノ味方ヲ制止ケルハ。僅ノ敵ニ追立ラレハ。公ノ陣エ迯

懸ル者哉。返合テ防戰ト。兩將僅十余人止リ防戰程ニ。淺野。中村既ニ討レントセシ所ニ。總勢返合。忽勇氣ヲ成。入代防戰。城兵猛ニ武シトイヘ𪜈。目ニ余ル大敵ナレハ。十方ニ押隔レ。前後左右ヨリ攻戰ハ。城兵モ其身金鐵ナラ子ハ。大勢中ヘ捕籠ラレテ。或討レ。或數ヶ所ノ疵ヲ蒙タレハ走拔テ自害スルモ有。斯テ今ハ僅ニ六人六ヶ所ニ分レ。皆長刀ヲ以縱橫八面ニ切テ廻ニ。彼等ニ追立ラレ切居ラルヽ者夥シ。此時山脇ノ武者黑田彌惣。曾根新九郎。山上八右衛門ヲ始余多討レ。日來手柄功有シ與力手者大勢討レ。重手ヲ負モノ數ヲ不レ知。カクテ城兵件ノ六人ノ中ニ一人當ノ敵ヲ打拂通斗走拔。南ノ岡ナル所エ蒐登。長刀ヲ杖ニ突テ立タリケル。殘ル者モ是ヲ見テ。當ル敵ヲ追拂南ノ岡エ走行。各一所ニナリケルカ。件ノ六人是マテトヤ思ヒケン。共ニ指違テソ伏タリ

ケル。扨コソ止ニケレ。角テ程無ク夜モ明。同十八日ノ巳ノ刻計マテ。山脇ノ總軍勢等ハ。山上下ノ東西南北エ打散タル者。皆手負疲果。半死半紅マヽニナリテ落伏。打寄スル軍勢モ無リケレハ。秀吉ノ陣ヨリ軍使ヲ出サレ催促シ。漸ト半ハ山脇要害ノ内エ入ヌ。去𪜈小屋々々ハ申スニ不及。陣具モ糧モ悉燒失テ。唯築地計殘テ。元ノ荒野ト成ケレハ。軍勢ノ飢ヲ助クル便リモ無ク。雨露寒風ニヲカサレ。詮方モ無キ有樣也。斯テ秀吉モ僅百四五十ニハ不足ナル兵ヲ倶セラレテ。園ノ裏エ入給ヘ𪜈。御身ヲ寄玉ハンヤウモ無コソ方見ケレ。剩城兵今モ寄スラント。橋ヲ引ケ木戶ヲ閉ヨト呼張レハ。疲タル軍勢等カ這々引來者セキアエス。去程ニ十七日ノ夜上月城中ニハ。山脇ノ燒ル事夥ク。剩喚叫テ攻戰。其騷動夥ク手ニ取ヤウニ聞ヘケレハ。宇喜多。廣維。高嶋エ申ケルハ。山脇夜討

ノ人々計略思フ圖ニ相當レル事軍ニ叶候。十ニ八九ハ秀吉滅ナンカ。但先陣ノ人々今ハ疲候ハン。最敵ハ猶然ナラン。敵ノ疲ヲ討ンニハ。偏ニ今夜ノ一戰ニ限ルヘシ。然ハ城ニ打殘レル兵士。悉倶セラレ。政範打出給ハンヤ。左モ候ハヽ。某先御先仕ルヘシト。頻ニ進テ申ケル。正澄聞テ。此儀政範ニハイカヽ思召。某存候ハ。然今城中ニ殘ル兵百人ニハ不足也。サレハ城中ノ抱迫。城主十死一生ノ合戰ヲ致サンニハ。城ヲ悉明ケン事不心得。又僅ナル兵ヲ分ケテ。城ニ殘サンニハ。前後ノ兵共不足ニシテ。將ノ十死一生ノ軍ニハ非ス。唯止ム事ヲ不得。軍ニ溺レタルナルヘシ。去ハ赤松圓心記ニ。夫合戰ノ勝負ハ軍效運ニ依歟。但節ト法ト其圓ト强弱ト可戰ト不戰ト其規ニ叶フハ。是智慮ニ有テ能軍ヲ心ニ持ツ所謂也。士卒ノ命ヲ司ル將可心得事也。又籠城ノ時抱難クハ早ク。城ヲ落テ他ニ忍フヘシ。亦城ヲ枕ニセントナラハ。將ノ自害シタル側ニハ。郎從自害ノ骸ト。弓矢ト厨ノ糧ヲ殘スハ是時ノ要タリ。此三ツ物ハ最少キ也𪜈具足セヨト也。去ハ籠城抱難。今一戰ノ勝負ニ依テ。安否ヲ究ンス軍。一方便ヲ以戰ヘキ。先勢ハ不足候マシ。唯夜討ニ出タル者𪜈ト。運ヲ共ニシ給ハン歟ト。更ヌ躰ニテ申サレケレハ。政範ヲ始。人々郎從ニ至マテ。此儀ニ同シテ出勢無カリキ。實ニモカヽル折節。毛利宇喜多後詰スルカ。兵粮運送カラハ。籠城堅固ニシテ。秀吉ハ終ニ滅フヘシ。サアラハ上方ヨリ重テ誰カハ討手ニ下シ玉ン。毛利益威勢カツテ。山陰山陽ノ兩道ニ手指者無ク。輝元天下ノ者ト成ナン歟。政範ヲ始各餘多失ツ。又アラ天下ヲヤケリ

十一。同十二月十八日太平城中自害之事

角テ十二月十七日ノ宵ヨリ。太平ノ城ニハ僅

ニ殘ル兵ヲ手配シテ。大手ハ櫓ニハ政範正澄出張シテ。夜討ニ出タル者共ノ勝負ハ如何ニト。山脇ノ方ヲ遙ニ見進御座ケル。搦手ニハ早瀨。宇喜多。猪ノ谷矢倉ニ柏原主馬之助。宇喜多相交。荒神谷ノ矢倉ニハ眞嶋入道。三宅新美相向テ夜討ヤスラント扣タリ。山脇ニハ小屋々々ノ燒散事夥ク。剰其中ニシテ喚叫テ攻戰。其騷動山川ニ響渡テ聞ヘケレハ。出勢ノ者カ方便相違無ケレハ。此一戰ニ安否ヲ究メント。拳ヲ握リ齒ヲ咬テ。通宵守居タリ。角テ兵火モ次第ニ止ミ。曉近クナルマヽニ。合戰ノ騷動閑リケレハ。勝負如何ト片唾ヲ呑テ居タリキ。兎角スル程ニ。夜ハ明方ニナリケル所ニ。上月ノ方ヨリ者コソ一人。是ハ敵カ味方カ。何樣川ヨリ此方ナレハ。味方ノ注進ナラン。程無大手ノ前ニ來ルヘシ。橋ノ上柵ヘ出合テ窺見ヨ。トテ郎從二三人ヲ出サレタリ。斯テ件ノ者猪ノ谷口ヨリ呼テ高聲ニ申候。某ハ早瀨殿ヨリ御使芳賀半藏也。出合給ヘト呼懸々々出來ル程ニ。城ヨリ出張リシ兵頓テ柵際ヘ出テ。事ノ躰ヲ見ルニ。果シテ大道ヨリ橋通ヘ走來ニ。元來人ナレハ。何程ノ事有ラント。其間一町計ニ近着比。答テ云。芳賀殿カヤ。是ニ匹田三郎左衛門。松上勝助待儲タリ。對面申サント名ノリカケタリ。芳賀程無柵際ヘ來ル。子細無ケレハ木戸ヲ開キ裏ヘ入。頓テ相伴矢倉ニ行。人々モ出向テ。政範。正澄。宇喜多。柏原對面ス。芳賀申ケルハ。夜討ノ支度符ヲ合スルカ如ニテ。山脇內外役所悉燒散。度ニ迷フ所ノ敵ヲ討事幾等ト云ニ無計。去程ニ混亂シタル夜軍ナレハ。秀吉ハ討レタリトモ退タリトモ貞ナラス。味方ニハ高嶋殿。小寺殿。川嶋殿。神吉殿此黨類ハ疾討死也。去ハ城兵敵屯ヲ破リ。追討スル事勝計ニ暇無シ。然シ敵ハ流石大軍ナレハ。打集ル

兵不透。味方ハ武進陣ヲ破事度々ニ及トイヘトモ。元來小勢ナレハ。十方ヱ押隔ラレテ。剰所々ニテ討レ。手負テハ自害スル程ニ。今殘ル人々ニハ早瀨。本間。佐用。上月ヲ始。彼是五十余人也。是モ手負一所ニ引除息ツキ居タリ。今一度莵人討死セント。打立給フ節。某ニハ城ニ參リ合戰次第是迄ト思所ヲ申セト有ケレハ。辭スルニ言無ク。注進ノ御使ニ參候。某西坂ヲ過クル時ニ。亦合戰其騒動太ク聞ヘシカトモ。是モ次第ニ鎮リ候ヒヌ。人々ノ行末如何成給フヤラント。涙ヲ押ヱ申タリ。芳賀手痛敵ニ當リタリト覺テ。數ヶ所ノ疵ヲ負。皆紅ニ染タリ。于時正澄ヲ始。各一同ニ神妙ニモ注進申タリ。先々疵ヲ養フヘシトテ。政範手自小袖一ツヲ賜ヒケレハ。押載テ退出ス。正澄被申ケルハ。此併可驚ニ不候。夜明マテ今一注進ヲ待給ヱト。城中鎮リ候ヱト軍使ヲ立制セラレニケリ。

政範。高嶋ヱ申サレケルハ。去來サセ給。敵モ疲レテ急ニハ寄候マシ。屋形ヱ參ラント申ス。政範心得候。搦手ヱモ案内申サントテ。中村與一郎ヲ使ニ立ラレ。其ヨリ矢倉ヲ下リ。門内所々ニ固タル楢原。國府寺。瀨川ヲ呼。各暫指固ラレヨト。爾々云含ラレケレハ。件ノ三人與力手ノ者相屬シテ。大手ノ門ヲツ固タリ。政範。正澄諸共ニ。眞嶋五郎。廣澤左兵衛尉。鷹峯。山里。高野三郎兵衛尉。永良小八郎。中村伊勢入道彼是十餘人倶セラレタリ。角テ政範屋形ニ至リ。簾中ニ入。北ノ方約束ノ如ク今ハ是マテ候ト云モ不果。幼稚ノ姫二人乳人抱テ在ケルヲ。通斗寄リ奪取テ。頓テ刺殺タリ。北ノ方ハ少モ臆セス。不便ニモ今ハ心安モ侍ト。守刀ヲ拔。心許ニ刺立内伏給フ。政範通斗寄留ヲ盤。三人ノ死骸ニ袖引被。眞嶋。廣澤ヲ召サル。于時件ノ乳人ノ女房モ自害セシ程ニ。眞嶋。廣澤留ヲ

聲。其ヨリ三人ノ死骸ヲハ。眞嶋。廣澤ニ仰テ。朱ノ唐櫃ニ納タリ。政範ハ腹卷ヲ小袖ニ脱代。太刀脇挾。大廣間エ出ラル。兩人モ續テ出タリ。偖大廣間ニハ。高嶋。宇喜多外樣ニハ。中村。高野。長谷入道。眞嶋入道。廣澤入道。神吉。寺根。永良。鷹峯。瀨川。桐山。山里。廣澤左兵衞尉。皆鎧ヲ脱テ並居タリ。政範頓テ座上エ着給エハ。高野。中村兼テ用意ヤシタリケン。銚子土器持參ル。高嶋乞テ申サレケルハ。老人ナレハ某始候ハント。土器捕テ一受。是ハ政範エ參セント持參ス。政範申サレケルハ。ソレカシ。幼稚ヨリ以來公恩太重カリ。實ニ報謝ノ期不レ候事。返々モ無本意候。猶後ノ世但同シ蓮台ニ座シ可申ニテ候ト一受。正澄サラハ御肴仕ラントテ。席少シ去テ押肌脱腹一文字ニ搔切給フ所ヲ。中村與一郎天晴遊タリト。通斗參リ介錯シテ。衣引懸。中村モ腹搔切。返ス刀ヲ捕直。自ラ頭ヲ搔落ス。偖政範ヨリ盃宇喜多エ指テ申サレケルハ。實ニ吾コソアラメ。貴邊同道ニ倶ヒ申ス。業因ノ方見(ウタテ)サヨ。亦宿緣ノ深事悦入候。御肴ニト腹一文字ニ搔給所ヲ。眞嶋五郎頓テ介錯シテ。其身モ腹十文字ニ切テ伏タリ。ソレヨリ盃正義エ廻ケル。早瀨申サレケルハ。誠今度御加勢。度々戰功。御計略ト謂。御一族幷郎從ノ働比類ナシ。彼ト謂是ト謂。古今無双ト可謂。惜哉本意無キ事ヲ。神吉。寺根誰彼ト慇懃ニ會釋ス。宇喜多早瀨共ニ目醒マシク切腹スル程ニ。神吉。寺根。長谷等介錯シテ。其身々々モ自害ス。ソレヨリ眞嶋入道。中村入道。瀨川藤兵衞。國府寺左近入道。廣澤入道。丸山入道。常休。高野。山根等御遺言ノ如。政範正澄ヲ始。一族女姓(マヽ)達ノ御死骸ヲ。大廣間ニテ一所ニ寄セ。炭薪屏風遣戸ヲ讀カケ。是ニ火ヲカケ。其廻リニ件ノ郎從十餘人並居テ自害シ。同煙ト成ヌ。

眞嶋入道。三宅十兵衛。櫛田久藏。桐山市進。カレ是四人ハ。任御遺言今度城中ニテノ合戰ノ次第手配計謀ノ日記。是ヲ捕持テ。日此ノ黃昏ニ城ヲ落タリ。角テ追手搦手ヲ堅メ居タル。槍原。瀨川。國府寺。芳賀右衛門尉允。高森小次郎。林七郎。廣戶權太輔等屋形ニ火懸リタルヲ見テ。相圖ナレハ各大手門內エ打集タル人々總テ廿七人。大手ノ門ヲ開打出。青野原ノ前ナル川瀨エ走入。喚呌テ渡リケル。寄手ハ昨日終日終夜ノ合戰ニ。軍卒益滅ヒ。殘黨トテモ手負ヌ者ハ無シ。然𪜈夕部子ノ刻計ヨリ。山脇ニ當テ兵火夥ク。燒散喚呌テ攻戰。其騷動ヲ聞テ。進退度ヲ失ヒ居タリ。サレ𪜈秀吉ノ御大事此時ナレハ。山脇エ打越。兎モ角モ成ナント。諸大將等打散タル軍勢ヲ集ケレトモ。不集。心計ハ葉流𪜈。身躰疲テ漸今日ノ晝程ニ。追手搦手ノ寄手相屬テ。二位山青野原ノ小屋々々マテ來ケレ𪜈。其勢三百計ニハ不足。爰ニ暫待テ。軍勢ヲモ集。糧ヲモ認テナトヽ言ケル所ニ。城山俄ニ燒上リ。黑煙ノ中焰ヲ卷テ燒事夥シキ間。是ハイカニト躁立程コソアレ。城兵打テ出。河原表エ來ル。寄手是ヲ見テ。アレヤ敵ヨト周章サワキ。我サキト逃惑。後ノ山岸ノ上。岩ノ破狹間エ捕登モアリ。亦山ヲ東エ逼越スモアリ。サレ𪜈小寺。蜂須賀。堀尾。谷。高山。福富等手者與力ヲ御シケレハ。川ヲ阻タル敵ノ然モ小勢ナルニ。迯散事ノ未練サヨ。其上城中ニハ自害シテコソ。城ニハ火ヲ懸ルナレ。迯散ル耻ハ後悔スル共甲斐アラシ。川端エ出向テ防ヤ者𪜈。我ニ續ト呼張ヲ。手負疲タル諸將。續ク郎從僅ナル。河原表エ打出程ニ。殘ル武者軍勢五人十人ツヽ返合。河原表エ打集ヌ。角テ城兵川端近ク走リ來ケルカ。東河原エ出合。敵ヲ見テ眞先ニ進タル兵。弓杖突テ立止

リ。扇子ヲ擧テ人々慥ニ聞給エ。柰モ村上天皇二皇子具平親王ノ後胤。赤松播磨守頼範カ末流。太田民部少輔重行。國府寺左近太郎長義。柏原主馬之助盛吉。林七郎左衛門尉忠恒。芳賀右衛門佐貞吉。眞嶋新左衛門尉元治。永良數右衛門尉倶光ト云者也。討テ高名仕給ヘト。射殘タル矢ノ二筋三筋ツヽ有ケルヲ。指詰引詰射懸タリ。向河原エ集タル寄手此矢ニ中者多ケレハ。殘黨不レ怺逆散ケル。此時城兵噇ト閧ヲ上ケ。一度ニ川エ走入。喚叫テ渡ケルニ。是ヲ防ク敵無ケレハ。川ヲ安々ト打渡。東河原ニ散亂スル敵ノ大勢ナルヲ見。唯一手ニ成テ追テ行程ニ。蜂須賀。堀尾。福富カ與力手勢等。青野原ノ方エ敗走シケルカ。城兵二位山ノ方エ追行ヲ見テ。主ヲ捨テハ活タル甲斐アラシト。心指アル兵トモ四五人返合。二位山ノ方エ行程ニ。殘ル兵其外谷。明石。神西。平岡ヲ始。上方勢。北國勢ノ國人等。我モ〳〵ト捕テ返。城兵ノ後ヨリ附慕。于時二位山ト青野原ノ間ニテ。高山ト谷。堀尾。東ノ笠見エ走拔ケルカ。彼等カ手者二三拾人。總軍ヲ押分々々主ノ許エ走着程ニ。三將不レ斜悅見繕扣居タル所ニ。程無ク城兵ト覺テ。茜染ノ笠印附タル者共。味方ノ總軍ヲ追討ニ喚叫テ追來ルニ。蜂須賀。堀。小寺等殿シテ。返合々々防戰テ引ケル程ニ。谷。堀尾。高山カ三拾人ニテ。魚鱗ニ連テ城兵ノ手先噇ト喚テ打蒐ル。城兵是ヲ見テ。颯ト披合テ。寄手ヲ引包テ討ント互ニ喚叫テ。火花ヲ散テ相戰ニ。左右ニ討ルヽ者ヲハ乗越々々。引ナト呼張防戰フ。敗軍ノ寄手モ爰ニ返合。城ノ後ヨリ追慕ツル寄手モ程無ク追着テ。蒐入々々笠印ヲ目懸テ打テ蒐程ニ。城兵武ク防戰エ𪜈。寄手ハ流石ニ大勢ナレハ。大敵防ク暇無クテ。大半討レ。或疵ヲ負タルハ引退自害スルモアリ

兎角スル内ニ。日暮山谷殊ニ闇ケレハ。敵味方モニ不辨。互ニ引退ク有樣也。爰二位山ノ前河原表ニ戰居タル城兵ノ中ニ。大ノ男二人一所ニ迹長刀ヲ以テ。大勢ノ敵切拂捲立々々追廻。彼寺ニ切居ラルヽ者大勢ナレハ。寄手是ヲ防キ兼テ。河原ヲ南ヘ引モ有。山上片岸ヘ捕登ルモ多ケレハ。日暮ルマニ彼二人モ敵ヲ追捨。長刀ヲ杖ニ突。大音聲ニ名乘ケルハ。人々慥ニ聞給。我々一人ハ當國龍野ノ住人瀨川三郎兵衛尉繁則。一人ハ同芳賀庄住人山崎與市郎芳方ト云者也。戰疲テ力無シ。手捕ニ仕給エト二三度呼張待ケレ共。闇サハクラシ。近者モ無ケレハ。去來サラハ先歸ナントテ共ニ長刀ヲ振擔。渉リ瀨ノ前ニ打莅ケル所ニ。人コソムクト起立テ。イカニ是ハ田邊喜逸郎。糟屋兵助ニテ候。手負疲テ茫然ト絕入タル所ニ人々ノ御聲ノ耳ニ入テ夢ヲ醒タル心持也。此上ハ御一所ニ討死仕ラント申ケル。瀨川。山崎是ヲ聞。扨ハ左樣ニ候カ。コノ方來給エ。川ヲ越テ心靜ニ自害セント。打連川ヲ渡リ。小山崎ノ大手口エ行ト見エケルカ。其後ハ生死行方不知。軍ハ止ニケリ。

十二。秀吉卿姫路へ開陣之事

去程ニ羽柴筑前守秀吉卿ハ。敵城ノ燒ルト城外合戰ノ騷動ヲ聞シ召。定テ山脇エモ敵ヤ寄ラント。軍勢手配シ玉エモ。皆手負疲テ墓々シカラ子ハ。身ヲ操テ御座ケルニ。敵寄サルコソ幸ナレ。程無ク日暮。南ノ方合戰騷動モ止ミ。城山モ次第ニ燒納リケレ共。猶夜攻ヤスラント易キ心モ無リケル所。上月寄手ノ諸將ノ許ヨリ。城ノ燒ル爲躰。合戰ノ次第ヲ注進申シ。城中ハ誤ル燒亡モ。亦自害シテ城ニ火ヲ懸タリモ。覺束無ト申ス程ニ。各夜討寄スルト用心ス。明レハ十二月十九日ノ早旦。秀吉卿ハ敵

城ノ燒タル費ニ乘テ。城ヲ捕圍ト。山脇ヨリ山傳ニ靑野ノ原ト。二位山ノ間ナル東ノ笠見ヘ出張在テ。城ノ氣色ヲ御覽シ御座ケル。實モ打續タル戰場ナレハ。城外南北五十余町カ其間ニ。敵味方ノ死骸彌上ニ累々タリ。寄手ノ陣屋ハ悉打破ラレテ。旗ヲ立タル役所モ無ク。手負疲タル寄手共ト覺テ。爰ヤ彼所ニ群蹲居タル在樣ハ口惜ケル次第也。去ハ城ノ燒ル事ハ。昨日申ノ刻ヨリ此曉マテ燒ル程ニ。本丸ノ下屋形ヲ始トシテ。眞築嶽ノ上南北ノ役所ヨリ。南方ノ矢倉出塀二ノ丸ニ移テ。屋形矢倉一宇モ不殘燒落タリ。本丸ト手三所ノ矢倉門矢倉渡リ塀計ソ殘リケル。十九日ノ晝マテハ。城中ニ人在𪜈無シトモ不知ケレハ。寄手モ容易攻入ラレ𪜈セサリケル所ニ。秀吉卿ヨリ諸大將ノ許エ軍使ヲ立ラレテ。城中ニハ悉ク自害シタリト見エテ人氣絶タルソ。急キ乘入ヘシト觸催ス。依之小寺。蜂須賀。谷。堀尾。福富ヲ始。上方勢。國人等十人二十人ツヽ所々ヨリ打出。靑野原ノ河原表ニ集リケルカ。頓テ川ヲ渡リ。大手攻口エト押寄スル。搦手ニモ同時ニ。堀。木村。高山ヲ始。各攻口エト押行ケルカ。余リニ小勢ナレハト。秀吉ノ陣ヨリ糟屋。竹中。淺野。宮部等カ與力手ノ者ヲ蒐催シ。三百餘人ヲ搦手エ加勢ス。此勢美泥ノ瀨ヲ打涉ラントスル及比。山中。明石。櫛橋等モ手負疲テ在ケレ𪜈。止ム事ヲ不得ハ。皆小屋々々ヨリヨロホヒイテ。上月マテ出張ス。秀吉モ靑野原ノ河原マテ出張シ玉フテ。川ノ此方陣ヲ張御座ス。角テ搦手ノ寄手ハ。九折ノ坂ヲ押登。土橋エ打望見ルニ。門矢倉出塀角矢倉ニ至マテ。悉燒落。野山ノ如ク成ケレハ。寄手直ニ打入ケルニ。出合敵一人モ無シ。頓テ相圖ノ閧ヲ上タリケレハ。大手ノ諸大將軍勢等モ。橋ヲ打涉。門内エ

込入。眞栗嶽ヨリ上押登。彼方此方ト打廻見ルニ。大廣間ノ燒跡ト見エテ。燒タル骸ト太刀刀ナント余多有ケレハ。扨コソ皆自害シタリトハ知テンケレ。角テ二ノ丸ヨリ攻入タル寄手モ悉大手エ押來リ。又共ニ萬歳ヲ唱エ。同音ニ鬨ヲ上ル事兩三度ニ及ヌ。其ヨリ本丸ノ城内ニ打入。燒殘タル矢倉々々打入見ルニ。人一人モナシ。此由秀吉卿エ注進申ケレハ。豐臣秀吉公歡喜々悦ノ眉ヲ開レ。先々山脇ノ本陣エ歸玉。去ハ佐用。上月ノ城攻ハ。天正五年ノ暮秋ニ始リ。同年ノ極月十九日。寄手悉乘入ヌ。誠ニ今度羽柴筑前守豐臣秀吉公。當國エ下リ玉テ。手合ノ合戰ニ軍勢「干若カン（誤アラン）亡ケレトモ。ヨクモ芝居ヲ踏止終ニヲクリ本意タリ」。大功此人ニアラサランハ叶難ト。是ヨリ猛威中國ヲ覆ヘリ。同二十日ヨリ上月ノ城内城外ノ掃除等仰附ラレ。搦手ヨリ城外所々ノ柵鹿垣ナントヲ補繕。此城ヲ以テ中國押ノ根城トシテ。山中鹿之助ヲ大將トシテ。北國勢ニ上方勢。國人ヲ相交リ。軍兵五百余弓鐵炮ノ足輕三百余人。玉藥兵粮差添在番ニ殘サレ。筑前守秀吉公ハ。總軍引倶セラレテ。同十二月下旬。同州姬路エ開陣セラル。府内ヨリ舍弟羽柴小市郎秀長（大和大納言）五百余騎ニテ迎ニ出ラル。其外府中ニ有合武士ハ申ニ不及。明石。高砂。英賀。別府。志方ニ殘居タル武士。或所社務別當寺院ノ僧徒士民町人老若男女ヲ不論。其道三里カ間御迎ニ出ケル程ニ。萬人ニ功ヲ仰レ日出タカリケル事共也。

播州佐用軍記下卷終大尾

跋

余聞。信長記將開板而行于世焉。則遂到洛陽書肆。而潛然以上月之軍記請增補也。書肆曰全部書梓已成矣。終不許附錄。而空手而退去也。嗚呼何謂也。余未知者之旨趣。惟恐有其戰場之譽者多不載。且勝負亦然乎。尙疑上月軍記太以疎略也。目邊見聞於戰場者。當時歷々焉。亦何疑哉。余追於書肆梓工家請信長記草稿。需書寫之有日矣。然歸於播州。而後以上月軍記追加于信長記而重雖欲於開板有志未成矣。翁俟後人而欲鏤于梓行于世者也。一旌於見聞之咸。一慰於亡魂之憤而已。

于時慶長六辛丑歲三月

赤松氏號川嶋忠左衛門尉正友於播州書寫

山筆書記

右軍記上下之卷。不愧淺陋手跡鄙褻。任大谷士所望而令書寫者也。予不幸而民間居業矣。隱遂年久也。雖不現於累祖姓名。今以爲慕虎賁猛士之武勇。以拭老眼。于爰則遺管城而已。

美作宮元探擢頭播陽佐用軍銘修不尤焉馬刁

刀錯何勿後生輕淺尤

なかれ行水の哀やもしほ草

ついにとゝまるしからみもなし

于時正德五乙未彌生上旬　隱士某報意軒

法名慈泉院悟心頁榮

以宮内省圖書寮本校合畢

續群書類從卷第六百四十

合戰部七十

備前文明亂記

金川城名　臥龍山　玉松城

松田家代々

一秀暫　二秀巖　三燈明　四法泉　五道林　六源妙　七妙善　八妙國元成　九皓月　十蓮皓　十一蓮盛於金川討死也　十二蓮忠於下田討死也　十三淨榮於備中須雲山討死

俗名官名共ニ代々如此

又俗名孫二郎官名左近將監也

金川日向山妙國寺代々住持之名

一開山權少僧都日精文明十二年草創歟　二日範　三日悅　四日審　五日寶　六日詥　七日吏　八日城　九日欣　十日航

私ニ曰金川ノ地今ハ左少將光政朝臣ノ臣日置若狹知行所在居ス若狹食邑一萬六千石

備前文明亂記

夫吾朝者。神代時去。從神武天皇以來。代々帝。官朝政給。後白川院御宇。太政大臣平清盛入道。猥奉惱宸襟間。蒙勅命右兵衛佐源賴朝被平氏一族悉追討。而任惣追捕使職守護國給共。有背叡慮雖後鳥羽院。後醍醐天皇起舊規思食。不應御成敗。尚以東夷盛。所足利尊氏卿。元弘建武之比。責亡相摸入道始北條氏族。其外新田左兵衛督義貞以下。逆心給一天泰平處。山名伊豆守時氏子息。右衛門佐師氏。其以後時氏。四男山名陸奥前司氏清謀叛。又從應仁之比。天下一亂奉始。禁裏仙洞。至月卿雲客。諸國侍民。百姓無安事。尋其由來。依畠山左衛門督政長。同右衛門佐義就家督爭論故也。雖每度相戰。依背右衛門佐上意。金胎寺嶽山合戰懸負。紀州山林籠居仕ル。然リト云ヘトモ。彼義就取弓矢凡テ名ヲ顯ス兵多シ。山名右衛門督持豐入道宗全。時氏四世孫也連々義就カ勇武ヲ惜ミ。山林籠居ヲ不便ノコトニ思フ折節。右衛門佐義就。頻リニ宗全ヘ合力ノコトヲ憑ム由。竊ニ申送ル。依此持豐入道領掌シ。文正二年十二月廿五日。手勢一千八百餘騎ヲ引率シテ上洛シ。山名入道同心シテ。事故ナク政長ヲ攻落シ。山名入道カ威勢肩ヲナラフ人ナシ。時ニ大樹ノ管領細川右京大夫勝元。元來政長贔負タルニ依テ。勝元分國ノ勢ヲ召上セ。合戰ニ及フコト度々也。實ニ道ニ二虎アルカ如シ。然ル間。山名入道同心ノ人々。先山名相摸守。同修理大夫。同七郎。澁川治部大輔。一色修理大夫。佐々木六角判官。土岐美濃前司。大內新介。河野伊豫守。畠山右衛門佐ヲ始トシテ其外宗徒ノ大名一味猛勢ニテ。公方ノ御營ヲ圍ミ申ス。將軍ノ御方ニハ。細川ノ一族不殘從ヒ奉ル。武將山名彈正忠ヲ招キ給フ。赤松

兵部少輔。佐々木大膳大夫。武田大膳大夫。畠山左衛門督。各勝元一味タリ。畠山左衛門督政長ハ。身ヨリ起リタル大事ナレハ云ニ及ハス。其外ニ近習外様諸侍。如何ナル遠國波島ニ隠レ居タル者トモマテ。此御大事ニ馳參ラサル者ハナカリケリ。互ニ洛中ニ城郭ヲ搆ヘ。既ニ十餘ケ年ニ及テ合戰タユル間ナシ。是ニ依テ主上モ室町殿ヘ臨幸アリシカハ。則禁中ハ武士ノ陣屋ト成。梶井殿。三寶院妙法院。諸門跡。諸五山モ。或ハ放火。或ハ城郭トナル上ハ。年中行事ノ御政所。聖壽萬歳御祈禱モ退轉。諸社神拜斷絕。飢饉年重災難月勝間。人々無不懷愁。併佛法王法神道モ。共ニ破滅ノ世ト成ニケル。懸ル有樣ハ。上古ニモ末代ニモ聞及ス。淺マシカリシコト共ナリ。去程ニ赤松兵部少輔軍忠ヲ抽ルコト他ニ異ナルニ依テ。本國播磨。備前。美作三ケ國ヲ返シ被下。十ケ年牢浪セシ諸士トモ本知行安堵シテ。喜悦ノ眉ヲ開キ。彌忠戰ヲ致シケル。然ル處ニ山名入道宗全。細川右京大夫兩人。共ニ病氣ニシテ軍中ニ死去シ。兎角ノ内ニ談合共出來テ。今ノ山名右衛門督政豐。父祖ノ先非ヲ悔テ。將軍家ノ御味方ニ馳參シ。土岐佐々木ハ今出川殿ヲ相具シ奉リ。美濃近江ニ下向シ。大内新介ハ。山名修理大夫。河野伊豫守ヲ伴ヒ。西國ニ下。畠山南人河内國ニ馳下。國静トソ成ニケル。帝都ハ無爲ニ成テケリ。然リト云ヘトモ東八ケ國ハ。重代上杉主從ノ合戰廿餘ケ年也。筑紫ハ少貳ト大内カ諍。北ハ隱岐。出雲。因幡。伯耆。南ハ四國。中國。五畿内ノ合戰共。何皈伏ス可トモ見ヘサリケリ。去程ニ備前國ハ今度一亂以前ハ。山名相摸守知行シ。小鴨大和守爲代官在國シ。城郭ヲ搆ヘ居タリ。然ヲ勝元計略ニ依テ。松田左近將監一族若黨ヲ相催シ。押寄ケル所ニ。赤松家ノ侍

トモ。多年ノ遺恨ヲ散シ。與力彼城ヲ責落ス間。本國タルニ依テ守護職政則知行仕。軍功ノ賞トシテ。伊福郷ト云所ヲ一所松田左近將監元成ニ出置所ニ。天下大亂ノ時節タルニ依テ。松田一族共。備前國西郡ノ內。數ケ所押領ス。是ニ依テ國中ノ本給人トモ。大ニ野心ヲ含ミ。便宜ヲ伺ヒ。此事ヲ訴訟シ。時節アラハト相待處ニ。山名右衛門督政豐。三ケ國ヲ召放サレ。赤松ニ返シ被下事ヲ怒リ。野心ヲ起シ。文明十年九月上旬。上意ヲ伺ハス但馬國ヘ馳下リ。軍勢ヲ集ル間。赤松兵部少輔モ。同十月廿一日播磨國ヘ下向シ。此次テヲ以テ備前國松田將監カ押領スル在所トモヲ改易スヘキノ由風聞ス。元成此事ヲ傳ヘ聞テ。押領ノ在所ハ忠勤ノ間。一旦兵糧料所ノ爲ニ。一族等抱置所ニ可糺返條。勿論ノ義也。於伊福郷者。軍功ノ賞タル上ハ。異變ノ段無念至極也。畢竟事ヲ左右ニ寄テ。我等一族ヲ可責失企現形セリ。其儀ナラハ力不及。一合戰シテ可討死トテ。元成ノ館金川ト云所ニ要害ヲソ構ヘケル。私ニ云。金川ハ今日置若狹守在所ナリ。若狹守ハ當國ノ主左近衛少將池田光政ノ臣ナリ。サレハ彼山ハ麓ニ大川流。嶺高雲連。谷深磐石峙。廻四方嶮岨ナルコト屛風ヲ立タル如シ。西ハ備中境。北ハ美作ニ續タル數百丈切タル岸ノ上ニ屛ヲ付。櫓ヲアケ。中ニハ陣屋ヲ打ナラヘ。國方ノ働ヲ相待ケルカ。角テ猛勢ヲ引請ンコト計略ナキニ似タリトテ。安藝國嚴島一見ト號シ。歩行跣ニテ備後國ニ下リ。山名又次郎俊豐ニ申シケルハ。御分國トモ今度一亂中。赤松ニ返シ給コト無是非次第ニ候。所詮急度思召立。御取返シアルニ於テハ。備前國ノコトハ我等相開キ。可進ノ由事モノナゲニ申間。俊豐モ元來備前國ハ望也。一往ノ思案ニモ及ハス。頓テ領掌アリ。軍ノ內談モ申合セテ。松田ヲハ備前國ニソ岐

シケル。案ノ如ク。幾程モナク政則備前ニ打越。彼在々所々ヲ悉押置。給人ヲ付ケリ。兼テヨリ思ヒ備シコトナレハ。但馬。備後兩國ヘ飛脚ノ往還スル程コソアレ。文明十五年九月廿六日ニ。山名又次郎俊豐。備後ノ尾道ヲ打立。同國ノ國、寺ニ着陣シ。分國他國ノ勢ヲ相催ス間。俊豐催促ニ隨フ輩ニハ。先當國守護代大田垣美作入道。舍弟三河守。同新右衛門尉。同右京亮。三吉太郎。同和泉守。杉原三郎。木梨遠江守。本郷藤左衛門。山内新左衛門尉。同下野守。多賀新兵衛尉。滑良兵庫助。即同四郎太郎。三河内河内守。金谷山城守。花栗播磨守。湯川備中守。鍛冶屋五郎左衛門。和氣筑前守。安田掃部頭。小越彈正左衛門。由谷加賀守。江田新藏人。同與三、左衛門尉。河喜上野介。敷名備中守。下見三郎。栗原刑部左衛門尉。吉原藤左衛門尉。田尻左馬允。上之山出雲守。板倉新左衛門。安藝國ニハ小早川。草井和泉守。竹原則光。備中國ニハ毛利太郎。赤川和泉守。出雲國ニハ馬木惣兵衛尉。伯耆國ニハ小鴨次郎四郎。同掃部助。石見國ニハ周布。福屋。其外隣國ノ諸侍トモ馳付ケル程ニ。都合其勢三千餘騎。十一月七日ニ備前國ニ押寄ル。兼テ合圖ナレハ。松田ノ一族ニハ。左近將監元成子息。孫二郎元勝。左近將監ノ舍弟宗右衛門尉。其弟花光院。宮内備前守。藤田備前守。同掃部助。子息次郎。同大炊助。同駿河守。子息民部大輔。同修理亮。同孫四郎。同三河守。同越中守。同又三郎。伊賀修理亮。佐藤式部丞。其外家子若黨一千八百餘騎。備前國ニハ上野土佐守。同豐前守。同三河守。同備前守。庄伊豆守。子息四郎次郎。多氣。川面。小坂。川西。高木。東條。都合其勢一千三百餘騎也。松田勢一手ニ成テ。福岡ノ西ヨリ北ノ山ニ陣取。備後ノ勢。同南津坂ノ上火鉢カ城ニ陣取。大方

三方ニ大山五六十丸トモ陣取續大幕ヲ打廻シタル陣々ノ在樣、譬ヘン方モナシ。彼西岡ノ城ト申ハ、東西ニ大川流廻ル。川島少山アリ。彼山ヲ本城ニシテ、其面ニ堀ヲ堀屛ヲ塗、年來調置處ニ。今度ハ敵味方猛勢タルノ間、要害ヲ仕出サントテ、在家一千餘ヲ構中ニ仕籠、初テ河水ヲ堀流シ、其中ニ大堀ヲ二重三重ニ堀、屛ヲ塗、川瀨ニハ亂杭逆茂木ヲ引。櫓。井樓ヲ揚クレハ、三方ハ大河也、誠ニ異國ノ咸陽宮ノ鐵築地ハ雁門開タレハ鳥通ナリ、是ハ雁門ノ不開ハ、飛鳥モ難翔見ヘタリケル、城中ニハ守護代浦上喜三郎、同伯耆守、子息六郎次郎、其景ノ舍弟豐前守、其弟與三左衛門、同若狹守、同次郎右衛門、同彌三郎。同八郎太郎、喜多野孫左衛門、同掃部助、櫛橋豐後守、同彌五郎、藥師寺四郎左衛門、同山城守。同次郎左衛門、舍弟延命寺。同六郎左衛門。同小六、難波掃部助、舍弟十郎兵衛、同四郎左衛門。有松右京亮、同與七、同彥八、裳懸伊賀守、是本筑後守。同孫次郎。津島修理亮、同三郎左衛門、小串彥左衛門、中村次郎右衛門、大島縫殿助、沼田與市、同與一郎、延原八郎左衛門、山守八郎左衛門、兒島太郎左衛門。內藤與左衛門。市村隼人佐、足立新三郎、藤田新兵衛、志方彌六、同藤兵衛、橫山助五郎、青津九郎左衛門、矢田次郎左衛門、伏見藤左衛門、本江彌九郎、片岡孫左衛門、額田十郎左衛門。彌延九郎左衛門、子息新九郎、大工村八郎三郎、國富太郎次郎、稅所彈正左衛門。目黑新右衛門、桑島兵庫助、中村三郎兵衛、其外備前、播磨ノ軍兵。都合二千餘騎ニテ楯籠ル、彼大川上瀨ハ、長船右京亮、同左京進、新田香々登野伏ヲ相副陣取、下ノ瀨津坂口ヲハ、五ケ庄六ケ郷ノ野伏堅テ、河ヨリ東ヘ敵ヲ渡ラセシト支ケル間。寄手猛勢タリト云ヘトモ、徒

ニ帷幕ノ中ニ休息シテ。餘所ニノミ見テヤヽミナン葛城ノ山陣ニ謡歌酒宴ニ戯レテ。數日ヲ送リケル懸ル所ニ十一月廿二日拂曉ニ山陣ノ勢打出先陣ハ河原西ニ打莅後陣ハ福岡ノ原ニ充滿シタル勢ハ幾千萬トモ見分サリケリ上ハ板屋ケ瀬下右津瀬ノ間淵トモ瀬トモ不云打出渡シケル間東向ノ勢モ支テ且相戰ト云フトモ雲霞ノ如クノ勢ニ切立ラレ手負死人アリシカハ引退ニケリ依此長船ノ舘ニ發向シ。近邊ノ民屋一宇モ不殘燒拂ヒ。頓而取テ返シ。川ヨリ西ニ打飯。津坂口ノ瀨ヲ渡野伏共川岸ヲ莅テ防戰シカトモ數百人討レ即時ニ破レニケリ。然リト云トモ河東ニ陣ヲハ取ラテ。元ノ山陣ニ打登凱歌ヲ揚テ居タリシハ目ニアマル大勢也城ノ中ニモ臆スヘシトソ見ヘニケル然ル所ニ浦上紀三郎カ若黨檜村與三兵衛同又四郎トテ一人松田ニ奉公ス。此緣ヲ以テ。檜村兄弟ヲ語ラヒ。城ニ火ヲ掛。浦上紀三郎則國ヲ討取降參セハ。過分ノ恩賞ヲ可行山中開セ。若干ノ金銀ヲ與ヘケル依之則領掌シテ。正シク厚恩ノ主人ヲ討ント覗ヒシハ淺マシカリシコト共ナリ然ル所ニ十一月廿三夜大風木ヲ折テ吹ケル間定テ忍ヒ夜討ナントモ可有トテ。宿直夜回ヲ搆。番キヒシクシケルニ。何ノ隙ニカ付タリケン城中ノ陣屋燒出タリ。大風ニ放火。天ニ燃亂レ。五町三町餘所々猛火飛散燒上ル作續タル陣屋ナレハ何ニシテ燒止ルヘシトモ見ヘサリケリ元來ヨリ狼煙ヲ定シコトナレハ。山陣ノ勢下立手火續松ハ。晴天ノ星ノ影ヨリ猶繁ク上下四五萬人モアルラント思フ軍勢堀ヲ埋寄持楯階楯カツキツレ。ヲメキ叫ンテ身命ヲ捨テ責ケレハ。鯨波地ヲ動シ。狼煙耀天シハ誠ニ上ハ有頂天下ハ阿鼻大城モ即時ニ

破滅スルカトソ覺ヘシ。サレハ如何ナル天魔鬼神モ面モ可向トハ見ヘサリケリ。然リト云ヘトモ城中ノ兵トモ一騎當千ナリケレハ。是ヲ少モ事トセス思構テ。口々ヲ相支防戰シ。精兵櫓ヨリ。指詰引詰。散々ニ射石弓。胴切ニテ打音。矢叫。天地モ響ハカリナリ是ニ依テ寄手若干。手負死人射出サレ揺(引イ)足ニ成處ヲ門ヲ開キ切テ出散々ニ戰フ間木ノ山陣ニ引退。然間則國ヲ討ント爰彼ニテ覘ヒケレトモ擊損シサラヌ體ニテ居タリシニ。夜モ明ケレハ。如何ナル者ノ所爲ナラント。人々アヤシミアヘリケル處ニ檜村與三兵衞カ下人密ニ申シケルハ。夜前ノ火事ハ賴ミタル與三兵衞カ籌ノ由始ヨリノ巧ノ發リトモヲ一々次第ニ告知ラセケル間是非ナク檜村兄弟ヲ搦捕拷問スル處ニ。白狀歷然タリ。是ニ依テ終ニ彼兄弟ヲ斬戮ス。サレハ法花ニハ諸苦諸因貪欲爲本ト說レテ諸ノ苦ハ貪欲ヲ本トシ因果經ニハ欲知過去因見其現在果欲知未來果見其現在因ト說テ現在ノ果ヲ見テ過去未來ヲ知トコソ見ヘタレ。忽ニ如此重恩ノ主人ヲ討ント巧ムコト己レカ僕ニ告ラレシハ。世ハ澆季ニ及ト云ヘトモ日月未落地。爭カ爲臣犯君乎。禮義ヲ可知道トコソ見ヘタレ。去程ニ寄手ノ勢城ヲ見下シ目前ノ敵ヲ攻落サテ。徒ニ日ヲ送ランハ無念ノ次第ナリ一合戰シテ可決雌雄トテ。十二月十三日庄伊豆守手ノ者トモ足輕野伏ノ體ニテ三百人ハカリ富岡ト云小山ノ北ノ陰ヨリ打出タリ。浦上紀三郎若黨トモ是ヲ見テ定テ城責ラレント相待處ニ今日迄甲斐々々シキ。合戰セサルコトヲ不安思ヒシカハ。敵打出間城ヨリ出合一矢射違フルホトコソアレ切テ懸リ。散々ニ相戰フ寄手ニハ細屋七郎右衞門白賀新兵衞討死シ城

方ニハ岸野五郎左衛門討レテ。相曳ニ引退所ニ。庄右衛門四郎是ヲ見テ手勢五百人ハカリニテ。富岡山南ノ詰ヨリ打テ出ル。城中ヨリ楠橋彌五郎岩間孫四郎難波十郎兵衛沼田與市延原八郎左衛門ナントヲ始トシテ大勢切テ出ル是ヲ見テ。庄伊豆守元資法城寺掃部助ヲ使者ニテ申ケルハ。同名右衛門四郎若武者ニテ楚忽ノ討死ヲモ仕ルヘシ合戰ノ道ハ敵味方ヲ見合セ時節ヲ計テ敵ヲ討亡スヲ勇士トハ申ナリ只討死シテ敵ニ利ヲ付ルヲハ古來ヨリ大將ノ心トセス急度作ヒ飯ルヘシト云ケレハ掃部助急キ馬ヲ馳テ此由ヲ云右衛門四郎此旨ヲ聞テ。勇士ノナラヒ戰場ニ苟モ敵ニ後ヲ見スル樣ヤアル。一足モ引ス討死スヘシト制テ楯ヨリ面ニスヽ出テ。二間渡ノ長鎗ヲ取直シ備中國ノ住人庄右衛門四郎ト云フ者ナリ。手ナミノ程ヲ見スヘシト大言ス。沼田與一。岩間孫四郎目黒次郎左衛門。弟與一左衛門渡シ合セ。散々ニ戰ヒ目黒次郎左衛門膝當ヲ被突與一左衛門弓手ノ肩ヲ被突ナカラ。右衛門ヲ討テケリ延原左京進ハ。法城寺掃部助。右衛門四郎ヲ呼返サントスルニ右衛門同心セス猶深入シテ討死スル間掃部助モ散々ニ戰ヒケルカ延原ニ討レニケリ。福屋藤次郎ハ。延原彥八ト渡シ合セ太刀ヲ捨テ無手ト組テ。福屋ヲ取テ押ヘ刀ヲ拔テ內冑胸板外ヲ二刀指時石見國住人福屋藤四郎ト云者ソ一足モ引ス卽討死シタリト云傳テクレヨト云テ終ニ首ヲ被取ニケリケ樣ニ敵味方入亂レ追ツ返シツ。散々ニ戰ヒ引退ク所ニ城中ノ若武者共兩度ノ合戰ニ不合コトヲ無念ニ思ヒ。城戶ヲ開。堀橋ヲ渡テ二千人許颯ト出ル處ニ備後ノ勢松田勢庄伊豆守ヲ始トシテ。東西ヨリ眞中ニ取籠一人モアマサシト銘

ヲ揃ヘ。曳々聲ヲ出シ。雲霞ノ如ク切テカヽル間。浦上伯耆守。大音聲ニテ申シケルハ。城郭ヲ搆ユルハ。敵ヲ引懸テ利ヲ待ヘキ謀ナリ。平出合ハ無勇士ノ至ソ。搆ニ入テ射殺セト喚リケル間。實モトテ。次第々々ニ引退所ニ。敵手繁ク追懸ケル間取テ返シ。散々ニ戰テ。彌延九郎左衞門。井原孫右衞門。内藤四郎兵衞。福井少次郎。其外浦上紀三郎。同伯耆守若黨トモ。七十餘人討レニケリ。浦上彌三郎返シ合セ。々々。散々ニ戰ヒ。數ケ所疵ヲ被ル。其外深手淺手ハ不知。疵ヲ被ル者敵味方何百人カ有ケン。不遑記。取分中ニモアワレナリシハ。福井少次郎ナリ。彼ハ都ノ者ナリシカ。四歳ノトキ父源左衞門在國スル程ニ。父ト共ニ下國シ。當年廿一歳ニナルマテ。母ニ對面スルコトヲ不得然ルニ。此合戰出來戰ヒノ最中。敵味方ニ隔テラレ。父ハ先立テ城中ニ入リタリト心得。走リ入テ見ルニ。父源左衞門城中ニ不見。是ニ於テ二度大勢ノ中ニ切テ出。福井少次郎生年廿一歳ト名乘。向フ敵ヲ追拂フ。又件ノ城ニ入テ見レハ。淺手深手廿六ケ所マテ負。遂ニ空シク成ニケリ。タトヘハ元暦ノイニシヘ。平家一谷ノ合戰ニ。梶原平三景時二度ノ懸シテ。名ヲ後代ニ殘セシモ。ソレハ子ヲ思ヒ。今ノ福井ハ父ヲ思フ。カレトイヽコレト云。時數百歳ヲ隔ツト云ヘトモ。何レモ恩愛ノ道ナレハ。誠ニアハレナリシコトトモナリ。扨父ノ源左衞門。陣所ニ皈テ手箱ヲ見ルニ。文餘多書置タリ。披ヒテ見ルニ。都ニ殘ル親類共ノ方ヘ。當陣ノ有樣ヲ思ヒ々々ニ書送ル。中ニモ母ノ許ヘハ。幼少ヨリモ別離シ。副奉ル御事モナク。心ハカリハカヨヘトモ。互ニ見モシ見ヘモセス。夢ノ浮橋絶テ後ナケカセ給ハン御事コソ。心ニカヽリ侍ルヨシ。ソレトテモアタシ世ノハカナキ

ナラヒニ侍レハ。何事モ前世ノ業因ト思召アキラメ給ヘト書テ。奥ニ一首ノ歌アリ。
生レコシ親子ノ契リイカナレハ同シ世ニタニヘタテハツラント書止タルニコソ。兼テヨリ專ラ思ヒ定シ討死ヨト。人皆哀レニ思ヒケン。是ヲ見テ。跡ニ殘ル父源左衛門カ心中思ヒヤラレテ哀レナリシコトトモナリ。斯テ山名又次郎俊豐。備前國着陣ノ日ヨリ。但馬國ニヲワスル親父右衛門督ノ方ヘ。飛脚ヲ立ラルヽコト數波ナリ。既ニ敵ニ對陣仕リ。日々及合戰候。急度其國ヨリ播州ヘ御勢ヲ可被指向。御延引アラハ定テ播磨美作ノ勢牒シ合セナハ。笑元難儀タルヘキ由被申ケレトモ。上意ナラサルニ依テ。垣屋平右衛門雜掌ニテ歎キ申サレケレハ。未但馬丸山城ニ磐。播磨國ヘハ不打入給。赤松兵部少輔政則カ方ヘハ。備前ヨリ敵猛勢ニテ。三方圍候。定テ播州通路可取塞候。其上阿波ノ大西備後。雨宮近日罷立ノ由風聞候。事實ナラハ以外ノ次第ナリ。其以前ニ其國ノ御勢ヲ被立。美作勢指下サレハ。鳥取邊中郡ニ打テ出通路取塞候者。敵幾程カ可堪候。回籌帷幄中決勝於千里外候ハン者ヲト。日ノ中ニ二三度マテ注進シケレトモ。可然功者ナンモナキカ。又ハ若武者楚忽ノ義アラント思ヒケル歟。毎々政則ニハ披露ナク。只心得タルト云儀ノ返事ハカリニテ。一日路二日路ノ間ニ。二ケ國ノ大勢扣ヘナカラ。去年六七月ヨリ思儲ケタル合戰。翌年正月下旬マテ一騎モ馳加ラサリシハ。是非ナキ次第カナトツフヤク人モ多カリケリ。斯テ如何ナル者ノ異見ニテカ有ケン。備前ヘハ。宇野下野守。浦上掃部助ヲ指下シ。政則ハ十二月十六日。姫路ノ城ヲ打立テ。同十八日同國大賀庄ト云所ニ着陣ス。人皆仰天シテ。大敵備前ニ亂入ノ由。日々注進アル

ヲ聞テ。如何ナル事ヤラント申スニ。是ハ上意ナラス。山名又次郎俊豊。備前ニ亂入ノ上ハ。本知行但馬國朝來郡ヲ打取ヘシト云儀トソ聞ヘケル。去程ニ但馬國ヨリ打入ヘキ由兼テ聞ヘシカハ。赤松伊豆孫次郎大將ニテ。兩國ノ境ニ眞弓峠ト云所ヲ堀切。屏ヲ付ナントシテ拵ヘケル處ニ。赤松前ノ勢。眞島上月。宇野。柏原大將ニテ。一千五百餘騎指遣ス間。眞弓峠ニ打上リテ見レハ。雪枯木ヲ埋テ。谷モ嶺モ不分程也ケレハ。寒氣ヲ防カントテ。或ハ風陰日面ヤ。或ハ麓ノ水便ヲ尋ナントシテ。陣屋ヲ打居タル處ニ。十二月廿五日未明ニ。雪ナレタル但馬勢。案内者ヲ先ニ立。垣屋越前守大將ニテ。二千餘騎思ヒヨラサル山カケヨリ押寄。時ノ聲ヲ噇ト作ル間。赤松勢取モノモ取敢ヘス。支防キ戰フト云ヘトモ。足タマリモナキ嶮岨ナル山ニ。大雪ハ降積リタリ。人馬ノ通路モアラシト油斷シケル間。各侍長頁。本郷。柏原。上原左京亮。同神兵衞。布施彈正忠。松田彈正左衞門ナント。宗徒ノ者三十四人。惣シテ三百餘人討レテ。眞弓峠ハヤフレニケリ。政則此由ヲ聞テ。無念ノ次第也。敵陣ニ取向。油斷スルハ未練ノ至也ト。大ニ怒。時刻ヲ不移。馳向。一合戰スヘシトテ。大賀ノ陣ヲ立テ。節所ノ岩ノ懸道ヲ傳ヒ行程ニ。具足武者ノ事ナレハ。急ントススレト行ヤラテ。夜ニ入ケル間。兎アル谷底ニ陣屋ヲ居タル所ニ。小倉少四郎申ケルハ。此谷合ニ御擘候ハンニ。敵山ノカサヨリ寄來ラハ。只以前ノ二舞ナルヘシ。是ニテ御合戰被成損シナハ。姫路ノ城モ何曲候ヘキ。只御引退有テ御誘置レタル城ニ御籠城アラハ。縦ヒ大勢ニテ敵勝ニ乘候トモ。何ノ子細カ候ヘキ。其上雪馴サル者トモ。不知案内ノ深山ナレハコソ。人馬ノ通路タヤス カラス候ヘ。國中ノ

廣ミヘ敵ヲ放出シ。要害ニ引懸テ合戰シ給フニ於テハ。一定味方打勝候ハン者ヲト。心底ヲ盡シ敎練ジケレハ。政則モ最ト同意シ。サラハ打立ヘシトテ。夜半許ニ陣屋ヲ立。可取除。某ハ先陣ニ打。誰ハ殿セヨナント丶云付タル者。イトト先陣ニ馳拔テ。馬物具ヲ捨テ。散々ニ成ケレハ。政則僅ノ無勢ニテ。姬路ノ城ニソ被籠ケル。サレハ血氣ノ勇者。仁義ノ勇者トテ二品アリ。血氣ノ勇者ト云ハ。勝軍ノトキハ陣ヲ破テ敵ヲ亡ス事數ケ度アリト云ヘトモ。負軍ノ時進退度ヲ失ヒ。後代ノ名ヲモ不恥。未練ノ働キヲスル也。仁義ノ勇者ト云ハ。千騎カ一騎ニナルト云ヘトモ。更ニ事トモセス。敵ノ猛勢ニモ不臆。不遁所ヲ知テ命ヲ輕ンスル也。彼赤松勢ハ。加賀南方名譽。播州猪取野岩倉山々崎洛中ニ於テ。毎度ノ合戰ニ名ヲ揚シ事天下ニ比類ナキニ。今度ハ主ヲ捨。親ヲ指置テ。サシテ競ヒ掛ル敵モナキニ。無下ニ逃ケルコト。已前ノ武名ハ血氣ニ誇リケルカトソ云ケル。去程ニ。備前ノ加勢ニ指下ル。宇野下野守。浦上掃部助モ。片上ト云所マテ下着シケルカ。右ノ合戰ヲ聞テ。急キ片上ヨリ皈リ上ル。是ニ依テ城中ノ兵トモ色ヲ失ヒ。力ヲ落スト云ヘトモ。サスカニ軍ニ弱リタル體ハ無リケリ。然ル間。美作ノ勢モ後詰ノ爲。小瀨彈正忠。大河原彈正左衞門大將ニテ。一千餘騎備前ト美作ノ境ナル大松ト云所ニ陣取間。松田宗右衞門大將ニテ金川城三百餘騎ニテ楯籠ル。新田庄野伏引具寄ヨトテ。明石六郎兵衞。日笠和氣宿ニ陣取間。松田孫四郎。佐藤式部少輔。楢原堤上。小野田相副吉岡ノ南ノ山ニ陣取。長船右京館古城ヲ取持テ。播州通路可塞由聞ヘケル間。浦上豐前守熊山ニ陣取テ。大篝ヲ燃テ居タリケル。去程ニ。十二月廿九日山陣勢河ヲ渡シ。東ヲ差テ

行ト見シ間。能時節也。一合戰スヘシトテ。赤松勢打テ出ケル。山陣ヨリ少々出合矢軍シケル。其マヽ責上リナハ可然合戰モアルヘキニ。兎角云合引退キヌ。明レハ文明十六年正月二日。軍首途祝トテ太田垣參河守大將ニテ。山陣ヨリ下一日攻テ幾ハクカ手負死人被射出。晩タニ及ヒ引退。六日山陣騷體見ヘシカハ定テ寄來ルヘシ。用意セヨト云程コソアレ。山勢トモ麓ニ下リ。鯨波ヲ作リケル間。城ヨリ出合野伏トモ矢軍シケル。互ニ漸々引退ク所ニ。備後勢三百人計リ。外堀ノ河下ニ磬(吋イ)タリ。藥師寺四郎左衛門。敵此責口ヘ懸ケルニ寄來ラサルニ依テ。今マテ合戰セサル事無念ナリト思フ時節ナレハ。呼叫テ掛リケルニ。且墻ヘテ見シカ。大勢ニ捲リ立ラレ。堀ノ向ニ颯ト引處ニ。和智左衛門。何國マテ引ソ。只切死ニセヨト云儘ニ。眞前キニ進テ切渡ス間。我劣ラシト切掛リケレハ。赤松勢引退所ニ。藥師寺四郎左衛門貴能白柄ノ長刀取直シ。勇ミ進テ切テ懸ル間。又山名勢引色ニ見ヘケル所ニ。太田垣美作入道。和氣筑前守。山内新左衛門。何レモ不劣兵ナルカ。長刀莖短ニ採リ。逸足馬ニ乘連テ。馳廻々々下知シケルハ。備後國ヲ打立シヨリ。尸ハ曝原上苔。名ハ後代ニ殘ント存ル上ハ。再ヒ生テ本國ニ可歸ト思ハヌソ。一足モ引ナ。只切死セヨト呼テ。眞前ニ進テ切掛ル間。和氣筑前守。三吉和泉守。互ニ我先ニ諍テ。大勢切懸ル間。赤松勢ヒタ引ニ引處ニ。藥師寺四郎左衛門大音聲ニテ。キタナシ人々命ヲ何ノ爲ニカ惜ムヘキ。夫レ命ハ義ニ依テ輕シト云ヘリ。後日ノ名ヲハ不思乎。貴能ニ於テ一足モ不引。打死スルソト喚テ取テカヘシ々々々々。爰ヲ先途ト戰ケル。是ヲミテ藥師寺ノ延命寺。藥師寺彌四郎貴能ヲ討セシト。敵手繁ク追懸レハ。

一度ニ取テ返シ。跡ヲ進レハトツト喚テ追懸。津坂山ノ麓ヨリ。城ノ堀キワ迄二三千人ノ敵。僅四五人ニテ追ツ返シツ戰シハ、或ニ一騎當千ノ兵トソ見ヘシ。斯リケル所ニ。畠屋九郎右衛門ト名乘テ。黑皮威ノ腹卷ニ。大鍬形打タル冑ノ緒ヲシメ。六尺許リナル太刀ノ鐔本マテ。血ニ染タルヲ持テ開テ懸ル。貴能長刀ニテ渡シ合。散々ニ戰フ處ニ。貴能ノ郎等トモ落合テ。遂ニ畠屋ヲ討取ケリ。少勢ヲ見スカシケル歟。自己ノ勇力ニツノリケル歟。アマリニ味方ヲ離レ進ミ出テ。討死シケルトソ見ヘニケル藥師寺次郞左衛門尉則能乾ト此ヲ見テ。命ハ君ノ爲ニ輕シ。名ハ家ノ爲ニ重シ。敵ニ後ヲ見セタランハ。末代迄ノ不覺ナリ。貴能討スナ。返セ〳〵ト呼リケル。額田十郞左衛門。片岡孫右衛門三人一所ニ戰ヒ。則能ト同シ枕ニ討死ス。サレハ彼三人兼テ契約ノ子細アリ。此度或所ニテ。此輩寄合雜談シケルニ。則能申ケルハ。倩此合戰ヲ案スルニ。味方一定打負ント覺ルナリ。其故ハ彼松田一家ハ當國ヲ不出皆共ナリ。將亦當國方ト山名方ト合戰止事覺悟ナリ。然ル上ハ。播州。美作勢ヲ此時ニ差下シ。一戰ヲ遂ケ。勝負ヲ決スヘキノ所ニ。去年八月ヨリ當城ヲ構ヘ大敵ニ取籠ラレ。難義ニ及フ由。數十度注進ス。然ルニ今ニ至ルマテ加勢ノ一騎モ指下サレス。剩ヘ眞弓峠ノ合戰ニ不覺ノ負ヲ取。散々ニ討ナサレ。僅ナル勢ニテ姬路城ニ被籠出。是非ナキ次第也。彼レヲ以テ是ヲ思フニ。今ノ如クナラハ。一度ハ討死スヘキ身ナリ。トテモ死スヘキ身ノ弱リナン形粧ヲ人々ニ見センモ物憂カルヘシ。必竟死ナン命ヲ一番ニ討死シテ。名ヲ後代ニ殘シ。先祖ノ忠功ヲモ顯スヘシト云ケレハ。兩人ノ輩モ誰々モサコソ存知仕ル事ニテ候ヘ。相構ヘテ此度見

放シ見放サレジト堅ク云定テケリ。サレハ則能其期ニ陣所ヲ出ルトテ云ケルハ。只今敵ノ手ニ渡饋也。イテ最期ノ對面セントテ。鏡ニ向テ打笑テ出ケルカ。後ニ思ヒ合スレハ。誠ニ是ソ自身最期ノ見參ニテソアリケル。額田十郎左衛門。岡本筑後守ニ向テ云ケルハ。又三郎事。我等一子也。一所ニアラハ愚息モ必死スヘシ。父子一所ニ戰死シテ。永ク我家斷絶センコトモ本意ナシ。和君ノ賢慮ヲ頼奉ルト云ケレハ。岡本諾シテ。又三郎ヲハ別搦ニ指置ケル。是ニ依テコソ此度死セサリケリ。片岡孫左衛門下人ニ向ツテ云ケルハ。我討死セハ。頸ハ敵ニ取ラルヘシ。足ヲ記シニセヨト云テ。紙ヨリニテ左ノ二ノ腕ヲ二重ニ結ハセケル。云シニカハラス死骸ヲ取。サレハ。親子兄弟スラ。合戰ノ習ヒニテ。敵味方ニ隔ラレ。前後相違心ニ任セサル物ソカシ。況ヤ同傍輩ノサソト云合セシヲ不違。討死セシ志。有難カリシ振舞ナリ。私ニ云。此藥師寺ハ彼取レハウシトラネハト詠シテ。高師直ヲ諫言ノ出家シタル藥師寺次郎左衛門尉公能カ後胤ナリ。代々中國ニ住シ。近キ比ハ赤松ノ旗下トナツテ。此下知ヲ守リ。播州ニ住居スト云々。加様ニ戰所。江田。滑良。板倉。堀ノ水上ヲ渡シ。中ヲ切掛ル處ニ。楠橋豐後守。則光。伊豆守黑革威ノ腹卷。同毛ノ五枚冑ヲ猪頸ニ着。忍ノ緒ヲ縮白猩熊ヲアツテ着。二間渡ノ鑓ヲ引ソハメ。磬タル處ニ。大勢ニ捲リ立ラレ。手者トモ一度ニ颯ト引ケルニ。則光伊豆守一足モ不退。大音聲ニテ云ケルハ。キタナキ者トモノ分野哉。同傍輩ト云ナカラ。我等ハ播磨ノ者ナリ。當國人味方ナカラモ恥入タリ。其上山名勢ハ。元來當手望ム所ノ敵ナリ。我入本望ノ合戰ナルソ。唯混ラ勇戰シテ。討死セヨト喚リケルニ。楠橋痛五郎思ハスニ引立ラレテ。少シ退キシカ。是ヲ聞テ取テ返シ。弓手ノ脇ニ磨ヘタル處ニ。三吉左京亮。滑良四郎太郎。福田九郎右衛門ト名乘

テ。大勢ノ中ヨリ進出テ切テ掛リ。滑良四郎太郎ト櫛橋豐後守ニ渡シ合ス。滑良サシモノ若武者也。大太刀ヲ眞向ニサシカサシテ。横打ニ打所ヲ。櫛橋鎗ニテ込ケルカ。太刀ノ打ハツシ。左ノ二ノ腕ヲ竪ザマニ切ラレ。既ニ豐後守危ク見ヘケル所ニ。櫛橋彌五郎ヲ始メ。其外郎等トモ落合テ。滑良ハ既ニ討レニケリ。三吉左京亮ハ。大村彌五郎ト渡シ合セ。散々ニ戰ヒ。三吉カ持所ノ鎗。目貫穴ノ本ヨリ切折ラレ。冑ノ鉢ヲシタヽカニ二太刀切ラレ。スハヤ大村ニ討ルヽトミエケル處ニ。難波四郎左衛門中指取テ引固メテヒヤウト放ツ。其矢三吉カ内冑ニ中ル。痛手ナレハ立テ働クコト叶ヒ難ク。踞テ勇猛ヲフルヒ。鎗ヲ切拂フ。然レトモ重手ナレハ。遂ニ大村ニ頸ヲ取レニケリ。アツハレ大剛ノ兵哉ト。敵味方トモニ稱歎スト云ヘリ。福田九郎左衛門。志方彌六首ヲ取。加樣ニ

爰ヲ先途ト戰ヘトモ。山名ハ彌跡ヨリ續テ。引ハ殘ル味方一騎モナカリケレハ。イトヽ難儀ニ見ヘシ處ニ。浦上與三左衛門。子息與三手勢三百ハカリニテ。大勢ノ中ニ切テ入。黑煙ヲタテヽ責戰ヒ。互ニ勇ミ進テ數刻揉合ケレハ。組テ落。首ヲトルモアリ。取ルヽモアリ。親ハ子ヲ捨。子ハ親ヲ不助。手負死人ヲフミ越々々々。命ヲ限リニ戰ヘハ。尸ハ原上ノ塚ニ積。血ハ則河トナツテ。紅波漲リ落ル有樣。無慙ト云モヲ(マヽ)ロソカナリ。傳ヘ聞。保元平治ノ合戰壽永元暦ノ戰ヒモ。元弘建武ノ戰鬪モ。此程ケワシキ軍ハアルヘカラス。タトヘハ漢ノ魯陽鉾ヲ取テ日ヲ招キ返セシ合戰モ。斯ハカリニヤト思ヒヤラルヽ計リナリ。懸リケル處ニ。松田勢ト覺シクテ。河原面ヨリ楯ノ端ヲタヽキテ鬨ヲ作リ。號叫テ懸リケル。是ヲ見テ浦上紀三郎。唯今討死シテ各ノ見參ニ入ヘシト云

捨テ。無二無三ニ切テ出ル。然ル所ニ。浦上伯耆守是ヲ見テ。紀三郎カ鎧ノ袖ヲ無手ト取テ申ケルハ。合戰コレニカキルヘカラス。楚忽ノ討死豈大將ノ本意トセン。大ニ無益ナリト堅ク制シテ出サヽリケレハ。紀三郎モ力不及止ル處ニ。則國カ郎等ニ。內山彌五郎下山彈正ト云テ。精兵ノ譽レヲ取シ者アリ。此二人紀三郎カ前ニ出テ申シケルハ。松田惣右衛門尉ト矢記書テ。最前ヨリ味方ノ兵數多亡命仕ル事。無念ニ存候。只今相近ニ見ヘ候間。一矢仕テ見ントテ。內山。下山。二人トモニ。一枚楯ノ影ヨリ。指詰引詰散々ニ射。敵人多ク射伏テ。弓勢ヲ顯ハセリ。懸ル處ニ。惣右衛門尉親秀此ヲ見。ニクキ奴ハラカ荒言哉イテ手並ノ程ヲ見セントテ。中指取テ打番ヒヨツ引テヒヤウト放ツ。此矢アヤマタス下山彈正カ胸板ニクサト中リ。押付テ矢尻ノ出ル程ニ見ヘケレハ。動ト甕テ一言ヲ吐ス死ニケリ。內山彌五郎惣右衛門射ル弓ニテ。射向ノ袖ヲ脇引外ヘ縫樣ニ通ケレハ。二ノ矢ニテ內山ヲ射。草摺ノ胴付ヲツハト達（通カ）シケレハ。漸取除ケルカ。幾程無クソ死シタリケル。アマリニ合戰ニ屈シ。氣ヲ疲シケレハ。相與ニ引退キケル。サラハ浦上美作守。所司代職ニテ未在京ナリケルヲ呼下シ。一合戰スヘシトテ。飛脚ヲ以テ始終ノ樣子ヲ注進シケル。美作守則宗是ヲ聞テ。正月中旬ニ都ヲ立テ。東播磨ヘ下着ノ由申間。城中ノ兵トモ疲氣ヲ散シ色ヲナホス。則宗東條ト云所ヘ着テ。最前眞弓峠ノ合戰ニ無下ニ逃走シタル者共マテニ言ヲ加ヘ。念比ニ諸士ヲ懷ケヽレハ。程ナク大勢馳着ケル。姬路ノ城ニ籠リタル輩マテ。赤松一族ハ宇野下野守籠リタル高田ノ城ニ馳加ル諸侍ハ。浦上驅着テ。政則ニ付副者トテハ。宇野刑部少輔。小倉肥前守。子息少

四郎。藥師寺彦四郎ナントハカリニテ。隨分賴切テ情ケヲ懸シ者トモ。散々ニ落失ケレハ。廻リ一里ニ餘タル城中ニ。僅ノ勢ニテ何クヲ相拘ヘシトモ見ヘサリケル剩ヘ何者カ云出シケン下野守モ浦上モ在田廣岡同心シテ。政則ヲ亡シナント雜說出來ケル間扨ハ敵ト云。味方ト合戰叶フヘカラス。先々此所ヲ引退テ。重テ上意ヲ伺ヒ勢ヲ付テコソ合戰アルヘク候ヘ。只討死シテ名將僅ノ城中ニ果給ハン事ハ智謀ナキ事ニテコソ候ヘト。何レモ口ヲ揃ヘテ。再三異見シケル間。政則モ力ナク。正月廿二日城ヲ落テ。播州ノ方ヘソ被忍ケル。此由備前ヘ告越スニ依テ櫛橋藥師寺大ニ驚テ云ケルハ。姬路ノ儀言語道斷ノ次第ナリ去年十一月ヨリ當城ニ籠リ。日夜ノ合戰ニ各一命ヲ輕ンシ忠功ヲ顯ス事モ。偏ニ政則公ヲ世ニアラセ。播磨美作備前ノ三國ヲ全ク保チ當家繁昌アル樣ニトノ事也。然ルニ主君行方不知ナリ給ヒヌル上ハ。向後誰カ爲ニ合戰センタトヒ軍ニ勝利アリトモ。誰ヲ賴ミテ主君トスヘキ哉。所詮一先此城ヲ取除テ。何ニモシテ政則公ノ行末尋マイラセテ。再ヒ義兵ヲ起スヨリ外ノコトアルヘカラスト。密ニ可落ヤウヲ內談ス。則閑此由ヲ聞テ。ソレ軍ノ習ヒニテ。一人モ勢付時ハ兵氣勇ミ。少シモ勢滅スレハ諸卒氣ヲ失フ者也。況ヤ櫛橋藥師寺取除クニ於テハ。我等カ手勢マテモ連テ落行ヘシ。左アランニ於テハ合戰ハ叶フマシ。只彼兩人ト指違死ナン。是ヨリ外ノコトハナシト怒テ夜廻ト號シ。手者少々引具シ出ケルヲ。伯耆守甚景申ケルハ。目ノ前ノ敵ヲサシオキテ。味方ト軍シテ死シタランハ。末代マテノ不覺ナリ。且ハ時ニ取テ動轉シタリトモ。人口ノ嘲リアルヘキ歟。死スルハ名ヲ思フ故也。死シテ若シ諸

人ノ嘲哢ニナランコトハ口惜キコトナルヘシト。堅ク制止ケル間。去ラハ腹ヲ切ヘシ。千人萬人モ落ヨ。我一人恥辱ナリ當城ヲ調シ最前ヨリ。殘ル旁々同心アラハ勿論也。不然ハ我一人腹ヲ切ント思定シ覺悟。今更相違アルヘカラストテ。腹卷ヲ脫除。既ニ腹ヲ切ントスル處ヲ。基景又刀ニスカリテ申ケルハ。此合戰ニテ事散スヘクンハ勿論生害アルヘケレトモ。則宗播州ニ下向有テ。大勢ヲ附合戰アルヘキナリ志アラン侍共ヲ召具シ馳加リタランハ。一方合力トナルヘシ。其上異國本朝ニモ。軍ノ勝負ニ依テ一旦落テ本意ヲ遂スル樣シ。古今アケテ計フヘカラス。只年老タル我等ニ被任候ヘ。基景アシクハ計ラヒ申マシト堅ク諫言シテ。紀三郎ヲ伴ヒ出ケル程ニ。老者ノ諫メ默止難クシテ。正月廿四日夜半ハカリニ浦上ノ一族城ヲ落テ。高田ノ城ニソ加リケル。柿橋藥師寺ハ浦傳ヒニ海上ノ小船ニ便船シ。主君政則ノ行末ヲ尋テ。四國ノ方ヘソ落行ケル。サレハ如何ナル名城モ。合戰ノ習ヒニテ攻落サルヽコトハ多ケレトモ。斯ハカリヨシナクモ味方ト割テ散々ニ成シハ。前代未聞ノ事トモナリ。

右作者不知如寫本

時萬治三庚子年二月下旬書之

常林坊（判ニ常林日寶トアリ）

江田宗眞老

右寫本ヲ得テ元祿九年子仲秋下浣之日

江南隱塞士窓下染筆

赤松兵部少輔政則ハ。赤松則祐律師五世ノ孫也。則祐長男義則。々々長男ハ左京大夫滿祐入道性具ナリ。滿祐播備美ノ三州ヲ領シテ。赤松一族ノ棟梁ナリ。然ルニ嘉吉年中滿祐道心ヲ企。將軍義教公ヲ弑シ奉ル此大罪ニ依テ滿祐

其子教祐トモニ誅セラレテ。滿祐カ領國播州ヲ山名右衛門督持豐ニ賜リ。美作ヲ山名教淸ニ。備前ヲ山名教之ニ賜フ。是滿祐誅罰ニ軍忠アルヲ以テナリ。是ニ於テ山名一族三州ヲ領シテ。赤松家斷絶ニ及ヘリ。然ルニ長祿二年赤松カ郎從石見某ト云者。朝廷ニ愁訴シテ赤松ノ家ノ絶タルコトヲ歎キ。南帝ヲ弑シ奉テ。三種ノ神器（頭註）三種ノ内寳劔内侍所ハ。去ル明徳年中大内介義弘カ計ラヒニテ。北朝ニ皈リ入神璽ハ猶南山ニ在依テ石見是ノ取テ。赤松ノ家ヲ興サント乞フ三種ノ神器トハ誤リナリ。ヲ内裏ニ入奉ルヘシ。此事ナルニ於テハ。赤松家ヲ再興シ問ルヘキヤト云朝廷詮義アリ。此事武家ヘモ叡慮ノ趣キヲ達セラレテ。石見カ訴望勅許アリ。石見喜テ間島何某ト云舊友ヲ語ラヒ。南朝ヘ忍ヒ入テ。南帝ヲ弑シ。三種ノ神寳ヲ取テ皈ル。吉野ノ郷民頻ニ追掛ル。石見終ニマヌカレテ三種ノ神器ヲ禁裏ニサヽク。於此赤松次郎政則五歳ニナルヲ召出サレテ。加賀半國ヲ賜テ一家ヲ再興ス。政則父ハ義雅ト云テ滿祐カ弟ナリ。私ニ云政則ハ義雅カ孫ナリ。義雅カ子ヲ性存ト云。性存カ子政則也。應仁元年二月。勝元將軍義政公ヘ吹擧シ。赤松政則ニ播磨。備前ヲ還シ賜テ。政則播州ヘ赴ケリ。本國故早速兩國ヲ打從ヘ皈洛シテ。勝元ニ力ヲ合ス。此細川山名合戰ノ最中也。明應五年二月政則從三位ニ叙ス。同四月政則病死。歳四十二。南帝ヲ弑シ。神璽ヲ取功ニ依テ。三品ニ叙セラルヽト云ヘリ。

山名政豐ハ右衛門督持豐ノ子ナリ。政豐ノ子又二郎俊豐。中務大輔又彈正少弼ト號ス。

松田氏ハ關東相州ノ松田相分レテ中國ニ住シ。備前國津高郡野殿村伊福郷ヲ知行ス。松田左近將監元成カ代ニ至テ大ニ武威ヲ振ヒ。備前半國ヲ領セリ。松田ハ根元藤原ノ姓ニテ。藤太秀鄉ノ後胤ナリ。後ニ宇喜多直家起ルニ及テ。松田カ子孫終ニ直家ノ爲ニ滅ホサルト云

ヘリ。

浦上ハ其先紀貫之ヨリ出タリト云ヘリ。赤松家ニ仕ヘタリ。播州浦上ト云所ニ住スルヲ以テ。其氏トスル由ソリ。代々播州ニ在テ箕裘ノ業ヲ事トセリ。播州ハ赤松ノ封國タル故ニ。浦上モ赤松家ノ從臣トナルモノ歟。滿祐叛逆シテ伏誅ノ後。播備美ノ三州山名氏ノ領國トナル。依此浦上家モ亦山名ノ幕下ニ屬シタリ。公方義政公ノ治世ニ當テ。浦上美作守則宗京都ニ上テ義政公義尚公ニ昵近ス。義政公則宗ヲ京都ノ所司代ニ補セラレ。五品ノ位ヲ授ケラル。此時代山名細川洛陽ニ戰テ。天下ノ亂國ノ最中也。則宗ハ山名カ幕下ナリト云ヘトモ。遂ニ自立シテ公方家ニ昵近セリ。則宗ヲ浦上ノ中興トセリ。其子ヲ近江守宗助ト云。京都ニ在テ細川右京大夫政元。同武藏守高國ニ從テ軍功アリ。其子掃部助村宗永正大永ノ大亂ニ播備美ノ內ニ於テ武威ヲ振フ。其子備前守宗景ナリ宗景カ代ニ至テ備前國ヲ領シ。同國和氣郡天神山ニ在城セリ。浦上ハ右ニ記ス通リ。世々赤松家ノ臣タリト云ヘトモ。時移リ事去テ。赤松家衰ヘ。兵部少輔晴政ノ代ニ至テ。播州ノ內ヲモ保ツ事ヲ不得。播州ノ內三郡幷ニ備前半國ハ浦上宗景押領ス。殘ル備前半國ハ松田左近將監領分セリ。赤松晴政ハ政則ノ孫ナリ。晴政ノ父ヲハ義範ト號セリ。浦上宗景モ後ニ宇喜多直家ノ爲ニ國家ヲ失ヒ子孫亡ヒタリ。

本書委細知レカタキ所ノミ有之ニ付テ赤松山名松田浦上等ノ傳記ヲ少々爰ニ加ヘ記スナリ。私ニ云浦上ノ末流少々今備前ニ在ト云ヘリ

以宮內省圖書寮本校合畢

妙善寺合戰記

備前美作不殘、播磨の內數郡、備中河東不殘。合百餘萬石。宇喜多和泉守直家岡山の城主也。未備前一國手に不入時。上道郡沼城におはしける。既に備前は大形手に入。漸々美作國所々切取。其節美作は雲州尼子家の持城なりけれとも。尼子は安藝の毛利家に押落されて。作州も毛利の手下に屬しぬるを。其隙を見て宇喜多所々切取。備前へ奪取けるを。毛利へ聞へける程に。毛利家より備中松山の城主。三村紀伊守家親に被申付。作州へ出勢して美作を靜むへきよし。紀伊守一萬餘の人數にて出勢して。宇喜多を討果し。作州を取靜めんとするよし備前へ聞へける。宇喜多直家思はれけるは。今所々取合最中に。三村は大敵なり。たやすく取ひしきかたきあいた。謀を以て討て取んと思はれ。遠藤喜三郎といふ侍にひそかに申けるは。其方は三村家親備中成羽に在城ありし時。其方成羽に有て能見知りたり。此度三村へひそかに忍ひ入。討取手立は有ましきや。一重に賴み入由申されけれは。遠藤心易く請合。則喜三郎。弟修理と唯二人。作州へ忍ひ行。三村は作州穗村興禪寺と云寺にたむろして被居けるを。遠藤兄弟忍入。頃は八月十八日の夜。宵の內に三村は家臣を集物語して被居ける。障子紙を破り。ひそかに鐵炮にて。三村家親を討殺し。無恙退出して。兄弟ともに備前へ歸る。直家大に悅ひ。喜三郎には十萬石知行宛行。遠藤河內守と申。弟修理には三千石知行給りける。三村勢は主を討れて。作州より崩れて備中へ歸りける。三村家親に子二人あり。兄は備中小田郡猿掛山の城主。庄の元祐と申ける。是は庄の家へ養子に行けるとそ。弟は則主計の家を

繼て。三村修理亮元親と申ける。二人の子供は皆備中に有ける。父家親宇喜多か爲に討れけるよしを聞て。いかにもして親の敵なれは備前へ亂入。宇喜多を討果して。遺恨を散せんとたくみけれとも。備前へたやすく攻入て。結句負を仕出しなは。悔とも甲斐なしと。時節を伺ひ。一門廣き三村家備前へ忍ひの侍を付置て。宇喜多か隙をそ伺ひける。然處に上道郡澤田村山に。妙善寺とて。宇喜多出城有けるを。有時備中より四五百人忍ひて勢を出し。夜々に紛れてこの妙善寺の城を不慮に乘取。則備中より人數々百人籠置。堅持ける。宇喜多は不慮に妙善寺の城を敵に乘取れける事を立腹して。則責手の人數被申付。卽時に乘つふし取返すへきよし下知せられ。妙善寺の城をそ責させける。城つよくして能持こらへ。たやすく落城せさりけれは。宇喜多直家自身是を攻落さんとて。既に沼の城を打出らるゝにきはまりける時。備中より付置ける忍ひの士。此よしを松山へ告けれは。三村大きに悦ひ。願ふ所の幸ひ。思ふ手立に落けると。一門一類へ觸つかひ。兼て約束堅めける一族とも都合二萬餘。卽時に猿掛の庄備中山手幸山の城主。石川左衛門尉。其外北田。中島。植木なんと云者とも。備前一の宮辛川表へ押入ける。是をは知らす。宇喜多直家は。逞兵勇士數多召供し。沼の城を打過。古津の宿の西宍甘鼻の山上に旗打立させ。今日の中に澤田妙善寺の城を責落さんとせられける。扨備中より押寄る三村勢。又は備前に付置ける忍の者立歸り。彌直家沼の城を打立て。既に宍甘鼻まて出勢のよし告けれは。三村元親一陣に進み。今日宇喜多を討取すんは。何の時をか可期。直家か首を取。遠藤等を搦捕て。亡父の孝養に備んといさみ進て　李

川の宿を打立。首部村にて手を分て。一手は庄の元祐を大將として。六七千の人數萬成山富山の城下を廻り。春日の宮よりあくた川を打渡り。朝日山の下を廻りて。三押山へ付て掛。妙善寺の後詰せよと向ひたり。一手は石川左衞門尉を大將にて。中島加賀守以下の大將餘多五千計伊福村の中道より眞一文字に。今日岡山の御城の北石關町の邊より。原尾島村の前まて打續き。直家の本陣へ討て掛り。合戰を始んとたくみたり。扨本大將三村修理。一萬餘りの人數にて。津島村より福林寺繩手を眞直に。本海道を土手の前へうち通る。扨釣の渡りを越て上道郡國府市場村へ打通湯迫村の山へ取揚り。四の御前村の上を宿奥村觀音寺村を打越沼の城へ押寄。直家留守の透に沼の城を乘取て。鐵村へ勢を出し。直家を眞中に取挾て討捕謀略に云合。既に三方の備中勢相圖の貝鐘打揃。次第を不亂打出る。然處に宇喜多直家の物見に出し置れたる侍とも。追々完甘鼻へ立歸り。辛川首部村の邊より。備中勢と覺しくて。雲霞の如く押來り。首部村より三手に分て押寄る由を注進す。直家の惣軍勢と云。前には妙善寺の城つよくして未た勝負を決せぬうち。備中勢數を盡してせめ來り。今日の合戰有無の二つとかたつを呑て居たり。扨直家の下知いかゝと思ふ處に。又物見の者立歸り。急に三方の敵ちかく一手は川下春日の宮の前をこし。妙善寺の後詰仕體と見へ候といひも果ぬに。直家立上り。甲おつとり忍の緒をしむるやしめすに馬引寄打乘。かゝれ者共。妙善寺の城を一時にもみ落せ。さもなくは軍は大事そ。生る者は稀ならん。妙善寺を落しなは備中勢何千萬騎たり共。かはねは備前にさらさせんとよはゝつて。眞一文字に田中畑中とも

いはせす。廿餘町計の道を馬烟りを立て。一時に討て掛りたまへは。此勢ひを見て。先陣後陣大將。自身に働給ふに。おくれては何の時をか期して。人に面をさらさんと。我先にと妙善寺さしてはせ掛る。斯て妙善寺の城に。兼て責圍みたる先手の者共。大將直家の自身討て掛り給ふを見て。後陣の大將の自身城へ乘込給ふをよそに見て。城を跡勢に乘取れなは。何の時をか期し。誰に面をむけんそと。未後陣の續かぬ先に城へ乘込め者共と。一度にかつきつれ。さしもけはしき妙善寺の城を甲のしころをかたむけて。乘こへはね越。乘込ける程に。城中にも。爰をせんとゝ防きける。されとも後陣には。既に宇喜多直家。旗本の多勢打つゝき。息をもつかせす攻掛り。切とも討とものもせす。短兵たゝちに攻太鼓を打。一時にもみ落さんとせられける間。城中今は防き兼て。三の木戸口責破られけれは。不叶城に火を掛て。後の山に逃出ける。直家本城をは先手の者共に渡して。所々に殘る敵や有とおさへさせ。其夕は勝ほこつたる手勢を騎馬の左右に隨へ。戸川肥後守。花房志摩守。同助兵衛。岡越前。長船紀伊守。宇喜多治兵衛。子息左京亮。宗徒の家臣を前後に備へさせ。三捍山に打上り。妙善寺の城より落行勢をは。先手を以て追落させ岡留村上の山へ打上り。是をは夢にも不知備中勢三村は。三方より押寄。既に三方一度にあくた川を打渡り。四の御神の上矢津の坂邊へ打過。我先にと沼の城へ責入。一時に城を責落し。高名せんといさみける處に。妙善寺の城はや責落されて。城を一篇の烟と燒たてけるを見て。謀案に相違し。とはいかゝせんと先へも行す。跡へも返らすたゝすみたり。春日の宮の前を渡りたる庄の元祐勢。是も妙善寺の落

城をは夢にも知らす。後詰せんと漸々玉井宮の前を過國留村邊は。先手押掛る處に。妙善寺の城より追落されたる備中勢。右往左往に逃掛るを見て こはいかにと云程こそあれ。備しところになりける處。直家の先陣。戸川。延原。長船。宇喜多左京亮。彼是數千騎拔つれて 眞一文字に國留村へ掛落し。備中の先陣をはや切崩し。合戰を始ける。備中勢思ふに相違しけるうへに。剩宇喜多勢雲霞のごとく。峰々に旗打立て後陣にひかへ。段々に續きけるに氣を屈し。裏崩して引けるに。宇喜多勢得たりかしこしと勝時を造り懸。おめきさけんて責たれは。國留村より徳吉の間にて。備中勢討るゝ者數を知らす。大將庄の元祐は。我人數崩れなひきて逃るにもいとはす引返し。猶宇喜多勢の追掛るに戰て 終に討死せられける。大將既に討れけれは いと〻亂れ立たる惣人數。開きなひき逃行。或は取て返し討死するもあり。國留村よりあくた川の間にて。討るゝ人數かすしらす。扨宇喜多先陣は。庄の元祐の勢に勝。未た追討に逃る勢を追行ける最中に。中の手の宇喜多勢。花房兩家 河本對馬守なんとを大將にて。妙善寺の城より北西へ引出し。原尾島の前にて備中勢石川左衛門尉なんと大將にて。中の手岡山の 通りを越て來りける勢へ。無二無三に討て掛。合戰を始けるに。備中勢前の妙善寺の城は落。南より廻る味方の勢ははや 國留徳吉の間にて負軍を仕出し。切崩されたるを見て色を失ひけるに。勝ほこつたる宇喜多勢。まつしくろに成て。鐵炮を打掛るやいなや 鑓取て突懸りけれは。一陣二陣しはし支へて戰ひけれとも。終に切負て行田河原へ逃かゝり。川を渡て引も有。となたにて過半討死しける。此體を湯迫村の前。國府市場村にひかへ

たる惣大將三村修理元親是を見て。田の中溝の中共いはす。味方に力を合て。戰や者共と下知して馬の鼻を南頭に立直し。一文字に宇喜多か旗本へ切掛り。合戰を始むへしと進みける。直家も是を見て。今日の合戰に備中勢は一人も殘らす討取たるものそ。すゝめ兵共と采幣おつ取下知をなし。高屋村の西にて合戰を始ける。三村元親は元來備中に名を得し勇者。殊には父家親をは作州にて討取らるゝ恨。今日散んと期したるに。天運至らさるにや。謀相違して妙善寺の城あへなく責落され。兼ての約束相違し。二方負色に見へけるに齒かみをなし。血眼に成て。口惜き者かな。父のあたを報せん爲たま〳〵大軍を催せし甲斐もなく。負軍を仕出し候事。天運に違ひたり。何の時かは期さん。宇喜多か陣へ掛入て。骸を軍門にさらし。恨を泉下に報せんと。まつしくろに切

掛る程に。宇喜多か先陣開きなひきて切崩されけれは。三村勝時を造り掛諸軍を勵して。すゝめや者共と眞先に下知して進みけるか。初園留にて切勝ける。宇喜多勢皆敵を追なひけ漸いとまに成ける時。宇喜多の本陣三村に切立られぬるを見て。惣軍一度に西の方より横間に備中勢の中會釋もなく討て掛りける。備中勢心はやたけにはやれとも。横間にかけ立られ前後の敵に討あひて。進退道なくかけたやまされ。東北へ開きなひきひた崩に崩たつて追討に討るゝ者數をしらす。三村修理箭取て返し掛入て討死せんと馬の鼻を引戻されけるを。家臣とも立ふさかり御合戰今日に限るへからす。いかにも御身を全ふしてあたを報はせ給はんとそ。亡父の御供養に成候はんそと諫め馬を西頭に立引廻し。釣ルの渡りを打渡り備中へ無恙引返しける。此三村退口にて

譜代の家人。引返し〳〵主をたすけたりける間。今の八幡村の邊にて。備中勢討死の數かそふにいとまなし。此度備前へ押入敵二萬餘の人數大方三方にて。討死して生殘て。備中へ歸る者は十分にして。其二つはかり也。備前の妙善寺崩と云て。宇喜多一代の所々の合戰は數に限りなく度々なれとも。敵多く亡しける事は此合戰を第一とす。直家一代の勝軍也。扨此三村は無是非備中へ歸陣して。うつふんいまた散せす毛利家へ訴ていかにもして。宇喜多を討んとはかりける處へ。直家毛利家へ段々手を入諂ひて旗下になり。別心なく上方案內して天下に御旗上らるゝに。御先手仕らんと言込れける。其時分三村家亦毛利家へ。少し快よからぬ事共仕出し間むつましからす。折節宇喜多よりは。三村御放被下候はゝ。彌御旗下に參らんと云れけれはいかゝしたりけん。毛利家終に宇喜多か望みに任せ。宇喜多と和談して備前美作を宇喜多に渡し。無事になられける程に。三村彌立腹して毛利家へ。恨みを含終に三村は毛利家の爲に。備中松山の城にて討れけり。扨備前毛利家と和談に成てのち。毛利家よりいつそや三村勢。備前へ亂入の時。妙善寺の城。又は上道郡にて備中の諸士。其數多く亡し事。皆毛利家へ奉公の者にて。不便に思ふ間弔ひ得させせんとおもふよし。備前へ申來り直家も尤と申され。則大分僧を供養して討死の諸士の亡魂を弔ひ給ひぬ。扨宇喜多より被申付湯迫村。出田村邊の者共。每年七月十四日十五日には爰元にて大勢討死せし諸侍の亡魂を弔ひの爲。萬燈を燈して生靈を慰むへしと申付られ。是より每年七月に萬燈を燈し怠らすとそ聞へし。扨澤田の西と。八幡村の北の邊にかなたこなたにある首塚は皆此時の塚な

るよし。
龍口の城主最上治部少輔元常は。宇喜多直家の妹聟なり。後直家に背て備中方と一つになり安藝の毛利家へ隨ひける。其時直家より岡郷介と云者に申付。ひそかに郷介手宛を以て。治部方へ奉公し。後龍口本城北の方の矢倉より治部と組んで落。治部を討取夫より直家の家臣となる。其比は天正二三年の事也。
上道郡沼の城。始は中山備中守とて天神山の浦上宗景の家臣なり。後宇喜多直家備中守を討て。沼の城に移り其後岡山の城へ直家移りて。以後は宇喜多與太郎基家預り也。
御野郡萬成山の城は富山の城といふ。始は松田左近將監の城也。金川玉松の城へ移りて後。家臣を指置れけるか。松田。宇喜多に討れて後。宇喜多直家の弟治部入道。安心在城安心の子左京亮まて在城なり。

同金山の入江船山の城は。須々木豐前守在城也。奥津高郡虎倉の城は。伊賀左衛門尉久鷹在城也。

以宮内省圖書寮本校合畢

續群書類從卷第六百四十一

合戰部七十一

備中兵亂記目錄

備中兵亂記

元親謀叛之事附藝陣寄來事

夫人間ノ盛衰ヲ觀スルニ。飛花落葉ノ風ノ前ヘ。電光石火ノ影ノ中。有爲轉變ノ理也。爰ニ源家ノ末葉。備中ノ守護松山ノ住。三村修理進元親。先父家親ノ亡魂ヲ休メンカ爲ニ。ヨシナキ謀叛ヲ企ラル。其濫觴ヲ尋ルニ。將軍義昭ステニ西國ヘ御下向アツテ。中國悉ク武命ニ傾キ。御歸洛ノ謀急也ト聞ヘシカハ。平信長驚謀ヲ廻シ。當國元親ニ密使ヲ立テ。備後備中兩國ヲ可充行之由。計策急ナリ。元親一族馳集リ。是ソ願處ノ幸ナリ。其故ハ。父三村備中守家親。累年宇喜多ニ遺恨ヲ含ミ數相戰トイヘトモ。宇喜多一族河内守。備前ノ德良ノ城ニ在テ家親ヲ忍ヒ討ツ。剩ヘ當國佐井田ノ庄ニ働入リ。嫡子少輔元祐ヲ打果ス。二代ノ怨敵追討ノ時ヲ待處ニ。信長一味ノ誓使時ヲコソ得タレ。急キ微運ノ大樹ヲ攻討チ。忠ヲ盡シ。功ヲ立テ。信長ノ助力ヲ以テ。宇喜多一族ヲ責滅シ。一家鬱憤ノ眸ヲ可レ開ト。躍リ上テ一議ス。中ニモ同國成羽ノ城主。三村孫兵衛尉親成。同男子孫太郎親宣。此義ニ不レ與。父ノ怨ヲ討ンニ。何ソ他ノ力ヲ藉ンヤ。凡ソ武士ハ忠ニ止テ仁義ヲ宗トス。縱君無道ナリトモ。臣ハ可レ爲レ臣ヲ道トス。信長虎狼ノ謀ニ順テ。一家不義ノ逆臣ト成ンコトモ可レ口惜。今信長不義ニ誇テ。世何ソ可レ治。剩ヘ逆心ニ翻ル志シ。爲レ人行跡ニ非ス。斯ル不仁ノ大將ニ賴ヲ掛テ何カ益アラン。義ヲ專ニ誠ヲ盡シテ諫議スト雖モ。良藥口ニ苦ク。忠言耳ニ逆フ習ナレハ。一族此謀ヲ惡ミ。既ニ誅戮セントセシカハ。親成父子驚キ。天正二年十一月七日ノ夜。急キ鞆ノ津ニ馳參ル。元親ノ家臣相集リ。親成ヲ引返シ。一族

和睦セシメント議スレ氏。元親ノ舍弟宮内少輔元範。上田孫次郎實親ヲ初トシテ。其儀叶間敷由既ニ神詞ヲ固シカハ。更ニ其甲斐ナカリケリ。斯テ親成父子ハ。鞆ノ津ニツキ。一族謀反ノ由ヲ訴(マヽ)リ。將軍驚キ給ヒテ。吾レ遠ク慮ルト云トモ。近ク足下ニ敵可在トハ不思。此義如何アラント早速三原へ御使ヲ以テ申サセ給フ。小早川左衞門佐隆景聞テ。當家ノ大事不過之。誅罰不可廻時トテ。ハヤ山陰。山陽。四國。西海道ニ早馬ヲ立テ。將軍ノ御内書ニ。隆景廻文ノ添狀シ。不延時備中鞆ニ可馳上由觸ラル。霜月八日。小早川左衞門佐隆景。江羽。福原。宍戸。熊谷。歷々馳集リ。翌日輝元モ出陣ニテ。程ナク笠岡ノ浦ニ到ル。其外追々ニ諸卒馳加リ。都合其勢八萬餘騎トソ記シケル。

諸軍勢嵜松山事附手莊城沒落事

作州月田山ニハ。元親妹聟楢崎彈正忠元兼居城ス。松山叛逆ノ由ヲ聞キ。元親所緣ノ者ヨト猶豫セラレサル先ニトテ。備前ノ住宇喜多和泉守直家カ勢ヲ引籠。松山へ與セヌ由ヲソ露セリ。莊ノ勝負ハ早山王ニ馳出テ。佐井田山ヲ責シカハ。不叶トヤ思ケン。同十八日ニ三村兵部丞ヲ初トシテ。松山へ嵜ケリ。穗田猿熊ノ城ハ。每度ノ合戰ニ勝利ヲ得レハ。暫ク相障へシカトモ。此度加勢ナカリシカハ。保ツヘキ樣ナク。佐井田ト同日ニ松山へソ嵜ケル。有渡ニモ一城アリ。多氣莊ニハ。矢藏。畦。莊。田山。野山ノ城數箇所。日々放火スレトモ松山ニハ事トモセス栖樓ヲ組テ櫓ヲアケ。屏ヲヌリ。左間ヲキリ。砦ヲハリ。動木ヲツリ。石ヲタヽミ。埒ヲ結ヒ。天羅ヲカラミ。亂橛ヲ打。柵ヲ掛ケ。低ヲウメ。芝ヲツケ。長木ヲユリタテ。帆筵ヲヒキ。惣テ廿一丸ヲハ。犬ノ潜ルヘキ樣モナク。天ハ鳥モ通ハヌ體ニ拵スマメ。十二月七日

ニハ四ケ所ヘ討取ル首數八千一時ニ持來レハ元親歡喜シテ總門迄出合。功ノ淺深ヲ糺。有程ノ武具衣服等ニ至ルマテ。思々ニ差遣シ。扨寢所ニ入。或ハ感狀。或ハ恩賞一々充計リ。其曉マテ一書ヲ認テ明ルヲ遲シト遣ケル。篠實不愛財。賞功不踰時ト云事ヲヤ思當テソ急カレケル。藝陽ノ大將管岡ニテ。晝夜三十日評議セリ。爰ニ元親ヲ最負ニハ思ハサレトモ。御弓箭ノ始終ヲ大事ニ存スル武士。此時元親懇望ニヨイテハ。一先扱ニモ懸ラルヘシヤト申ケル處ニ。篠原進出テ。各御思案尤ニテハ候ヘ共。古人ノ云置シモ。擧ヘキヲ不擧罪スヘキヲ罪セサルハ大將ノ僻事也トコソ承リ候ヘ。今度元親當家ヲ蔑ニシテ。謀叛ヲ企ル處ヲ宥メヲカハ。諸國ノ武士皆見眞似ニイタスヘシ。縱利ヲ失ヒ家ヲ損ストモ誅伐スヘキニ非ヤトイヘハ。實モト思フモ不思モ。皆一同

ニ感動セリ。サラハ先端城ヲ殘シ置テ。松山ニ馳向ヒ。手ヲ碎キ粉骨セハ落城程アルマシ。端城ハ不攻シテ大敗スヘシト評議スレハ。輝元聞テイヤ〳〵松山ハ何ト聽テモ弱クハ聞ヘヌソ。軍林寶鑑ニモ。辟强以奴ヲ則復還ヲ折挫ス。雨滴ノ微弱ナルモ消ニ穿下石ト見ヘタリ。强キ松山ニ押寄セ。徒ニ軍兵ヲ殺シテ何カセン。弱キ端城ヲツヨキ松山ト心得押寄ハナニカハ勝利ヲ得サラント云シカハ。衆議一同ニ此レニ服セリ。時ニ三村孫兵衛尉親成ハ。三百餘騎ニテ馳參リ。某シ國ノ案内ニ城ノ險易。勢ノ多少。能ク存テ候。先陣ノ中ニ被加候ハ。如形忠節ヲ可盡ト軍訴ヲ致ス條。吉川小早川各感議仕テ。頓テ鞆ノ津ヘ飛檄ヲ以テ及上聞。是ソ軍陣ノ訴訟。重疊ノ忠義ナリトテ。名馬御劒ヲ被下タリ。誠成哉ニ面目。先導ヲ致ス。凡ソ誅伐時ヲ不延ハ軍ノ法ナリ。今日軍

勢ヲ配分シテ。敵ノ端城ヲ踏捨ヘシト。十二月廿三日ニ手ノ庄國吉ノ城ヘ押寄ス。彼ノ城主三村右京亮政親ハ。元親一族ニテ。無隱勇將ナリ。兵粮乏カラサレハ輙ク可落トハ見ヘサリケリ。親成父子案内者ナレハ。斯ノツマリ彼ノ難所ニ開キ合セ。我先ニト岸キハマテ差ヨスレハ。內ヨリ城主舍弟三村大藏。同七郎左衛門。宮內藏大輔。丹下與兵衛以下。馳出テ鎗ヲ合ス事。三五度敵味方宗徒ノ軍士。手負死人無限中ニモ。丹下與兵衛尉ハ偏强ノ敵ニ人討取。頭二ツ打物ノ鋒ニ貫テ。シツ々々ト皈ル處ヲ。輝元ノ同朋覺阿彌生年十八歲ニ成ケルカ。今日ノ合戰ハ手負死人アマタ有トイヘトモ。未タ雙方ヘ印ヲ取トハ不見處ニ。アノ坂口ニ見ヘタル敵頭二ツ打物ニ貫キ歸ソ。アレ引落シテ今日ノ軍神ニ奉ラント云モ不敢追カケ。稍暫戰ケルカ。無手ト組ンテ雙方互ニ指違テ失ニケリ。又宮內藏大輔ハ。三村孫太郎カ家來有木平內ト云者ニ名乘合。無手ト組伏テ遂ニ平內カ頭掻切テ捨タリ。平內モ剛ノ者ニテ。下ヨリ透間ナク二タ刀刺タリ。內藏大輔二町計引退テ。是モ同時ニ果ニケリ。其日ノ軍ハ城內ノ戰稠シケレハ。雙方ノ軍兵死スル者多シ。流石ノ大將ナシカハ。是程ノ小城一ツニ疾ヘキ。翌日ヨリ仕寄テ。圍楷ヲカラミ。大鐵炮ヲ昇寄セ。廿九日ノ寅ノ刻ニハ。數萬騎四方ノ山ニ打上リ。思々ノ旗ヲ指立。一鼓一聲ニ調合テ。鬨ヲ噇トソ上ニケリ。城內ノ勢少シモ疾ス。鐵炮矢石如雨放。寄手ハ彌々不屑。堀際迄踊ヲ並ヘ屏ヲキシツテ持楯ヲアケ。息ヲモ不續責寄レハ。大晦日夜半計リニ落城ス。去レトモ彼ノ一族ハ無恙松山ヘ引退ケリ。鶴頭ノ城モ明レハ。天正三年正月朔日ニ松山ヘ寄ム。ソノ響如雷霆ナリシカハ。松山勢大半失色。小屋中

ノ舂夫等皆振震コト限ナシ。元親一身ノ覺悟ユヘ。カク成行コソ痛ハシケレ。

新見杠城落事附流刑之事

元三七ケ日モ打過クレハ。去ラハ時ニ合タル新見ノ城ヲ責テ新年ノ慶賀トセント押寄タリ。此杠ノ城主三村元範ハ。修理進元親ノ弟也。繼松山ハ落城スト云トモ。此城ハ天ヨリ釣リタルニ不ㇾ異。可ㇾ登便リナキ處ニ。元範一人當千ニ類ヲ掛タル富屋大炊助。曾禰。八田以下。翻テ正月八日巳ノ刻計ニ敵ヲ諸丸ニ引入レ。端丸ニ火ヲカケ。一同ニ詰ノ丸ニ取向シカハ。元範少シモ不ㇾ騷。各我ニ忠義ヲ存センモノハ。今此時ソト云ヘハ。勇士七千騎計。物具ヒシ〳〵トカタメ。元範ト一所ニ死ヲ決スル覺悟ニテ出立タリ。元範彌々心強ク思ヒ。扉ヲ開テ戈ニ釁コト兩三度。漸ク其ノ日戌ノ刻ニ成ニケリ。元範ノ郎從或ハ手ヲ負。或ハ疲レ。大半死シ失ヌ。中ニモ脱ㇾ甲降人ニ出ル者モアリ。又欠落スル者モアリ。殘兵漸ク十八計ニ討成レ。元範モ數刻ノ戰ニ精力盡テ。胸遏トシテ居ケル處ニ。伊勢入道ト云フ古老ニ存ㇾ義者立寄リ。腹ヲ切給フトモ打込ノ人數ト云ヒ。夜中ト云ヒ。分明ニ人ノ知事有ヘカラス。又夜明マテハ難ㇾ忍。一先落給ヘハ。定テ三浦ノ貞廣ハ年來ノ御知音ナレハ。此火サキヲ見掛テ途中迄迎出サル事ハヨモアラシトテ。氣色ニ背テ諫。石指ト云在所ヘ一里計引退休ラフ處ニ。藝陽ノ武士多治部雅樂頭五十餘騎ニテ。押寄ス。上ハ雲ニ聳。前ハ峨々タル岩ナレハ可㆓押入㆒様ナクシテ。鎗長刀ヲヒラメカシ。打物ノ鋒ヲ閃カシテ喚キサワケトモ。静リカヘツテ居リケル處ニ。寄手ノ中ヨリ太田ト名乘テ。荒者一騎進ケルヲ。三村左介ハ平生弓ヲ得タレハ。火急ノ退口ナレトモ。塗籠籐ノ弓曲高

ニ當國ニ逸ル國重カ鍛タル鋒矢五ツ箙ニ指テ持タレハ。打番ヒ。終滿始箸。好曳兵ト放ツ。眞前ニ進メル石州ノ住人太田源八カ太股ヲ射通ス。殘ル矢ニテモ死生ハ不レ知四人矢庭ニ射伏タリ。扨元範ノ前ニ跪キ。御暇乞ニテ候トテ腹掻切テ失ニケリ。根子屋千香以下ハ切テ出テ。或ハ敵ト引組差違テ死スルモアリ。或ハ太刀打折レテ引モアリ。纔テ伊勢入道ハ進出テ大音ニテ云ケルハ。元範此岩中ニ籠ルトヤ思ヒ。カク手痛ク責ルカ。元範ハ松山ヲ心懸。疾ク石蟹口ヘ退シカ。其落延給ハン間蹊堪ント思ヒ。我等四五人殘居テ候ソヤト云ヘハ。旁々トテ可レ通歟。疾ク參リ合ントテ。寄手我先ニト差向フ。伊勢入道走リ寄リ。向敵ノ弓手ノ腕ヲ切テ落シ。無手ト組ケル處ニ。後ヨリ安原彦左衞門ニ組伏セラレ。伊勢入道ハ果ニケリ扨元範ハ太刀ヲ拔カラ〳〵ト打笑テ。唯今伊勢入道某カ事ヲ愼申シ。松山ヘ退クト云トモ。爰ニ殘テ候ナリ。吾ト思ハン人々ハ。最期ノ働キ見ヨヤトイヘハ。我先ニト進寄ル。手元ニ進ム兵ヲ一人切伏セ。三人ニ手ヲ負セ。其透間ヲ窺ヒ腹切ント見廻ス處ヲ。遠矢ニ射ケル鋒矢咽輪ノ外レ玉懸ノ骨ノ下ニ篦深ニ立テ臥ス處ヲ。備後國ノ住人。東江平内首掻落ス。痛敷哉。前ノ日城中餘リニ無ニ覺束一思ヒ。女子童迄引集。美食ヲ與ヘ。人々ノ言様ナリト問シカトモ。本ヨリ不レ知コトナレハ左右答ルコトモナシ。誠ニ負薪ノ言。廊廟ノ語ト黄石カ書ニ有シ事ニヤト。後ニソ思ヒ合サレケル。翌日八日ノ早旦ニハ。近習ノ者トモニ。夢物語ヲソセラレケル。今曉ノ夢ニ。某カ頭ヲ。某甲カ實撿スト見ツルコトコソ不思議ナレ。聖人ニ夢ナシイヘトモ。某ハ聖人ニ非ス。少シハ心懸リニモヤアランスラント覺ル處ニ。サスカ洞濟兩家

ノ禪意ヲモ尋問アレハ。戲レ言ニ取成シ。呵々ト大笑シテ云ク。如何樣存命ノ程久シカルマシトテ。女中ヘモ暇乞トテ重代ノ太刀ナトヲ送リ。其外近習ノ者迄ニ馴染タル言葉ノ末モ。今日迄トコソ覺ユレトテ。盃二三返廻リケル。折節敵ノ火矢鉄炮如レ雨來レハ。三日ノ內ニ元範ノ頸則輝元ノ陣ニ送リケル。夢ノ前表コソ不思議ナレ。元範ノ頸ヲ弟實親ノ城ヘ送リケル心ハ。外ニハ實親ノ悲歎想像ノ由ニテ。內意ハ城ヲ弱シ。實親ニ力ヲ落サセン爲ノ計略ナリ。彼ノ頸ハ鬼ノ身城郭迄到來スレハ。實親聞テ大ニ怒リ。元範存生ノ時ハ。孝悌ノ道ヲモ盡セリ。轉生以後ハ唯追善ニシクハ有マシ。白骨ニ對スルコト思モヨラストテ。花完寺ノ會下ニ追返シ。キラヒヤカニ葬送ス。藝陣ハ成羽ニ越年シ。日々吉左右告ケ來レハ。酒宴遊興ニテ。正月十五日ノ節ヲ送ル。十六日ノ末明ニハ。惣軍ヲ鬼ノ身表ヘ替ヘ成羽入道荒手水內（ミチ）箕腰（ミノ）山鬼ノ身山下五里四方ハ。野モ山モ田畠水ノ上迄。尺寸ノ地モ不レ明取塞ク。明クレハ十七日。必ス本陣ヨリノ下知ニモアラサルニ。多勢ナレハ誰魁（サキカケ）トモナク。一萬五千騎計荒手ノ城ニ押寄ス。彼城主河西モ元親一族ニテ。元ヨリ固シテ好キ城ナレハ。ナニカハ無體ニ擒ニセラルヘキ。寄手散々ニ追マクラレ。士卒數多討死ス。此由輝元聞テ。不レ數山トハイヘトモ。軍書ニモ大軍ハ莫レ掌（侮カ）ニ小敵。小軍ハ莫レ怖ニ大敵ト云ヘハ。非レ可レ侮トテ。扱ニ懸テ間十九日ノ夜半前ニ。備前ノ兒島ヘ流刑セラル翌日廿日美袋（ミキ）ノ城主民部丞忠秀モ。河西ト一所ニ兒島ヘトコソ聞ヘケレ。爰ニ石川源左衛門尉元式ハ。元親妹聟ナリケルカ。元親備前ニ遺恨ヲ含モ。亡父家親ノ爲ナレハ。正キ舅ノ敵ナリ。加之先父久智（トシ）妙善寺合戰ニ討果ラレシ

カハ、彼ト云是ト云。鬱憤更ニ不レ淺トテ。一門妻子ヲ引ツレ、上下一門三百人計ニテ。高山ヲ打捨テ、此モ松山城ヘ籠リケリ。運命ノ果ナルラント。人々奇（アヤシ）ミ侍リケリ。

山田鬼ノ身ノ城沒落ノ事

正月廿二日ニ、藝陣鬼ノ身ノ城ニ押寄セ、七重八疊ニ取圍ミ、返リ鹿垣ヲ結、夜ル晝ル四十日ノ間、息ヲモ不レ繼責戰フ、斯ル處ニ、明石與次郎ト云元親譜代ノ者アリ、鬼ノ身ノ城主實親ハ元親ノ舍弟ナレハ、此與次郎ヲ添置ク。此者大敵ニ驚クカ、藝陣ニ心ヲ合ト見ユレハ、城中ノ男女大ニ周章（アハテ）騷ク、實親混（ヒタス）ラ靜ムレトモ、早女性少者共ハ鞋（ワラジ）ヲ着（ハキ）、袂懷ニ物ヲ入レ、此彼ニ奔走ス、實親是ヲ見テ、扱ハ制詞ニ及カタシ。其上時刻移ラハ。猶以明石一黨ノ者トモ出來ルヘシ、唯我カ一身ヲ捨テ萬人ノ命ヲ扶クヘキニハ不レ過ト思慮ヲ廻シ、敵將ヘ使者ヲ以テ申サレケルハ。實親一人腹切ラハ。楯籠ル處ノ軍兵トモ扶ケ置ルヘキヤ。其條報僞ナク分明ニ印ヲ給リ候ヘカシ。一命ヲ捨テ家僕トモノ恩賞ニ行ヒ度由侘シカハ。藝陣ノ大將泪ヲ流シ、武ノ道此コソ有ヘケレ。誠ニ古語ニモ生而於レ捕（ヨリトラン）二一期之榮一。死而不レ如レ留二名於萬代一ト感議アツテ、則返書ヲ認テ使者ヲ返シ、衆命ヲ被レ助、實親其返書ヲ見テ安堵ノ思ヲナス、君子ニ二言ナケレハ。此上何ノ疑カ有ヘキ、サレトモ松山ヨリ付置ク武士。其外一家ノ被官モ見捨タル樣ニ聞ヘ。元親罪セラルヽ事モヤ有ンスラントテ。松山ヘ一書ヲ殘シ置ク、其外老母ヘ別レノ文哀ヲ催ス次第ナリ。サラハトテ正月廿九日辰ノ刻ニ、自害ノ摸樣有シカハ。郎從トモ相聚リ、我カ身命ノ扶カル事ヲノミ悅ヒ、主君實親ノ臨終ヲ急ク事、春花秋月ヲ待ニ不レ異、無慚ナリケル有樣ナリ。城中ノ兵面々物

具シテ、三百餘騎廣庭ニ居流レタリ。實親諸軍士ニ對シ、今度各粉骨ノ働キ。二世迄モ難レ忘。運ヲ開キナハ恩賞可ニ相計一心底モ、今ハ空ク成果テ、他家ニ俸祿ヲ受ラレン事コソ本意ナケレトテ、鎧小手脚當右ノ脇ニ脫置、女姓少者ニアヤナキ目見セシトテ、二ノ丸ヘ下リ。近習ノ者共ヲ見廻シ。累年馴染今度ノ働キ報謝シカタシ、其々太刀。長刀、弓。鏃逆顏（ウツボサカツラ）、半首（ハツブリ）、懸袋、弓指、鎌、鎗、繪讃ノ類形見ニ賦ルヘシト云トモ、早散々ニ取奪テ一物モナケレハ。廣瀨引合ト云紙ヲ取寄セ、一重ツヽ賦リ重子、疊ノ上ニ座シ。向レ西合レ手。南無西方極樂教主ノ如來爲レ父切ル腹ナレハ、如來モ濟度シ給ヘシ。唯今先父源滿公ト一ツ蓮臺ニ迎ヘ給ヘト高聲ニ念佛三返唱ヘ。大脇指ニ中卷シテ、左ノ脇ニ揷、立テ、右リノ脇ニ引廻、欛（ツカ）モ拳モ碎ケヨト。眞直中ニ押込、十文字ニ切レハ、荒木右京進ト云古老ノ者立寄リ頸打落シ、其身モ髻切テ死骸ニ添タリ。實親廿ノ春ノ花初春ノ頃ナレハ、蕾ナカラノ落花コソ。實ニ哀ニソ覺ヘケル。斯リケル處ニ。生年十六ニナリケル藤若ト云小者一人、末座ニ居テ、サメ〲ト落淚シケルカ。御供ノ旁々一人モ見ヘスト云モ不レ敢、太刀ヲ拔テ敵陣ニカケ込、宗徒ノ勇士二三人ニ手ヲ負セ、本ノ處ヘ蒐戾リ、實親死骸ニ倚リ懸リ。腹搔切テ失ニケリ、貴賤男女ニ至マテ、藤若カ心底感セスト云コトナシ、其後二月下旬マテハ。城郲ヲ修補シ、城主ヲ差居。二十八日ニハ輝元屋形ニ入ニケリ、

松山軍之事

三月朔日ニハ、隆景ヲ初トシテ。諸軍勢成羽ニ陣ヲ移シ、諸方ヲサゲスミケル處ニ、松山勢廣瀨ノ陣屋ヘ馳セ出テ。藝州安國寺ノ僧侶横首座、其外數輩討果シケレハ、藝陣ノ大將大ニ驚

キ。サラハ此時不決雌雄ハ。處々ノ蜂起眼前タルヘシ。去來彼陣屋打破ント。三月十六日卯ノ刻ニ。阿部川ニ打望。玉ノ渡リ。四條原魚梁庭（魚梁庭ハ今ノ觀音堂ノ前ノ渡也ト古老覺來也。）三口ヘ並轡。一度ニ颯ト打渡シ。鷄足山ヲ陣取リ。士卒七八千計馳下所々ニ放火シケレハ。廣瀬ノ陣屋非可保。軍士松山ヲ目ニカケ引退ケリ。松山ヨリハ偏强ノ兵共ヲ。坂ノ麓ヘ八百騎計馳下シ。初ノ程ハ遠矢少々射ケルカ。雙方次第ニ練リ寄リ。鎗屆ニテ相戰フ。其間ニ八幡ノ上ニ陣取タル藝陽ノ兵ヲ見。松山ヨリ高陣ノ後ヲ忍ヒ出テ。近々ト差寄レトモ。藝陣ハ夢ニモ不知。賴久寺ノ上ヘ寄向フ處ニ。後ヨリ鐵炮二百挺計不意ニ放掛レハ。敵陣肝ヲ消シ。取次ニ混亂シ。四角八方ヘ颯ト引ク。松山ヨリハ勝ニ乘テ追散シ追マクリ。鷄足山ノ麓迄責寄セ。鋒ヨリ散ニ點火ニ戰ケル間。三村親成カ勢ヲ初テ。諸卒手ヲ負討死ス。松山ノ勢ニハ神原六郎左衛門尉。其外士卒數多討死ス。漸ク薄暮ニ及テ。雙方相引ニ引退ニケリ。扨四月四日ニハ。松山ヨリ多氣ノ庄大離ノ陣屋ヘ馳出。此陣屋每度得利。此時多勢ヲ見カケ自ラ放火シテ。四日ノ辰ノ刻ニ灰燼ト成ヌ。藝陣ハ多勢ナリト云ヘトモ曾テ不知案內ヲ。味方ノ勢ハ小勢ナレトモ險易通路ヲヨク知レハ。四日申ノ刻ニハ敵陣紛々紜々トシテ。足ヲ亂サントセシ處ニ。備後ノ住人檜崎彥左衛門尉豐景。同彈正忠元祭。木梨元垣。三村親成等ハ取テ返シ防戰フ。其間ニ諸卒無恙渾々沌々トシテ引退ク。暮方ニ後陣ヨリ後レテ通ル軍夫共。或ハ追散サレ。或ハ討果サレ。陣具多クハ城內ヘ奪取シカハ。籠城ノ癖ニテ小事ヲモ大ニ喜ヒ。老若サヽメキケレトモ。元親ハ唯其心肅然トシテ。閫ニ入テモ帶ヲモ不解。輿アレトモ酒ヲモ不飮。軍慮ノ外

他事ナシトコソ見ヘニケリ。軍士ヘ酒ヲ給レハ。士卒彌々情ヲ感ス。傳ヘ聞ク越王勾踐伐レ呉時。醇酒一器ヲ江ノ上流ニ注キ。士卒ヲシテ飲シムレハ。皆其情ニ醉トカヤ。或時軍士ヘ語リ給フハ。正月朔日ノ夢ニハ。一ニ闇ニテ手ヲソ打ケルト。又三日ノ曉ノ夢ニハ。ミカサノマシテ鳥モカヨハスト。如何樣不思議ノ句也ケリト。皆一同ニ云アヘリ。扨モ數度ノ合戰ニ。敵味方粉骨ヲ碎キ。身ノ働キ樊噲モ振レ舌張良モ消レ肝有樣ナリ。不レ遑レ記ニ。輕部治部。近藤掃部 布寄左衛門大夫。同內藏介。渡邊。神原。矢內以下。其外宗徒ノ兵討死スル士卒不レ知レ數。寄手ノ兵ニハ家近十郎。神津原。梶屋。難波。大槻數多討死ス。是ハ近里ノ者ナレハ。往々ニ記セリ。其外備藝防長ノ兵此彼ニテ果シハ不レ可レ勝計。松山通路ノ處ハ。石蟹。唐松。宍田手ノ庄 稻田中郡野山。多氣庄古瀨河西ニ至迄。日々夜々ニ相戰テ討取處ノ首數。十ヲ十五不レ記日モ無リケリ。藝陣小勢ニテハ可レ保ニハアラサレトモ。本陣ニハ通路夜討ノ噂モナク彌募ニ武威ニハ名大將ノ德ナリト皆感舌ヲゾ震ヒケル。

藝陣薙麥事附松山勢心替之事

四月七日ニハ松山ノ乾ニ當テ。河西ノ寺山ト云古城アリ。此山ヘ總陣ヲ移シ古瀨東西ノ麥ヲ薙ケリ。松山城內ヨリハ此彼ヘ馳出テ混合戰ヲ挑共藝陣曾テ不取合。口羽。兒玉。井上三人一樣ニ云ケルハ。城中ノ形勢考ヘ見ルニ兵粮若シ自由ナラハ。態トモクツヲレタル樣ニシナスヘカラン處ニ。混ラ合戰ヲ好ハ。扨ハ如何樣落城可レ近。所詮引退ケト下知スレハ城內ノ者共此謀ヲ不レ知彌緊ク接立ケル敵陣ハ白地ト云處ヘ移レ陣阿部西ノ野ノ麥無レ殘薙ケリ暫ク在陣有テ四月廿四日藝陣不レ殘成羽ヘ打

入ル松山ニハ大息ヲツキ安堵スル處ニ拭地築地ヲアケ馬場ヲ作リ長陣ノ支度シテケレハ。松山籠城ノ兵案外ニ思ヒ打寄二心ナキ樣ヲ相語ル。抑此城ハ要害能ク水卓散ナリト太平記ニモシルセハ不容易山也。明春迄ハ持忍ヘシ勵義藎忠各死ヲ一擧ニ可決ト頼母敷見ヘタル處ニ元親譜代ノ郎等ニ舟非宗左衛門尉直定。河原六郎左衛門尉直久ト云者アリ。強テ此輿ヲ工ムヘキニハアラサレトモ。小早川左衛門佐隆景ハ西國無雙ノ大將ニテ勇氣智謀相兼タリ。時々間牒ヲ入レシカハ。元來彼二人ハ志易變者ニテ忽ニ變ル。元親略察シケルニヨリ兩人ノ者トモハ。石川源左衛門尉久式ヲ頼テ無二一心由本丸ヘ達シ給ヘト。歎ケハ久式眞ソト心得。井山樵西堂ヲ唱テ小松山ヘソ上リケル久式ハ平生無油斷軍將ニテ本丸ヘハ僅ニ三人召連上リケリ。頃ハ五月廿日巳ノ刻計ノ事ナルニ手勢三十人計殘置用心緊クスト云ヘトモ。誠ニ家國興亡自有時トコソ覺ヘケレ。彼返リ忠ノ者共久式守禦ノ天神ノ丸ニ法印ノ在ケル處ヘ迯ルトテ。僕從ニ野菜ヲ持セ遣ス。陣門ノ警固武略トハ不知扉ヲ開テ入レケルニ。竹井カ被官大槻源内。小林又三郎透間ナク走入リ久式カ妻子ヲ捕ヘタリ。居合シケル者トモ二三十人スハヤ遁スナト聲ヲカケ。或ハ鑓本ヲクツロケ。或ハ鋒ヲ揃ヘ一同ニ懸リケレトモ。主君ノ妻子ヲ人質ニ取ラルレハ番ノ者トモハ失手緣ノ上ニ飛上リ飛下リ進退已ニ窮レリ。敵方ニハ合圖ノ聲ヲ開テ。土居。工藤。田中。蜂屋。肥田。土師。神原以下數百人天神ノ丸ニ押入リ閧ヲ噇トソ上ニケリ。去トモ本丸ニハ少シモ不騷元親ヲ始メ物具カタメテ件ノ奴原心替リシタルラン。大松山三本マツノ者共ハヨモ替ルコトハ

アラシト云ヘハ。石河久式ハ天神丸ノ守禦ト云ヒ妻子トモノ行末ト云覺束ナク思ヒツヽ。鐙ノ上帶シメナカラ相畑ニ馳向元親吃ト見テ暫ク御待候ヘ。大松山ノ勢可相催ト草摺取テ引留ム。久式心ハセキアヘ子共勢ノ寄ヲソ待居ケル。敗軍ノ有様目モアテラレヌ次第ナリ。

松山落城之事

角テ大松山ノ守禦。三村左馬亮親重。太兵衛尉親當三本松ノ守禦親氏佐内(サウト)ノ丸守禦三村助左衛門尉親友。法重六郎左衛門尉。同右馬亮。河上孫九郎渡邊左京進一騎當千ノ軍兵ヘ。早速以使申遣シケルハ天神丸ヘ今日可押入條早ク陣具ヲシラヘ馳出ラルヘシ。渡邊左京進ハ河上因幡ガ丸ニ放火シ。一門妻子ヲ大松山ヘ落セヨ相畑ヘハ火矢ヲ射懸ヘシ。早々天神丸ニ可寄ト。大松山其外渡邊平三。同藤内。平松西ハ大強下原邊マテ相觸ケリ。各一等ノ返事ニハ爲主君致死事塵芥トモ不存。但責口遠ハ粉骨ノ働キ御覺ニ及シカタキ也。是モ御暇乞ニテ候ナリ。早速御返事申シ。物具堅メ出立タリ。然處ニ大松山三本松ノ間ニ。小屋五六百間アリ。其中ノ男女俄ニフタメキ騷ケリ。コハ如何ニト見ル處ニ老人立出テ云ケルハ。天神ノ丸責落ストモ。今日ノ生涯明日ニモ不延早敵數千騎甲ノ星ヲ並ヘテ。岸限(キハ)ニ押寄タリ。魚梁(ヤナ)庭ノ前後ニ旗三流靡シハ。定テ隆景ニテアルラン。天神ノ丸モ彌勝ニ乘ヘシ運ヲ開クコトハ難カルヘシ。祇今猛火ノ中ニ妻子從類果ヘキコト眼前ナリ。先天神ノ丸ヘ相與。數千ノ命ヲ扶カルヘシト議スレハ。命扶ル助言ニハ不傾者無リケリ。中ニモ心剛ナル者共ハ。本丸ニ籠ラント。子出レハ親引留メ。親出レハ妻子悲歎ス。兎ヤ角シケル間ニ三村親成

押入リ。拔々ニ人質ヲ取ル。喚呼聲々ハ偏ニ罪人ノ獄卒ノ手ニ渡ルモ斯ヤト思ヒ知ラレタリ。天神ノ丸ヨリハ。相畑ニ火ヲカケ。火急ニ責カクレハ。相畑ノ者トモハ。妻ヤ子共ニ行モツレ。キタナキ降參ヲソシケル。其人々ハ誰ソ。樂々尾豐後守。杉三郎兵衞尉。諏訪藤助。南江備前守。升原内藏介。布寄。佐藤左京進。同右京亮。石田與市左衞門。同氏備前守。神崎豐後守。同兵衞左衞門。山本左馬助。其外士卒數百人。皆本丸ヘ弓ヲ引ク。中ニモ吉良常陸。神原與三左衞門尉。妻ヤ子共ヲ引具シテ本丸ニ入レリ。次ニ蘆雪ト云盲目ノ禪門アリ。此モ同ク本丸ヘ入ル。本丸ニハ大松山ノ兵ヲ第一賴ミニ思フ處ニ。初ノ返事ニ違背シテ。皆忽ニ飜レハ。元親大ニ驚キ。既ニ軍議ヲ替ントセシ處ニ。馬醉木(アセビ)ノ守禦。新山玄蕃介家佳進出テ。時日ヲ延ハシテハ叶フマシ。明日ニモ成候ハヽ。

敵勢彌可レ加。今能時分ト存スル也トイヘハ。元親譜代ノ者トモモ尤ト同シケル處ニ。元親暫ク思案シテ。天神ノ丸ノ兵ハ多勢ヲ得ル。味方ハ大半氣ヲ失フ者トモナレハ。仕損スルハ必定也。軍書ニモ見レ可レ勝兆(キサシ)ニ則退レ之。見レ不レ可レ勝之□□(粒僕イ)。莫レ進レ之見ユレハ。危キ軍ハ無用タルヘシト云ヘリ。時ニ田中藤兵衞ト云者進出テ。軍ノ法ハ時ニ隨テ變化スヘシ。今日ノ軍ハ我等ニ御任セ候ヘト不レ憚申上レハ。元親頁アツテ。文士ハ賤敎ニシタカヒ。國主ハ民口ヲ恥ヨト云心ニヤ。曲テ其義ニ同シケリ。然ル處ニ。軍兵三百騎惣門ニ聚リケリ。元親モ久式モ共ニ障子ガ瀧迄馳出ツ。三村與七郎。梶屋織部。田井又十郎。上田加助ヲ始トシテ。相畑ノ城戸ニヨリ。逆茂木散々ニ引破リ。家々ニ火ヲカケ。此頃心替リノ奴原比興ヲ現シ。主君ノ恩ヲ忘レタル天罰。端的ニテハナキカ。思ヒ知

レト冒レハ。衞々天神ノ丸ヘ引退ク。去レトモ本丸ノ軍兵ハ一騎當千ニ賴ヲ掛シ大松山ノ勢。案外ニ飜レハ。大ニ氣ヲ失ヒ。臨危不變方是丈夫兒トテ。互ニ教訓ヲソ仕合ケル。已ニ不移時日。藝陣本丸ヘ押寄レハ。不叶トヤ思ヒケン。廿日ノ薄暮ニ小原主計。南江馬右衞門ヲ始トシテ。近習ノ者共五十餘人引退シカハ。元親廣縁ニ躍出テ。聲ヲカクレトモ不顧。只一文字ニ相畑サシテ入ニケリ。敵ハ追々加リ。猿屋高陣傾城カ尾松岩院軸ノ林迄。如雲霞充滿セリ。サレトモ本丸堅固ニ扣ヘケレハ。藝陽ノ兵兒玉三郎右衞門尉。井上又右衞門尉。私ニ軍議ス此城三日汰靜。軍兵多ク可損其故ハ元親ト雙枕。死ヲ一時ニ決セント相窮タル者計殘リタルヘシ。窮鼠還嚙猫トイヘハ。今此紛レニ攻落トテ手ヲ盡スト云ヘトモ。無異議扣ヘタリ。馬醉木ハ新山家住踐ヘ勢籠壇ハ田井長門守。同左近丞。阿部市助。田中藤兵衞。同左京進。塀和木工助。野口等ヲ始トシテ。屈強ノ兵二百騎計ニテ扣タリ。一旦ニハ攻落ヘキ樣モナシ。藝陣重テ術ヲ替ヘ。廿一日ノ早旦ニハ。馬醉木勢籠ガ壇ヘ先矢文ヲ射テ。其至精ヲ見ンニハ不如。薄箆ノ矢ニ計策狀ヲ付テ射込ハ。籠城ノ兵寄聚リ。是ハ只タバカリ寄セン計ナルヘシ。只々一處ニ腹可切ト決定スレトモ。色ヲ替ヘ樣ヲ替テ操リケレハ。廿一日酉ノ刻ニ弛弦脫甲城ヲ出ル。淺間死カリシ事共ナリ。

甫一撿校之事

此ニ遠都ト云座當アリ。元來都ノ者ナリシカ。平家ヲ語ルコト當時無雙ノ名ヲ得。敷島ノ道ニモ不暗。一年京都ノ騷動故。生年十八歲ノ時此國ニ下向シ。偏ニ元親ヲ賴ミヨル。元親仁愛厚キ人ナレハ。憐ヲ加ヘ官位ヲ勾當ニ進メ。

天正二年秋ノ頃撿校ニマテ進テ。甫一撿校トソ號シケル。彼甫一モ深恩ヲ感シ。松山籠城ノ由ヲ聞。遠路ノ波濤ヲ凌キ。天正三年中春ノ頃當國ニ下向ス。國中戰場ノ事ナレハ。夜トナク。晝トナク。山川嶮路ヲ不レ憚。漸ク松山ヘ忍入ル。元親對面アリテ。盲人是迄ノ志シ。誠山雲海月ノ馴染ナレトテ。愁眉ヲ開キ。積情ヲ傾ク。斯テ急ナル時節ナレハ。何ノ口ヘ成リ共通リ過キ。歸洛アレト進ムレトモ。流石名殘ヤ惜カリケン一日二日ト相延テ。落城迄ソ留レリ。已ニ廿一日ノ暮方ニ。馬醉木ヨリ迸リ出ス。惡黨トモハ是ヲ見テ。イザヤタバカリ衣裳ヲ剝トラント相カタラヒ。迸リツレテ溪路ヲ下ル麓ニテ。惡黨トモノ耳語（サヽヤク）聲ヲ聞付テ。スハヤ時剋到來スト心得テ。暫シトテ左ノ手ヲアケテ。辭世カト覺ヘテ。都ニモト五文字ヲ唱ヘケル處ヲ只一討ニ頸ヲ刎ル。又中村吉右衛門尉家好ト云亂舞ノ藝者。元親ニ隨身ス。是モ甫一ト一列ニ馬醉木ヨリ下ルカ。甫一撿校ノ有様ヲ見テ。不レ遁トヤ思ケン。走リ懸リ。日名ノ源六郎ト云者ノ細頸丁ト打落ス。シレ者コソアレトテ。數十人立向テ卽時ニ切伏シタリ。誠ニ一藝ニ名アル者トモナレハ。不レ惜人ハナカリケリ。

元親落阿部山事

五月廿一日ノ薄暮ニ。馬醉木勢。籠ガ壇ノ兵飜ヲ聞テ。渡邊市郎兵衛尉。其外南江。山川兩家ノ者共モ懸落スル者共ヲ留ル由ニテ。是モ同落失ケリ。殘リ留ル人トテハ。吉良常陸守。同七郎左衛門。輕部。布施。三村。大藏右京亮。石川。久式。雄西堂。其外八田。木村。樂々尾。山口。内田。八木。上田。梶屋。織部。舞ノ彌助。同甚六。兒阿彌。惣テ勇兵五十騎計也。中ニモ廿餘人ハ一間處ニ聚リ今生ノ事ハ申ニ不レ及。死

出ノ山迄御供申ヘシト誓シカハ。元親笑ヲ含ミ。君臣ノ道忠義ノ誠ト。日月未ㇾ落ㇾ地ト喜悦ノ色ヲ顯セリ。扨新席幷衣裳マテ取寄セ。腹切ラント座敷ヲ作リ。盃ヲ廻シ。如何ニ各辭世ハナキカトノ給ヘハ。蘆雪ト云盲人計。懷中ヨリ短册一ツ取出ス。元親一覽アル處ニ。早馬酔木ヨリ鼻ノ丸ヘ懸ㇾ火。大手ヨリ障子ガ瀧ヘ燒上リ。折節辰巳ヨリ吹ケル風。即時ニ吹懸ケ。麓一里四方ハ晝ノ如クニ成ケリ。元親ハ只疾ク敵ノ近ツケカシ。腹切ント計言ケル處ニ。久式押留メ。一先遠島ヘモ落行給ヘ。天神高田堅固ニアレハ。落處ノ賴モ候ナリ。先一身ヲ保給ヒテ。信長ノ兪約豐後ノ誓紙ヲモ御守リ候ヘカシト強テ申ケレハ。元親アサ笑テ云ク。遠キ御方賴モ此時節ニハ無用也。縱明日ハ天下ノ主ト成トテモ。流石清和ノ姓ヲ汚ス事。返々モ口惜カルヘシト云ヘハ。久式仰尤ナリ。乍ㇾ去死シテ名ヲ萬代ニ殘ストモ。屍ノ鬱憤ヲ散シタルタメシハアラシ。是ヨリ船限迄ハ御供可ㇾ申。自然ノ時ヲ存シ候テ。飛渡ノ傳ヲモ求置候トイヘハ。元親聞テ左モアリヌヘシ。乍ㇾ去某ニヲイテハ其儀ナシ。御邊ハ一先讃岐ノ方ヘ忍落。阿州ヲ促シ周丹ヲ催シ。重テ本懷ヲ遂ラレハ。草葉ノ影ニテモ憤ヲ散セント心強ク辭スレトモ。久式氣色ヲカヘ。御爲ヲ存スル故。某シ居城ヲモ捨退。一所ニ籠城ス。爲ㇾ誰ニカ命ヲ惜ヘキ。八幡モ御照覽アレ。一足モ引間敷候ト高聲ニ諫レハ。元親ノ家人トモモ。主君ノ腹切ラン時見捨ンモ口惜カルヘシ。義理ヲ思ヘハ忽チ失フ命也。所詮一先引落シ山下ニ見失ヒタル樣ニシテ。散々ニ可成ト心底ニ思ヒ入レ。久式ト一同ニ揃ㇾ口諫言ス。元親倩思案シテ。一人ノ覺悟ニテ衆人ノ命ヲ失ハンコトモ不便ナリ。一先久式ヲ落シ置キ岸ヨリ立

歸リテ腹可レ切ト決定シテ。サラハトテ上下一度ニ座敷ヲ立ツ。中ニモ舞ノ彌助ハ暫トテ甲ヲ脱テ。彼所ニ捨テ跪キ申ケルハ。某年老候ヘハ。遠路ノ御供難レ成。是迄コソト云マヽニ。鎧ノ袖ヲオシマクリ。已ニ脇指ヲ拔ントス。元親乾ト見テ。彌助カ右ノ腕ヲヒシト取リ我遠路ヲ凌ン事ハ期シカタシ。某カ先途ハ此時ソ。シハシ留レトアレハ無ニ是非一命ニ隨ヘリ。久式塀ニ懸レ手レハ元親取テ返シ本丸ヘ上ントス。久式スカレシト引還ス。家人トモハ兩將ノ綿噛ヲ取テ押出シ。廿餘人取次ニナツテ。五月廿二日闇ヲ落路ノ幸ト。數百尋ノ岩石。片時ノ間ニ麓ニツク。元親ハ徑路ヨリスヘリ落。大石ニ當テ右ノ肩ヲツキ。正氣已ニ欲レ絶。一族付慕フ者モ跡ヨリ敵ノ進ミ來ルト心ハ急ク。落路ノ闇元親ハ早息絶ヌト見捨テ。散々ニソ成ニケル。年頃召仕ケル同朋兒阿彌中間加助ハ。元親退出アレトモ不レ知由ニテ。夜廻セシカ。何ノ間ニカ追付ケン。ツトヨリ元親ノ手ヲ引立テ。肩ニカケ。兒阿彌加助。石川内田主從六人高橋川ヲ打渡リ。阿部山差テ入ニケリ。二町計行處ニ。又モヤ太刀ノ鞘走テ。右ノ膝口深ク切カケタリ。又跣ニテ有ケレハ。左ノ踵ヲ一文字ニ踏切テ。一歩モ進ム事不レ得ハ。元親淚ヲ流シ。天道吾ヲスツルカ。汝等四五人付從ヒタリトテ。何ノ奇特モ有マシケレハ。松山ニ還リ。各一身ヲモ立セヨトテ。加助ニ國光ノ長刀ヲ賜ル。石田カ親ハ敵方ニアレハ。賴寄ル方モアリヌヘシトテ暇ヲ賜リヌ。扨内田ハ數多ノ妻子ヲ打捨テ。是迄ノ志シ類ナキ働也。降人ニ出テ妻ヤ子共ヲ尋ヨトテ。兼光ノ刀ヲ遣ハセハ。三人一同ニ淚ニ咽。御返事ヲモ申サヽリシカ。何トナク還リ行ク。今ハ兒阿彌。彌助兩人殘リ。元親左右ノ手ヲ取テ深キ藪ノ中ニ引入

テ。膝ヲ枕ニサセマイラセ。胸ヨリ趺ヘ摩サスレトモ人心地モ無レハ。只サメ／＼ト泣居タリ。兒阿彌ツク／＼案スルニ。氣色正シクマシ／＼テ。吾等最期ノ働ヲモ御覽スルニモアラサレハ。犬死シテ何カセン。落行ハヤト思ヒ。廿二日ノ戌ノ刻ニ。僩ナル小山ニカケ上リ。四方ヲ見廻ス由ニテ。終ニ捨テソ返リケル。舞ノ彌助ハ是ヲ見テ。無便思ヘトモ。心弱テハ叶マジヨシ／＼此ニテ自害スヘシ。比與ナルカナ御家人等死出ノ山マテ付慕ント誓ヒシコトモ虛言ニテ。阿部山マテモ不來ト獨言シテ徘徊セシカ又思フ樣。昔越後ノ忠太光家カ木曾義仲ニ先立テ自害セシコト。詮ナキ樣ニ語リ傳フレハ。元親存命ノ間ハ可付慕ト思定メ。明レハ廿三日辰ノ刻ニ元親氣色少シ快クナリ。如何ニ彌助。サテ兒阿彌ハト御尋アレハ。昨日戌ノ刻ニ欠落仕ル由申ス。元親心細ク思ヒ。我世ニ有シ時ハ二世マテト慕シ者トモ。却テ比與ノ魁シケル處ニ。汝一人殘リタル覺悟ノ程コソ不淺。彌助承リ。吾二代ノ御厚恩ヲ蒙ルコト。誠以テ不輕。報謝シカタシト存スレハ。殘命更ニ不惜。爰ニ存出セルコトノ候。某ハ松山ノ岸限ニ上リ。元親ト名乘テ腹可切。其間ニ中津井口ヲ目ニ懸テ高田ノ方ヘ忍給ヘトイヘハ。元親聞給ヒ。昔前漢ノ高祖ノ城ヲ楚ノ項羽カ責シ時。紀信カ諫ニ相似タリト。感喜更ニ不斜。我身疵多ク。露命難保。角云フ間ニモ如何ナル下輩ノ手ニ可懸モ不知汝ハ急キ松山ヘ上リ。撿使ヲ乞ヘ腹切ヘシトアレハ。正キ主君ヲ殺ス敵ヲ迎ニ行コト候マシ。假令罷上リ候トモ。身命助ラン爲ニタハカル樣ニ心得テ。言下ニ可誅ト申ス尤也。其印シニハ袂ヲ切リ可遣。又ハ老母ノカタヘハ髮ヲ可遣。若又不飯來ハ。供佛施僧ノ營ヲ賴ソト

再三進ムレモ、トカクノ返事モ不レ申。明レハ廿四日ノ早旦ニ。又彌助ヲ召寄セ、疾ク登城セヨ。消ヘ懸ル露ノ身ノ、置處ナキニ付テモ。益ナキ日ヲ送ルコトソトテ、理ヲ分テ口說(クドキ)給ヘハ、彌助承リ。誠ニ敵ハ隨ヘト社(コソ)申候ヘトテ。御印シノ物ニ御形見ノ鬢ノ髮ヲ取添テ。高橋川ヲ打渡リシカ。幾度思返シテモ。君殺害ノ使難レ心得。所詮敵ノ中ヘ馳入テ。討死スヘシト志シ。敵陣數百人待懸タル眞中ヘ行向ヘハ、卽時ニ搦取テ、彼ノ印ト鬢ノ髮ノ由來ヲ尋ヌ、本ヨリ思定タルコトナレハ、子細ニ不レ及唯疾ク殺セト云、廿六日ノ辰ノ刻ニ終ニ空ク成ニケリ。勁松彰二於歲寒一、貞臣見二於國危一トイヘハ。操正キ下﨟カナト感セヌ人ハ無リケリ。

元親最期之事

修理進元親ハ、彌助カ討死セシトハ不レ知シテ。撿使ヲ請來ラン、今ヤ遲シト待暮ス、餘リニ無二覺束一思ヒツヽ。小高處ニ上リ四方ヲ見廻セハ。松山程近ク見ユル、倩思ヘハ彼山ニテ自害セサルコトコソ今生ノ後悔。後生ノ障トモ成ヘシ、松山ニ尋寄リ、城主ニ案內ヲ遂ケ腹切ヘシト思ヒ、六月朔日夜半計ニ。賴久寺ニ入リ。亡父ノ塔頭ニテ腹切ントセシカ共。又思返シ。元親最期ノ程モ不レ知ト世人ノ云ンモ可二口惜一。又松山ニ上リナハ。名モナキ者ニ行合テ死ソ致ンモ詮ナシト思案ヲ廻シ。自ラ羽織ノ裾ヲ切テ小篠ニハサミ、松連寺ノ後ヘ忍行テ。古キ小塚ノ邊ニ栖置、明レハ六月二日ノ曙ニ、大道ノ畔ニ憩。二日ノ巳ノ刻計ニ樵夫(キコリ)一人通リ過ル。元親招キ寄セ、城內ノ有樣ヲ問ヘハ。藝陽ノ人々御座マスト答フ、汝ハ松山ニ上リ。元親痛手ヲ負テ山路ニ有。撿使給ハラハ出テ腹切ラント云送レトイヘハ、彼ノ男驗賞ヲ請ント大將小早川ノ陣ニ角ト告來ル、サラハ撿使遣

セトテ、栗(マヽ)屋與三右衛門尉元方ヲ初トシテ。兒玉・栗原・三宅以下傍テ馳下ル。元親栗屋ヲ見テ。舊友ノ因アレハ。介借ヲ可レ頼。今度城中ニテ腹不レ切事慚愧ノ至ニ存也。撿使ノ旁愚意ノ趣隆景ヘ御物語候ヘ。今度謀叛ヲ企ルコト。亡父家親ノ爲ニ。宇喜多ニ鬱憤ヲ存ル事曾以無レ紛。我モ父ノ爲ナレハ。天道ニ背クニモ非ス。偏ニ武運ノ薄キコトヲ恨ルナリ。扨城内ニテ不レ果コトハ。久式カ進メニヨレリ。一先久式ヲ落シ置。立還テ腹切ラントセシ處ニ。再三家人トモニ進ラレ。無二是非一麓ニ下ル。家僕トモノ心ニハ。路ニテ見失ヒタル樣ニシテ逃失ヌヘシトノ事也トハ。今コソ思ヒ當レリト。始終泣々語レハ。撿使ノ武士皆一同ニ感歎ス。扨重子疊ノ上ニ座シ。各ヘ盃ヲ指シ。談笑如レ常ニテ。暫ク座ヲ立手水ヲツカヒ。又本座ニ還リ。粟屋ヲ頼ミ硯ヲ乞テ筆ヲ染。最期ノ一首ヲ必ス屆ケ給ヘヨト。念頃ニ契約シテ。隆景ヘ書一通認メ。事ノ子細ヲ述セラル。次ニ細川兵部少輔殿ヘ一首。

一度ハ都ノ月トオモヒシニ我マツ夏ノ雲ニカクルヽ

此ハ年來因深キユヘ。今度籠城以來八雲集一部贈リ寄セラル。此歌書ハ世ニ希ナルヲ。公家中ヘ頼テ新ニ書寫シ下シケル心ノ程コソ婀娜ケレ。又竹田法印ハ。元親一族ニテ。亰洛往來ノ傳テコトニ至情アリケレハ。一首。

言ノ葉ノ傳ノミキヽテ徒ニコノ世ノ夢ヨアハテ覺ヌル

又大庭加賀殿ハ輝元ヘ歌道ノ指南アリ。學業多才ニシテ交情不レ淺ハ口號トテ。一首。

殘シヲク言ノ葉草ノ影マテモ哀レヲカケテ君ソトフヘキ

老母ヘハ形見ノ文ニテ候トテ自筆ニテ認ム。扨辭世ノ物語リアリ。去廿一日

ノ暮方ニ。腹可レ切思ヒツヽ。位牌ヲ書テ其上ニ。

思ヒ知レハ行歸ルヘキ路モナシ本ノ眞ヲソノマヽニシテ。ト書。八雲集ノ内ニ入レ置シカトモ。無二是非一落行憤キ日數ヲ送リケリ。末期ノ一句ナレハトテ又一首。

人ト云名ヲカル程ヤ末ノ露キエテソカヘル本ノ雫ニ。前匠作一瞬源樹居士ト書留テ。腰ノ物ヲ拔。粟屋ニ渡シ。帷子ノ襟ヲ押サケ。案內中ン時。頸打給ヘト言葉ヲカケ居ナヲル。粟屋西へ向給ヘト云ヘハ。十方佛土ノ中何レヲ佛土ニ指ヘキヤト。拔身ノ脇指持ナカラ合掌シテ。鑊湯爐炭清涼殿劍樹刀山遊戲城ト唱ヘ。終テ脇指ヲ左ノ脇ニ突立テ。右ノ脇ニ引廻シ。胸ノ下程ニテ欄モ拳モ摧ヨト押込。聲ヲカクルト頸打落。六月二日ノ晩景ニ。頸ヲ取テ桶ニ入レ本陣指テ送リケル。見ル人淚ヲ促ス計リナリ。千兵易レ得。一將難レ求ト。惜マヌ人ハナカリケリ。

勝法師丸被レ誅事

此ニ三村元親ノ子息。勝法師丸ト。石川。久式ノ子息ヲハ。備前國ノ住人伊賀左衞門尉久隆生虜本陣へ渡シケレハ。久式ノ子息ヲハ當國井山ニ送ラレケリ。勝法師丸ハ生年八歲ニナリケルカ。容貌甚タ優ニシテ。手跡超レ他。風光雪月詩歌ノ會共ニ心ヲ慰メテ。誠ニ榮花ニ送リシモ。今ハ陣屋ニ身ヲヤツス。思出レハ古ヘノ後醍醐ノ王子。八歲宮タニモ。愛別離苦ハ替スヤ。

ツク〴〵ト思ヒ暮シテ入相ノ鐘ヲ聞ニモ君ソ戀シキ。ト詠シ給ヒシ言ノ葉モ。今コソ思ヒ知レタリ。已ニ久隆本陣へ送リケル時。總金ノ扇ニ古歌ヲ書テ。勝法師丸へ寄セラルヽ。勝法師丸扇ヲ開キ。

夢ノ世ニ幻ノ身ノ生レ來テ露ニ宿カル宵ノ電。ト詠シ。サテハ本陣ニ行ナハ殺サルヘキ事必定ナリ。脇指今迄持ナラハ自害スヘシト後悔アレハ。人々虚涙ヲ促シ。助ケ置出家ニモナスヘシト相議スル處ニ。又番ノ衆中ヘ語リツルハ。我久隆ヨリ送ラレシ時。路ニテ本ノ家人トモ行逢リ。彼等乗打シテ君臣ノ禮義ヲ失フ。好某中ハ。背ル丶程ノ主人ナレハ斯中モ耻辱ナリ。前後歴々有シカハ。乗打スレハ無禮ナリ。各如何トアレハ。聞人皆感舌ヲソ震ヒケル。則隆景ヘ斯ト告ク。隆景其程ノ口才ハ實シカラスト思テ。又別人ヘ私ニ尋シカハ。有ノマ丶ニ語リケリ扨ハ扶ケ置ナハ弓矢ノ種子也。事六ケ敷ソトテ誅セラル。一家滅亡ノ時節到來ナレハ。實ニ哀ニソ聞ヘケル。人生識事ヲ憂患ノ始トハ。勝法師丸ノ事ナリケリ。石川。久式。三村大庭。吉良。常陸同七郎。布施以下マテ。死期ノ働キ驚レ目。或組討或指違。廿六日一同ニ朝ノ露ト消失ヌ。三村右京進政親父子三人ハ。作州路ヨリ因州ヘ忍行トソ聞ヘケル。

常山城亡落女軍之事附備前兒島之内

六月四日。成羽ニハ諸軍勢ヲ催シ。常山表ヘ陣ヲ移ス。常山ノ城主三村上野介高徳云ケルハ。某多年藝州ニ對シ鬱憤アル故。元親謀叛ノ張本ハ第一某也。然處ニ元親無下ニ生害ニ及ヘハ。生テ何ノ面目アラン。一日モ早ク死地ニ可趣トコソ思ヘトテ。騒ク氣色モ無リケリ。家ノ子郎等取々ニ。一先阿波讃岐ヘモ渡海アレカシト諫レトモ。阿讃ノ沙汰ハ無益ナリ。我累年眞之(サネユキ)ヲ頼。既ニ此度人質トシテ實子ヲ差渡シ。加勢ヲ乞シカトモ。其甲斐ナケレハ。弓矢ノ頼モ盡ニケリ。郎等トモハ是ヲ聞テ。思々ニ欠落スル者モアリ。或ハ弛(ハツシ)弦降參スル者モアリ。或ハ小船ニ取乗テ。櫓ヨ櫂ヨト云間ニ。放

追驅討果ス者モアリ。ハヤ散々ニ成シカハ、六月六日ノ晩景ニ、小早川ノ魁、浦ノ兵部丞宗勝、根岸ニ旗ヲ上ケ。先陣ノ兵數千人、二ノ丸ヘ責入リ、太刀ヲヒラメカシ、鉞鑓鉄ニ叩キ関ヲ噇トソ上ケタリケリ。高德少モ騒ス、命助ラントスル武者コソ、関ノ聲ニハ驚クヘケレ。明日ノ辰ノ刻ニ大矢倉ニ出テ。一類腹ヲ切テ名ヲ後代ノ記錄ニ留ムヘシトテ、靜リカヘツテ居タリケリ。敵陣ハ彌惡口シ、小船ニ取乗リ島ヘ渡ルカ、水練ニ入カ、責口ノ油斷ニ可成ソトテ逆茂木ヲツナクリステ喚叫テカヽリケル、高德立出叵耐ナル奴原哉、イテ高德カ最期ノ働見セント云儘ニ、鉄炮ヲツトリ廣緣ニ躍出テ給ヒテ、透間ナク放懸ル。嫡子源五郎高秀、平生ハ强弓ノ數奇ニテ、算打タル弓射ケルカ、是モ兵鉄炮ヲ放ツ、高德舍弟小七郎ハ弓ヲ打捨テ切テ懸リ、互ニ聲ヲ合テ戰フ、手負死人

十四五騎、片時ノ間ニ見エレハ、早速其日ノ陣ヲ引ニケリ、明レハ七日ノ曉、城内ニハ酒宴ノ聲聞ユ、多クハ女性ノ聲ニテ。互ニ別レノ盃ヲ指ス。同日辰ノ刻ニ、敵陣ヘ向テ一類自害ノ由ヲ告報スレハ、人々我先ニト云合ス、高德舊母ハ五十七歲、先ツ一番ニ自害セシ時。我レ世ニ留リテ斯ルウキメヲ見ル事モ、前世ノ業因不淺。高德藝州ニ遺恨ヲ含ミ。入道セラレシ事ヲタニ、世ニモノウク思ヒシニ、腹切給ハンヲ見ルナラハ。目クレ心モ悶ヘシ、暫時モ跡ニ殘ランヨリ。先立自害スヘシトテ、緣ノ柱ニ刀ノ欄ヲ欲付テ、其儘行カヽリ貫キケル處ヲ、高德走リ懸リ、五逆罪恐クハ候ヘトモトテ御頸ヲ打落セリ、扨高德ノ嫡子源五郎高秀ハ。生年十五歲、父高德ノ御介借ヲ仕度候ヘトモ。跡ニノコラハ少年故未練モヤ仕ラント心殘リニ思フラン。逆ニテハ候ヘトモ、先可腹切トイヘ

ハ、高德聞テ愚息ナカラモ神妙ナリトテ、扇ヲ開キアヲキナカラ、紅顔ヲツク〳〵ト見テ、水ノ泡草守ル露トナサン事、後世ノ障トモナルヘシトテ、暫ク袖ヲヌラシケル高秀モ、ロキ涙ヲ押トヽメ、其儘雪ノ膚ヲシヌキ、腹十文字ニ掻切、覆シニ成處ヲ高德頸ヲ打落ス、舍弟八歲ニ成ケルヲハ、傍ニ引付、肝ノタバチヲ二ツ通シテ差退ラル、高德妹ニ十六ニ成ケル姫アリ、藝陽鼻高山ノ大將ハ、高德ノ弟ナレハ、此姫鼻高山ヘ退キ給ヘト進ムレ圧、思ヒモ不寄事ナリトテ、老母ノ貫ケル刀ニテ、乳ノアタリヲツキ貫、此モ同時ニ自害セリ。次ニ高德女房ハ修理進元親ノ妹ニテ、日頃男子ニ越タル勇力アリ。我女性ノ身ナリトモソモ武士ノ妻ヤ子カ最期ニ敵一騎モ不討シテ闇々ト自害センコト、返々モ可口惜。況ヤ三好修理大夫從弟反逆ノ一族トイヒ、女人ノ身成トモ、一軍セテハ叶マシト。鎧取テ着、上帶領、太刀ヲ帶キ、長ナル黑髮解テ颯ト亂シ、三枚甲ノ緒ヲシメ、紅ノ薄衣取テ着裳ヲ引上テ腰ニテ結、白柄ノ長刀小脇ニ挾テ、廣庭ニ躍出ケレハ、春ノ局、秋ノ局、其外青女房端下ニ至マテ、三十餘人、是ハ如何ナル御所存ニテ候ソヤ、最タニ女人ハ嫉妬妄執ノ罪深ク、不得成佛ト申シ候ヒシニ、況ヤ修羅道ノ罪業、爭カ免給フヘシ、唯々思ヒ留リ給ヒテ、心靜ニ自害ヲセサセ給ヘヨト。鎧ノ袖ヲ扣ヘシカハ、彼女房打笑御身達ハ女性ノ身ナレハ。敵强モ害スヘキニ非ス、何國ヘモ一先忍給ヘ、若シ自害セサセ給フトモ、念佛能申テ後世ヲ助リ給ヘカシ、自ラハ邪正同一如ト。立テ斯ル戰場ヲハ西方淨土トシ、修羅ノ苦患ヲモ極樂ト成シ候ヘハ、何カ悔シカルヘキト。袖引放テ出行ケハ、我ヲハ扨ハ捨給フカヤ。迚モ可散花ナラハ。同シ嵐

ニ倡行。死出三途ノ御供仕ラント髪搔亂シ。額卷シ。爰カシコニ立置タル長柄ノ鎗ヲ提ケ。三十餘人蒐出レハ。累年芳恩ノ家僕トモ是ヲ見テ。八十三騎死ヲ一擧ニ蒐出タリ。寄手此形勢ヲ見テ。敵唯今妻子ヲ先立テ。降人ニ出ヌト思カ中ニ。小早川ノ魁浦兵部丞宗勝七百餘騎ノ正中ニ喚テ蒐ル。宗勝屹ト見テ。敵女人ノ裝東シテ寄來ルコソ怪シケレ。是處女ノ如クシ。脱兎ノ功ヲ作ノ謀ソ。孫子カ秘スル處。虛ハ是實ト云ルモ斯ル謀コトヲヤ可レ謂。欺レテ不覺ハシトルナ面々。ト陣ヲ固テ扣ヘシカハ。敢テ敗ルコト不レ能。サレトモ宗徒ノ勇士一場ニ死ヲ輕ンシ。突立タレハ。寄手足ヲ亂シ疵ヲ被リ。死ヲ致ス者百餘騎。周章騒ク氣ニ乘テ。高德女房腰ヨリ銀ノ再拜ヲ拔出シ。眞前ニ進テ蒐敗レヨ者トモト。大勢ニ割テ入ル。宗勝カ兵。流石武勇ヲ嗜ハ女人ニ向フ者ハナシ。勇騎互ニ鎗ヲ合ル處ヘ。女性傍ヨリ突潜テホカト衝ハ。手負者若干多シ。暫ク戰フ其間ニ。寄手ノ大勢馳寄々々攻討ハ。高德女房浦兵部丞カ馬前ニ蒐留リ。大音ニテ訇リケルハ。如何ニ宗勝御邊ハ西國ニテ勇士ノ名ヲ得給フト聞ユ吾女人ノ身ト云トモ。一勝負仕ラン其所引給フナ浦殿ト。喚叫。長刀ヲ水車ニ廻シテ蒐寄セタリ。兵部丞四五間計跡スサリニ退キ。イヤ〳〵御邊ハ鬼ニテモアレ女也。武士ノ相手ニハ難レ成ト。身ヲ粧ハ。傍ナル兵五十餘騎計ニテ蒐ル。長刀取伸。七騎薙伏セ。薄手負テ又大音ニテ。女ノ首取レトバシスナ人々ト呼フ。腰ヨリ三尺七寸ノ太刀ヲ拔出シ。是ハ我家什代國平カ作タル太刀ナリ。一度先父家親ニ參ラセ。家親秘藏他ニ異ナリト云ヘトモ。什代ノ由ヲ聞及テ返シ置レシ太刀ナレハ。父家親ニ副タテマツルト思ヒ。身ヲ不レ放持來レリ。死後

ハ宗勝ヘ進スルナリ。後世弔ヒテ給ヘヨト云捨テ城中ニ薨入ル。其形勢唯是刀八毘沙門喜見城ヲ守御シ給フ時。吉祥天女諸共修羅ヲ責討給フモ。此ヤト見ル人舌ヲ不レ卷ト云コトナシ。斯テ西ニ向テ手ヲ合セ。吾西方十萬億土ノ彌陀ヲ賴ニハ非ス。己身ノ彌陀唯心ノ淨土。今爰ニ現セリ。呼佛モ如レ露亦如レ電ト說給フ。誠ニ夢ノ世ニ幻ノ身ノ影。留テ露ニ宿カル電ノ早立歸ル本ノ道。南無阿彌陀佛ト念佛シ。太刀ヲ口ニ含テ臥シタルハ。例シ少キコトトモナリ。扨高德モ西ニ向ヒ。南無西方敎主ノ如來。今日三途ノ苦ヲ離レ。元親。久武。元範實親同シ蓮臺ニ迎ヘ給ヘト念佛唱フル聲ノ中ヨリ。腹掻切レハ。舍弟小七郎介借シテ。其身モ自害シ。高德ノ死骸ニ倚カヽリ。同シ枕ニ伏ニケリ。見ル人聞人。自皆淚ヲソ促シケル。數多ノ頸。備後ノ國鞆ニ送リ。サテ備中ノ國平均セシカハ。各賞功ヲ行ハレケリ。

以宮内省圖書寮本校合畢

續群書類從卷第六百四十二

合戰部七十二

毛利記

毛利ノ家昔年代々有之ト云ヘ𪜈。元就以來ノ義ニ候。毛利ノ本知藝州高田郡吉田三千貫ノ所也。城ハ郡山也。抑大江朝臣毛利右馬頭元就ハ。貞元ノ二男也。多治比七十五貫ノ所ヲ割分ニ取テ猿懸ニ住ス。同三男相合ヲ割分ニ取テ。相合ニ住ス。惣領毛利ノ少輔太郎廣元郡山ニ住シ早逝ス。子息幸松丸八歳ニテ死去也。如此ニテ惣領家退轉ス。家中ノ諸侍元就ヲ惣領ニ取立ヘキト。心ヲ合ル者モ有之。相合ヲ可取立ト心ヲ合スル者モ有之。僉議區ナル處ニ。元就相合ヘ寄懸。腹キラセ。一味ノ者𪜈悉討果。其勢大永三年八月十日。郡山ニ入城〆。毛利ノ家相續ス。元就其夜ノ夢想ニ。

　毛利の家たかの羽をつくわきはしら

如此御覽〆則翌日滿願寺ニテ連歌一座被仰付候。其比甲立ニ源朝臣宍戸安藝守元深。五龍ノ城ニ住ス。吉田甲立ノ間一里也。廣元代迄毛利宍戸取合。或時ハ五龍ヘ取懸合戰シ。又或時ハ甲立郡山ヘ取掛合戰ス。蒐引及數代。然𪜈終勝負無之送年月。元利毛利ノ家督ニナリ思ヒ

給フ樣。遠押虎狼近難有毒蛇。兎角宍戸ト和平ナクシテハ。何事モ叶フマシキトテ。元就手ヲ入ラレ。元深同意メ和平ニ罷成　左候テ甲立近邊元深思ヒ掛給フ處ヘハ。元就有加勢存分ニ任セ。元就思ヒ懸給處ヘハ元深有加勢テ存分ニ任ス。其比元就本妻ニ子四人有。嫡ハ姫也。惣領隆元　次男隆景。三男元春。嫡女ハ元深婦ニ取テ宍戸隆家ノ妻女也。左候テ。毛利　宍戸親子ノ因不淺成給フ　此比藝州諸侍見及聞覃　元就隆家ヲ聟ニ取彌威勢タリ　此上ハ　別段有間敷トテ　心々ニ思。多分元就ニ相隨　爰ニ武田刑部少輔ト　云者　藝州半國ノ主ニテ　佐東ノ金山ニ住ス　元就武畧ヲメグラシ　武田内三入ノ高松ニ住ス　熊谷伊豆守　八木ノ城ニ住ス　香川左衛門尉兩人味方ニ引入給フ　左候テ　宍戸元深　同隆家相具シ　多勢ヲ以テ武田城ヘ取蒐合戰度々ニ及　終ニ武田ヲ討果　安藝一國元就存分ニ被任。其後隆景小早川聟ニ成テ　彼家ヲ相續。元春吉川直常ニ腹切セ。彼家ニ成給ノ。其比石見國。備後半國内郡ノ分。雲州尼子ニ相隨　石州ノ内津和野三本松ノ城ニ住ス　吉見正頼彼一人ハ。昔防州大内ニ相隨　其外ノ諸士悉尼子一味也。然ハ元就武畧ヲ以　備後國諸侍防州大内旗下ニ曳入成給フ。大内尼子互ニ長敵也　元就ノ取成　尼子無念至極ニ思ヒ　天文九年九月上旬　數國ヲ引率シ　雲州ヲ打立　元就城吉田郡山ヘ取懸　其勢六万餘騎　青三緒ニ陣ヲ取　左候テ　尼子陣入數打出　郡山方下合鑓合合戰ス。元就内志道　上野介　天野隆重　口羽通吉　桂元隆　渡部太郎左衛門此衆中名譽ノ鑓高名比類ナク。其日ノ合戰ニ　勝利ヲ得　其後郡山ノ麓ニテ。度々働候ヘモ　尼子方ノ合戰出來不申　終ニ郡山ヘ矢入不相成　然共互ニ勝負無之處ニ。大内義隆元就ヘ加勢トシテ　陶中

務少輔後卷ニ被差出。陶五千余騎白大豆峠國司山ニ陣ヲ取。郡山ヘ相談ス。天文十年正月十三日尼子陣ヘ切懸。尼子晴久。伯父尼子下野守ト云者有之。申ケルハ。雲州ヲ打立候時。元就武畧ノ達者名譽ノ弓執ニテ候。晴久勝利ヲ可得段不定ニ覺候ト申ケレハ。晴久ヲ始其外各下野臆病異見ト承候。カホド見懸タル陣ニ。味方誰有テ一戰可仕覺悟モ見ヘ不申候。臆病下野下合一合戰仕ヘク候。各見物有ヘキ也ト。三緒ノ鼻ヲ下ス卷續テ三澤藏人下ス。其外尼子人數無殘下アイ合戰有之。右ノ下野守。三澤藏人兩人鑓下ニテ討死。其外尼子人數以下ノ者討死其數ヲ不知。又陶方ニモ深埜平左衞門尉。宮川善左衞門尉討死ス。彼兩人名譽ノ者ト申候。其外以下ノ者數人討死ス。又元就内波多野源兵衞。内藤九郎左衞門。三戸與五郎。井上源左衞門鑓下ニテ討死ス。此衆中モ名譽ノ者共也。其外心下ノ者數人討死ス。又元就内渡部太郎左衞門。兒玉三郎左衞門。國司右京。桂右衞門大夫。粟屋縫殿助。同名掃部。同名右京。同名源次郎。井上又衞門同豐後。兒玉杢丞。同内藏允。佐藤彥三郎。三戸小三郎此衆中名譽ノ鑓高名也。又元就方右同日ニ宮ノ尾ニ陣取。南條幷小鴨カ陣ヘ手當ノ衆。志道上野介口羽通吉。天野隆重。桂元澄。赤川左京此衆中之合力無比類候。南條カ内山縣ヲ虜。玄蕃允討執。其外心下ノ者大分討捕。互ニ引退。左候テ。終ニ尼子不相叶。同十七日ニ敗軍ス。然處ニ大内義隆思召ケルハ。今度尼子元就ヘ取懸モ。偏ニ元就ハ義隆一味ノ故也。此上ハ。元就ヲ相具シ。尼子カ城ヘ取懸ヘキト。天文十年七月下旬ニ數國ヲ引率メ。元就先手ニテ。富田ノ城ヲ執卷合戰ニ及。然處ニ。備後ノ國諸侍大内謀叛シ。尼子一味ニ罷成。其故大内不相叶引退給

フ。元就歸陣ス。備後諸侍ノ取成無意ニ思召。吉田近邊大名先江田隆貫ヲ討果ヘキト。宍戸元深。同隆家父子魁ニテ。江田旗返ノ城ヘ取懸給フ。隆貫城ヲ空。雲州ヘ逃行。同所祝部カ城ヘ取懸。祝部甲斐守。舍弟宮內少輔兄弟共ニ討果。江田近邊悉元就知行ス。其響ニ備後國內部ノ侍共。元就ヘ降參ス。各馬ヲツナキ。面々ニ人質ヲ取。隆家隆景。從是手堅相隨給フ。其比元就脇腹ニ子四人有。嫡男元淸。次男元政。三男秀包一人ハ姫也。又別腹ニ子一人有之。元安ト云。備後國外郡上原元祐ト云者。甲山ノ城ニ住ス。大名也。右ノ婦元祐妻女トナシ。元就聟ニ取給フ。上原相隨ヒ。其響ニ備後一國手ニ入給フ。其比大內ノ家ニ相良遠江ト云新參者出來。義隆氣色ニアヒ。一度執權ト成。大內ノ家陶ニ對メ舊例悉改。其家老ノ者共。法義同前ニ改。陶是ヲ口惜トヤ思ヒケン。義隆ニ逆意ヲナシ。內藤隆世。杉貫置相具シ。山口高峯ヘ取懸。義隆此段少モ御存知ナク。其比上方ゟ小太夫ト云猿樂下逗留シ。前日迄能ヲサセ。御見物有程ノ折節ニ候ヘハ。御仰天不淺。カクテ城ニ御座候テハ。扱御斷モ成間敷候。高峯下法仙寺ニ御座候テ。曖ヲ好給フ。陶分別ナク働ヲナシ。義隆不相叶。長門國大寧寺迄落行給フ。軍兵共大寧寺ヘ追詰。終ニ義隆御切腹有。御望(マヽ)ノ衆拾壹人有。其內山口多賀。宮ノ神主忠延御望(マヽ)ノ擧動名譽ト申。又冷泉判官(マヽ)望切腹ノ時歌ニ。身よりたつ雲も霞も半天にさそひしかせはよもやのこさし。如此候テ。寄手ノ者共追拂。心靜ニ切腹ス。天文廿年九月朔日。大內ノ家貳拾五代過退轉ス。其後陶。杉。內藤相談メ。豐後國大友ノ次男ヲ呼越。義長屋形ト號シ。大內ノ家ニ取立。其比內藤下野守隆世息女數多有之。然ルヲ元就極意アリテ。嫡女ヲ婦ニ取。隆元ノ妻

女也。毛利中納言輝元。次ノ姫隆家婦ニ取。元秀ノ妻女也。其子宍戸備前守元續ト號ス。義長大内ノ家ニ成。三四年過候テ。又候ヤ。陶義長ニ逆意ヲナシ。腹ヲ切セ。陶大内ノ家ニ居住ス。然處ニ吉見政頼ヲ先トシテ。内藤。杉。陶ニ不相隨。陶是ヲ無念ニ思ヒ。吉見カ城津和野三本松ヘ取掛。合戰ニ及フ。元就是ヲ聞付。陶狼藉者一ハ義隆御跡ノタメ。一度陶ヲ打果ヘキト能時節思ヒ立。坂新五左衛門。中村次郎左衛門尉ニ甲兵六百相添。吉見カ籠城ヘ加勢有。内藤。杉心ヲ合。元就一門相具ヌ。廿日市ハ打出。自身櫻尾ニ陣ヲ居。此行ニ陶不相叶引退。山口ヘ打出。左候テ。宮川甲斐守。軍兵三千相添。廿日市ヘ檢見ニ差出。甲斐守廿日市洞雲寺ノ上折敷畑ト云山ヘ打登。元就是ヲ見給ヒ思召ハ。陶吉見隙ヲ明。唯今爰元手當候テ。陣ヲ居ヲ御覽候處ニ。纔三千程ノ人數也。元就仰ケルハ。是ハ若武者共ノ能軍所也。各切崩合戰可有。元就是ニテ見物可仕ト被仰。時ヲ不移切懸。津田。友田追詰。三千余騎者一人モ不殘討果。宮川甲斐守ヲ熊谷内米田新右衛門尉討捕之。左候テ。元就廿日市ヘ引退。又ソレヨリ吉田ヘ打納給フ。其比陶方ニハ。藝州ノ手アテ。江良丹後守。岩國ニ籠置。然ルヲ元就色々武略ヲ廻シ。彼丹後陶ニ逆意ヲナシ。元就一味ノ由作文ヲ書落シ置。陶是ヲ聞付。無疎畧丹後ヲ討果。元就是ヲ聞付。彼丹後ハ陶カ内ニ別ニ無之。武畧ノ者也。加樣ノ上ハ一度元就本望ヲ達ヘキト被仰。其後又陶岩國ニ弘中三河守籠置。陶藝州ヘ打出。元就是ヲ聞付。兼日方諸城取付。宮嶋ニモ城ヲ拵。新里ト云者ヲ籠置。櫻尾。桂元澄。草津ノ城ニハ兒玉周防守。仁保島ニハ香川左衛門尉。此衆中ヲ籠置。又陶ハ藝州ヘ打出。打立テ周防。長門。豐前。筑前四

ケ國ヲ相催シ。藝州へ引。又元就一門其外猛勢ヲ引率、廿日市へ打出。櫻尾城ヲ持堅待懸給フ。元就内々思ヒ給フ樣ハ。哀宮嶋へ取渡リ候ヘカシ。左有ハ只一戰ニテ難ナク討果ヘキト思ヒ給フ。然處ニ陶五万八千余騎引率、岩國へ指出ル。船手ハ宇賀嶋ト云者五百余艘ニテ。岩國へ乘入。陶宮嶋へ可取渡ト云、弘中三河守申ケルハ。宮嶋へ渡海惡カルヘキト存候。其故ハ、今度ハ大軍ノ義ニ候。少ノ嶋へ渡候テハ。人數指引相成間敷ト存候。久芳大野へ人數打出、夫ゟ廿日市へ被取懸可然候ト申。又陶申ケルハ。久芳大野宮内ハ一騎打ノ所也、人數扱難覺候、宮嶋へ取渡。彼新城ヲ乘執、夫ゟ船數ニテ廿日市へ打上リ合戰可仕ト、嚴嶋へ取渡、塔ノ宮ニ陣ヲ取。弘中三河守乘船ノ時申ケルハ、アナ口惜ヤ。纔ノ嶋へ渡打詰ニアヒテ。一命ヲ可捨ヤト獨言ヲ云テ渡海ス。陶人數悉宮嶋へ渡タリ。元就見給ヒ仰ケルハ、剛龍深底ヲ持若魚淺所ニアソフ。魚網ニ懸ル、陶纔ノ嶋へ渡タル時、手押ニモ成ヘキ道途能ト思ヒ給。折節。野嶋。久留嶋、船百艘餝立。廿日市へ乘入。都合船數四百余艘ニテ。元就一門其外軍兵一人モ不殘、夜半時分ニ宮嶋へ取渡、西岡ノ上ノ山へ打アカリ。左候テ。船ヲ悉地へ戻シ給フ、角テ元就自身鬨ヲアケ。陶カ陣塔ノ岡へ切懸給フ。陶弓斷ノ折節ニテ。一戰モ不合、彌山ニ逃登、隆景魁ニテ三浦越中守ヲ討取。陶ハ彌山ニテ切腹ス、其外軍兵一人モ不殘悉討果、元就本望ヲ遂シ、直ニ防州へ取渡。久我ノ藏懸ノ城ニ杉治部大夫ト云モノヲ、陶ゟ籠置候テ、一刻責ニ乘捕、男女老若歩兵ニ至迄。一人モ不殘悉討果、夫ゟ次々ノ間治ノ城へ取懸給フ、彼城ニ伊香賀左衞門太夫ヲ陶ゟ籠置。伊香賀切出合戰ス。然共伊香賀ヲ坂新五左衞門討捕、左候テ

惣メ頸數三千五百余ノ注文也、夫ゟ富田若山へ取懸。彼若山ハ陶カ本城ニテ。陶五郎住ス、然ルヲ城ノ内ゟ五郎ヲ討首ヲ捧降參ス、内藤杉案内者ニテ、方々如形打納給フ、然處ニ吉見政頼山口高峯ヲ乘捕、元就御迎ニ被參。左候テ。五日ノ内、防長兩國元就手ニ入給フ。富田ニ一兩日逗留有之、夫ゟ山口へ打入、國照寺ニ陣ヲ居給フ、左候テ。吉見政頼へ長門阿武郡一郡加増ニ宛行ハル、杉貫置ニ周防國都濃郡ノ内富田、野上加増ニ被遣。左候テ。山口高峯ニハ市川常青ヲ籠置、右田ノ嶽ニハ南方宮内少輔ヲ籠置、三尾ノ嶽ニハ桂兵部丞ヲ籠置。下ノ關ノ押ニハ内藤隆世ヲ籠置、又野嶋。久留嶋へ使者ヲ立、今度ノ爲褒美八代嶋被宛行。左候テ。元就藝州吉田へ打納給フ、良有之後、元就イツモノ談合衆宍戸隆家、小早川隆景、吉川元春。熊谷、天野隆重、福原貞俊、桂元澄、志道廣良、口羽道吉。小玉三郎衛門。同名周防、渡邊太郎左衛門。赤川十郎左衛門、同左京。粟屋縫殿助、國司右京、粟屋右京。杉原盛重此衆中ヲ召寄仰ケルハ。時節能定候、石見國へ取懸度候、然共彼國所々皆難所也、一ハ雲州質ノ國也、尼子加勢モ可有之、如何各吟味被仕候得トノタマフ、右各被申ケルハ、尤時節能御座候、彼國在々難所タリト云へ𪜈、是以何ホトノ義可有御座候ニ哉尼子加勢モ可有御座候、然共御當方ノ御弓箭手廣御座候、縱尼子何方へ加勢トメ打出候共、其御手當可有候、尼子武略ノ程モ、御淵底之義ニ候、珍敷行モ有御座間敷候、急度被思召立可然候ト。各一同ニ被申、元就宣ケルハ。面々被申處尤ニ覺候、然者其支度可有候ト、夫ゟ廿日程有之、吉川元春先手ニテ。福屋へ取懸給フ、彼福屋カ葉城中野村ノ城へ取懸、則時切崩、首數三百余ノ注文也、夫ゟ同葉城川登ノ松

山ヘ取懸。頸數二百余ノ注文也。夫ゟ福屋カ本城ヘ取懸給フ。福屋不相叶。扱ニ成候テ。元就ヘ相隨。同國益田玄蕃兼日ゟ思ニケルハ。元就定テ石州ヘ手入可有候。只今ノ城居荒見苦候。新造城ヲ取普請手カタク相調。元就引請切腹可仕候ト待懸。元就此由聞給ヒ。嗜深キ尋常ノ弓執ニ元就押テ取懸ヘキニアラスト。元就手ヲ入扱ニ成。益田同意仕。元就ヘ別メ馳走ス其後小笠原彈正城ヘ取懸。彼董城赤山ノ城ヘ取懸給フ。赤山夜中ニ落退。小笠原本城ニ籠左候テ。小笠原カ城ヘ取懸給フ。數日籠城相拘度々合戰在之。彼城ヘ吾ゟ仕寄付。尾頭ゟ堀入責給フ。城ゟモ堀出互ニ堀屆。穴ノウチニテ合戰有之。然共小笠原不相叶。扱ニ成。元就ヘ相隨。尼子右ノ加勢トメ人數壹万六千余騎。大田追打出候得共。大河ヲ隔タル故。何ノ行モナク雲州ヘ打入。左候テ。銀山ノ山吹ノ城ニ平賀山城守。高畠源四郎兩人籠置給フ。如此方々御座候内。福屋謀叛仕。働ヲナス。又元春魁ニテ。福屋ヘ取懸給フ。福屋不相叶。城ヲ空濱田迄迯行。彼浦ゟ父子二人船ニ乘。雲州ヘ落行。相殘人數千三百余。二宮ノ神宮寺ニ籠居候ヲ。一人モ不殘打果給ヒ。又福屋一味ノ長安ト云者城ヲ空。益田ヲ賴迯行。益田是ヲ拘。然ルヲ元就ゟ長安ヲ討出ヘキ由被仰。益田異義ナク長安ヲ討。頭ヲ元就ヘ持ス。夫ゟ元就益田ヲ一入心安思召候。如何所々ニヲキテ數度ノ軍ニ。元就自分ノ衆。其外諸大名ノ内歷々名譽ノ衆數輩討死ス。彼國手間入申候。然共元就存分ニ任セ。石州手ニ入。藝州吉田ヘ打納給フ。然處ニ尼子カ家人本庄越中守モ雲州須佐ノ高屋倉ニ住ス。男子五人有之。歷々也。其外軍兵三千相拘テ。藝州ト山吹ノ通路ヲ留。山吹ノ城ニ兵粮無之。難義ニ及フ。藝州ゟ軍兵一万相添。兵粮

ヲ送ル然處ニ本庄越中守大將ニテ。尼子方人數二万五千打出石州ノ内新原ト云在所ニテ。互ニ渡合。合戰有之。宍戸隆家内其日ノ大將奥垣内大藏左衞門尉討死ス小早川隆景内其日ノ大將小寺宮内少輔打死ス吉川元春内其日ノ大將岡崎七郎討死ス其外手負死人數千人其數ヲ不知如此候テ尼子方ニ勝利ヲ得其尋山吹ノ城ヘ取懸平賀山城守高畠源四郎不相叶切腹ス左候テ彼山吹ノ城ニハ尼子方本庄越中守ヲ籠置如此候テ元就心靜ニ思案シ給ヒ山吹ヘ取懸本庄討果ヘキ段案ノ内也左樣仕候ハヽ又尼子モ可打出也左候テ。軍兵又可損也惣而石州彼方此方ニテ自分又一門中其外諸大名ノ内名譽ノ者共兩輩討死。元就内々是ニ思ヒ候。本庄或ハ軍ニ及ヘカラス調略ニテ納ヘキニ加樣ニ思ヒ取元春ニ被仰小笠原彈正カ御手筋ヲ以テ彼本庄越中守味方ニ參候樣ニ種々被仰ケル。本庄結句忝相隨嫡子太郎左衞門人質ニ差出元春ニ預置給フ山吹ノ城ニ本庄越中其儘籠置給フ。本城本望ニ存候樣被仰付左候テ石見國無難元就存分ニ任セ。夫ヨリ難ナク元就分國ヲ相催シ弘治三年七月下旬ニ雲州ヘ發足アリ尼子城富田月山ノ要害ヘ取懸元就本陣嶋根隆元隆景元春同處ニ陣取隆家ハ搦手ノ大將ニテ猛勢ヲ引率三刀屋ニ陣ヲ取。嶋根三刀谷ノ間六里也其外諸大名手當〳〵ニ陣取本庄越中モ山吹ヲ打出宍道ニ陣取如此陣取堅七ケ年ノ在陣也元就思ヒ給フ樣ハ。今度大軍也。一門ノ中若一人モ闕候ヘハ。縦軍ニ勝利ヲ得候而モ。其甲斐有間敷候ト思召位詰ノ軍ニテ急ニハ取扱ハス左候テ。一年ニ二度三度働ヲナシ合戰在之然處ニ本庄越中守手フリ惡ク候ヲ元就聞付。元春ニ被仰付彼者陣所ヘ夜

討ニ懸人數忽討果越中ヲハ元春内森根市郎右衛門尉討取。越中カ子二人其外軍兵三千余一人モ不殘討果給フ。元春ノ義ハ申ニ不及家中ノ者共手柄比類ナク候。越中カ子二人山吹ノ城ニ殘リ居候ヲ。人數悉討果。又越中嫡子太郎左衛門尉。藝州新庄村ニ人質ニ居候ヲ討果給フ。其外七ケ年ノ在陣ノ内。雲伯兩國所々城々或ハ責崩。或ハ暖ニ成。種々樣々ノ事共有之ト云ヘモ。只今申遣カタク候。カクテ在陣五年有之。元就陣所ヘ隆元。隆景。元春。盛重。隆重。道吉此衆中被召寄。元就仰ケルハ。五ケ年ノ在陣永々數事例スクナク候。諸軍兵共草臥。一ハ内輪ニ如何樣ノ不慮出來可申ヤ。先此陣ヲ引退。又時節ヲ以テ取懸ヘキト談合有。右ノ衆中尤可然候ト被申。左候テ。元就仰ケルハ。今日ノ談合ニハ。宍戸隆家無之候。三刀屋ヘ使者ヲ立。明日是ヘ呼ヒ寄越。談合有ヘシ。隆家ノ存分聞。其上議定有ヘシト仰有テ。各陣所ヘ歸給フ。翌日早々三刀屋ヘ使者ヲ立給フ。隆家嶋根ヘ被參。昨日ノ衆中モ同座ニ有テ。元就宣ケルハ。隆家是ヘ呼寄申事。余ノ儀ニ非スト。昨日ノ通ヲ被仰。然共隆家存分ヲ聞。其上議定スヘキトテ申入候。如何可有候哉ト宣ケレハ。隆家被申ケルハ。如仰五ケ年ノ在陣永々敷事例少候。然共味方ノ軍兵共慰遊山ノ樣ニ候。年中ニ二度三度程ノ働合戰處ニ武士ノ本意也。左樣候テ。寄手ノ者共サヘ草臥候ハ。五年ノ籠城ノ草臥ハ幾可有之哉。又内輪ニ如何樣ノ不慮出來可申哉。尤ニ存候。乍去今度被召俱御分國ノ諸侍。有誰謀叛逆意可仕其覺不申候。其ニ被相添。諸士疎畧ナキ覺悟ニ候。若臆病ニ候者押テ討果ヘキ者也。一ハ元就七十ニ及レセル御事ナレハ。余命ナシ。時節ヲ以テ又可取懸ト承候段。偏ニ御謬ト存候。此陣御引退候ハ

、。元就ヘ一世尼子退治可被思切候。アナ口惜キ義ニ候。乍去右ノ御談合各被相濟候ハヽ。只今隆家申ニ不能候ト被申ケレハ。元就聞召。暫物ヲモ宣ハス。感涙ヲ流シ宣ヒケルハ。扨コソ隆家ノ存分ヲ聞。其上ニテ議定スヘキト云ハ爰也。右三ケ條何モ尤至極セリ。一ハ元就余命ナクメ。時節ヲ以テ又一度ノ段思ヒ切ヘキ通リ。隆家無メ。誰有テ是ヲ可仰ヤ。此上ハ一度尼子ヲ打果シ。本望ヲ達候ヘハ。元就爰ニテ一命ヲ留ヘシ。サナキウチ。此陣不可引ト堅議定有。夫ヨリ二年ノ在陣也。左候而。元就種々調略ヲ廻シ。尼子刑部少輔。同式部少輔ヲ味方ニ引成給フ。尼子義久是ヲ聞付。右兩人ニ腹ヲ切ス。其後又元就。覺ニ作文ヲ書。籠城ヘ落サル。有者拾取テ。義久ニ見スル。尼子家老宇山飛驒守心替シ。元就一味ノ由彼紙面ニアリ。義久大ニ驚。疎畧ナキ飛驒ヲ殺害ス。彼飛驒一騎當千ノ者也。其後尼子カ奉行人牛尾遠江守。佐世伊豆守。尼子ヲ背。元就ノ味方ニ參。其時節伯州ノ住人南條勘兵衞病死ス。小鴨因幡國ヘ罷退。三澤三刀屋。宍道高成。櫻井。村井。熊野。吉岡。波多野此衆中ハ最前ヨリ元就ヘ味方ニ參。如此候テ。尼子終ニ不相叶。元就ヘ降參ス。然所ニ。元就一門中各被申ケルハ。尼子一代ナラス毛利ニ對シ長敵也。月山ノ城ヲ切崩。尼子兄弟三人討果。本望ヲ被達可然候ト被申。元就仰ケルハ。大將タルモノ軍ニ勝利ヲ失。降參ノ時一命ヲ助事。弓矢執ノ法也。尼子兄弟三人一命ヲ助。家人ニ可召仕ト宣。惣領尼子四郎義久。次男九郎四郎。三男百童子兩三人毛利ノ家人ニ罷成。永祿六年七月下旬ニ。雲州下代村ニ置給フ。左候テ。富田月山ノ城ニハ。天野。重番大將ニ籠置。伯州南條城ニハ。杉原盛重。番大將ニ籠置給フ。雲州難ク元就手ニ入。一門

相具シ。藝州吉田ヘ打納給フ。其後元就隆家ニ語給フハ、今度長敵ノ尼子退治本望至極セリ。此上ハ存命ノ中備中。備前其外心ノ及所迄取出度也。然共上方手遣海上心ニ不任メ不可叶。伊與ノ河野ヲ引入度候。然共隆家嫡女元就孫也。隆家分別ニヲイテハ。河野ヲ知音ニ取。國ヲ靡度候ト宣。隆家被申ケルハ。常々ノ事ニ候ハヽ。姫遠國ヘノ義存寄サル事ニ候得共。武勇ノ子細ニ候ハヽ。何分ニモ元就ノ御意ニ被任候ハント被申。元就感悦有之。自分ニ種々才覺ヲナシ。熊谷信直カ手筋ヲ以テ。河野カ内平岡左近進ト相談。河野道信ヲ聟ニ取アフセノ中ニ成給フ。野嶋。久留嶋彌馳走仕。海上ノ道廣罷成。其後隆家元就ニ被申ケルハ。河野ト縁邊ノ義ハ。上方御取出可有タメト承候。時節ハ能覺候。隣國之義ニ候條。先備中ヘ御出張可有候。左候テ。隆家先手可仕候。御分國相催サレ。

急度思召立可然候ト被申。元就是ヲ聞給ヒ。一入感悦不淺。一門其外諸大名衆其觸任之。數國ヲ引率。備中ヘ打出給フ。彼國諸侍多中。三村家親ト云者松山ノ城ニ住ス。其葉城三ツ有。鬼身カ城ニ。家親舍弟實親ヲ籠置。高山ノ城ニ石川左衞門尉住ス。手ノ城ニ三村越中守。比那因幡守兩人籠置。然處ニ宍戸隆家先手ニテ。鬼身カ城ヲ取卷。籠城抱度々合戰有。然ト云圧實親不相叶切腹ス。左候テ。諸侍隆家ニ相隨フ。宍戸カ家人ニ罷成。夫ゟ高山ノ城ヘ取懸。石川ヲ討果ス。又夫ゟ手ノ城ヘ取懸。籠城相拘合戰ニ及フ。然處ニ隆家武畧ヲナシ。惣領ニ抽。唯一分ニ籠城ヘ亂入。彼城大將分三村越中守ヲ。隆家内中村刑部丞討取。同比那因幡守ヲ。同内木原彦衞門尉討取。左候テ。頸數都合三百余ノ注文也。夫ゟ三村家親カ本城松山ヘ取懸給フ。松山ノ城數日籠城相拘合戰度々ニ及フ。然共

三村不相叶和平ニ罷成。元就ヘ相隨、其嚮ニ國中諸侍悉元就ヘ相隨、備中一國分國ニ罷成、左樣候テ、鬼身ノ要害ニ宍戸隆家ゟ。佐々部美作守番大將ニ籠置、手ノ要害ニ小早川隆景ゟ横見三郎左衛門尉番大將ニ籠置、高山ノ城ニ吉川元春ゟ今田山城守番大將ニ籠置。其外方々手宛手堅被仰付、各藝州ヘ打納給フ。然處ニ其以前備前國守喜田直家、舍弟忠家、小早川隆景ニ附テ申ケルハ、自然ノ時ハ元就馳走可仕之由、内々被申ケルカ、彌其節宇喜田兒弟藝州吉田ヘ使者ヲ立、馳走可申ト馬太刀納、マタ美作國浦上宗景元就馳走可仕ト使者ヲ立。馬太刀納、角テ亦元就イツモノ談合衆召寄仰ケルハ、備中國切續フナシ。備前美作靡候得共、上方ハ先大形ニ候、豐前、筑前兩國最前大内ニ相隨フ國也、只今ハ左ナク候、彼兩國ヘ籥入可仕候、如何可有候ヤト宣フ、一門中其外各尤可

然ト一同ニ被申。左候テ。分國ヲ相催シ、打立給フ。元就本陣長門國赤間カ關ノコナタ、周勝寺ニ陣ヲ居給フ。一門其外諸大名船手ヲ以押渡、豐前國門司ノ要害ヲ豐前國大友相拘候、彼城ヘ取懸、山下燒拂ヲナシ。然處ニ城ゟ切出合戰在之、毛利家ノ衆勝利ヲ得、頸數三百五十余ノ注文也、元就本陣ヘ着、翌日城ヲ乘取給フ夫ゟ同國神田ノ松山ヘ取懸給ヒテ。勝利ヲ得乘執、毛利一門暫爰ニ陣ヲ居。彼方此方行有之、内藤隆世方角案内者ノ故種々才覺仕候而多分味方ニ引入、豐前國大形相隨。彼國所々手宛被仰付、内藤隆世、同又次郎。隆春父子小屋瀨ニヲカレ、豐前國ノ押也。左候テ、毛利一門其外諸大名筑前ヘ打出、立花城ヲ拵、普請手堅相調、秋月ト對陣ス。然處ニ、豐後國大友軍兵二万余騎打出、立花ニ張逢、偖又大友カ調略大内義隆ノ落子山口落居ノ時、母ノ懷ニ抱、豐後

國ヘ落行、彼子成人ノ後。大內太郎左衛門尉輝廣ト名乘。大友是ヲ取立。大內家諸牢人ヲ抱、其外手前ノ軍兵相添、都合二万二千余騎ニテ、毛利一門諸大名在陣ノ跡、周防國山口ニ打入。築山ニ陣ヲ取、高峯ノ城ニハ市川常吉ヲ籠置、俄ノ取懸案ノ外ノ儀、人ナキ仕合ニ候ト云ヘ𪜈。常吉種々武略ヲメクラシ。堅固ニ城ヲ相抱、然處ニ常吉子少輔四郎、兼テ高峯ノ麓ニ宿所有居住ス、彼少輔四郎、大內太郎左衛門ニ一味ス、常吉是ヲ聞付。軍兵五十人差下、少輔四郎ヲ討果。常吉覺悟名譽ノ義ト申候。左候テ、元就陣所ニ飛脚ヲ立、山口如此ト註進ス。元就聞召被仰ケルハ、筑前立花ニモ豊後ノ猛勢ヲ打出、對陣ノ由到來アリ、又山口ヘモ加樣ノ義無心許事ニ候、乍去山口城ニハ常吉籠候條、縱人無候共十日廿日ハ城堅固タルヘシ、立華ニ居候一門中、其外諸侍悉呼戾、元就爰ニ待付山口ヘ

打入候ハント宣フ、夜ヲ日ニ續テ其手遣有、元就立華ヘ被仰遣ケルハ。其陣早々引退ヘキ旨也、山口如此候、乍去其陣退口一大事ノ義也定而豊後方打出候軍兵共、付送合戰ニ及ヘキ也、其段申ニ不及候ト被仰遣候、此旨到來ス毛利一門其外各如何可在候哉ト被申ケル。宍戶隆家被申シハ。只今爰ニテ兎角ニ不可及、敵方其沙汰無內。時ヲ移サズ早々各可引退者也隆家殿可被仕候、其段可被御心安ト被申、吉川元春被申ケルハ。隆家ハ一門相具シ、御退可有候、元春殿可仕ト被申、然所ニ隆元宣ケルハ元春ハ未ダ若武者ノ義ニ候條。隆家乙被遊候ヘト仰ケル、又隆元宣フ樣ハ、此立華ノ城一圓ニ空退ヘキ段無念之至也、只今ハカクモ候得ハ。イツレモ豊前。筑前兩國ノ義不可捨置、又可有之タメニ候條、立華ニ名譽ノ者五三人籠置可然ト宣ヒ、桂右衛門大夫元重、浦兵部丞宗

勝。坂新五左衛門尉隆清兩三人立城花ニ籠置。各一道ニ引退給フ。極月廿九日ト申ニ宍戸隆家乙ス。然所ニ退口手寄豊後陣方付送。先手纔ニ千騎程ニシテ追懸。隆家引返シ合戰在之。隆家勝利ヲ得。追手者共百五十騎程討捨。豊後衆不相叶引退。隆家ノ義ハ不及申。家中ノ者共手柄ト申。左候テ。隆家内北野新五左衛門尉鑓下ニテ討死ス。以下ノ者纔二十五六人討死ス。夫方心靜ニ罷成。左候テ。毛利一門其外諸大名悉。長門國元就陣所へ驅參。カクテ隆元。元就へ被仰ケルハ。今度隆家乙其手柄無比類候。其故一門ノ者共其外諸軍兵難ナク罷退候。又隆元存子細有之。桂元重。浦宗勝。坂隆清傑等三人立華城ニ籠置候ト被仰。元就聞召。今度隆家武勇ニ依テ。一門其外軍兵堅固ニ罷退候段。手柄不淺。偏ニ當家ノ武運長久タルヘキ者也。又三人立華城ニ籠置候段。隆元ニ對シ元就御感不淺。軍兵ハカク可有者也。扨彼三人定テ切腹可仕候。武士ノ慣トハ云ナカラ。多キ中ニ唯三人殘居切腹可仕候事。神妙千万不便至極ニ覺候ト。感涙ヲ流シ給フ。見ル人聞人皆泪ヲ流シケル。乍去弓箭執テノ面目也ト。各是ヲ感ケル。倩立華ノ城ニハ。大將御退候テ。其跡ニテ其夜彼三人ノ覺悟思ヒ〳〵ノ仕合。阿呵敷物語有之。坂新五左衛門申ケルハ。此上ハ武勇ノ沙汰不可入。武具ヲ納置帶ヲ解。燒火ニ當リ背ヲアフリ休息ス。浦兵部ハ左樣候。トテモ死ル牙咬ト云下說有之。生頸ヲ拔ルヘキ段口惜キ次第タルヘキト云。用心ヲ呼夜廻仕。桂右衛門大夫申ケルハ。此城ノ仕合敵方屑ナラス思ヒ。中々今夜取懸ヘカラス。明日堅固ニ切腹可仕者也。加樣成寒夜ニ兵部丞夜廻無益也。旁家人ヲ召シ。此方へ御入候テ。酒一ツ可參也。新五左衛門背炙モ大形程可能。旁家人ヲ召連。

此方へ御入候テ。酒一ツ可參也ト各呼入。加樣ノ時節座席ノ高下入間敷也。打亂酒ヲ呑ヨトモニ酒二日目ニ罷成。新五左衛門申ケルハ。某宵ゟ燒火ニアタリ。徒仕タル料分ニ一指舞へキ也ト云。折節出合面白ト錦戸ノ切ヲ舞。一入舞出來タリト。上下是ヲ感シ。左候テ。漸天晴。カクテ城ゟ敵方へ理。毛利一門子細有テ悉罷退候。加樣候ハ　桂右衛門大夫元重。浦兵部丞宗勝。坂新五左衛門尉[illegible]清城番トシテ罷居候。撿使給候へ。切腹可仕也。其上城ヲ御請取可有ト云。敵方ゟ申ケルハ。是ゟ可申ノ處ニ。後報ニ罷成候。各敗軍ノ仕合ト見及候。諷者兩三人番トメ御殘候哉。名譽ノ義共ニ候。御切腹中々其儀在間敷候。何方へ成共御望次第送可遣ト云。夫ゟ互ニ使者ヲ立。左候ハヽ博多へ罷退ヘキト云。敵方軍兵召人相添。博多へ送。左候テ。兩三人心靜ニ罷成。名譽ト申候。是ハ筑前國立花ノ物語。又長門國元就陣所ニテ隆元仰ケルハ。豐前國大形相隨ヒタル者共。此節ハ謀叛可仕ト存候。然者神田ノ松山ニ口羽道吉ヲ籠置候。今度立華へ打出候豐後ノ軍兵共。定テ松山へ取懸へク候。左候而後巻ナク候而ハ不可相叶。隆元是ゟ豐前へ渡行可申候。元就山口へ御付入可在候。高峯堅固ノ由ニ候條山口ノ義ハ輙御勝利タルヘキ事也。片時茂御急尤ニ存候ト被仰。元就聞召。尤左樣可有義共ニ候ト宣。左候テ。隆元ハ吉川元春。熊谷信直。其外歷々數万騎ニテ豐後へ渡。隆元ハ門司ノ要害ニ籠。其外諸大名所々手アテ〳〵ニ陣取。元就ハ宍戸隆家。小早川隆景其外歷々引率。山口へ打入。元就高峯へ籠給フ。隆家隆景ハ淺倉吉敷ニ陣取。其外ノ諸大名ハ一坂麓天下ニ陣取。又大内輝廣カ陣。築山防州大内ニ心有國ニテ。諸町人或ハ大内家人ノ末葉所緣ノ者共。是ハ義

隆御代ノ時如此ノ者共ニテ御座候ト名乗出。面々雑掌ヲ相構。伺公ス。殆其馳走一日々々ト打過。城ヘ可取懸段思ヨラス。然處ニ元就打入給フ。高峯ノ勢其外所々數万騎ノ陣取ヲ見。一足モ不立。彼方此方ヘ逃行。追詰悉討果。大內輝廣ハ清野峠迄上下四人ニテ逃行。爰ニテ切腹ス。一日ノ內難ナク濟申。是ハ荒々如此。又雲州尼子カ家人山中鹿之助ト云者。尼子晴久カ落子未幼少ナルヲ。尼子家ニ可取立ト。因幡國ニ居住ス。尼子家ノ牢人多キ中ニ。立原源太兵衛。大方十兵衛。森脇市正。穐山廣助。寺本萬助。三刀屋藏人。横道兄弟其外歷々在々所々ニ居住候テ。廻文ヲ遣候テ呼寄相談ス。雲伯兩國武畧ヲナシ。民百姓以下ニ至迄。鹿味方ニ引入。時節大友ト其筈ヲ取。毛利一門豐前在陣ノ節伯州ヘ取出。國々ノ者共ヲ引入仕。元就ゟ志賀野ニ置候。中原善兵衛ヲ討取。其外吉川。小早川。宍戸領分ニ置候者共。彼方此方ヘ討取。然ト云モ南條カ城ニ籠居候杉原盛重。又雲州月山ニ籠居ル天野隆重。何茂踈畧無武畧ノ者共ニテ。堅固ニ城ヲ抱。國中民百姓迄山中鹿之介ニ有心見付。少モ出ス手立ヲ見。左候テ以飛脚雲伯此如ニ候ト元就ヘ注進ス。此段山口高峯ヘ到來有。元就山口ノ隙明諸勢ヲ豐前ヘ可被渡ト思ヒ給フ所ニ。案ノ外ノ到來ニテ。豐前ノ取合ヲハ隆元ニ任セ。右ノ諸軍勢召連山口ヲ打立。夜ヲ日ニ續テ雲州上田郡ニ陣ヲ居給フ。山鹿モ雲州ヘ打出。山陣取テ對陣ス。然所豐前國隆元陣所ヘ。其御代ノ公方光源院殿ゟ元就大友和平ノ御扱トシテ。毛利家ヘハ聖護院殿。大友ヘハ久我家殿御下向。御諚意ノ旨大友カ分國防長兩國ノ義ハ。毛利元就切敷ノ地ニ候條。毛利分國タルヘキ者也。西海道九ケ國ノ內。豐前。筑前ノ義ハ不可存。大友只今

可爲持懸者也。諸侍此旨ニ相隨ヒ。國々堅固タルヘキト被仰出諚意ニ任セ。大友カ軍兵引退。元就。隆元。松山ニ籠置口羽道吉其外諸軍兵召連。長門國ヘ歸陣ス、左候テ。聖護院殿御供中宮嶋ヘ渡。聖護院殿御宿ハ座主隆元陣ハ大願寺ニテ在之、又元就雲州日郡ゟ聖護院殿ヘ。爲使者福原貞俊ヲ進上有、中上ケルハ、尤尊顔ヲ可拜本意ニ御座候得共、軍陣ノ仕合ニ候條。御免可蒙。畏テ忝旨隆元罷居候條、御請万々奉頼ト。如斯候而、宮嶋ニ廿日程御逗留候而。爲御馳走神前ニ而能抔被仰付、御會釋相調、聖護院殿御歸路（洛ﾏﾏ）被爲成候。夫ゟ隆元直ニ雲州ヘ登給フ。吉田郡山ノ麓ヲ御通候得共、無御立寄佐々郡ト中處迄御越候而、人數揃ノ爲ニ一兩日ノ中御歳四十一ニテ不慮ニ頓死被成候、各仰天是非ニ不及候。此由元就聞召、御膽氣不淺。乍去隆元吊ニアテ手切ノ合戰可有ト被仰、鹿之助陣所ヘ談合ノ子細有之、隆家、隆景。元春其外各召寄給フ。隆家被申ケルハ。加程見懸タル軍陣ニ。敵脇ニナシ御談合場ヘ參事隆家ニ於テハ不存寄候。是非一合戰可仕ト切懸、各是ヲ見テ。隆家ニ續テ惣陣切懸、鹿之助不相叶敗軍ス。鹿ハ無勢此方ハ多勢。追詰々々大形討果、然共鹿武畧ノ達者ニテ、因幡國迄逃行、左候而各日郡ヘ打納給フ。或時元就。隆景雑談ノ序ニ。隆景被申ケルハ。鹿ハ武畧ノ者ニ而候間。合戰行御談合可有ト被仰候處、今度モ隆家ノ例ノ荒調義ニテ、勝利ヲ被得、武運ノ冥加羨敷生付ニテ候ト被申ケル、元就聞召、尤左樣ニ候、武畧ヲ廻シ國家ヲ靡候事ハ、元就ニ不可叶候、打向タル陣當一戰ノ見切其行ニ於テハ、元就モ隆家ニ不可叶ト被仰、左候而、日郡ニ暫御逗留候テ。雲伯兩國民百姓等今度鹿ニ心ヲ合タル人間式ノ者共、在々處々ニテ悉討果、南

國事故無藝州吉岡へ打納給フ。貞有之候。元就一門中。其外家老ノ諸侍中。振舞可被仰付トテ。郡山へ被召寄。隆家。隆景。元春ハ裏方へ參上有。初日ノ振舞ノ御酒半ニ。元就被仰出ケルハ。元事一旦過タル義ニ候。幸隆元ニ男子一人有。元就餘命ナク候。然者隆家。隆景。元春。乍若年。元清元政其外家老是ヲ馳走有テ。毛利ノ惣領ニ取立へキ段可〻本望ト也。只今元就申ニ不能候ト被仰。各是ヲ承感涙シ。誰有テ物申者無之。然處ニ福原貞俊桂元澄申ケルハ。御一門ノ義ハ不能申。御家人以下ニ至迄。此條疎意ニ不可有御座ト被申ケル。連座ノ衆中モ一同ニ是ヲ感ケル。元就仰ケルハ。隆家乙姫ヲ隆元子息ニ緣邊ニ結度候。其契約有度ト被仰。無左候共。毛利ニ對シ宍戸疎略可有トハ。曾而以不存候。然共隆元無之候條。隆家。隆景。元春。彌隆家ハ。隆元可爲同然候ト宣。隆家承候テ仰之旨。畏テ忝存候。身ニ於テ隨分ニ存候。又緣邊ノ義ハ追而可承候ト被申。隆景。元春一同ニ被申ケルハ。緣邊之義元就只今被申出義。俄ノ事ニテ無御座候。內々加樣ノ折節可談可有ト各承候。隆家是非御用捨有間敷ト被申福原。桂ヲ先トメ。家老中面々尤目出度候ト被申。隆家兎角不能申。夫ゟ御盃ヲ改。御酒宴ニ成申。左候而。毛利ノ重代吉光ノ御脇指ヲ隆家ニ引給フ。子細ハ今度筑前國立花殿偏ニ其手柄ノ故。一門中其外軍兵堅固ニ罷退候。其褒美ニ別段無之候ト宣。隆家被申ケルハ。御重代ノ義ニ候條。拜領不存寄候ト。堅辭退有之。元就仰ケルハ。重代ニ對シ申捨尤候。乍去隆家裏方ハ元就嫡女也。乍女子惣領也。此方へト申テ。隆家ノ內方ヲ御座敷へ御呼候而。右御脇指ヲ元就御手ゟ隆家內方へ渡給フ。左候テ。隆家拜領ス。是ハ無其隱物語ニ候。左樣候而。中三

日ノ御振廻初日右ノ如ク。次兩日能被仰付。種々御遊覧被成。其後。隆元子息十五歳ノ時。聖護院殿御取立。公方光源院義輝公ヘ被仰上。毛利ノ屋形輝元ト號シ。左候而。元就本望ニ思召事不淺候。翌年ノ暮輝元十六歳。隆家息女十一歳ニテ。吉田郡山ヘ御嫁入ノ御祝言相調カクテ。世間豐ニ罷成。毛利分國ヲ堅固ニ相納テ後。元龜二年六月十四日元就七十八歳ニテ逝去ス。左候而。輝元毛利ノ家ヲ相續ス。カクテ五三年後。又山中鹿之助信長公ヘ罷出。尼子家ニ御座候。松虫ト云轡ヲ進物ニ仕。對面仕申上候ハ。毛利輝元ト御取合被成思召候ハヽ。何時茂鹿御先手被仰付可被下候。一分トメ難叶故哀御人數ヲ被向。後詰被仰付候ヘカシ。先年雲州伯州ヘ打出不相叶罷退候。今度毛利分國備中ゟ箭入仕度候ト申。信長聞召。幸ニ思召。羽柴筑前守殿ニ被仰付。猛勢ヲ引率鹿ニ後

詰ト被仰下。左候而。美作國高月ヘ打出。新城ヲ拵。右ノ晴久落子ヲ取立。尼子助四郎勝久ト名乘。彼城ニ籠置。彼方此方ト働ヲナシ。又毛利一門輝元其外數國ヲ引率。備中國ヘ打出。夫ゟ高月ノ城ヲ取卷。備前宇喜田輝元ニ一味メ馳走ス。羽柴筑前守殿ヘ。何ト御見切候ヤラン。程無御引退被成。左候而。鹿不相叶。助四郎勝久ヲ討。頸ヲ捧輝元ヘ降參ス。隆景才覺ニテ毛利ノ家人ニ召伏。備中國ヘ呼越。阿部ト云處ニテ天野隆重ニ被仰付討果給フ。隆景内川村新左衞門尉給討手太刀付。故ナク相濟申。角テ輝元一門中相具。藝州吉田ヘ打納給フ。其後播磨國三木ノ別所。毛利輝元ヘ馳走可申ト。藝州吉田ヘ使者ヲ立。馬太刀納相隨。攝津國荒木攝津守輝元ヘ馳走可申ト。右同然使者ヲ立。馬太刀納相隨。雜賀鈴木孫市。輝元ヘ馳走可申ト使者ヲ立。馬太刀納相隨。彌毛利弓箭ノ行廣ク

罷成。然共太閤樣御代ニ分國持懸ニ。惣メ毛利分國備中、備後、出雲、石見、伯耆。周防、長門。安藝都合八ヶ國ノ大守也、左候而、羽柴安藝中納言輝元ト號シ、廱中南ニ政處ヲナシ給、角テ安藝中納言關西卅三ヶ國ノ備大將。夫ゟ以來之義ハ。世間皆御淵底ノ前ニ候條。不能申述候間。書留終。

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

毛利記畢

續群書類從卷第六百四十三

合戰部七十三

太田水責記

一先歲伊都。那賀。名草。海士。此四郡ハ高野粉河根來寺ヘ令寺領。

一宮鄉十二ヶ村並太田鄉ハ地頭ナク。我持ノ所也。十二鄉ト云ハ。毛見。內原。小宅。田尻。坂田。神前。忌部。秋月。津秦。有家。黑田也。外ニ太田鄉也。

一雜賀宮南鄉ニ。三十六ヶ所。鹽濱三日月ノシバアリ。コノ二ヶ所ヲ雜賀ノ庄エ奪取ントシテ。南鄉岸ノ庄ト同心シテ敵對中ニツキ數度ノ合戰ニ大軍ヲ引受南鄉太田城ハ小勢ニテ根來法師ト相互語合。雙方トモニ敵ノ向方ニ狼烟ヲアケ。相圖定懸付相戰コト度々ニ及。然ニ信長公雜賀御政道被思召立候。其砌太田ヨリ書付ヲ以。今度雜賀御成敗之儀不及御出馬候。太田城ヘ御加勢被下候ハヽ早速攻落可申旨申上ケレハ。則織田左兵衛殿并軍大將ニ。佐久間甚九郎殿兩人被指向候。其上人馬共ニ如何程ニテモ可被遣トノ御朱印致頂戴候。其競ヲ以テ雜賀庄中津城ヘ早速押寄相戰。敵敗軍セシメ候。鈴木孫市

ハ信長公ヘ降參之由。依テ宮郷。雑賀。根來此三ヶ所一同ニ罷成候。

雑賀孫市トモアリ。和歌ノ養珠寺内山ノ北西ノ方ニアル山城跡ノ由。其下町アリシヲ和歌ヘ後ニ引去リ

信長公ヨリ右段々被下置候。御朱印五通太田源三大夫方ニアリ。

一本願寺御門跡。大坂諸滿城御在住之時。天正五年丁丑五月信長公諸滿之城御對陣可被成候旨。是ニ依テ御門跡ヨリ。右三ヶ所ヘ。先達テ大坂ヘ加勢致シ候樣ニト。御使者參候。其節太田城内ニ。方々ヨリ紛來ル住居ノ者共ノ内源太郎四郎左衞門。三郎次郎此三人ハ。殊ニ何方ノ者ヤラン。在所出所知ルモノナシ。

考ニ。此三人代々太田ノ者トミヘタリ。然共前方雑賀ヘ飜太田ヘ敵ヲナス故。行衞不知落行ヲ。以後ニ及源十郎好身ユヘ。源太郎ヲ呼返ス。源次郎好身ユヘ。四郎左衞門ヲ呼返ス。其内三郎次郎ハ好身ナキユヘ。太郎次郎ヲ賴儀ニテ。手形ナトシテ渡リ呼返タル風聞ナリ。此故ニ澤入城ノ時。此三人太田城ニナシ。

剩片一僻入タル浮屠ニテ有シ也此由緒ヲ以。當分ノ爲御祝儀三人ノ者共ニ。金子抔被下候テ。御請申。俄ニ太田城大將分。太田源次郎。三郎右衞門。左近源三大夫。三郎次郎。源五郎。(町ニアリ)源十郎。(同上)太郎次郎。(同上)善五郎。(名跡絶)眞福寺此者共大坂ヘ味方致候樣ニト。色々賴申セ共。右十人ノ者共申ハ。雑賀合戰ノ節。信長公ノ御同心ニテ悉責崩シ。太田城ノ遂本望。別テ御厚キ御恩難勝計。然上者此度之一味同心者不寄思僻事成トテ。早速太田城ヲ追放ケレハ。三人者共

無詮方。最寄之敵雜賀庄ヲ憑。一味同心シテ及一戰候處。攻落候。是ニヨツテ雜賀ヨリ南鄉。中鄉岸庄ヲ語合。大勢ニテ押寄。日數三十日之間戰ヘ共。太田落城不致候故。終曖々ニナリ。及和談候。

小牧原

武者語之本。尾州小牧原合戰者。天正十三乙酉年トアリ。然共澤入城落居者。明酉三月曖ノ神ノ狀アリ。

一天正十二甲申歲。家康公小牧御陣之時。御味方仕候樣ニト。井上主計頭殿字正就御使者ニテ被仰下候ニ付。根來宮之鄉。雜賀中鄉岸ノ庄。是等ノ地士共ノ方ヘ。太田ヨリ廻文ヲ遣。太田左近。同源次郎。同三郎右衛門。同三郎次郎。同源三大夫。同太郎二郎。同源五郎。同源十郎。同善五郎。眞福寺。黑田。吉田。村垣。堀內。戶口。植松。島村。島田。川村。山本。若林。藤田。是等ヲ始都合三十六人。根來者泉貳坊ヲ始五人。日前宮ヘ打寄一味シ。則太田ヨリ血判ノ書札相認。小牧原ヘノ飛脚トシテ。太田惣光寺住僧袈裟之中ヘ右廻文ヲ縫込。其僧修行者之體ニ仕立差上候處。無恙參着シ。御取次ヲ以家康公達台聞。甚以御機嫌之旨。左アラハ各相催。岸和田ヨリ京都迄討テ登リ。京都ニ控可罷在候。此方得勝利京都ヘ出向可申也。若シ軍ノ習ニテ不軍之由承候ヘ者。皆々覺悟之上山家入致候樣ニトノ御朱印被下置候。幷使之僧ニ者。爲御褒美朽葉色ノ御小袖一ツ被下。右御朱印ハ竹ノ節ヲ拔。其中ヘ入。杖ニ突テ歸リ。夫ヨリ右五組幷根來寺ヘ廻文ヲ遣。面々會合シテ御朱印頂戴シ。御朱印ヲハ泉貳坊ニ預置。日限究泉州ヘ令出陣。根來勢ハ堺ニ陣取。後ヨリ來ル五千ノ勢ヲ待居候。其節岸和田城

番中村孫平次一氏軍法ニテ、根來勢ヲ無恙堺迄導。後ニ繼五千ノ樣體ヲ見テ、城ヨリ切テ出散々ニ戰、雙方手負討死其數ヲ知ラス、此故ニ其日ハ五ニ退陣シ、後陣岸ノ庄ノ人數ヲ備責寄候處、先陣ハ引退、二陣雜賀勢ニテ受留入亂戰、味方大半被討、殘ル勢ハ葛城山ヘ落行候、然處宮太田勢ハ阿曾川ニ陣取居候ヲ、敵見付テ。我先ト追欠ケ。付込申ニヨツテ、暫時鑓ヲ合、味方引退處ヲ、太田左近、同源次郎、同三郎次郎、同善五郎四人引返シ、阿曾川ニテ究竟ノ武者三騎ヲ川中ヘ突倒首討取、敵少シ退候其競ヲ、以押寄岸和田迄追込、夫ヨリ殘ル味方ヘ渡シ。太田勢ハ中村城ヘ引コメ休息シケル、然處孫平治ヲ殘ル四千ノ者トシテ。岸和田ヲ攻落シケレハ。孫平治一氏四千ノ者大木山ヘ押寄巳刻ヨリ申刻迄攻戰。味方引退處ヲ、中村ノ城ヨリ太田勢見付、稠敷討テ出、其上堺ニアリシ根來勢聞付、急備ヲ直シ馳下。雙方入亂相戰。首數多斬捕、殘勢ハ追散シ、堺邊迄令放火、中村城ハ泉ノ一揆共ニ預置處、無程御兩所樣御和睦ノ由及承、各致歸陣候、其序ヲ以泉州千石ノ城ニ。根來法師籠城ス、澤ト佐野トニ城ヲ築、三十六人ノ者楯籠、此三ケ所ノ要害ヲ稠敷拵ヘ。弓矢鉄炮玉藥多込置。究竟ノ猛勢籠處ニ。明ル酉三月上旬秀吉公率大勢、泉州ヘ發向アリ、千石堀ヲ始攻給、所々ノ城落候得共、澤佐野者構宜猛勢ナレハ輙落ス。是ニヨツテ三月廿日杉原藤七嗳ニ入。同廿三日羽柴美濃守殿神文、書札被差越候、何モ太田ヘ籠居候ナリ

太閤記曰。秀吉公率十萬騎泉州表ヘ三ケ所攻口ヘノ手分ハ、千石堀ハ秀次。佐野ハ長岡兵部父子。佐和野ハ高山右近、中川藤

兵衛右八數ヲ以攻レトモ。佐和野ハ不落。然ニ筒井順慶。長谷川藤五郎。堀久太郎合テ一萬五千。三月廿日未明ニ根來ヲ差テ行ヲ千石堀ヨリ見付。鉄炮ノ者出合。横合ニテ首多打取。秀次ミタマヒ色々ニ御攻。其上順慶ヨリ火矢ヲアケ。長屋ヲヤキ立。終ニ千石堀ハ落城スト。云々。

小牧御陣ノ時。從權現樣被下候御朱印ハ。根來泉貳坊ニ賴置候處。根來落居ノ節。泉貳坊何方ヘカ落行行方知不申候。然ニ遙以後土佐國ニ於テ相果申候事及聞。其節右之御朱印土佐ノ國ノ者奪取所持致候。是ヲ紀州湊ノ住人能阿彌長左衛門ト申者。土州ヨリ御朱印貰參。御朱印ノ宛所三十六人之內。本人ヲ削。其身ヲ始入魂ノ者共書加。人數ヲ揃テ書直。安藤帶刀殿マテ僞テ差上。大納言樣可被達御聞ニ極候處。當國ノ地士三十六人之內。右子孫ノ者共太田左近。同源十郎。同三郎次郎。同太郎次郎。同源五郎。同源次郎。同眞福寺黒田ムラニテ。黒田喜內大夫。吉田ムラニテ吉田右衛門佐。同孫大夫。秋月ムラニテムラ垣九郎助。同與三次郎。同甚五郎。堀內與六。同左助。植松彥次郎。有家村ニテ戸口與三。同甚三郎。有家若右衛門。北神前ムラニテ島村掃部。中島村ニテ（此ハ宮ノ國造ヲ憑ユヘ書加ヘタルヨシ。萬人口傳。）島田新三郎。川村新三郎。野上。掃口ムラニテ山本熊之助。野上。龜野。川村ニテ若林萬助。坂井ムラニテ藤田六郎左衛門。同長藏都合二十六人。連判之訴狀ヲ以。寬永八辛未七月御奉行安藤忠兵衛殿ヘ段々申上候處。色々御吟味之上。能阿彌謀計ニ究申ヨシ。澤入城之節。秀長被遣候。彼之御神文ハ。紀州名草郡藥勝寺村波多氏方ニアリ。寫

誓紙前書

御出馬之上者、悉可被討果議定候得共。最前之筋目ヲ以、種々令懇望候間、命之儀申助候。然間聊以不可有表裏候。若僞有之者。日本國中大小神祇殊氏神八幡大菩薩。愛宕白山之可蒙御罰者也。依而如件。

天正十三年三月廿三日羽柴美濃守秀長判

澤入城衆中

太田城水責之事

一天正十三乙酉三月下旬。秀吉公紀州ヘ御出馬之時、根來ヲ始御攻被成候處、根來寺之者共泉州千石堀ニテ多討死シ、殘ル人數或老武者、或兒喝食ノコトナレハ、凱歌ニ驚迯方ヲ失ヒ。卽時ニ落城之由。秀吉公其競ヲ以。宮郷ハ太田城ヲ始。雜賀庄ハ小雜賀。中津城此二ケ所ヲ可被攻ニ定ル、太田城ハ東西二町半、南北二町、但シ廻リニハ大堀ヲ構、數度之軍ニ得勝利。無隱要害ヲ、彌堅固ニ拵。剩東西南北ヲ高築上方々ニ櫓ヲ上。惣長屋。堀廻ニハ宍木無透間打付。東ノ方巽ノ角ヨリ北ノ端マテ十町計也、其間ニ大堤ヲ俄ニ築立、逸物ノ射手。鉄炮、玉藥火繩ニ至迄澤山ニ込置、大將分ハ皆持口ヘ軍兵ヲ手分シテ堅固ニ守。其外方々ヨリ馳集ル勢、黑田喜内ヲ始メトシテ千餘人。雜兵兒女共ニ凡五千餘人ノ着到ニテ。大將分欠籠勢ニ申樣、此度籠城一世ノ大事也、去年小牧御陣ノ時、家康公ヘ御味方仕ル上、內談ノ其砌太田城ヨリ與。剩泉州ニテノ働左コソニクシト思給ヘルラメ、譬何國迄落行共可有御助成樣ナシ。此上ハ兎角城ヲ枕ニシテ一命ヲ捨ヘシト諫ケレハ、皆々尤ト得心シ。討死スヘキ覺悟ニテ。寄來ル敵ヲ待居ケル、是ニヨツテ秀吉公御本陣ハ。太田ヨリ八町餘北ノ方ニ構給ヒ。城ノ樣子ヲ見給ヒ。城ノ外廻リハ

少ツヽ間ヲ隔。諸大名如雲霞取廻シケリ。三月廿五日ニ。太田城ヘ御使トシテ鈴木孫市案内ニテ。中村孫平次一氏ヲ遣ル。秀吉公ヘ降參スヘキ旨上意御請申可然旨申。城ヨリ申上ル樣ニ。最前一度家康公ヘ御方仕タル上。今又秀吉公ヘ降參者思モ不寄仰也。早御馬ヲ向ラレ候ヘ。城中ニテ切腹可致旨申上。則御勢五十騎打取レハ。秀吉公彌御憤強。重テ上意ニハ。今忽踏潰一々ニ可刎首コト掌ヲ指カ如シ。併此城ハ急ニ攻テハ御方損スヘシ。只水責ニテ閤ヘシ。慰カテラニ見ムトテ。三月廿六日未明ヨリ城廻リヘハ柵ヲ結。悉莚ニテ圍。其外廻五十三町ノ堤ヲ俄ニツキテ。城之南北西ハ三町宛ノ間ヲヘタテ。東ハ音浦山ヨリツキ初。芳野川筋田井ノ瀬。大堤ノ根ニテツキ留。太田ヨリ三里東ナル岩手ヨリ宮小倉兩井ノ水ヲ仕掛。四月一日

ニ水入始。同二日三日ノ頃ハ水大ニ溜リ。然共城ニハ兼テ用意セシ横塘丈夫ニテ。水少モ不入。殊ニ人數不寄附。敵是ニタマリカネ。大勢舟ニ打乗押寄弓鉄炮ヲ打掛射掛攻レ共。城中堅固持コタヘシカハ。或砲落火。或猿火ヲ出シ禦ケリ。敵ノ船寄ツキ次第ニ舟底ヲ打拔沈モアリケリ。爰ニ城内ニマセント云シ尼ハ。凡二人ノ力有ル女ニテ。朱柄ノ鎗ヲ持。チウヤヲ不限カケ廻リ働コト類ナシ。敵ヨリ矢文ヲ以申ハ。城内井ノ内ヨリ水多吹ヘキ間兼テ用意スヘシ。其上秀吉公上意ニモ。急ニ曖ヲ入可然ト被仰出之由内通數度ニ及。城内彌勇テ。内通ノ如ク井ノ内ヨリ水湧上ル程ニ。綿タテヲ以テフサキ。其上ヘ土ヲ埋テ構。大將分ハヒルハ銘々役儀ヲ力メ。夜ハ四方ニ遠見百人宛ツケオキ。其身皆々酒宴シテ夜ヲ明ケル所。四月五日

ノ夜半計。寄手ヨリ尼崎吉兵衞ト云者船ニ乘。城ヘ忍入シヲ遠見ノ者見付。篝火ヲ出シ追返シケルカ。秀吉公聞給ヒ御機嫌アシク。明六日巳刻此尼崎ニ數百人ヲ引供シ。莊立タル大船ニ乘リ。日ニ立タル鎧ヲ着ナシテ。大音ニテ名乘ケルヲ。城ヨリ鉄炮ニテ討取ル。雜兵手負三十餘人討死五人。城ニハ手負三人討死一人モナシ。同七日ノ夜敵ヨリ小船ニ乘シ者一人竊ニ忍入タルヲ遠見ノ者見テ。角ト訴ケルニ。大將分ノ手使ニテ不知體ニテ城内ノ樣ヲ見セケリ。歸角ト申ケレハ。御曖可被成御評定ノ折節。四月九日酉刻城ノ北ノ方ナル備前衆ノ仕寄場五間程切レ。寄手多溺死ノヨシ。然共此處ヨリ水落テ北ノ方ナル御本陣白浪洋々ト流掛ケレハ。城中益悦アヘリ。狂歌一首。

　備前モノ其身ハ何トシラテトモ堤ヤ岩ヤ大切ソスル。大成杭ニ是ヲ書付テ。堤ノ切口ヨリ流シケル。蜂須賀彦右衞門殿守正勝。前野將右衞門殿ヨリ。神文ヲ以御曖可被成ヨシ。同廿二日右兩人起請文被越ニヨツテ。彌御請申上シニ。蜂須賀被申シハ。最前御勢五十一討タル代ニ。何者ニテモ五十一討テ可指出旨ニヨツテ。掛込勢ノ內。元來不知者ノ首五十一級討テ出シ。遂和談畢。

　此五十一ノ首塚者。吉田村ノ西裏北ニ一ケ所。南ニ二ケ所三角ニアリ。塚一ケ所ニ首十七ツヽ埋ル故。十七塚ト云也。

一秀吉公御朱印兩通。幷羽柴濃州秀長ニ御政法ノ書付二通。蜂須賀。前野兩人神文一通。起請文一通。以上六通。太田源三大夫方ニアリ。

一太田水責ノ堤惣廻五十四町。但築始ヨリ築留迄根置十六間ヨリ十二間迄。堤高サ三間

半ヨリ二間迄築立テ。人二十六萬九千二百人餘。于時天正十三丙歲也。

延享四卯四月十七日紀州於和歌山源春長書寫。

ヲノツカラノチノカタミトナラサカヤ
コノテニヒトノメハトメストモ

追加

故案之寫是ヨリ下ハ。集記ノ内ヨリ拔出シ寫也。

小奉書一枚ニ認アリ。

今度雜賀事可加成敗候處。可抽忠勤之旨。以誓紙申候段。被聞召屆候。然上者。無異義被赦免。分向後別而粉骨專一候。猶小雜賀向後在陣者共可申候也

三月十五日　信長公御朱印計在。

鈴木孫市トノヘ鈴木左近大夫末子平井谷ニ住居。栗村三郎大夫トノヘ此末未詳。島本左衞門大夫トノヘ此末孤島圓覺寺之由。宮本兵部大夫トノヘ此末少身ニテ奉仕。松田源三大夫トノヘ木ノ本ノ北ノ中村ニアリ。岡崎三郎大夫トノヘ此末百姓ニテ。岡崎ニアリ。土橋若大夫トノヘ此末町ニ居住ノモノモアリ。

至其國出馬刻可抽忠節旨尤候。就夫宮原殿身上ノ事。向後不可疎意候。然者知行方ノ儀。有田郡。日高郡。並南鄉之內大野庄野上山東鄉宛行之候。其方一身之面々モ。以此內可申付候。猶渡邊宮內少輔可申候。恐々謹言。

天正十二年正月廿七日　筑前守秀吉御墨印

白樫左衞門尉殿有田郡湯淺之城主

一紀州有田郡外屋城主者畠山刑部少輔景春。家臣者神保白樫玉置也。

一同廣城主畠山植長也。父尙順入道卜山。

天文二年巳年五月三好長基是ヲ攻。植長自害。又河州ヘ落トモ云。家臣額田甚三郎義正東ノ丸ニテ。大勢ヲ討切死。其所ヲ今ニ甚三郎カ壇ト云リ。石河八郎。池永知順モ討死。

一同廣郷ニ梶原雲哲ト云者有。景時末也。下野
ヨリ來ルト云リ。
一同所ニ津守ト云者有。歴々也。又喜多保大右
衛門ト云者アリ　湯川一味ニテ度々手柄ア
リ。天文ノ頃也
一同西廣ニ鳥羽掃部正信居。同湯淺城主白樫
彈正。日高郡小松原城主者湯河庄司忠長（法名
玉誉）。ヨリ中務大輔直春（法名光岸浄照）。迄十三代也。天
正十三酉年三月秀吉公ニ亡サル。有田郡清
水城主者　保田三郎以下六十三人謀叛シテ。
主友宗畠山秋高（河州高屋ノ城主。）ニ仕テ　河州ヘ越タ
ル時。河州ヲ落テ保田ニ歸。城ヲ乘取　戸上
源左衛門　安井勘解由　杉谷ノ保田掃部等。
友宗カ母妻子ヲ連テ退失ス。此時湯川直春
曖ヲ以友宗ト。一揆和睦ス。サレトモ友宗意
趣不解シテ　天正十一年四月十日。保田。堀
口ヲ始六十三人ヲ誅。其子孫等高野法師ヲ
語ヒテ。同六月七日高野ヲ立。保田之内堤（先イ）カ
城主保田掃部ヲ攻落シ。清水ノ城ヲ攻　片田
次郎三郎。神保式部モ友宗ニ與力シテ籠城
ス。爰ニ湯川ヲ大將ニテ國士一萬騎。白樫先
陣ステニ後攻スト雖。寄手强シテ城ノ水ノ
手押ヘ留ラレ落城セントス。同十五日七ヒ
シト云所ニテ。湯川軍ニ負テ退後。後陣ニ
池永小次郎清貞。石川津守　額田縫殿　同池
永五郎左衛門清信　弟二人三千餘騎ニテ戰
追崩シ　湯川以下返シ合戰シ。城ヨリモ出
テ追崩シ。寄手終退散ス　此故ニ兩方手負死
人千餘ト云々。湯川二男二郎ヲ友宗カ養子
トス。友宗ハ柴田勝家ニ一味シテ。柳瀨ニ
テ打死　湯川次郎ハ秀吉公紀州攻ノ時　吉野
ヘ落行シト云々。名草郡大野城畠山修理大
夫ナリ。此所ニ稻生。田島　坂本　尾崎ナト云
者アリ。十番頭末也。牟婁郡眞砂ト云フ所二

ケ所アリ。庄司ハ口ノ眞砂ニ居住ス。奥三郡トハ志摩國之二郡ト。室郡ト也。昔志摩ハ紀州ノ内ト云。和歌山城ハ桑山法印三萬石築之。此城秀吉公繩張ト云。日高郡入山ニ青木勘兵衛居。田邊城杉若越後守三萬石。後ニ幸長之臣淺野右衛門佐（三萬石。）雜賀城主ハ鈴木左大夫ナリ。信長公落之。鈴木ハ粉河ニテ切腹。藤堂與右衛門高虎（後和泉守。）智謀ニテ如此ト云。雜賀鈴木孫市七萬石程。知行ハ和歌山養珠寺山ノ北尾崎ニ城跡アリ。東ノ方ハ士町。西ノ方ノ北矢ノ宮ノ前南北六七町ハ町屋也ト云。落城後此町和歌山へ引シト云（今和歌山ニ雜賀町ト云ハ是ヨリ始ル乎。）雜賀踊ハ彼城攻ノ時城ノ囃ト云。寄手大閤之兵共太刀刀ヲ持。勇掛體ト云々。粉河城主藤堂高虎二萬石也。（秀吉公ノ弟秀長ノ臣也。）昔小松重盛子維盛熊野浦ニテ入水ノ由ニテ。底ヲ潜リ助カリ。熊野ニ住。子孫于今アリ。有

田郡宮原城主畠山義就尙順ノ次男也。其子ヲ宮原ト號。廣ノ植長沒後又畠山ト號。宮井善助。宮本次郎兵衛。同清右衛門。同九右衛門則。岡野兵衛。伊藤十三郎（ナト云者。皆畠）山被官也。中西ト云者モ此被官ト云。新宮城主ハ堀内房州也。（六萬石秀吉公ノ士也。）新宮ヨリ五里下有馬ト云所ニ。有馬ト云士アリ。家斷絶ノ事アッテ堀内ヨリ續ト云。日高郡和佐村ニ玉置庄司住。（一萬五六千石程。）同東村ニ山路住。（秀吉公紀州攻ノトキ。宮代山ニテ伊藤甲斐守ヲ討。千二三百石程。）同寒川村ニ寒川住。（千石ホト。）有田郡辻堂村貴志住。（五千石ホト。）昔三十六人國士ト云ハ。小山（小山ニテ）高。河原。色川（色川ニテ）安宅（安宅ニテ）周參見（周參見ニテ）小山。横矢。近露。周貝（秋津ニテ）愛次。同上林。（ハヤ）芳養。脇田。同上野邊（南部ニテ）岩代（岩代ニテ）古田。龍神。日高。湊。同上高垣。同上津守（有田ニ上）白樫。神保。同上宮崎。同上池永。同上崎山。同上芋瀬（山路ニテ）山路。（山路ニテ）寒川。（所ノ名）阿瀬川。同上芝。同上眞砂。同上津

田、那賀佐武名草。奥、那賀神野、那賀神野ノ庄ノ主鈴木賀茂。海士土橋、雑賀等ナリ。其外戸ノ原田、林、御前。苑光、田口、森、吉田、原、前山。笠畑、橋爪。巽、打越。井口、江原、木村、亀有、本西、村江。河西、大河内、林、出島、鳴神。別所、葛和。西田、多喜曾。和田村、榎本。猪谷。長谷川、吉村、蛭川。恩地。野上。堀江。吉見。竹、濱口、田所、金谷。神前。家永、的場。平野。岡世、古中、北村、中尾、平井。栗、室井、津村等モ士筋也。有馬庄七ケ郷ノ主有馬和泉守ニ男子無ク、同名河内守ハ被官ナレ𪜈一門タル故家ヲ讓リ、其身ハ木ノ本ニ隱居シケル。後ニ木ノ本ニテ男子出生ス。コレモ彼内三人河内守ニ不足アリテ。内々木ノ本へ行テ申ケルハ、家中一人モ河州殿ニ思ツク者ナク候。早御潰ナクハ、御家絕可申ト云ケルヲ押寄。河内守ニ腹切セケル。殘被官之者共何トテ主ヲ討シソトテ。三人ヲ押籠ケレハ泉州殿ノ御意ナリト申、家中一同ニ申ハ、一度有馬ノ家ヲ讓リ乍。今又後腹ノ男子出生シタレハトテ、如此ノ御行跡コソ言語ニ絕タリ。昔ヨリ主ハ泉州殿ト云ナカラ。當主ハ河州殿ナリ。サラハ泉州殿ヲモ討ヤトテ、遊本へ取懸リケレハ。遊本某一戰モセテ降參ス。曾根三木抔モ手ニ入ケリ。尾鷲山ヤキ山ト云難所ニ扣、其上尾鷲六人ノ者共コタヘケル　此時堀内安房守有馬ト一ツニ成テ。尾鷲へ取懸　數度ノイクサニ討死ノ士モ多カリケリ。終ニ尾鷲方討負テ。勢州濱島へ立退。頓テ降參シケリ、扨那智ノ瀧ノ坊ニテ。高川原色川ヲ堀内ヨリ攻、從北山スシヲハ堀内家老黑田大和カ謀ニテ　是モ堀内ニ從ヒケル　後ニ有馬家ヲモ押領シケルカ。石田三成ニ與シテ家斷絕シケルナリ。

若州湯川彦右衛門覺書

湯川家老四天王

湊　高垣　津村　林

以上四人

湯川ノ名字ハ湯川一門ナラテハ名乘不申候。

一湯川ノ先祖ハ古昔甲斐國武田ノ次男ナリ。武田ノ家ニ三人ノ子アリ。嫡子ト次男湯川トハ本腹ノ一腹一生ナリ。三男ハ後腹ノ子ナリ。嫡子次男タメニハ繼母ナリ。然ルニ昔ハ國々ノ守護ヨリ。禁中ヘ三年ツヽノ王番ノ勤ニ。都ニ三年ツヽ相詰候。武田ノ家ノ當番ノトキ。嫡子武田太郎病氣ニテ上洛仕ルコト不成。其代番ニ次男可登トコロニ。三男ノ母繼母タル故。我カ子ヲ世ニ可立タメニ次男ヲ指置。我カ子ノ三男ヲ嫡子ノ代番ニ登セ勤サセ候ニ付。禁中ヨリ其御褒美ニ三男ニ若狹ノ國ヲ被下候。若狹ノ武田ノ由來是ナリ。次男ハ代番ニ不登ヲ不足ニシテ。甲州ヲ立退。紀伊ノ國熊野ノ内湯川ト申所ニ城ヲ搆ヘ居住ス。湯川ノ先祖是也。本來武田ノ家ノ次男也。家ノ紋ハワリヒシ也。ソレヨリ湯川末々ノ代ニ。紀伊國ノ口部ヘ押出。日高郡小松原ト云所ニ居城ス。紀伊國ハ七郡ニテ三十七萬石ノ所ナリ。高野ノ領分ハ此外ナリ。右七郡ノ内有田郡。日高郡。牟婁ノ郡三郡ニ湯川領分有リテ。紀伊國ノ旗頭ナリ。直春代ニハ家康様トモ弓箭契約仕リ。家康様ヨリ馬ヲ湯川ニ被下候ヘハ。直春ヨリ鷹ヲ進上仕タル由聞傳ヘ候。湯川モ太閤紀ノ國ヘ發向ノ時迄ハ相續ナリ。

一湯川何レノ時カ禁中ヨリ湯川ヲ副將軍ニ成給ヒ候。

一禁中ヨリ湯川ニ被下物同ク御許被成候。

一節頭（セツトウ）三社託宣ノ旗有リ。幅八寸ニ長サ一尺カ三寸モアリ。是旗ナリ。昔ヨリ湯川丹波所ニ三社託宣ノ旗有之候ト申。此旗ニテモ候哉。一傘袋。是ハ位ノ持セル傘袋ナリ。一毛氈ノ鞍覆。此鞍ヲ、ヒハ猩々皮ナリ。一十幅一丈ノ母衣。是ハヤノ八尺有之由。則禁中樣御直筆ニテ。熊野三十番神ト母衣ノ前書ヲ被遊候。是ハ絹十端縫合テ。高サ一丈ノ母衣ナリ。此母衣ヲハ我母方ノ先祖。平井ノ家ヘ禁中ヨリ被下候。一赤地之錦之直衣。一蜻蜓之太刀。此外ニモ拜領物有之。

右禁中樣何ノ王代ノ御治世之時カ。禁中樣ヨリ湯川ニ被下置候、右之内十幅一丈ノ母衣ハ、我等ノ先祖平井ノ家ヘ禁中樣ヨリヲクリアソハサレ候テ被下候、平井ハ湯川ノ代々家ノ子ニテ候。正月式諸ノ三五ノ弓始ノ時モ、湯川前弓ヲ射候ヘハ、平井ハ後弓ヲ射申候、先年大坂陣ニテ。此母衣絹ヲ我等母方ノ祖父平井治部左衛門持傳、箱ニ入。天井ニ上ケ。注連ヲハリ置候カ、祖父治部左衛門先年大坂一亂ノ時。大坂ヘ籠中候時、大坂ヘ持參候哉、又大坂冬春兩陣トモニ。紀伊國兩度トモニ國中一揆發リ亂國仕候。其砌何トシテ紛失仕候哉、我等幼少ノ時分ニ候ヘハ。其タヽチ聢トハ覺不申候。又我等母方ノ祖母ハ。紀伊國ノ玉置等ナリ、又父方ノ祖母ハ河内國藤林等也。

一赤地ノ錦ノ直衣ト旗ハ。湯川相領ナレハ。松平安藝守殿ニ居申候。湯川。丹波子共持傳候、此十二三年以前寛文之年號之初比ニ。當上樣被爲成御聞及。安藝守殿ヘ被仰付、丹波子共所ニ御座候。赤地ノ錦ノ直衣ヲ御上覽被成候由、江戸ヨリ我等一家ノ者ヨリ。此アト其砌ニ申來候、慥成ル實正ハ聢ト不存、

一阿波ノ三好都ニテ權威ヲ振ルトキ。湯川直春親父直光三好ヲ爲可責落。紀伊國ヲ催シ。和泉河内ヲ手ニ入、河内國久保寺マテ責上

リ。湯川家中紀伊國勢ヲハ先手ヲ押セ。和泉河内ノ勢ヲハ旗本ニ引付登リ候時。和泉河内ノ者共。旗本ニテ逆心仕リ。直光其河内ノ久保寺ニテ討死仕候。湯川家中紀伊國勢取テ返シ。逆心ノ奴原追拂追討ニ致シ候ヘ共。主ノ討死仕ル故。湯川家中紀伊國勢久保寺ヨリ紀州ヘ引皈シ候。直光相領直春アトヲ繼。紀伊國本領ニ居申候。亦直春弟ハ紀伊國有田郡ノ内石カキト云所ノ。トヤカチヤウト云山ニ城有テ。紀伊國之屋形ニテ候。臣下ニハ神保イヌマト申テ兩殿有リ。又一度畠山ノ紀伊國ノ屋形持被申候由。就夫湯川ノ系圖江戸御旗本ニ御座候。畠山民部殿ニモ可有之候。畠山殿ト湯川トハ古ヘハ由緒有之候様ニ聞及候。右ノ神保ハ今程江戸ニ御座候。神保左京殿ノ先祖ニテ可有之。左京殿ノ御親父ヲハ長三郎殿ト申候。先年大坂陣ノ時仙臺ノ正宗カ味方討ヲ仕リ。長三郎殿討死ニテ候。右ノ筋目有之故。湯川家中ニ居申タル者。長三郎殿ヘ付キ參候。大坂ヘ立チ長三郎殿討死ノ時。一所ニテ皆討死仕候。其子共神保左京殿ニ居申候。

一先年太閤紀伊國ヘ發向ノ時。紀伊國ノ地侍太閤ヘ一味シ。湯川計太閤ヘ不從敵對ス。有田郡ノ内ニハ白樫太閤方ヲ仕候ニ付。湯川直春所ヨリ組頭十七騎ニ。組ノ侍相添遣。白樫居城ヲ追崩。追討ニ仕候。扨玉置專光院ハ。湯川聟ニテ。日高郡ノ内和佐ト云所ノ。坂ノ瀬ト申所ニ居城有リ。又本城ハ和佐ノ奥別所谷ト云所ニ。手取ト云山城有リ。玉置モ太閤方仕リ候。紀伊國中太閤ヘ一味仕リ。湯川敵ニ仕候ニ付。湯川モ日高郡小松原ノ城ヲ明ケ。直春モ熊野ノ奥。三バント云所ヘ立退候。其懸足ニ玉置居城ノ坂ノ瀬ヘ取リ

カケ。玉置ヲ追崩。別所ノ本城ヘ追上ケ。湯川ハ熊野ノ奥三バント云所ヘ取籠候。湯川坂ノ瀬ヘ押寄候時。我等親作平十六歳ニテ。兩度鎗ヲ合。兩度共ニ手柄成ル高名シ。直春悦申由。扨太閤ノ人數日高郡ノ内下早(シモハヤ)ト云所ヘ。舟ヲ着上リ申候。湯川居城小松原ヨリ下早ヘハ。道六里餘リ行リ。是モ湯川領分ニテ。下早ニハ林左京進ト申者ヲ常ニ指置候。太閤方ヨリハ青木民部少輔。仙石權兵衛其外ノ大名分ヲ衆舟ニテ下早ヘ上リ候時。湯川三バンヨリ押寄合戰仕候。太閤方ニ松浦喜八郎ト申者ト。湯川家來ニ池田帶刀ト云者ト鎗ヲ合セ。其後鎗ヲ捨テ組討ニ成申候。喜八郎ハ大男。帶刀ハ小男ニテ喜八郎ニ組フセラレ。頭ヲトラレ候處ヲ。我等母方ノ祖父平井治部左衛門掛合セ。喜八郎ヲ引タヲシ。喜八郎頭ヲ取テ帶刀ニヤリ候ヘハ。帶刀ハヽヤ其内ニ右ノカイナヲ討ヲトサレ。其外手負申候ニ付。帶刀申樣ハ。我ハ此手ニテ相果申候。彌々直春ヲ取立テ給リ候ヘト申候。其時帶刀者一人モツキ候テ居不申候ニ付。治部左衛門肩ニ懸。少シ立退候ヘハ。帶刀モ相果候。帶刀裝束具足モ甲モ鞍モ鎗モ皆朱ニ仕候。扨直春モ其砌無程病氣ニテ相果被申候。太閤紀伊國ヘ御入候テ。以後直春子湯川太郎五郎幼少ニテ居申候ヲ。太閤ヨリ被召出。知行三千五百石被下候。太郎五郎後ニ湯川丹波守ト申候。太閤ノ弟大和大納言殿ヘ御付ケ被成候。又玉置專光院子玉置百松ニモ知行三千五百石被下。同ク大納言殿ヘ御付ケ被成。百松ヲ後ニ玉置小平太ト申候。其後權現樣ヨリ尾張大納言樣ヘ御付ケ被成。尾張ニ居被申候。是ハ上樣御朱印衆ニテ。上樣御代替リニハ。御世繼ノ上

様ヨリ又御朱印ヲ取替被申候。又今ノ小平太ニハ。大納言様ヨリ尾張様ノ北ノ丸様ノ御妹子ヲ、大納言様ヨリ御仕付被成候。扨湯川丹波事ハ。先年關原ノ刻。西方石田治部少方ヲ仕候ニ付。世間流浪仕リ。後淺野但馬守殿ヘ牢人分ニテ罷出候。其子共松平安藝守殿ニ居申候。

一我等母方ノ祖父平井治部左衛門ハ。大男ニテ候。高名ノ場數譽ノ義ハ。紀伊國ニテハ其ノカクレ大形無之候。先年大坂ヘ年七十ニ及ヒ籠申候。感狀計モ十七持テ大坂ヘ參候。其外ノ高名ハ何程モ有之候。大坂ニテ秀頼ヨリ騎馬三十騎ノ組頭被仰付。冬春兩陣共ニ眞田左衛門佐手ニクハヽリ。五月七日天王寺ニテ治部左衛門ハ討死仕ル。同治部左衛門二番目ノ子久作モ同シ手ニテ討死ス。

一湯川正春ハ古ヘカクレナキ歌道者連歌師ニテ候。人ニモ知レタル連歌師ハ。正春事ヲ知ラヌ者ハ無之候。又連歌ノ宗匠宗祇ハ。紀伊國橘谷ト云在所者ニテ候。宗祇ニハ氏モナキ者ニテ候。宗祇花下ニナリ申候ニ氏無之候ヘハ。宗祇花下ニナリ申事成リ不申候ニ付。湯川ノ家ノ名ヲカリ候テ。宗祇花下ニナリ申候故。其時ノ連歌一順。

發句（此發句連歌師ノ分ニ知ラヌハ無之候）

アラヌ名ヲカルヤ山彦郭公　宗祇

脇

タヽ卯ノ花ハ嶺ノ白雪　正春

第三ハ宗長仕候カ。其句失念仕候。此懷紙ノ內宗祇十二、宗長十一。正春九カ十一カ仕候。此時ノ懷紙紀州ニテ我等所ニ有之候ヲ。我等十四五之時分其ワケヲモ不存候テ。懷紙ヲ中ヨリ二ツニ立切。字頭上ニ成申樣ニ仕。コシバリニ仕置候ヘハ。大和ノ奈良ニ居

申候連歌仕候者ニ。松江九兵衛ト申者參見申候テ。腰ハリノ懷紙ヲ家ノ威光ニテ候ト申ニ付。コシバリヲマクリ候テ。カケスヾリニ入置申候カ。若狹ヨリ母共引越ニ。紀州へ人ヲ遣シ申候時。其カケスズリヲハ。母兄弟共ニソレクルミワケモ知ラスヤリ申候。モハヤ捨可申ト存候テ。其後ハ取ニモ遣シ不申候。

右湯川彦右衛門覺書。以所載諸家系圖纂本一校。

以宮内省圖書寮本校合畢

又云。此記。誤入于經濟雜誌社刊續群書類從百十三卷。系圖部。當削彼存此者也。

合戰部七十四

三好記序

歳紀綿邈。居今識古。其載籍乎。劉氏之言眞有以也。玆阿城府下有一士。福長氏齋老。以醫遯乎鄽也。資性雅亂。家恒澹泊。據仁遊藝。其辨懸河。其論突梯。實非塵中人也。一日偶爾敲關乍話。因袖出一帙云。頃年間暇之餘。憶先君之偉勳。繹庶士之雄功。裒成三好記。是偏依長谷川貞恒公之請也。陋聞寡識何充大觀。然纔記厥大梗。以備遺忘。或獲一事於故老之口碑。或獲一句於民間之私記。且我祖父及嚴父。苟事其家。面覿其興廢隆降之所由來也。故平日對客說是事。余在側聞其一二。遂爲是舉。斯書雖以三好名焉。亦稍出細川。爲昭晰其源委也。想夫疇曩刑部大輔賴春。爲四國管領職。弈業相繼握政布教。三好爲之家臣。於乎斯人傑烈勇剛。終弑其君。漸奪其權。時乎命乎。其勢如水方至。竟掌天下。敷政邦畿。噫雖抱逆行。

其勢浩然風偃萬庶。凡三十餘載大矣。實休之雄略其後土州之侵奪墻內之禍機。將侈士弛又歸天下於他。治亂榮衰凡幾變歟。盍記以遺後世焉耳願假考閱以辨亥豕拆臧否。作檃括下雌黃若有可採。則措一辭於卷首。則幸莫大焉。余方外之人。奚關斯責。然難拒人之誠。遂覽一周。實三十年間興廢存亡。瞭然在目。崑崙之玄珠懸圃之良玉豈他求乎。先所謂居今識古者非是書乎。夫辭以上意爲能義以爲繩爲鵠汝雖以倭言作文其意傚古矣記事也實。伸義也正。苟使昔時之賢將勇士。不墜其名於地下彰著千載之後其功豈小補歟。

于時寛文壬寅孟冬上澣

桃溪山人稿

清和天皇ヨリ拾三代

義季　細川元祖

俊氏（トシウジ）　細川八郎號ス

公頼（タヽ）　細川八太郎號ス

和氏（カズ）　細川阿波守。法名補絶寺殿號ス。

頼春　細川刑部大輔讃岐守。尊氏ヨリ四國ノ大將軍ニ被ニ居置一觀應三年閏二月廿日ニ。洛陽四條大宮ニテ討死。天龍寺ノ長老夢窓國師ノ導師ニテ。法名光勝院殿前紫號。道號實淵ト號ス阿波ノ國萩原ノ麓ニ葬ル。

師氏（モロ）　淡路守號ス

氏春　兵部少輔號ス

滿春　淡路守號ス

頼之（ユキ）　細川右馬頭也。天下ノ管領職ニ令レ居。御幼稚ノ若君ヲ可シト奉レ輔佐一評議同趣ニ定ム。從四位下武藏守ニ補任シテ。執事職ヲ司ル。明德三年三月二日ニ卒ス。永泰院殿號ス。法名常久。道號桂岩。

頼有　右馬頭勝妙院殿號ス。法名梵榮。道號春林。

頼顯

頼元　細川三郎。右京大夫。從四位下。應永四年五月七日ニ卒ス。妙觀院號ス。

滿元　細川五郎。從四位右京大夫。應永廿三年十月十六日卒ス。岩栖院號ス法名道觀。道號悦道。

清氏（キヨ）　細川相摸守。於ニ讃岐國白山一爲ニ細川右馬頭カ一討死。

昌氏　細川阿波守八嶋

頼知　細川左近大輔

頼利　細川左馬助

將氏　細川兵部大輔

家氏　細川大輔將監

詮春（アキ） 細川讃岐守。左近將監。法名法性寺殿號ス。頼春ヨリ初リ。詮春ヨリ次第ニ阿波ノ國ノ細川ノ家是也。

勝元 細川六郎。從四位右京大夫。文明五年五月十一日卒ス。龍安寺殿。法名宗寶。道號仁榮。

政元 細川右京大夫。武藏守。永正四年六月廿三日卒ス。太心院殿。法名宗興。道號雲閑。

高國 享祿四年六月八日卒ス。三友院殿。法名常桓。道號松岳。

稙國 大永五年十月廿三日卒ス。清源院殿號ス。法名了然。道號宗廓。

澄元 細川右京大輔。永正十七年六月十日ニ卒ス。眞乘院殿號。

晴元 永祿六年三月朔日卒ス。龍昇院號ス。法名一清。道號心月。

滿之 細川阿波守。從五位下。兵部少輔。法名心鐘院。道號道春。

基之 細川兵部少輔

頼重 細川阿波守

義之 細川讃岐守。永正十七年六月十日ニ卒ス。寶光院殿號ス。行年卅二。

滿久 讃岐守。子息八人有

持元 細川五郎。右馬助。永享元年七月十四日卒ス。性智院殿。法名道秀。道號玉峯。

持清 細川左馬頭

政國 右馬頭養子

持之 細川右京大夫。嘉吉二年八月四日ニ卒ス。弘源院殿。法名常喜。道號春峦號ス。

持常
細川讚岐守。法名桂林院殿號。勝浦郡中田村ニ菩提寺有。桂林寺。

成之（シゲユキ）
細川讚岐守。法名慈雲（ジウン）院殿號。勝浦郡ノ内本庄村ニ寺アリ。瑞麟山丈六寺號ス。本尊丈六尺ノ釋迦ノ像也。

教祐
細川兵部少輔

政之（マサユキ）
讚岐守細川兵部少輔。法名永源（元イ）院號ス。

義春（ヨシハル）
法名久昌院殿號ス

之持
細川讚岐守。法名最勝院殿號ス。

持隆
細川讚岐守。天文廿一壬子年八月十九日。爲ニ家臣三好豐前守義賢カ一坂東郡勝瑞村於ニ見性寺一而自害。法名德雲院殿。嶽麟大居士號ス。丈六寺ニ葬ル。

眞之（サネユキ）
天正十一年十月八日ニ。仁宇山ノ茨カ岡ニテ爲ニ逆徒ノ一自害ス。法名住叟。常英大居士號ス。

三好家ノ本名ハ。小笠原成シカ共。阿波國三好郡ヲ知行セシ故在名ヲ名乘。

●●●元祖

之長（ユキナガ）
假名三好筑前守也。先年北國勢京都ヘ責上シ時。京都ニテ自害ス。法名見性寺殿。喜雲道悅大居士。

元長　假名三好筑前守也。先年和泉國合戰ノ時。無レ利シテ堺ノ顯本寺ニテ天文二癸巳年自害シ。腸ヲツカンテ天井ニ打付死ス。法名南宗寺殿。海雲善室大居士ト號ス甲刁ノ年。大坂大亂ニ堺炎上ノ顯本寺炎上ス。

長慶(トシ)　假名三好修理大夫。永祿ノ年中ニ病死。

義賢　假名三好豐前守也。泉州久米田ニテ。永祿三年三月五日ニ討死。法名龍音寺殿。以徹實休大居士。

冬康　假名安宅攝津守。

一存(カツマサ)　假名十河(ソカウ)左衞門正(ケ)。後ニ十河讃岐守ト云。則十河ニ在城ス。鬼十河ト云レタルハ此人也。耳ノ後ロマテ髮ヲ拔テ額ヲ作ㇳ。此人時ハヤル。法名清光院殿。春月宗圓禪定門號ス。

女　有持道慶妻

女　一宮長門守妻

女　大西出雲守妻

女　海部宗壽妻

義詰　假名三好左京大夫。永祿ノ末ニ病死。

長治(ナカハル)　假名三好彦次郎。阿波國別宮ノ浦ニテ自害。行年廿五。法名長治寺殿。慶翁宗昌大居士。

存保（マサヤス） 假名十河孫六郎也。豐後國ニテ。天正十四年十二月十二日ニ討死。法名眞光院殿義賢。實存禪定門號ス。行年卅三。

女 河内國遊佐妻。野口万五郎母也。

三好記上卷目録

一。細川讃岐守殿自害之事

昔日清和天皇ヨリ。拾六代ノ後胤ニ細川刑部大輔頼春ト云者アリ。彼武勇ノ聞ヘ隱ナカリケレハ。天下ノ征夷大將軍正二位大納言源ノ尊氏卿ヨリ四國ノ大將軍ニ被居置テ。民ヲ撫國家ヲ治ム。又帝都ニ兵亂出來ケレハ。是ニ出陣シテ英傑ノ働ヲナシ。其名ヲ天下ニ殘シ。觀應三年閏二月廿日ニ洛陽四條ノ大宮ニテ討死ス。則天龍寺ノ長老夢窓國師ノ導師ニテ。法名光勝院殿祐繁實測ト號シ。阿波之國坂東郡萩原ノ麓ニ葬ル。其系圖ヲ續來テ。天文ノ比ヲヒ細川讃岐守持隆ト云人アリ。同郡勝瑞ニ在城也。是則阿波ノ屋形ト號ス。其家臣ニ三好筑前守元長入道海雲ト云者アリ。彼男子四人アリ。嫡子ハ三好修理大夫長慶。二男ハ三好豊前守義賢。三男ハ安宅攝津守冬康。四男ハ十河左衛門正一存也。爰ニ坂東郡住吉ノ明

神ハ。隱ナキ大社ナレハ。父祖ノ計ヒトシテ。豐前守幼稚ノ昔ヨリ。住吉ノ神主ニ備ヘタリシカ共。豐前守是ヲ事トセズシテ。神職ヲハ當家ノ祈願所ノ上人ニ令ニ取行一。我身ハ朝暮ニ唯武勇ノ嗜ノ外他事ナシ。好ミノ故ニヤヨリケン。早業ハ江都カ勁捷ニモ越タレハ。七尺ノ屏風高シトセズ。打物ハ子房カ兵法ヲ得。一巻ノ秘書クラシトセズ。謀樣樣武威ニ誇。上ヲ輕ンスル事言ノ葉ニ過タリ。讃岐守彼ヲ惱ヤト思ヒ給ヘ共。サスカ老從ノ好ミヲ以テ。自ラ心ヲ宥ラレケル。雖レ然豐前守カ心指驕奢放逸ノ甚ヲナス事。世ノ人ノ譏リ口ヲ頻メ哢アヘル事天ニ響ケリ。然ハ讃岐守瞋恚ノ怒ヲ不レ治。已ニ豐前守義賢ニ恨ヲ報ズヘキ心出來サセ給ヒ。竊ニ國ノ奉行人。四宮與吉兵衛ヲ召テ密々ニ事ノ子細ヲ語リ給ヘハ。與吉兵衛主君ノ憤至極スル處ヲ承。首ヲ垂テ詞ヲ絶ス。讃岐守宣ケルハ。左アラハ相撲ヲ見物セサセント謀テ。豐前守ヲ呼寄候ヘ。與吉兵衛畏テ御前ヲハ罷立。豐前守ノ宿所ニ至リ。主君ノ怒リ事ヲ委細ニ隱ス所ナク有ノ儘ニ語リケレハ。豐前守少モ不レ驚。今朝ヨリ不レ例罷有候條。今日ノ出仕御免被レ成候ヘト申上。事遲滯シテハ惡カリナント思ヒ。日比ヨリ念比ニ申合スル上郡ノ侍共ノ方ヘ。竊ニ淺井日根之丞ト云侍ヲ以テ被ニ申遣一ケルハ。主君ヨリ急キ手遣被レ御事候條早ク勝瑞表ヘ人數ヲ被レ寄候得ト。刻付ノ廻文ヲ遣ハス。讃岐守ハカヤウノ事可レ有トハ思寄不レ給。勝瑞ノ北ナル龍音寺ヘ御慰ニ御出アリ。御供小勢ニシテ御茶ナド初ル處ニ。豐前義賢ヲ大將ニテ。諸軍勢詰來リ。龍音寺ノメグリヲ人數三千餘騎ニテ取卷。鮫浪ヲアグル讃岐守驚給ヒ。御馬廻百餘人ニテ馳出給ヒケレ共敵ハ多勢味方ハ無勢ナレハ難レ叶。先見性寺ヘ

御入有テ。加勢ノ體ヲ見玉ヘ共。何方ヨリモ御身方中來ル武士モナシ。無レ力天文廿一壬子ノ年八月十九日ニ自害有テ。法名德雲院ト號ス。御供ノ侍僅ニ星相右衛門。蓮池淸助二人バカリ。死後マテモ主從ノ道ヲソ勤ケル。吁天ノナス業カ。運命ノ盡時カト云ナガラ。哀成シ事共ナリ。昨日マテハ德雲院ナジミノ分國成シカトモ。淵ハ瀨トナル世ノ習ニヤ。今日ハ引カヱテ。阿波。讃岐。伊豫。淡路。和泉。河內。攝津。大和。山城。伊賀。近江。備中。十二箇國豐前守ノ分國ト成テ。三好家ヨリ自然ニ執二天下ノ權柄一。勢ヒ漸ク欲レ覆二四海ニ。然共主君ヲ弑スル事天命ノ恐ヲ重ンジ給ヘルニヤ。豐前守廿七歲ニシテ自髮ヲ落。以徹實休居士ト改名シ。勝瑞ニ在城シテ。諸國ヲ守護ス。舍兄修理大夫長慶洛陽ニ在城シテ。天下ノ沙汰ヲ取行ヒ。神社佛閣ヲ思ヒ。天道ヲ鎮ミ御座。長慶十七歲ノ時ヨリ。種種ノ法義ヲ執行シ。求聞持ヲ修。樣樣神慮ヲ尊ミ給事世世ノ人ニ勝タリ。サレハ佛神三寶ノ加護シ給ニヤ有ケン。爰カシコニ發向シ。不レ得二勝利一ト云事ナク。趣處不レ順ト云事ナシ。少年ノ昔ヨリ。壯年ノ今ニ至ルマテ。聖賢ノ迹ヲ蹈テ。文武ノ道ヲ心ニハケマシ。上ハ天子ヲ奉レ初。萬機百司ノ政怠ナケレハ。下ハ諸民德ニ歸シテ。百姓農ノ時ヲ不レ違。五畝ノ宅ニ居ヲ安ンメ。頒白ノ者道路ニ不二負戴一。萬世末代マデモ樂ミヲナスバカリ也。

二。細川掃部頭殿阿波之屋形居中事

倩世間ヲ感ジテ。安危ノ來由ヲ見ルニ。天ノ德ヲ重ンスル則ハ。得二君子ノ位一。而保二國家一。從二其性一則ハ臣下ノ禮儀ヲ備フ。若ソレ其德カクル時ハ。雖レ有レ位不レ久。爰ニ細川讃岐守入道德雲院。不思儀ノ志ヲ含ミ給ヒテ。自ラ生害シ給ヒシ事。偏ニ天ノ禦ヲ受給フ成ヘシ。雖レ然其御

子息ヲ取立テ奉テ。阿波ノ屋形ニ可レ奉レ居ト
テ。其家臣三好豊前守入道實休ヨリ。諸侍各江
相談セラレケレバ。何モ尤ト領掌メ。則德雲
院ノ御子息掃部頭殿ヲ阿波ノ國ノ屋形トソ奉
レ申ケル。然共神ハ禰宜ガ習ハシトヤランニ
テ。家臣豊前入道實休カ心ニ從ヒ給ヒ。明シ暮
サセ給フコソ。淺猿カリシ事共也。

三。四宮與吉兵衛主君二心有事付取ニ加
増レ事并被レ誅事

四宮與吉兵衛ハ。日比主從ノ結ビヲナシ。厚恩
ヲ蒙リ。水魚ノ思ヒヲナシ奉シ細川讃岐守入
道德雲院ノ志ヲ忘。野心ヲ含ミ。傍輩ニ忠節ヲ
ナス事。偏ニ恩ヲハ讎ニテ報ズルト云事。カヤ
ウノ事ニテモ有ンヅラント。人毎ニツブヤク
事コソ恐シケレ。豊前守入道實休ノタメニハ。
是則天ノアタフル處ナリト思ヒ給ケレハ。數
百丁ノ加増ヲ與ヘ給フ。與吉兵衛カ一類是ヲ
悦フ事云量ナク。酒肴集テ遊宴ヲナス事日比
ニ勝タリ。大甲曰顧ニ諟天之明命一ト云リ。十目
所レ視。十手所レ指ヲタガエス。翌ノ年如何ナル
人カ呼ケン。俄ニ實休ノ心替ツテ被レ思ケル
ハ。年比頼ヲカケ。妻子ヲ養ヒ惠ミヲ請。志ヲ
一ツニセシ主君ノ恩愛ヲ捨シ者ニ扶持シ置ン
事。偏ニ天ノ命ヲ輕ンズル處也。一ツハ亡君ノ
恨ヲ報ゼンタメ。急ギ彼者ヲ失ハバヤト思給
ヒ。竊ニ用ノ事有トテ。與吉兵衛ヲ呼給ヒケレ
ハ。何心モナク與吉兵衛出仕シタリケル處ヲ
藤崎甚五郎ト云早者承テ討ヨリ早ク。首ハ前
ニゾ落ケル。天罰ヲ請タル者ハ。飼置タル犬
羊ヲ討ニ不レ異。淺猿カリシ有樣也。近キ親類
ナジミノ者。牢人他國ヲスルモアリ。遠キユカ
リ縁者ノ末何トヤラン空恐ク。天ニ背クヾマ
リ。地ニ抜足スルコソヲカシケレ。

四。三好豊前守入道實休大形殿ト戯令レ

爲レ妾事

細川讃岐守入道德雲院ヲハ。家臣三好豐前守入道實休云甲斐ナク奉レ討ヌ。北ノ方ハ周防ノ大内之助ノ息女ナリシガ。最愛ノ妻ノ別ヲ悲ミ給ヒ。歎キノ席敷妙ノ枕ノ下ノ淵瀬ニモ沈果ナハ。諸共ニ三途ノ浪ノ底マテモ深キ契セシト思切給ヘ共。サスカ女ノ怯サ。心弱クゾ暮シ給ヒケル。起臥御傍ニ仕ヘケル小少將ト申若上ロウハ。岡本美作守娘ナリ。容顏世ニ勝ケレハ。德雲院折節ノ便リニ心ヲ通ハサセ給ヒシ程ニ。公達一人出來サセ給ヒ。御寵愛不レ淺處ニ。思ノ外ニ德雲院ハ家臣實休ガ爲ニ墓無成給ヒヌレハ。甲斐ナキ世トハ云ナカラ。皆入道實休ニ從ヒケル。其後實休ヨリ小少將ノ局ヘ往サ來サノ言ノ葉ノ。色ニ亂ル、思ヒノ露。ワリナキ心ニ引レテ。昇レハ降ル稻舟ノ。否ニハ非ズト思ヘル氣色ニ成ヌレバ。心ノ下紐打解テ。小夜ノ枕ヲ川嶋ノ。水ノ流モ淺カラヌ。盟ノ中ト成。互ニ偕老同穴ノ思ヒヲナシ。飛鳥ノ翼ヲ比ブルシタシミヲナシ。公達二人。女子一人ゾ出來ケル。嫡子ハ千代松丸。烏帽子名ハ彥次郎殿。名乘ハ長治。二男ハ孫六郎殿。名乘ハ存保ト申。ソレヨリ小少將ノ局モ大形殿トゾ申ケル。人ノウヤマイ日日也。

五。細川讃岐守殿之北方故鄕江歸給事

爰ニ周防ノ大内助ノ息女ハ。日比添馴給シ妻細川讃岐守云甲斐ナク。家臣三好豐前守義賢ガ爲ニ墓無成給ヒヌレハ。悲ニ堪侘サセ給ヒ。明暮晴セヌ泪ノ雨袖モ鹽ル、草々ノ野面モ凝虫ノ音ハ。ナレモ思ヒヤ有明ノ。月影クラキ胸ノ火ニ。コガレテ身ヲバ浮舟ノ。ヨルベモ知ラヌ起臥ノ。床モ寂鴛鴦ノ。衾ノ下ノ思寢ノ。憂ヲハサラニ遣方モ。ナキ世ニ殘ル跡ナガラ。余所ノ哀モ身ニ添テ。何ト鳴門ノ沖津浪。立居ニ

付テ忘ラレヌ面影見セヨ鏡山曇ラデ西ヘ入月ノ伴ヒ行カバ我モ又。玉ノ臺ノ蓮葉ニ。同ジ生ヲナサバヤト願フバカリノ心ニテ。

末ノ露本ノ雫ヤ世ノ間ノ後レ先立習モゾウキ。ト詠ゼサセ給ヒ。迚モ見果ヌ夢ノ世ヲ。化ニハナドカ暮サマシトテ。思ユイ切テ西ニナゲ。死メ別サセ給シ細川讃岐守入道徳雲院ト。一ツ蓮ノ臺ニモ生會ハヤヲ心ノ奥ヲ樂シミテ。幼少ノ昔住馴サセ給シ故郷ニ立歸ラセ給ヒ。貴キ菴室ヲ結ビ後世菩提ヲ行ヒ濟シテゾ御座シケル。

六。一宮長門守方江久米安藝守夜討入事

細川讃岐守入道徳雲院ハ家臣爲ニ三好豐前守入道實休自害シ果給タレハ。新ニ本參ニ至マテ。武士共鼻ヒサゲテ。頭ヲ上ル者モナク。皆入道實休ニ寄歸シタリ。爰ニ徳雲院舊功ノ家臣。芝原ニ在宿メ。久米安藝守義廣ト云者アリ。日比實休ハ聟也。縁者ノ間成シカ共。情ナク主君ヲ討果シヽ遺恨忘カタク。渠儂ト共ニ日月ノ光ヲ戴ク事。人ノ羞ムル處ヲ思ケレハ。兼テ心ニ隔ナキ傍輩中。佐野丹波守。野田内藏助。仁木日向守。小倉左助。是等ト竊ニ相談メ。主君ノ恨ヲ報ゼント思成トテ。何モ心ヲ一ツニシテ云堅メケルコソタノモシケレ。小倉左助勝瑞ニ行テ。實休ノ圍ヲ見ルニ。若侍僅ニ廿餘人肥フクレタル奉行頭人共次居タリ。臺所ニモ人夫アラシコ共數十人有。トテモ物ノ用ニハ不立。實休カ命ヲ取事。掌ノ内ニ思ヒ歸テ。有體ニ語リケレハ。壁ニ耳アリ。風ノ物云時代ナレハ。如何ナル者カ知ラセケン。徳雲院ユカリノ侍共。或ハ數代ノ恩愛ヲ不忘者。或ハ縁類ノシタシキヲ遁レ難ク。思ニ引レテ爰彼ヨリ五騎十騎。或ハ廿騎卅騎馳加テ。其日ノ暮程。二千餘騎芝原ニ着ク。實休ノ方ニモ。

馬廻ノ侍共。其外寄騎ノ者用害キビシク堅メ。俄ノ事ナレハ。山外ノ町人ニモ鐵ヲ堅メサセ。都合二千餘騎ニテ待懸タリ。芝原ト勝瑞ノ間。一里バカリノ事ナレハ。互ノ善惡ヲ告來ル者共。櫛ノ齒ヲ引ガ如シ。一宮長門守ハ實休ノ妹聟ナレハ。先軍ノ手初ニ。渠儀ヲ討取妻子ヲ生取テ人質トシテ。實休ヲ責ンニ何子細可レ有ト評定シテ。夜ニ紛レ。一宮長門守方ヘ夜討ニソ入ケル。長門守ハ常ニ下屋敷ニ用害密クシテ居タリケレ共。敵大軍ヲ以テ門戶ヲ打破テ亂入ル、長門守カ老從ニ。木村肥前守。兼テ屋敷ノ案內ヲ知タル事ナレハ。裏ヨリ走入テ長門守ヲ伴ヒ。ヌケ道ヨリ落ケル處ニ。早敵大勢亂入テ。長門守カ妻女ヲ敵ノ方ニ引供シタリ。懸合テ討ントスレハ。敵ハ大勢ナリ。味方ハ小勢ナレハ不レ叶腹カキ切テ死ンヨリ。外ノ事アラジト口惜カリシ事共也。

七。久米亂之事付子息龜壽丸播州赤松ガ舘落事

久米安藝守義廣ハ。實休方人質ヲ取タリケレハ。先我陣所ヘソ引退キケル。入道實休是ヲ聞テ安カラヌ事ニ思ヒ。急キ淡路ヘ人數ヲ呼ニ遣シケル。淡路ヨリ野口肥前守ヲ大將トメ。千餘騎時刻ヲ不レ移渡海シケリ。阿波國上郡ヘモ早馬ヲ立。人數ヲ催シケレハ。日ノ中ニ馳集ル都合其勢二千餘騎ニテ。中富表マテ打出ス。久米方ニモ人數ヲ揃ヘ。黑田表マテ打出。兩陣川ヲ隔テヒカヘタリ。久米方小勢成ト見テ。實休方ノ兵時ノ聲ヲ上テ突懸ル。久米方小勢ナリトイヘ共。佐野丹波守。(當)野田內藏助。仁木日向守。小倉左助。彼等ハ一人頭千ノ者共也。思切タル兵共ナレバ。ナジカハ可レ忍。獅子ノ齒嚙ニ面モ不レ振。二千餘騎ノ者共。四角八方ヘ切テ廻ル。實休方多勢也トイヘ共。過半被レ討手

負タリ。久米方ハ無勢ナルウヘ。半ハ被レ討。半ハ手負太刀折タリ。沖主君ノタメニ命ヲ失ント思切タル兵共ナレハ。一足モ不レ引責戰。爰ニ久米方ノ侍。野田内藏助ト云勇力ノ兵進出テ申ケルハ。我累年恩愛ノ主君ヲ不レ忘ニ因テ。唯今一命ヲ奉レ報也。志アル兵達。陣中ニ御座バ。出合給へ。四手三途迄モ伴申ント。呼ケル。實休方ニモ淡路ノ國ノ住人。野口肥前守則守ト云勇力ノ兵ス丶ミ出テ申ケルハ。野田殿ノ儀。日比承及テ候。我等小兵ニハ候得共。太刀ノ金ヲ御覽候ヘト云テ。太刀眞甲ニ指カザシ。互ニ二打三打ハ打チカヘシガ。鎧ノ袖ヲヒツチガヘ。ムズトクミ合。上成下成二返シ三返シセシ處ニ。三好方ノ侍奥野新左衞門ト云者走寄テ。野田内藏助ヲ討ト思テ打シガ。クミ合タル野口肥前守カ。右ノカイナヲゾ打落シケル。互ニ類ナキ勇力ノ兵ナレハ。供ニ指チガエテ死ス。久米安藝守義廣ガ類シ勇士一族共皆討死シテ。枕ヲ雙ベ臥タリケレハ。防矢射ケル兵共是ヲ見テ。今ハ何ヲカ可レ期トテ。敵ト引組テ差違ルモアリ。或ハ己ガ役所ニ火ヲ懸テ猛火ノ中へ走入テ死スルモアリ。目モ當テラレヌ有樣也。安藝守義廣ハ。紺糸威ノ鎧ヲ着。桑形打タル甲ノ緒ヲ縮メ。太刀ヲハキ。大長太刀ヲ脇ニ挾デ。大音揚テ名乘ケルハ。敵陣ニハ定テ名モ聞ツラン。今近付寄テ我ヲ見シレ。細川ノ家ニ生長テ。年久シキ久米安藝守義廣ト云者爰ニアリ。主君ノ爲ニ唯今一命ヲ失也。我ト思ハン侍。陣中ニアラバ。我ガ首ヲ取テ勳功ニ預レト呼ツテ。二百騎計扣ヘタル敵ノ中ヘ些モ擬議セズ走リ懸ル。其勢ヒ事柄勇鋭タルノミナラズ。兼テ聞ヘシ兵ナレハ。誰カハ是ヲ可レ遮止。二百餘騎ノ軍勢共。東西ヘ颯ト引退テ。中ヲ開テソ通シケル。義廣敵ノ善惡ヲ不レ嫌

思儘ニ切臥。今ハ悪念ヲ不レ殘トテ。少小高キ所ニ馳上リ。腹十文字ニカキ切。冥途黄泉ノ軍旅ニゾ趣ケル。サレハ唐土ニ千里ヲカクル虎ハ。一毛ヲ惜テ。吹來風ヲ含テ其身ヲカヘテ死ス。日本ノ弓取ハ其名ヲ惜ミテ。一命ヲ輕ンズト云事是ナルヘシ。一人モ不レ殘被討死。久米子息龜壽丸。未幼稚ニテ乳房ヲ含タレハ。乳母抱隱レ出デ。生ヒ茂リタル麻畠ニ隱居テ。忍テ播磨ノ國赤松カ舘ヘゾ落行ケル。赤松ハ德雲院妹聟也。久米安藝守ハ德雲院舊功ノ侍ナレハ。タノモシクゾ聞ヘケル。

八　淡州御石崎權現之事

淡州由良ノ湊ノ西御石崎。近年海上物騷シク。潮ノ光渡事。夕陽ノ沈メルガ如ク。海底ノ鳴事百千ノ車ヲ轟スガ如シ。漸モスレハ往來ノ舟ニ風波ノ惱ヲナシ。破損スル事其數ヲ不レ知。浦ノ漁夫共是ヲクルシム事云量ナシ。其來由ヲ尋ヌルニ。先年阿波ノ屋形細川殿御代ニ。弓箭數多調サセ給ンタメ。大舘主膳正有光ト云侍ヲ和泉ノ堺ヘ遣シ給處ニ。有光思ノ儘ニ兵器ヲ調。急ギ船ニ乘テ順風ニ帆ヲアゲ。泉州谷川表ヲ被レ吹下ル處ニ。和泉ノ谷輪ノシテ六万卷ノ陀羅尼ヲ誦シ。亡シ侍共ヲ權現ニ祝ヒ給テヨリ。今ニ至ルマテ此海靜マリ。往來ノ舟ニ障ナキトゾ聞ヘシ。

九。和泉久米田陣之事付實休夢想幷討死
幷笠岡外記遁世事

泉州岸ノ和田ノ城ニハ。淡州ノ軍勢二千餘騎ヲ指添。實休ノ舍弟安宅攝津守冬康。十河左衞門正一存ヲ大將トメ。三好刑部少輔。三好左右馬亮。岩成主稅頭。早淵頼母亮各相加ヘ被レ置ケル處ニ。紀伊ノ國廣ノ浦ニ。畠山高政世ヲ假初ノ住居ニテ御座シカ。熊野根來ノ侍法師共ヲ驅催シ。二万餘騎ニテ責來ル由。日々ニ告來

ル。入道實休驚キ給ヒ。後巻ノタメ急キ出陣セラレケル。先堺ノ津ニテ人數ヲ揃ヘ。阿波。讃岐。伊豫ノ軍勢都合一万餘騎相添。篠原右京ノ進ヲ大將ニテ。岸ノ和田ノ城ヘソ籠ラレケル。五畿内ノ軍勢。都合二万餘騎ヲハ。實休ノ本陣ニ置。久米田ニ在陣セラル。紀州ノ軍勢ハ敵ノ多勢ヲ見テ。岸ノ和田ノ上ノ山陰ニ引替。兩陣互ニ時日ヲ歴ル處ニ。有夜實休不思議ノ瑞夢ヲ被見ケル。所ハ南樓ノ大床ト思シキ所成シガ。昔日北國ノ大軍帝都ヲ責上リシ時。主君奉公ノタメニ戰ヒ。自害シ果給ヒタル祖父三好筑前守之長入道喜雲。西向ニ座セラレタリ。并和泉國先年ノ軍ニ不得利シテ。主君忠節ノ爲ニ堺ノ顯本寺ニテ腹ヲ切。腸ヲツカンデ天井ニ打付果給ヒタル父筑前守元長入道海雲。同列座セラレタリ。次第ニ老從各次居テ。昔今ノ物語ヲナス事。現共ナク夢共ツカヌ處ニ。一首ノ哥ヲ吟ジタリ。

草カラス霜又今日ノ日ニ消テ因果ハ爰ニメクリ來ニケリ

ト吟スルト見テ夢覺ヌ。明レハ實休ヨリ。舍弟安宅攝津守冬康。哥道ニ心得タル人ナルニヨリ。夢想ヲ委細ニ被云遣ケレハ。冬康歌ヲ讀直サレケル。

因果トハ遙車ノ輪ノ外ニメグルモ遠キ三芳野ノ原

ト讀直シ。實休ヘ被返ケル。去程ニ畠山ノ軍勢無勢ナルヲ見テ。篠原京之進ノ手勢ス丶ミテ懸ルヲ見テ。本陣ノ五畿内勢モ同音ニ合セテ突テ懸ル。實休ノ旗本ニハ。篠原左吉兵衞一宮長門守。西條壹岐守。三木ノ道恩入道。西條遠江守。嫡子次郎左衞門。隅田源左衞門尉。同孫五郎。安藤源五左衞門入道。同彌三郎入道。是等ヲ初トシテ。都合二千餘騎ニハ不過

闌ミ居タル處ニ。何處ヨリカ來共不レ知。流矢一ツ來テ。實体ノ胸板ニ篦深ニ立。大事ノ手ナレハ受モタメズ。生年卅五歲ニシテ永祿三年三月五日ニ果給ヒケリ。是ヨリ敵味方入亂テ戰トイヘ共。大將果給ヒヌレハ。味方ノ軍勢力ヲ失テ。思々ニ堺ヲサシテ落行ケル。道道降人共出合。太刀物具剝取ントスル處ヲ。返合返合。打モアリ。被レ討モアリ。或出家遁世者ノ姿ト成テ。一日ノ命ノ惜サニ。心モ染ヌ墨ノ袖。破タル衣ヲ身ニマトイ。後生ノ道ヲ勸メ顏スル風情淺猿カリシアリサマナリ。爰ニ義賢ノ家來ニ藤內六ト云下部アリ。渠儂ガ妻ハ義賢ノ臺所ニテ。朝暮ノ飯ヲ下々ニ配分スルヲゴト云女也。兼テヨリ藤內六ト夫婦ノ中也ケルカ。猿彌沙ト云子ヲ一人持ケル。藤內六常々人ニ憐ミ思ハレケル者ナリケルガ。猿彌沙カ齡漸二八ハカリニ成ケル時。義賢ノ御前近キ人々ノ申成ニヤ寄ケン。義賢ヨリ猿彌沙ヲ御仕有ベキ由ニテ。少ノ扶持ヲゾ給リケル。猿彌沙御前ヘ被レ召出。座席ノ末ヲ立行跡ケルヲ。義賢公見給フニ。藤內六ニ兼テ下シ給ヘル當義ヨリハ。殊ニ增テ猿彌沙カ衣類以下ニ至ルマテ。キレイヲ盡シ見ヘケレハ。義賢被レ思ケルニ。臺所ニテ。諸人ノ喉ヲ縮テ。己ガ子ノ身ヲ潤スト推量有テ。猿彌沙ガ名ヲカヘ。笠野結惣九郎トゾ改メ呼給ヒケル。惣九郎奉公ノ道ニケダイナカリケル程ニ。次第ニ主君ノ御前近ク成テ加增ヲ給リ。身躰三百貫ニ成。名ヲ笠岡外記ト替リ。彌々子ニ臥寅ニ起テゾ仕ヘケル。去ニ因テ宇トキ傍輩是ヲ恨ミソネム事。上邊ハミヤビヤカナレドモ嗔嗤ハ妬マシクコソ聞エケレ。年月ヲ歷ル程ニ。泉州久米田ニ義賢出陣シ給ケルニ召連ラレ。思ノ外ニ首一二討取。名モ人ニ知ラルベカリケルニ。主君義賢討

死シ給ケレハ。今ハ何ヲカ期スヘキナレハ。是ノ世ヲ厭ヘキ菩提ノ種トナシ。甚ユイ切テ西ニナゲ。昨日マテモ今日迄モ。力ヲ副シ梓弓。今ハ早引カヘテ。彼岸ニ至ルヘキ御法ノ船ノ竿トナシ。九品ノ蓮臺ニ生ヲナサン。後ノ世ヲ心ノ奥ノ樂ミニ。鎧ノ袖ヲヌギカヘテ。麻ノ衣ヲ墨ニ染。高野山ニ引籠リ。眞如平等ノ松風ハ。八葉ノ峯ヲ吹渡リ法性隨緣ノ月影ハ。八ノ谷ニ不レ曇シテ。三會ノ曉ヲ待如クナルカト心ヲ澄シ。往生院ノ奥ノ洞ニ。柴折圍フ菴室ニテ。明暮念佛三昧ノ定ニ入テゾ行ヒケル。

十。三好修理大夫病死事 附子息 左京大夫死去三年隱事

同永祿ノ末ニ。修理大夫長慶不レ例御座ケレハ。醫師數ヲ盡シテ參リ集リ。倉公華佗カ術ヲ盡シ。君臣佐使ノ藥ヲ施シ奉レドモ更ニ無レ驗。陰陽ノ頭有驗ノ高僧集テ。不動。慈救。延命ノ法。種種懇祈ヲ致セ共。病日日ニ隨テ重ク成。時ヲ添テ賴スクナク見ヘ給ヒシカハ。近習ノ從者泪ヲ押ヘテ。日夜寢食ヲ忘タリ。懸リシ程ニ身體次第ニ衰テ。遂ニ死去シ給ヒケリ。サラヌ別ノ悲サハ去事ナガラ。國家ノ柱石摧ケヌレバ。歎キ悲ム事無レ限。扨可レ有事ナラヌハ。禪林寺ノ長老ヲ請ジ。空ク暮天ノ煙トナシ申ケリ。懸ル憂世ハ。遣方モ泪ナガラニ明暮ヌ。長慶死去ノ後。其長男三好左京大夫義詰相續テ政ヲ正。德ヲ窮。民ヲ撫デ。威萬人ノ上ニ被トイヘ共。仁恩ヲ施シ己ヲ責テ禮義ヲ正ス。然處ニ程ナク左京大夫義詰假初ナガラニ病ヲ受給ヒ。身心トコシナヘニ惱亂シ。巫覡祈レドモ無レ驗、醫師治スレドモ不レ瘥。元龜二年七月終ニ無レ墓成給ヒケリ。相從武士共泪袂ニ濺リ。爲方ヲ失フ事。タトヘハ五更ニ灯消テ破窓ノ雨ニ向ヒ。中流ニ船ヲ失テ一瓢ノ浪ニ漂フ

ランモ角ヤト覺ヘテ。此事余所ニ聞ヘナハ。敵ニ氣ヲエラレツベシト。偷ニ葬禮ヲ致テ隱シ。悲ミノ呑レ聲。泪袂ニツヽミ。松長彈正相談シテ。各其所ヲ守ル。先住國阿波ノ勝瑞ノ城ヲハ長治公守護シ給フ。三好遠江守。同越後守。同壹岐守。矢野駿河守。川村左馬亮。有持德次郎。久次米信濃守。同伊賀守。竹内若狹守。山田陸大輔。大岡强之丞。犬伏左近。木津ノ城ニハ篠原肥前守。大谷保﨑ノ城ニハ。馬詰駿河守。川端村ノ城ニハ。川嶋越前守。坂西ノ城ニハ赤澤信濃守。切畠ノ城ニハ森飛驒守。伊澤越前守。脇ノ城ニハ武田上野之亮。岩倉ノ城ニハ三好德太郎。重清ノ城ニハ重清豐後守。白地ノ城ニハ大西出雲守。足代ノ城ニハ三好備前守。金丸ノ城ニハ阿佐紀伊守。山口ノ城ニハ篠原三河守。三谷ノ城ニハ鹽田左馬丞。穴吹ノ城ニハ細川掃部頭。上野ノ城ニハ北條越前守。川田ニハ戸井兵部大輔。上櫻ノ城ニハ篠原彈正。一宮ノ城ニハ一宮長門守。今切ノ城ニハ篠原玄蕃正。寺嶋ニハ福長佐渡守。渭山ヲハ森飛驒守預リトメ。番手ヲ置。各其所ヲ守護ス。仁宇山ニハ伊豆守正廣。富岡ノ城ニハ新開遠江守。桑野ニハ河內守康明。日和佐ニハ和泉守友高。油岐ニハ隱岐守有興。木岐ニハ大膳大夫正持。淺川ニハ兵庫正有辰。海部ニハ左近將監友光。各其所ヲ守護ス。讃岐ニハ十河ノ城ニ十河讃岐守一存。井上ノ城ニハ齋藤市兵衛尉三直居住ス。瀧宮豐後守氏康。安富右衛門尉辰氏名ヲ顯ス。侍各其所ヲ守ル。洛陽二條ノ城ニハ。三好左衛門尉。三好日向守。同釣閑齋。淀ノ城ニハ岩成主稅頭。大坂ニハ篠原大和守。野田ニハ三好新右衛門尉。同爲三。東條紀伊守。芥川ニハ篠原市之助。奈良但馬守各其所ヲ守護シ。左アラヌ躰ニハ有ナカラ。臨ニ深淵ニテ薄氷ヲフム心

地ノ。世ノ景氣ヲゾ見ラレケル。

三好記上卷終

續群書類從卷第六百四十四中

合戰部四十四

三好記中卷目錄

一。三好宗三攝津國童子山之城退出之事

攝州有馬ノ湯ノ谷ノ西童子山ニ城ヲ構ヘ。三好宗三五百餘騎ニテ籠居。丹波。播磨。近國ノ便宜ヲ伺トコロニ。播州三木ノ別所。豐後守童子山江押寄。是ヲ責ベキ由評定有テ。酒數邊酌流ス處ニ。家來ノ三宅肥前守。生年十三歳ノ時酌ヲ取居テ。是ヲ聞。吾宿所ニ歸リ。竊ニ郎等ニ語ケルハ。此曉有馬ノ童子山ヘ。主君豐後守發向可レ有由也。多勢ノ不レ出先ニ可二打立一。其用意セヨトテ。則鷄鳴ヨリ打立チ。山ノ尾崎或峭ヲ傳イ。明石ノ浦ヲ馬手ニ見津之國路ニカヽリ。有馬山ノ後ナル上唐櫃下唐櫃ノ間ノ谷ヲ分入。紘打ノ鼻ヲ弓手ニ昇。猿返リ火打石ノ峠ニ打上。童子山ヲ見渡シ。時ノ聲ヲアグレハ。後陣ノ多勢モ打寄タリ。敵味方互ニ矢合ノ鉄炮軍ヲメ時ヲ移シタリ。深山路ノ嶮所ナル岩ノ廉劒ノサキヲ立タルヤウナル所ナレハ。馳合セテ勝負ヲ決スヘキニモ非ス。徒ニ日ヲ歴ル處ニ。岩根凝積居雲ノ。尾上モ谷モ不レ見分。暮行空ニ降雨ハ。瀧津流ノ音添テ。物騷シキ松ノ風。明ルモ遲シト待居テ。大將宗三ノ從弟ニ秋月五郎左衞門尉光秋ト云大兵ノ射手。三人張ニ拾三束三伏矢ノ根ハ。劒ノヤウニ磨タルヲ横タヘ。敵陣ニ向テ高聲ニ申ケルハ。唯今爰元罷向テ候ハ。物ノ數ニハ候ハヌ共。御陣ニ我ト思召候ハン兵達御座候ハ。請テ御覽候ヘト云モ果ヌニ。弓ト矢ヲ打ツカイ。ヨツ引テ丙ト放ツ。敵陣ニコサカシク進ム兵二人射ルヨリ早ク倒レタリ。敵陣忍兼テ。我不レ劣ト鉄炮ヲ打事。雨ノ降カ如シ。敵味方挑ミ合テ打合ケレトモ。互ニ雌雄ヲ忠知モナシ。宗三智謀ノ深キ大將ナレハ。多勢ニ無勢戰テモ詮ナシ。知慮ヲツカラカサンヨリ。先此陣ヒケトテ。夜ニ入テ。卯木谷ヨリ尾傳シテ。津ノ國路ヲ歷テ。先

ツ河内ノ邊ヘソ被レ引ケル。

二。大和國筒井喜藏討死之事

大和國筒井喜藏ト云者、弓取テノ名將。其智謀ノ深キ事世ニ隱モナカリケルガ。隣國ノ兵ヲ驅催メ一万餘騎ノ勢ヲ率シ。大將ノ便宜ヲ伺テ打テ出。河内ノ國木之本ニ陣ヲ取テゾ扣ヘタリ。喜藏度々ノ合戰ニ打勝ケレハ。四國。中國。畿内ノ敵恐ニ不レ足ト欺キ。墓々敷堀モ不レ堀。森林ノ茂リヲ形取。敵ノ體タラクヲ見居タリ。同國高屋ノ城ニハ。三好山城守ヲ大將トメ。三好入道宗三。同右衛門大輔。同民部少輔。其外名ヲ得シ侍一万餘騎籠リ居タリ。阿波。讃岐。伊豫。淡路ノ軍兵共二万餘騎。三好入道宗三ヲ大將ニテ。堺ノ南ノ端ニ陣ヲ取テゾ扣タリ。大將宗三被レ申ケルハ。筒井カ智謀ノ廣キ事、陳平長良ニモ乙ラヌ者也ケレハ。手段ヲカヘテ戰ハデハ。勝利ヲ得ル事堅シトテ。日比手柄ヲ顯シ。名ヲ得シ兵ヲ勝テ。二千餘騎脇ナル木滋キ物陰ニ隱シ置テ。堺ノ南ノ陣所ヨリ人數ヲ出シ。戰ヒ引足ニ成ン時。敵追懸タラン跡ニ。喜藏カ陣所江突懸テ。勝負ヲ决セント內談シテ。堺ノ濱ノ手ヨリ人數五千餘騎出シ。鯨浪ヲ合セテソ突懸。敵小勢ナリト見侮テ大和勢責皷ヲ打テ突懸ル。三好方ノ兵敵ヲ謀ラント兼テヨリ議シタル事ナレハ。態一軍モセズ。堺ヲサシテ引退ク。大和勢勝ニ乘テ。跡ヲモ不レ顧。馬ノ息モ切ル程追懸タリ。喜藏本陣ニハ。奈良ノ町人入道共。若侍。彼是千騎ニハ不レ過所ヘ。合圖ノ如ク三好入道宗三突懸リ。喜藏ヲ討取。各高名不レ斜。其折節宗三ノ子息右衛門大輔ハ。不レ例由ニテ。堺ノ町ニ有テ。軍ニ牟津レタレハ。如何ナル者カシタリケン。一首ノ歌ヲ書テ札ヲソ立タリケル。

宗三カ敵ヲ留ント懸金ヲ右衛太ハヘヅス木

之本ノ陣
ト書タリ。此折節哥ニ作リ節ヲ付テソ謠ヒケル。宗三謀ノ剛ニ因テ。二度天下ヲ阿波ヨリ治ム。此時國ノ執事職ヲハ。篠原彈正少弼。篠原肥前守。三好下野守入道釣閑齋。三好日向守。同民部少輔。五人シテ。國ノ法令ヲ聞。民ヲ撫國家ヲ治ム。時節ノハヤリ物ナト云テ。持鑓ノ柄ヲ四方竹ニシタリケレハ。京童部ヤ書タリケン。一首ノ哥ニ。

阿波武者ハ世々ヲ懸テヤ突スラン皆鑓ノ柄ヲ竹ニテゾスル

ト書タリ。三好宗三ノ智謀ハ。隱モナカリケレ共。雙六ノ賽ノ一ノ裏ニ六ヲ見ル如ク。子息右衞門大輔武勇少ヲトリテヤ有ケン。齡重テ後落髪シテ爲三ト改名シラレケレハ。如何ナル輕口者カシタリケン。戯テ一首ノ哥ニ。

宗三ノ三ノ字迄ハヨケレ共爲三ノ三ハサン

トソ書タリケル。誠ニ人ノ口程恐キハナキトソ。

〳〵ノ三

三。三好長治公家中之馬見給事

第十村ヨリ。出來代ノ三歳駒ノ眼清ク尾髪澤山ニ腕爪慥ニシテ。乘ニ入テハ鳥ノ飛如クナル馬出來ケルヲ。御庭へ被召寄。長治公御覽有テ。アツハレ馬哉。カヽル馬ヲコソ古ノ龍共驥共云ツヘケレ。其家ニ生テ其道ヲ不勤ハ意リノ至リ也。古人ノ詞ニモ云リ。弓馬ノ家ニ生レテ馬物ノ具ノ慥成ヲ不嗜ハ。誠之人ニ有ナカラ誠ノ獸同意也。壯年ノ者ハ不及云。老若ニ至マテ。文武ノ道ヲ不忘處。弓箭ノ可爲本意也。然ハ近日家中ノ馬ヲ可見給旨被仰出ニ付テ。御家中ノ馬共身躰ノ厚薄ヲ不分。各馬鞍キレイヲ盡シテゾ揃ケル。已ニ見物可有定日ニ成ケレハ。長治公ハ廣間ニ出サセ給

ヒ。端近クゾ座シ給フ。御傍ニハ篠原玄蕃正。淺野藤平太。多田修理亮。兒小性ニハ原田小内膳。秋月主膳。七條元女。同一學。御次ノ間ニハ。岡本牧世。栢原殿母之助。千葉大膳大夫。吉良主水正。其外諸侍次居テ。遠侍マテ二百餘形氣忠敷ゾ并居タリ。森飛騨守秘藏メ持タル光陰ト云馬ノ。黄河原毛ナル馬四寸有テ。フトク肥敷ニ。金幅輪ノ鞍置。熊ノ革ノ韁。鞍ニ對シタル鐙ヲサシ。紫ノ大房付タル靷鞦カケ磨立タル轡ヲハマセ。支綱四筋ニテ扣タル舍人共ヲ引立。跳上。跳上。南ノ惣門ヨリ入テ。西ノ小門ヘソ通ケル。此馬ヲ光陰ト云事ハ。世ノ中ニ光陰矢ノ如シト云ヘルヲ取テ名付タル可成。篠原肥前守ガ鳴門黑ト云早馬ニ。鞍鐙ノ一涯勝テ結構ナルヲ置。紅ノ大房付タル靷鞦カケ。鳴音輕キ轡ヲカマセ。舍人數多引テ歩セタリ。同玄蕃正馬長五寸餘アル。濃栗毛ノ五歳シタル能ヨシニ。鞍裝束キレイニメ。舍人數多ニ引セ。同ク西ノ小門ヘソ通シタリ。篠原彈正秘藏ノ楓林ト云馬ハ。一年都ニテ院ノ御幸成シ時。御車ヲ止メサセ給ヒ。此馬ヲ叡覽有テ。カヽル馬コソハ馬ナラメト勅詔有シ也。サレハ古キ詩ニモ。停車坐愛楓林晩ト作シ詞ヲ取テ。楓林ト名付タリ。馬躰ト云乗ト云。無可裝名馬也。裝束結構ニ取繕。舍人數多付テアタリフ拂テ通タリ。子息大和守馬モ。楓林ニ劣ラヌ名馬也。水ヲ游ク事偏ニ水鳥ノ如クナル逸物ナレハ。漣トゾ名付タリ。麗ナル靷鞦カケ。鞍鐙キレイナル支綱幾筋モ指。舍人數多付。是モ南ノ門ヨリ西ノ小門ヘソ跳出タリ。一宮長門守馬連錢蘆毛ノ大肥シク。乗ニ入テハ鳥ノ飛如クナル大早道ノ逸物ニ。鞍裝束キラビヤカナルニ鳴音スズヤカナル轡ヲハマセ。舍人數多ニテ支綱ヲ引。足ナミ進ミテソ通タリ。三好

越後守ノ馬ハ。木曾立ノ能ヨシ鳥ヨリ早キト云心ニテ八鐘ト名付タリ。馬躰ノ能事無ニ云量。コタエ物裝束ダテヲ盡シテ拵エ。舍人數多付テ歩セタリ。三好壹岐守馬長五寸有テ。六歳シタル月毛ノ山ヲモ川ヲモ平地ヲ行如クナル。コタエ物ニ馬具品品キレイヲ盡シ。舍人數多付タルヲ引立。跳上々々西ノ門ヘソ通リタリ。三好遠江守。矢野駿河守。川村左馬亮。何レモ不レ劣名馬共。諫ニ諫メル足ナミニテ。舍人共ヲ引立。南ノ門ヨリ西ノ門ヘソ通シタリ。其外御家中ノ馬共數ヲ盡シテ御覽アレハ。日モ漸暮ヌ。重テ北方南方ノ諸侍ノ馬ヲ可レ見給旨有テゾヤミケル。

四。篠原自遁。大形殿忍々被レ召寄レ事。付樂首之事

三好豐前守義賢入道實休。泉州久米田テ被レ討サセ給ヒケレハ。生殘タル武士共世ニアル心地モナク。自剃髮染衣ノ姿トハ成タレ共。サスカ捨モヤラレヌ世ノ中ノ心ニ發ラヌ菩提ノ道。爭カ末ノ通ルベキ。故郷ヲ隨テ立歸。幼稚ノ公達ニ付奉リ。奉公ノ道ヲソ成ケル。爰ニ大形殿ト申シハ。篠原肥前入道自遁ヲホノメカシ給ヒ。上部ハ余所ノ梢ニ見ヘ給ヘドモ。花ノ下紐解初テ。心ノヲクノ信夫山。忍ビテ通フ道芝ノ。露ノ夜語リ諸共ニ。隔モアラヌ中ト成。連理ノ枝ノ上ニ心ノ花ノ移ハン色ヲ悲ミ。皆老ノ枕ノ下ニ。夜ノ衣ノ隔ルヲダニカコタレヌベク思ハレ。人目ノ關ヲスエザレハ。洩テ立名假初ナラズ。世ニ惡キ人ノ口。如何ナル者カシタリケン。一首ノ哥ヲ書テ。札ヲゾ立タリケル。

大形ノ心ヲ空ニ篠原ヤミダリニタヽシ名コ
ソ惜ケレ

ト書タリ。是ヲ見人聞人。何トヤラン空恐ク呵

合ケル。然處ニ。篠原彈正ハ自遁ト隔心ナキニ因テ。竊ニ此事ヲ諫テ云ケルハ。末世ニ及トイヘ共。日月ハ地ニ落不レ給。亡君ヘ無禮ト成事思トマラセ給ヘカシト。委細ニ制止ケレハ。自遁モ左アル事ト思ケレ共。必トメ善ハ扞ニ似テ招ゲ共不レ來。煩惱ハ家ノ犬ノ如シ。ウテ共サラヌ有樣ナレハ。此事ウスク成氣色モ無。剩ヘ誰カ告タリケン。大形殿ヨリモ彈正ハ恨ヲ請テ後悔スル事區區也。

五。上櫻合戰之事付篠原紫雲幷嫡子大和守討死事

篠原彈正入道紫雲ハ。肥前入道自遁ニ子細アル道ヲ諫ケレハ。不思議ニ大形殿ヨリ宣ケルハ。世無禮シテ上ヲウヤマウ道ナシ。人口ノ惡キ事偏ニ紫雲ヨリ初ナリト。樣々ノ難題アリ。紫雲是ヲ聞テ。ヨシヤ甲斐ナキ世ニ有顏モ益ナシト思取。領知上櫻ノ城ニ引籠テ。颯々タル松風ニ化ナル夢ヲ覺シ。明シ暮メ居タリケリ。懸リケル處ニ。主君長治公ヨリノ仰トメ。紫雲上櫻ノ城ニ楯籠テ。謀叛ヲ企ノ條。罪科非レ輕。此時若シ緩々ノ沙汰ヲ致サハ。大逆ノ基ト可レ成トテ。森飛驒守。井澤右近大輔ヲ大將トメ。紀伊ノ國ヨリ鉄炮三千丁呼寄。阿波。淡路兩國ノ軍兵都合其勢七千餘騎。勝瑞ヲ出陣シテ。中富川ヲ打渡。向ヒナル眞砂地ニテ。兩大將馬ヨリ下テ。諸軍勢ニ向テ被レ申ケルハ。此度戰場ニ趣キ給フ軍兵。二心可レ有人アラハ。是ヨリ住所ヘ被レ歸給ヘ。心一筋ニ主君ニ忠節ノ道ヲ重ンゼラレ候ハ。此川水ヲ一滴令レ飲テ。清キ志ヲ令レ見給ヘ。此川水ハ忝モ。天ヨリ降ラセ給ヒタル大權現ノ立給フ麻尼珠山ノ麓ヨリウキ出タル川水ナレハ。則神水ト號スル也ト。大將進テ被レ申ケレハ。諸軍勢何レモ同時ニ川水ヲゾ令レ飲ケル。各馬ニヒタ〳〵ト打

乘テ。上櫻ノ城ヘソ被寄ケル。上櫻ノ城ニハ。兼テ思案シタル事ナレハ。旗ノ手數多立幷テ。深山下風ニ吹靡セ。雲カトノミ怪マル。麓ニハ數百騎ノ兵共。甲ノ星ヲ耀カシ。鎧ノ袖ヲ連子。錦繍シケル地ノ如シ。彼上櫻ノ城ト申ハ。峯高メ道細ク。山嶮シテ苔滑也。サレハ幾千万騎ノ勢ニテ責ル共。輙ク落スベキトハ不見ケリ。紫雲内室ハ門跡ノ息女也　紫雲内室ニ向テ宣ヒケルハ。日來ノ間ハ縦ヒ思ノ外ニ故郷ヲ去事有共。何國マテモ伴ヒ申ントコソ思ツレ共。今此時ニ詮ナシ。於事ハ女性ノ身ナレハ苦カルマジ。幼稚ノ子共ハ敵縦ヒ見付タリ共。誰カ子トモ看不知。本國紀州ニ歸テ。幼稚ノ者共ヲ人トナシテタビ給ヘ。唯今夜ニ紛テ田邊ノ鴨野大夫伴申セト仰ケル。内室ハ紫雲ノ鎧ノ袖ヲ扣テ。ナドヤ角ウタテシキ言葉ニ宣ヒケルゾヤ。此折節少キ者共ヲ引具シ。知ヌ傍ニ立宿ラバ。敵ニ被捜出テ。我身ノ耻ヲ見ルノミナラズ。少キ者共ノ命ヲサヘ失ン事コソ悲ケレ。友ニ兎モ角モ成果メ。頼陰ナキ木ノ本ノ嵐ノ前ノ露ノ間モ捨置レ參セテハ。長命ベキ心地モセズト。泣悲給ヒケル。紫雲庄野和泉守ヲ呼給テ仰ケルハ。今年十一歳ニナル鶴石丸。幼稚ニテ父左吉兵衞。先年泉州久米田ニテ主君ノ供シ相果　唯今身ナシ子ト成テ　其憐ミ甥ナカラ最愛ノ嫡子ニ異事ナシ。如何モシテ鶴石丸カ命ヲ助ヨト仰ケレハ。和泉守承テ。仰重シトイヘドモ。我ラ主君ノ日比ノ恩愛ヲ不忘レハ。死後迄モ伴ヒ申ント申ケレ共。紫雲再三ノ仰ニ因テ。畏テ承リ。鶴石丸ヲ供シテ助ケリ。紫雲嫡男。今年拾八歳ニ成給。大和守ヲ呼出シ宣ケルハ。汝未若年ナレバ。我カ死ニ後レテ可ニ心憂。若又我汝ヨリ先立ハ。生前ノ思ヒ難忍。不如一所ニ思切。明日ノ軍ニ討死シテ。九

泉ノ苔ノ下。三途ノ露ノ底マテモ父子ノ恩愛ヲ不捨ト思フ也。ト泪ヲ押ヘテ宣ケレハ。子息大和守畏テ承候ト。心ヨゲニ答給ヒ。元龜三年七月十六日。漸明行ハ朝霧絶ナントスルニ。時刻モ能ヤ有ケン。城ニ火ヲ懸。西ノ門ヨリ父子ナガラ突テ出デ。十文字トモエニ切マワレハ。長良ヲモ欺ク兵共。命ヲ不惜。同時ニ切テ出ヅ。父子一ツ枕ニ討死シ給ヘハ。片時モ後レジト思ヒ切タル家來ノ侍。日比ノ恩愛。イツノ時ヲ可期ナレハ。ナジカハ可忍。最期ノ供セヨトテ。柿原源五。同藤五。同新五。竹田三河守。同株ノ丞。同九郎兵衛。其外勇メル義士。同枕ニ百餘人。前後左右ニ打臥タリ。侍ノ習トシテ。死ヘキ道ニ不死。無甲斐死ヲスル物ゾ。愛ヲ遁スナト。互ニ聲ヲ合テ。敵ハ多勢ト云ナガラ。過半ハ被討手負タリ。味方ハ殘ル人モナシ。前代未聞ノ事共也。此時ヨリ阿波ノ國ニ軍初テ。万民春秋ニ富ル事ナシ。紫雲亂トハ此事也。

六。篠原紫雲之任遺言姉之鶴石丸庄野

和泉守助事

上櫻已ニ落城シ。紫雲父子ノ死ニ後レテ。田邊ノ鴨野大夫。無念ノ事ニ思ケレ𪜈。主君ノ遺言ヲ重ンジ。公達北ノ方ヲ伴ヒ奉レハ。敵陣ニモ紀伊ノ國ノ侍。漆ノ刑部大輔。久保左助。植松平大夫。鷲ノ森源左衛門ト云者共。紫雲ノ内室ヲ生取リ。故郷ニ歸シ申タリ。庄野和泉守モ紫雲ノ死ニ後レ。思フ甲斐ナカリケレ𪜈。サスガ主君ノ遺言ヲ捨難サニ。鶴石丸ヲ供シ奉レハ。敵陣ノ大將。井澤右近大輔ハ。鶴石丸母方ノ叔父ナルニ因テ。大將ヨリ伴ヒ申セト下知セラレテ。和泉守ニ鶴石丸ノ父左吉兵衛ノ本知下八滿ニテ。百餘貫ノ地ヲ與ヘタヒケリ。和泉守運ヤ不盡ケン。德ヤ付タリケント。聞人毎ニ

語合事共也。

七。信長公都江打出給時三好山城守降參之事

河内ノ國高屋ノ城ニハ。三好山城守ヲ大將トシテ。其外名ヲ得シ侍各數多居住ス。都合其勢五千餘騎ニテ。畿内ノ便宜ヲゾ伺ケル懸リシ處ニ。信長公東國方ヲ打從カヘ。天正三年ニ都ヘ發向シ給ヒ。五畿内幕下ニ隨ヒ奉レハ。彌々權威重ク成テ。人皆順ヒ奉リヌ。故三好山城守降參ノ由ヲ申上ケレハ。子細アラジト被仰出テ。則御前ヘ被召ケリ。山城守膝行頓首シテ。敢テ不平視。遙ノ末座ニ畏テ。誠ニ平伏シタル體天ヲ重ンズル粧也。松長彈正少弼ハ。長治公ノ御後見ヲセシガ。居住ヲ守リ。志岐ノ城ニ在。嫡子右衞門佐ハ多門ノ城ヲ令守居。武威區々ニ有テ。山城守ハ是ヲ猜松長彈正少弼ハ。山城守ヲ思ヒ侮。互ニ上部ハ滑ナレモ。瞋恚ハ爭ヒソヲンテ。山城守ハ信長公ヘ心ヲ一ツニシテ。松長彈正ヲ謀リ討テ。信長公ヘ忠節ヲナス。聖人世ニ出テ義ヲ教ヘ。道ヲ正ス時ダニモ。上智ハ少ク。下愚多ケレハ。人ノ心都テ不一致。況今澆季也。國卑賤也。何ニ因テ仁義ヲ知ル人可有ナレドモ。近年我カ朝ノ人ノ有樣程。ウタテシキ事ハナシ。先ツ弓矢取トナラハ。死ヲ善道ニ守リ。名ヲ義路ニ不失トコソ可思ニ。僅ニ欲心ヲ含ミヌレハ。味方ニ成モ早聊モ恨アレハ敵ニ成モ易シ。サレハ今誰ヲカ始終ノ身方ト可憑ミ思。反ジ安キ心ハ。兎毛ヨリモ輕ク。不撓志ハ。麟角ヨリモ稀也。怯ナカリケル世ノ間也。誠ニ乘桴ニ浮于海ト云シモ。理リトコソ聞ヘケレ。

八。三好長治公武威ニ誇朝暮爲給酒宴事付宗論事

去程ニ。三好長治公ハ武威ニ誇ラセ給ヒ。榮

花ヲ事トメ。御酒宴ニ長ジ給ヒ。政絶々也。長治公ノ代ニ至テ。天命ヲ革ムベキ危機此ニ顯レタリ。倩古ヘヲ引テ今ヲ視ニ。行跡甚輕フシテ。人ノ嘲ヲ不レ顧。政道不レ正メ。民ノ弊ヲ不レ思。唯日夜ニ逸遊ヲ事トシテ。前烈ヲ地下ニ羞シメ。朝暮ニ奇物ヲ玩テ。傾癈ヲ生前ニ致ントス。衞ノ懿公カ鶴ヲ乘セシ樂ミ早ツキ。秦李斯カ犬ヲ牽シ恨今ニ來ナント。見人眉ヲ顰。聽人唇ヲ翻ス。御前ニ侍ヒケル山井圖書亮。篠原玄蕃正。多田津修理亮。藍川友大夫。彼等ハ大盃ヲ以テ數百盃酌デモ醉ル事ヲ不レ知レハ。片時ノ御暇ヲモ不レ給。其外御機嫌ニ參タル侍共ヲ召テ。山海ノ肴名酒品々ヲ集テ。今様ナンドヲ謠ハセテ。明ルヲモ知リ給子ハ。暮ヲモ不レ辨。一生夢ノ浮橋ヲ渡ルガ如シ。如何ニシテ佛ハ酒ヲ戒メ給フゾト。人々御座席ノ興ヲ催シケレハ。末座ニ罷アル淺野藤平太申ケルハ。

佛ノ酒ヲ戒メ給フモ。風味ノ宜キヲ哀ニ思召テノ事可レ成ケレバ。昔ノ佛モ今ノ我ラモ心ハ同事ニテ侍ルメレト申ケレハ。長治公殊ニ興ゼサセ給ヒ。サアラハ佛ノ敎ヲ受給フヘシトテ。先祖ヨリノ禪宗ヲカヘテ。法花宗ニゾ成セ給ヒケル。寔成哉。佞臣仕レ朝。國ニ有ニ不義ノ政ト云シモ。カヤウノ事ニテモヤ有ルラン。一家ノミナラズ。國中悉ク男女老若ニ至ル迄。皆法花經ヲ頂カセ給ヒケレハ。無緣ノ諸宗悉禪淨土眞言宗ニ至マテ旦那ヲ失ヒ。餓ニ盡キテ。三密瑜伽ノ道場ニ可レ入便リモナシ。觀念定坐ノ勤ヲモ忘レ。佛像ニ薰シ奉ル。香花モ散リ果ニヲヒモ失セタリケレハ。角テハ不レ叶トテ。諸宗爲レ群テ訴訟ヲ申ケル。長治公聞召テ。左アラハ宗論ヲ致セト被レ仰ニ付テ。堺ヨリ妙國寺經王寺ノ上人下國メ當國本行寺ニアリ。高野山ヨリ碩學ノ上人下國シ。根來ヨリ博學

ノ上人下着シテ。當國持明院ニアリ。已ニ宗論ニ及處ヲ。篠原入道自遁アツカイヲナシ。天正三年ニ國中右ノ宗旨ニ成返テ。相方共ニ上人ハ皆我國ニ歸寺ス。角不量事共出來ヌル末ハ。何事カ有ンヅラント人皆危ヲナス計也。

九 三好長治公御家天怪之事

古ヘ聖人ノ世ニ出テ。天命ヲ行ヒ義ヲ教ヘ道ヲ正ス時タニモ。人ノ心ハ不齊。况ヤ末世ニ於テ正路ヲ不知ニヨツテ。己ガホシイ儘ヲ成事不至ト云所ナシ。上君ノ徳ニソムキ。下臣ノ禮義ヲ失フ。カヽル時節ニハ。如何成事カ出來ルラント。貴賤危ミヲナス處ニ。天正三年五月五日ノ夜不思議アリ。長治公ノ御屋形ノ上ニ。長五丈ハカリナル山伏來テ。當番ノ馬場彥兵衞。田代牛右衞門ヲ終夜不寢。肝モ魂モ身ニ不添ル處ニ。又同七日ノ酉ノ刻バカリニ。艮ノ方ト坤ノ方ヨリ電光耀出テ。兩方ノ光寄合テ如戰ニメ碎ケ。散テハ寄合テ。風ノ猛火ヲ吹上ルカ如ク。餘光天地ニ滿テ。光ノ中ニ異類異形ノ者見ヘテ。坤ノ光退キ行。艮ノ光進ミ行テ。互ノ光消失ヌ。此天怪如何樣天下不穩ト云處ニ。又同十八日ノ宵ヨリ。箒ノ如クナル星出テ光耀事月モ光ヲ被奪ルバカリ也。同六月十五日。月モ隈ナキ半天ニ。北ナル大麻ノ峯ヨリ大艘二艘漕出。虛空ヲ渡リ。燒山寺ノ峯ニカヽルト見ヘテ。跡ナク消失ヌ。亦同七月十日ノ酉ノ刻ニ。大キナル鬚男ノ頭ヲ。御鷹犬カ嚙テ南面ノ大床ノ前ニゾ來タリ。當番ノ侍栢原外記。佐野源五左衞門。湯淺右衞左衞門。生野菊大夫。各走散テ打落サントセシ處ニ。此犬廣庇ノ上ニ飛アガルト見ヘテ。カキ消スヤウニ失ヌ。カヽル不思儀ナル事共有ケレバ。如何ナル事ヤラント見ル人聞人危ヲ成計也。

十。細川掃部頭殿伊井谷迄被落事付三

好長治公荒田野口迄人數被レ寄事

屋形細川掃部頭殿ハ。種替ノ御舍弟。三好長治公武威ニ誇給ヒ。御無禮樣々ナルニ因テ。御遺恨不レ淺。天正四年十二月五日ノ夜。勝瑞ヲハ忍ヒ出サセ給フ。御供ノ侍ニハ。仁木伊賀守。林喜内唯二人。中間二三人マテヲ被レ召連。福浦出羽守ヲ賴ミ。伊井谷迄落サセ給フ。出羽守甲斐々々シク被レ賴申。里近キ所ハ。其程可レ有如何トテ。則仁宇山ノ奥ニ用害慥ナル御座所ヲ構へ。屋形へ舊功ノ侍大栗右近。服部因幡守。森監物。粟田宇右衛門丞。中津野六郎左衛門。其外義士數多招寄セ。御番ツトメサセテゾ居タリケル。長治公是ヲ聞給ヒ。安カラヌ事ニ思ヒ給ヒ。討手ヲ可レ被レ寄トテ。人數ヲ揃。翌ノ年三月上旬ニ。已ニ御出馬在テ。荒田。野口ニ在陣セラレケル。仁宇山ノ道難所ナルニ因テ。墓々敷押寄スル事モ不レ叶時日ヲ歷ル處ニ。長治公へ遺恨ノ便宜ヲ伺フテ居タリケル。一宮成助。伊澤越前守賴俊ヲ大將トメ。軍勢ヲ催テ後卷ヲシタリ。勝瑞勢叶難クヤ思ヒ。火繩ヲ短タ切テ。端ニ火ヲ付。夜陰ニ爰ノ木ノ枝彼ノ藪。或ハ竹ノ末ナントニ結付テ置キ。人數寄詰ル粧ヒシテ。其夜ニ長治公今切ノ城篠原玄蕃正方マテゾ引退キ給ヒケル。抑長治公へ伊澤越前守少ノ恨ヲ存ゼシ。其基意ヲ尋ルニ。越前守伯父瀧宮豐後守下人ト篠原玄蕃正下部ト口論ヲシ出シ。互ノ主仁ノ氣味ヅクト成テ。已ニ長治公ノ御耳ニ達ケルカ。豐後守理分タルベキ義ヲ。玄蕃ニ長治公御好ミアル道ヲ以テ御心引セ給ヒ。玄蕃理運ニ被二仰付一タリ。是ヨリメ瀧宮豐後守モ。長治公へ恨止時ナシ。是。因テ伊澤越前守モ長治公へ遺恨ヲ存ゼシ也。成助ノ長治公へ底意ノ解ザル子細ヲ尋ルニ。成助ノ甥早淵主馬亮ニ御加增可レ給義アル處ニ。

篠原玄蕃正讒言ニ因テ。加増ヲモ不レ給。剰御悪ミ有シ故。成助モ共ニ遺恨ヲ含マレケルト也。定ニ積悪ノ家ニハ必有ニ餘殃一ト聞ヘシ。末ノ世迄モ恐シカリシ事共也。

十一。三好長治公自ニ南方一今切迄引歸給事付別宮ニテ自害事

三好長治公ハ。荒田野口ノ在陣難レ叶被レ思ケレハ。勝瑞ノ城マテ引セ給フベケレ共。先ツ今切ノ城ニ入セ給ヒ。篠原玄蕃正ト内談有テ。重テ大軍ヲ以テ。仁宇山ヘ可レ被ニ押寄一旨評定有處ニ。却テ時日ヲ不レ移。掃部ノ頭眞之公ヲ大將ニ奉レ成。一宮長門守成助。伊澤越前守頼俊。吉井左衛門大輔行康。多田筑前守元次。都合二千餘騎ニテ。今切ノ篠原玄蕃正ガ城ノ前後左右ニ押寄ス。玄蕃不レ叶トヤ思ヒ。大岡ニ在宿セシ家來ノ侍郡勘助宿所マテ落行ケルヲ。玄蕃ヲハ淺キ古井ノ中ニ隱シ置キ。勘助無レ情敵方ヘ注進シテ。主君玄蕃ノ正ヲ敵人ノ手ニ渡シ。頼ム甲斐ナク誅シタリ。長治公モ叶ワジト被レ思召一ケレハ。土佐泊ニ居住セシ森志摩守方ヘ人ヲ遣ハシテ被ニ頼ケルハ。淡州ヘ渡海可レ有義アリ。急ギ船ヲ助任ノ川ノ内ヘ被ニ指向一給ヒ候得ト有ケレハ。森志摩守畏テ承リ。急キ御船ヲ指越シタリ。長治公運ヤ盡給ヒケン。彌生ノ雨ノ名殘ニ打霞ミ。前後モ見ヘズ暗キ夜ナレハ。加子山ヲ立チカヘテ。助任ノ川ヘハ不レ入シテ。御舟ヲ佐古ノ山下ヘ乘入。長治公ヲ待居タリ。長治公夜中ニ今切ノ城ヲハ忍ヒ出給ヒ助任ノ川ヲ爰カシコ昇降リニ尋セ給ヘ共。船ハ何處ニ有共不レ見。漸東雲モ明行ケハ。無レ力別宮ヘ御渡リ有テ。里ノ庄ニ宜ヒケルハ。淡州ヘ御渡海可レ有義アリ。急キ御船ヲ出シ候得ト被レ仰ケレハ。里ノ庄畏テ御請ヲ乍レ申。忍テ敵方ヘ注進ス。敵方一宮成助伊澤越前守ヲ大將

ニテ。二千餘騎時刻ヲ不レ移馳來テ。長治公ノ御座ス御宿ノメグリヲ。二重三重ニ取卷タリ。無ニ爲方一長治公最期ニノゾンテ。

三芳野ノ梢ノ雪ト散花ヲ長キ春トヤ人ノ云ラン

ト詠セサセ給テ。天正五年三月廿八日ノ辰ノ刻ニ自害シ果給フ。姫田佐渡守甲斐々々シク御介錯仕リ。則其刀ヲ我胸ニ突立テ。同枕ニ打臥ス。濱隱岐守モ押並テ冥途迄ノ御供申タリ。梶井又五郎正年十七歳。佐渡守ニ不レ劣自害シテ。御供申ケリ。原彌助正道モ。押並テ自害セントスル處ヲ太刀場ニ有合タル敵人兼テ彌助ニ好ミ有侍ニテモヤ有ケン。彌助ニ抱付。御邊達ニハ何ノ恨モナキゾ。命ヲ全メ時節ヲ見給ヘトテ。彌助ヲ引立二三人メ引張。長治公ノ御最期所ヨリ一町ハカリモ脇ヘ連行ケバ。彌助云ケルハ。侍ノ日比主君ノ恩愛ヲ請テ。最期ニ遁ト云事ヤアル。遁モ遁ヌ物ヲ。主從一所ニ死ナセヌハ。情モ知ヌ侍哉。兎角遁ヌゾト云テ。道芝ノ上ニハタト臥シ。大牛ノ吼ル如クナル聲ヲ上テ鳴ケレハ。助ケ引ントスル侍共モ。此上ハ力ナシトテ手ヲ放シケレハ。彌助馳足ヲ出テ走歸。腹十文字ニカキ切。己カ喉笛ニ裏カヽセテ。太刀ヲ指ツラ拔。長治公ノ御死骸ニ抱付テゾ死ケル。爰ニ三好式部少輔康俊ト云侍。日比ハ長治公御ユカリノ好アルヲ以テ。御前近ク被ニ召仕一給ヒシカ共。長治公ノ御行跡不レ宜ニ因テ。自然ノ御次テヲ以テ御心得ノ爲ヲモ申上候得バ。御前次第ニ遠ク成テ。近年外樣ノヤウニ成居タリシカ共。此刻昔ノ御情ヲ思ヒ出テ。感涙袖モ可レ朽ケレハ。四手ノ山路ノ御供ヲモ成テ社ト。一首ノ歌ヲ綴テカクコソ有ケレ。

三芳野ノ花ノ數ニハアラ子共散ニハモレヌ

山櫻カナ
ト詠シテ。腹十文字ニカキ切テ。冥途迄ノ御供ヲゾ申ケル。長治公先祖ヨリ。代々ノ禪宗ヲ替給ヒ。近年法花大乘妙典ノ功力ヲ尊ミ給ヒ。御經ヲ戴キ給フニ因テ。本行寺ノ日應上人ヨリ長治公ノ御死体ヲ一片ノ煙トナシ申。御跡ヲ奉弔トテ。弟子ノ學圓坊ト圓周ニ下部二三人副テ。舟ニテ別宮ヘ御死骸ヲ取ニ遣シケル處ニ。又龍音寺ヨリ長治公ノ御先祖ヨリ。代々禪宗ノ檀那ナレハ。我寺ニ奉葬リトテ。宇藏主ト盆藏主ト兩人舟ニテ急キ別宮ヘ行ケル處ニ。本行寺ノ學圓坊ト圓周カ下部共長治公ノ御死骸ヲ我舟ニ奉乘セトスル處ヲ。宇藏主ト云大惡僧。腕ノ力ノ剛キ儘ニ。走懸ツテコサカシク立廻ル下部ドモノ上帶ヲ引摶デ。汀ノ方ヘハラリ〳〵ト二三間カ程礫ニ打ケレハ。學圓坊モ圓周モ不得近付シテ。長治公ノ御死骸ヲハ龍音寺ノ宇藏主奪取テ桶ニ奉入。我カ船ニ移シ申。則勝瑞ニ歸テ心静ニ奉荼毗シテゾ納メケル。去程ニ別宮ノ里ノ庄。長治公ヘ遣恨ヲ委ク尋レハ。天正四年十二月廿八日ノ朝。長治公御鷹ヲツカヒ給ントテ出給ヘハ。勝瑞ノ川岸ニハ鴨不入シテ。向ヒノ川ノ岸陰ニ鴨數多入タリ。向ニ小舟一艘見ヘケルヲ。此方ヘ指來レト呼ヘ共舟長隱テ答ザレバ。早キ若侍川ヲ向ヒヘ游ギ渡テ。船ヲ此方ヘ指來レハ。長治公向ヒヘ渡ラセ給ヒ。舟長ヲ尋出サセ給ヒ。侍二人ニ引張セテ。貞宗ノ御脇指ニテ御手ツカラ立ワリニソワラレケル。其報ヒ忽來テ。翌ノ年三月廿八日ノ朝。其御脇指ニテ自害シ給ヒケリ。天命ノ罪スル事淺猿カリシ事共也。

十二。四宮加賀守別宮ヨリ船漕歸事

四宮加賀守ト。同左近大夫ト兄弟ハ。林崎ニ有テ承ニ。長治公淡州江御渡海可有義アリ。急キ

船ヲ助任川マテ被指越候得ト。今切ノ城藤原玄蕃正ガ所ヨリ。土佐泊ノ森志摩守方迄被仰越ニ付テ。志摩守急キ御迎舟ヲ拵ヘ。廿七日ノ宵ヨリ約束ノ如ク助任マテ遣ス由アレ共。明ル廿八日ノ朝マテ御舟ノ便ヲ不聞。人ニ可尋折柄ニモ非レハ。覺束ナサノ儘加賀守ト弟左近ト二人。我ニ齊キ郎等共ヲ五六人相供シ。甲斐々々シキ船指ニサヽセテ。三月廿八日ノ早天ニ思フ方ヲ心ザシ。舟ヲ急處ニ。辰ノ刻バカリニ別宮ノ浦ヲ通ルニ。浦ノ躰何トヤラン物騒シク。人ノ往來蹈足モ地ニツカザルヤウニ見ヘケレハ。是ヲ危ク思ヒ。郎等一人舟ヨリ下。忍寄テ尋サセケレハ。アヤシゲナル男ノ答ケルハ。長治公ハ今少先ニ御腹メサレ候ト申ヲ聞テ。加賀守ガ郎等急走歸テ此由カクト申セハ。加賀守モ左近モ案ノ内トハ乍思。打驚キタル有樣也。長治公ノ御最期コソハ見候ハズ共。有合タル奴原ヲ逝スナト云テ。兄ハ弟ヲ耻。弟ハ兄ノ心根ヲ耻テ。郎等共ヲ引供シ。四角八方ヘ切テ廻ル程ニ。侍ヲモ下郎ヲモ不嫌。十七八人ナギ臥ル處ニ。黑糸威シノ鎧着タル武者二人カケ出。加賀守兄弟ニ突カヽル處ヲ。兄弟命ヲ不惜切テ懸ル程ニ。不忍シテ持タル鑓ヲナゲ突ニシテ。二人ノ武者引退キタリ。ナケ突タル鑓加賀守カ額ノ右ノ眉ノ上ニ深々ト突立タリ。拔テ見レ共無左右不拔ハ。弟左近走懸テ引拔タリ。邊ヲ見レ共敵モナク。戰フヘキ敵モナケレハ。我舟ニ取乘テ先林嶋ニゾ引歸シケル。

十三。伊澤越前守打死之事

天正五年ニ。坂西ノ城ヲ爲築ン伊澤越前守ハ。山下ノ町屋ニ用心密ク。人数二千バカリニテ在陣シラレケルヲ。矢野駿河守同備中守三好越後守ハ。日比ノ宿意ヲ以テ。幸ノ便宜モガ

ナト相待折節ナレハ。町屋ニ越前守被レ居ケルヲ聞テ。庄野久右衛門ヲ招ヨセテ竊ニ被レ申ケルハ。御邊ハ伊澤越前守ト等閑ナラヌ體ニモテナシ。便宜ヲ見給ヘ。時分能候ハ夜討ニ仕候ハント内談ノ夜ニ入。竊ニ久右衛門尉ハ伊澤越前守宿所江行至ケレハ。越前守喜悦ノ眉ヲヒラキ。酒肴ヲ集テ。コノ比ノ欝氣ヲ開カントテ。盃數盃カタブケタリ。久右衛門モ座席ノ興ヲ催シ。幾廻リモ盃ヲ酌流シ。五月ノ短夜痛ク更ケレハ。能隙ヲ伺ヒ。久右衛門席ヲ立出ケルヲ合圖ニテ。究竟ノ射手百餘人指取引詰射ケレハ。越前守カ軍兵思ヒモヨラヌ事ナレハ。ツナキ馬ニ乘ナカラ鞭ヲ打人モアリ。弓一丁ニ取付テ。二人三人バウモアリ。物ノ具一領ヲ二人三人シテ引相ケリ。主被レ討共從者不レ知。親被レ打共子モ不レ助。蜘ノ子ヲ散スガ如ク迯ル處ヲ。在家ニ火ヲ付一人モ不レ殘サニ燒殺シ。大將

各其夜ニ勝瑞ヘ引取タリ。爰ニ三好何右衛門之丞ハ伊澤越前守ト日比心ニ隔ナク。互ニ念比ニ語ライケルニ。何右衛門六條村ニ有テ此事ヲ聞。急キ坂西ニ趣シカ共。道ニテアヤシゲナル者ノ云ケルハ。越前守ヲ討手ノ勢早勝瑞ニ引取シ由聞ケレハ。坂西ニ行テモ詮ナシ。此上ハ越前守ニ死後ノ耻ヲ取セジト思ヒ。此比越前守ガ妻女早淵ノ城ニ有ト聞。道ヨリ引返シ。駒ニ鞭ヲ副テ。早淵ノ城ニ至リケレハ。早敵人早淵ノ城ノ門外ニ詰カケタリ。何右衛門スワヤト思。家來ノ源三郎ト主從二人シテ。敵ノ、二十餘人追拂ヒ越前守ガ妻女ヲ助ケ、舍兄一宮長門守方ヘゾ渡シケル。翌ノ朝早天ニ一宮成助北新居表マデ。大軍ヲ率シテ被レ寄ケレ共。角瀬川。住吉川水深フシテ無ニ左右ニ渡シ不レ得。矢野駿河守。同備後守。三好越前守。森飛騨守。赤澤信濃守。篠原自遁各住吉ノ川切ニ扣タリ。讃

岐國瀧ノ宮豐後守ハ。伊澤越前守タメニハ伯父成シニ因テ。人數五千餘騎ニテ。大山寺ノ峠ニ打出タリ。兼テハ成助ト心ヲ合セタリシカ共。大河ヲ隔タレハ。詮ナクシテ各陣ヲ引退ク。味方モ各淡路勢ヲ引供シテ勝瑞ヘゾ引退タリ。

三好記中卷終

續群書類從卷第六百四十四下

合戰部七十四

三好記下卷目錄

福長濟菴玄清述

一。一宮長門守成助高崎表へ手遣之事

天正五年九月八日ノ早天ニ。一宮成助。并舎弟主計正軍兵ヲ引供シテ。下町ヨリ八滿富田ヲ打廻リ。助任渡リ。高崎表ヘ打出シテ。成助宮城梅雲ヲ呼テ。今日ノ運ハイカニト尋給ヒケレハ。梅雲答テ云ク。今日ハ合戰ニ得ニ勝利ニ給フ日ニテ候へ共。左右之手ニ薺キ家臣ヲ被レ討サセ給フ日ニテ候。我等モ今日討死可レ仕日ニテ候ト申ケレハ。成助聞給テ。家臣ヲ討セテ益ナシ。先ツ一ノ宮江引取ヘシトテ。旦ノ原ヲ南ヘ軍勢足輕共ヲ引供メ通ル時ニ。勝瑞ニ在陣セシ淡路ノ軍勢共。成助ノ手遣可レ有由。兼テヨリ聞タリケレハ。次テヨシトヤ思ヒ。我先ニトヌケガケシテ。延明ノ藪端ヨリ鉄炮百丁バカリニテ。横合ニ打懸タリ。成助見給テ。敵ハ小勢ナリト侮リ。アレ打散セトテ味方ヨリ鉄炮二百丁バカリニテ打ケレハ。淡路勢弱々ト引退クヲ追懸レハ。藪陰ニ究竟ノ武者甲ノ星ヲ耀カシテ。五百餘騎鑓ノサキヲ揃ヘテ待居タリ。味方モ馬ヨリ下立テ。已ニ合戰初ル處ニ。淡路武者安宅市之助正行ト名乘テ。眞先懸テ出ル處ヲ。味方ニモ伊豫ノ國ノ住人。日高采女亮友春ト云武者翔鳥ヲモ射ル鉄炮ノ上手ナレバ。ナジカハ射ハヅスベキ。正行カ胸板ヲ打ヨリ早ク倒タリ。殘ル淡路ノ軍兵共。火水ニナレト切テカヽル。味方ノ軍兵箕輪甚右衛門尉。近光走懸テ。正行カ首ヲ取ル。淡路勢タマラズシテ敗軍スルヲ追懸々々新居川マテ追詰テ。首三百卅三討取ル。成助方ニモ宮城梅雲ヲ初トシテ。云シニ替ラズ打死シケレハ。其外ノ武者共數多被レ討テ。主計正兄弟一宮ノ城ヘゾ被レ歸ケル。

二。矢野駿河守南方へ發向之事

矢野駿河守ト篠原肥前守入道自遁ハ。三千餘

騎ノ勢ヲ率シテ。南方桑野ヘ發向シタリケルガ。早淵表ニハ淡路勢若干被レ討タル由注進有リケレハ。安カラヌ事ニ思ヒ。南方ノ軍ヲ指延テ。先北方ニゾ引歸シケル。若一ノ宮ヨリ成助多勢ヲ八蒲傳ヒニ打出シ。横合ニサヽエン事モヤ有ンヅラント思ヒ。篠原入道自遁ハ町人ニ紛レ忍テ北濱迄ソ被レ歸ケル。矢野駿河守ハ。舟ニテ津田ヘ渡ント思ヒ。柴山ヘ人數ヲ打上ケレハ。南方ノ敵共跡ヲ付隨ヒ。五百騎バカリニテ。勝浦川ヲ打越タリ。駿河守心早キ武者成ケレハ。歸シ合テ戰ケルガ。南方ノ敵共不レ叶シテ。丈六寺ニ取籠ラントセシ處ヲ。追詰。散々ニ戰ヒ。首二百餘討取リ。舟ニテ津田ヘ渡リ。自遁ト一所ニ勝瑞ヘ歸陣シラレタリ。去程ニ最前早淵表ニテ。淡路ノ軍兵若干被レ討シ遺恨止時ナキニ因テ。紀州ヨリ大軍ヲ招キ寄。重テ七千餘騎テ一ノ宮ヲソ取卷タリ。成助難レ叶被レ思ケルニヤ。忍テ大粟山ノ奥燒山寺ヘソ被レ退ケル。被大粟山ト申ハ。難所ナルウヘ行人モ絶々ナレハ。道細ク岩廉高ク。苔ナメラカニメ大木古木生茂リ。人倫ノ通路自在不レ成。仁宇山。勝浦山。海部山。何モ山分ハ。成助ニ一味ナレハ。暫ク愛テ時節ヲ可レ被レ伺トゾ聞エシ。

三。十河存保公堺ヨリ阿波江歸國之事

三好長治公去ル暮春下旬。別宮ニテ自害シ果給ヒヌレバ。國ノ守護人無テハ如何可レ有事ナレハ。堺ノ警衛ニ備ツテ御座御舍弟。十河存保公ヲ國ノ守護仁ニ可レ奉レ成トテ。老從久保佐渡守急キ御迎ニ上リケレハ。存保公早速御下國可レレ有トテ。侍上下二百バカリニテ御門出アリ。天氣ノ程モシレザレハ。海上モ如何可レ有ナレハトテ。攝津國兵庫ノ浦マテ渡海有テ。ソレヨリ淡路ノ國ニ打渡リ。陸道ヲ經テ天正六年正月三日ニ。阿波ノ國撫養ノ津ニ着給フ。折節寒風

烈ク。雪降積テ。駒ノ足ナヅミ。歩ミ行者モ自在ナラズ。川舟ニテ勝瑞へ越給ントスルモ。水主凍テ艪ヲ取モ不レ叶レハ。爰ニテ一宿成給ント有處ニ。木津ノ城ニ居住セシ篠原肥前入道自遁方ヨリ。使者ヲ以テ申ケルハ。是マデノ御下國。幸ノ便宜ニ候條。一合戰可レ仕候。是ヨリ勝瑞ヘハ入レ申間敷候也ト申ス。存保公聞給テ。改春ノ初ニ兵器ヲ出ス事。弓箭ノ幸ナレハ。一合戰可レ參ト宣ヒ。サラハ陣所ヲ堅メヨト仰ケレハ。十河伊左衞門尉。同菊助。久保佐助三人走散テ陣所ヲ見ルニ。撫養ノ片邊ニ大代掃部助ト云者アリ。渠儂ガ宿所ハ要害堅ク。分内廣シ。是レ究竟ノ陣所成トテ。三人ノ侍共内ニ入。掃部ニ云ケルハ。存保公御下國ニテ候。御味方被レ申候得ト云ケレハ。大代掃部畏テ候ト申モ不レ果。弟三四郎ヲ伴ヒ。裏ヨリ拔ントス。十河伊右衞門ト。同菊助兩人走付テ。大代兄弟二人ヲ人質ニ取置。久保左助ハ存保公ノ御迎ニ參リタリ。存保公陣所ニ移リ給ヒケレバ。大代掃部助。篠原肥前入道自遁タメニハ妹聟ナレハ。捨難クヤ思ヒ。入道自遁方ヨリアツカイヲ入和談ニナシ。無レ恙存保公ヲ送リ奉。勝瑞ノ城ヘソ入レ申ケル。存保公ノ軍兵共年ノ初ト云。軍ニ得レ勝利。各万歳ヲ謠テ祝ヒ合ケリ。

四。重淸ヲ方便計事付大西角養謀叛之事

重淸豐後守ト云者。數度ノ手柄ニ名ヲ顯シ。其猛キ事尋常ノ人ニ勝レタリ。渠儂ガ城ト申ハ。本山近シトイヘドモ岩石ソビエテ如レ鋒。人ノ往來自在ナラ子ハ。莓苔滑ニメ蹈所不レ正。本山ノ間數百丈廣ク切立テ。水上ヨリ大河ヲ開入タレハ。漲リ落ル白浪ハ。偏ニ雪ヲ散スニ不レ異。軍兵ヲ寄セテ輙ク可レ落不レ成レ城其上究竟ノ兵百餘騎ニテ楯籠タレハ。如何トモ無レ爲方。

サレハ天ノ時ハ不レ如二地ノ利一。地ノ利ハ不レ如二人ノ和一習ナレハ。大西角養ノ舍弟七郎兵衛ト久米形馬ノ亮ト兩人。重清ト和睦ノ體ヲメ。内談有ト云テ。竊ニ重清父子同心シテ内室ニ入テ。合圖ノ如ク。形馬亮ト七郎兵衛ト兩人シテ。重清父子ヲ指殺シケル處ニ。家來ノ侍無念ヲ含テ。太刀刀ヲ拔テ騷動スル處ヲ。寄手ノ郎從共下合ケレハ無レ力立退ク。城ハ大西出雲守賴武ノ嫡子。角養居住セラレケル。去程ニ世間ヲ鑒ニ。本朝ノ人ノ心程怯キ事ナシ。弓矢ヲ取トナラハ天命ヲ重ンジ。死ヲ善道ニ可レ守ニ。僅ニ欲心ヲ含ミヌレハ。敵ニ成モ味方ニ成モ安シ。少シノ遺恨ヲ含ミテ。天正六年ニ角養ト舍弟七郎兵衛ハ。長曾加部元親ニ與シテ。日比ユカリノナジミヲ捨。十河存保公へ謀叛ヲ企テ座シケリ。因レ去存保公大軍ヲ率シ。城ノ前後左右ヲ取卷謀ヲナシ。終ニ角養ヲ討取給ヒケリ。然ル處ニ何者カシタリケン。一首ノ哥ヲ書テ札ヲ立タリケリ。

大西ノ年賴武ノ末ノ子ハ打クダカレテ耻ヲ角養

三好家一門一類。悉ク野心ヲ含テ。互ニ生害スル事淺猿カリシ事ドモ也。

五。天正六年ニ阿波之國治事

去程ニ。去年ノ秋。一ノ宮成助ハ。合戰ニ無レ利シテ。大粟ノ燒山寺ヱ敗軍ス。山分ハ成助ニ一味スト聞ユレ共。里分ハ悉治ツテ。存保公ニ從ヒケレハ。吹來ル風モ穩也。サレバ治マル世ノ音ハ安シテ樂ミ。亂タル世ノ音ハ恨テ怨ルト云リ。日本ノ歌モ可レ如レ此。政ヲ正シテ邪正ヲ敎ヘ。王道ノ興廢ヲ知ハ此道也。昔ノ代々ノ帝モ。春ノ花ノ朝。秋ノ月ノ夜。事ニ付ツヽ歌ヲ合セテ。奉ン人ノ惠ミ賢愚ナルヲモ知食ケルニヤ。神代ノ風俗也。何ノ君カ是ヲ捨給ハン。聖

代ノ致誠也。誰人カ不レ哢レ之。猿樂ハ是遐齡延年ノ方ナレバトテ。京ヨリ四座ノ大夫ヲ呼下シ給ヒ。棧敷ヲ打テ舞臺ヲ布。種種ノ風流ヲ盡シ。各遊宴ヲナシ給ヘハ。アヤシノ賤ノ男。賤ノ女モ祝ノ眉ヲ開キ。松吹風モ千秋樂ヲ吟シ。流水モ青海波ヲ返シ。汀ノ龜モ万代ヲ樂ミ。眞砂ノ上ニ居ル鶴モ千歳ノ友ヲゾ呼カハシケルトカヤ。

六　風流之事付天狗腦出家事

七月十六日ノ空モハヤ秋風涼ク吹通ヒ。光モ靜ニホノメキ渡レハ。十河存保公躍ヲ見物可レ有タメニ。假屋形ヲ結構ニ作ラセ座席尋常ニカマヘ。存保公居直リ給ヘハ。御前ニハ老從各二三人次居。其外ニハ荒川越中。五十嶋將監。工藤才十郎。有岡長五郎。吉良藤三郎。岩越左門。小林長七。南條壽濟。各席ヲ忠シク有ケレハ。何モ諸侍御棧敷ノ前後ニアリ。國中ノ男女老若ニ至マテ。今此時ト見物ス。芝居ノ騒キヲ靜メンタメニヤ。赤頭ヲカツキ棒ヲ持。其身輕ゲニ出立タル者十人バカリ走出。群衆ノ鳴ヲ靜レハ。蓬莱ノ嶋共云ツベキ。色々ノ嚴キ玉ノ枝生茂リタル山ヲ作リ。地車ニノセテ力者百人ハカリニテ。今ヤウヲ謠テ引渡シ。其次ニハ隱蓑。隱笠。打出槌ナト、聞ヘシ物ヲ通シ。龍宮世界ノ重寶トテ。品々名モ知ヌ寶ト聞ヘシ物ヲ以テ通リ。其次ニハ大躍ノ人數六七十人。十河額ニ拔立ハナシ甚ユイノウエヲ濃手拭ヲヨリテ二重ニマワシテ鉢卷ニシ。濃染ノ帷ノ脊ニ松ノ葉ヲ染付テ着シ。黒キ綾ノ帯ニ二尺一寸ノ大脇指ニ。角ツバヲカケ紅ノ下結ノ付柄ヲハ。八幡黒革ヲ以テ。金鮫ノ上ヲ卷。サヤヲハ銀ノシ付ニシテダテニ指。手拍子ヲ打。今ヤウヲ謠テ出。哥七八篇謠ヒ場ナラシヲシテゾ納タリ。其次ニハ小躍ノ人數五十

人年ノ程十六七廿ノ内。振ヨキ子共ヲエリ勝テ金ノ作花指タル扇笠ヲキセ。紫染ノ衣ニテ顔ヲ包ミ。白キハダ着ニ京染ノ縮ノヒトヘ衣ヲ着。ハクノ帶ヲ結ビ。皆紅ノ扇ニ金銀ヲ以テ。日月ヲカキタル扇ヲ持。腰ニハ幣グシヲ指。白革ノ足皮ニ草履ヲハキ。中躍十餘人。品々ノ鳴物ヲナラシ何レモ樣子ダテニ拵ヘ拍子面白打ナラシ。諷ヒ出シ。一躍サラリト躍テ引足ニ成處ヲ。今一躍ト所望アレバ。又引返シ。持タル扇ヲハ腰ニ指。幣ヲミキ持テ。御世ハ千年松ノ葉ノ。散ウセヌ身ノ榮ヘ行。神ノ誓ゾ目出度キト。押返々々足拍子靜ニ蹈揃ヘ。躍納タル處ハ。誠ニ世ノ憂サヲモ忘テ。離苦得樂ノ世界ニ生ルカトゾウタガハル。爰ニ馬岐村ノ地福寺ノ上人。空玄坊ト云老僧。晝ヨリ去事有テ新居ノ密言寺ヘ行キ。宥孝法印ニ逢ヒ。事終テ後。昔今ノ物語ヲ成ケレバ。日モ漸暮

ヌ。シミ／＼ト語ケル程ニ初秋ノ短夜痛ク更ケレドモ。十六夜ノ月最明カリケレハ。空玄坊我カ寺ニ歸ント思ヒ。弟子ノ長式ト下部一人トヲ伴ヒ。密言寺ヲ立出。川風モ冷カ成ケレバ。下松ノ渡ヲ舟ニテ向ヘ渡リ。住吉ノ松原ヲ東ヘ行ケルニ月隈モナク迺々メ道芝ノ下マテモ曇ナク明カリケルニ。福成寺ノ上人宥賢坊ト。地藏寺ノ空詳法印弟子一人下部二人連テ被通ケルニ。空玄坊ハ礑行相タリ。何レモ昔高野住山ノ時法眷タリシ身ナレハ。互ニ心床シク被思ケルニヤ。睦ゲニ語會道終伴ヒ被行ケレハ。晝躍ノ有ツルト聞エシ勝瑞ノ廣野ニ行付タリ。空玄老僧アタリヲ見渡シケレバ北ニハ高家ノ人ノ居可給處ト見ヘテ。假屋形結構ニ取繕ヒ。其席ヲカマヘ置左右ニハ老若歷々數多並居タリ。席ヲ次第ニ見ルニ諸宗ノ出家衆座席ノ次第ヲ不違直リ被居タレハ

我カ衆分ノ上人平僧ニ至マテ出席セラレテゾ見ヘタル。東表西南ヲ見渡シケレハ。貴賤上下老若ヲ不レ分。幾千万ト云數ヲ不レ知。群集シテゾ見ヘタル。暫有テ風流ノ役人共。色々ノ裝束シテ出タリ。鳴物品ヲ揃テ拍子ヲ取リ。聲綾ヲル糸竹ノ。節面白ク謠出シタル處ハ。誠ニ憂世ノ業ヲモ忘果。心モホレ〳〵ト成テ。ワガ魂モ如何ナル方ニカ移リ出ヅラント。亡然ト成テ。空玄詠居。漸東雲ノ空モホノカニ明ナントスル風冷ニ吹通ヒ。朝霧ノ絶間ニ。高家ノ人ノ可レ居給一ト思シキ所ヲ見渡セハ。山伏ノ姿ニシテ。頭巾袈裟香色ノ篠懸ヲ着シ。伊良高ノ念珠ヲ持。眼キラメキ。觜トカリテ物冷キ体。サナガラ人間トハ不レ見。ヲソロシキ姿ニテ座シ給ヘリ。前後左右ヲ見渡ケルニモ。面ハ人間ノヤウニモ乍レ有。眼光ツテ大キナル翼生タルモアリ。異類異形ノヲソロシキ姿形チ。悉人間ニハ非ス。吾衆分ノ上人阿闍梨法印ト思シ人人モ。能見レハ皆鳶ノ如クナル翼生テ。面見シニ替リテヲソロシカリキ。空玄坊被レ思ケルヤウハ。是ハ正シク魔道ニ墮ケルト。心怯ナク。落ル泪ヲ抑ヘテ。眼ヲ塞ギ。眞言ヲ吟ヘ。多羅尼ヲ誦シ。暫シ有テ眼ヲ少開テ見レハ。廣々タル田野ノ物冷ク。明離タルニ。空玄坊主従三人バカリ亡然トシテ座シタリケル。貴賤群集ノ人々ト見ヘツルモ。徒ニ明行野徑ノ草村萩薄ノ己カ儘ニ生茂リ。朝露重ケニ立靡バカリゾ殘リケル。空玄坊モスゴ〳〵ト吾寺ニゾ被レ歸ケル。

七。脇之城軍事付飛驒守　越後守　駿河守　左馬亮討死事

脇ノ城ヲハ。武田上野之亮守護シテ在住ス。三好山城守ハ。河内國高屋ノ城ヲ預ツテ彼地ニ居住セシニ因リ。阿波ノ國ノ領地。岩倉ノ城ハ

美間三好二郡ノ固爲旗本。嫡子德太郎令守居。甥ノ横田內膳正ヲ添。鹽田若狹守。父鹽田左馬亮入道一閑ヲ加置ク。入道一閑ハ。三谷ノ城ニ居住ス。然處人々近年三好ノ恩顧ヲ忘。土佐方へ與スルニ因リ。各共旨ニ同ジケレハ。土佐方ヨリ番手ヲ加テ。脇ノ城ニ置ケル。然ハ三好家へ日比ノ宿意ヲ散ゼンタメ。西林村ノ三橋丹後守。同常陸守。兄弟ノ侍共。竊ニ岩倉相談有テ天正七年十二月廿六日ニ。森飛驒守方へ岩倉ノ城ニ居住セシ三好德太郎使者ヲ立テ申ケルハ。岩倉ニ三好家累代ノ家臣ニテ候處ニ。近年土佐方へ降參ノ仕義。如何ニ候。然ハ明廿七日ノ早天ヨリ。土佐勢本國へ引取由風聞候間。御人數ヲ是迄被指向候ハヽ。御味方可仕候ト。憤ヲ含テ被申越ケレハ。森飛驒守。三好越後守。矢野駿河守。川村左馬亮。各尤至極ニ同シ。俄ニ用意シテ人數ヲ供シ。廿七日

ノ早天ニ。彼地ニ被趣ケル處ニ。方便事ニテヤ有ケン。脇ノ城ヨリ究竟ノ射手共。サシツメ引詰。化矢モナク射懸タリ。鉄炮ノ上手共透間モナク打懸ケル程ニ。數百騎ノ人數山ノ下道ノ事ナルニ。茨枳ノ中共不云。人雪頽ヲツキテ崩レ懸ケレハ。人數ヲ立直サントスルニ。道細ク先へ進マントスレバ味方手負テ不得進。爲方ヲ失フ處ニ。城ノ內ヨリ歯ムイタル兵。數百騎切テ出テ。コ手ノ鏁ノチギルヽ迄。目釘モヲレヨト戰ヘバ。味方ノ勢モ不遁シテ。爰ヲ專途ト戰ケル。心ハ猛シトイヘ共。時移ルマテノ戰ナレハナジカハ忍フベキ。矢野駿河守ハ城中ノ侍。加藤主水正ト馳合鎧ノ袖ヲ引違ムズト組見ヘシガ。主水ガ刀ヤ鬪カリケン。駿河ガ首ヲカキ落シ止ル物ハ名バカリ也。宇山孫市郎重近ト名乘テ。川村左馬亮ニカケ合セ。互ニ太刀打合ト見ヘシガ。光ノ下ニ川村ガ首

ハ落ケリ。森飛騨守ハ不レ忍メ。太刀抜持テ懸リケルヲ。美間助七直次ト名乗テ横合ニ懸合セテ。終ニ首ヲ打取ケル。三好越後守モ被レ討。大將分不レ殘打死シケレハ。殘リ可レ止氣色モナク。思ヒ切タル兵。戸井新右衛門。鴨嶋六之進。久米與右衛門。川嶋兵衛進。庵植志摩正。内原菊大輔。飯尾久左衛門。其外勇ル義士數多討死シケレハ。敵方ノ者ヤ書タリケン。

モリテ名ノ隠ナカリシ弓取ガ敵ノヒタチニ
ウタレヌルカナ

根ナキ矢ノ駿河ガ運ノツキ弓ヲ加藤主水ガ
打止ゾスル

キヲキクル浪ノ白旗サス敵ニウタレテ名ヲ
ハ流ス川村

カケ引ヲ三好越後ノ勝時ガウタレテ後ハマ
ケ時トナル

ト戯ケル。去程ニ一宮成助ハ去々年ノ秋ヨリ。山中ニ有シカ共。諸大將被レ討給フ由カクレナカリケレハ。翌日一ノ宮ニ歸城シラレタリト聞ヘシ。

八。庄野和泉同名右近諫事 付十河存保讃岐阿波歸國事

天正八年正月朔日ニ。庄野和泉勝瑞ヘ行テ。同名右近逢テ語リケルハ。篠原紫雲ハ自遁ノ仕態ニテ被レ討サセ給フト乍レ申。朝暮主君ノ敵十河存保公ニ面ヲ合給ヒ候事。偏ニ亡君ノ恨ヲ請。諸人ノ嘲身ヲ耻ムル處也。此度一ノ宮成助ト一味被レ致候得カシ。當國ハ成助ト右京之進トノ可レ爲レ計候ト。義ヲ盡メ諫ケレハ。右近モ理ニ折テ此義ニ同ジケリ。サレハ壁ニ耳アリ。風ノ物云時代ナレハ。存保公卽時ニ聞給テ。成助土佐方ト一味ナレバ。存保公小勢ニテ大敵ヲ防ン事如何カ有ンヅラント思ヒ給ケルニヤ。同三日ノ夜忍テ讃岐ヘ立退キ給フ。翌日勝

瑞ノ城ヘハ一ノ宮ヨリ番手ノ人數ヲ遣シケル。自遁モ一ノ宮エ合體有テ。木津ノ山ニ被居ケル。篠原久兵衛尉ハ不例ナラ有テ。和談ノ子細ヲ不知レハ。主君存保公ヘ右京之進無禮ヲナスニ似タリトテ。篠原右京之進ヲ召連。久兵衛讃岐ノ國ニ至リ。存保公ニ向テ。膝行頓首シ。敢テ卒視セズ。低面流涙申ケルハ。願ハ右京之進ガ先日ノ罪ヲ被赦。今日ノ死ヲ助ケ給ヘト。低涙テ歎キ。言ヲ盡メ申ケレハ。存保公遺恨ヲ含ミ給トイヘドモ。久兵衛ガ理ニ折テ。顏色誠ニ解テ。罪ヲ赦シ御座シケリ。右京進ハ讃州ニ詰テ。奉公ヲ成シ奉ケル。翌ノ年存保公。讃岐ノ國ヨリ軍兵ヲ率シ。阿波ノ國ニ打越。勝瑞ニ歸城シ給ヒケレハ。紀州ヨリ軍兵三千餘騎。拍子ヲ合スル如ク馳來ル。淡路ノ國ヨリモ田村ノ康廣。二百餘騎ニテ馳來レハ。存保公不常喜悦ノ眉ヲ開カセ給テ。時日ヲ不移一ノ宮成助ノ城ヲ取卷給ヒケル。一ノ宮ノ城ト申ハ。數年要害ヲ能堅メ。敵ノ難所ヲ拵ヘタル事ナレハ。輙ク非可落。暫ク日ヲ歷ル處ニ。九月八日ノ日。土州ヨリ長曾加部元親ノ爲ニ名代ト久竹彥七郎親秋二万餘騎ニテ。上郡口ヨリ馳來ル由聞ヘケレハ。其夜存保公ノ軍兵共。陣所ヲ引退キ。奥野路ニ扣ヘタリ。同十日ノ日一ノ宮成助ハ。彥七郎ガ爲迎。中嶋迄被出ケレハ。一ノ宮城中ノ兵一千餘騎。中富表マテ打出タリ。篠原入道自遁。二千騎ニテ勝興寺表ヨリ懸ツテ。手痛ク戰テ。一ノ宮ノ軍兵ヲ首二百餘討取レハ。一宮勢引足ニ成テ。黑田ノ原ニ扣ヘタリ。同味方ノ內ニ和田株大夫ト云勇力ノ兵手ニカケテ。首廿一討取タリ。程ナク土佐勢二万餘騎ヲ相供シ。長門守成助黑田表エ被寄ケレ共。日已ニ暮ケレハ。敵モ味方モ相引ニ退キ。其日ハ合戰止リタリ。土佐勢ハ付城ヲ拵テ番

手ヲ置テゾ引ケル。

九。細川掃部頭殿自害之事

去程ニ。細川讃岐守殿ノ御子息掃部頭殿ハ。種替リノ御舍弟三好長治公ニ御恨アルニヨリ。勝瑞ヲハ忍ビヤカニ出サセ給ヒ。福浦出羽守ヲ賴ミ。仁宇山ノ奥ニ暫ク御座ケレドモ。兼テ御味方申セシ伊澤越前守モ。去ル天正五年五月下旬ニ。坂西ノ城ニテ討死シ。吉井左衛門之大輔。多田筑前守。其外舊功ノ侍共。爰彼ニテ被レ討。一ノ宮長門守モ近年燒山寺ノ奥ニ身ヲソバメ。有甲斐モナキ時節ナレハ。誰人ヲ心ノ奥ノ一日ノ味方ト成シテ可レ有便モナケレハ。兎ヤセン角ヤアラマシト思ヒ煩ハセ給ヒ。年月ヲ縫給フ處ニ。又兵亂出來テ。人ノ心モ覺束無キ折節。山林ノ逆徒江彥治部之大夫。本木新左衛門尉。江村兵衛之進。露口兵庫ナンドヽ云者共ヲ大將ニテ。數百人ヲ語ヒ。掃部頭殿ヲ取籠申ケレハ。無レ力天正十年十月八日ニ仁宇谷ノ奥茨カ岡ト云所ニテ自害シ果給ヒケリ。人ノ運命盡ヌレハ。淺猿キ匹夫ノ鋒ニ名ヲ失ハセ給フ事。口惜カリシ事共也。

十。轟之城夜軍之事

轟ノ城ニハ。近藤勘右衛門尉正次。同孫太郎正行。其外同名親類。名ヲ得シ兵五十餘騎楯籠テ居タリ。此城ト申ハ。北ハ川。南ハ山ノ嶮ヲ。屏風ヲ立タル如ク。數十丈切立タル切岸也。其上岩石嶮クソビエテ。懸引自在ナラザル處ニ。一ノ宮ヨリ土州ノ西寺ノ堅濟池内肥前守。野中三郎左衛門尉ヲ大將ニテ。一千餘南ノ山手ヨリ取卷タリ。勝瑞ヨリ存保公轟ノ城ヘノ爲ニ加勢ニ二千餘騎ニテ延明ノ山ヨリ尾傳ヒニ。存保公東ノ峯ニ諸勢ヲ打上。谷ヲ隔テ。矢合ノ鉄炮軍ヲシ給ケル。漸夕陽傾キ。已ニ暗夜ニ成ケレハ。土佐勢互ニ挑合テ陣取堅メタル處ヘ。城中

ノ兵共五十餘騎打テ出。差取引詰無化矢ヲ射ケレハ。土佐勢一千餘騎ハ寢耳ニ水ノ入タル如クニ驚キ騷ヒテ。弓一丁ニ二人三人取付。我ガノ人ノト引合。味方ヲ見ソコナヰテ太刀ヲ拔キ。己レト疵ヲ負モアリ。右往左往ニ騷動スル處ヘ。五十餘騎ノ兵共。鮫波ヲ上レハ。東ノ峯ヨリモ存保公ノ加勢ノ兵ノ時ノ聲ヲ合セケル。寄手多勢ナリトイヘドモ。小勢ニ追立ラレテ嶽ヨリ落テ死スルモアリ。味方ニ被レ切テ死スルモアリ。矢場ニ死スル人數ハ三百餘人有ケルト。後日ニコソ聞ヘケレ。

十一。阿波國盜賊之事 幷三好山城守河內國下國事

國ヲ動ス大逆ノ輩。近年過半被レ誅テ。漸ク靜ナラントスレハ。去々年天正八年ヨリ以來盜賊阿波ノ國ニ徘徊シテ。夜ニ入テハ門戸ヲ開キ。金銀米錢ヲ盜ミ。衣類ヲ取リ。牛馬ヲ乘逃ノ或ハ途中ニテ人ヲ切剝。晝ハ友ト與メ市中ニ出テ、物ヲ賣買スル躰ニテ喧嘩ヲ仕出シ。人群集スル中ニテ物ヲ盜ミ取。或ハ民屋ニ押入テ强盜ヲナシ。其邪侈ヲ成ス事不レ至ト云處ナシ。亂國ノ時節ヲ窺ヒ。近國ノ海賊共舟十餘艘ニテ漕來リ。籠ノ湊ニ船ヲ懸置。人數二百餘ニテ打上。片野・上表ヨリ灘野・堺マデ押寄セ。民ノ家々ニ押入。或ハ火ヲカケ。衣類幷兵粮米ナト盜取事其數ヲ不レ知。一宮長門守家來ノ。三寺彌三大夫ト云侍馳合セテ。惡キ奴原ガ心根哉。人ノ物ヲホシガル者共ニ。矢一宛取セントテ。弓ト矢ヲ打ツガヒ。能引テ丙トハナツ。矢繼早ニ射懸ケル程ニ。賊徒數多射フセケレバ。殘ル奴原忍ヘ兼テ。足ヲタメズ逃ケル處ヲ。彌三大夫手ニ掛首三ツ討取ケレバ。賊徒共是ヲ見テ。風ニ木ノ葉ノ散ゴトク散ヂリニ逃去ケル。盜人ノ徒黨ヲ取ルモノ二百人。或ハ三

百人。五百人アツマツテ。町屋エ夜打ニ入リ。イロ〳〵ノ業ヲナス事不レ可ニ勝算一。是ヲ治ントスルニ。侍ノ末子或ハ侍ノ緣類有レ之ニヨリテ。穿サクスルニ分明ニ成リ難シ。サルニ依テ。天正十年ニ河内ノ國高屋ヨリ。三好山城守下國座シテ。盜人ノ黨量日下又之進ト云者ヲ誅シテ。盜賊漸靜リヌ。去ニ因テ在國ノ武士共悉山城守ニ降參シケレハ。殘リ留ル土佐勢モ思々ニ引退ク。一ノ宮ノ城。夷山ノ城。爰彼ノ枝城ヘハ。皆勝瑞ヨリ番手ヲ遣ハシ置處ニ。京ヨリ早飛脚來テ。惟任日向守光秀逆心ニ因テ。六月二日ニ正二位大納言兼右大將平朝臣信長公自害御座由注進アリケレバ。山城守急ギ上洛有ケル也。

十二　長曾加部元親勝瑞ニ押寄事付洪水出事

天正十年八月廿七日ニ。土州ヨリ長曾加部元親阿波國ヘ押寄ラル。二万餘騎ヲ二手ニ分テ。一方ハ舍弟長曾加部內記亮親康ヲ大將ニテ。南方口ヨリ押寄。今一方ヲハ甥ノ長曾加部新右衛門尉親吉ヲ大將ニテ。上郡中嶋表ヨリ押寄タリ。一宮ノ城モ。夷山ノ城モ。其夜三好方ノ番手ノ者共勝瑞ヘ引退ク。翌日廿八日ニ。土佐勢二万餘騎一ノ宮長門守成助。桑野康明ヲ先陣ニテ。黑田ノ原マテ押寄タリ。十河存保公ハ。五千餘騎ニテ勝興寺表ニ本陣ヲ堅メサセタマヒ。先陣二千餘騎ハ中富ノ川端マテ打出タリ。土佐勢二万餘騎ハ川ノ逆卷水ニ駒ヲ同時ニ打入。流武者ニハ弓弭ヲ取セテゾ渡シケル。存保公中富表ニ駒ヲカケスエ。軍ノヤウヲ見給ケル。先陣二千餘騎打死セント思ヒ切タル兵共ナレハ。駒ヲ汀ヘ馳寄セ。浪ノ白羽ノ太刀ヲ拔。切先ヨリ火炎ヲ出シ。互ニ爰ヲ先途ト戰シニ。天運無レ私。矢野伯耆守入道。子息備後

守。赤澤入道宗傳。赤澤鹿之丞。西條益大輔。馬諸三四郎。岡甚之丞。七條孫次郎。坂東肥後守。弟五郎右衛門。三好何右衛門。竹内笹大輔。大代内匠。姫田甚左衛門。野本左近。長鹽六之進。北原右近。大寺松大輔。近藤内藏助。野中玄番。香美馬之進。光富新左衛門。堀江藤大輔。佐藤久右衛門。安養寺左馬助。瀬部喜右衛門。原田久左衛門。高志右近。清久三之丞。内藤助大輔。奈良太郎兵衛。片山岸右衛門。角田平右衛門。飯尾善丞。智惠嶋源次兵衛。乘嶋入道寮心。甘利奥右衛門。白鳥左近。高畠守右衛門。飯田半右衛門。弟十拾大輔。田村盤右衛門。鎌田九馬右衛門。鈴江新兵衛。古川龜右衛門。粟飯原平丞。石川六之進。楠淵左近。湯淺豐後守。新居川洲右衛門。宇奈瀬龜之進。芥河兵庫。四宮外記。出木善左衛門。吉津竹右衛門。中庄主膳。延野兵衛進。其外名ヲ得シ勇士クツキヤウノ侍三百餘騎討死シケレハ。存保公モ討死シ給ハントテ。先陣近ク押寄セ給ヒケルヲ。家臣東村備後守ト云老功ノ兵進ミ出テ申ケルハ。敵ノ進ム時ハ其勢ヲ拔ス事。是太公カ兵道ノ秘術ニテ候。又長艮ガ兵書ニモ見其虚則進。見其實則止ト云リ。敵今實也。先進ム敵ノ勢ヲ御拔カシ候得ト。再三理ヲ盡シテ申ケレハ。存保公此義ニ同シ給ヒ。靜ニ人數ヲクリ引ニ勝瑞ヘゾ被引ケル。元親モ靜ニ跡ヲ被付シガ。二万餘騎ノ兵ニ中飯ヲ調サセ。夕景ニ勝瑞ヘ被寄ケル。勝瑞ノ城ト申ハ。塁々敷堀ヲモホラズ。僅ニ屏一重バカリ塗テ。方一二町ニハ不過。其内ニ櫓十四五程搔雙ヘタリ。僅ニ五千餘騎ノ小勢ニテ大敵ヲモ不恐。誰ヲ頼ムトモナク防ギ戰給ケル。存保公ノ心ノ程コソ不敵ナレ。家臣木村新之尉。近光勝瑞ノ在家ニ火ヲ付。一宇モ不殘燒拂ヒ。城中靜マリ返テ居タリ。元親

ハ勝瑞ノ在家ヨリ北ナル龍音寺ニ本陣ヲ堅メ。士卒ハ在家ノ燒跡ニ陣ヲ取テ居タル處ニ。九月五日。日已ニ西山ニ隱ナントスル時。俄ニ天カキ曇リ。風吹キ雨降ル事車軸ノ如シ。雷ノ鳴事山ヲ崩スカ如シ。寄手是ニ恐レ騷テ。爰彼ノ木ノ陰ニ立寄群リ居タル處ニ。洪水出來テ。忽ニ梢ヲ浸シ。或ハ牛馬數ヲ盡シテ流捨リ。或ハ近邊ノ民屋流出タリケレバ。土佐勢失二爲方一テ。森林ノ梢ニ昇リ。或ハ民屋ニ上リ居ル處ニ。森志摩守方ヨリ存保公ノ城中思ヒ不レ寄處ヘ。兵餉米數十俵小舟數多ニ積テ入レ。柿原三五義長ト云侍三好家ノ恩愛ヲ不レ忘シテ。玉藥一廉入タリケレハ。籠城ノ兵共龍蛇ノ黑雲ニ飛翔スル如ク。勢强ツテ各舟ニ取乘リ。寄手梢ニ居ルヲ。舟ニテ行キ。下ヨリ突殺シ。或ハ民屋ニ上リ居ヲ射殺ス事其數ヲ不レ知。寄手忍エ兼テ。急ギアツカイヲ入テ和談シタリ。元親モ陣ヲ被レ引存保公モ城ヲ被レ明テ讃州ヘ立退給フ。篠原自遁モ木津ノ山ヲ立退キ。淡州ヘ渡海シタリケレハ。則木津ニハ元親ヨリ城ヲ構ヘテ。東條紀伊守カ甥。東條關之兵衛ヲ被レ置。關之兵衛カ人質トシテ。弟東條唯右衛門ヲハ土州ヘ遣ハシ置。渭ノ山ノ城ニハ吉田孫左衛門尉康俊ヲ被レ置。一ノ宮ノ城ヲハ江村孫右衛門尉親俊ニ令レ守。脇ノ城ニハ元親ノ甥長曾加部新右衛門尉親吉ヲスエ。大西白地ノ城ニハ。中内善助ヲ置。富岡ノ城ニハ元親ノ舍弟長曾加部内記亮親康ヲ被レ居。海部鞆ノ城ニハ。田中市之助政吉ヲ置ル。何モ用害堅メテゾ守護シタリ。

十三。長曾加部元親治ニ四國ニ事 付諸侍ヲ方便討事

去程ニ。長曾加部元親ハ。天正十年ニ阿波。讃岐。伊豫。土佐四國ヲ打靡カシ。守護仁ト成テ

下八滿村夷山ノ城ニ陣ヲ取テ御座ス。諸民敬ヒヲ成事吹風ニ草木ノ靡ガ如シ。同年九月十六日ノ日。富岡ノ新開遠江守入道々善ヲ方便可レ討タメ。元親ノ爲ニ名代ニ久竹彦七郎親秋ヲ丈六寺マテ遣ハス。彦七郎丈六寺ヨリ富岡ノ新開道善エ使者ヲ以テ遣シケルハ。今度元親叶ニ天道ニ奪得ニ勝利。四國ヲ手ニ入候事時ノ剛運トハ乍レ申偏ニ諸將ノ謀剛キヲ以テ也。然ハ城郭ヲ構ヘ。多勢ヲ遣ヒ給フ大將達ヘ領知ヲ増シ加ヘ進シ置キ。國家ヲ堅セン事末代マテヲ被レ存候ニ因テ。元親名代トシテ親秋丈六寺迄罷越テ候。仰願ハ是マテ御發足被レ成候者。委細ニ面談仕候ハント。詞ヲ盡シテ云遣サレケレバ。道善則時ヲ不レ移。丈六寺マデ立越。内室ニ入テ。久竹彦七郎ニ參會ス。元親ヨリ道善エ加増トシテ。勝浦郡ヲ玉ハリケレハ。道善喜悅ノ眉ヲ開ク。互ニ面談事終テ。酒數盃酌流

ス。道善在所ニ立歸ント被レ申ケレハ。彦七モ客樓ノ廣縁マデ送出デ。道善ノ御馬是マテ被レ寄候得ト申ヲ合圖ト待懸。彦七郎ガ家來ノ横山源兵衛ト云侍。道善ノ後ヨリ立寄。道善ヲ討ケレハ。道善運ヤ盡タリケン首ハ縁ヨリ下ヘコロビ落。草露ト消ヲハリヌ。道善ノ家來ノ松田新兵衛ト云侍。道善ノ刀ヲ持テ跡ニ付テ出ケルガ。持タル刀ヲ取直シ。拔討ニ主君道善ノ敵横山源兵衛ガ首ヲ水モタマラズ打落ス處ヲ。源兵衛ガ甥横山八兵衛ト云侍下合。鑓ニテ新兵衛ヲ突處ヲ被レ突テ鑓ノ柄ヲタグリ寄。八兵衛ニ痛手負セ。其身輕ゲニ行跡ヘドモ多勢ニ無勢難レ叶。終ニ被レ討テ空クナリヌ。同キ年十一月七日ノ日。一宮成助ノ所ヘ内談ノ事有トテ。下八滿夷山ノ城元親ノ所ヨリ編ニ使者來レリ。成助時ヲ不レ移被レ參タリ。相伴人々ニハ。舍弟主計正星相六之進マデヲ内室ヘ呼

入レ合圖ヲシテ侍共ヲ隱シ置。能隙ヲ窺ヒ。三人ナガラ討果ス。成助ノ家來ノ侍一宮主水正。坂東市正兩人ハ何ト哉覽事ノ躰不審ニ見ナシ。則人質ヲ取リ命助カリ。一宮ニ歸ル　其外新開道善ノ嫡子。式部少輔。同ク道善ノ聟新開右近　乘野河内守。野田釆女正。川南駿河守。爰彼ニ頭ヲ上ル程ノ侍ヲハ。皆内談ノ事アリト謀リヨセテ討果シケリ。寔ニ敵國滅テ謀臣亡ト云事。是可レ成。昨日迄ハ諸共ニ謀ヲ廻ラシヽモ。今日ハ身ノ讎ト成テ。悉ク被レ誅。淺猿カリシ事共也。

三好記下卷終

寛文三癸卯年初夏日
五條寺町中野太郎左衛門刊行

齋藤松太郎
田中敏治　校

大正十三年七月二十日印刷
大正十三年七月廿五日發行
昭和四年三月十五日再版發行
昭和十八年四月二十日五版發行（四〇〇）

不許複製

（文協會員番號115016）

出文協承認ア410353

發行者　東京市豐島區池袋二丁目一〇〇八
續群書類從完成會代表者
太田藤四郎

印刷者　東京市淀橋區戸塚町一丁目一〇九
永島喜代次郎

印刷所　東京市淀橋區戸塚町一丁目一〇九
新英社印刷所

發行所　東京市豐島區池袋二丁目一〇〇八
續群書類從完成會太洋社
振替東京六二六〇七　電話大塚七一八

配給元　東京市神田區淡路町二ノ九
日本出版配給株式會社

（第廿二下輯奥附）